

令和7年度 講義案内

経済学部 経済学科

RISSHO UNIVERSITY
2025 Guidebook of Lecture
Faculty of Economics
Department of Economics

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

第Ⅱ部

講義案内

講義コード	11C0272801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	島田 竜登	開講期	第1期
科目名	アジア経済史				島田 竜登		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	16世紀から20世紀半ばにかけてのアジア経済史を概説する。特定の地域や一国の経済史分析に偏ることなく、できる限りまんべんなくアジア各地の経済を長期的視野の下に概観することにつとめたい。なお、世界経済全体ならびに日本経済の動向を意識しながら講義を進めることにする。								
到達目標	16世紀から20世紀半ばという長期的な視点で、アジア全般にわたる広域的観点から、現在のアジア経済を見る目を養い、多様なアジア経済の特質を歴史的に理解し、説明できるようになることを目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修としては復習を中心に進めること。各回の授業で扱ったトピックについて、授業で紹介した参考文献を読むなど、インターネット等で復習を行うこととし、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】問題の所在 【第2回】銀と大航海時代 【第3回】オランダ東インド会社の貿易 【第4回】近世植民都市バタヴィア 【第5回】近世の中国とインド 【第6回】イギリス産業革命とアジア 【第7回】農業発展の2つのあり方 【第8回】アジアの工業化と域内貿易 【第9回】東南アジアと移民 【第10回】金本位制度とアジアの通貨 【第11回】世界恐慌とアジア経済 【第12回】近代日本とアジア経済①：台湾経済 【第13回】近代日本とアジア経済②：朝鮮経済								
成績評価の方法	到達目標の達成度をはかる観点から、期末レポート（70%）および毎回のリアクションペーパー（30%）で評価する。								
フィードバックの内容	毎回のリアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内にて行う。								
教科書									
指定図書	『グローバル経済史』水島司、島田竜登（放送大学教育振興会）2018、『アジア経済史研究入門』水島司、加藤博、久保亨、島田竜登（名古屋大学出版会）2015、『構造化される世界 14～19世紀（岩波講座世界歴史第11巻）』小川幸司・島田竜登（岩波書店）2022								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、メール（shimada.classroom@gmail.com）でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0273002	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	水野 里香	開講期	第1期
科目名	アメリカ経済史				水野 里香		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この講義は、現代にいたるアメリカの歴史を経済史の視点から理解することを目的とする。前半では、アメリカ発見から植民地時代、そして独立を経て、経済大国となる19世紀末までのアメリカについて取り上げる。そして後半では、アメリカが政治・経済的に国外への関与を深めてゆく20世紀初頭から、世界において中心的な位置を占めるようになった現代までを取り上げて解説する。								
到達目標	・授業で取り上げた個別の事項を説明できるようになることに加え、その発生要因と結果および影響について理解できるようにする。 ・アメリカ経済社会の発展過程について理解を深めるとともに、アメリカにおいて生じた経済的な諸事象が持つ意味を、現代の世界経済との対比から学び、理解する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	・配布資料などを振り返り、授業内で学んだ事柄を、自身の言葉で説明できるようにする。 ・理解が不十分な箇所については、下記に掲げた参考図書等を用いて学習する。 ・これらを合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行う。								
授業計画	【第1回】イントロダクションおよびアメリカ発見と植民地時代 【第2回】独立革命と新国家の成立 【第3回】南北戦争 【第4回】巨大企業の登場 【第5回】革新主義運動の展開 【第6回】第一次世界大戦とアメリカ 【第7回】世界大恐慌の発生とニューディール政策 【第8回】第二次世界大戦とアメリカ 【第9回】戦後の国際秩序の形成 【第10回】IMF・GATT体制 【第11回】戦後の国内経済の盛衰 【第12回】新自由主義からニューエコノミーへ 【第13回】グローバル化と現代								
成績評価の方法	毎回の授業内で取り組む課題（小問）によって評価する（100%）。								
フィードバックの内容	・授業で出題した小問の解説を行う。 ・授業内容に関する質問がある場合は回答し、その内容は皆で共有できるようにする。								
教科書	『入門アメリカ経済 Q&A100』坂出健、秋元英一、加藤一誠編著（中央経済社）2019								
指定図書									
参考書	『シリーズ アメリカ合衆国史①～④』和田光弘、貴堂嘉之、中野耕太郎、古矢旬著（岩波新書）2019-2020、『新訂欧米経済史』藤瀬浩司（放送大学教育振興会）2004、『アメリカ経済史』岡田泰男（慶應義塾大学出版会）2000、『アメリカ史（世界各国史）』紀平英作（編）（山川出版社）1999								
教員からのお知らせ	ポータルサイトを利用し、各授業の案内を掲載します（授業資料の配布を含む）。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	資料を前もって学生に提示する反転授業、講義中に課す小問へのフィードバック、学生からの講義内容への質問に対する回答、その共有も行います。								
実践的な教育内容									
その他	講義の進捗状況により、授業計画に変更や修正が生じる可能性があります。その場合は事前に連絡します。								

講義コード	11C0118901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	宮崎 礼二	開講期	第1期														
科目名	アメリカ経済論 1				宮崎 礼二		第1期																
履修前提条件					備考																		
授業の目的	本講義はアメリカ経済への理解を深めるだけでなく、アメリカ合衆国を知ることによって日本と世界の経済についても相対的に捉えられるようにすることを目的としている。日米両国は、第二次世界大戦では敵国、戦後には最大の同盟国、さらには緊密な経済関係を築いてきた。アメリカ合衆国を知ることなしに、今日の日本経済を知り得ることはない。そのためにも、アメリカ経済の特質を把握しなければならない。本講義は、現代アメリカ経済の特徴と特質を読み解くための知識の習得を目的とする。 後期開講「アメリカ経済論2/アメリカ経済B」も履修することが望ましい。																						
到達目標	1. 新聞の経済欄のアメリカ関係の情報を理解できる。 2. アメリカ経済の特殊性を説明できる。 3. 本年実施の大統領選挙の動向について解説できる。 4. 民主党・共和党の政策志向の相違について説明できる。 5. 講義内容を簡潔かつ的確にノートテイクできる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	各授業2時間（事前学習1時間+事後学習1時間）計60時間以上の授業外学習が必須である。 事前学習：前回講義で指示されたテーマを新聞や雑誌などから情報収集して、内容を整理する。 事後学習：毎回の講義で課される課題に取り組む。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス & イントロダクション</td> <td>【第8回】 建国の理念と経済政策を巡る対抗関係：共和党 vs. 民主党</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 アメリカ合衆国の概観</td> <td>【第9回】 自由貿易の背景と政策①</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 基礎知識①：人工国家アメリカ</td> <td>【第10回】 自由貿易の背景と政策②</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 基礎知識②：統治機構の特徴</td> <td>【第11回】 冷戦と軍産複合体の成立</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 現代アメリカ経済の始動①：南北戦争</td> <td>【第12回】 戦後アメリカ経済から考えるトランプ大統領の再登場</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 現代アメリカ経済の始動②：貿易構造</td> <td>【第13回】 総括</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 現代アメリカ経済の始動③：ニューディール政策</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス & イントロダクション	【第8回】 建国の理念と経済政策を巡る対抗関係：共和党 vs. 民主党	【第2回】 アメリカ合衆国の概観	【第9回】 自由貿易の背景と政策①	【第3回】 基礎知識①：人工国家アメリカ	【第10回】 自由貿易の背景と政策②	【第4回】 基礎知識②：統治機構の特徴	【第11回】 冷戦と軍産複合体の成立	【第5回】 現代アメリカ経済の始動①：南北戦争	【第12回】 戦後アメリカ経済から考えるトランプ大統領の再登場	【第6回】 現代アメリカ経済の始動②：貿易構造	【第13回】 総括	【第7回】 現代アメリカ経済の始動③：ニューディール政策	
【第1回】 ガイダンス & イントロダクション	【第8回】 建国の理念と経済政策を巡る対抗関係：共和党 vs. 民主党																						
【第2回】 アメリカ合衆国の概観	【第9回】 自由貿易の背景と政策①																						
【第3回】 基礎知識①：人工国家アメリカ	【第10回】 自由貿易の背景と政策②																						
【第4回】 基礎知識②：統治機構の特徴	【第11回】 冷戦と軍産複合体の成立																						
【第5回】 現代アメリカ経済の始動①：南北戦争	【第12回】 戦後アメリカ経済から考えるトランプ大統領の再登場																						
【第6回】 現代アメリカ経済の始動②：貿易構造	【第13回】 総括																						
【第7回】 現代アメリカ経済の始動③：ニューディール政策																							
成績評価の方法	期末試験によって評価する（100%）。																						
フィードバックの内容	適宜、講義中、講義後に質問を受けつける。																						
教科書	『現代アメリカ経済分析』中本・宮崎（日本評論社）2013																						
指定図書																							
参考書	『アメリカ経済政策入門』コーエン&デロング（みすず書房）2017、『現代アメリカ経済史』谷口明丈・須藤功編（有斐閣）2018、『アメリカ経済政策史』萩原伸次郎（有斐閣）1996																						
教員からのお知らせ	参考文献については講義でも適宜紹介する。																						
オフィスアワー	Open LMS からメール連絡。																						
アクティブラーニングの内容	・意見共有：挙手による意見表明の共有 ・反転授業：授業外でのオンデマンド動画視聴																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11C0118902	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	宮崎 礼二	開講期	第2期														
科目名	アメリカ経済論 2				宮崎 礼二		第2期																
履修前提条件					備考																		
授業の目的	本講義は、現代アメリカの長期的な世界システムのポジションを明らかにすることを目的に、アメリカ経済の変遷を解説する。とりわけ、政権ごとの経済政策の特徴を捉えながら、それがどのような帰結をもたらしたのかを具体的に学習する。そして、トランプ大統領の再登場から、アメリカ経済社会の特質を明らかにする。																						
到達目標	1. 新聞の経済欄のアメリカ関係の情報を理解できる。 2. アメリカ経済の特殊性を説明できる。 3. 2024大統領選挙の動向と結果について解説できる。 4. 民主党・共和党の政策志向の相違について説明できる。 5. 講義内容を的確・簡潔にノートテイクできる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	各授業2時間（事前学習1時間+事後学習1時間）計60時間以上の授業外学習が必須である。 事前学習：前回講義で指示されたテーマを新聞や雑誌などから情報収集して、内容を整理する。 事後学習：毎回の講義で課される課題に取り組む。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス & イントロダクション</td> <td>【第8回】 オバマ政権①：“Change”への期待</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 レーガノミクス①：アメリカ経済の「衰退」</td> <td>【第9回】 オバマ政権②：“中間層”の経済へ</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 レーガノミクス②：新自由主義の台頭 1</td> <td>【第10回】 トランプ政権誕生の背景</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 レーガノミクス③：新自由主義の台頭 2</td> <td>【第11回】 2020年大統領選挙の帰結「分断」のアメリカ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 クリントン政権①：ポスト冷戦と経済再生戦略</td> <td>【第12回】 バイデン政権の経済政策：BIDENomics</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 クリントン政権②：ニューエコノミー論</td> <td>【第13回】 トランプ大統領の再登場：MAGAnomics</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 リーマンショック：住宅バブルの形成と崩壊</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス & イントロダクション	【第8回】 オバマ政権①：“Change”への期待	【第2回】 レーガノミクス①：アメリカ経済の「衰退」	【第9回】 オバマ政権②：“中間層”の経済へ	【第3回】 レーガノミクス②：新自由主義の台頭 1	【第10回】 トランプ政権誕生の背景	【第4回】 レーガノミクス③：新自由主義の台頭 2	【第11回】 2020年大統領選挙の帰結「分断」のアメリカ	【第5回】 クリントン政権①：ポスト冷戦と経済再生戦略	【第12回】 バイデン政権の経済政策：BIDENomics	【第6回】 クリントン政権②：ニューエコノミー論	【第13回】 トランプ大統領の再登場：MAGAnomics	【第7回】 リーマンショック：住宅バブルの形成と崩壊	
【第1回】 ガイダンス & イントロダクション	【第8回】 オバマ政権①：“Change”への期待																						
【第2回】 レーガノミクス①：アメリカ経済の「衰退」	【第9回】 オバマ政権②：“中間層”の経済へ																						
【第3回】 レーガノミクス②：新自由主義の台頭 1	【第10回】 トランプ政権誕生の背景																						
【第4回】 レーガノミクス③：新自由主義の台頭 2	【第11回】 2020年大統領選挙の帰結「分断」のアメリカ																						
【第5回】 クリントン政権①：ポスト冷戦と経済再生戦略	【第12回】 バイデン政権の経済政策：BIDENomics																						
【第6回】 クリントン政権②：ニューエコノミー論	【第13回】 トランプ大統領の再登場：MAGAnomics																						
【第7回】 リーマンショック：住宅バブルの形成と崩壊																							
成績評価の方法	期末試験100%で評価する。																						
フィードバックの内容	授業中・授業後に質問を受けつける。																						
教科書	『現代アメリカ経済分析』中本悟・宮崎礼二編（日本評論社）2013年																						
指定図書	『アメリカン・グローバリズム』中本悟編（日本経済評論社）2007年、『現代アメリカ経済－アメリカン・グローバリゼーションの構造』萩原伸次郎・中本悟編（日本評論社）2005年、『現代アメリカ経済史』谷口明丈・須藤功編（有斐閣）2018年、『アメリカ経済政策史』萩原伸次郎（有斐閣）1996年																						
参考書	『アメリカン・グローバリズム』中本悟編（日本経済評論社）2007年、『現代アメリカ経済－アメリカン・グローバリゼーションの構造』萩原伸次郎・中本悟編（日本評論社）2005年、『現代アメリカ経済史』谷口明丈・須藤功編（有斐閣）2018年、『アメリカ経済政策史』萩原伸次郎（有斐閣）1996年、『アメリカ経済政策入門』コーエン&デロング（みすず書房）2017、『The Triumph of Injustice』E. Saez & G. Zucman (W.W. Norton & Co.) 2019																						
教員からのお知らせ	参考書については適宜授業内で紹介する。																						
オフィスアワー	Open LMS を通じてのメールでのコンタクト。																						
アクティブラーニングの内容	・意見共有：挙手による意見表明の共有 ・反転授業：授業外でのオンデマンド動画教材の利用																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11C0105501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	アメリカの文化と社会 1				小沢 奈美恵		第 1 期		
履修前条件					備考				
授業の目的	アメリカ史をスピーチ、重要文書、映像を通して学習する。アメリカ特有の起業精神と、その影で軽視されがちなマイノリティの人権問題を対比しながら考察する。リンカン、ローズヴェルト、ケネディ、オバマ、トランプ、バイデンなど歴代大統領の演説や公民権運動活動家のキング牧師やマルコム X、起業家としては石油王のロックフェラー、CNN 創設者ターナー、アップル創業者ジョブズ、テスラやスペース X 創業者マスクも扱う。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高校レベルより専門的なアメリカ史を理解できる。 2. アメリカの有名なスピーチの言葉を学ぶことができる。 3. アメリカの人種問題、性差別の問題、環境問題、起業精神などを理解できる。 4. 上記の内容について、所見を記述できる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次の授業に備えて教科書を読み、Open LMS の内容理解に関する小テストに備える。 2. 授業で与えられた課題に対して、掲示板に意見を書く。 								
授業計画	<p>【第1回】 授業内容の紹介、パトリック・ヘンリーの演説と独立革命：独立宣言、合衆国憲法、権利章典における自由と平等の矛盾</p> <p>【第2回】 マニフェスト・デスティニー（明白な運命）と先住民の悲劇</p> <p>【第3回】 アメリカのフェミニズム運動の夜明け：女性の独立宣言</p> <p>【第4回】 南北戦争と奴隷制：エイブラハム・リンカンのゲティスバーグの演説 vs. 逃亡奴隷フレデリック・ダグラスの演説</p> <p>【第5回】 アメリカの起業家：ジョン・D・ロックフェラーと巨大石油帝国</p> <p>【第6回】 F・D・ローズヴェルトの炉端談義：大恐慌に対するニューディール政策と第二次世界大戦への参戦</p> <p>【第7回】 ジョン・F・ケネディの大統領就任演説とケネディ兄弟による公民権運動への関わり方</p> <p>【第8回】 キング牧師の人種統合とマルコム・X のブラック・ナショナリズム</p> <p>【第9回】 LGBTQ の運動：1970年代の胎動期から21世紀の同性婚へ</p> <p>【第10回】 環境問題の告発：レイチェル・カーソンからアル・ゴアへ</p> <p>【第11回】 アメリカのメディア革命：テッド・ターナーによる CNN から現代のジャーナリズムへ</p> <p>【第12回】 アメリカの起業精神：スティーブ・ジョブズとイーロン・マスク</p> <p>【第13回】 2008年度、2016年度、2020年度、2024年度の大統領選比較：オバマ大統領、トランプ大統領、バイデン大統領の各種演説</p>								
成績評価の方法	教科書理解度テスト（30%）掲示板への書き込み（30%）定期テスト（40%）どれか一つを行わない場合は、不可とします。								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書の読解に関して、小テストを行い、解説します。 2. LMS で、授業課題に意見を述べてもらうので、その結果についてコメントします。 3. 質問は、授業内のチャットで受け付けます。 								
教科書	『アメリカの歴史を知るための65章』富田虎男、鶴月裕典、佐藤円（明石書店）2022年								
指定図書	<p>『アメリカ史〈1〉（世界歴史大系）』有賀 貞（著）、大下 尚一（著）、志邨 晃佑（著）、平野 孝（著）（山川出版社）1994、</p> <p>『アメリカ史〈2〉1877年～1992年（世界歴史大系）』有賀 貞（著）、大下 尚一（著）、志邨 晃佑（著）、平野 孝（著）（山川出版社）1993年、</p> <p>『民衆のアメリカ史〈上巻〉1492年から現代まで（世界歴史叢書）』ハワード・ジン（富田虎男、平野孝、油井大三郎訳）（明石書店）2005年、</p> <p>『民衆のアメリカ史〈下巻〉1492年から現代まで（世界歴史叢書）』ハワード・ジン（富田虎男、平野孝、油井大三郎訳）（明石書店）2005年、</p> <p>『オリバー・ストーンが語る もうひとつのアメリカ史 1 二つの世界大戦と原爆投下』オリバー・ストーン、ピーター・カズニック（早川書房）2013年、</p> <p>『オリバー・ストーンが語る もうひとつのアメリカ史：2 ケネディと世界存亡の危機』オリバー・ストーン、ピーター・カズニック（早川書房）2013年、</p> <p>『オリバー・ストーンが語る もうひとつのアメリカ史：3 帝国の緩やかな黄昏』オリバー・ストーン、ピーター・カズニック（早川書房）2013年</p>								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	オフィスアワーは水曜の3時限です。ozawa@ris.ac.jp に予め連絡してアポイントを取って下さい。メールやLMSでの質問も受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0105601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	アメリカの文化と社会2				小沢 奈美恵		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権を比較しながら、映画の中に反映する現代アメリカの表象を読み解いていく。映画はフィクションで事実ではないが、大衆が求めるもの、メディアが広めたいもの、特権階級とメディアの関係などが浮かび上がる。現代アメリカの政治、経済、外交、宗教、サブカルチャー、テクノロジー、ジェンダー、セクシュアリティ、ファッション、人種、移民、環境などの観点から現代アメリカ社会を考察する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各政権時代のアメリカ社会の諸問題を理解し、比較できる。 2. メディア報道・映画と実態の違いを比較することで、メディア・リテラシーの重要性を認識できる。 3. 現代のアメリカと世界の関わりについて、自分の考えを形成できる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回授業で教科書内容理解に関する小テストを行うので、教科書を読み、準備を行う。 2. 映画を見て、授業で出された課題についてLMS上で考えを記す。 3. 授業で紹介する映画や参考書を参照して、より理解を深める。 								
授業計画	<p>【第1回】 授業内容の解説 格差社会とトランプ政権誕生の背景：『ジョーカー』『タイム』『キャピタリズム-マネーは踊る』他</p> <p>【第2回】 パンデミック：『コンテイジョン』『ソングバード』他</p> <p>【第3回】 移民問題：『ウェスト・サイド・ストーリー』『不法移民と30日間』『マークスマン』他</p> <p>【第4回】 主流白人とBLM運動：『テッド』『ブラック・パンサー』『私はあなたのニグロではない』他</p> <p>【第5回】 ユダヤ系アメリカ人とBLM運動：『ミュンヘン』『ブラックパンサー』『ブラック・クランズマン』他</p> <p>【第6回】 ジェンダー・セクシュアリティ・ファッション：『バービー』『ビリーブ 未来への大逆転』他</p> <p>【第7回】 キリスト教原理主義とジェンダー：『ジーザス・キャンプ〜アメリカを動かすキリスト教原理主義』『ある少年の告白』『ムーンライト』他</p> <p>【第8回】 テクノロジーとメディアの変質：『ペンタゴン・ペーパーズ 最高機密文書』『グレート・ハック SNS 史上最悪のスカンダル』『フィフス・エステート/世界から狙われた男』他</p> <p>【第9回】 AIと人間：『2001年宇宙の旅』から『ブレードランナー』『ブレードランナー2049』へ</p> <p>【第10回】 障害者と共に生きる：『Coda コーダ あいのうた』他</p> <p>【第11回】 原爆神話とその解体：『ゴジラ』『オッペンハイマー』『アトミック・カフェ』他</p> <p>【第12回】 食文化の分断：『アメリカン・サイコ』『ファウンダー ハンバーガー帝国のヒミツ』他</p> <p>【第13回】 未来を創るミレニアル世代とZ世代：『ブックスマート』『行き止まりの世界に生まれて』他</p>								
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業で行う教科書内容理解度小テスト (30%) 2. LMSへの書き込みによる授業参加度 (30%) 3. 期末テスト (40%) <p>上記3つの内一つでも行わない場合は不可とする。</p>								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書の読解力に関して、LMSで小テストを行い、学生側からも結果を確認できるようにします。 2. LMSへの書き込み内容について授業内でコメントを行います。 3. 授業のチャットや授業外のメールを利用して、内容の質問を受けます。 								
教科書	『映画で読み解く現代アメリカ：トランプ政権～バイデン政権 (仮題)』 巽孝之監修、小澤奈美恵・塩谷幸子・塚田幸光編集 (明石書店) 2025年出版予定								
指定図書	『白人ナショナリズム-アメリカを揺るがす「文化的反動」』 渡辺靖 (中央公論新社) 2020年、『歌と映像で読み解くブラック・ライヴズ・マター』 藤田正 (シンコーミュージック) 2020年								
参考書	『9.11とアメリカ：映画にみる現代社会と文化』 越智道雄監修、小澤奈美恵・塩谷幸子編集 (鳳書房) 2008年、『映画で読み解く現代アメリカ：オバマの時代』 越智道雄監修、小澤奈美恵・塩谷幸子編集 (明石書店) 2015年								
教員からのお知らせ	扱う映画には、多少の変更が出る可能性があります。詳細の参考文献は授業で紹介します。								
オフィスアワー	水曜3時限がオフィスアワーです。予め、ozawa@ris.ac.jpへのメールでアポイントを取り、314研究室を訪ねてください。メールやLMSにも対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、教員によるフィードバックによる振り返り。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0273701	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	慶田 昌之	開講期	第2期
科目名	中級マクロ経済学2 / ERE マクロ演習				慶田 昌之			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	2年生のマクロ経済学を学んだ後に、経済成長と景気循環に関する通時的マクロ経済モデルの考え方の理解を深め、経済学検定試験（ERE ミクロ・マクロ）のマクロ分野の問題の演習をする。								
到達目標	通時的マクロ経済モデルを用いて経済成長と景気循環に関する分析が可能となるように、モデルに習熟する。経済学検定試験（ERE ミクロ・マクロ）のマクロ分野の問題を解けるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この講義の授業外学習時間は60時間必要である。教科書を読み、理解できない点を明らかにして講義に臨むこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 新古典派成長モデルの含意と実証的事実（1） 【第2回】 新古典派成長モデルの含意と実証的事実（2） 【第3回】 情報の非対称性と資金調達（1） 【第4回】 情報の非対称性と資金調達（2） 【第5回】 担保と資金調達 【第6回】 協調の失敗：サーチ・モデル 【第7回】 内生的成長モデル（1） 【第8回】 内生的成長モデル（2） 【第9回】 内生的成長モデル（3） 【第10回】 情報の不完全性と金融政策（1） 【第11回】 情報の不完全性と金融政策（2） 【第12回】 名目価格の硬直性と金融政策（1） 【第13回】 名目価格の硬直性と金融政策（2） 								
成績評価の方法	講義内の小テストの成績による（100%）。								
フィードバックの内容	授業内でフィードバックする。								
教科書	『新しいマクロ経済学：クラシカルとケインジアンとの邂逅』齊藤 誠（有斐閣）2006、『CBT ERE ミクロ・マクロ 経済学検定試験 対策問題集』経済法令研究会（経済法令研究会）2021								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	『マクロ経済学基礎』『マクロ経済学』の単位を修得済みであることが望ましい。この講義内容を理解するためには、数学、特に微分の知識を必要とする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
実践的な教育内容									
その他	この講義は、『中級マクロ経済学』とセットで受講することを推奨する。この講義においても ERE の問題演習を行う。								
講義コード	11C0105901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	ホームマン 由佳	開講期	第1期
科目名	異文化コミュニケーション1				ホームマン 由佳			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	異文化理解とは、外国語習得や外国人との交流を意味するだけではなく自己と他者の関係を考えることである。この授業では、「英語」と「異文化コミュニケーション」を同時に学ぶことで、英語力と異文化対応力の両方を身につけることを目的とする。外国人から見た日本の常識について書かれた英文を読むことで、英文読解力の強化と異文化対応スキルを学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 1) 異なる文化的背景を持つ人とのコミュニケーションを前向きにとらえることができる。 2) 自分の物差しだけで物事をとらえない習慣を身につけることができる。 3) 異文化間のコミュニケーションで生じうる誤解の原因を見つけるメソッドを使って分析できる。 4) 非言語と言語コミュニケーションに関する知識を英語で理解できる。 5) 異文化対応スキルを使って英語でアクティビティができる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定教科書の復習。 授業外学修時間は60時間以上。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 What is Cross Cultural Communication? 【第2回】 The Japanese Bow 【第3回】 Smiles 【第4回】 Eye Contact 【第5回】 Touching Behavior 【第6回】 Hand Gestures 【第7回】 Body Movements 【第8回】 Space 【第9回】 Same Words Different Meaning 【第10回】 Intonation 【第11回】 Succinct or Elaborate 【第12回】 Personal or Contextual 【第13回】 Goal or Process Oriented 								
成績評価の方法	レポートなどの提出物（50%）と期末テスト（50%）								
フィードバックの内容	課題に対する講評を翌週の授業内で行う。								
教科書	『What Do You Mean?』Kyoko Yashiro（金星堂）2019年								
指定図書									
参考書	『異文化間コミュニケーション入門』鍋倉健悦（丸善ライブラリー）2015年								
教員からのお知らせ	教科書は英文で書かれているため、英文読解力が必要。受講者は TOEIC350点以上程度の英語力があることが望ましい。								
オフィスアワー	水曜日昼休み								
アクティブラーニングの内容	グループワーク、プレゼンテーション								
実践的な教育内容	外資系航空会社客室乗務員と通訳者の経験がある教員が、「英語」と「異文化コミュニケーション」を教える。								
その他									

講義コード	11C0106001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	異文化コミュニケーション2				ホーマン	由佳	第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	さまざまな文化が混在する現代社会において、異文化理解の重要性がますます高まっている。異文化理解とは、外国語習得や外国人との交流を意味するだけではなく、自己と他者の関係を考えることである。この授業では、異なる文化的背景を持つ人との間に生じる誤解の原因や対処法を学ぶことを目的とする。授業では、文化的背景が異なることによって起きた誤解の事例を取り上げ、誤解の原因を探る分析方法を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 異なる文化的背景を持つ人とのコミュニケーションを前向きにとらえることができる。 2) 自分の物差しだけで物事をとらえない習慣を身につけることができる。 3) 異文化間のコミュニケーションで生じる誤解の原因を見つけるメソッドを使って分析できる。 4) 非言語と言語コミュニケーションに関する知識を英語で理解できる。 5) 異文化対応スキルを使って英語でアクティビティができる。 								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定教科書の復習。 授業外学修時間は60時間以上。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 【第2回】 異文化適応力チェック 【第3回】 異文化コミュニケーション実践 (1) 【第4回】 異文化コミュニケーション実践 (2) 【第5回】 異文化コミュニケーション実践 (3) 【第6回】 対立管理スタイル 【第7回】 シンパシーとエンパシー 【第8回】 DIE メソッド 【第9回】 DIE メソッド 【第10回】 カルチャーショック 【第11回】 アサーティブコミュニケーション 【第12回】 エポケー 【第13回】 総括 								
成績評価の方法	レポートなどの提出物 (50%) とテスト (50%)								
フィードバックの内容	課題のフィードバックを授業内で公開する。								
教科書	『What Do You Mean?』 Kyoko Yashiro (金星堂) 2019年、『異文化コミュニケーション・ワークブック』 八代京子、荒木晶子、樋口容視子、山本志都、コミサロフ喜美 (三修社) 2001年								
指定図書									
参考書	『異文化間コミュニケーション入門』 鍋倉健悦 (丸善ライブラリー) 2015年								
教員からのお知らせ	教科書は英文で書かれているため英文読解力が必要なため、受講者は TOEIC350点以上程度の英語力があることが望ましい。								
オフィスアワー	水曜昼休み								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション、グループワーク								
実践的な教育内容	外資系航空会社客室乗務員と通訳者の経験がある教員が、「英語」と「異文化コミュニケーション」を教える。								
その他									

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	英語リーディングⅠ				各担当教員	第1期
履修前提条件				備考		
授業の目的	主にリーディング力を養う。近年、世界に流れる情報をすばやく捉えて読みとる能力が要求され、社会人になってからもこうした英語の読解力が求められているため、速読力の向上を重視する。授業では、高校までに習ったベーシックな文法や英文読解の技術を復習しながら、速読で内容を把握できる力を訓練する。また、より高度な文にも対応できるよう、基礎的語彙を増やし正確な文法に支えられた読解力を培う。さらに TOEIC の問題形式に慣れることを目的とする。この訓練によって、結果的に TOEIC リーディング・セクションのスコアを伸ばす効果を引き出すことを目指す。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 語彙数を高校レベルより200～300語程度増やす。 2. 英文をすばやく読むために必要な正確な文法を習得する。 3. 英文をざっと読んで (scanning/skimming)、大意をつかむ。 4. シャドーイングや音読で英語のリズムを身につけ、自然なスピードの英語に慣れる。 5. 日常生活に必要な基礎的な英語を読んで理解でき、英語の質問に英語で回答し、内容説明ができる。 6. TOEIC のリーディング・セクションの問題形式を理解する。 					
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の授業に向けて教科書等を読み、理解する。 2. 担当講師から与えられた課題を行う。 3. 単語等、前回学習した内容を復習する。 4. テレビ、ラジオなどの語学講座や、インターネット上の英語関連サイト、参考書等を有効に使う。 上記の学修を自身で各15時間以上行うこと。					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】読解の基本的テクニックと語彙習得 (1) 【第2回】読解の基本的テクニックと語彙習得 (2) 【第3回】基礎的文法と文構造の理解 (1) 【第4回】基礎的文法と文構造の理解 (2) 【第5回】速読 【第6回】多読 【第7回】精読・熟読 【第8回】リーディングとスピーキング (1) 【第9回】リーディングとスピーキング (2) 【第10回】TOEIC リーディング・セクションの基本的攻略法 【第11回】TOEIC リーディング・セクション模擬問題 【第12回】TOEIC 団体試験受験直前対策 (1) 【第13回】TOEIC 団体試験受験直前対策 (2) 					
成績評価の方法	各種テストや課題提出 (60%)、授業への取り組み姿勢 (40%)					
フィードバックの内容	課題や小テストに対する講評を授業内で行う。 アクティブ・ラーニングの内容に講評を加える。					
教科書	各担当講師の指示に従う。					
指定図書	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集11』 Educational Testing Service (著), 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 (編集) (国際ビジネスコミュニケーション協会) 2024年					
参考書						
教員からのお知らせ	<ol style="list-style-type: none"> ①教科書や辞書は担当の先生の指示に従ってください。 ② TOEIC 団体試験の受験を奨励します。 					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール等で各先生と連絡を取ってください。					
アクティブラーニングの内容	グループワーク、プレゼンテーションを行う。					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	英語リーディング2				各担当教員	第2期
履修前提条件				備考		
授業の目的	主にリーディング力を養う。近年、世界に流れる情報をすばやく捉えて読みとる能力が要求され、社会人になってからもこうした英語の読解力が求められているため、速読力の向上を重視する。授業では、高校までに習ったベーシックな文法や英文読解の技術を復習しながら、速読で内容を把握できる力を訓練する。また、より高度な文にも対応できるよう、基礎的語彙を増やし正確な文法に支えられた読解力を培う。さらに TOEIC の問題形式に慣れることを目的とする。この訓練によって、結果的に TOEIC リーディング・セクションのスコアを伸ばす効果を引き出すことを目指す。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 語彙数を高校レベルより200～300語程度増やす。 2. 英文をすばやく読むために必要な正確な文法を習得する。 3. 英文をざっと読んで (scanning/skimming)、大意をつかむ。 4. シャドーイングや音読で英語のリズムを身につけ、自然なスピードの英語に慣れる。 5. 日常生活に必要な基礎的な英語を読んで理解でき、英語の質問に英語で回答し、内容説明ができる。 6. TOEIC のリーディング・セクションの問題形式を理解する。 					
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の授業に向けて教科書等を読み、理解する。 2. 担当講師から与えられた課題を行う。 3. 単語等、前回学習した内容を復習する。 4. テレビ、ラジオなどの語学講座や、インターネット上の英語関連サイト、参考書等を有効に使う。 上記の学修を自身で各15時間以上行うこと。					
授業計画	【第1回】読解の基本的テクニックと語彙習得 (1) 【第2回】読解の基本的テクニックと語彙習得 (2) 【第3回】基礎的文法と文構造の理解 (1) 【第4回】基礎的文法と文構造の理解 (2) 【第5回】速読 【第6回】多読 【第7回】精読・熟読 【第8回】リーディングとスピーキング (1) 【第9回】リーディングとスピーキング (2) 【第10回】TOEIC リーディング・セクションの基本的攻略法 【第11回】TOEIC リーディング・セクション模擬問題 【第12回】TOEIC 団体試験受験直前対策 (1) 【第13回】TOEIC 団体試験受験直前対策 (2)					
成績評価の方法	各種テストや課題提出 (60%)、授業への取り組み姿勢 (40%)					
フィードバックの内容	課題や小テストに対する講評を授業内で行う。 アクティブ・ラーニングの内容に講評を加える。					
教科書	各担当講師の指示に従う。					
指定図書	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集11』 Educational Testing Service (著), 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 (編集) (国際ビジネスコミュニケーション協会) 2024年					
参考書						
教員からのお知らせ	①教科書や辞書は担当の先生の指示に従ってください。 ② TOEIC 団体試験の受験を奨励します。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール等で各先生と連絡を取ってください。					
アクティブラーニングの内容	グループワーク、プレゼンテーションを行う。					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期														
科目名	英語リスニング1			各担当教員		第1期														
履修前提条件				備考																
授業の目的	主にリスニングを中心に学習し、併せてライティングとスピーキング技能も養う。(リーディングは基礎的補足的には扱う。)年々国際化する社会の中で、外国の人々と英語でコミュニケーションをとる機会が増えつつあるため、日常会話に使用される様々な表現方法を学びながら、リスニング、スピーキング、プレゼンテーションスキルなどのコミュニケーション全般にかかわる能力を伸ばすことを目標とする。そのために、まず、初歩的なレベルの訓練を行う。この訓練によって、結果的にTOEICのリスニング・セクションのスコアを伸ばす効果を引き出すことを目指す。																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な会話やアナウンスの概略を理解できる。 2. 基礎的なディクテーションができる。 3. 聞き取った内容について簡単な意見やコメントを述べたり、書くことができる。 4. シャドーイングや音読で英語のリズムを身につけ、自然なスピードの英語に慣れる。 5. TOEICのリスニング・セクションの問題形式を理解する。 																			
授業外学修内容・授業外学修時間数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の授業に向けて教科書等を読み、理解する。 2. 担当講師から与えられた課題を行う。 3. 単語等、前回学習した内容を復習する。 4. テレビ、ラジオなどの語学講座や、インターネット上の英語関連サイト、参考書等を有効に使う。 上記の授業外学修を自身で15時間以上行うこと。																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 会話やアナウンスの概略を理解 (1)</td> <td>【第8回】 音読</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 会話やアナウンスの概略を理解 (2)</td> <td>【第9回】 TOEIC で頻出される語彙</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 基礎的なディクテーション (1)</td> <td>【第10回】 TOEIC で頻出される文法や文構造</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 基礎的なディクテーション (2)</td> <td>【第11回】 TOEIC リスニング・セクションの基本的攻略法</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 聞き取った内容について自分の意見を述べる</td> <td>【第12回】 TOEIC リスニング・セクション模擬問題</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 聞き取った内容について自分の意見を書く</td> <td>【第13回】 TOEIC 団体試験受験直前対策</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 シャドーイング</td> <td></td> </tr> </table>						【第1回】 会話やアナウンスの概略を理解 (1)	【第8回】 音読	【第2回】 会話やアナウンスの概略を理解 (2)	【第9回】 TOEIC で頻出される語彙	【第3回】 基礎的なディクテーション (1)	【第10回】 TOEIC で頻出される文法や文構造	【第4回】 基礎的なディクテーション (2)	【第11回】 TOEIC リスニング・セクションの基本的攻略法	【第5回】 聞き取った内容について自分の意見を述べる	【第12回】 TOEIC リスニング・セクション模擬問題	【第6回】 聞き取った内容について自分の意見を書く	【第13回】 TOEIC 団体試験受験直前対策	【第7回】 シャドーイング	
【第1回】 会話やアナウンスの概略を理解 (1)	【第8回】 音読																			
【第2回】 会話やアナウンスの概略を理解 (2)	【第9回】 TOEIC で頻出される語彙																			
【第3回】 基礎的なディクテーション (1)	【第10回】 TOEIC で頻出される文法や文構造																			
【第4回】 基礎的なディクテーション (2)	【第11回】 TOEIC リスニング・セクションの基本的攻略法																			
【第5回】 聞き取った内容について自分の意見を述べる	【第12回】 TOEIC リスニング・セクション模擬問題																			
【第6回】 聞き取った内容について自分の意見を書く	【第13回】 TOEIC 団体試験受験直前対策																			
【第7回】 シャドーイング																				
成績評価の方法	各種テストや課題提出 (60%)、授業への取り組み姿勢 (40%)																			
フィードバックの内容	課題や小テストに対する講評を授業内で行う。 アクティブ・ラーニングの内容に講評を加える。																			
教科書	各担当講師の指示に従う。																			
指定図書	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集11』 Educational Testing Service (著), 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 (編集) (国際ビジネスコミュニケーション協会) 2024年																			
参考書																				
教員からのお知らせ	この授業は複数クラスなので、担当教員によって教科書が異なります。詳細は授業内で担当教員より告知されるので注意して下さい。																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール等で各先生と連絡を取ってください。																			
アクティブラーニングの内容	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。																			
実践的な教育内容																				
その他																				

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	英語リスニング2				各担当教員	第2期
履修前提条件						備考
授業の目的	主にリスニングを中心に学習し、併せてライティングとスピーキング技能も養う。(リーディングは基礎的補足的には扱う。) 年々国際化する社会の中で、外国の人々と英語でコミュニケーションをとる機会が増えつつあるため、日常会話に使用される様々な表現方法を学びながら、リスニング、スピーキング、プレゼンテーションスキルなどのコミュニケーション全般にかかわる能力を伸ばすことを目標とする。そのために、英語リスニング1より一歩進んだレベルの訓練を行う。この訓練によって、結果的にTOEICリスニング・セクションのスコアを伸ばす英語力を習得することを目指す。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語リスニング1より進んだレベルの会話やアナウンスの概略を理解できる。 2. 英語リスニング1より進んだレベルのディクテーションができる。 3. 聞き取った内容について、より豊富な語彙や文法を用いて、意見やコメントを述べたり書くことができる。 4. シャドーイングや音読で英語のリズムを身につけ、自然なスピードの英語に慣れる。 5. TOEICのリスニング・セクションの問題形式を熟知し、より難易度の高い問題も理解できるようになる。 					
授業外学修内容・授業外学修時間数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の授業に向けて教科書等を読み、理解する。 2. 担当講師から与えられた課題を行う。 3. 単語等、前回学習した内容を復習する。 4. テレビ、ラジオなどの語学講座や、インターネット上の英語関連サイト、参考書等を有効に使う。 上記の授業外学修を自身で各15時間以上行うこと。					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】「英語リスニング1」より高度な会話やアナウンスの概略を理解 (1) 【第2回】「英語リスニング1」より高度な会話やアナウンスの概略を理解 (2) 【第3回】ニュースなど高度な内容のディクテーション (1) 【第4回】ニュースなど高度な内容のディクテーション (2) 【第5回】聞き取った内容について多彩な語彙と表現で自分の意見を述べる 【第6回】聞き取った内容について多彩な語彙と表現で自分の意見を書く 【第7回】ニュースなど高度な内容のシャドーイング 【第8回】ニュースなど高度な内容の音読 【第9回】TOEICで頻出される語彙 【第10回】TOEICで頻出される文法や文構造 【第11回】TOEICリスニング・セクションの攻略法 (応用編) 【第12回】TOEICリスニング・セクション模擬問題 【第13回】TOEIC団体試験受験直前対策 					
成績評価の方法	各種テストや課題提出 (60%)、授業への取り組み姿勢 (40%)					
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業内で行う。 アクティブ・ラーニングの内容に講評を加える。					
教科書	各担当講師の指示に従う。					
指定図書	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集11』 Educational Testing Service (著), 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会 (編集) (国際ビジネスコミュニケーション協会) 2024年					
参考書						
教員からのお知らせ	この授業は複数クラスなので、担当教員によって教科書が異なります。詳細は授業内で担当教員より告知されるので注意して下さい。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール等で各先生と連絡を取ってください。					
アクティブラーニングの内容	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	11C0272201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	平 伊佐雄	開講期	第1期
科目名	欧州経済史				平 伊佐雄		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	ヨーロッパの近世から現代に至る歴史は、世界に大きな影響を与えた。その一つに、商業ルートの拡大や工業化社会の展開、資本主義制度の誕生とその普及などがある。ヨーロッパ社会で生まれたこれらの仕組みが歴史の中でどのような影響を与えたのか、そして、その現代的な意義を理解することを本講義の目的とする。								
到達目標	ヨーロッパの近世の時代から現代にかけて生じ、発展してきたヨーロッパの商工業の展開とその特徴を知り、現在の経済との関連性や共通性を説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の講義を受講するにあたり、配付資料や参考文献（参考書として上げている書物）を用いた予習や復習を各自、全体で計60時間以上行うこと。								
授業計画	【第1回】 欧州経済史研究の視角 【第2回】 太陽の沈まぬ帝国スペインと植民地支配－価格革命はあったのか－ 【第3回】 近世イングランドの経済 【第4回】 バルト海交易におけるポーランド 【第5回】 ブリテン島における工業化とパークス・ブリタニカの時代 【第6回】 プロイセンにおける農村工業 【第7回】 プロイセンの輸出産業 【第8回】 プロイセン・ドイツの工業化 【第9回】 ロシアにおける産業の発展 【第10回】 ロシアの工業化 【第11回】 フランス王国の政治と経済 【第12回】 フランス王国の産業の展開 【第13回】 フランスの工業化								
成績評価の方法	講義（期間）中に行う小テスト（50％）と定期試験（50％）をもって評価する。								
フィードバックの内容	講義中に学生に課した課題、学生から出された質問などについて解題し、フィードバックを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『現代社会を考えるための経済史』高橋美由紀（創成社）2023、『スペイン・ポルトガルの歴史 上』立石博高（山川出版社）2022、『世界史の中の産業革命』R.C.アレン（名古屋大学出版会）2017、『西ヨーロッパ工業史』D.S.ランデス（みすず書房）1980、『ドイツ農村工業史』馬場哲（東京大学出版会）1993、『ドイツ産業革命』F.キーゼヴェーター（晃洋書房）2006、『ロシアの工業化』フォーカス（日本経済評論社）1985、『イギリス海外貿易の研究』S.B.ソウル（文真堂）1980								
教員からのお知らせ	履修生は、ネット経由でダウンロード可能（期間限定）にしてある教材を利用し、予習した上で講義に望むこと。講義内容と成績評価基準は、学生の受講態度や理解度に応じて変更もあり得ます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	講義中に学生に発言を求めることがあり、その対応や学生からの質問への回答、また、小テストの講評を行う。講義内容への質問に対する回答、意見共有も行っている。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0173401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	中尾 将人	開講期	第1期
科目名	欧州経済論1 / EU 経済論1				中尾 将人		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	EU 経済がどのようにして成立し、どのような特徴を持っているのかを説明する。また、ユーロがどのような歴史を辿って成立したかについても説明する。								
到達目標	1. EU 経済の成り立ちを説明できる。 2. EU における様々な経済政策の特徴と課題について説明できる。 3. EU 経済が抱える問題点を指摘できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修として、事前に各回の内容に該当する教科書内容を読むこと。また、授業後は配布資料を読み直し、講義後課題に取り組むこと。								
授業計画	【第1回】 EU の深化と拡大 【第2回】 関税同盟と単一市場 【第3回】 単一市場の拡大 【第4回】 対外通商関係 【第5回】 競争政策・産業政策 【第6回】 対中関係 【第7回】 共通農業政策 【第8回】 雇用政策 【第9回】 移民と難民 【第10回】 地域政策 【第11回】 イギリスと EU 経済 【第12回】 Brexit 【第13回】 中・東欧諸国と EU 経済								
成績評価の方法	課題（88％）、リアクションペーパー（12％）								
フィードバックの内容	Microsoft Teams を使用して課題に対するフィードバックを行う。								
教科書	『現代ヨーロッパ経済』田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治（有斐閣）2022								
指定図書									
参考書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）上：貿易編』P. R. クルーグマン, M. オブストフェルド, マーク J. メリッツ（丸善出版）2017、『クルーグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）下：金融編』P. R. クルーグマン, M. オブストフェルド, マーク J. メリッツ（丸善出版）2017、『EU 経済統合』J・ベルクマンズ（文真堂）2004、『ユーロ危機とギリシャ反乱』田中素香（岩波新書）2016、『ユーロ 危機の中の統一通貨』田中素香（岩波新書）2010、『EU 政治論』池本大輔・板橋拓己・川嶋周一・佐藤俊輔（有斐閣）2020、『はじめて学ぶ国際金融論』永易淳・江阪太郎・吉田裕司（有斐閣）2015、『国際経済学へのいざない』友原章典（日本評論社）2014								
教員からのお知らせ	欧州経済論1と欧州経済論2は連続した内容となっているため、合わせて受講することが望ましい。また、国際経済に関する基礎的な内容（国際金融論・貿易論）を理解していることが望ましい。								
オフィスアワー	講義後や Microsoft Teams のチャット機能で質問を受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0173501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	中尾 将人	開講期	第2期														
科目名	欧州経済論2 / EU 経済論2					中尾 将人		第2期															
履修前提条件						備考																	
授業の目的	ユーロ危機の原因や対応策について説明する。また、ユーロ圏の金融政策や財政政策の特徴について説明する。																						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーロ危機について説明できる。 2. ユーロ圏の金融政策や財政政策の問題点を指摘できる。 3. EU 各国の経済の特徴について説明できる。 																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修として、事前に各回の内容に該当する教科書内容を読むこと。また、授業後は配布資料を読み直し、講義後課題に取り組むこと。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 復習：EU 経済統合</td> <td>【第8回】 ヨーロッパの金融システム</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 EMS</td> <td>【第9回】 ユーロ制度改革</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 通貨統合</td> <td>【第10回】 ユーロ危機後の経済停滞</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 最適通貨圏理論</td> <td>【第11回】 ドイツと EU 経済</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 世界金融危機とユーロ経済</td> <td>【第12回】 フランスと EU 経済</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 ユーロ危機の発生</td> <td>【第13回】 EU 各国と EU 経済</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 ユーロ危機の拡大</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 復習：EU 経済統合	【第8回】 ヨーロッパの金融システム	【第2回】 EMS	【第9回】 ユーロ制度改革	【第3回】 通貨統合	【第10回】 ユーロ危機後の経済停滞	【第4回】 最適通貨圏理論	【第11回】 ドイツと EU 経済	【第5回】 世界金融危機とユーロ経済	【第12回】 フランスと EU 経済	【第6回】 ユーロ危機の発生	【第13回】 EU 各国と EU 経済	【第7回】 ユーロ危機の拡大	
【第1回】 復習：EU 経済統合	【第8回】 ヨーロッパの金融システム																						
【第2回】 EMS	【第9回】 ユーロ制度改革																						
【第3回】 通貨統合	【第10回】 ユーロ危機後の経済停滞																						
【第4回】 最適通貨圏理論	【第11回】 ドイツと EU 経済																						
【第5回】 世界金融危機とユーロ経済	【第12回】 フランスと EU 経済																						
【第6回】 ユーロ危機の発生	【第13回】 EU 各国と EU 経済																						
【第7回】 ユーロ危機の拡大																							
成績評価の方法	課題（88%）、リアクションペーパー（12%）																						
フィードバックの内容	Microsoft Teams を使用して課題に対するフィードバックを行う。 また講義中にもフィードバックを行う。																						
教科書 指定図書	『現代ヨーロッパ経済』 田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治（有斐閣）2022																						
参考書	『クルーグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）上：貿易編』 P. R. クルーグマン, M. オブストフェルド, マーク J. メリッツ（丸善出版）2017、『クルーグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）下：金融編』 P. R. クルーグマン, M. オブストフェルド, マーク J. メリッツ（丸善出版）2017、『EU 経済統合』 J・ベルクマンズ（文真堂）2004、『ユーロ危機とギリシャ反乱』 田中素香（岩波新書）2016、『ユーロ 危機の中の統一通貨』 田中素香（岩波新書）2010、『EU 政治論』 池本大輔・板橋拓己・川嶋周一・佐藤俊輔（有斐閣）2020、『はじめて学ぶ国際金融論』 永易淳・江阪太郎・吉田裕司（有斐閣）2015、『国際経済学へのいざない』 友原章典（日本評論社）2014																						
教員からのお知らせ	欧州経済論1と欧州経済論2は連続した内容となっているため、合わせて受講することが望ましい。 また、国際経済に関する基礎的な内容（国際金融論・貿易論）を理解していることが望ましい。																						
オフィスアワー	講義後や Microsoft Teams のチャット機能で質問を受け付ける。																						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11C0104801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	川久保 浩志	開講期	第1期
科目名	音楽の世界				川久保 浩志			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	世界中のオペラハウスのシーズンプログラムを見ても、W.A. モーツァルトのオペラ作品が必ず一つは組まれていることが分る。それはこの18世紀の作曲家の作品が、時を経てもなお世界中の人々から愛されているからである。本講義は前記をふまえ、優れた音楽芸術作品にふれてもらうことで、豊かな人生を送るための一つの指針となることを目的とする。								
到達目標	商業ベースにのせられ、サブカルチャーとして存在しがちな音楽であるが、本講義を受講し、実生活と密着した音楽の様々な社会性を学ぶことで、音楽に自ら深く積極的に探究していくことができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間の授業外学修をおこなうこと。授業外学修では、講義中書き取ったノートの整理を毎回行うこと。また出題する学習課題に取りくむこと。課題はその都度告知する。								
授業計画	<p>【第1回】 音楽の機能（1）履修ガイダンス。商業ベースに乗った音楽</p> <p>【第2回】 音楽の機能（2）魔術的・呪術的な機能：神話にみる音楽、ところ変われば</p> <p>【第3回】 音楽の機能（3）宗教儀式と結びついた機能：キリスト教と音楽：カトリック、プロテスタント、仏教</p> <p>【第4回】 音楽の機能（4）労働と結びついた機能：民謡にみる労働歌</p> <p>【第5回】 音楽の機能（5）健康維持、治療としての機能：音楽療法</p> <p>【第6回】 第1回レポート作成</p> <p>【第7回】 時を超え伝播した音楽芸術「W.A. モーツァルト」</p> <p>【第8回】 W.A. モーツァルトとその時代に生きた音楽家</p> <p>【第9回】 映画「アマデウス」から学ぶ（1）：18世紀欧州の宮廷人が白髪なのは。ローテンベルク伯爵とは？ドイツ的美徳＝「愛」でもめる背景。</p> <p>【第10回】 映画「アマデウス」から学ぶ（2）：モーツァルトの下書き譜。フィガロの結婚はご法度？天才台本作家ダ・ポンテとの仕事。</p> <p>【第11回】 映画「アマデウス」から学ぶ（3）：それまでのお笑いオペラを芸術の域に昇華させたモーツァルト。</p> <p>【第12回】 映画「アマデウス」から学ぶ（4）：遺作「レクイエム」。</p> <p>【第13回】 第2回レポート作成</p>								
成績評価の方法	授業内での2回のレポート作成（80%）、授業への取組（20%）で評価する。								
フィードバックの内容	レポートに対する総括したコメントをポータルサイト掲示板にアップする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業に毎回出席しないとレポートは書けません。 教科書は使用しませんが、講義内容に合ったレジュメを授業内で配布します。 参考書は使用しませんが、視聴覚資料を授業内で多く用いて参考とします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問は、授業終了後、後続授業に支障をきたさない範囲で対応いたします。 相談事項はメールによって受け付けます。E-mail：forzakawakubo0710@icloud.com								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	プレゼンテーション								
その他	芸名：川久保博史。オペラ歌手。東京藝術大学大学院修了。宇都宮市エスパーール賞受賞・育成金を取得し、また文化庁在外派遣制度特別派遣研修員としてイタリアに渡り、イタリアオペラ作品の研鑽を積む。年間多数のオペラ公演、コンサートに携わる。藤原歌劇団団員、日本オペラ協会会員。日本歌曲振興波の会理事。日蓮宗仏教讃歌振興団体連絡協議会顧問。								

講義コード	11C2104101	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	長澤 里絵	開講期	第1期
科目名	Online English Conversation 1 A				長澤 里絵			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	The purpose of this class is for students to practice basic English communication with people in a foreign country. Students of this class use the Internet to connect (using online video chat software) and communicate face-to-face with fluent English students of Mindanao Kokusai Daigaku in the Philippines. This class helps students broaden their view of the world through cross-cultural communication in English. The teacher will use some of the class time to reflect on students' online video chat conversations, and help them become more effective and confident speakers of English.								
到達目標	The teacher will give students time to enjoy basic English conversations in class. This class makes it possible for students to improve their English speaking and listening, naturally. The goal for this class is for students to feel relaxed when having natural English conversations with fluent English speakers. In this class students can freely share their opinions, hopes and dreams in English with their online friends in the Philippines. Working with the teacher, students can reflect on and strengthen their English abilities.								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students of this class are expected to prepare well for each online, face-to-face conversation. Students are also expected to be active and ready to ask questions to their friends in the Philippines; therefore, students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course. The teacher will assign homework related to the online discussions, including reading and writing of short reports.								
授業計画	【第1回】 Greetings and Introduction 【第2回】 Demonstrative Pronoun 【第3回】 Numbers 【第4回】 Shopping 【第5回】 Hobbies and Interest 【第6回】 What is she doing? 【第7回】 What time is it?				【第8回】 Occupations 【第9回】 Past Tense 【第10回】 Future Tense 【第11回】 Prepositions 【第12回】 Ordering Food in a Restaurant 【第13回】 in an Airport				
成績評価の方法	Participation in online communication with the tutors in the Philippines 100%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	100% participation and effort is mandatory. Students must contact the teacher if they cannot attend class.								
オフィスアワー	Please contact the teacher directly via email.								
アクティブラーニングの内容	Students will have one-on-one or in a small group conversation in English with tutors, other students and/or the teacher through the lessons.								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C2104102	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	BradleyS・	開講期	第1期
科目名	Online English Conversation 1 B				BradleyS・			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	The purpose of this class is for students to practice basic English communication with people in a foreign country. Students of this class use the Internet to connect (using online video chat software) and communicate face-to-face with fluent English students of Mindanao International University in the Philippines. This class helps students broaden their view of the world through cross-cultural communication in English. The teacher will use some of the class time to reflect on students' online video chat conversations.								
到達目標	This is a popular class. Students will have a lot of time to enjoy basic English conversations in this class. This class makes it possible for students to improve their English speaking and listening, naturally. Students will feel relaxed when enjoying natural English conversations with fluent English speakers. In this class, students freely share their opinions, hopes and dreams in English with their very friendly online tutors in the Philippines. Working with the teacher and tutors, students reflect on and strengthen their English abilities. Most importantly, on the first day of class, students will feel they are global citizens.								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students of this class are expected to prepare well for each online face-to-face conversation. Students are also expected to be active and ready to ask questions to their friends in the Philippines; therefore, students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course. The teacher will assign homework related to the online discussions, including reading and writing of short reports.								
授業計画	【第1回】 Introduce Yourself. Getting to Know Each Other. 【第2回】 Weather 【第3回】 Demonstrative Pronouns 【第4回】 Numbers 【第5回】 Shopping 【第6回】 Hobbies & Interests 【第7回】 What is she doing? (The Present Progressive)				【第8回】 What time is it? 【第9回】 What do you do? Occupations 【第10回】 The Past 【第11回】 The Future 【第12回】 Getting Sick 【第13回】 Prepositions				
成績評価の方法	effort: 40%, participation: 30%, attitude: 30%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meetings between student and teacher can be made easily. Contact information for LINE and email will be arranged during the first class in April.								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C2104201	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	長澤 里絵	開講期	第2期
科目名	Online English Conversation 2A				長澤 里絵		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	The purpose of this class is for students to practice basic English communication with people in a foreign country. Students of this class use the Internet to connect (using online video chat software) and communicate face-to-face with fluent English students of Mindanao Kokusai Daigaku in the Philippines. This class helps students broaden their view of the world through cross-cultural communication in English. The teacher will use some of the class time to reflect on students' online video chat conversations, and help them become more effective and confident speakers of English.								
到達目標	The teacher will give students time to enjoy basic English conversations in class. This class makes it possible for students to improve their English speaking and listening, naturally. The goal for this class is for students to feel relaxed when having natural English conversations with fluent English speakers. In this class students can freely share their opinions, hopes and dreams in English with their online friends in the Philippines. Working with the teacher, students can reflect on and strengthen their English abilities.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students of this class are expected to prepare well for each online, face-to-face conversation. Students are also expected to be active and ready to ask questions to their friends in the Philippines; therefore, students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course. The teacher will assign homework related to the online discussions, including reading and writing of short reports.								
授業計画	【第1回】 Homestay 【第2回】 Making Hotel Reservations 【第3回】 Asking Permission 【第4回】 Making New Friends 【第5回】 Reporting in Class 【第6回】 Voice Mail 【第7回】 A Day at School			【第8回】 Apartments for Rent 【第9回】 Christmas is Coming 【第10回】 Class Reunion 【第11回】 Clothing Style 【第12回】 College Life 【第13回】 First Date					
成績評価の方法	Participation in online communication with the tutors in the Philippines 100%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	100% participation and effort is mandatory. Students must contact the teacher if they cannot attend class.								
オフィスアワー	Please contact the teacher directly via email.								
アクティブラーニングの内容	Students will have one-on-one or in a small group conversation in English with tutors, other students and/or the teacher through the lessons.								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C2104202	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	BradleyS・	開講期	第2期
科目名	Online English Conversation 2B				BradleyS・		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	The purpose of this class is for students to practice basic English communication with people in a foreign country. Students of this class use the Internet to connect (using online video chat software) and communicate face-to-face with fluent English students of Mindanao International University in the Philippines. This class helps students broaden their view of the world through cross-cultural communication in English. The teacher will use some of the class time to reflect on students' online video chat conversations, and help them become more effective and confident speakers of English.								
到達目標	This is a popular class. Students will have a lot of time to enjoy basic English conversations in this class. This class makes it possible for students to improve their English speaking and listening, naturally. Students will feel relaxed when enjoying natural English conversations with fluent English speakers. In this class, students freely share their opinions, hopes and dreams in English with their very friendly online tutors in the Philippines. Working with the teacher and tutors, students reflect on and strengthen their English abilities. Most importantly, on the first day of class, students will feel they are global citizens.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students of this class are expected to prepare well for each online face-to-face conversation. Students are also expected to be active and ready to ask questions to their friends in the Philippines; therefore, students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course. The teacher will assign homework related to the online discussions, including reading and writing of short reports.								
授業計画	【第1回】 Homestay 【第2回】 Giving Directions 【第3回】 Making a Reservation at a Hotel 【第4回】 Asking Permission 【第5回】 Making New Friends 【第6回】 Reporting in Class 【第7回】 Voicemail			【第8回】 A Day at School 【第9回】 Apartments for Rent 【第10回】 Camping Gear 【第11回】 Christmas is Coming 【第12回】 Class Reunion 【第13回】 Clothing Styles					
成績評価の方法	effort: 40%, participation: 30%, attitude: 30%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meetings between student and teacher can be made easily. Please contact the teacher directly via LINE or email.								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0123901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	会計学				森 寛和		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	会計学とは、企業その他の経済活動を認識し、測定し、利害関係者に伝達する際に、その測定方法や報告方法を体系化した学問のことです。本講義では、会計学を通じてビジネス言語としての会計の理解を深めることを目的とします。								
到達目標	会計学を基礎とする各科目を学ぶ上で、必要となる知識を獲得することを到達目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義では、60時間以上を授業外学修としてあてる事を求めます。前回内容を復習し、疑問点を解消した上で受講することが望ましいです。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション、会計の役割と機能 【第2回】会計情報のディスクロージャー 【第3回】財務会計の基礎 【第4回】期間損益計算と発生主義会計 【第5回】発生主義における収益費用の認識 【第6回】複式簿記の構造 【第7回】財務諸表の構造と作成手順 【第8回】製造原価の計算 【第9回】棚卸資産と売上原価 【第10回】固定資産と減価償却 【第11回】管理会計の基礎 【第12回】連結財務諸表 【第13回】会計監査とこれまでのまとめ								
成績評価の方法	定期試験（80％）および授業への取り組み姿勢（20％）で判定します。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『はじめて出会う会計学 第3版』川本 淳（著）、野口 昌良（著）、浅見 裕子（著）、山田 純平（著）、荒田 映子（著）（有斐閣）2022/ 3 /30、『新・現代会計入門』伊藤邦雄（日本経済新聞出版）2024/ 3 /26								
教員からのお知らせ	社会において、会計は長く付き合う必要のある学問の一つです。本講義が将来の一助になればと考えています。また参考書、教科書については初回講義時にお知らせします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	提示する課題に対して教員からのフィードバックによる振り返りを実施します。								
その他									

講義コード	11C0125002	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	豊島 英征	開講期	第1期
科目名	会社法								
履修前提条件					備考				
授業の目的	具体例を踏まえて、株式会社の組織、運営等について基本的な仕組み、考え方を説明する。								
到達目標	この授業を受けることにより、株式会社の組織、運営等について具体的なイメージを持ち、今後必要に応じて株式会社の組織、運営、管理等について自ら問題点を発見することができるようになることを到達目標としている。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、教科書の該当箇所を読み予習を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション 株式会社の存在意義と会社法の全体像について概説する。</p> <p>【第2回】 株式会社の特徴について 株式会社がどのような特徴を有しており、どのように活用されているかについて説明する。</p> <p>【第3回】 株式会社の事業活動について 株式会社が社会においてどのような事業活動をしているか、具体例を踏まえた説明をする。</p> <p>【第4回】 株式会社の設立について 株式会社を設立する際の手続について具体例を交えて説明する。</p> <p>【第5回】 株式及び株主について 株式会社における株式、株主の位置づけについて説明する。</p> <p>【第6回】 株式会社における機関について（総論） 株式会社における機関の種類、それぞれの活動内容について概説する。</p> <p>【第7回】 株式会社における機関について（株主総会） 株主総会について説明する。</p> <p>【第8回】 株式会社における機関について（取締役、取締役会、代表取締役） 取締役、取締役会、代表取締役について説明する。</p> <p>【第9回】 株式会社における機関について（監査役、監査役会、会計監査人） 監査役、監査役会、会計監査人について説明する。</p> <p>【第10回】 株式会社における機関について（指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社） 指名委員会設置会社、監査等委員会設置会社について説明する。</p> <p>【第11回】 いわゆる M & A について 株式会社に関して行われる M & A について、その具体的な流れや方法について説明する。</p> <p>【第12回】 株式会社に関する紛争について 株式会社に関する紛争について説明する。</p> <p>【第13回】 講義のまとめ これまでの講義のまとめを行う。</p>								
成績評価の方法	期末試験80%、授業への取り組み姿勢20%で評価する。								
フィードバックの内容									
教科書	『会社法 第4版』 田中亘（東京大学出版会）2023年								
指定図書									
参考書	『株式会社法 第9版』 江頭憲治郎（有斐閣）2024年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	授業前後の時間帯を利用し、授業教室内で当該授業の質問・相談対応をする。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、グループ・ディスカッションなど								
実践的な教育内容	裁判官と弁護士の実務経験のある教員が会社法に関して教える。								
その他									

講義コード	11C0122001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	開発経済学Ⅰ				芹田 浩司		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	開発経済学の主要な課題は、発展途上国に多かれ少なかれ共通する貧困や経済格差（不平等）の問題をいかにして解決（是正）していくかにあると考えられる。この授業は、これまで示されてきた開発に対する様々な見方・アプローチ（理論的枠組み）を検討するとともに、ラテンアメリカやアジアの事例を中心に、工業化をはじめとする開発戦略の実証的検討を行うことを通じて、開発や経済発展に対する理解を深めることを目的とする。								
到達目標	発展途上国における開発問題や、発展途上国と先進国の関係等を学ぶことによって、過去および現在の世界経済に関する知見を深めることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	テキスト（配布プリント）については毎回復習してくること（分からない用語や概念等についてはそのままにせず、自分でも積極的に調べる）。また国際面や経済面を中心に新聞にも目を通して頂くこと。なお、授業外学修時間については60時間以上とする。								
授業計画	【第1回】世界の現状把握及び開発経済学の課題 【第2回】貧困・格差問題を考える（1） 【第3回】貧困・格差問題を考える（2） 【第4回】ベーシックインカム、セーフティネットを巡る諸議論（1） 【第5回】ベーシックインカム、セーフティネットを巡る諸議論（2） 【第6回】これまでのまとめ（小テスト：予定） 【第7回】開発を巡る諸概念等について 【第8回】余剰労働問題とは何か？（1） 【第9回】余剰労働問題とは何か？（2） 【第10回】マイクロクレジットと貧困問題 【第11回】発展途上国における工業化の理論的根拠や経済的意義（1） 【第12回】発展途上国における工業化の理論的根拠や経済的意義（2） 【第13回】総復習・質問受け付け等								
成績評価の方法	基本的に期末試験の成績（100％）による〔但し、課題の提出（その内容も含む）を（若干の）加点対象とする場合がある。詳細についてはガイダンスや授業時などに適宜説明する。〕								
フィードバックの内容	小テスト（授業内課題）等で解答提示・解説が必要な場合においては基本的に次の授業時においてフィードバックする予定である。								
教科書									
指定図書	『国際開発政策研究』石川 滋（東洋経済新報社）2006、『開発経済学－貧困削減へのアプローチ』黒崎 卓、山形 辰史（日本評論社）2003								
参考書	『経済成長』デイヴィッド・N・ワイル（ピアソン）2010、『開発経済学概論』ジェラルド M. マイヤー（岩波書店）2006、『トダロとスミスの開発経済学』マイケル P. トダロ、ステファン C. スミス、マイケル P. トダロ、ステファン C. スミス（国際協力出版会）2004、『エコノミスト 南の貧困と闘う』ウィリアム・イースタリー（東洋経済新報社）2003、『開発経済学の新展開』高木 保興（有斐閣）2002、『開発経済論』原 洋之介（岩波書店）2002、『開発経済学入門』渡辺 利夫（東洋経済新報社）2001、『開発経済学－諸国民の貧困と富』速水 佑次郎（創文社）2000、『ストーリーで学ぶ開発経済学 ―― 途上国の暮らしを考える』黒崎 卓、栗田 匡相（有斐閣）2016、『開発経済学入門』戸堂 康之（新世社）2015								
教員からのお知らせ	基本的に教科書は用いず、配布プリントを基に進める予定です。その他の参考書等については授業中に適宜、紹介します。また授業の進行上、上記計画については順序の入れ替えや変更等の可能性があります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	－教員からのフィードバックによる振り返り －能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0122101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	開発経済学2				芹田 浩司		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	開発経済の主要な課題は、発展途上国に多かれ少なかれ共通する貧困や経済格差（不平等）の問題をいかにして解決（是正）していくかにあると考えられる。この授業は、これまで示されてきた開発に対する様々な見方・アプローチ（理論的枠組み）を検討するとともに、ラテンアメリカやアジアの事例を中心に、工業化をはじめとする開発戦略の実証的検討を行うことを通じて、開発や経済発展に対する理解を深めることを目的とする。								
到達目標	発展途上国における開発問題や、発展途上国と先進国の関係等を学ぶことによって、過去および現在の世界経済に関する知見を深めることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	テキスト（配布プリント）については毎回復習してくること（分からない用語や概念等についてはそのままにせず、自分でも積極的に調べること）。また国際面や経済面を中心に新聞にも目を通してここと。なお、授業外学修時間については60時間以上とする。								
授業計画	【第1回】工業化の理論（1）～投資の誘発と不均斉成長論 【第2回】工業化の理論（2）～A.ルイスの二重構造論〔1〕 【第3回】工業化の理論（3）～A.ルイスの二重構造論〔2〕 【第4回】工業化の方向性とその政策体系に関する議論（1） 【第5回】工業化の方向性とその政策体系に関する議論（2） 【第6回】これまでのまとめ（小テスト：予定） 【第7回】国際援助問題を考える 【第8回】発展途上国経済における国家の役割を考える 【第9回】東アジアの経済発展と新古典派アプローチ（1） 【第10回】東アジアの経済発展と新古典派アプローチ（2） 【第11回】東アジアの経済発展と新古典派アプローチ（3） 【第12回】東アジアの経済発展と国家論アプローチ 【第13回】総復習・質問受け付け等								
成績評価の方法	基本的に期末試験の成績（100%）による〔但し、課題の提出（その内容も含む）を（若干の）加点対象とする場合がある。詳細についてはガイダンスや授業時などに適宜説明する。〕								
フィードバックの内容	毎回課される課題等において、補足やフィードバックが必要と考えられる場合、次の授業において、補足説明やフィードバックを行う。またオンライン（掲示板等）にて随時、質問等を受け付け、フィードバックを行う。								
教科書									
指定図書	『国際開発政策研究』石川 滋（東洋経済新報社）2006、『開発経済学－貧困削減へのアプローチ』黒崎 卓、山形 辰史（日本評論社）2003								
参考書	『経済成長』デイヴィッド・N・ワイル（ピアソン）2010、『開発経済学概論』ジェラルド M. マイヤー（岩波書店）2006、『トダロとスミスの開発経済学』マイケル P. トダロ、ステファン C. スミス、マイケル P. トダロ、ステファン C. スミス（国際協力出版会）2004、『エコノミスト 南の貧困と闘う』ウィリアム・イースタリー（東洋経済新報社）2003、『開発経済学の新展開』高木 保興（有斐閣）2002、『開発経済論』原 洋之介（岩波書店）2002、『開発経済学入門』渡辺 利夫（東洋経済新報社）2001、『開発経済学－諸国民の貧困と富』速水 佑次郎（創文社）2000、『ストーリーで学ぶ開発経済学 ―― 途上国の暮らしを考える』黒崎 卓、栗田 匡相（有斐閣）2016、『開発経済学入門』戸堂 康之（新世社）2015								
教員からのお知らせ	教科書については特に使用せず、私の執筆による資料等を配布する形で進めます。また参考文献等についても適宜紹介します。また授業の進行上、上記計画については順序の入れ替えや変更等の可能性があります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	－教員からのフィードバックによる振り返り －能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	学修の基礎Ⅰ				各担当教員	第1期
履修前提条件					備考	
授業の目的	この講義では、本学が唱導する「モラリスト×エキスパート」の理念を共有するため、本学の教育理念や大学における勉強法、大学で最低限必要とされる知のツール－文献の批判的な読み方、問題意識の絞り方、資料の調べ方と整理の仕方、プレゼンテーション資料作成の仕方、プレゼンテーションの仕方の基本的なノウハウ－を学修することを目的とする。					
到達目標	この講義では、演習形式を採用することにより、①大学における「知の技法」、②自分の問題意識にもとづいて情報を収集する方法、③その情報を整理してまとめてプレゼンテーション資料を作成する手法、④取りまとめた内容についてプレゼンテーションをする手法、⑤プレゼンテーションの内容に基づいて討論を行う手法、が得られる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	①講義で出された課題を行うこと ②授業前1週間の新聞に目を通すこと ③幅広く読書を行うこと ④図書館を活用すること 以上について、60時間以上の授業外学修を行うこと。					
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション－「大学」ってどんなところ？大学と高校での学びの異同－ 【第2回】 経済学部では何を学ぶか 【第3回】 学びの基礎－問題意識を持つ－ 【第4回】 文章の読み方－読む→要約する→疑問を持つ－① 【第5回】 文章の読み方－読む→要約する→疑問を持つ－② 【第6回】 課題について調べる－図書館の使い方－ 【第7回】 課題について調べる－インターネットの活用法－ 【第8回】 調べたことをまとめる－プレゼンテーション資料作りの技術－ 【第9回】 プレゼンテーションの技術① 【第10回】 プレゼンテーションの技術② 【第11回】 総括 【第12回】 立正大学の歴史と基本理念①（合同授業） 【第13回】 立正大学の歴史と基本理念②（合同授業）</p> <p>・上記に加えて、各回の30分程度を「ニュース検定」に関する学習に充てる。 ・立正大学の歴史と基本理念に関する授業（第12・13回）は合同形式で実施する。 ・詳細は授業内で担当教員より告知されるので注意すること。 ・GPS アカデミックを実施すること。</p>					
成績評価の方法	討論など平常の授業への参加態度40%、報告（プレゼンテーション資料とプレゼンテーション内容）40%、ニュース検定への取り組み20%					
フィードバックの内容	プレゼンテーション資料やプレゼンテーション内容について、授業内でフィードバックする。					
教科書	『START 学修の基礎2025』（立正大学）2025年、『2025年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（1・2・準2級対応）』日本ニュース時事能力検定協会（毎日新聞出版）2025年、『2025年度版 ニュース検定 公式問題集「時事力」（1・2・準2級対応）』日本ニュース時事能力検定協会（毎日新聞出版）2025年					
指定図書 参考書						
教員からのお知らせ	指定図書・参考書については担当教員より指示がある。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。					
アクティブラーニングの内容	演習。発表や課題提出を行い、次の週にそのフィードバックを行う。					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	学修の基礎Ⅱ				各担当教員	第2期
履修前条件						備考
授業の目的	この講義では、「学修の基礎Ⅰ」を通じて大学で学ぶための基礎的な技術を習得した受講生が、より応用的な技法を学ぶことを目指す。具体的には、2年次からのゼミナールで必要とされる調査、討論、共同での論文作成、成果のプレゼンテーションなどを行うための予備学習となる。グループでの討議を通じてテーマ設定を行い、章立てのあるレポートの段階的な作成を行い、盗用を避けるための参考文献・引用の付け方などを身につけていく。					
到達目標	この講義は演習形式を採用し、①自分の問題意識にもとづいてテーマを設定する能力、②関連分野の既存研究に関する書籍や論文、その他データの収集を行う能力、③これらの情報を整理・分析したうえでレポートにまとめる能力、④その成果を効果的にプレゼンテーションする能力を得ること、を到達目標とする。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	①問題意識を養うため新聞等を通じて社会情勢について幅広く関心を持つこと ②多様な分野の書籍を読むこと ③PCによる文書作成、データ処理について訓練すること 以上について、60時間以上の授業外学修を行うこと。					
授業計画	<p>【第1回】 レポート作成1：グループで、テーマ探しのための事前調査を行う</p> <p>【第2回】 レポート作成2：テーマ設定を行い、レポートの仮アウトライン（章立て）を作成する</p> <p>【第3回】 レポート作成3：各自の分担を決めて、各章のテーマの資料調査と整理を行う</p> <p>【第4回】 レポート作成4：資料調査と整理、報告</p> <p>【第5回】 レポート作成5：グループ討論による最終アウトラインの決定とレポート執筆の方法</p> <p>【第6回】 レポート作成6：執筆したレポートの取りまとめ</p> <p>【第7回】 レポート作成7：参考文献の表示と引用の仕方</p> <p>【第8回】 レポート作成8：レポート内容のプレゼンテーション</p> <p>【第9回】 ゼミナールでの学修準備1（合同授業）</p> <p>【第10回】 ゼミナールでの学修準備2（合同授業）</p> <p>【第11回】 ゼミナールでの学修準備3（合同授業）</p> <p>【第12回】 キャリア形成に向けての学修1（合同授業）</p> <p>【第13回】 キャリア形成に向けての学修2（合同授業）</p> <p>・各回の30分程度を「ニュース検定」に関する学習に充て、実際の検定試験（11月実施予定）を合同で受験する。 ・2年次から始まる「ゼミナール」に向けた学修準備（第9～11回）、キャリア形成に向けての学修（第12・13回）は合同形式で実施する。 ・詳細は授業内で担当教員より告知されるので注意すること。</p>					
成績評価の方法	レポート・プレゼンテーション40% 討論など平常の授業への参加態度40% ニュース検定への取り組み20%					
フィードバックの内容	レポートやプレゼンテーションについて、授業内でフィードバックする。					
教科書	『START 学修の基礎2025』（立正大学）2025年、『2025年度版ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（1・2・準2級対応）』日本ニュース時事能力検定協会（毎日新聞出版）2025年、『2025年度版ニュース検定公式問題集「時事力」（1・2・準2級対応）』日本ニュース時事能力検定協会（毎日新聞出版）2025年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	指定図書・参考書については担当教員より指示がある。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。					
アクティブラーニングの内容	演習。レポートやプレゼンテーションについて、次の週にフィードバックする。					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	11C0105401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	環境科学				櫻井 一宏		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、環境に関する基本的な知識と科学的な視点とはどういうことを学ぶ、また、環境問題の原因となる物質やその排出源、影響などを整理し、そのメカニズムについて理解を深める。さらには環境問題の歴史や政策について学び、過去から近現代における環境と人間活動との関係や、そこに生じてきた諸問題の原因および課題について考え、これからの持続可能な社会の実現のために必要な方策とはどのようなものか検討する。								
到達目標	環境に関する基本的な知識を身につけ、科学的な視点による理解を深める。特に現代の経済活動によって生じる環境負荷を定量的に分析する方法を習得する。環境問題を把握するための知識や考え方を学ぶことで、環境政策を検討するためには、複数の学問分野における分析や知見、さまざまな情報が必要であることを理解する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業時の作成ノートをもとにして、当該内容の確認および理解を深めるための復習を必要とする。また、インターネット等を用いて関連する内容についての自主学習を行うことを推奨する。以上の復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。適宜、授業内容に沿って関連する課題を与える場合がある。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 人間社会と環境 【第3回】 経済活動による資源利用 【第4回】 公害とその対策 【第5回】 環境政策 【第6回】 水と生活環境 【第7回】 水環境問題 【第8回】 環境負荷の推計 【第9回】 都市環境と水処理 【第10回】 酸性雨と大気汚染 【第11回】 化学物質と環境 【第12回】 地球温暖化とCO₂ 【第13回】 まとめ 								
成績評価の方法	原則として期末試験（100％）で評価する。課題提出・小テスト等を実施した場合は5％とし、期末試験を95％とする。ただし、授業および試験時の態度等に問題があった場合は成績評価対象外とすることがある。								
フィードバックの内容	課題や小テストに関する内容等について講評、解説を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『新版 新しい環境科学 - 環境問題の基礎知識をマスターする -』鈴木孝弘（駿河台出版社）2021、『文系のための環境科学入門 新版』藤倉良・藤倉まなみ（有斐閣）2016								
教員からのお知らせ	参考資料等は適宜指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業中に簡単な確認テスト等を実施し、その結果のフィードバック・振り返りを行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0122201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	環境計画論Ⅰ				櫻井 一宏		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	環境問題への対応や持続可能社会の実現を目指すためには、適切な政策立案と諸政策を実践する具体的な計画が必要である。本講義では、世界およびわが国における都市の成立や発展、そして環境問題の歴史的な変遷について概観する。その上で、近代都市論や計画的な思考に基づく近代から現代にかけての都市の発展およびその計画について環境問題との関連を踏まえて学び、将来の都市のあり方や環境に対する考え方について検討する。								
到達目標	都市が成立し発展してきた背景と関連する環境問題について理解する。資源およびエネルギーを含めた環境問題と都市との関係を把握し、近代都市の成立および都市計画の発展について学び、今後のあるべき都市と環境について考えることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業時の作成ノートをもとにして、当該内容の確認および理解を深めるための復習を必要とする。また、インターネット等を用いて関連する内容についての自主学習を行うことを推奨する。以上の復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。適宜、授業内容に沿って関連する課題を与える場合がある。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 イントロダクション 【第2回】 都市の成立 【第3回】 都市社会と環境問題 【第4回】 近代都市の発展 【第5回】 近代都市環境と都市論 【第6回】 近代都市計画の考え方 【第7回】 近代都市計画（英国） 【第8回】 近代都市計画（米国） 【第9回】 現代都市論 【第10回】 英国の都市計画の変遷 【第11回】 日本の都市の発展 【第12回】 日本の都市計画 【第13回】 まとめ 								
成績評価の方法	原則として期末試験（100％）で評価する。課題提出・小テスト等を実施した場合は5％とし、期末試験を95％とする。ただし、授業および試験時の態度等に問題があった場合は成績評価対象外とすることがある。								
フィードバックの内容	課題や小テストに関する内容等について講評、解説を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『都市計画の世界史』日端康雄（講談社）2008、『都市・地域計画』石井一郎・湯沢昭（鹿島出版会）2007								
教員からのお知らせ	参考資料等は適宜指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業中に簡単な確認テスト等を実施し、その結果のフィードバック・振り返りを行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0122301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	環境計画論2				櫻井 一宏		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、わが国の国土計画や環境政策の変遷を把握し、その効果や影響について具体的に学ぶ。特に国土計画に位置付けられた都市・地域開発および産業の高度化などに伴って生じた公害問題、近年の地球環境問題に係わる環境政策や関連する施策の動向について紹介し、今後必要となる政策および計画について検討する。								
到達目標	計画がなぜ必要なのか、また、どのようなものなのかについて、わが国の国土計画などを例にして学び、基本的な計画論とその考え方、公共的な視点からの諸計画や関連政策について理解する。また、それらの計画等の策定時の背景や決定プロセスについての知見を得ることで、これからの国土や環境に関して考えることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業時の作成ノートをもとにして、当該内容の確認および理解を深めるための復習を必要とする。また、インターネット等を用いて関連する内容についての自主学習を行うことを推奨する。以上の復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。適宜、授業内容に沿って関連する課題を与える場合がある。								
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】計画とは 【第3回】さまざまな計画 【第4回】国土計画の系譜 【第5回】全国総合開発計画（1） 【第6回】全国総合開発計画（2） 【第7回】全国総合開発計画（3） 【第8回】全国総合開発計画（4） 【第9回】全国総合開発計画（5） 【第10回】国土形成計画 【第11回】海洋基本計画 【第12回】沿岸域の総合的管理 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	原則として期末試験（100％）で評価する。課題提出・小テスト等を実施した場合は5％とし、期末試験を95％とする。ただし、授業および試験時の態度等に問題があった場合は成績評価対象外とすることがある。								
フィードバックの内容	課題や小テストに関する内容等について講評、解説を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『国土計画の変遷 - 効率と平衡の計画思想 -』川上征雄（鹿島出版会）2008								
教員からのお知らせ	参考資料等は適宜指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業中に簡単な確認テスト等を実施し、その結果のフィードバック・振り返りを行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0112601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	環境経済学1				宮岡 暁		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	環境経済学は、経済学の視点から環境問題の発生メカニズムを明らかにし、環境問題を解決するための有効な政策手段を提示することを目的とする学問です。第1期の「環境経済学1」では、市場経済において環境問題が発生するメカニズム（外部性）と、それを解決するための代表的な政策手段（環境税、排出量取引、環境ラベルなど）の基礎理論について学修します。								
到達目標	①市場経済において環境問題が発生するメカニズム（外部性）について説明できる ②環境政策の導入によって環境問題が解決されるメカニズムについて説明できる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行って下さい。予習は必要としませんが、復習をしっかりと行うことが大切です。毎回の授業では、その回の内容を復習するための課題（要提出）を出題するので、しっかりと取り組むようにしてください。								
授業計画	【第1回】環境問題と環境政策の歴史の変遷 【第2回】ミクロ経済学の復習：需要曲線と供給曲線 【第3回】外部性と市場の失敗 【第4回】外部性の内部化 【第5回】企業の限界削減費用 【第6回】直接交渉とコースの定理 【第7回】直接規制 【第8回】環境税 【第9回】環境補助金 【第10回】排出量取引 【第11回】環境税と排出量取引の実際 【第12回】情報的手法 【第13回】環境政策と研究開発								
成績評価の方法	課題（約30％）＋期末試験（約70％）で評価します。								
フィードバックの内容	課題の解答例をメ切後に掲示するとともに、講評を翌週授業内に行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『環境経済学をつかむ 第4版』栗山浩一／馬奈木俊介（有斐閣）2020年、『環境経済学入門講義〔増補版〕』浜本光紹（創成社）2021年、『コア・テキスト 環境経済学』一方井誠治（新世社）2018年、『環境経済学の第一歩』大沼あゆみ／植植隆宏（有斐閣）2021年、『環境経済学入門』ニック・ハンレー／ジェイソン・ショグレン／ベン・ホワイト（昭和堂）2021年								
教員からのお知らせ	この授業では特定の教科書は使用しません。資料の配布は、OpenLMSもしくはMicrosoft Teamsを利用して行う予定です。詳細については、事前に掲示するガイダンス資料で説明します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、メールやMicrosoft Teamsのチャット機能でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	①主に「ミクロ経済学基礎」での学修内容をベースとした授業になります。したがって、「ミクロ経済学基礎」の単位を修得済みであることが望ましいです。ただし、授業内でも必要に応じて復習を行います。 ②環境経済学の主要な研究テーマの一つに「環境評価」がありますが、この授業では時間の制約により扱いません。このテーマについて詳細に学びたい人は「環境経済評価法」の授業を履修することをオススメします。								

講義コード	11C0112701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	宮岡 暁	開講期	第2期	
科目名	環境経済学2				宮岡 暁			第2期		
履修前提条件					備考					
授業の目的	環境経済学は、経済学の視点から環境問題の発生メカニズムを明らかにし、環境問題を解決するための有効な政策手段を提示することを目的とする学問です。第2期の「環境経済学2」では、自然資源（枯渇性資源と再生可能資源）を取り巻く問題や、グローバル化と環境問題の関係、廃棄物問題・地球環境問題といった具体的な環境問題について学修します。									
到達目標	①自然資源の過剰利用が発生するメカニズムやそれを防ぐための様々な政策の有効性について、図やグラフによる分析ができる ②グローバル化（国際貿易）が環境に与える影響について、図やグラフによる分析ができる ③具体的な環境問題に関して、その内容や実施されている政策の特徴について説明できる									
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行ってください。予習は必要としませんが、復習をしっかりと行うことが大切です。毎回の授業では、その回の内容を復習するための課題（要提出）を出題するので、しっかりと取り組むようにしてください。									
授業計画	【第1回】 枯渇性資源（1） 【第2回】 枯渇性資源（2） 【第3回】 枯渇性資源（3） 【第4回】 エネルギー資源（1） 【第5回】 エネルギー資源（2） 【第6回】 再生可能資源（1） 【第7回】 再生可能資源（2）			【第8回】 国際貿易と環境（1） 【第9回】 国際貿易と環境（2） 【第10回】 地球環境問題（1） 【第11回】 地球環境問題（2） 【第12回】 廃棄物問題（1） 【第13回】 廃棄物問題（2）						
成績評価の方法	課題（約30%）＋期末試験（約70%）で評価します。									
フィードバックの内容	課題の解答例をメッセ後に掲示するとともに、講評を翌週授業内に行います。									
教科書										
指定図書										
参考書	『環境経済学をつかむ 第4版』栗山浩一／馬奈木俊介（有斐閣）2020年、『環境経済学入門講義 [増補版]』浜本光紹（創成社）2021年、『コア・テキスト 環境経済学』一方井誠治（新世社）2018年、『環境経済学の第一歩』大沼あゆみ／柘植隆宏（有斐閣）2021年、『環境経済学入門』ニック・ハンレー／ジェイソン・シヨグレン／ベン・ホワイト（昭和堂）2021年									
教員からのお知らせ	この授業では特定の教科書は使用しません。 資料の配布は、OpenLMSもしくはMicrosoft Teamsを利用して行う予定です。 詳細については、事前に掲示するガイダンス資料で説明します。									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、メールやMicrosoft Teamsのチャット機能でも受け付けます。									
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り									
実践的な教育内容										
その他	①主に「ミクロ経済学基礎」での学修内容をベースとした授業になります。したがって、「ミクロ経済学基礎」の単位を修得済みであることが望ましいです。ただし、授業内でも必要に応じて復習を行います。 ②第1期の「環境経済学1」とセットで履修することを強く推奨します。 ③「環境評価」について詳細に学びたい人は「環境経済評価法」の授業を履修することをオススメします。									

講義コード	14C0226201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	谷野 宏樹	開講期	第1期	
科目名	教養特講1〈進化生物学とは何か〉／進化生物学とは何か				谷野 宏樹			第1期		
履修前提条件					備考					
授業の目的	生物学における進化生物学という分野の位置付けの理解と、進化生物学的な基礎知識を得ることを目的とする。実際の研究事例とともに解説を聞くことで、現代の進化生物学における基礎的な理論の概観と活用事例を把握する。教養として進化生物学の知識を得ることで、ニュースなどで紹介された生物学の話題について、進化生物学的な視点をもって自身の意見を話すことができることを目指す。									
到達目標	本講義を受講することで、以下の3点を達成することを目標とする。 1. 進化生物学の歴史的な背景を説明できる 2. 進化がどのような状況で、何に対して起きるか説明できる 3. 生物学に関する話題について、進化生物学的な観点からの意見を述べることができる									
授業外学修内容・授業外学修時間数	この講義では、60時間以上の授業外学習を行うこと。 授業外学習では、講義に際して配布するスライド資料や文書等の教材を活用するとともに、講義中に提出された課題に取り組むこと。講義で関心をもった項目については、講義中で紹介する書籍や参考文献を読み理解を深めることを推奨する。									
授業計画	【第1回】 はじめに 進化生物学はなぜ重要か？ 【第2回】 進化生物学はいかにして誤解されてきたか？ 【第3回】 進化理論の歴史の変遷 ① 【第4回】 進化理論の歴史の変遷 ② 【第5回】 系統樹が解き明かす進化 【第6回】 生命の歴史を概観する 【第7回】 進化を駆動する要因は何か？ ① 【第8回】 進化を駆動する要因は何か？ ② 【第9回】 進化のスケールを理解する：淘汰圧の階層性 【第10回】 都市がもたらす進化 【第11回】 実験室で引き起こす進化 【第12回】 「進化」とは「最適」か？ 【第13回】 まとめ 進化生物学はいかにして活用されてきたか？									
成績評価の方法	毎回の授業中で出題する200字程度の課題（50%）、期末試験としてのレポート（50%）で評価する。レポートについては、自身が興味をもった生物学に関するニュース等の話題を選択し、関係する進化理論を提示しながら解説できることを評価基準とする。 また、取り組み姿勢への評価として、講義内容に関連した有意義な質問1件につき、授業中での課題評価について10%を補填する形で評価する。									
フィードバックの内容	課題に対する講評を翌週の授業内で行う。 また、受講者の理解を促進するものと考えられる質問については、有意義な質問として講義中で回答を紹介する。									
教科書	『系統樹や生態からみた進化』カール・ジンマー、ダグラス・J・エムレン（講談社）2017、『進化のからくり：現代のダーウィンたちの物語』千葉聡（講談社）2020、『Evolution』Douglas J. Futuyama, Mark Kirkpatrick (Oxford University Press) 2017									
指定図書										
参考書	『利己的な遺伝子』リチャード・ドーキンス（紀伊国屋書店）2006									

講義コード	14C0226301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期															
科目名	教養特講2〈進化生物学の世界〉／進化生物学の世界				谷野 宏樹		第2期																
履修前条件					備考																		
授業の目的	進化生物学にはどのような研究手法があるか理解し、主要な課題について把握することを目的とする。各生物における事例やシミュレーションについての紹介を通じて、進化生物学の論理的な裏付けについて理解することができる。最新の研究状況まで含めて紹介することを通じ、進化生物学の世界の概要を掴むことを目指す。																						
到達目標	本講義を受講することで、以下の3点を達成することを目標とする。 1. 進化生物学における遺伝子情報の貢献について説明できる 2. 進化的対立について説明ができる 3. 生物の進化が起こる要因について説明ができる																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この講義では、60時間以上の授業外学習を行うこと。 授業外学習では、講義に際して配布するスライド資料や文書等の教材を活用するとともに、講義中に出題された課題に取り組むこと。講義で関心をもった項目については、講義中で紹介する書籍や参考文献を読み理解を深めることを推奨する。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】はじめに 進化生物学の研究手法</td> <td>【第8回】性の進化 ②</td> </tr> <tr> <td>【第2回】どのようにして遺伝子を「読む」のか？</td> <td>【第9回】子への投資と親子間の進化的対立</td> </tr> <tr> <td>【第3回】遺伝子情報をいかにして活用するのか</td> <td>【第10回】進化的軍拡競争</td> </tr> <tr> <td>【第4回】地理的隔離が引き起こす進化</td> <td>【第11回】利他行動の進化 ①</td> </tr> <tr> <td>【第5回】気候変動がもたらす進化</td> <td>【第12回】利他行動の進化 ②</td> </tr> <tr> <td>【第6回】生物間相互作用がもたらす進化</td> <td>【第13回】まとめ 現代進化生物学の課題と新たな試み</td> </tr> <tr> <td>【第7回】性の進化 ①</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】はじめに 進化生物学の研究手法	【第8回】性の進化 ②	【第2回】どのようにして遺伝子を「読む」のか？	【第9回】子への投資と親子間の進化的対立	【第3回】遺伝子情報をいかにして活用するのか	【第10回】進化的軍拡競争	【第4回】地理的隔離が引き起こす進化	【第11回】利他行動の進化 ①	【第5回】気候変動がもたらす進化	【第12回】利他行動の進化 ②	【第6回】生物間相互作用がもたらす進化	【第13回】まとめ 現代進化生物学の課題と新たな試み	【第7回】性の進化 ①	
【第1回】はじめに 進化生物学の研究手法	【第8回】性の進化 ②																						
【第2回】どのようにして遺伝子を「読む」のか？	【第9回】子への投資と親子間の進化的対立																						
【第3回】遺伝子情報をいかにして活用するのか	【第10回】進化的軍拡競争																						
【第4回】地理的隔離が引き起こす進化	【第11回】利他行動の進化 ①																						
【第5回】気候変動がもたらす進化	【第12回】利他行動の進化 ②																						
【第6回】生物間相互作用がもたらす進化	【第13回】まとめ 現代進化生物学の課題と新たな試み																						
【第7回】性の進化 ①																							
成績評価の方法	毎回の授業中で出題する200字程度の課題（50%）、期末試験としてのレポート（50%）で評価する。レポートについては、自身が興味をもった進化の要因について取り上げ、事例とともに論述できることを評価基準とする。また、取り組み姿勢への評価として、講義内容に関連した有意義な質問1件につき、授業中での課題評価について10%を補填する形で評価する。																						
フィードバックの内容	課題に対する講評を翌週の授業内で行う。 また、受講者の理解を促進するものと考えられる質問については、有意義な質問として講義中で回答を紹介する。																						
教科書	『適応と自然選択:近代進化論批評』George Christopher Williams（共立出版）2022、『Evolution』Douglas J. Futuyma, Mark Kirkpatrick（Oxford University Press）2017																						
指定図書																							
参考書	『なぜオスとメスは違うのかー性淘汰の科学』マーリーン・ブック、リー・W・シモンズ（大修館書店）2023、『生物多様性の謎に迫る』寺井洋平（化学同人）2018、『進合理論の構造 I』スティーブン・ジェイ・グールド（工作舎）2021、『進合理論の構造 II』スティーブン・ジェイ・グールド（工作舎）2021																						
教員からのお知らせ																							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メールを用いてお願いします。 授業内容についての質問はもちろん、レポートの内容や書き方に関する質問も歓迎します。 メールアドレスについては、授業内で明示します。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習など																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11C3116001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	銀行論Ⅰ					畠山 久志	第1期
履修前条件				備考			
授業の目的	銀行の登場、その機能などについて歴史的視野から取り上げる。国民生活の中で、信用機能や決済手段を仲介するのが銀行であるが、時の為政者や社会思想によって、銀行の役割は変遷している。また意外と思われるが銀行は宗教との関係が強い。さらに国際貿易の為替ニーズが中央銀行制度を整備させた。日本の銀行制度はアメリカの銀行制度を移入したもののだが、独自の地域金融としても発展しておりそれらの特徴などを解説する。						
到達目標	銀行の長い歴史における社会的意義を捉え、銀行に求められる役割の重要性を認識するとともに銀行を取り巻く環境変化と中央銀行の金融政策について理解できる。変革期における銀行の現代的意義と方向性を的確に把握することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業1コマについて、2時間の予習と2時間の復習(計4時間)を行う必要がある。授業は13回なので、全体で60時間以上の授業外学修を行うことが求められる。授業外学修で取り組むべき課題や参考文献等については、適宜授業時間内およびポータルサイトにて指示する。						
授業計画	<p>【第1回】概説：銀行とは（金融における銀行の役割・基本業務） 間接金融、直接金融</p> <p>【第2回】銀行の歴史1（金利の意義） 金利とは何か。金利を認めない金融の存在</p> <p>【第3回】銀行の歴史2（貿易と銀行） 金融と保険</p> <p>【第4回】銀行の歴史3（中央銀行の登場） オランダ、イギリス</p> <p>【第5回】マネーストック（資金循環） 日本の資金循環 日本銀行</p> <p>【第6回】日本の銀行1（メガバンクと地域金融機関） 民間銀行</p> <p>【第7回】日本の銀行2（信託銀行） 信託専門銀行、信託会社</p> <p>【第8回】日本の銀行3（協同組織金融機関と消費者金融） 信用金庫、信用組合、労働金庫等</p> <p>【第9回】銀行法の解説1（金融基幹法・分業主義） 間接金融中心主義</p> <p>【第10回】銀行法の解説2（業務） 固有業務、その他の業務</p> <p>【第12回】銀行法の解説3（組織形態） 銀行持株会社、銀行子会社</p> <p>【第13回】バーゼル規制Ⅲ 融資とリスク</p>						
成績評価の方法	基本的に期末試験（レポート等）の成績に基づいて評価する（80%）。加えて、授業への取り組み姿勢（質問、意見など）を考慮する（20%）。						
フィードバックの内容	授業内容の確認、質問・意見等について次回、ないしまとめて適宜解説する。						
教科書	『金融入門第3版』日本経済新聞社（日本経済新聞社出版）2020、『現代の金融』池尾和人（筑摩書房）2010						
指定図書	『マネーの進化史』ニール・ファーガソン（早川書房）2009、『銀行の歴史』エドウィン・グリーン（原書房）1994、『地域金融機関の信託・相続』畠山久志（日本加除出版）2019						
参考書							
教員からのお知らせ	基本的にPDFのスライドを用いて、解説をしていきます。スライドはポータルサイトに掲示します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、各授業の終わりに教室で受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	金融について関心がある事項を予めまとめ、授業でどの様に解説されるかに注意し、確認してください。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11C3116101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	銀行論2				畠山 久志		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	わが国は、アメリカの金融制度を移入し続けている。そこで、まずアメリカの金融・銀行制度を説明する。次にわが国の金融制度に係る基本法である銀行法、金融商品取引法などの業法を解説する。証券化の中で、銀行と証券会社の金融商品を巡ったデマケーションがあり、直接金融と間接金融の差異を深耕する。これらの金融機関に対する公的規制と救済制度を検証し、暗号資産、中央銀行デジタル通貨など最近の動きを取上げる。						
到達目標	現代の銀行業に係る法的規制が理解できる。また、グローバル化・IT化による金融環境の変化に対応する法的規制の見直し、及び証券化の中における金融商品のデマケーションと銀行と証券会社による開示規制、行為規制等の相違を把握できる。さらに金融監督の役割、救済策、新しい金融商品について説明できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業1コマについて、2時間の予習と2時間の復習(計4時間)を行う必要がある。授業は13回なので、全体で60時間以上の授業外学修を行うことが求められる。授業外学修で取り組むべき課題や参考文献等については、適宜授業内およびポータルサイトで指示する。						
授業計画	<p>【第1回】 アメリカの銀行制度とわが国銀行の歴史 金融法制は、アメリカ法の移入</p> <p>【第2回】 アメリカの銀行制度1 NY 初の世界大恐慌に対するニュー・ディール</p> <p>【第3回】 アメリカの銀行制度2 中央銀行制度と民間銀行</p> <p>【第4回】 アメリカの銀行監督体制 連邦銀等通貨当局</p> <p>【第5回】 アメリカの金融イベント(エンロン事件、リーマンショック) 大規模な不祥事件</p> <p>【第6回】 マイクロファイナンス(少額融資システム) 小規模融資</p> <p>【第7回】 デリバティブ取引1(取引の歴史・古代ギリシア) 現物取引、先物取引</p> <p>【第8回】 デリバティブ取引2(大阪米穀取引所等) 本格的デリバティブ取引の登場</p> <p>【第9回】 ディスクロージャーと監査制度、銀行の会計帳簿 複式簿記</p> <p>【第10回】 中央銀行デジタル通貨(CBDC) 暗号資産(BITCOIN 他)</p> <p>【第11回】 多様な金融取引(FX取引、投資信託) 投資、投機(ギャンブル)</p> <p>【第12回】 コンプライアンスとマネーロンダリング コンプライアンスの意義とターゲット</p> <p>【第13回】 金融ADR 金融取引の苦情仲介処理</p>						
成績評価の方法	基本的に期末試験(レポート)の成績に基づいて評価する(80%)。加えて、授業への取り組み姿勢(質問、意見など)を考慮する(20%)。						
フィードバックの内容	授業内容の確認、意見、疑問等について、次回、ないしまとめて適時解説する。						
教科書	『アメリカ銀行法』川口恭弘(弘文堂)2020、『金融商品取引法入門第8版』黒沼悦郎(日経)2021						
指定図書	『仮想通貨法の仕組みと実務』畠山久志(日本加除出版)2018、『銀行法精義』小山嘉昭(キンザイ)2018、『デジタル化社会における新しい財産的価値と信託』畠山久志(商事法務)2022、『金融商品取引法』畠山久志(地域金融研究所)2014						
参考書							
教員からのお知らせ	基本的にPDFのスライドを用いて解説をしていきます。スライドはポータルサイトに掲示します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、各授業の終わりに教室で受け付けます。						
アクティベーションの内容	金融に関する情報は沢山あります。関心のあった事項をまとめ、授業で確認してください。また、確認に係る意見等を表明させ共有する。						
実践的な教育内容 その他							

講義コード	11C0111401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	林 康史	開講期	第1期
科目名	金融論 1								
履修前条件					備考				
授業の目的	金融市場で「何が起きているか」を念頭に置き、また、FPの視座も取り込みながら、金融の基礎からデリバティブ（派生商品）までを講義する。マーケットを知るために外国為替の模擬取引等も実施する。金融は経済の基礎であり、経済の理解には不可欠である。金融の能力が不足していれば、一流のビジネスパーソンになれないばかりか、個人生活にも支障をきたす。経済学（証券論、商品論、FP等の関連科目）の基本を理解する。								
到達目標	金融システム・市場、金融機関、金融商品（デリバティブ含む）の基本的知識は理解し、説明でき、活用できる（例えば、利回り計算は自在にできる）。また、マーケット感覚もある程度身につけており、行動経済学の知見もあり、リスクを検討できる。パーソナルファイナンスにも役立つ金融ケイパビリティの基礎を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間には、指示した資料の視聴、読解、課題の考察等を行う（理解が困難なところは、繰り返し学習のこと）。13回2単位の本科目の授業外学修時間は60時間である。反転授業の形式を取り入れる場合があることにも留意されたい。								
授業計画	<p>授業回数ごとに、授業前あるいは後に、オンデマンド資料等での学習が求められる（一部、「反転授業」の形式で行うことがある。対面授業はQ&Aから始まることもある）。</p> <p>金融の基礎知識～金融とは、貨幣とは、市場とは</p> <p>【第1回】ガイダンス【授業についての説明を行う。必ず出席のこと】 金融とは、企業研究について、PFの考え方、等々 外国為替相場のシミュレーション・ゲーム（模擬取引）①</p> <p>【第2回】貨幣、決済システム 外国為替相場のシミュレーション・ゲーム（模擬取引）②</p> <p>【第3回】金融市場（含、外国為替市場） 外国為替相場のシミュレーション・ゲーム（模擬取引）③</p> <p>【第4回】外国為替相場のシミュレーション・ゲーム（模擬取引）④ 金融機関</p> <p>【第5回】金融機関の区分と種類（直接金融と間接金融） 金融仲介機関①～銀行、預金取扱機関（信用創造）</p> <p>【第6回】金融仲介機関②～保険、その他 金融仲介機関以外の金融機関～証券、その他 中央銀行</p> <p>【第7回】日本銀行の目的と役割</p> <p>【第8回】金融政策（その他、マクロ経済安定化政策） 金利</p> <p>【第9回】金利とは</p> <p>【第10回】金利の期間構造</p> <p>【第11回】金利と債券（リターン）の計算</p> <p>【第12回】金利とマクロ経済 総括</p> <p>【第13回】第1期の総括</p> <p>※ 企業研究（金融教育の一環であるキャリア教育＜就職支援＞も兼ねる。アプリを活用。第2期も継続して行う予定）等々、適宜、現場経験の豊富なゲストスピーカーによる講義も行いたい。 金融論1と金融論2は同じ年度での履修を勧める（効率よく学ぶこと）。 なお、これらの講義・学習は、オンデマンドの資料による場合がある。</p>								
成績評価の方法	期末試験（40％）・確認テスト（30％）・レポート（20％）・授業への取り組み姿勢（10％）で、総合的に評価する（期末試験は定期期間中に行うか、第13回に行うかは未定＜授業の進捗状況による＞）。企業研究についてのレポート等の提出は、希望者のみの任意の予定であるが、成績評価には加算の予定である。								
フィードバックの内容	授業時に質問を受け、応答する。また、適宜、「Q&A」等を掲示する。								
教科書	『金融論15講』林康史（新世社）2025年（近刊）、『はじめてのPF／やりなおしの金融論』林康史（中央経済社）2025年（近刊）								
指定図書									
参考書	『株式投資 第6版』J.シーゲル（日経BP社）2025年、『改定版 金持ち父さんの投資ガイド 入門編』ロバート・キヨサキ他（筑摩書房）2014年、『改定版 金持ち父さんの投資ガイド 上級編』ロバート・キヨサキ他（筑摩書房）2014年								
教員からのお知らせ	“金融”を学ぶ必要性を自覚して受講すること。 6割以上の出席が求められる（6割未満の場合は、成績対象外となる場合がある）。 オンデマンドの資料についてもノートを作成する等の対応が求められる。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時、また、メール等（hotmail）で受付ける。オフィスアワー時の訪問は事前に連絡のこと。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容	本講義は、銀行・証券・保険（金融三業態）、メーカーでの実務経験がある専任教員による授業である。								
その他	反転授業の形式を一部取り入れることもあり、ポータルに掲載の連絡事項の確認は欠かせないこと（事前にオンライン教材の視聴を行う等の指示があることがある）。								

講義コード	11C0111501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	林 康史	開講期	第2期
科目名	金融論2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融市場で「何が起きているか」を念頭に置き、また、FPの視座も取り込みながら、金融の基礎からデリバティブ（派生商品）までを講義する。マーケットを知るために外国為替の模擬取引等も実施する。金融は経済の基礎であり、経済の理解には不可欠である。金融の能力が不足していれば、一流のビジネスパーソンになれないばかりか、個人生活にも支障をきたす。経済学（証券論、商品論、FP等の関連科目）の基本を理解する。								
到達目標	金融システム・市場、金融機関、金融商品（デリバティブ含む）の基本的知識は理解し、説明でき、活用できる（例えば、利回り計算は自在にできる）。また、マーケット感覚もある程度身につけており、行動経済学の知見もあり、リスクを検討できる。パーソナルファイナンスにも役立つ金融ケイパビリティの基礎を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間には、指示した資料の視聴、読解、課題の考察等を行う（理解が困難なところは、繰り返し学習のこと）。13回2単位の本科目の授業外学修時間は60時間である。反転授業の形式を取り入れる場合があることにも留意されたい。								
授業計画	<p>授業回ごとに、授業前あるいは後に、オンデマンド資料等での学習が求められる（一部、「反転授業」の形式で行うことがある。対面授業はQ&Aから始まることもある）。</p> <p>第1期の授業の進捗を鑑み、順番の入れ替え等を行う可能性があるため、注意されたい。第1期の授業の内容は十分に復習しておいていただきたい。</p> <p>第1期の復習、金融市場、投資</p> <p>【第1回】ガイダンス【授業についての説明を行う。必ず出席のこと】 金融論1の復習</p> <p>【第2回】金融市場（含、商品市場、不動産市場） 外国為替の模擬取引【復習】</p> <p>【第3回】企業と株式（企業研究。アプリを活用）</p> <p>【第4回】投資と心理（行動ファイナンス概論） 金融デリバティブと証券化</p> <p>【第5回】証拠金取引、レバレッジ</p> <p>【第6回】金利スワップ・通貨スワップ</p> <p>【第7回】オプション、証券化</p> <p>【第8回】デリバティブの歴史（大阪堂島の米市場） マクロ経済と金融、金融規制</p> <p>【第9回】第二次世界大戦後の金融市場の歴史的展開</p> <p>【第10回】金融制度と金融規制 消費者・投資者保護 パーソナルファイナンスと金融ケイパビリティ</p> <p>【第11回】運用スタイル、ポートフォリオ構築の視点</p> <p>【第12回】ファンドマネジャーの仕事 年金 株式・債券・その他の市場（不動産等） 投資と投機、ほか 総括</p> <p>【第13回】第1期・第2期の総括</p> <p>※ 企業研究（第1期からの継続。アプリを利用）等々、適宜、現場経験の豊富なゲストスピーカーによる講義も行いたい。 金融論1と金融論2は同じ年度での履修を勧める（効率よく学ぶこと）。 なお、これらの講義・学習は、オンデマンドの資料による場合がある。</p>								
成績評価の方法	期末試験（40％）・確認テスト（30％）・レポート（20％）・授業への取り組み姿勢（10％）で、総合的に評価する（期末試験は定期期間中に行うか、第13回に行うかは未定＜授業の進捗状況による＞）。企業研究についてのレポート等の提出は、希望者のみの任意の予定であるが、成績評価には加算の予定である。								
フィードバックの内容	授業時に質問を受け、応答する。また、適宜、「Q&A」等を掲示する。								
教科書	『金融論15講』林康史（新世社）2025年（近刊）、『はじめてのPF／やりなおしの金融論』林康史（中央経済社）2025年（近刊）								
指定図書									
参考書	『株式投資 第6版』J.シーゲル（日経BP社）2025年、『改定版 金持ち父さんの投資ガイド 入門編』ロバート・キヨサキ他（筑摩書房）2014年、『改定版 金持ち父さんの投資ガイド 上級編』ロバート・キヨサキ他（筑摩書房）2014年								
教員からのお知らせ	“金融”を学ぶ必要性を自覚して受講すること。 6割以上の出席が求められる（6割未満の場合は、成績対象外となる場合がある）。 オンデマンドの資料についてもノートを作成する等の対応が求められる。 金融論1の授業内容を理解したうえで受講することが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時、また、メール等（hotmail）で受付ける。オフィスアワー時の訪問は事前に連絡のこと。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容	本講義は、銀行・証券・保険（金融三業態）、メーカーでの実務経験がある専任教員による授業である。								
その他	反転授業の形式を一部取り入れることもあり、ポータルに掲載の連絡事項の確認は欠かせないこと（事前にオンライン教材の視聴を行う等の指示があることがある）。								

講義コード	11C3115201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	金融論基礎					林 康史		第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	金融論は経済学の基礎であり、応用分野である。金融と経済の基礎である貨幣は、近時、暗号資産が登場し、レスキャッシュ化が進む等、改めて検討が必要となっている。また、金融の理解には現実の金融市場を知る必要がある。一方、金融論等の授業で学ばなければならないことは多く、「貨幣とは何か」「金融市場とは何か」を十分に議論する時間はあまりない。 この授業は、金融と金融市場を学ぶ視点の獲得を目的とする。								
到達目標	貨幣にもさまざまな性格や役割があり、現在の貨幣のありかた・問題点、等々を理解する。また、単なる金融知識（リテラシー）の習得にとどまらず、さまざまな金融市場の構造を把握する力を養成し、経済事象を洞察する思考を身につけ、金融を使いこなす能力（ケイパビリティ）を獲得する契機とすることを目指す。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間には、指示した資料の視聴、読解、課題の考察等を行う（理解が困難なところは、繰り返し学習のこと）。13回2単位の本科目の授業外学修時間は60時間である。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス ～ マネーとは何か、市場とは何か 【第2回】 金融市場 概観、外為ディーラーの仕事 【第3回】 シミュレーションゲーム（外国為替の模擬取引）① 【第4回】 シミュレーションゲーム② 【第5回】 ゲストスピーカー（外国為替） 【第6回】 貨幣とは何か① 【第7回】 貨幣とは何か② 【第8回】 日本銀行貨幣博物館見学、または、ドル円相場予測①（予定） 【第9回】 東京証券取引所見学、または、ドル円相場予測②（予定） 【第10回】 東京商品取引所見学、または、ドル円相場予測③（予定） 【第11回】 ゲストスピーカー（商品） 【第12回】 デリバティブの歴史（米会所） 【第13回】 総括</p> <p>※ 講義の順番は、見学先等々と調整しながら行うため、変更の可能性はある（見学が座学になることもある）。 ※ 和銅遺跡（埼玉県）見学等を考えているが、諸般の事情により、実施できない可能性もある。</p>								
成績評価の方法	レポート（50%）、確認テスト（30%）、授業への取り組み姿勢（20%）等を総合的に評価（予定）。								
フィードバックの内容	授業時に質問を受け、応答する。また、適宜、「Q&A」等を掲示する。								
教科書	特に指定しない								
指定図書	『円・ドル相場の変動を読む』林康史（東洋経済新報社）1991年、『相場としての外国為替』林康史（東洋経済新報社）1993年、『為替ディーラーの常識非常識』林康史監修（中央経済社）1995年、『市場の法文化』林康史ほか（国際書院）2003年、『マネーの公理——スイスの銀行家に学ぶ儲けのルール』マックス・ギュンター（日経BP社）2005年、『ネゴシエーション——交渉の法文化』林康史編（国際書院）2009年、『欲望と幻想のドル』クレイグ・カーミン（日本経済新聞出版社）2010年、『改定版 基礎から学ぶ デイトレード——マーケットを理解するための思考術』林康史（日経BP社）2013年、『貨幣と通貨の法文化』林康史編（国際書院）2016年								
参考書	『欲望と幻想の市場～伝説の投機王リバモア』エドウィン・ルフェーブル（東洋経済新報社）1999年、『「儲かる人」への59の質問 マネーの心理』林康史編（三笠書房）2006年、『改定版 金持ち父さんの投資ガイド 入門編』ロバート・キヨサキ他（筑摩書房）2014年、『改定版 金持ち父さんの投資ガイド 上級編』ロバート・キヨサキ他（筑摩書房）2014年								
教員からのお知らせ	“金融”を学ぶ必要性を自覚して受講すること。 6割以上の出席が求められる（共同作業もあり、遅刻・欠席は他の受講生の迷惑となる）。 オンデマンドについてもノート作成（レポート作成）等が求められる。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時、また、メール等（hotmail）で受付ける。オフィスアワー時の訪問は事前に連絡のこと。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容	本講義は、銀行・証券・保険（金融三業態）、メーカーでの実務経験がある専任教員による授業である。								
その他	反転授業の形式を一部取り入れることもあり、ポータルに掲載の連絡事項の確認は欠かせないこと（事前にオンライン教材の視聴を行う等の指示があることがある）。								

講義コード	11C0106301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	マイケル クボ	開講期	第1期
科目名	グローバルイシューズ1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	This lecture is about the global challenges all countries must face. We will study global issues related to Education, Economics, Environment, etc. More specifically, we will learn about some amazing people who are trying to make our world a better place. Moreover, students of this lecture will be challenged to find ways to make our world a better place, too.								
到達目標	Students of this lecture class will learn about Global Issues in simple English. This lecture is taught mostly in English. (There is some Japanese support.) Students who attend this class regularly will improve their English Listening (TOEIC), and they will learn more about the world. Global Issues students will be encouraged to contribute to the entire class by asking questions and/or making comments. This is a fun, friendly and eye-opening class.								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Introduction of lecturer & lecture - Thinking & talking about Global Issues 1 /A 【第2回】 Education Issues/ Sir. Ken Robinson (UK) Part I 【第3回】 Education Issues/ Sir. Ken Robinson (UK) Part II 【第4回】 Education Issues Summary - Quiz 【第5回】 Economic Issues/Prof. Muhammad Yunus (Bangladesh) Part I 【第6回】 Economic Issues/Prof. Muhammad Yunus (Bangladesh) Part II 【第7回】 Economic Issues Summary - Quiz 【第8回】 Environment Issues/ Mr. Al Gore (USA), Dr. David Suzuki (Canada) Part I 【第9回】 Environment Issues/ Mr. Al Gore (USA), Dr. David Suzuki (Canada) Part II 【第10回】 Environment Issues Summary - Quiz 【第11回】 Overview of Education, Economic & Environment Issues 【第12回】 Overview of Education, Economic & Environment Issues (Day 2) 【第13回】 Test or Student Presentation, or Report *Content may change depending on general English level of the class.								
成績評価の方法	tests and/or presentations: 30%, participation: 30%, attitude: 30%, homework: 10%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0106401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	マイケル クボ	開講期	第2期
科目名	グローバルイシューズ2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	This lecture is about the global challenges all countries must face. We will study global issues related to Fair Trade, the Global Water Crisis, Food & Health, and Energy. We will watch some amazing video documentaries that help illustrate these Global Issues. Students of this lecture will be challenged to find ways to make our world a better place, too.								
到達目標	Students of this lecture class will learn about Global Issues in simple English. This lecture is taught mostly in English. (There is some Japanese support.) Students who attend this class regularly will improve their English Listening (TOEIC), and they will learn more about the world. Global Issues students will be encouraged to contribute to the entire class by asking questions and/or making comments. This is a fun, friendly and eye-opening class.								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Introduction of lecturer & lecture - Thinking & talking about Global Issues 2 /B 【第2回】 Issue 1 : Fair Trade - Documentary film - Part I 【第3回】 Issue 1 : Fair Trade - Documentary film - Part 2 【第4回】 Issue 1 : Fair Trade - Quiz 【第5回】 Issue 2 : Global Water Crisis - Documentary film - Part I 【第6回】 Issue 2 : Global Water Crisis - Documentary film - Part 2 【第7回】 Issue 2 : Global Water Crisis - Quiz 【第8回】 Issue 3 : Food & Health - Documentary film - Part I 【第9回】 Issue 3 : Food & Health - Documentary film - Part 2 【第10回】 Issue 3 : Food & Health - Quiz 【第11回】 Overview of Fair Trade, Global Water Crisis & Food & Health Issues 【第12回】 Special Lecture (to be announced) 【第13回】 Test or Student Presentation, or Report * The lesson plan may change depending on the general English level of the class.								
成績評価の方法	tests or presentations: 30%, participation: 30%, attitude: 30%, homework: 10%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)。								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0117901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	グローバル産業論 1				芹田 浩司		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	現代の企業活動はグローバル化しており、それは伝統的な経済学の枠組みでは捉えにくくなっている側面がある。本授業は、こうした現代のグローバルな企業活動および産業のあり方、そしてそれらを巡る経済・社会問題等について、理論面での理解を深めるとともに、個々の主要な企業や産業の事例を基に、実態（実証）的な側面についても詳しく押さえることを主な目的とする。								
到達目標	製造業分野をはじめとする現代産業のあり方や諸問題、またその産業内で活動する企業の戦略等について詳しく学ぶことを通じて、理論（分析枠組）面での新たな理解や、世界の産業（経済）についての知見が深められ、社会人になってからも役に立つビジネス等に関する知識を身に付けられるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	テキスト（配布プリント）については毎回復習してくること（分からない用語や概念等についてはそのままにせず、自分でも積極的に調べること）。また企業・産業面を中心に新聞にも目を通して頂くこと。なお、授業外学修時間については60時間以上とする。								
授業計画	【第1回】 産業とは何か～産業分類等について 【第2回】 産業連関の概念等について（産業連関と経済発展） 【第3回】 個別企業・産業研究1（台湾の半導体産業1） 【第4回】 個別企業・産業研究2（台湾の半導体産業2） 【第5回】 グローバル・バリュー・チェーン（GVC）という考え方（1） 【第6回】 グローバル・バリュー・チェーン（GVC）という考え方（2） 【第7回】 GVCの編成と付加価値の分配問題（スマイルカーブの議論等） 【第8回】 現代の先進国・発展途上国間の国際分業関係～GVCアプローチの視点から 【第9回】 これまでの復習・まとめ（小テスト予定） 【第10回】 産業のアップグレーディング問題（1） 【第11回】 産業のアップグレーディング問題（2） 【第12回】 個別企業・産業研究3 【第13回】 総復習・質問受け付け等								
成績評価の方法	基本的には期末試験の成績（100%）による〔但し、課題の提出（その内容も含む）を（若干の）加点対象とする場合がある。詳細についてはガイダンスや授業時などに適宜説明する。〕								
フィードバックの内容	小テスト（授業内課題）等で解答提示・解説が必要な場合においては基本的に次の授業時においてフィードバックする予定である。								
教科書									
指定図書									
参考書	『新地域産業論』伊藤正昭（学文社）2011、『多国籍企業と新地域産業論新興国市場』多国籍企業学会（文真堂）2012、『多国籍企業のグローバル価値連鎖』瀬藤澄彦（中央経済社）2014、『グローバルプレッシャー下の日本の産業集積』伊東維年，山本健兒，柳井雅也（編著）（日本経済評論社）2014、『新興国市場の特質と新たなBOP戦略：開発経営学を目指して』林 偉史（文真堂）2016、『グローバル経営史－国境を越える産業ダイナミズム』橘川武郎，黒澤隆文，西村成弘（編）（名古屋大学出版会）2016								
教員からのお知らせ	基本的に教科書は用いず、配布プリントを基に進める予定です。その他の参考書等については授業中に適宜、紹介します。また授業の進行上、上記計画については順序の入れ替えや変更等の可能性があります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0118001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	グローバル産業論2				芹田 浩司		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	現代の企業活動はグローバル化しており、それは伝統的な経済学の枠組みでは捉えにくくなっている側面がある。本授業は、こうした現代のグローバルな企業活動および産業のあり方、そしてそれらを巡る経済・社会問題等について、理論面での理解を深めるとともに、個々の主要な企業や産業の事例を基に、実態（実証）的な側面についても詳しく押さえることを主な目的とする。								
到達目標	製造業分野をはじめとする現代産業のあり方や諸問題、またその産業内で活動する企業の戦略等について詳しく学ぶことを通じて、理論（分析枠組）面での新たな理解や、世界の産業（経済）についての知見が深められ、社会人になってからも役に立つビジネス等に関する知識を身に付けられるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	テキスト（配布プリント）については毎回復習してくること（分からない用語や概念等についてはそのままにせず、自分でも積極的に調べること）。また企業・産業面を中心に新聞にも目を通してもらうこと。なお、授業外学修時間については60時間以上とする。								
授業計画	【第1回】 GVC（グローバル・バリュー・チェーン）の基本的概念及び産業アップグレード 【第2回】 産業グローバル化はいかにして可能になるのか？（ハイマーの「優位性」の命題） 【第3回】 何故、組み立て工程は発展途上国に移転するのか？（プロダクト・サイクル理論の検討） 【第4回】 優位性の適用と適応問題 - 日本型生産・経営システムの事例を中心に 【第5回】 グローバリゼーションと産業クラスター（1） 【第6回】 グローバリゼーションと産業クラスター（2） 【第7回】 これまでの復習・まとめ（小テスト予定） 【第8回】 個別産業・企業研究1 【第9回】 個別国家の経済・社会に対する経済グローバル化の影響に関する諸議論 【第10回】 個別産業・企業研究2 【第11回】 世界の工場・中国とグローバル企業（1） 【第12回】 世界の工場・中国とグローバル企業（2） 【第13回】 総復習・質問受け付け等								
成績評価の方法	基本的には期末試験の成績（100%）による〔但し、課題の提出（その内容も含む）を（若干の）加点対象とする場合がある。詳細についてはガイダンスや授業時などに適宜説明する。〕								
フィードバックの内容	小テスト（授業内課題）等で解答提示・解説が必要な場合においては基本的に次の授業時においてフィードバックする予定である。								
教科書									
指定図書									
参考書	『新地域産業論』伊藤正昭（学文社）2011、『多国籍企業と新地域産業論新興国市場』多国籍企業学会（文真堂）2012、『多国籍企業のグローバル価値連鎖』瀬藤澄彦（中央経済社）2014、『グローバルプレッシャー下の日本の産業集積』伊東維年，山本健兒，柳井雅也（編著）（日本経済評論社）2014、『新興国市場の特質と新たなBOP戦略：開発経営学を目指して』林 偉史（文真堂）2016、『グローバル経営史－国境を越える産業ダイナミズム』橘川武郎，黒澤隆文，西村成弘（編）（名古屋大学出版会）2016								
教員からのお知らせ	基本的に教科書は用いず、配布プリントを基に進める予定です。その他の参考書等については授業中に適宜、紹介します。また授業の進行上、上記計画については順序の入れ替えや変更等の可能性があります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0123401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経営学				佐藤 一義		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代社会における経済主体としての企業（経営組織）において、労働（仕事）と労働者（人間）の管理（マネジメント）の役割が注目されたのは、おおよそ1世紀ほど前であった。今日にいたるまで、マネジメントにおける実に多様な研究成果が得られてきた。本講義ではこうした研究の変遷を追いながら、今後、企業社会で活動をする人にとって基本的な知識を提供することを本講義の目的とする。								
到達目標	企業活動に関する基礎的知識が理解できることと、経営に関する基礎理論や基礎概念について理解できること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の理解を深めるために、毎回予習2時間・復習2時間、年間計60時間以上の授業外学修が必要である。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス 【第2回】 企業活動の本質 【第3回】 人的資源と労働力 【第4回】 マネジメントの基本 【第5回】 モチベーション1：概念と基礎理論 【第6回】 モチベーション2：企業的人間的側面 【第7回】 モチベーション3：達成動機と経済 【第8回】 リーダーシップ1：経営における位置づけ 【第9回】 リーダーシップ2：行動・類型論 【第10回】 リーダーシップ3：状況論 【第11回】 意思決定論の基礎概念 【第12回】 意思決定論と経営 【第13回】 経営戦略の概念 								
成績評価の方法	期末試験（85％）の結果を評価します。ただし、授業態度も成績評価（15％）に考慮します。								
フィードバックの内容									
教科書	『現代社会の経営学』 舛富順久（学文社）1999								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	授業終了後、質問等を受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0121201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	景気循環論1				中村 宗之		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	景気循環に関する理論や政策、各国の景気循環の歴史を説明する。								
到達目標	景気循環に関する理論や政策、各国の景気循環の歴史が説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業内容の予習や復習を行う。新聞などにより景気の現状や経済問題を把握する。これらにより、60時間以上の授業外学修を行う。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 景気循環とマルクス経済学 【第2回】 景気循環に関する学説（1） 【第3回】 景気循環に関する学説（2） 【第4回】 資本蓄積 【第5回】 好況期 【第6回】 好況末期 【第7回】 恐慌 【第8回】 不況期 【第9回】 19世紀イギリスの景気循環（1） 【第10回】 19世紀イギリスの景気循環（2） 【第11回】 1930年代の世界大恐慌（1） 【第12回】 1930年代の世界大恐慌（2） 【第13回】 まとめ 								
成績評価の方法	授業内課題レポート（30％）、期末試験（70％）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回の課題に対するフィードバックを、翌週以降の授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『第3版 現代経済の解説』 SGCIME 編（御茶の水書房）2017年、『グローバル資本主義と景気循環』 SGCIME 編（御茶の水書房）2008年、『経済原論：基礎と演習』 小幡道昭（東京大学出版会）2009年、『基礎からわかる経済変動論』 関根順一（中央経済社）2011年								
教員からのお知らせ	講義資料は Teams 等にアップロードします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0121301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	景気循環論2				中村 宗之		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	景気循環に関する理論や政策、各国の景気循環の歴史を説明する。								
到達目標	景気循環に関する理論や政策、各国の景気循環の歴史が説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業内容の予習や復習を行う。新聞などにより景気の現状や経済問題を把握する。これらにより、60時間以上の授業外学修を行う。								
授業計画	【第1回】1990年代以降のアメリカの景気循環（1） 【第2回】1990年代以降のアメリカの景気循環（2） 【第3回】1990年代以降のアメリカの景気循環（3） 【第4回】EU諸国の景気循環（1） 【第5回】EU諸国の景気循環（2） 【第6回】EU諸国の景気循環（3） 【第7回】日本の景気循環（1） 【第8回】日本の景気循環（2） 【第9回】日本の景気循環（3） 【第10回】景気の現状 【第11回】経済成長の検討（1） 【第12回】経済成長の検討（2） 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	授業内課題レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回の課題に対するフィードバックを、翌週以降の授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『第3版 現代経済の解説』SGCIME編（御茶の水書房）2017年、『グローバル資本主義と景気循環』SGCIME編（御茶の水書房）2008年、『経済原論：基礎と演習』小幡道昭（東京大学出版会）2009年、『基礎からわかる経済変動論』関根順一（中央経済社）2011年								
教員からのお知らせ	講義資料は Teams 等にアップロードします。景気循環論1を履修済みであることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
その他									

講義コード	11C0111001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済学史 1				小沢 佳史		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	現在の経済学は、大まかに言って、近代経済学（ミクロ経済学およびマクロ経済学）とマルクス経済学に分けられる。この授業の目的は、経済学がこのような現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学に関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、古代から19世紀前半までの経済学の歴史を講義する。								
到達目標	1. 現在の経済学（ミクロ経済学やマクロ経済学など）が誕生するまでのプロセスを、古典に基づいて説明できる。 2. 現在の経済学についてこれまでに学修してきた概念や理論をめぐり、それらの関係や背景を説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、配付資料やいずれかの指定図書 の該当箇所を目を通し、各回の授業の後に、ノートや配付資料を何回もじっくりと読み込むこと。また授業で課された小問 にきちんと取り組むこと。								
授業計画	【第1回】 経済学の現在の姿とこれまでの歩み 【第2回】 古代および中世における経済学の姿——アリストテレス（学派）と T. アクィナス 【第3回】 政治算術——W. ベティ 【第4回】 重商主義①——T. マン 【第5回】 重商主義②——J. ステュアート 【第6回】 重農主義——F. ケネー 【第7回】 古典派経済学①——A. スミスの経済理論 【第8回】 古典派経済学②——A. スミスの政策提言 【第9回】 古典派経済学③——D. リカードウの経済理論 【第10回】 古典派経済学④——D. リカードウの政策提言 【第11回】 古典派経済学⑤——J. S. ミル 【第12回】 19世紀前半における古典派経済学への異議①——T. R. マルサス 【第13回】 19世紀前半における古典派経済学への異議②——F. リスト								
成績評価の方法	授業で課した小問（40%）と、期末試験（60%）によって評価する。到達目標に記載された内容について、基本的な事項を 正確に把握して古典を熟読した上で自分の言葉で説明できることを、小問と期末試験の評価基準とする。								
フィードバックの内容	小問に対する講評を、翌週の授業内冒頭にて行う。								
教科書									
指定図書	『若い読者のための経済学史』 ナイアル・キシテイニー 著；月沢李歌子 訳（すばる舎）2018、『入門経済思想史 世俗の思想家たち』 ロバート・L. ハイルブローナー 著；八木甫 [ほか] 訳（筑摩書房）2001、『経済学からなにを学ぶか——その500年の歩み』 伊藤誠 著（平凡社）2015、『学ぶほどおもしろい 経済学史』 木村雄一、瀬尾崇、益永淳 著（晃洋書房）2022、『経済学史』 小峯敦 著（ミネルヴァ書房）2021、『経済学の歴史——市場経済を読み解く』 中村達也、八木紀一郎、新村聡、井上義朗 著（有斐閣）2001、『経済学史』 馬渡尚憲 著（有斐閣）1997、『経済学史への招待』 柳沢哲哉 著（社会評論社）2018、『経済思想』 猪木武徳 著（岩波書店）2017、『経済学史入門——経済学方法論からのアプローチ』 久保真、中澤信彦 編（昭和堂）2023								
参考書	『経済学のこぼれ』 根井雅弘 著（講談社）2004、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』 アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『有斐閣経済辞典 第5版』 金森久雄、荒憲治郎、森口親司 編（有斐閣）2013								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0111101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期		
科目名	経済学史2				小沢 佳史			第2期		
履修前条件					備考					
授業の目的	現在の経済学は、大まかに言って、近代経済学（ミクロ経済学およびマクロ経済学）とマルクス経済学に分けられる。この授業の目的は、経済学がこのような現在の姿をとるに至った過程——経済学の歴史——を理解すること、そしてそれを通じて現在の経済学に関する理解をさらに深めることである。そのためにこの授業では、主に19世紀後半から現代までの経済学の歴史を講義する。									
到達目標	1. 現在の経済学（ミクロ経済学やマクロ経済学など）が誕生するまでのプロセスを、古典に基づいて説明できる。 2. 現在の経済学についてこれまでに学修してきた概念や理論をめぐり、それらの関係や背景を説明できる。									
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の授業の前に、配付資料やいずれかの指定図書 の該当箇所を目を通し、各回の授業の後に、ノートや配付資料を何回もじっくりと読み込むこと。また授業で課された小問 にきちんと取り組むこと。									
授業計画	【第1回】経済学の現在の姿と、古代から19世紀前半までの歩み 【第2回】マルクス経済学①——K. マルクスの唯物史観（史的唯物論） 【第3回】マルクス経済学②——K. マルクスの剰余価値論 【第4回】マルクス経済学③——K. マルクスの資本蓄積論 【第5回】古典派経済学から近代経済学へ——3つの革命 【第6回】ミクロ（新古典派）経済学①——W. S. ジェヴオンズ 【第7回】ミクロ（新古典派）経済学②——C. メンガー 【第8回】ミクロ（新古典派）経済学③——L. ワルラス 【第9回】ミクロ（新古典派）経済学④——A. マーシャル 【第10回】マクロ経済学①——J. M. ケインズの経済理論 【第11回】マクロ経済学②——J. M. ケインズの政策提言 【第12回】マクロ経済学③——P. A. サミュエルソンの新古典派総合 【第13回】マクロ経済学のミクロ的基礎付け（新しい古典派経済学）——M. フリードマンと R. ルーカス									
成績評価の方法	授業で課した小問（40%）と、期末試験（60%）によって評価する。到達目標に記載された内容について、基本的な事項を 正確に把握して古典を熟読した上で自分の言葉で説明できることを、小問と期末試験の評価基準とする。									
フィードバックの内容	小問に対する講評を、翌週の授業内冒頭で行う。									
教科書										
指定図書	『経済学史入門——経済学方法論からのアプローチ』久保真, 中澤信彦 編 (昭和堂) 2023、『学ぶほどおもしろい 経済学史』 木村雄一, 瀬尾崇, 益永淳 著 (晃洋書房) 2022、『経済学史』小峯敦 著 (ミネルヴァ書房) 2021、『経済学史への招待』柳 沢哲哉 著 (社会評論社) 2018、『経済思想』猪木武徳 著 (岩波書店) 2017、『経済学からなにを学ぶか——その500年の歩み』 伊藤誠 著 (平凡社) 2015、『経済学の歴史——市場経済を読み解く』中村達也, 八木紀一郎, 新村聡, 井上義朗 著 (有斐閣) 2001、『経済学史』馬渡尚憲 著 (有斐閣) 1997、『若い読者のための経済学史』ナイアル・キシテイニー 著; 月沢李歌子 訳 (すばる舎) 2018、『入門経済思想史 世俗的思想家たち』ロバート・L. ハイブルローナー 著; 八木甫 [ほか] 訳 (筑摩書房) 2001									
参考書	『経済学のことば』根井雅弘 著 (講談社) 2004、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー, トニー・ウィリアムズ 著; 松尾恭子 訳 (原書房) 2013、『有斐閣経済辞典 第5版』金森久雄, 荒憲治郎, 森口親司 編 (有 斐閣) 2013									
教員からのお知らせ										
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない 範囲で教室内でも対応する。									
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。									
実践的な教育内容										
その他										

講義コード	11C0110301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	平 伊佐雄	開講期	第2期
科目名	経済史1A／経済史A				平 伊佐雄			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義は、人びとの経済活動の歴史を時代や環境、人間社会のあり方から探り、解説することを目的とする。								
到達目標	過去にあった出来事が、現在の社会の仕組みとどのように関連しているのか（連続があるのか、また、変化したり、断絶しているかなど）を考察し、その現代的意義を説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の講義を受講するにあたり、各自、授業外学修として合計60時間以上、予習と講義後の復習をネット配信しているテキスト・資料、または参考書として上げている文献などを利用して行うこと。								
授業計画	【第1回】 経済史研究の視角と方法 【第2回】 経済史研究の歴史 【第3回】 交換と贈与 【第4回】 境界、市場－異人論再考－ 【第5回】 アジュール・縁・無縁 【第6回】 人の暮らしと河川－境界論再考－ 【第7回】 砂糖の伝搬 【第8回】 塩と人間 【第9回】 個と自由 【第10回】 銀で結ばれた世界 【第11回】 金融取引の知恵 【第12回】 身分制社会における人々と社会変化 【第13回】 バブルの経験								
成績評価の方法	講義（期間）中の小テストの評点（全体の50%）と定期試験の評点（全体の50%）をもって評価する（全体で100%）。								
フィードバックの内容	講義中に学生に発言を求めることがあり、その対応や学生からの質問への回答、講義中に学生に課した小テストについて講評、解説を行う。								
教科書									
指定図書	『贈与論』モース（岩波書店）2014、『境界の発生』赤坂憲雄（講談社）2002、『異人論序説』赤坂憲雄（筑摩書房）1992、『異人論』小松和彦（筑摩書房）1995、『異人その他』大林太良（岩波書店）1994、『沈黙交易』グリアスン（ハーベスト社）1997、『西太平洋の遠洋航海者』マリノフスキ（講談社）2010、『森と川』池上俊一（刀水書房）2010、『武士の家計簿』磯田道史（新潮社）2003、『猪山直之日記』石崎建治（時鐘舎）2010								
参考書	『現代社会を考えるための経済史 第二版』高橋美由紀編著（創成社）2024								
教員からのお知らせ	講義の資料はネット上のフォルダーに格納しておきます。反転学習のための準備に利用してください（期間限定）。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーや e-mail にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	反転授業や学生が取り組んだ課題へのフィードバック、学生からの質問に対する回答、意見共有を行う。								
その他									

講義コード	11C0110302	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第2期
科目名	経済史1B／経済史B				高橋 美由紀			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	最近の経済史の動向を特に人口・環境・技術という視点を中心にひもといていく。現代の社会状況を考察する上での歴史の重要さは必要な知識として再認識される傾向にある。人口や家族などの変数は経済の成長や衰退に大きく関わっている。人口は経済発展にどのような影響を与えたのか。出生率や死亡率という人口学的変数も考察して、現代の人口問題にまで視点を広げていく。また、技術の問題についても取り上げる。								
到達目標	世界各地域の人口や家族の様子と経済の動きとを結びつけて説明が出来ること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指定した何冊かの文献を読むこと。また、Microsoft Teams のファイルに授業資料を提示するので、予習をしておくこと。全回で計60時間以上の授業外学修を必要とする。								
授業計画	【第1回】 経済史の見方： グローバルヒストリー、歴史における実験 【第2回】 人口と経済 【第3回】 世界の人口推移・家族 【第4回】 人口の変化から見る発展と衰退 【第5回】 環境の変化と経済の変化1 気温と飢饉 【第6回】 環境の変化と経済の変化2 植生と飢饉 【第7回】 環境の変化と経済の変化3 災害・疫病 【第8回】 預言獣と公害・環境問題 【第9回】 日本の人口推移と経済 【第10回】 地域の人口史 【第11回】 人口政策の歴史 【第12回】 Industrial Revolution vs Industrious Revolution 【第13回】 技術の歴史 ——身近なところから考えよう（鉛筆・ガラス）								
成績評価の方法	毎回の授業後におこなう Microsoft Forms のクイズ（60%）および学期末試験（40%）による。ただし、学期末試験が行えない場合は、Microsoft Forms のクイズを100%とする。								
フィードバックの内容	クイズの解答については翌週にコメントをおこなう。								
教科書	使用しない								
指定図書	『グローバル経済の誕生』K. ポメラント（筑摩書房）2013、『大分岐』K. ポメラント（名古屋大学出版会）2015、『人口の世界史』マッシモ リヴィーバッチ（藤原書店）2014、『歴史人口学の世界』速水融（岩波書店）2012、『世界経済史概観』アンガス・マディソン（岩波書店）2015、『世界の多様性 家族構造と近代性』エマニュエル・トッド（藤原書店）2008、『グローバル・ヒストリー入門』水島 司（山川出版社）2010、『歴史は実験できるのか』ジャレド・ダイアモンド 他（慶應義塾大学出版界）2018								
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する場合がある。Microsoft Teams で Team を作るので、Team コード（53ioleb）を用いて、授業開始までにメンバー登録をすること。								
オフィスアワー	月曜2限。希望する場合は、必ず事前に連絡をすること。また、Microsoft Teams 内のチャット等でも随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	授業を受ける前に、Teams のファイルに提示しておく授業 PDF を読んでおき、その上で自分の分からないことを明確にして授業に臨むこと（反転授業）。								
その他	教科書は使用しないが、授業内で提示する参考文献も含めて学習して欲しい。								

講義コード	11C0110303	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第2期
科目名	経済史2				高橋 美由紀			第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義の目的は、人間がいかに動物を家畜化し、経済的利用をおこなってきたのかを理解することにある。主に対象とするのは牛馬である。牛馬は前近代社会における重要な生産要素であり、また労働との代替が「勤勉革命」として捕らえられる。牛馬の歴史および農業について、日本ばかりではなく、世界にも目を向けて人間の歴史とともに考えていく。また、歴史とともに変化する牛馬と日本社会との関係に関し馬の軍事利用にも言及する。								
到達目標	日本の経済社会が牛馬を中心とする家畜との関わりの中でどのような足跡をたどってきたのかを、世界の他の社会にも目を向けて理解し、その良い点と悪い点を把握し、自分なりの見解が述べられること。また、経済史において重要ないくつかの用語や、牛馬の時代とともに変遷する経済史的意義に関してきちんと説明ができること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	受講前に配布資料をダウンロードし、熟読し、分からない箇所は個人で調べておくこと。全回で計60時間以上の授業外学修をすること。								
授業計画	<p>【第1回】 経済史への様々なアプローチ 歴史人口学 (Historical Demography)</p> <p>【第2回】 農業革命 (Agricultural Revolution) および農業</p> <p>【第3回】 産業革命 (Industrial Revolution) と勤勉革命 (Industrious Revolution)</p> <p>【第4回】 生産要素としての家畜：牛馬の役割</p> <p>【第5回】 軍事と馬の役割 ヨーロッパ、中国、日本など</p> <p>【第6回】 遊牧民と牛馬</p> <p>【第7回】 農村と牛馬</p> <p>【第8回】 都市と牛馬</p> <p>【第9回】 輸送と牛馬</p> <p>【第10回】 人口と牛馬</p> <p>【第11回】 馬匹改良と経済</p> <p>【第12回】 明治期の産業と牛馬</p> <p>【第13回】 大正・昭和期の産業と牛馬 - 共進会 産業の変化と機械：家畜からロボットへ</p> <p>歴史的資料や英語文献も用いる。</p>								
成績評価の方法	毎回授業後に課す Microsoft Forms による小試験による (60%) および学期末試験 (40%)。ただし、学期末試験が行えない場合には、Microsoft Forms による小試験を100%とする。								
フィードバックの内容	小試験に関しては次週にコメントをおこなう。								
教科書	使用しない								
指定図書	『最初の近代経済－オランダ経済の成功・失敗と持続力 1500～1815』J・ド・フリース (著), A・ファン・デア・ワウデ (著), 大西 吉之 (翻訳), 杉浦 未樹 (翻訳) (名古屋大学出版会) 2009、『「馬」の文化と「船」の文化 新装版：古代日本の中国文化』福永 光司 (人文書院) 2018、『江戸の飛脚－人と馬による情報通信史』巻島 隆 (教育評論社) 2015、『経済社会の歴史』中西聡他 (名古屋大学出版会) 2017、『歴史人口学の世界』速水 融 (岩波書店) 2012、『馬・車輪・言語 (上)』デイヴィッド・W. アンソニー (著), 東郷 えりか (翻訳) (筑摩書房) 2018、『馬・車輪・言語 (下)』デイヴィッド・W. アンソニー (著), 東郷 えりか (翻訳) (筑摩書房) 2018、『The Horse in the City: Living Machines in the Nineteenth Century』Clay McShane (Johns Hopkins Univ Pr) 2011、『馬の世界史』本村 凌二 (中央公論新社) 2013、『馬と人の江戸時代』兼平 賢治 (吉川弘文館) 2015								
参考書	『馬・船・常民』網野 善彦 (著), 森 浩一 (著) (講談社) 1999								
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する場合があります。Microsoft Teams で Team を作るのので、Team コード (ha90meu) を用いて、授業開始までにメンバー登録をすること。								
オフィスアワー	月曜日 2 限。希望する場合には事前に必ず連絡すること。 また、Microsoft のチャット等で随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	授業前に資料を読んで確認し、講義内ではそれに沿って自己の疑問点を考えるという反転授業を取り入れている。								
実践的な教育内容									
その他	講義参加者の希望等によって、講義内容は若干変更することもある。								

講義コード	11C0110304	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期															
科目名	経済史3				平 伊佐雄		第2期																
履修前条件					備考																		
授業の目的	かつて、中世は暗黒の時代と呼ばれた。しかしながら、中世から近世にかけてのヨーロッパは、古代ギリシアやローマの文明を間接・直接に引き継ぎながら、東アジアや中東の文明も吸収し発展した。現在の私たちの経済活動の仕組みは、そのヨーロッパ中世の時代に培われ、変容してきたものに多くを負っている。本講義は、中世ヨーロッパに焦点を絞り、当時に生きた人々の経済活動と、その現代的意義を考察することを目的とする。																						
到達目標	ヨーロッパ中世の経済活動と現在の経済活動との関係性、連続性や断絶性、注目すべき出来事を説明できるようになる。																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の講義を受講するにあたり、各自、授業外学修として全体で計60時間以上、予習と講義後の復習をネット配信している教材、あるいは、指定図書、参考書として上げている文献などを利用して行うこと。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ヨーロッパ中世の時代とは？ －ヨーロッパ中世経済史研究の視角－</td> <td>【第8回】 中世都市の手工業者－ビール産業の特異性－</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 中世ヨーロッパ初期における経済活動</td> <td>【第9回】 中世都市の手工業－製造業の拠点－</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 中世ヨーロッパの東方と西方－植民都市－</td> <td>【第10回】 商業と金融業、利子・ウスラについて</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 定期市場の開催地としての都市</td> <td>【第11回】 イタリア商人の商業活動</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 ハンザ商人の世界－経済圏の拡大－</td> <td>【第12回】 イタリアの商社と金融業</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 チュートン騎士修道会の東方進出</td> <td>【第13回】 イタリア商人による保険業</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 チュートン騎士修道会のバルト海貿易</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ヨーロッパ中世の時代とは？ －ヨーロッパ中世経済史研究の視角－	【第8回】 中世都市の手工業者－ビール産業の特異性－	【第2回】 中世ヨーロッパ初期における経済活動	【第9回】 中世都市の手工業－製造業の拠点－	【第3回】 中世ヨーロッパの東方と西方－植民都市－	【第10回】 商業と金融業、利子・ウスラについて	【第4回】 定期市場の開催地としての都市	【第11回】 イタリア商人の商業活動	【第5回】 ハンザ商人の世界－経済圏の拡大－	【第12回】 イタリアの商社と金融業	【第6回】 チュートン騎士修道会の東方進出	【第13回】 イタリア商人による保険業	【第7回】 チュートン騎士修道会のバルト海貿易	
【第1回】 ヨーロッパ中世の時代とは？ －ヨーロッパ中世経済史研究の視角－	【第8回】 中世都市の手工業者－ビール産業の特異性－																						
【第2回】 中世ヨーロッパ初期における経済活動	【第9回】 中世都市の手工業－製造業の拠点－																						
【第3回】 中世ヨーロッパの東方と西方－植民都市－	【第10回】 商業と金融業、利子・ウスラについて																						
【第4回】 定期市場の開催地としての都市	【第11回】 イタリア商人の商業活動																						
【第5回】 ハンザ商人の世界－経済圏の拡大－	【第12回】 イタリアの商社と金融業																						
【第6回】 チュートン騎士修道会の東方進出	【第13回】 イタリア商人による保険業																						
【第7回】 チュートン騎士修道会のバルト海貿易																							
成績評価の方法	講義（期間）中に行う理解度確認課題の評価（50％）と定期試験の評価（50％）をもって評価（全体100％）する。																						
フィードバックの内容	講義中に学生に発言を求めることがあり、その対応や学生からの質問への回答、講義内での小テストの講評を行う。																						
教科書																							
指定図書	『図説中世ヨーロッパの暮らし』河原温、堀越宏一（河出書房新社）2015、『図説中世ヨーロッパの商人』菊池雄太（河出書房新社）2022、『中世の商業革命』ロバート・ロベス（法政大学出版局）2007、『ドイツ植民と東欧世界の形成』シャルル・イグネ（彩流社）1997、『ドイツ中世後期の世界』阿部謹也（未来社）1974、『イタリア都市社会史入門』斎藤他（昭和堂）2008、『中世後期イタリアの商業と都市』斎藤寛海（知泉書館）2002																						
参考書	『現代社会を考えるための経済史』高橋美由紀編著（創成社）2023																						
教員からのお知らせ	履修生は、ネット経由でダウンロード可能（期間限定）にしてある教材（参考文献を含む）を利用し、予習した上で講義に望むこと。また、講義内容と成績評価方法は、学生の受講態度や理解度に応じて変更があり得ます。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーや e-mail にて受付けます。																						
アクティブラーニングの内容	反転授業や講義中、学生に求める問いかけや小問へのフィードバック、講義内容への質問に対する回答、意見共有を行っている。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	経済史基礎			各担当教員		第1期
履修前提条件	備考					
授業の目的	現在は情報にあふれている。しかし、それらの情報は事実を反映しているのか、また、そもそも事実とは何なのか。情報に対する判断力を培っておかなければ、判断も不確かなものになる。歴史研究では証拠たる史料の正確性を判断しなければならない。本講義は、将来の動きを予測するためにも、現在との何らかの繋がりを有する過去を分析し、経済の動きの仕組みを歴史から学ぶことを目的とする。					
到達目標	世界のさまざまな地域の経済や社会が、どのような経緯をたどって今日の姿になったのかを理解し、歴史的視点から考察が出来るようになる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の講義を受講するにあたり、各自、予習として教科書の該当箇所をあらかじめ読んだり、復習として教科書に記載の「考えてみよう」について考察するなど、授業外学修を毎回（全回で60時間以上）行うこと。					
授業計画	<p>【第1回】 経済史では何を学ぶか&人口と経済 経済史を学ぶ意味、経済史研究の現状を考える。人口の理論、世界人口の変遷、歴史人口学を学ぶ</p> <p>【第2回】 農業と人びとの暮らし 農民の暮らしと農業技術、農業の発展と経済発展の関係を探る</p> <p>【第3回】 農村社会と都市社会 農村社会と都市社会の違い、ヨーロッパの都市の歴史を考える</p> <p>【第4回】 宗教と経済 宗教と経済活動、資本主義との関係を考える</p> <p>【第5回】 中国の経済と技術 中国の歴史、経済と思想、発明や技術を学ぶ</p> <p>【第6回】 貨幣の歴史 貨幣の歴史、貨幣とは何かを考える</p> <p>【第7回】 大航海時代 ヨーロッパとアジア、南北アメリカ大陸との繋がりを考える</p> <p>【第8回】 イギリス産業革命 イギリスにおける産業の変化、新エネルギーの展開について考える</p> <p>【第9回】 日本近世社会の発展から近代社会へ 日本近世の産業、開港による社会と経済の変化について学ぶ</p> <p>【第10回】 アメリカの発展 植民地時代以降のアメリカ合衆国の工業化、経済成長について学ぶ</p> <p>【第11回】 疾病と開発 疾病が国家や都市、社会に与えた影響について学ぶ</p> <p>【第12回】 資本主義と社会主義 資本主義社会と社会主義社会の特徴について考える</p> <p>【第13回】 戦争と技術発展、情報の発達と産業の変化——現代に生きる私たちの暮らし 技術の発展と兵器の開発、資源や食料問題、情報化と新産業の登場、これからの経済社会を考える</p>					
成績評価の方法	授業で課した小問（20％）と定期試験（80％）によって評価する。					
フィードバックの内容	講義中の小問の講評を行う。					
教科書	『現代社会を考えるための経済史 第二版』高橋美由紀編著（創成社）2024					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	テキストを利用します。指定図書・参考書、講義期間中に課す小問の回答方法については、第一回の授業の際に説明いたします。なお、回答方法は、クラスによって異なる場合があります。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスで行われています。オフィスアワー、あるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員にお問い合わせください。					
アクティブラーニングの内容	資料を前もって学生に提示して行わせる反転授業や講義中に課した問へのフィードバック、学生からの講義内容への質問に対する回答、意見共有も行っている。					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	11C0115801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	桐木 紳	開講期	第1期
科目名	経済数学1				桐木 紳		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、大学数学の基礎である線形代数の知識と計算力を身に付けることを主な目的とする。さらに、それらの知識を経済学の問題に応用出来ることも目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的思考を身に付ける。 ・ 線形代数の知識を身に付ける。 ・ 計算問題が解ける。 ・ 基本的な応用問題が解ける。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義では1年次必修科目「数学基礎」の内容を前提知識として扱う。「数学基礎」の単位がB以下だった者は本講義履修までに必ず「数学基礎」の内容を復習し理解してから本講義を履修すること。上記に記した授業外の学修は、60時間以上行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス（線形代数とはどのような学問か）</p> <p>【第2回】行列の定義・演算（行列の和、差、スカラー積、積、行列演算の性質）</p> <p>【第3回】行列演算の演習と解説</p> <p>【第4回】行列を用いた連立一次方程式の解法1（掃き出し法——解が一意に定まる場合——）</p> <p>【第5回】行列を用いた連立一次方程式の解法2（掃き出し法——解が一意に定まらない場合——）</p> <p>【第6回】掃き出し法を用いた連立一次方程式の演習と解説</p> <p>【第7回】行列を用いた連立一次方程式の解法3（逆行列を用いた解法）</p> <p>【第8回】行列を用いた連立一次方程式の解法4（行列式を用いた解法——クラメルの公式——）</p> <p>【第9回】逆行列とクラメルの公式を用いた連立一次方程式の演習</p> <p>【第10回】線形代数の応用</p> <p>【第11回】総復習</p> <p>【第12回】期末テスト</p> <p>【第13回】期末テストの解説</p>								
成績評価の方法	期末試験（80%）とレポート課題（20%）により評価する。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『明解演習 線形代数』小寺平治（共立出版）1982、『経済学と経済学に必要な数学がイッキにわかる』石川秀樹（学習研究社）2009、『経済数学15講』小林幹、吉田博之（新世社）2020								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談方法についてはガイダンスで指示します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0115901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	桐木 紳	開講期	第2期
科目名	経済数学2				桐木 紳		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、大学数学の基礎である微分と偏微分の知識と計算力を身に付けることを主な目的とする。さらに、それらの知識を経済学の問題に応用出来ることも目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的思考を身に付ける。 ・ 微分、偏微分の知識を身に付ける。 ・ 計算問題が解ける。 ・ 基本的な応用問題が解ける。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義では1年次必修科目「数学基礎」の内容を前提知識として扱う。「数学基礎」の単位がB以下だった者は本講義履修までに必ず「数学基礎」の内容を復習し理解してから本講義を履修すること。上記に記した授業外の学修は、60時間以上行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス（1年次数学基礎の復習）</p> <p>【第2回】微分1（極限、微分の定義、微分係数、導関数）</p> <p>【第3回】微分3（対数関数、指数関数に関する微分）</p> <p>【第4回】微分の演習と解説</p> <p>【第5回】微分4（微分を用いた極値問題とグラフのかき方）</p> <p>【第6回】極値問題、グラフのかき方の演習と解説</p> <p>【第7回】偏微分1（多変数関数、偏微分の定義と計算）</p> <p>【第8回】多変数関数、偏微分計算の演習と解説</p> <p>【第9回】偏微分2（多変数関数の極値問題）</p> <p>【第10回】偏微分3（多変数関数の制約条件付き極値問題——ラグランジュの未定乗数法——）</p> <p>【第11回】偏微分の演習</p> <p>【第12回】期末テスト</p> <p>【第13回】期末テストの解説</p>								
成績評価の方法	期末試験（80%）とレポート課題（20%）により評価する。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『明解演習 微分積分』小寺平治（共立出版）1984、『経済数学15講』小林幹、吉田博之（新世社）2020								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談方法についてはガイダンスで指示します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0111801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	王 ゼイ	開講期	第1期	
科目名	経済政策論1				王 ゼイ		第1期			
履修前提条件					備考					
授業の目的	経済政策とは、経済学の理論に基づき、様々な経済問題を是正・改善するための政策である。この講義は、経済政策を理解する上で必要なミクロ経済学を復習し、それを使って様々なミクロ経済政策を理解することを目的とする。具体的に、「補助金・税金」、「規制」、「外部性」、「不完全競争」といったミクロ経済政策のトピックを取り上げて紹介する。									
到達目標	受講生はこの講義を履修することを通じて、標準的な経済学理論を使って、ミクロ経済政策の仕組みを理解し、説明できることを到達目標とする。									
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、授業時間外に、60時間以上の学修を行うことを必須とする。配布された講義資料とミクロ経済学やマクロ経済学の教科書を参照しながら理解を深めて、各回の授業内容をしっかり予習・復習することは望ましい。なお、課題を出すことがあるので、必ず自分で考えて自力で解くようにしてください。									
授業計画	【第1回】経済政策の経済学基礎：市場と競争 【第2回】経済政策の経済学基礎：消費と生産 【第3回】経済政策の経済学基礎：需要と供給 【第4回】経済政策の経済学基礎：民間と政府 【第5回】完全競争市場と経済厚生： 経済余剰、競争均衡とパレート最適 【第6回】完全競争市場と経済厚生： 価格規制、課税・補助金と経済厚生 【第7回】市場の失敗と資源配分の効率化：不完全競争			【第8回】市場の失敗と資源配分の効率化：外部性 【第9回】市場の失敗と資源配分の効率化：公共財 【第10回】市場の失敗と資源配分の効率化：情報の不完全性 【第11回】生産要素市場と所得分配：労働需要と労働供給 【第12回】生産要素市場と所得分配：労働市場の均衡 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	課題（40%）と期末試験（60%）で評価する。									
フィードバックの内容	この科目では、授業連絡用の Microsoft チームが立ち上げられ、履修者全員にチームに参加していただくことになっている。チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前に Microsoft Outlook と Teams のアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック等はすべて Microsoft Teams を通じて行われる。									
教科書	『経済政策』横山将義（成文堂）2012年、『ゼミナール経済政策入門』岩田規久男、飯田泰之（日本経済新聞社）2006年									
参考書	『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第4版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年、『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編（第4版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年、『マンキュー入門経済学（第3版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年									
教員からのお知らせ	この科目は第2期の「経済政策論2」と合わせて履修することが望ましい。この科目では特定の教科書は使用せず、講義資料を配布し、その内容に沿ってパワーポイントと板書により、解説を行う。また、この科目の履修にあたって、ミクロ・マクロ経済学と経済数学関係の科目が履修済みであることは望ましい。質問・議論は大歓迎である。ぜひ経済政策の講義を通じて、経済学の魅力を感じてください。									
オフィスアワー	大学から付与された学籍番号付きの Microsoft 365のメールアドレスで予め教員と連絡してアポを取ってください。									
アクティブラーニングの内容	授業中、教員よりの意見共有や学生から意見発表を行ってもらい、問題の演習も行う。									
実践的な教育内容										
その他										

講義コード	11C0111901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	王 ゼイ	開講期	第2期	
科目名	経済政策論2				王 ゼイ		第2期			
履修前提条件					備考					
授業の目的	経済政策とは、経済学の理論に基づき、様々な経済問題を是正・改善するための政策である。この講義は、経済政策を理解する上で必要なマクロ経済学を復習し、それを使って様々な経済政策を理解することを目的とする。具体的に、「金融・財政政策」、「裁量とコミットメント」といったマクロ経済政策のトピックを取り上げて紹介する。									
到達目標	受講生はこの講義を履修することを通じて、標準的な経済学理論を使って、マクロ経済政策の仕組みを理解し、説明できることを到達目標とする。									
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、授業時間外に、60時間以上の学修を行うことを必須とする。配布された講義資料とミクロ経済学やマクロ経済学の教科書を参照しながら理解を深めて、各回の授業内容をしっかり予習・復習することは望ましい。なお、課題を出すことがあるので、必ず自分で考えて自力で解くようにしてください。									
授業計画	【第1回】経済政策の経済学基礎： 国民経済計算とマクロ経済の統計① 【第2回】経済政策の経済学基礎： 国民経済計算とマクロ経済の統計② 【第3回】IS-LM 分析① 【第4回】IS-LM 分析② 【第5回】IS-LM 分析③ 【第6回】AS-AD 分析① 【第7回】AS-AD 分析②			【第8回】AS-AD 分析③ 【第9回】経済政策の「裁量」と「コミットメント」① 【第10回】経済政策の「裁量」と「コミットメント」② 【第11回】経済政策の「裁量」と「コミットメント」③ 【第12回】経済政策の「裁量」と「コミットメント」④ 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	課題（40%）と期末試験（60%）で評価する。									
フィードバックの内容	この科目では、授業連絡用の Microsoft チームが立ち上げられ、履修者全員にチームに参加していただくことになっている。チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前に Microsoft Outlook と Teams のアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック等はすべて Microsoft Teams を通じて行われる。									
教科書	『経済政策』横山将義（成文堂）2012年、『ゼミナール経済政策入門』岩田規久男、飯田泰之（日本経済新聞社）2006年									
参考書	『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第4版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年、『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編（第4版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年、『マンキュー入門経済学（第3版）』マンキュー（東洋経済新報社）2019年									
教員からのお知らせ	この科目は第1期の「経済政策論1」と合わせて履修することが望ましい。この科目では特定の教科書は使用せず、講義資料を配布し、その内容に沿ってパワーポイントと板書により、解説を行う。また、この科目の履修にあたって、ミクロ・マクロ経済学と経済数学関係の科目が履修済みであることは望ましい。質問・議論は大歓迎である。ぜひ経済政策の講義を通じて、経済学の魅力を感じてください。									
オフィスアワー	大学から付与された学籍番号付きの Microsoft 365のメールアドレスで予め教員と連絡してアポを取ってください。									
アクティブラーニングの内容	授業中、教員よりの意見共有や学生から意見発表を行ってもらい、問題の演習も行う。									
実践的な教育内容										
その他										

講義コード	11C0116301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済統計学Ⅰ				辻村 雅子		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>一国経済の現状を数値で客観的に把握するための勘定体系として、国民経済計算体系（The System of National Accounts: SNA）という国際基準が作成されている。この体系は、国民所得支出勘定（National Income and Outlay Accounts）、国民貸借対照表（National Balance Sheets）、産業連関表（Input-Output Accounts, Supply and Use Tables）、資金循環勘定（Flow of Funds Accounts, Financial Accounts）、国際収支表・対外資産負債残高表（Balance of Payments and International Investment Position）の5つの勘定で構成されている。本授業ではこれらをつずつ取り上げ、マクロ経済の捉え方について理解を深めることを目指している。第1期には、SNA から得られる主要な指標である国内総生産（Gross Domestic Product: GDP）の推計に最も重要な役割を果たす産業連関表に焦点を当てる。統計の枠組みや作成方法を紹介するとともに、観察から導かれる知見や、実践的な分析手法も学ぶ。</p>								
到達目標	<p>国民経済計算体系や産業連関表を基礎にしたマクロ経済の捉え方を理解する。 各統計について、歴史的な発展の経緯を踏まえ、何を意図して、どのような統計が作成されてきたのかを理解する。 基本的な統計の読み解き方、分析手法を学ぶことで、自ら経済の現状を分析できるようになる。</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、配布資料を基に、本授業の内容の予習・復習を行うこと。 日頃からマクロ経済の動向に関心を持ち、インターネットや新聞、雑誌等で積極的に情報収集すること。</p>								
授業計画	<p>【第1回】はじめに：経済統計とは 【第2回】経済統計の歴史（1）政治算術 【第3回】経済統計の歴史（2）経済表 【第4回】経済統計の歴史（3）マクロ経済学と国民経済計算体系の発展 【第5回】産業連関表の解説（1）産業連関表の歴史 【第6回】産業連関表の解説（2）統計の枠組み：全体像 【第7回】産業連関表の解説（3）統計の枠組み：中間財取引部門 【第8回】産業連関表の解説（4）統計の枠組み：最終需要部門 【第9回】産業連関表の解説（5）統計の枠組み：付加価値部門 【第10回】産業連関分析の基礎（1）：三角化の概要と構造分析 【第11回】産業連関分析の基礎（2）：レオンティエフ逆行列の概要 【第12回】産業連関分析の基礎（3）：レオンティエフ逆行列を用いた波及分析 【第13回】産業連関分析の基礎（4）：影響力係数、感応度係数</p>								
成績評価の方法	中間レポート課題（50%）、および期末レポート課題（50%）で評価する。								
フィードバックの内容	課題の模範解答は、提出期限後に、授業内やポータルサイトにて発表する。								
教科書	授業時に資料を配布する								
指定図書	適宜紹介する								
参考書	『マクロ経済統計と構造分析：もう一つの国民経済勘定体系を求めて』辻村雅子・辻村和佑（慶應義塾大学出版会）2021年								
教員からのお知らせ	マクロ経済学と Excel の操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
実践的な教育内容									
その他									

か

講義コード	11C0116401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済統計学2				辻村 雅子		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>一国経済の現状を数値で客観的に把握するための勘定体系として、国民経済計算体系（The System of National Accounts: SNA）という国際基準が作成されている。この体系は、国民所得支出勘定（National Income and Outlay Accounts）、国民貸借対照表（National Balance Sheets）、産業連関表（Input-Output Accounts, Supply and Use Tables）、資金循環勘定（Flow of Funds Accounts, Financial Accounts）、国際収支表・対外資産負債残高表（Balance of Payments and International Investment Position）の5勘定から構成されている。本授業では、これらをつずつ取り上げ、マクロ経済を多面的かつ包括的に捉えられることを目指している。第2期には、経済全体の資金の流れを把握する統計である「資金循環勘定」と、国内経済と海外との経済取引を包括的に記帳した「国際収支表・対外資産負債残高表」に焦点を当てる。統計の枠組みや作成方法を紹介するとともに、観察から導かれる知見や、実践的な分析手法も学ぶ。</p>								
到達目標	<p>国民経済計算体系を構成する「資金循環勘定」と、「国際収支表・対外資産負債残高表」の基本的な見方や使い方を理解する。 各統計について、歴史的な発展の経緯を踏まえ、何を意図して、どの様な勘定が構築されてきたのかを理解する。 各統計を基に、自らマクロ経済の現状を分析できるようになる。</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、配布資料を基に授業内容の予習・復習を行うこと。 日頃からマクロ経済の動向に関心を持ち、インターネットや新聞、雑誌等で積極的に情報収集すること。</p>								
授業計画	<p>【第1回】資金循環勘定の歴史（その1） 【第2回】資金循環勘定の歴史（その2） 【第3回】資金循環勘定の解説（1）資金循環勘定の枠組み 【第4回】資金循環勘定の解説（2）資金過不足 【第5回】資金循環勘定の解説（3）金融資産・負債差額 【第6回】資金循環勘定の解説（4）金融資産・負債差額の国際比較 【第7回】国際収支表に関する歴史的な背景 【第8回】国際収支表と対外資産負債残高表の解説（1）国際収支表作成の歴史 【第9回】国際収支表と対外資産負債残高表の解説（2）統計の枠組み 【第10回】国際収支表と対外資産負債残高表の解説（3）国際収支表の読み方 【第11回】国際収支表と対外資産負債残高表の解説（4）対外資産負債残高表の読み方 【第12回】国際収支表と対外資産負債残高表の解説（5）貿易統計について 【第13回】国民経済勘定の全体像における国民所得支出勘定と国民貸借対照表</p>								
成績評価の方法	中間レポート課題（50%）、および期末レポート課題（50%）で評価する。								
フィードバックの内容	課題の模範解答は、提出期限後に、授業内やポータルサイトにて発表する。								
教科書	授業時に資料を配布する								
指定図書	適宜紹介する								
参考書	『マクロ経済統計と構造分析：もう一つの国民経済勘定体系を求めて』辻村雅子・辻村和佑（慶應義塾大学出版会）2021年								
教員からのお知らせ	マクロ経済学と Excel の操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C1110410	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク1(芹田)				芹田 浩司		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に単位取得上必須となる学外フィールドワークを実施する。								
授業計画	【第1回】 データ分析・リサーチの方法等 【第2回】 グループワーク (1) 【第3回】 グループワーク (2) 【第4回】 グループ発表及び同内容のレビュー・振り返り (1) 【第5回】 グループワーク (3) 【第6回】 グループワーク (4) 【第7回】 グループ発表及び同内容のレビュー・振り返り (2) 【第8回】 グループワーク (5) 【第9回】 グループワーク (6) 【第10回】 グループ発表及び同内容のレビュー・振り返り (3) 【第11回】 プレゼン資料の作成 (完成) 【第12回】 グループ発表及び同内容のレビュー・振り返り (4) 【第13回】 総復習及び質問受け付け等								
成績評価の方法	基本的に (1) レポート (20%)、(2) 学外フィールドワークへの取り組み姿勢 (40%)、(3) 課題提出 (10%)、(4) グループワークへの貢献 (20%)、(5) 授業態度 (10%) の総合評価による。学外フィールドワークの実施が困難となった場合においては (2) 以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイス等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	現地調査への参加は、単位取得に必須である。やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。グループでの作業の実施において、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談方法についてはガイダンスで指示します。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習、グループワーク、フィールドワーク								
実践的な教育内容	草津温泉、みなかみ温泉における観光産業・まちづくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。								
その他	1) 事前ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が原則として必要である。事前ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。事前ガイダンスに参加できない場合は、事前ガイダンス資料を確認し、了解すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は15名前後とする（募集人数については変更の可能性あり）。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク（群馬県草津町・みなかみ町：2泊3日、2025年9月上旬から中旬頃を予定）への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用（交通費・宿泊費・施設見学費など）のうち、履修者の負担分として25000円程度を徴収する（金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない）。 5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) セット授業：本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1(芹田浩司)」「経済フィールドワーク2(芹田浩司)」併せてのセット受講が必須となっており、どちらか一方の受講での単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。								

講義コード	11C1110510	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク2(芹田)				芹田 浩司		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に単位取得上必須となる学外フィールドワークを実施する。								
授業計画	【第1回】 調査データ分析・レポートの書き方 【第2回】 グループワーク (1) 【第3回】 グループワーク (2) 【第4回】 グループ発表内容の進捗確認・個人レポートのピアレビュー 【第5回】 グループワーク (3) 【第6回】 グループワーク (4) 【第7回】 グループ発表内容の進捗確認・個人レポートのピアレビュー 【第8回】 グループワーク (5) 【第9回】 グループワーク (6) 【第10回】 グループ発表内容の進捗確認・個人レポートのピアレビュー 【第11回】 報告書の作成 【第12回】 グループ発表 【第13回】 総復習及び質問受け付け等								
成績評価の方法	基本的に (1) レポート (20%)、(2) 学外フィールドワークへの取り組み姿勢 (40%)、(3) 課題提出 (10%)、(4) グループワークへの貢献 (20%)、(5) 授業態度 (10%) の総合評価による。学外フィールドワークの実施が困難となった場合においては (2) 以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイス等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	現地調査への参加は、単位取得に必須である。やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。グループでの作業の実施において、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談方法についてはガイダンスで指示します。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習、グループワーク、フィールドワーク								
実践的な教育内容	草津温泉、みなかみ温泉における観光産業・まちづくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。								
その他	1) 事前ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が原則として必要である。事前ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。事前ガイダンスに参加できない場合は、事前ガイダンス資料を確認し、了解すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は15名前後とする(募集人数については変更の可能性あり)。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク(群馬県草津町・みなかみ町：2泊3日、2025年9月上旬から中旬頃を予定)への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用(交通費・宿泊費・施設見学費など)のうち、履修者の負担分として25000円程度を徴収する(金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない)。 5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) セット授業：本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1(芹田浩司)」「経済フィールドワーク2(芹田浩司)」併せてのセット受講が必須となっており、どちらか一方の受講での単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。								

講義コード	11C1110515	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク1(小林隆)				小林 隆史		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に単位取得上必須となる学外フィールドワークを実施する。								
授業計画	【第1回】 フィールドワークとは 【第2回】 地域の調査と分析 【第3回】 データ収集と集計 【第4回】 ショート・プレゼンテーションの準備 【第5回】 ショート・プレゼンテーション 【第6回】 対象地域の分析 【第7回】 グループワーク (1) 【第8回】 グループワーク (2) 【第9回】 調査テーマの設定 【第10回】 グループワーク (3) 【第11回】 グループワーク (4) 【第12回】 フィールドワークの準備 【第13回】 グループワーク (5)								
成績評価の方法	基本的に (1) レポート (20%)、(2) 学外フィールドワークへの取り組み姿勢 (40%)、(3) 課題提出 (10%)、(4) グループワークへの貢献 (20%)、(5) 授業態度 (10%) の総合評価による。学外フィールドワークの実施が困難となった場合においては (2) 以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイス等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 学外フィールドワークへの参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及び Teams のビデオ通話等にて受付ける。また、Teams の所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、学外フィールドワークの結果の「プレゼンテーション」を行う。								
実践的な教育内容	長野県小布施町における伝統産業・地域産業・街づくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。								
その他	1) 事前ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が原則として必要である。事前ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。事前ガイダンスに参加できない場合は、事前ガイダンス資料を確認し、了解すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は15名前後とする（募集人数については変更の可能性あり）。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク（長野県小布施町：3泊4日、2025年9月28日（日）～10月1日（水）を予定）への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用（交通費・宿泊費・施設見学費など）のうち、履修者の負担分として19,000円程度を徴収する（金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない）。 5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) セット履修授業：本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1(小林隆)」「経済フィールドワーク2(小林隆)」併せてのセット履修が必須となっており、どちらか一方のみの履修で単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。また、両方の単位取得において所定の報告書提出が必須である。								

講義コード	11C1110516	授業形態	講義・実習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	経済フィールドワーク2(小林隆)				小林 隆史		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	調査対象を様々な視点から観察し、独自の分析を行い、とりまとめて他者に正確に伝える力を鍛錬すること。調査対象は、原則として実際の経済・産業のフィールドとし、歴史・地勢・産業などのデータ収集とあわせて座学では得られない、現場における調査経験を通じて実践的に学ぶこと。また、基本的にグループ単位で調査・分析を行い、メンバー同士のコミュニケーション能力や協調性も体得すること。								
到達目標	対象とする経済・産業活動など、実際の現場に関する多角的な分析の視点を養い、データの収集や整理、関連情報のとりまとめができる。また、実態把握・問題解決などの目的をもって、調査を実践することができる。グループでの話し合いやとりまとめ分担などの共同作業に協調できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義およびグループワークによる作業や議論が中心となるため、データ収集や資料のとりまとめなど、各自の分担作業については授業時間外に行うことが必要である。それらの作業に関して計60時間以上の授業外学修を実施することを推奨する。また、所定の授業時間以外に単位取得上必須となる学外フィールドワークを実施する。								
授業計画	【第1回】 調査データ分析・レポートの書き方 【第2回】 グループワーク (1) 【第3回】 グループワーク (2) 【第4回】 グループ発表内容の進捗確認・個人レポートのピアレビュー 【第5回】 グループワーク (3) 【第6回】 グループワーク (4) 【第7回】 グループ発表内容の進捗確認・個人レポートのピアレビュー 【第8回】 グループワーク (5) 【第9回】 グループワーク (6) 【第10回】 グループ発表内容の進捗確認・個人レポートのピアレビュー 【第11回】 報告書の作成 【第12回】 グループ発表 【第13回】 発表の反省								
成績評価の方法	基本的に (1) レポート (20%)、(2) 学外フィールドワークへの取り組み姿勢 (40%)、(3) 課題提出 (10%)、(4) グループワークへの貢献 (20%)、(5) 授業態度 (10%) の総合評価による。学外フィールドワークの実施が困難となった場合においては (2) 以外の要素によって評価する。								
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題、レポートに対するアドバイス等を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 学外フィールドワークへの参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及び Teams のビデオ通話等にて受付ける。また、Teams の所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	調査対象地にて「フィールドワークを実施」する。課題解決型学習のテーマを設定し、「グループ・ワーク」での「グループ・ディスカッション」を経て、学外フィールドワークの結果の「プレゼンテーション」を行う。								
実践的な教育内容	長野県小布施町における伝統産業・地域産業・街づくり等のフィールドワークを通じて、課題解決に向けた実践的な教育を行う。								
その他	1) 事前ガイダンス：本講義は履修登録の前に「経済フィールドワーク・ガイダンス」への参加が原則として必要である。事前ガイダンスの詳細は学部ガイダンス資料、及びポータルサイトの通知を確認すること。事前ガイダンスに参加できない場合は、事前ガイダンス資料を確認し、了解すること。 2) 募集人数：本講義の募集人数は15名前後とする（募集人数については変更の可能性あり）。 3) 調査対象地・時期：履修者は、原則として学外フィールドワーク（長野県小布施町：3泊4日、2025年9月28日（日）～10月1日（水）を予定）への参加が必須である。 4) 費用：学外フィールドワーク費用（交通費・宿泊費・施設見学費など）のうち、履修者の負担分として19,000円程度を徴収する（金額は若干の増減可能性あり・原則として返金しない）。 5) 授業時間の振替：学外フィールドワークに充てた時間を授業時間より振り替えることがある。 6) 資料：参考資料等は適宜指示する。 7) セット履修授業：本講義は評価も含め「経済フィールドワーク1(小林隆)」「経済フィールドワーク2(小林隆)」併せてのセット履修が必須となっており、どちらか一方のみの履修で単位取得はできない。同一年度において必ず両方を履修登録すること。また、両方の単位取得において所定の報告書提出が必須である。								

講義コード	11C0124001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	市川 芳治	開講期	第1期
科目名	経済法								
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、日本の独占禁止法を核とする、経済法（競争法）について学びます。法律という、つい目の前の条文にとらわれがちですが、むしろ基本的な枠組み・考え方をしっかり身につけることを優先します。最近では、アマゾン、グーグルなど、身近なネット上の企業との関係も議論になっています。また、新型コロナウイルスをめぐっても、競争法には様々出番がありました。このような最新事例も盛り込んでいきます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・今やビジネスでは無視できなくなった世界的に共通する経済法（競争法）の枠組みについて理解し、日常起る事象に適用できる（これにより、社会人としての活躍の幅を広げる）。 ・経済法と経済学の関係について説明できる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前に、教科書の通読を中心とした予習を行ってもらいます。 ・講義では、事件の読み解き方の筋道を中心に伝授しますので、講義後、様々なケースへの応用について、検討を行ってもらいます（復習のガイダンスともなっています）。 上記に示した授業外の学修は、60時間以上行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス（講義の進め方など）</p> <p>冒頭の授業の目的に記したような方針で進めることで、近年改正の多い独占禁止法の本質を見誤ることもなく、また、ビジネスパーソンとして必須の知識となりつつある、米国・EU・中国ほか海外の競争法を理解する素地を養うことにもつながります。</p> <p>カルテル・入札談合等、意外と身近に、経済法の案件は転がっています（「独禁法」で検索をしてみてください）。具体事例で頭を使ってもらいながら、教科書をいわば副読本のようにして、講義を進めます。やりとりをしながら一緒に考えていきたいと思っていますので、頭を柔らかくして参加してもらえればと思います。</p> <p><経済法の基本的な枠組み・考え方の理解></p> <p>【第2回】弊害要件総論（1）（市場とは何か）</p> <p>【第3回】弊害要件総論（2）（反競争性とは何か）</p> <p>【第4回】弊害要件総論（3）（正当化理由とは何か）</p> <p>【第5回】行為類型ごとの行為要件と弊害要件（1）（競争停止とは何か）</p> <p>【第6回】行為類型ごとの行為要件と弊害要件（2）（他者排除とは何か）</p> <p>【第7回】行為類型ごとの行為要件と弊害要件（3）（搾取とは何か）</p> <p>【第8回】違反要件の諸問題、不正手段</p> <p><日本の独占禁止法に沿った理解></p> <p>【第9回】日本法の違反類型をめぐる総説</p> <p>【第10回】不当な取引制限（いわゆるカルテル・入札談合事件等）</p> <p>【第11回】私的独占</p> <p>【第12回】不公正な取引方法</p> <p>【第13回】企業結合規制、総合演習</p>								
成績評価の方法	授業中の小テスト（50%）、期末レポート（50%）にて評価します。基本的にこの2つで評価しますが、発言等での講義への貢献について、追加点として扱います。レポートは出来不出来というよりは、考え方が身に付いているかで評価します。								
フィードバックの内容	講義冒頭ないし講義中に小テストを実施し、その場及び次回講義冒頭にてフィードバックを行います。								
教科書	『独禁法講義〔第十一版〕』白石忠志（有斐閣）2025								
指定図書	『独禁法講義〔第十一版〕』白石忠志（有斐閣）2025								
参考書	『独禁法事例集』白石忠志（有斐閣）2017								
教員からのお知らせ	教科書、指定図書を基本に、適宜教材は配付致します。参考書は、より深く学びたい人向けに掲げてあります。なお、第十一版が、2025年2月に刊行予定であり、そちらを用いますので、お間違えないように。								
オフィスアワー	事前の予約をしてくれば、適宜対応します。 メールによる問い合わせ等でも結構です。 e-mail: 4thestate@mail.goo.ne.jp								
アクティブラーニングの内容	小テスト等を活用して、教員からのフィードバックによる振り返りを行い、学習効果を深めます。また、リアル教材を多用し、能動的学修に導きます。								
実践的な教育内容	企業で実務経験のある教員が、その経験を活かして、抽象度が高くなりがちな経済法の実務、実際に社会人になった時の遭遇シーン等について、詳しく講義する。								
その他	参考URLの公正取引委員会では、様々なディスカッション・ペーパー等を公開しており、これを補助教材として用いることで、知識・理解を深めることに役立ちます。								

講義コード	11C0121001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	計量経済学Ⅰ				辻村 雅子		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	計量経済学は複雑な経済事象を、数量的に解明することを目的としている。具体的には経済に関する何らかの仮説があり、これを検証するために実験計画をたて、実際に実験を行い、仮説の真偽を検証するという作業をおこなう。例えばガソリン価格の高騰は、ガソリンと補完関係にある自動車の需要にも影響を与えると考えられる。この影響を数量的に把握するために、ガソリン価格や自動車の販売台数といった資料を収集して解析することが行われている。このような一連の作業は、自然科学の諸分野と類似しているものの、経済学には統御実験ができないという特有の困難があり、仮説を検証できるような実験計画の立案を非常に困難にしている。本講義では、このようなことを念頭おきながら、古典的回帰モデルを中心に、経済学で一般に行われている実証分析の手法を学んでいく。 第1期では、計量経済学の歴史や経済理論との関わりを踏まえながら、具体例を基に統計の基本的な使い方や最小二乗法を学んでいく。								
到達目標	この授業を受けることにより、経済を数量的に分析するための基本的な考え方や知識を身につけることを目標とする。更に具体的な分析手法を習得して、自ら経済の諸問題を分析できるようになることを目指している。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、配布資料を基に、本授業の内容の予習・復習を行うこと。								
授業計画	【第1回】はじめに：計量経済学とは 【第2回】計量経済学の歴史（1）計量経済学の萌芽 【第3回】計量経済学の歴史（2）計量経済学会（Econometric society）の創設 【第4回】経済理論と計量経済学（1）ミクロ経済学の発展と実証分析 【第5回】経済理論と計量経済学（2）ケインズ理論の発展と実証分析 【第6回】経済理論と計量経済学（3）消費関数論争 【第7回】家計調査について（1）家計調査の歴史 【第8回】家計調査について（2）家計調査の概要 【第9回】家計調査について（3）家計調査の観察（1） 【第10回】家計調査について（4）家計調査の観察（2） 【第11回】最小二乗法（1）線型関係の推定 【第12回】最小二乗法（2）最小二乗推定量と決定係数 【第13回】最小二乗法（3）最小二乗推定量と決定係数を求める演習								
成績評価の方法	中間レポート課題（50%）、および期末レポート課題（50%）で評価する。								
フィードバックの内容	課題の模範解答は、提出期限後に、授業内やポータルサイトにて発表する。								
教科書	授業時に資料を配布する								
指定図書	適宜紹介する								
参考書	適宜紹介する								
教員からのお知らせ	経済学、統計学および Excel の操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0121101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	計量経済学2				辻村 雅子		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	計量経済学は複雑な経済事象を、数量的に解明することを目的としている。具体的には経済に関する何らかの仮説があり、これを検証するために実験計画をたて、実際に実験を行い、仮説の真偽を検証するという作業をおこなう。例えばガソリン価格の高騰は、ガソリンと補完関係にある自動車の需要にも影響を与えると考えられる。この影響を数量的に把握するために、ガソリン価格や自動車の販売台数といった資料を収集して解析することが行われている。このような一連の作業は、自然科学の諸分野と類似しているものの、経済学には統御実験ができないという特有の困難があり、仮説を検証できるような実験計画の立案を非常に困難にしている。本講義では、このようなことを念頭おきながら、古典的回帰モデルを中心に、経済学で一般に行われている実証分析の手法を学んでいく。 第2期では、第1期で取り上げた最小二乗法を基に、単純回帰モデルや重回帰モデルを学んでいく。								
到達目標	この授業を受けることにより、経済を数量的に分析するための基本的な考え方や知識を身につけることを目標とする。更に具体的な分析手法を習得して、自ら経済の諸問題を分析できるようになることを目指している。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、配布資料を基に、本授業の内容の予習・復習を行うこと。								
授業計画	【第1回】単純回帰モデル（1）確率的モデルとその歴史的な発展 【第2回】単純回帰モデル（2）最小二乗推定量の性質 【第3回】単純回帰モデル（3）最小二乗推定量の期待値と分散 【第4回】推定されたパラメタの有意性の検定 【第5回】単純回帰モデルの構築と推定結果の読み取り 【第6回】重回帰モデル（1）重回帰モデルとは 【第7回】重回帰モデル（2）重回帰モデルの推定方法 【第8回】重回帰モデル（3）重回帰モデルの説明力と生じやすい問題 【第9回】重回帰モデルの仮説検定 【第10回】重回帰モデルの構築と推定結果の読み取り（1） 【第11回】重回帰モデルの構築と推定結果の読み取り（2） 【第12回】モデルの関数型と特殊な変数（1）対数変換、生産関数の推定 【第13回】モデルの関数型と特殊な変数（2）ダミー変数								
成績評価の方法	中間レポート課題（50%）、および期末レポート課題（50%）で評価する。								
フィードバックの内容	課題の模範解答は、提出期限後に、授業内やポータルサイトにて発表する。								
教科書	授業時に資料を配布する								
指定図書	適宜紹介する								
参考書	適宜紹介する								
教員からのお知らせ	「計量経済学1」の内容の続きとなるので、セットで履修することが望ましい。 経済学、統計学およびExcelの操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0119001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゲーム理論				渡部 真弘		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	進級要件科目群において習得済みである知識・技能を活用することで、古典的な完全競争市場の議論では扱われなかった個々の経済主体の行動を分析する視点を養うことを目的とする。								
到達目標	非協力ゲーム理論的な分析手法を用いて、簡素なモデル分析が可能となる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間（計60時間以上）の授業外学修が必要である。								
授業計画	<p>【第1回】 進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・マイクロ経済学基礎における学修成果の再評価</p> <p>【第2回】 標準型表現、囚人のジレンマ</p> <p>【第3回】 最適反応、ナッシュ均衡：戦略が離散的である場合</p> <p>【第4回】 最適反応、ナッシュ均衡：戦略が連続的である場合</p> <p>【第5回】 第2回～第4回の内容の振り返り、応用問題</p> <p>【第6回】 経済学への応用（1）</p> <p>【第7回】 経済学への応用（2）</p> <p>【第8回】 経済学への応用（3）</p> <p>【第9回】 経済学への応用（4）</p> <p>【第10回】 経済学への応用（5）</p> <p>【第11回】 経済学への応用（6）</p> <p>【第12回】 経済学への応用（7）</p> <p>【第13回】 まとめ</p> <p>※授業第6回以降に扱う内容は、進級要件科目における学修成果に合わせて調整するため、事前に定めない。原則、契約理論やメカニズム・デザインなどの情報の非対称性に着目する内容を扱う予定である。</p>								
成績評価の方法	評価割合は、授業第1回に実施する進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・マイクロ経済学基礎で扱われた内容に関する学修成果の再評価に向けた試験10%、小テスト（授業第2回～授業第12回の11回分）40%、期末試験50%とする。								
フィードバックの内容	<p>(1) 進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・マイクロ経済学基礎における学修成果の再評価に向けた試験について、採点結果に対する講評を行う。</p> <p>(2) 小テストの答案を採点した後、理解が不十分であると判断される内容を授業時間内で補足する。</p> <p>(3) 成績評価確定後、授業実施報告書を作成・配布する。</p>								
教科書 指定図書									
参考書	『An Introduction to Game Theory』 Martin J. Osborne (Oxford University Press) 2009、『Game Theory (2nd Edition)』 Michael Maschler, Eilon Solan, Shmuel Zamir (Cambridge University Press) 2020、『経済学のためのゲーム理論入門』 Robert Gibbons (創文社) 1995、『Essential Mathematics for Economic Analysis (4th Edition)』 Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom (Pearson) 2012、『Mathematical Analysis: A Straightforward Approach (2nd Edition)』 K.G. Binmore (Cambridge University Press) 1982								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 事前に連絡があれば他の曜日・時間帯に対面・オンラインでも面談を実施する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
実践的な教育内容									
その他	進級要件科目群において十分な学修成果が確認されなかった場合、進級要件科目に含まれていた数学基礎で扱われるべき正しい内容をまとめた資料を自習用の教材として配布する。授業時間内に他の教員の担当科目の補講は行わない。								

講義コード	11C0116701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	深澤 竜人	開講期	第1期
科目名	現代資本主義論 I					深澤 竜人		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	1年時に学習したマルクス経済学基礎を基に、資本主義という経済体制に関して、どのようにして成立したのか、どのように運動し発展してきたのか、そこでどのような問題性を併せ持っていたのか、これらをまず確認していく。その後、社会主義という資本主義とは別な体制が発生し、それとの対抗関係で資本主義はどのように展開してきたか、こうした諸相に関して日本を中心とし、諸外国との関係で理解していくことを目的とする。 Iでは現代資本主義について歴史的展開や概論的なことを把握したが、IIにおいてはその詳細と具体的側面の追究が本講義の目的となる。								
到達目標	上記のように、我々の生きている資本主義という経済体制に関して、成立と展開・発展、問題、これらの理解、社会主義との対抗関係での展開、その後の日本・アメリカとの推移、そして現在はどのようになっているか、こうした諸相に関して日本を中心として、さらに諸外国との関係で理解していくことを目標とする。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講義は板書で行っています。その復習を自身で興味ある様々な文献（特には下記の「参考書」）によって補っていくとよいです。 この授業は60時間以上の授業外学修を必要とします。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス 試験・出席・レポート等々に関して 本講義の全体内容 資本主義の成立 I 封建制度の解体と資本主義の胎動</p> <p>【第2回】 資本主義の成立 II 産業革命・市民革命という事象</p> <p>【第3回】 資本主義の成立 III 資本主義経済の運動と成長・発展 対外展開</p> <p>【第4回】 資本主義の展開 I 日本における資本主義への移行 欧米との対比・比較 半封建的資本主義経済という歪曲構造</p> <p>【第5回】 資本主義の展開 II 植民地の拡大と帝国主義政策 列強の対立と帝国主義戦争</p> <p>【第6回】 資本主義の展開 III 戦争の一時的中断と世界大恐慌による第二次世界大戦</p> <p>【第7回】 資本主義の展開 IV 社会主義の成立と戦後の東西冷戦構造</p> <p>【第8回】 資本主義の展開 V 戦後アメリカを中心とした対社会主義政策 IMF・GATT 体制</p> <p>【第9回】 現代の資本主義 I (1950～60年代) 日本の高度経済成長</p> <p>【第10回】 現代の資本主義 II (1960～70年代) 日米経済逆転の諸相</p> <p>【第11回】 現代の資本主義 III (1970～80年代) この時期の資本主義の苦悩 スタグフレーション レーガノミクス 対日要求</p> <p>【第12回】 現代の資本主義 IV (1980～90年代) 日本のバブル経済</p> <p>【第13回】 現代の資本主義 V (1990～2000年代) バブルの崩壊とその後の長期不況 現代の資本主義 VI 現代資本主義の近年の状況を説く</p> <p>* 講義内容は必要に応じて変更する場合があります。</p>								
成績評価の方法	コロナの状況や実際の受講人数を見てから決めていたのですが、現時点では授業への取り組み姿勢（50%）、レポート・試験（50%）としておきます。 授業最初の日に改めて話します。								
フィードバックの内容	毎回小レポートを書いてもらって、間違った理解や質問には次回返信していく形態をとっています。その中で良いものは、他への見本・手本として、PDFで掲載していきます。								
教科書									
指定図書	『現代社会経済学』北村洋基（桜井書店）2013、『マルクス経済学簡易入門』深澤竜人（丸善雄松堂）2020								
参考書	『現代日本経済論』井村喜代子（有斐閣）2000年、『世界経済読本』宮崎勇ほか（東洋経済新報社）2002年、『ゼミナール国際経済入門』伊藤元重（日本経済新聞社）1996年、『世界経済論』大内力（東京大学出版会）1991年、『世界経済史入門』長岡新吉ほか（ミネルヴァ書房）1992年、『大戦後資本主義の変質と展開』井村喜代子（有斐閣）2016年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0116801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	深澤 竜人	開講期	第2期
科目名	現代資本主義論2								
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では現代資本主義論Ⅰや1年時のマルクス経済学基礎を受けて、日本経済におけるその実態や諸相を把握していくことを目的とする。つまりは現代資本主義論Ⅰのさらに具体的な状況やその詳細を、我々の住む日本経済において改めて確認していくことを目的としている。 Ⅰでは現代資本主義について歴史的展開や概念的なことを把握したが、Ⅱにおいてはその詳細と具体的な側面の追究が本講義の目的となる。								
到達目標	上記でも述べたように、本講義では我々の住む現代資本主義のそれも日本経済における実態的追究を把握することが到達目標となる。それをマクロ的に、家計、企業、政策、その他各側面について言及していく。これらに関しての全般的理解への到達が本講義の最終目標となる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講義は板書で行っていくため、その復習を自身で興味ある様々な文献（特には下記の「参考書」）で補っていくとよいです。この授業は60時間以上の授業外学修を必要とします。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス 試験・出席・レポート等々に関して 本講義の全体内容 現代資本主義と日本の家計Ⅰ 消費性向 貯蓄率 エンゲル係数 シュワーベ係数</p> <p>【第2回】現代資本主義と日本の家計Ⅱ 金融機関と預入の金利・利息他</p> <p>【第3回】現代資本主義と日本の家計Ⅲ 金融機関と借入のリスク他</p> <p>【第4回】現代資本主義と日本の家計Ⅳ 日本と各国と比較する 貯蓄率・分配率・労働時間</p> <p>【第5回】現代資本主義と日本の企業Ⅰ 株式会社とは何か 株主総会の実相</p> <p>【第7回】現代資本主義と日本の企業Ⅱ 株式による企業の支配・買収</p> <p>【第8回】現代資本主義と日本の企業Ⅲ 株式投資論 株価変動の論理</p> <p>【第9回】現代資本主義と日本の企業Ⅳ 大企業の支配体制 政治との関わり</p> <p>【第10回】マルクス経済学から見た現代日本資本主義 国家独占資本主義（政官財の癒着）</p> <p>【第11回】現代資本主義と景気変動 理論と統計と日本経済での現況</p> <p>【第12回】現代日本資本主義と経済政策Ⅰ 格差社会 貧困化・低所得化</p> <p>【第13回】現代日本資本主義と経済政策Ⅱ 特に食料自給率と農業・食料政策に関して</p> <p>* 講義内容は必要に応じて変更する場合があります。</p>								
成績評価の方法	コロナの状況や実際の受講人数を見てから決めていたのですが、現時点では授業への取り組み姿勢（50%）、レポート・試験（50%）としておきます。 授業最初の日に改めて話します。								
フィードバックの内容	毎回小レポートを書いてもらい、間違った理解や質問には次回返信していく形態をとっていました。								
教科書									
指定図書	『現代社会経済学』北村洋基（北村洋基）2013、『マルクス経済学簡易入門』深澤竜人（丸善雄松堂）2020								
参考書	『現代社会経済学』北村洋基（北村洋基）2013、『マルクス経済学簡易入門』深澤竜人（丸善雄松堂）2020								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0116901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	現代資本主義論3				北原 克宣		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	「現代資本主義論3」では、現代社会（現代資本主義）の仕組みについてマルクス経済学の視角から学ぶことを目的とする。当科目では、現代資本主義世界の構造について理論と現状の両面から学ぶことで現代資本主義が分析できるようになる。また、本科目は、1年次で学ぶ「マルクス経済学基礎」の応用科目としても位置づけられる。								
到達目標	①現代資本主義において生じている問題や課題を見出すことができ、これをマルクス経済学の概念を用いて専門的に説明したり論じたりすることができるようにする。 ②これからの社会のあり方に関心を持ち自分なりの考え方を説明できるようにする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前1週間の社会の動きについて新聞を読み、授業前には必ず授業で習う箇所のテキストや関連図書を読むなど、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】現代資本主義の諸問題について 【第2回】社会的総資本の再生産と流通 【第3回】資本主義分析の方法－レーニン「いわゆる市場問題について」を中心に－ 【第4回】資本主義分析の方法－山田盛太郎「日本資本主義分析」を中心に－ 【第5回】利潤率の傾向的低下法則（1） 【第6回】利潤率の傾向的低下法則（2） 【第7回】利子生み資本と利子（1） 【第8回】利子生み資本と利子（2） 【第9回】現代資本主義の分析－レーニン『帝国主義論』を中心に－ 【第10回】現代資本主義の分析－戦後日本資本主義の構造と展開－ 【第11回】現代資本主義の分析－21世紀資本主義世界の構造（1）－ 【第12回】現代資本主義の分析－21世紀資本主義世界の構造（2）－ 【第13回】まとめ－資本主義はどこへ向かうか－								
成績評価の方法	期末試験（100%）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の授業にて行う。								
教科書	『改訂新版 現代社会経済学』北村洋基（桜井書店）2013年								
指定図書	『経済と社会』長島誠一（桜井書店）2004年								
参考書									
教員からのお知らせ	◇授業で用いるスライド資料は、Teams のフォルダに保存します。受講者は各自授業前にプリントして、持参してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、Teams のチャットでも対応します。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0123501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	憲法				鄭 裕静		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	日本社会で機能している「憲法」とは何か、「憲法」がどんな働きをしているか、さらに、「憲法」の基本的考え方や最も大切にしている考え方について身につけることを目的とする。								
到達目標	憲法の全体的な働きとその理解を深めることにより、日本国憲法が大切にしている考え方を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この講義は、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱うテーマについて、事前に配布した資料を読み、テーマの背景などを理解した上で、授業を受けること。授業中に指示した問題などを考察し、レスポンスやレポートを授業中に提出すること。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション・法と人間の人権：世界人権宣言と人権（1） 【第2回】法と人間の人権：世界人権宣言と人権（2） 【第3回】憲法とは何か。 【第4回】天皇制 【第5回】基本的人権 【第6回】包括的基本権・平等 【第7回】精神的自由権（1） 【第8回】精神的自由権（2） 【第9回】経済的自由権 【第10回】社会権・参政権 【第11回】統治機構（1）国会・内閣 【第12回】統治機構（2）裁判所・地方自治 【第13回】最終まとめ								
成績評価の方法	1. 授業中の小テスト3回 60% 2. 最終レポート30% 3. 授業への取り組み姿勢10%								
フィードバックの内容	小テストに対するフィードバックは翌週授業内にて行う。 授業内容に応じて教材のレジュメ及び参考資料を配布します。必要な場合、講義内で説明します。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書指定はありませんが、講義進行に合わせて参考書や資料を紹介します。 講義に関する詳しい内容は、第1回オリエンテーションで説明します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	「意見共有」「教員からのフィードバックによる振り返り」「能動的な授業外学習」「グループ・ディスカッション」「ディベート」「グループ・ワーク」								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0120801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	公共経済学1				山口 和男		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	どの時代でもどの地域でも政府は多くの経済活動を行っている。政府が経済活動を行わないとどうなるのだろうか？政府が経済活動を行うとどうなるのだろうか？この授業では政府の経済活動の意義について理解を深めることを目的とする。								
到達目標	政府の経済活動の意義について説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回ごとに教科書、講義ノート、演習を使って復習すること。 授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第1章 市場と政府 (1) 【第2回】 第1章 市場と政府 (2) 【第3回】 第2章 国民と投票 (1) 【第4回】 第2章 国民と投票 (2) 【第5回】 補論A 戦略型ゲーム (1) 【第6回】 補論A 戦略型ゲーム (2) 【第7回】 第3章 政党と政策 (1) 【第8回】 第3章 政党と政策 (2) 【第9回】 補論B 余剰 【第10回】 第4章 規制 (1) 【第11回】 第4章 規制 (2) 【第12回】 第5章 外部性 (1) 【第13回】 第5章 外部性 (2)								
成績評価の方法	定期試験 (100%) による。								
フィードバックの内容	演習問題のうち誤答が多かったものについては授業内で解説を行う。								
教科書	『基礎コース 公共経済学 第2版』井堀利宏 (新世社) 2015								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	『ミクロ経済学基礎』、『マクロ経済学基礎』、『ミクロ経済学』、『マクロ経済学』の単位を修得済みであることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0120901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	公共経済学2				山口 和男		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	どの時代でもどの地域でも政府は多くの経済活動を行っている。政府が経済活動を行わないとどうなるのだろうか？政府が経済活動を行うとどうなるのだろうか？この授業では政府の経済活動の意義について理解を深めることを目的とする。								
到達目標	政府の経済活動の意義について説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回ごとに教科書、講義ノート、演習を使って復習すること。 授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 第6章 公共財 (1) 【第2回】 第6章 公共財 (2) 【第3回】 第6章 公共財 (3) 【第4回】 第7章 公共支出の評価 (1) 【第5回】 第7章 公共支出の評価 (2) 【第6回】 第7章 公共支出の評価 (3) 【第7回】 第8章 課税 (1) 【第8回】 第8章 課税 (2) 【第9回】 補論C ケインズ経済学 (1) 【第10回】 補論C ケインズ経済学 (2) 【第11回】 補論C ケインズ経済学 (3) 【第12回】 補論D 完全情報展開型ゲーム (1) 【第13回】 補論D 完全情報展開型ゲーム (2)								
成績評価の方法	定期試験 (100%) による。								
フィードバックの内容	演習問題のうち誤答が多かったものについては授業内で解説を行う。								
教科書	『基礎コース 公共経済学 第2版』井堀利宏 (新世社) 2015								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	『ミクロ経済学基礎』、『マクロ経済学基礎』、『ミクロ経済学』、『マクロ経済学』、『公共経済学1』の単位を修得済みであることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0184001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	行動経済学／行動経済学Ⅰ				和田 良子		第1期集中		
履修前条件					備考				
授業の目的	経済学の現実的な応用として広く知られることになった行動経済学とはいかなる学問で、何を対象としているのか、何を説明できるのかを学びます。規範経済学では、個人が合理的であるという仮定を置いて、均衡に基づいた主体の戦略や市場の姿を叙述していましたが、しかし現実にはそれらの仮定が満たされないという認識に基づいて、規範経済学を修正します。体験的な学びを多く含みます。								
到達目標	行動経済学を通じて、規範経済学より深い理解とその限界を理解することが到達目標です。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業後に内容を確認するための小テスト・現実の社会における事例を調べる課題提出があります。課題提出のための時間は延べ60時間以上となります。								
授業計画	<p>【第1回】イントロダクション・行動経済学とはどのような学問か（教科書 第1講） 規範経済学、実験経済学との違いを理解します。</p> <p>【第2回】体験的にフレーミング、システム1とシステム2といった行動経済学におけるいくつかの概念を学びます。</p> <p>【第3回】オークションによる資源配分（教科書 第2講） 最適な戦略を理論的に学びます。入札者と落札者の戦略について、体験的に学びます。</p> <p>【第4回】「収益同値原理」オークションの理論と行動経済学</p> <p>【第5回】時間選好率のアノマリー 心理学者や行動経済学者が明らかにした双曲線割引について学びます。</p> <p>【第6回】バックワードインダクションとあとまわしの理論：セルフコントロールと消費理論</p> <p>【第7回】貸金業協会の調査を行動経済学で読み解く</p> <p>【第8回】環境経済学と実験経済学</p> <p>【第9回】京都議定書とパリ協定：排出量取引について体験的に学びます（履修人数が少ない時は座学）</p> <p>【第10回】環境経済学におけるナッジの事例</p> <p>【第11回】行動経済学の死</p> <p>【第12回】経済実験による行動経済学の検証</p> <p>【第13回】経済実験（高階のリスク選好を予定）の解説</p>								
成績評価の方法	1日ごとにまとめて出題される小テスト・授業内の教育用実験における理解内容により評価されます（100%）。								
フィードバックの内容	小テストについての解説や、授業内での質疑応答の時間を組み込みます								
教科書	『実験経済学・行動経済学15講（ライブラリ経済学15講 APPLIED 編）』和田良子（新世社）								
指定図書	『環境経済学をつかむ 第5版』栗山浩一他（有斐閣）2025年								
参考書									
教員からのお知らせ	集中講義ですので、1日中4コマ休んでしまうと単位が取得できなくなります。また、実質的に続き講義となるコマがあるので、十分気を付けてください。また、経済実験に参加いただきます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談はポータルサイトを通じて対応します。								
アクティブラーニングの内容	授業内では体験的な教育用実験や仮想実験ののち、グループ内での議論があります。それを授業内で発表してもらい、学びを共有します。								
実践的な教育内容 その他									

か

講義コード	11C0185001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	行動ファイナンス／行動経済学2				和田 良子		第2期集中		
履修前条件					備考				
授業の目的	ファイナンスを理解するうえで、規範的な理論のみならず、投資家のビヘイビオラルな行動を考慮に入れないでは現実の市場を理解することはできません。現実の観察から理論の矛盾を指摘し、それを内包する理論が現れるという形での学術的な研究がなされてきました。現代ファイナンス理論への道筋を学びます								
到達目標	現代ファイナンス理論を総合的・体系的に理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	集中講義で、ブロックごとに理解度を確かめる試験を行います。試験を解くにあたり、オンラインでの解説動画を提供する予定です。授業外の学修時間はのべ60時間以上を予定します。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】ファイナンス理論・確実性下の意思決定理論（教科書 第3講） 【第2回】合理的選好に基づいた顕示選好の弱公理とそこからの逸脱 【第3回】リスク下の意思決定理論（教科書 第4講） 【第4回】リスク下の意思決定理論と行動経済学 【第5回】ナイト流不確実性下の意思決定理論と実験経済学（教科書 第5講） 【第6回】ポートフォリオ選択の理論（第6講） 【第7回】ナイーブなポートフォリオ選択（第6講） 【第8回】株式市場におけるファンダメンタルズバリュウ（第7講） 【第9回】株式市場におけるバブルの形成と実験経済学（第7講） 【第10回】効率的市場仮説（第8講） 【第11回】株式市場における情報とアップデート（第8講） 【第12回】株式市場における情報とアップデートとカスケード理論（第8講） 【第13回】Dilation Property 不確実性下の情報のアップデートと拡張特性 								
成績評価の方法	オンラインでの試験結果が100%です。								
フィードバックの内容	試験の解説によるフィードバックとなります。								
教科書	『実験経済学・行動経済学15講（ライブラリ経済学15講 APPLIED 編）』和田良子（新世社）								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	最初から理論的な内容がやや多くなります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談はポータルサイトを通じて対応します。								
アクティブラーニングの内容	講義内容の一部は体験的な教育用実験を含みます。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0118101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	コーポレート・ファイナンス1				川口 真一		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	企業は、ヒト・モノ・カネといった経営資源を用いて様々な商品を生産・販売したり、サービスを提供したりすることで利益を得ている。そして、様々な経済環境の中で企業は、①資金の調達、②投資計画、③利益の分配という財務上の決定を行わなければならない。コーポレート・ファイナンス1では、カネ（資金）の面から企業の意思決定を捉える企業財務について扱う。 本講義では、企業の資金調達や投資決定で重要となる割引現在価値や資本コストについて具体例を用いて分かり易く説明する。								
到達目標	企業の意思決定における資本コストについて理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 講義で配布したレジュメ、およびマイクロ経済学の基礎を理解すること。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】経営財務に関する基礎知識① 【第2回】経営財務に関する基礎知識② 【第3回】貨幣の時間的価値① 【第4回】貨幣の時間的価値② 【第5回】債券と株式の評価① 【第6回】債券と株式の評価② 【第7回】投資のリスクとリターン① 【第8回】投資のリスクとリターン② 【第9回】企業の資本コスト① 【第10回】企業の資本コスト② 【第11回】資本コストの計算方法① 【第12回】資本コストの計算方法② 【第13回】企業の財務政策 								
成績評価の方法	学期末により評価する（100%）								
フィードバックの内容									
教科書	毎回レジュメを配布する。								
指定図書	『基礎からのコーポレート・ファイナンス』古川浩一・蜂谷豊彦・中里宗敬・今井潤一（中央経済社）2001.6								
参考書	『ゼミナール コーポレートファイナンス』朝岡大輔・砂川伸幸・岡田紀子（日本経済新聞出版）2022.2								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有。挙手により意見を表明させ共有する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0118201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	コーポレート・ファイナンス2				川口 真一		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>企業は、ヒト・モノ・カネといった経営資源を用いて様々な商品を生産・販売したり、サービスを提供したりすることで利益を得ている。そして、様々な経済環境の中で企業は、①資金の調達、②投資計画、③利益の分配という財務上の決定を行わなければならない。コーポレート・ファイナンス1では、カネ（資金）の面から企業の意思決定を捉える企業財務について扱う。</p> <p>本講義では、企業の資金調達や投資決定、配当政策で重要となる企業価値や法人税について具体例を用いて分かり易く説明する。</p>								
到達目標	経営戦略に関わる企業価値と法人税について理解することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p> <p>講義で配布したレジюме、およびマイクロ経済学の基礎を理解すること。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 企業価値とキャッシュフロー</p> <p>【第2回】 財務諸表とキャッシュフロー</p> <p>【第3回】 企業の投資行動①</p> <p>【第4回】 企業の投資行動②</p> <p>【第5回】 企業の資金調達①</p> <p>【第6回】 企業の資金調達②</p> <p>【第7回】 資本構成と企業価値①</p> <p>【第8回】 資本構成と企業価値②</p> <p>【第9回】 資本構成と法人税①</p> <p>【第10回】 資本構成と法人税②</p> <p>【第11回】 配当政策と株価①</p> <p>【第12回】 配当政策と株価②</p> <p>【第13回】 企業の経営戦略</p>								
成績評価の方法	学期末により評価する（100%）								
フィードバックの内容									
教科書	毎回レジюмеを配布する。								
指定図書	『基礎からのコーポレート・ファイナンス』古川浩一・蜂谷豊彦・中里宗敬・今井潤一（中央経済社）2001.6								
参考書	『ゼミナール コーポレートファイナンス』朝岡大輔・砂川伸幸・岡田紀子（日本経済新聞出版社）2022.2								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有。挙手により意見を表明させ共有する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0112401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	国際金融論 1				外木 好美		第 1 期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	国際金融論 1 では、①財市場、②貨幣市場、③為替市場の各々の市場を理論的に分析します。ここで利用する経済理論は、ミクロ経済学とマクロ経済学、金融論で学んだ内容が基礎となります（主にマクロ経済学）。マクロ経済学や金融論で学んだ金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえて、理論的なアプローチで理解することを目的とします。 国際金融論 2 とセットで受講してください。								
到達目標	①国際的な資金の融通の意味、②物価と金利、為替レートが各市場でどう決まるのか、③金利や生産物の裁定取引を通じた金利や物価と為替レートとの間の関係について、理解することを目標とする。①～③で学ぶ数式について、その意味を理解し、グラフで分析ができるようになります。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の進度にあわせて教科書を読み、各回の復習問題に取り組んで、自身の理解度を確認してください。授業中に基礎となる科目（マクロや金融等）の内容にも触れますが、あくまでも簡単な復習レベルですので、必要に応じて自身でも復習してください。 授業外学習は60時間以上行うこと。								
授業計画	【第 1 回】 ガイダンス、基本的視点の設定：経済学の基本的な考え方 【第 2 回】 基本的視点の設定：金融取引の意味と効果、国境を超えた経済取引を考える 【第 3 回】 国民経済計算と国際収支会計：国民経済計算、GDP の構成要素 【第 4 回】 国民経済計算と国際収支会計：国際収支統計 【第 5 回】 貨幣とマクロ経済：貨幣とその役割、資産としての貨幣とその特徴、貨幣需要、貨幣供給 【第 6 回】 貨幣とマクロ経済：貨幣市場の均衡、貨幣と物価 【第 7 回】 為替レートと外国為替市場 & 第 1 期前半まとめ 【第 8 回】 金利と為替レート（資産市場における裁定）： 金利裁定とカバー付利子平価、カバーなし金利平価と均衡為替レート 【第 9 回】 金利と為替レート（資産市場における裁定）：貨幣市場と外国為替市場（利子率と名目為替レート） 【第 10 回】 金利と為替レート（資産市場における裁定）：リスク・プレミアム 【第 11 回】 金利と為替レート（資産市場における裁定）時間の経過と均衡の変遷 【第 12 回】 物価と為替レート（生産物市場における裁定）（1） 【第 13 回】 物価と為替レート（生産物市場における裁定）（2） & 第 1 期後半まとめ								
成績評価の方法	中間レポート（40%）、期末テスト（60%）で評価を行う。								
フィードバックの内容	各回の復習問題で、習熟度を確認してもらいます。授業の冒頭で、前回授業の復習問題の解説を行いますので、理解不足点等があったら、授業の際に質問をしてください。ミクロ、マクロ、金融と基礎となる科目が多く、どこでつまづいているのかは学生によってバラツキます。勉強したつもりではなく、先生に質問しながら能動的に学習をしてください。								
教科書 指定図書 参考書	『コア・テキスト 国際金融論 第 3 版』藤井 英次（新世社）2024								
教員からのお知らせ	授業では、直感的な理解ができるよう努めます。算数、数学、図、数式等でわからないことがあったら、簡単なことでも、声をかけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容 その他	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								

講義コード	11C0112501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	国際金融論2				外木 好美		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	国際金融論2では、①財市場、②貨幣市場、③為替市場を同時に分析し、一国経済の政策の在り方について学びます。マクロ経済学や金融論で学んだ金融の仕組みや制度、経済政策等について、為替レートや国際収支を通じた影響も踏まえ、理論的なアプローチから理解することが目的です。 国際金融論1とセットで受講して下さい。								
到達目標	①マンデル・フレミング・モデルに基づいて、開放経済の下での経済政策について理解すること、②現代の国際金融を取り巻く問題を知ることを目標とします。 国際金融論1で学習した3つの市場の分析を基礎とし、これらを組み合わせた分析を行います。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の進度にあわせて教科書を読み、各回の復習問題に取り組んで、自身の理解度を確認してください。授業中に基礎となる科目（マクロや金融等）の内容にも触れますが、あくまでも簡単な復習レベルですので、必要に応じて自身でも復習してください。 授業外学習は60時間以上行うこと。								
授業計画	【第1回】 為替レートと実体経済：総需要と総供給、総需要とその決定要因（内需、外需） 【第2回】 為替レートと実体経済：生産物市場の短期均衡、経常収支の考察 【第3回】 為替レートと開放マクロ経済政策：生産物市場と資産市場の同時均衡（閉鎖経済）（1） 【第4回】 為替レートと開放マクロ経済政策：生産物市場と資産市場の同時均衡（閉鎖経済）（2） 【第5回】 為替レートと開放マクロ経済政策：開放経済への拡張（マンデル・フレミングモデル） 【第6回】 為替レートと開放マクロ経済政策：変動相場制における金融・財政政策の効果&国際資本移動の規制と政策効果 【第7回】 為替レートと開放マクロ経済政策：予想の変化と政策効果、短期から長期への均衡の変遷 【第8回】 第2期前半のまとめ 【第9回】 為替政策（為替介入と為替相場制度）：為替相場制度の選択、為替介入 【第10回】 為替政策（為替介入と為替相場制度）：固定相場制度 【第11回】 為替政策（為替介入と為替相場制度）：固定相場制度下の金融・財政政策、通貨同盟と最適通貨圏 【第12回】 国際金融を取り巻く難問（1） 【第13回】 国際金融を取り巻く難問（2）&第2期後半のまとめ								
成績評価の方法	中間レポート（40%）、期末テスト（60%）で評価を行う。								
フィードバックの内容	各回の復習問題で、習熟度を確保してもらいます。授業の冒頭で、前回授業の復習問題の解説を行いますので、理解不足点等があったら、授業の際に質問をしてください。ミクロ、マクロ、金融と基礎となる科目が多く、どこでつまづいているのかは学生によってバラツキます。勉強したつもりではなく、先生に質問しながら能動的に学習をしてください。								
教科書	『コア・テキスト 国際金融論 第3版』藤井 英次（新世社）2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業では、直感的な理解ができるよう努めます。算数、数学、図、数式等でわからないことがあったら、簡単なことでも、声をかけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0112201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	山本 勝造	開講期	第1期														
科目名	国際経済学1				山本 勝造			第1期															
履修前条件					備考																		
授業の目的	<p>本講義は、国際貿易に関する基礎理論の習得および国際経済を取り巻く貿易上の諸問題の理解を目的とする。具体的な学修テーマを以下に列挙する。</p> <p>(1) 各国は貿易によってどのような利益を得られるのか。 (2) 貿易によって所得格差は拡大するのか。 (3) 各国はなぜ保護貿易政策を行うのか。 (4) 世界的な貿易自由化はいかにして進められてきたのか。 (5) 企業はどのような目的で海外に生産拠点を移すのか。</p>																						
到達目標	<p>1. 基礎的な専門用語の意味を説明できるようになる。 2. 貿易パターン、貿易政策、国際資本移動の経済効果について説明できるようになる。 3. 保護貿易、貿易交渉、企業の国際化など、国際経済現象の要因と課題を指摘できるようになる。 4. 経済に関するニュースや記事に関心を払い、論理的に考察できるようになる。</p>																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>本科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業終了後に OpenLMS にて小テストを実施するので、授業内容を復習した上で、期限内に小テストの受験を完了すること。</p>																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】なぜ貿易を行うのか？ (1)</td> <td>【第8回】なぜ貿易を制限するのか？ (2)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】なぜ貿易を行うのか？ (2)</td> <td>【第9回】なぜ貿易を制限するのか？ (3)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】なぜ貿易を行うのか？ (3)</td> <td>【第10回】貿易自由化をどう進めるのか？ (1)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】貿易は格差を解消するのか？ (1)</td> <td>【第11回】貿易自由化をどう進めるのか？ (2)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】貿易は格差を解消するのか？ (2)</td> <td>【第12回】なぜ企業は海外に進出するのか？ (1)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】貿易は格差を解消するのか？ (3)</td> <td>【第13回】なぜ企業は海外に進出するのか？ (2)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】なぜ貿易を制限するのか？ (1)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】なぜ貿易を行うのか？ (1)	【第8回】なぜ貿易を制限するのか？ (2)	【第2回】なぜ貿易を行うのか？ (2)	【第9回】なぜ貿易を制限するのか？ (3)	【第3回】なぜ貿易を行うのか？ (3)	【第10回】貿易自由化をどう進めるのか？ (1)	【第4回】貿易は格差を解消するのか？ (1)	【第11回】貿易自由化をどう進めるのか？ (2)	【第5回】貿易は格差を解消するのか？ (2)	【第12回】なぜ企業は海外に進出するのか？ (1)	【第6回】貿易は格差を解消するのか？ (3)	【第13回】なぜ企業は海外に進出するのか？ (2)	【第7回】なぜ貿易を制限するのか？ (1)	
【第1回】なぜ貿易を行うのか？ (1)	【第8回】なぜ貿易を制限するのか？ (2)																						
【第2回】なぜ貿易を行うのか？ (2)	【第9回】なぜ貿易を制限するのか？ (3)																						
【第3回】なぜ貿易を行うのか？ (3)	【第10回】貿易自由化をどう進めるのか？ (1)																						
【第4回】貿易は格差を解消するのか？ (1)	【第11回】貿易自由化をどう進めるのか？ (2)																						
【第5回】貿易は格差を解消するのか？ (2)	【第12回】なぜ企業は海外に進出するのか？ (1)																						
【第6回】貿易は格差を解消するのか？ (3)	【第13回】なぜ企業は海外に進出するのか？ (2)																						
【第7回】なぜ貿易を制限するのか？ (1)																							
成績評価の方法	「各回の小テスト50% (小テストの合計点を50点満点に換算)、期末試験50%」で評価する。																						
フィードバックの内容	小テストの結果と解答は OpenLMS にて開示するので、復習および点数の確認に利用すること。																						
教科書	指定なし																						
指定図書	指定なし																						
参考書	『国際経済学をつかむ (第2版)』石川 城太 他 (有斐閣) 2013、『国際経済学へのいざない (第2版)』友原 章典 (日本評論社) 2014、『クルーグマン国際経済学 理論と政策 (原著第10版) 上 貿易編』P.R. クルーグマン 他 (丸善出版) 2017																						
教員からのお知らせ	各回の授業資料は、授業前日に OpenLMS にアップロードします。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、OpenLMS のメッセージ機能およびメールでも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習 (小テストに対する教員からのフィードバック)																						
実践的な教育内容																							
その他	教員メールアドレス uf06120ko [at] rissho-univ.jp ([at] はアットマークに書き換えてください。)																						

講義コード	11C0112301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	山本 勝造	開講期	第2期														
科目名	国際経済学2				山本 勝造			第2期															
履修前条件					備考																		
授業の目的	<p>本講義は、国際マクロ経済学に関する基礎理論の修得および国際経済を取り巻く金融上の諸問題の理解を目的とする。具体的な学修テーマを以下に列挙する。</p> <p>(1) 国際収支表から何が読み取れるのか。 (2) 国内需要・IS バランス・為替レートが、国際収支にどのような影響を与えるのか。 (3) 利子率と物価が、為替レートにどのような影響を与えるのか。 (4) 為替相場制度によって金融政策の効果がどのように変わるのか。</p>																						
到達目標	<p>1. 基礎的な専門用語の意味を説明できるようになる。 2. 国際収支や為替レートの変動について、国際マクロ経済学の考え方をを用いて説明できるようになる。 3. 通貨危機や通貨統合など、国際経済現象の要因と課題を指摘できるようになる。 4. 経済に関するニュースや記事に関心を払い、論理的に考察できるようになる。</p>																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>本科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業終了後に OpenLMS にて小テストを実施するので、授業内容を復習した上で、期限内に小テストの受験を完了すること。</p>																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】国際収支表の見方 (1)</td> <td>【第8回】為替レートの決定理論 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】国際収支表の見方 (2)</td> <td>【第9回】為替レートの決定理論 (4)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】国際収支の決定理論 (1)</td> <td>【第10回】為替相場制度とマクロ経済政策 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】国際収支の決定理論 (2)</td> <td>【第11回】為替相場制度とマクロ経済政策 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】国際収支の決定理論 (3)</td> <td>【第12回】為替相場制度とマクロ経済政策 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】為替レートの決定理論 (1)</td> <td>【第13回】為替相場制度とマクロ経済政策 (4)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】為替レートの決定理論 (2)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】国際収支表の見方 (1)	【第8回】為替レートの決定理論 (3)	【第2回】国際収支表の見方 (2)	【第9回】為替レートの決定理論 (4)	【第3回】国際収支の決定理論 (1)	【第10回】為替相場制度とマクロ経済政策 (1)	【第4回】国際収支の決定理論 (2)	【第11回】為替相場制度とマクロ経済政策 (2)	【第5回】国際収支の決定理論 (3)	【第12回】為替相場制度とマクロ経済政策 (3)	【第6回】為替レートの決定理論 (1)	【第13回】為替相場制度とマクロ経済政策 (4)	【第7回】為替レートの決定理論 (2)	
【第1回】国際収支表の見方 (1)	【第8回】為替レートの決定理論 (3)																						
【第2回】国際収支表の見方 (2)	【第9回】為替レートの決定理論 (4)																						
【第3回】国際収支の決定理論 (1)	【第10回】為替相場制度とマクロ経済政策 (1)																						
【第4回】国際収支の決定理論 (2)	【第11回】為替相場制度とマクロ経済政策 (2)																						
【第5回】国際収支の決定理論 (3)	【第12回】為替相場制度とマクロ経済政策 (3)																						
【第6回】為替レートの決定理論 (1)	【第13回】為替相場制度とマクロ経済政策 (4)																						
【第7回】為替レートの決定理論 (2)																							
成績評価の方法	「各回の小テスト50% (小テストの合計点を50点満点に換算)、期末試験50%」で評価する。																						
フィードバックの内容	小テストの結果と解答は OpenLMS にて開示するので、復習および点数の確認に利用すること。																						
教科書	指定なし																						
指定図書	指定なし																						
参考書	『国際金融入門 (新版)』岩田 規久男 (岩波書店) 2009、『コア・テキスト国際金融論 (第2版)』藤井 英次 (サイエンス社) 2013、『クルーグマン国際経済学 理論と政策 (原著第10版) 下: 金融編』P.R. クルーグマン 他 (丸善出版) 2017																						
教員からのお知らせ	各回の授業資料は、授業前日に OpenLMS にアップロードします。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、OpenLMS のメッセージ機能およびメールでも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習 (小テストに対する教員からのフィードバック)																						
実践的な教育内容																							
その他	教員メールアドレス uf06120ko [at] rissho-univ.jp ([at] はアットマークに書き換えてください。)																						

講義コード	11C0111201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	財政学Ⅰ				川口 真一		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義の目的は、少子高齢化や所得格差の拡大が進むわが国において、財政には経済学的にどのような役割や機能があるのかを学ぶことにある。財政学とは政府が行う経済活動を分析する学問である。本講義では、主に「財政学の基礎」と「市場の失敗と政府の役割」について学んでいく。								
到達目標	財政の制度や機能、役割を理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を理解しておくこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 財政の役割 【第2回】 財政の仕組み 【第3回】 経済分析の基本ツール① 【第4回】 経済分析の基本ツール② 【第5回】 市場と効率性① 【第6回】 市場と効率性② 【第7回】 外部性 【第8回】 公共財① 【第9回】 公共財② 【第10回】 社会厚生と再分配政策① 【第11回】 社会厚生と再分配政策② 【第12回】 効率性と再分配政策① 【第13回】 効率性と再分配政策② 								
成績評価の方法	学期末試験（100％）により評価する。								
フィードバックの内容									
教科書	『財政学をつかむ〔第3版〕』畑農鋭矢、林正義、吉田浩（有斐閣）2024.3								
指定図書	『財政学をつかむ〔第3版〕』畑農鋭矢、林正義、吉田浩（有斐閣）2024.3								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有。挙手により意見を表明させ共有する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0111301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	財政学Ⅱ				川口 真一		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義の目的は、少子高齢化や所得格差の拡大が進むわが国において、財政には経済学的にどのような役割や機能があるのかを学ぶことにある。財政学とは政府が行う経済活動を分析する学問である。本講義では、主に「租税制度とその効果」と「政府支出と社会保障」について学んでいく。								
到達目標	財政の制度や機能、役割を理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を理解しておくこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 租税の基礎理論 【第2回】 消費に対する課税① 【第3回】 消費に対する課税② 【第4回】 所得に対する課税① 【第5回】 所得に対する課税② 【第6回】 法人に対する課税① 【第7回】 法人に対する課税② 【第8回】 資産に対する課税 【第9回】 公的年金 【第10回】 医療・介護 【第11回】 子育て・教育 【第12回】 生活保護と公的扶助① 【第13回】 生活保護と公的扶助② 								
成績評価の方法	学期末試験（100％）により評価する。								
フィードバックの内容									
教科書	『財政学をつかむ〔第3版〕』畑農鋭矢、林正義、吉田浩（有斐閣）2024.3								
指定図書	『財政学をつかむ〔第3版〕』畑農鋭矢、林正義、吉田浩（有斐閣）2024.3								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有。挙手により意見を表明させ共有する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C3115301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	安部 秀俊	開講期	第2期
科目名	財務諸表論							第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>企業の通信簿としての財務諸表（※）について下記の到達目標3点をつかむことを目的とします。 ※貸借対照表や損益計算書、キャッシュ・フロー計算書等が該当します。 前半では財務諸表の作り手の立場からその考え方を中心に学習し、後半では財務諸表を利用する側の立場から分析の方法を学習します。</p>								
到達目標	<p>①財務諸表の種類や基本的な作成方法を知る。 ②財務諸表作成上の裏付けとなる考え方の基本を押さえる。 ③財務諸表を利用する立場から、その見方や分析方法の基本を押さえる。 企業の財務諸表を見て、その企業の良し悪しが判断できるようになれば、将来色々な場面で役立てることが出来ます。</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>・講義プリントの熟読とキーワードの暗記が必要です。 ・財務分析では企業の状況を把握するために、様々な指標となる率を計算できるように、算式を押さえる必要があります。 復習に時間をかけてください。 この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス / 財務諸表の種類とディスクロージャー制度の紹介 【第2回】 企業会計原則に基づく伝統的な利益計算構造の体系① 【第3回】 企業会計原則に基づく伝統的な利益計算構造の体系② 【第4回】 グローバルな視点を取り入れた近年の利益計算構造の体系① 【第5回】 グローバルな視点を取り入れた近年の利益計算構造の体系② 【第6回】 グローバルな視点を取り入れた近年の利益計算構造の体系③ 【第7回】 グローバルな視点を取り入れた近年の利益計算構造の体系④ 【第8回】 決算書の見方（概要） 【第9回】 企業が儲ける力（収益性）を把握するための方法 【第10回】 企業の財務体質を見て安全性を把握する方法 【第11回】 企業の成長性分析 【第12回】 キャッシュ・フロー分析の必要性、資金と利益の関係性、資金の増減原則 【第13回】 キャッシュ・フロー計算書（作成方法および分析方法）および総まとめ</p>								
成績評価の方法	全15回の Web ミニテストの解答状況（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）により評価致します。								
フィードバックの内容	ミニテストの模範解答を実施後にフィードバックします。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	<p>今後の生活や仕事に役立つ内容を学習します。会計独特の難しい表現や財務分析上の算式も登場しますが、ポイントを押さえていただければと思います。積極的な姿勢で講義にご参加ください。 配付又は投稿するプリントにて講義を行いますので教科書を購入する必要はございません。</p>								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返りとして、小テストに対するフィードバックを行い振り返りを行います。								
実践的な教育内容	公認会計士・税理士として実務経験を活かして、財務諸表の活用について講義します								
その他									

講義コード	11C0119101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	産業組織論				渡部 真弘			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	進級要件科目群において習得済みである知識・技能を活用することで、不完全競争市場における経済主体の行動や経済厚生を考察する能力の付与を目的とする。								
到達目標	不完全競争市場に関する題材に対して、文字式を用いた理論的分析が可能となる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間(計60時間以上)の授業外学修が必要である。								
授業計画	<p>【第1回】進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・マイクロ経済学基礎における学修成果の再評価、経済主体と市場形態の分類</p> <p>【第2回】需要の自己価格弾力性・交差価格弾力性</p> <p>【第3回】第3次価格差別、ラーナー指数</p> <p>【第4回】第2回・第3回で扱った内容の振り返り、応用問題の解説</p> <p>【第5回】需要の価格弾力性と需要曲線の傾きの関係</p> <p>【第6回】需要の価格弾力性と収入の関係、所有と経営の分離</p> <p>【第7回】第5回・第6回で扱った内容の振り返り、応用問題の解説</p> <p>【第8回】独占企業の利潤最大化行動(1):利潤最大化条件、限界収入関数、限界費用関数</p> <p>【第9回】独占企業の利潤最大化行動(2):逆弾力性ルール</p> <p>【第10回】独占企業の利潤最大化条件(3):消費者余剰、生産者余剰</p> <p>【第11回】独占企業の利潤最大化条件(4):弾力性が一定である需要関数・逆需要関数の下での余剰分析</p> <p>【第12回】第8回～第11回で扱った内容の振り返り</p> <p>【第13回】まとめ</p>								
成績評価の方法	評価割合は、授業第1回に実施する進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・マイクロ経済学基礎で扱われた内容に関する学修成果の再評価に向けた試験10%、小テスト(授業第2回～授業第12回の11回分)40%、期末試験50%とする。								
フィードバックの内容	(1)進級要件科目である数学基礎・統計学基礎・マイクロ経済学基礎における学修成果の再評価に向けた試験について、採点結果に対する講評を行う。 (2)小テストの答案を採点した後、理解が不十分であると判断される内容を授業時間内で補足する。 (3)成績評価確定後、授業実施報告書を作成・配布する。								
教科書 指定図書									
参考書	『レヴィット ミクロ経済学 基礎編』Austan Goolsbee, Steven Levitt, Chad Syverson (東洋経済新報社) 2017、『レヴィット ミクロ経済学 発展編』Austan Goolsbee, Steven Levitt, Chad Syverson (東洋経済新報社) 2018、『Essential Mathematics for Economic Analysis (4th Edition)』Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom (Pearson) 2012、『Mathematical Analysis: A Straightforward Approach (2nd Edition)』K.G. Binmore (Cambridge University Press) 1982								
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではないことに加えて、試験問題は事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 事前に連絡があれば他の曜日・時間帯に対面・オンラインでも面談を実施する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り:小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
実践的な教育内容									
その他	進級要件科目群において十分な学修成果が確認されなかった場合、進級要件科目に含まれていた数学基礎で扱われるべき正しい内容をまとめた資料を自習用の教材として配布する。授業時間内に他の教員の担当科目の補講は行わない。								

講義コード	11C0122601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	宮川 幸三	開講期	第1期
科目名	実証経済分析 1							第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	近年、統計データに基づく分析から得られたエビデンスを活用して政策を立案する、いわゆる EBPM (Evidence Based Policy Making) の重要性が広く認知されている。しかし政策の効果を検証するためには、正しい手法によって分析を行うことが不可欠である。本講義では、このような問題意識に基づいて実証経済分析の様々な手法を学ぶ。またパソコン演習を行い、実践的な分析能力を養う。								
到達目標	データ発生メカニズムを理解し、適切な手法によって経済データを用いた実証分析を行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、配布資料の該当箇所を読み予習・復習を行うこと。授業中に行ったパソコン演習の復習を欠かさず行なうこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 経済理論の実証 【第2回】 因果関係と相関関係 【第3回】 ランダム化比較試験 【第4回】 仮説検定 (1) 【第5回】 仮説検定 (2) 【第6回】 自然実験・疑似実験 (1) 【第7回】 自然実験・疑似実験 (2) 【第8回】 回帰分析 (1) 【第9回】 回帰分析 (2) 【第10回】 回帰分析 (3) 【第11回】 DID - 差分の差分法 (1) 【第12回】 DID - 差分の差分法 (2) 【第13回】 経済政策と実証経済分析 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%)、課題 (30%)、期末レポート (40%) によって評価する。到達目標に記載の内容について、自らの力で適切な分析をできることを期末レポートの評価基準とする。								
フィードバックの内容	課題の解説を授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『効果検証入門～正しい比較のための因果推論 / 計量経済学の基礎』安井翔太 (技術評論社) 2020年、『原因と結果の経済学 - データから真実を見抜く思考法』中室牧子、津川友介 (ダイヤモンド社) 2017年、『44の例題で学ぶ計量経済学』唐渡広志 (オーム社) 2013年								
教員からのお知らせ	統計学や計量経済学および Excel の操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0122701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	宮川 幸三	開講期	第2期
科目名	実証経済分析 2							第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	一般均衡理論の実証分析への適用事例の1つとして、産業連関分析がある。産業連関分析のもとになる産業連関表は、国民経済の体系を記述する経済統計としても重要な意味を持っている。本講義では、産業連関表を通して一国経済の産業構造を観察・分析する手法を学ぶ。								
到達目標	産業連関表の枠組みを理解し、GDP の概念や三面等価について説明できる。 産業連関分析の手法を理解したうえで、実際に産業連関表を用いて適切な分析を行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、配布資料の該当箇所を読み予習・復習を行うこと。授業中に行ったパソコン演習の復習を欠かさず行なうこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 産業連関分析とは 【第2回】 産業連関表と GDP 【第3回】 日本の産業連関表 (1) 【第4回】 日本の産業連関表 (2) 【第5回】 3部門モデル (1) 【第6回】 3部門モデル (2) 【第7回】 行列計算の基礎 【第8回】 均衡産出高モデルの基礎 (1) 【第9回】 均衡産出高モデルの基礎 (2) 【第10回】 均衡産出高モデルの基礎 (3) 【第11回】 産業連関分析の応用 (1) 【第12回】 産業連関分析の応用 (2) 【第13回】 分析事例の紹介 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%)、課題 (30%)、期末レポート (40%) によって評価する。到達目標に記載の内容について、自らの力で適切な分析をできることを期末レポートの評価基準とする。								
フィードバックの内容	課題の解説を授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	数学基礎やマクロ経済学および Excel の操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、演習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C3115401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	安部 秀俊	開講期	第1期	
科目名	実践簿記1									
履修前条件					備考					
授業の目的	簿記は、企業活動や経営を理解するため、経理・会計担当者のみならず、業種・職種を問わず企業人すべてに必要とされる知識です。ビジネスの最前線で活躍されている方の多くは、簿記の知識を実務に活かしています。日商簿記検定の資格取得に向けた学習を通じて、より高いレベルでの習得を目的とします。									
到達目標	簿記の基本用語を説明することができる。企業の日常業務における実践的な取引の記録を行うことができる。小規模企業の決算書を作成することができる。日商簿記3級に合格することができる。									
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、次回の授業内で実施する小テストで正答を出せるように復習をするようにしてください。									
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 簿記の目的 【第2回】 簿記一巡・試算表の作成 【第3回】 商品売買 【第4回】 現金預金 【第5回】 手形等 【第6回】 債権債務 【第7回】 税金、資本等 【第8回】 決算① 【第9回】 決算② 【第10回】 決算③ 【第11回】 財務諸表、収益費用 【第12回】 棚卸資産 【第13回】 総まとめ 									
成績評価の方法	授業中の確認テスト（40%）、授業内試験（60%）で評価する。									
フィードバックの内容	授業中の確認テストの模範解答をテスト終了後に配付する。									
教科書	『検定簿記講義／3級商業簿記』 渡部 裕巨 編著 片山 覚 編著 北村 敬子 編著（中央経済社）最新版を用意してください									
指定図書										
参考書										
教員からのお知らせ	この授業とともに第2期の科目である「実践簿記2」を履修してください。「実践簿記2」はこの授業を履修したことを前提に講義を進めます。									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。									
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、演習を実施し意見共有する									
実践的な教育内容	公認会計士・税理士として実務経験を活かして、簿記技術の活用の仕方について講義します									
その他	就職部が主催するキャリア開発簿記検定3級講座、2級講座の同時受講をお勧めします。									

講義コード	11C3115501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	安部 秀俊	開講期	第2期	
科目名	実践簿記2									
履修前条件					備考					
授業の目的	簿記は、企業活動や経営を理解するため、経理・会計担当者のみならず、業種・職種を問わず企業人すべてに必要とされる知識です。第1期の科目である「実践簿記1」の学習内容を修得していることを前提に、「実践簿記1」では取り上げない知識を上積みし、日商簿記2級商業簿記合格レベルの知識の修得を目的とします。									
到達目標	中規模企業の決算書を作成することができる。財務諸表の数字から経営内容を把握できる。日商簿記2級の商業簿記で合格点を獲得することができる。									
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、次回の授業内で実施する確認テストで正答を出せるように復習をするようにしてください。									
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 実践簿記1の振り返り 【第2回】 現金預金、債権債務 【第3回】 有価証券 【第4回】 固定資産 【第5回】 リース、ソフトウェア 【第6回】 為替換算 【第7回】 引当金、法人税等 【第8回】 純資産、企業結合 【第9回】 株主資本等変動計算書 【第10回】 連結会計① 【第11回】 連結会計② 【第12回】 総まとめ① 【第13回】 総まとめ② 									
成績評価の方法	授業中の確認テスト（40%）、授業内試験（60%）で評価する。									
フィードバックの内容	授業中の確認テストの模範解答をテスト終了後に配付する。									
教科書	『検定簿記講義／2級商業簿記』 渡部 裕巨 編著 片山 覚 編著 北村 敬子 編著（中央経済社）最新版を用意してください									
指定図書										
参考書										
教員からのお知らせ	この授業とともに第1期の科目である「実践簿記1」を履修してください。この授業は「実践簿記1」を履修したことを前提に講義を進めます。									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。									
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、演習を実施して意見共有を行う									
実践的な教育内容	公認会計士・税理士として実務経験を活かして、簿記技術の活用の仕方について講義します									
その他	就職部が主催するキャリア開発簿記検定3級講座、2級講座の同時受講をお勧めします。									

講義コード	11C0104501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	社会学の世界				加藤 宏		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	社会学は近代社会と共に生まれた学問であり、近・現代社会の多様な社会問題と社会現象を分析してきた。前半では、社会学がどのような学問であるのか、その視点や考え方を現代的な社会現象の分析を通して紹介する。また後半では「消費社会」、「環境問題」、「グローバル化」といった概念から現代社会の変化をとらえる議論を紹介し、現代社会の抱える諸問題を考察していく。								
到達目標	社会学の考え方を理解できる。「自我」「ジェンダー」「家族」「環境問題」、「グローバル化」といった項目を社会学の視点から説明できる。現代の諸問題を理解し現代人として社会への参加に寄与できる。社会学的想像力を獲得し社会的な世界のための地図を各自が作り、現代の街路を歩けるようになることが目標となる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行なうこと。各回の授業で扱う項目について、授業レジュメを参考に、各回ごとに復習し、各自の理解力を点検すること。また講義であげる参考文献や指定図書を積極的に読むこと。								
授業計画	【第1回】 講義ガイダンス 社会学的想像力について社会学とはどういう学問か-「はじめ」現象の社会学的理解 【第2回】 「自我」の社会性について 【第3回】 日常生活のなかのアイデンティティ管理 【第4回】 親密性の変容 近代家族の誕生とその変容 【第5回】 ジェンダー1 ジェンダーとは何か 【第6回】 ジェンダー2 日本での職業における女性差別 【第7回】 日本の若者の「職業世界」1 学校から職業への移行 【第8回】 日本の若者の「職業世界」2 雇用流動化政策とフリーター問題、働く世界の変容 【第9回】 現代社会1 資本主義はどのように登場しどのように危機を迎えたか 【第10回】 現代社会2 「豊かな」社会=高度情報消費社会の登場 【第11回】 現代社会3 「豊かな」社会と限界問題-公害、環境問題 【第12回】 現代社会4 グローバル化と南北問題 【第13回】 現代社会4 グローバル化の変容 全体のまとめ 再び社会学的想像力について								
成績評価の方法	期末試験（85%）、毎回のリアクションレポート等授業への取り組み姿勢（15%）で評価する。到達目標に記載の内容を理解し自身の言葉で説明できることを定期試験の評価基準とする。								
フィードバックの内容	各回のリアクションレポート（各回のまとめと感想400字～800字）に対するフィードバックを翌週授業内冒頭に行う。								
教科書									
指定図書	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 マックス・ヴェーバー（岩波書店）1989、『自殺論』 エミール・デュルケム（中央公論社）1985、『社会学入門-人間と社会の未来』 見田宗介（岩波書店）2006、『ソシオロジカル・イメージネーション』 鈴木／澤井編（八千代出版）1997、『社会学』 長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志（有斐閣）2007、『失われざる十年の記憶1990年代の社会学』 鈴木／西田編（青弓社）2012								
参考書									
教員からのお知らせ	教科書は使用しない。資料・レジュメ等を適宜配布する。また参考書は講義時に随時紹介する。映像を適宜使用する。リアクションペーパーを毎回実施する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	リアクションレポートに対する教員からのフィードバックによる振り返り。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0121401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	社会保障論1				青木 由香		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	社会保障は、私たちが生涯を通じて直面する生活上のさまざまな困難に対して、生活の安定をはかり、最低水準の生活を保障する公的な制度である。 この授業では社会保障制度の全体像について紹介するとともに、各制度の概要とその課題、制度の動向について講義する。								
到達目標	①社会保障制度の理念や機能、体系について理解し、社会保障の意義について説明できる。 ②各制度の概要を理解し、その役割を説明できる。 ③各制度が抱える具体的な課題を説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、講義ノートや配布資料を使用して、予習・復習をすること。								
授業計画	【第1回】ガイダンス（授業のテーマ、到達目標、授業方法の説明）・社会保障とは何か 【第2回】社会保障の理念と機能 【第3回】社会保障の歴史（1）欧米における社会保障の歴史 【第4回】社会保障の歴史（2）日本における社会保障の歴史 【第5回】社会保障の体系と構造 【第6回】社会保障の費用と財源 【第7回】医療保険制度（1）医療保険制度の全体像と動向 【第8回】医療保険制度（2）健康保険制度と国民健康保険制度の概要 【第9回】医療保険制度（3）後期高齢者医療制度の概要と医療費の動向 【第10回】介護保険制度（1）介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 【第11回】介護保険制度（2）介護保険制度の概要 【第12回】介護保険制度（3）介護保険制度の課題と展望 【第13回】最新の社会保障制度の動向								
成績評価の方法	授業への取り組み（30%）、中間課題（30%）、期末課題（40%）で評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパー等に対するフィードバックを翌週授業内にて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書は使用しない。参考文献等は授業内で紹介する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メールにて受け付けます。宛先は最初の授業で指示します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り。								
実践的な教育内容									
その他	社会保障は、私たちの生活の諸側面と深く関わる制度です。日々のニュースや身近な話題と関連付けながら理解を深めてください。								

講義コード	11C0121501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	社会保障論2				青木 由香		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	社会保障は、私たちが生涯を通じて直面する生活上のさまざまな困難に対して、生活の安定をはかり、最低水準の生活を保障する公的な制度である。 この授業では社会保障制度の全体像について紹介するとともに、各制度の概要とその課題、制度の動向について講義する。								
到達目標	①社会保障制度の理念や機能、体系について理解し、社会保障の意義について説明できる。 ②各制度の概要を理解し、その役割を説明できる。 ③各制度が抱える具体的な課題を説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、講義ノートや配布資料を使用して、予習・復習をすること。								
授業計画	【第1回】ガイダンス（授業のテーマ、到達目標、授業方法の説明）・社会保障制度の類型 【第2回】所得保障制度のしくみ 【第3回】公的年金制度（1）国民皆年金と公的年金制度の全体像 【第4回】公的年金制度（2）国民年金の概要 【第5回】公的年金制度（3）厚生年金の概要 【第6回】労働保険制度（1）雇用保険制度 【第7回】労働保険制度（2）労働者災害補償保険制度 【第8回】公的扶助制度（1）生活保護制度のしくみ 【第9回】公的扶助制度（2）低所得者対策 【第10回】公的扶助制度（3）近年の動向 【第11回】社会福祉制度（1）子ども・子育て支援制度 【第12回】社会福祉制度（2）障害者福祉 【第13回】社会福祉制度（3）社会手当								
成績評価の方法	授業への取り組み（30%）、中間課題（30%）、期末課題（40%）で評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパー等に対するフィードバックを翌週授業内にて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書は使用しない。参考文献等は授業内に紹介する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メールにて受け付けます。宛先は最初の授業で指示します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り。								
実践的な教育内容									
その他	社会保障は、私たちの生活の諸側面と深く関わる制度です。日々のニュースや身近な話題と関連付けながら理解を深めてください。								

講義コード	11C0122801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	証券市場論 1				外木 好美		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	資金余剰主体から、資金不足主体へと資金の移転をいかに効率的にするのか、そしてそのシステムのあり方について、学習します。この授業では、主に市場を通じた資金調達手段にスポットをあて、株価や債券価格、利回り等がどう決定されるのか学びます。また、将来の不確実性（例えば価格変動リスク）へのリスクマネジメントの手段としての、金融派生商品（デリバティブ）取引についても扱います。								
到達目標	①市場を通じた資金調達の手段と、市場がうまく機能するための工夫（システム）を知る、②株や債券の価格決定メカニズムと利回りの計算方法を理解する、③様々な金融派生商品があることを知り、それぞれどのようなリスクに備えた商品なのかを理解する、④各金融派生商品の損益計算を理解することを到達目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業の進度に合わせて教科書を読み、各章の復習問題に取り組んで、自身の理解度を確認してください。日経新聞に目を通し、授業内容と関係ある記事がないか確認しましょう。また、授業であつかった金融商品として具体的にどういったものがあるのか、インターネット等で調べてみましょう。 授業外学習は60時間以上行うこと。								
授業計画	【第1回】 金融の役割 【第2回】 金融機関の機能 【第3回】 金融資産のリターンとリスク 【第4回】 金融商品の価格 【第5回】 金融市場の役割 【第6回】 金融取引と金融システム 【第7回】 債券市場の特徴&第1期前半まとめ				【第8回】 株式市場の特徴 【第9回】 金融市場の効率性 【第10回】 証券化商品市場 【第11回】 金融派生商品市場Ⅰ：先物 【第12回】 金融派生商品市場Ⅱ：オプション 【第13回】 金融派生商品市場Ⅲ： スワップ取引&第1期後半まとめ				
成績評価の方法	中間レポート（40％）と期末テスト（60％）で評価します。								
フィードバックの内容	授業の冒頭で、前回授業の復習問題の解説を行いますので、理解不足点等があったら、授業の際に質問をしてください。勉強したつもりではなく、先生に質問しながら能動的に学習をしてください。								
教科書	『テキスト 金融論 第2版』堀江康熙・有岡律子（新世社）2021/ 3 /30								
指定図書									
参考書	『証券論 — History, Logic, and Structure』大村 敬一、俊野 雅司（有斐閣）2014、『金融論 — 市場と経済政策の有効性 新版』福田 慎一（有斐閣）2020/ 3 /26								
教員からのお知らせ	ミクロ経済学の需給均衡による価格決定メカニズムや情報の非対称性の考え方、基礎統計の平均や分散、金融論の裁定条件を使います。数学、図、数式等でわからないことがあったら、些細な事でも、声をかけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
その他									

講義コード	11C0122901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	証券市場論2				外木 好美		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	家計が、所得を消費と貯蓄にどう配分するのか、そして資産形成する際に安全資産と危険資産の割合をどう決定するのかを、ミクロ経済理論（消費者の効用最大化問題）に基づいて理解することを目的とします。証券市場論1で、「金融資産のリターンとリスク」として直観的に学んだ内容について、その理論的背景を1つ1つ追っていきます。ミクロ経済学と統計基礎を履修済みであることが、望ましいです。								
到達目標	①一生を通じた消費、貯蓄、資産残高の推移を図示できる、②所得の消費と貯蓄への配分を、消費者第2期間モデルから理解する、③不確実性に対する危険回避行動について知る、④分散投資でリスクを軽減するメカニズムを理解する、⑤リスク回避度により安全資産と危険資産の割合が決まることを理解する、⑥CAPMが何かを知る。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	数式や図が多く出てきます。授業後、数式や図をひとつひとつ丁寧に書きなおし、理解の定着を図りましょう。その際、単に写すのではなく、なぜその計算になるのか、なぜその図になるのかも一緒に考えましょう。授業外学習は60時間以上、行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 消費者の効用最大化行動の復習（1） 【第3回】 消費者の効用最大化行動の復習（2） 【第4回】 ライフサイクル仮説 【第5回】 消費者の効用最大化行動－第2期間モデル（1） 【第6回】 消費者の効用最大化行動－利子率の変化と貯蓄（2） 【第7回】 統計基礎の復習（期待値、分散）、サンクトペテルブルクのパラドックスと期待効用仮説&前半のまとめ 【第8回】 平均－分散アプローチ、資産の組み合わせとリスクの分散（2つの資産） 【第9回】 機械曲線（2つの資産、多数の資産） 【第10回】 マルコヴィッツの資産選択理論 【第11回】 資本市場線と分離定理 【第12回】 安全資産と危険資産の組み合わせ 【第13回】 CAPM（Capital Asset Pricing Model）&後半のまとめ								
成績評価の方法	中間レポート（40%）と期末テスト（60%）で評価します。								
フィードバックの内容	数式や図を多く扱います。皆さんが、中間レポートや期末テストの準備ができるよう、相談を受け付けます。数式になれていないために「解答の書き方がわからない」ケースが多いです。算数・数学のレベルは学生それぞれで異なりますので、個々に解答の書き方を指導します。基本的な事からでも結構ですので、授業の際に声をかけてください。								
教科書	『金融論 ― 市場と経済政策の有効性 新版』福田 慎一（有斐閣）2020/ 3 /26								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	ミクロ経済学と統計学を使います。数式や図がほとんどです。そのため、どこでつまづくかは学生によってバラツキます。個別に質問をしてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0123701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	王 偉杰	開講期	第2期				
科目名	商法												
履修前提条件					備考								
授業の目的	この授業では、企業活動を規律する法律の基礎を学び、会社法をはじめ、商行為法等の専門分野の法律に対する理解を促すことを目的とします。商法の核心的内容である会社法に授業の重心を置きながらも、他の関連法律、及び商法と他の法分野との関係等の内容をも取扱い、受講者が商法という法分野の全体像をつかめるよう講義を行います。												
到達目標	商法に関する基礎知識を把握できること、並びに現代経済社会における商的活動に関する様々な問題を法的思考により分析、理解できること。												
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修をすること。 授業前、予習をすること。レジュメ（OpenLMSより事前提供）を確認し、次の授業で取り扱う法律の条文を一読し、関連制度・規定等の内容と趣旨をおおまかに把握すること。 授業後、復習すること。授業中小テストの問題を再確認し、企業関連の出来事や会社情報等を材料に、関連法律の内容をよく整理したうえで吟味すること。												
授業計画	【第1回】商法総論 【第2回】商人・商行為 【第3回】商人の営利活動 【第4回】商号（商人の名称） 【第5回】商業登記制度 【第6回】商業使用人・代理商 【第7回】共同企業総論				【第8回】会社の種類 【第9回】会社設立 【第10回】株式会社（株式と株主） 【第11回】株式会社（機関構造） 【第12回】保険法制概論 【第13回】まとめ								
	授業の進捗状況に応じて、適宜、内容を調整することがある。												
成績評価の方法	期末試験（50%）＋Web小テスト得点（40%。毎回授業中、OpenLMS上の小テストを実施する予定）＋平常点（10%。授業への取り組み姿勢等）で評価します。												
フィードバックの内容	小テスト問題の解説は、提出締切後に解説するか、書面で開示します。												
教科書													
指定図書													
参考書	『会社法 第2版』宮島司（弘文堂）2023年、『スタンダード商法Ⅰ－商法総則・商行為法 第2版』北村雅史ほか（法律文化社）2022年、『会社法の考え方 第13版』山本爲三郎（八千代出版）2024年、『入門講義会社法 第3版』鈴木千佳子（慶應義塾大学出版会）2023年、『会社法 第4版』田中亘（東京大学出版会）2023年、『会社法判例百選 第4版』神作裕之ほか編（有斐閣）2021年、『商法判例百選』神作裕之ほか編（有斐閣）2019年、『ポイントレクチャー保険法 第3版』甘利公人ほか（有斐閣）2020年、『保険法判例百選 第2版』洲崎博史ほか編（有斐閣）2025年												
教員からのお知らせ	授業の際に六法を用意すること（ポケット六法やデイリー六法などの紙のものが望ましいが、最低限、授業中に取扱う条文内容をWeb上確認できるよう準備すること（e-gov法令検索等を利用）。												
オフィスアワー	授業の前後、教室にて質問等を受付ける。また、下記のメールにていつでも質問等を受付ける。 E-mail：ou-iketsu@rku.ac.jp												
アクティブラーニングの内容													
実践的な教育内容	意見共有、能動的授業外学習など												
その他	授業用レジュメのデータをOpenLMSより事前提供し、各自準備して授業に臨んでください。また、テキストは使用しません。参考書については、授業開始後、説明を受けた後に各自の判断で購入するか否か、何を購入するかを検討してください。												

講義コード		授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	情報基礎 1				各担当教員		第 1 期		
履修前条件					備考				
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまで以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシ育成のための授業である。情報リテラシとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。また毎週、課題提出と予習復習を行うことで大学での学習生活の基本的習慣が身につくようにする。								
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。 e-Learning という PC を使った教材を課すこともある。								
授業計画	【第 1 回】 学内システムの使い方・情報倫理 (1) インターネットや SNS における注意 【第 2 回】 情報倫理 (2) セキュリティ対策について・著作権と個人情報 【第 3 回】 日本語文書処理の基礎 (1) 【第 4 回】 日本語文書処理の基礎 (2) 【第 5 回】 日本語文書処理の基礎 (3) 【第 6 回】 日本語文書処理の基礎 (4) 【第 7 回】 日本語文書処理の基礎 (5) 【第 8 回】 表計算ソフトの基本 (1) 基本操作 【第 9 回】 表計算ソフトの基本 (2) グラフ作成 【第10回】 表計算ソフトの基本 (3) 基本操作の復習 【第11回】 表計算ソフトの応用 (1) 関数の基本・合計と平均 【第12回】 表計算ソフトの応用 (2) 関数の基本・復習と四捨五入 【第13回】 表計算ソフトの応用 (3) 関数の基本・復習と順位								
成績評価の方法	毎週の課題 (100%) から到達目標への到達度を評価する。								
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。								
教科書	『情報文化スキル (第 4 版) - Windows 10 & Office 2019 対応 -』城所弘泰・井上彰宏・今井賢 (オーム社) 2020								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	学籍番号によってクラス分けされているので自分がどのクラス (曜日・時限) に配属されているか確認してから履修登録をすること。必修科目 (卒業要件に必要な科目) なので単位を落とすことのないように留意すること。								
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0100107	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	城所 弘泰	開講期	第 1 期
科目名	情報基礎 1 (再履修) ※2018年度～入学生用				城所 弘泰		第 1 期		
履修前条件					備考				
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまで以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシ育成のための授業である。情報リテラシとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。また毎週、課題提出と予習復習を行うことで大学での学習生活の基本的習慣が身につくようにする。								
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。								
授業計画	【第 1 回】 学内システムの使い方・情報倫理 (1) インターネットや SNS における注意 【第 2 回】 情報倫理 (2) セキュリティ対策について・著作権と個人情報 【第 3 回】 日本語文書処理の基礎 (1) 【第 4 回】 日本語文書処理の基礎 (2) 【第 5 回】 日本語文書処理の基礎 (3) 【第 6 回】 日本語文書処理の基礎 (4) 【第 7 回】 日本語文書処理の基礎 (5) 【第 8 回】 表計算ソフトの基本 (1) 基本操作 【第 9 回】 表計算ソフトの基本 (2) グラフ作成 【第10回】 表計算ソフトの基本 (3) 基本操作の復習 【第11回】 表計算ソフトの応用 (1) 関数の基本・合計と平均 【第12回】 表計算ソフトの応用 (2) 関数の基本・復習と四捨五入 【第13回】 表計算ソフトの応用 (3) 関数の基本・復習と順位								
成績評価の方法	以下の内容から到達目標への到達度を評価する。 ・ 課題 (3 回) (60%) ・ 期末試験 (30%) ・ 授業中の提出物 (10%)								
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。								
教科書	『情報文化スキル (第 4 版) - Windows 10 & Office 2019 対応 -』城所弘泰・井上彰宏・今井賢 (オーム社) 2020								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	学籍番号によってクラス分けされているので自分がどのクラス (曜日・時限) に配属されているか確認してから履修登録をすること。必修科目 (卒業要件に必要な科目) なので単位を落とすことのないように留意すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、原則は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。ただし出校できない場合は OpenLMS のメッセージでも受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
実践的な教育内容									
その他	課題などの単位取得に必要な情報は OpenLMS に掲示するので、欠席した時などの授業情報は OpenLMS を参照すること。								

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	情報基礎2				各担当教員	第2期
履修前条件					備考	
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまで以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシ育成のための授業である。情報リテラシとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。また毎週、課題提出と予習復習を行うことで大学での学習生活の基本的習慣が身につくようにする。					
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。 e-Learning という PC を使った教材を課すこともある。					
授業計画	【第1回】表計算ソフトの応用 (4) IF 関数の基本 【第2回】表計算ソフトの応用 (5) IF 関数の入れ子 【第3回】表計算ソフトの応用 (6) IF 関数と AND 関数・OR 関数 【第4回】表計算ソフトの応用 (7) VLOOKUP 関数 (完全一致) 【第5回】表計算ソフトの応用 (8) VLOOKUP 関数 (近似一致) 【第6回】表計算ソフトの応用 (9) 文字列データと関数 【第7回】表計算ソフトの応用 (10) 日付と時刻の扱い 【第8回】表計算ソフトの応用 (11) 日付と時刻の関数 【第9回】表計算ソフトの応用 (12) データベース機能 【第10回】表計算ソフトの応用 (13) グループ分けと集計の関数 【第11回】表計算ソフトの応用 (14) 復習 【第12回】プレゼンテーションの基礎 (1) 【第13回】プレゼンテーションの基礎 (2)					
成績評価の方法	毎週の課題 (100%) から到達目標への到達度を評価する。					
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。					
教科書	『情報文化スキル (第4版) - Windows 10 & Office 2019 対応 -』城所弘泰・井上彰宏・今井賢 (オーム社) 2020					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	学籍番号によってクラス分けされているので自分がどのクラス (曜日・時限) に配属されているか確認してから履修登録をすること。必修科目 (卒業要件に必要な科目) なので単位を落とすことのないように留意すること。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	11C0100207	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	情報基礎2(再履修)※2018年度～入学生用				城所 弘泰	第2期			
履修前条件					備考				
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまでに以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシー育成のための授業である。情報リテラシーとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。また毎週、課題提出と予習復習を行うことで大学での学習生活の基本的習慣が身につくようにする。								
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。								
授業計画	【第1回】表計算ソフトの応用 (4) Excel の基本 【第2回】表計算ソフトの応用 (5) IF 関数の基本・入れ子 【第3回】表計算ソフトの応用 (6) IF 関数と AND 関数・OR 関数 【第4回】表計算ソフトの応用 (7) VLOOKUP 関数 (完全一致) 【第5回】表計算ソフトの応用 (8) VLOOKUP 関数 (近似一致) 【第6回】表計算ソフトの応用 (9) 文字列データと関数 【第7回】表計算ソフトの応用 (10) 日付と時刻の扱い 【第8回】表計算ソフトの応用 (11) 日付と時刻の関数 【第9回】表計算ソフトの応用 (12) データベース機能 【第10回】表計算ソフトの応用 (13) グループ分けと集計の関数 【第11回】表計算ソフトの応用 (14) 復習 【第12回】プレゼンテーションの基礎 (1) 【第13回】プレゼンテーションの基礎 (2)								
成績評価の方法	以下の内容から到達目標への到達度を評価する。 ・課題 (1回) (20%) ・期末試験 (50%) ・授業中の提出物 (30%)								
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。								
教科書	『情報文化スキル (第4版) - Windows 10 & Office 2019 対応 -』城所弘泰・井上彰宏・今井賢 (オーム社) 2020								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	学籍番号によってクラス分けされているので自分がどのクラス (曜日・時限) に配属されているか確認してから履修登録をすること。必修科目 (卒業要件に必要な科目) なので単位を落とすことのないように留意すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、原則は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。ただし出校できない場合は OpenLMS のメッセージでも受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
実践的な教育内容									
その他	課題などの単位取得に必要な情報は OpenLMS に掲示するので、欠席した時などの授業情報は OpenLMS を参照すること。								

講義コード	11C0121801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	大槻 一彦	開講期	第1期
科目名	情報経済学 1				大槻 一彦			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、データサイエンスの中でも主に個人のスキルについて講義します。								
到達目標	本講義では、データサイエンスとは何かをスキルと実務の両方から理解できるようになることを到達目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、日常的にデータサイエンスに係る事象の観察と収集に励むこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 導入：データサイエンスとは 【第2回】 データ分析の民主化 【第3回】 企業におけるデータ分析組織 【第4回】 企業で求められるデータサイエンス力とは 【第5回】 リサーチ 【第6回】 統計学 【第7回】 中間試験 【第8回】 機械学習 / 統計学との違い 【第9回】 AI/ 機械学習 (教師あり / 教師なし / 強化学習) 【第10回】 機械学習 (ニューラルネットワーク / ディープラーニング) 【第11回】 AI の普及 【第12回】 データサイエンティストに求められるエンジニアリング力 / ビジネス力 【第13回】 期末試験 								
成績評価の方法	中間試験 50% 期末試験 50%								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業は第1期・第2期の通期での履修を想定した授業となります。								
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、メールにて対応いたします。メールアドレスについては授業内で指示致します。								
アクティブラーニングの内容	中間試験などに対する教員からのフィードバックによる振り返りをします。								
実践的な教育内容									
その他	インターネット企業でデータアナリストの実務経験があり、データサイエンティストを多く抱える企業で技術顧問の実務経験がある教員が、その経験を活かして、データサイエンスとは何かについて講義する。								

講義コード	11C0121901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	大槻 一彦	開講期	第2期
科目名	情報経済学 2				大槻 一彦			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、データサイエンスの中でも主に実務について講義します。								
到達目標	本講義では、データサイエンスとは何かをスキルと実務の両方から理解できるようになることを到達目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、日常的にデータサイエンスに係る事象の観察と収集に励むこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 導入：データサイエンティストの実務 【第2回】 データ分析の用途 (分析 / 開発) 【第3回】 データ活用の基本 【第4回】 データで何が出来るか 【第5回】 情報通信サービスにおけるデータ活用の基本 【第6回】 その他業界におけるデータ活用 / オンラインゲームにおける例 【第7回】 中間試験 【第8回】 データドリブンと KPI 設定 【第9回】 オンラインサービス運営と KPI ツリー 【第10回】 データドリブな経営 (KPI マネジメント / North Star Metric / Mission Vision Value 経営) 【第11回】 データサイエンスにおける Web サービス開発 【第12回】 データガバナンス、データマネジメントの潮流 (基盤整備隆盛から成熟期に) 【第13回】 期末試験 								
成績評価の方法	中間試験 50% 期末試験 50%								
フィードバックの内容	毎回授業内で質疑応答を行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業は第1期・第2期の通期での履修を想定した授業となります。								
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、メールにて対応いたします。メールアドレスについては授業内で指示致します。								
アクティブラーニングの内容	中間試験などに対する教員からのフィードバックによる振り返りをします。								
実践的な教育内容									
その他	インターネット企業でデータアナリストの実務経験があり、データサイエンティストを多く抱える企業で技術顧問の実務経験がある教員が、その経験を活かして、データサイエンスとは何かについて講義する。								

講義コード	11C0118301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	人的資源管理論 1				戎野 淑子		第 1 期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>昨今、企業を取り巻く経済・社会環境が著しく変容し、労働者の就業ニーズも多様化したため、従来までの人事制度には現状との不適合な面も生じ、様々な問題が発生することとなった。そのため、ここ10年余りの間に、多くの企業で人事制度の改革が多岐にわたりに行われてきた。そして、日本の経営といわれてきた「終身雇用」や「年功序列」等の特徴にもつ、日本の雇用関係も大きく動揺している。</p> <p>そこで、本講義では、雇用関係ならびに人事制度の実態とその変容を明らかにし、今日生じている諸問題について検討することとする。</p>								
到達目標	人的資源管理論に関する基礎的知識を修得することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義ノートを用いて、復習をすること。(計60時間以上)								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】採用Ⅰ（新卒採用、中途採用） 【第2回】採用Ⅱ（近年の動向：インターンシップと採用） 【第3回】採用Ⅲ（諸外国と日本企業） 【第4回】採用Ⅳ（昨今の特徴と諸問題） 【第5回】賃金制度Ⅰ（賃金体系と日本の特徴） 【第6回】賃金制度Ⅱ（年功賃金、成果主義賃金） 【第7回】賃金制度Ⅲ（裁量労働、ホワイトカラーエグゼンプション） 【第8回】新卒採用と賃金 【第9回】評価制度Ⅰ（職能資格制度） 【第10回】評価制度Ⅱ（目標管理制度） 【第11回】昇進 【第12回】異動 【第13回】まとめ 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%と試験50%。毎回の授業で課題を解答して提出し、授業への取り組み姿勢を評価。最後2回の授業は、まとめの試験（課題）を行い、試験の評価。								
フィードバックの内容	課題の解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う								
教科書	『人的資源管理の力』白木三秀編著（文真堂）2024年								
指定図書	『新しい人事労務管理』佐藤博樹、藤村博之、八代充史（有斐閣アルマ）2019年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い提出し、その解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0118401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	人的資源管理論 2				戎野 淑子		第 2 期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>昨今、企業を取り巻く経済・社会環境が著しく変容し、労働者の就業ニーズも多様化したため、従来までの人事制度には現状との不適合な面も生じ、様々な問題が発生することとなった。そのため、ここ10年余りの間に、多くの企業で人事制度の改革が多岐にわたりに行われてきた。そして、日本の経営といわれてきた「終身雇用」や「年功序列」等の特徴にもつ、日本の雇用関係も大きく動揺している。</p> <p>そこで、本講義では、雇用関係ならびに人事制度の実態とその変容を明らかにし、今日生じている諸問題について検討することとする。</p>								
到達目標	人的資源管理論に関する基礎的知識を修得することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義ノートを用いて、復習をすること。(計60時間以上)								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】教育Ⅰ（OJT、off-JTの特徴） 【第2回】教育Ⅱ（エンプロイヤビリティ、自己啓発） 【第3回】教育Ⅲ：近年の動向と課題（リスクリングなど） 【第4回】労働時間Ⅰ 【第5回】労働時間Ⅱ（日本の労働時間の特徴） 【第6回】労働時間Ⅲ（近年の動向） 【第7回】定年制度 【第8回】退職の種類と退職金 【第9回】解雇 【第10回】労働組合Ⅰ（歴史と種類） 【第11回】労働組合Ⅱ（役割と現在の特徴） 【第12回】多様な働き方 【第13回】まとめ 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%と試験50%。毎回の授業で課題を解答して提出し、授業への取り組み姿勢を評価。最後2回の授業は、まとめの試験（課題）を行い、試験の評価。								
フィードバックの内容	課題の解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う								
教科書	『人的資源管理の力』白木三秀編著（文真堂）2024年								
指定図書	『新しい人事労務管理』佐藤博樹、藤村（有斐閣アルマ）2019年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い提出し、その解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0104602	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	心理学の世界				小野寺 哲夫		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	心理学のスタンダードについて学ぶこと。心理学の概要を正しく理解し、心理学の魅力に気づくこと。さらに人間の発達段階における特徴、心理学による人間理解の仕方や心理学的な〈ものの見方〉について理解すること。								
到達目標	学生が、心理学の基礎知識を身につけ、その知識を基に、人間の心理現象を正しく理解し、分析できるようになること。また、将来の就職活動で役立つレベルの自己理解、および自己分析ができるようになること。心理学の知識を日常生活の中で活用できるようになること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	能動的な授業外学修として、授業で扱ったトピックについての復習として、授業で扱ったキーワードや理論等について、図書館やインターネット等で調べて、自己理解を確実にし、知識を定着させること。上記に示した授業外の学修は、60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】授業のオリエンテーション・心理学の定義と歴史ほか</p> <p>【第2回】「知覚の心理学」精神物理学、ゲシュタルトの法則、錯視の不思議ほか</p> <p>【第3回】「学習の心理学①」古典的条件づけほか</p> <p>【第4回】「学習の心理学②」オペラント条件づけほか</p> <p>【第5回】「学習の心理学③」社会的学習理論ほか</p> <p>【第6回】「記憶の心理学①」短期記憶と長期記憶ほか</p> <p>【第7回】「記憶の心理学②」忘却理論と目撃証言研究ほか</p> <p>【第8回】「動機づけの心理学」達成動機・内発的動機づけ、マズローほか</p> <p>【第9回】「深層心理学」フロイトの精神分析学とユング心理学ほか</p> <p>【第10回】「臨床心理学①」交流分析（エゴグラムほか）について</p> <p>【第11回】「臨床心理学②」認知行動療法（CBT）について</p> <p>【第12回】「臨床心理学③」森田療法・内観法</p> <p>【第13回】「文化心理学」ピエール・ブルデューのハビトゥス論</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（10%）と中間レポート（20%）、期末試験（70%）で評価する。定期試験の評価基準は、「授業で学んだ心理学キーワードを自身の言葉で説明できること、および具体例を挙げて論じることができること」とする。								
フィードバックの内容	この授業に関して、学生から出された質問や意見等に対しては、ポータルサイトの『掲示板』にてアップしてもらおう。そして教員は、1週間以内に、それらの意見や質問に対するフィードバックを行うものとする。								
教科書	『心理学の世界 ver.3.0』小野寺哲夫（JFA パブリッシング）2025								
指定図書	『アイゼンク教授の心理学ハンドブック』マイケル W. アイゼンク（ナカニシヤ出版）2008、『ヒルガードの心理学 第16版』スーザン・ノーレン・ホークセマ（金剛出版）2015、『ザ・ソーシャル・アニマルー人と世界を読み解く社会心理学への招待』エリオット・アロンソン（サイエンス社）2014、『オプティミストはなぜ成功するか』マーティン・セリグマン（パンローリング）2014、『はじめて学ぶ行動療法』三田村仰（金剛出版）2017、『ファスト&スロー（上）（下）あなたの意思はどのように決まるか?』ダニエル・カーネマン（早川書房）2014、『ブルデュー『ディスタンス』講義』石井洋二郎（藤原書店）2020								
参考書	『人生を逆転する最強の法則』竹田陽一（中経出版）1994、『《新装版》心配症をなおす本 よく分かる森田療法・森田理論』青木 薫久（ベストセラーズ）1999、『変化の原理』ポール・ワツラウィック（法政大学出版会）2018、『長寿と性格』ハワード・S・フリードマンほか（清流出版）2012、『運のいい人の法則』リチャード・ワイズマン（角川文庫）2004、『ACE サバイバー 子ども期の逆境に苦しむ人々』三谷はるよ（ちくま新書）2023、『シャーデンフロイデ 人の不幸を喜ぶ私たちの闇』リチャード・スミス（勁草書房）2018、『ポジティブ・シフト』キャサリン・A・サンダーソン（ディスカヴァー）2023、『地に足をつけて生きる』スヴェン・プリンクマン（Evolving）2022、『あなたはブラシーボ』ジョー・デイスペンザ（めるくまー）2021								
教員からのお知らせ	本授業のテキストである『心理学の世界 ver. 3.0』は大学内の紀伊国屋書店でのみ購入できます。加えて、第1回～13回目の授業の間に、心理学に関連した簡単なアンケート調査に協力していただく場合があります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	対面授業の中で、あるテーマやキーワードについて、学生同士が意見交換、および意見共有する機会を作る。また、授業の予習・復習、および学生が興味関心を持った心理学キーワードについて図書館やインターネット等を活用した能動的な授業外学習を行ってもらおう。								
実践的な教育内容	臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、学校訪問相談員、スクールカウンセラーとして、神奈川県を中心に約20年間の臨床現場経験を積んできたので、授業の中で、エピソードを交えて臨場感のある説明を行います。								
その他									

講義コード	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	数学基礎				各担当教員	第1期
履修前条件					備考	
授業の目的	本講義では、数学の基礎的な知識と計算力を身に付け、それらを具体的な問題に応用出来ることを目的とする。特に、2年次以降の専門科目を理解するために必要な数学、さらにはSPIや公務員試験などで必要な数学を中心に学んでいく。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的思考を身に付ける。 ・ 基礎的な数学の知識を身に付ける。 ・ 計算問題を解くことができる。 					
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で行われる内容について指定教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。 さらに毎回の授業後の復習は十分に行うこと。上記の授業外学修は、60時間以上を目安に行うこと。					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 講義のスタイルと必要な予備知識、割合 【第2回】 指数・対数（指数・対数の計算、指数・対数関数） 【第3回】 数列（等差数列、等比数列） 【第4回】 一次関数とそのグラフ1（一次関数の性質、一次関数のグラフ） 【第5回】 一次関数とそのグラフ2（一次関数の交点、一次不等式、予算制約式） 【第6回】 二次関数とそのグラフ1（二次関数の性質、二次関数のグラフ） 【第7回】 二次関数とそのグラフ2と二次方程式（二次関数の最大値最小値問題、二次方程式の解法） 【第8回】 微分1（極限の計算、微分の定義、多項式に関する微分計算） 【第9回】 微分2（関数の積、関数の商、合成関数に関する微分計算） 【第10回】 微分の応用（微分の幾何的意味、微分を用いた関数のグラフの図示、多項式関数の極値問題） 【第11回】 場合の数（樹形図、和の法則、積の法則） 【第12回】 確率（加法定理、乗法定理） 【第13回】 総復習 					
成績評価の方法	期末試験（100％）により評価する。授業への取り組み姿勢や課題の提出状況などに応じて加点することがある。					
フィードバックの内容	課題の解説を授業内で行う。					
教科書	『経済学のための数学の基礎15講』小林幹（新世社）2018					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ						
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	11C0102901	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	金澤 直也	開講期	第1期
科目名	スペイン語1A				金澤 直也			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	スペイン語の初級文法の基礎となる直説法現在を終えることを目的とします。アルファベット・発音・アクセントからはじめ、英語にないスペイン語の文法的特徴に注意しながら、語彙をふやし、動詞の複雑な変化をおぼえます。スペイン語学習を通じて、これまで学んできた日本語や英語の文法的特徴をとらえなおします。								
到達目標	スペイン語の初級文法を習得し、ひとりで辞書をもちいてスペイン語学習にとりくむことができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書や講義ノートをもちいて、単語や文法の予習と復習に計60時間以上の授業外学修をおこなうこと。教科書についてのCDを繰り返し聞く習慣を身につけましょう。とくにテキストで理解できた点と理解できなかった点を明確にしたうえで授業を受けること。								
授業計画	【第1回】第1課（アルファベット、発音、アクセント） 【第2回】第2課（名詞の性と数） 【第3回】第2課（定冠詞、不定冠詞） 【第4回】第3課（主格人称代名詞、動詞 ser の疑問文と否定文） 【第5回】第3課（動詞 ser と estar のちがい） 【第6回】第4課（直説法現在規則活用 ar、基数 1 -10） 【第7回】第4課（直説法現在規則活用 ir、基数11-30） 【第8回】第5課（直説法現在不規則活用①、基数31 - 100） 【第9回】第5課（直説法現在不規則活用①、基数101-1,000） 【第10回】第6課（直説法現在不規則活用②、基数1,001-1,000,000） 【第11回】第6課（直説法現在不規則活用②、直接目的格代名詞） 【第12回】第7課（直説法現在不規則活用③、間接目的格代名詞） 【第13回】第1期まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、中間テスト（40%）、期末テスト（40%） 到達目標に記載されている内容を、自分で取り組み、自分の言葉で表現（記述および口頭）できるようになったかを授業への取り組み姿勢ならびにテストの評価基準とする。								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。								
教科書	『基礎から学ぼう！スペイン語』西川喬（朝日出版社）2014								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	辞書は不可欠です。授業に毎回持参すること。 【推奨辞書】 （1）〈ミニ辞典〉『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）、または『デイリーコンサイス西和・和西辞典』（三省堂） （2）〈学習辞典〉『クラウン西和辞典』+『クラウン和西辞典』（三省堂）、または『ブエルタ新スペイン語辞典』（研究社〔簡易和西辞書機能付〕） （3）〈本格辞典〉『西和中辞典』（小学館〔和西辞書機能なし。別途和西辞典を購入する必要があります〕）								
オフィスアワー	授業についての質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で対応します。								
アクティブラーニングの内容	アウトプットを通じた学習を重視しています。学生同士で発音の練習や課題の採点をする場合があります、授業への積極的な参加が求められます。								
実践的な教育内容									
その他	授業計画は学生の理解度に応じて変更することがあります。								

講義コード	11C0102902	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	スペイン語1B					遠藤 杏		第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	スペイン語をアルファベットから学び、初級表現を習得する。スペイン語を使って自己紹介や日常生活の言い方について学ぶことで、スペイン語を身近に感じてもらう								
到達目標	1. スペイン語の簡単な会話表現を習得する。「スペイン語1B」では、自己紹介やしたいこと、許可、義務などを行う。 2. スペイン語を使って自己紹介やしたいこと、許可、義務などを伝えるだけでなく、相手が何を言っているのかを聞き取り、返答する								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1回の授業につき、1時間以上の予習と復習、計15時間以上の授業外学習を行うこと。(教科書や配布された資料を読み予習を行う、練習問題に取り組むなど)								
授業計画	【第1回】 オリエンテーション、Lección 1 スペイン語の文字と発音、アクセントのルール 【第2回】 Lección 2 ～したい、～してもいいですかの表現を伝える、聞き取る 【第3回】 Lección 2 自分の調子や状態を表現する、食べたいものを伝える、聞き取る 【第4回】 Lección 3 数字(1-31)、月、日にちの語彙、～しなければならぬの表現を伝える、聞き取る 【第5回】 Lección 3 予定を話す、相手を誘う表現を伝える、聞き取る 【第6回】 Lección 1～3 中間プレゼンテーション 【第7回】 Lección 4 直説法現在(主語が単数の場合)の文法を知る、理解する 【第8回】 Lección 4 各曜日に何をするのかを伝える、聞き取る、紹介する 【第9回】 Lección 5 直説法現在(主語が複数の場合)の文法を知る、理解する 【第10回】 Lección 5 時間表現を伝える、聞き取る 【第11回】 Lección 6 語幹母音変化動詞の文法を知る、理解する 【第12回】 Lección 6 予定や義務を伝える、聞き取る 【第13回】 Lección 4～6 期末プレゼンテーション								
成績評価の方法	授業開始時の語彙・表現テスト(20%)、課題(20%)、中間プレゼンテーション(25%)、期末プレゼンテーション(25%)、授業への取り組み姿勢(10%)								
フィードバックの内容	課題、コメントのフィードバックを次の授業内にて行う。小テストなどの解答を試験終了後に配布する。								
教科書	『歩こう!スペイン語の道1』柿原武史/寺尾美登里/マリア・チクラナ/アルバロ・エルナンデス/禪野美帆/村上陽子(朝日出版社)2025								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	欠席をすると授業についていくのが難しくなるため、なるべく欠席をしないようにすること								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障が出ない範囲で教室内で対応する。またメールでも受け付ける。宛先は授業内で指示する。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション、教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0103001	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	スペイン語2A					金澤 直也		第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	スペイン語の初級文法の時制をひと通り終えることを目的とします。「スペイン語1A」の続きです。「スペイン語2A」では再帰動詞から接続法現在まであつかいます。テキストの会話や長文を中心に授業を進めます。日常生活でよく使われるスペイン語の文法や表現をつうじて、簡単な文の読解力や聞き取る能力を高めていきます。								
到達目標	授業計画の項目にある文法や表現を習得し、使いわけることができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書や講義ノートをもちいて、単語や文法の予習と復習に計60時間以上の授業外学修をおこなうこと。とくにテキストで理解できた点と理解できなかった点を明確にしたうえで授業を受けること。事後学習では、授業の理解度を確認するために、課題となる練習問題を着実にこなしてゆくことが求められます。								
授業計画	【第1回】 復習 【第2回】 第7課(動詞 querer の表現) 【第3回】 第8課(動詞 poder の表現) 【第4回】 第8課(再帰動詞) 【第5回】 第9課(se の受け身) 【第6回】 第9課(過去分詞) 【第7回】 第10課(直説法現在完了) 【第8回】 第10課(直説法過去規則活用) 【第9回】 第11課(無人称表現) 【第10回】 第11課(直説法過去不規則活用) 【第11回】 第12課(直説法過去完全不規則動詞) 【第12回】 第12課(動詞 gustar の表現) 【第13回】 第2期まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(20%)、中間テスト(40%)、期末テスト(40%) 到達目標に記載されている内容を、自分で取り組み、自分の言葉で表現(記述および口頭)できるようになったかを授業への取り組み姿勢ならびにテストの評価基準とする。								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。								
教科書	『基礎から学ぼう!スペイン語』西川喬(朝日出版社)2014								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	辞書は不可欠です。授業に毎回持参すること。 【推奨辞書】 (1)〈ミニ辞典〉『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』(小学館)、または『デイリーコンサイス西和・和西辞典』(三省堂) (2)〈学習辞典〉『クラウン西和辞典』+『クラウン和西辞典』(三省堂)、または『プエルタ新スペイン語辞典』(研究社[簡易和西辞書機能付]) (3)〈本格辞典〉『西和中辞典』(小学館[和西辞書機能なし。別途和西辞典を購入する必要があります])								
オフィスアワー	授業についての質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室で対応します。								
アクティブラーニングの内容	アウトプットを通じた学習を重視しています。学生同士で発音の練習や課題の採点をする場合があります、授業への積極的な参加が求められます。								
実践的な教育内容									
その他	授業計画は学生の理解度に応じて変更することがあります。								

講義コード	11C0103002	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	遠藤 杏	開講期	第2期
科目名	スペイン語2B								
履修前提条件					備考				
授業の目的	スペイン語の初級表現を習得する。スペイン語を使って人の紹介やレシピの紹介、時間の言い方について学ぶことで、スペイン語を身近に感じてもらう								
到達目標	1. スペイン語の簡単な会話表現を習得する。「スペイン語2B」では、人の紹介や大学の紹介、今までの経験表現などを行う。 2. スペイン語を使って人の紹介や大学の紹介、今までの経験を伝えるだけでなく、相手が何を言っているのかを聞き取り、返答する								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1回の授業につき、1時間以上の予習と復習、計15時間以上の授業外学習を行うこと。(教科書や配布された資料を読み予習を行う、練習問題に取り組むなど)								
授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション、Lección 7 職業、出身、大学について紹介する、聞き取る</p> <p>【第2回】Lección 7 人の特徴や髪の毛、目について紹介する、聞き取る</p> <p>【第3回】Lección 8 場所について紹介する、聞き取る</p> <p>【第4回】Lección 8 スペイン語圏の料理のレシピを読む、書く</p> <p>【第5回】Lección 9 自分の調子や状態を伝える、聞き取る</p> <p>【第6回】Lección 9 時刻を伝える、聞き取る、都市を紹介する</p> <p>【第7回】Lección 7～9 中間プレゼンテーション</p> <p>【第8回】スペイン語圏の文化について調べる、まとめる</p> <p>【第9回】Lección 10 家や大学に何があるのかを伝える、聞き取る</p> <p>【第10回】Lección 10 友達にお勧めの場所を書く、紹介する</p> <p>【第11回】Lección 11 人が何をしているのかを紹介する、聞き取る</p> <p>【第12回】Lección 11 経験を紹介する、聞き取る</p> <p>【第13回】Lección 10～11 期末プレゼンテーション</p>								
成績評価の方法	授業開始時の語彙・表現テスト(20%)、課題(20%)、中間プレゼンテーション(25%)、期末プレゼンテーション(25%)、授業への取り組み姿勢(10%)								
フィードバックの内容	課題、コメントのフィードバックを次の授業内にて行う。小テストなどの解答を試験終了後に配布する。								
教科書	『歩こう! スペイン語の道1』 柿原武史 / 寺尾美登里 / マリア・チクラナ / アルバロ・エルナンデス / 禪野美帆 / 村上陽子 (朝日出版社) 2025								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	欠席をすると授業についていくのが難しくなるため、なるべく欠席をしないようにすること								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障が出ない範囲で教室内で対応する。またメールでも受け付ける。宛先は授業内で指示する。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション、教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0103101	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	金澤 直也	開講期	第1期														
科目名	スペイン語3A																						
履修前提条件					備考																		
授業の目的	スペイン語の初級文法を実践的に身につけることを目的とします。「スペイン語3A」は「スペイン語1A」でおぼえた文法や表現を、発話やCDのヒアリングをつうじて、実際の状況に照らしあわせて学びます。スペイン語文法の基礎を固めながら、スペイン語圏への関心を高めるために教科書以外の教材を用います。																						
到達目標	学んだスペイン語の初級文法や語彙を口頭または記述で表現できるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書や講義ノートをもちいて、単語や文法の予習と復習に計60時間以上の授業外学修をおこなうこと。教科書についてのCDを繰り返し聞いて予習と復習をする習慣をつけましょう。とくにテキストで理解できた点と理解できなかった点を明確にしたうえで授業を受けること。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】第1課(あいさつの表現)</td> <td>【第8回】第5課(前置詞①)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】第2課(国籍を表す語)</td> <td>【第9回】第5課(前置詞②)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】第2課(形容詞の性数一致)</td> <td>【第10回】第6課(曜日の表現)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】第3課(動詞estarの疑問文と否定文)</td> <td>【第11回】第6課(日付の表現)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】第3課(指示形容詞、指示代名詞)</td> <td>【第12回】第7課(時刻の表現)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】第4課(直説法現在規則活用er)</td> <td>【第13回】第1期まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】第4課(所有形容詞の前置形)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】第1課(あいさつの表現)	【第8回】第5課(前置詞①)	【第2回】第2課(国籍を表す語)	【第9回】第5課(前置詞②)	【第3回】第2課(形容詞の性数一致)	【第10回】第6課(曜日の表現)	【第4回】第3課(動詞estarの疑問文と否定文)	【第11回】第6課(日付の表現)	【第5回】第3課(指示形容詞、指示代名詞)	【第12回】第7課(時刻の表現)	【第6回】第4課(直説法現在規則活用er)	【第13回】第1期まとめ	【第7回】第4課(所有形容詞の前置形)	
【第1回】第1課(あいさつの表現)	【第8回】第5課(前置詞①)																						
【第2回】第2課(国籍を表す語)	【第9回】第5課(前置詞②)																						
【第3回】第2課(形容詞の性数一致)	【第10回】第6課(曜日の表現)																						
【第4回】第3課(動詞estarの疑問文と否定文)	【第11回】第6課(日付の表現)																						
【第5回】第3課(指示形容詞、指示代名詞)	【第12回】第7課(時刻の表現)																						
【第6回】第4課(直説法現在規則活用er)	【第13回】第1期まとめ																						
【第7回】第4課(所有形容詞の前置形)																							
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(20%)、中間テスト(40%)、期末テスト(40%) 到達目標に記載されている内容を、自分で取り組み、自分の言葉で表現(記述および口頭)できるようになったかを授業への取り組み姿勢ならびにテストの評価基準とする。																						
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。																						
教科書	『基礎から学ぼう! スペイン語』 西川喬 (朝日出版社) 2014																						
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	辞書は不可欠です。授業に毎回持参すること。 【推奨辞書】 (1)〈ミニ辞典〉『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』(小学館)、または『デイリーコンサイス西和・和西辞典』(三省堂) (2)〈学習辞典〉『クラウン西和辞典』+『クラウン和西辞典』(三省堂)、または『プエルタ新スペイン語辞典』(研究社[簡易和西辞書機能付]) (3)〈本格辞典〉『西和中辞典』(小学館[和西辞書機能なし。別途和西辞典を購入する必要があります])																						
オフィスアワー	授業についての質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で対応します。																						
アクティブラーニングの内容	アウトプットを通じた学習を重視しています。学生同士で発音の練習や課題の採点をする場合があります、授業への積極的な参加が求められます。																						
実践的な教育内容																							
その他	授業計画は学生の理解度に応じて変更することがあります。																						

講義コード	11C0103102	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	スペイン語3B					遠藤 杏		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	スペイン語をアルファベットから学び、初級文法構造を習得する。スペイン語を使って自己紹介や日常生活の言い方について学ぶことで、スペイン語を身近に感じてもらう								
到達目標	1. 「スペイン語3B」では、自己紹介やしたいこと、許可、義務などの文法を身に付けて応用できる力を養う 2. スペイン語を使って自己紹介やしたいこと、許可、義務などを書いたり、読んで理解できるようになる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1回の授業につき、1時間以上の予習と復習、計15時間以上の授業外学習を行うこと。(教科書や配布された資料を読み予習を行う、練習問題に取り組むなど)								
授業計画	【第1回】 オリエンテーション、Lección 1 スペイン語の綴り、挨拶と自己紹介 【第2回】 Lección 2 ～したい、～してもいいですかの文法構造を知る、理解する 【第3回】 Lección 2 疑問文と否定文の書き方や文法構造を知る、理解する 【第4回】 Lección 3 曜日、～しなければならないの表現を知る、理解する 【第5回】 Lección 3 名詞の性・数、定冠詞を知る、理解する 【第6回】 Lección 1～3 中間試験 【第7回】 Lección 4 日常生活について伝える、聞き取る 【第8回】 Lección 4 所有形容詞前置形、一人称が不規則な動詞の形を知る、理解する 【第9回】 Lección 5 食べ物と場所の語彙、誰が何を食べるのかを伝える、聞き取る 【第10回】 Lección 5 疑問詞知る、理解する、食生活と時間を紹介する 【第11回】 Lección 6 旅行の計画を立てて、相手を誘う表現を伝える、書く 【第12回】 Lección 6 予定についての文法表現を知る、理解する 【第13回】 Lección 4～6 期末試験								
成績評価の方法	課題 (20%)、授業終わりに行う文法・語彙小テスト (20%)、中間試験 (25%)、期末試験 (25%)、授業への取り組み姿勢 (10%)								
フィードバックの内容	課題、コメントのフィードバックを次の授業内にて行う。小テストなどの解答を試験終了後に配布する。								
教科書	『歩こう！スペイン語の道1』 柿原武史 / 寺尾美登里 / マリア・チクラナ / アルバロ・エルナンデス / 禪野美帆 / 村上陽子 (朝日出版社) 2025								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	欠席をすると授業についていくのが難しくなるため、なるべく欠席をしないようにすること								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障が出ない範囲で教室内で対応する。またメールでも受け付ける。宛先は授業内で指示する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0103201	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	スペイン語4A					金澤 直也		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	「スペイン語2A」で学んださまざまな時制や表現を、スペイン語作文や会話を中心としたアウトプットをとおして習得すると同時に、スペイン語の長文に慣れることを目的とします。そのため、課題が多くなります。								
到達目標	学んだ文法、語彙、表現をもちいて日常生活で使う簡単なスペイン語の会話ができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書や講義ノートをもちいて、単語や文法の予習と復習に計60時間以上の授業外学修をおこなうこと。教科書についているCDを繰り返し聞き、発音の練習をする習慣を身につけましょう。とくにテキストで理解できた点と理解できなかった点を明確にしたうえで授業を受けること。								
授業計画	【第1回】 復習 【第2回】 第7課 (基数の表現) 【第3回】 第8課 (序数の表現) 【第4回】 第8課 (基数・序数の整理) 【第5回】 第9課 (所有形容詞の後置形・所有代名詞) 【第6回】 第9課 (所有形容詞の前置形と後置形のちがい) 【第7回】 第10課 (形容詞・副詞の比較級) 【第8回】 第10課 (形容詞の絶対最上級) 【第9回】 第11課 (現在完了と点過去のちがい) 【第10回】 第11課 (点過去と線過去のちがい) 【第11回】 第12課 (現在進行形) 【第12回】 第12課 (未来形と未来を表す現在形のちがい) 【第13回】 第2期まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%) 到達目標に記載されている内容を、自分で取り組み、自分の言葉で表現 (記述および口頭) できるようになったかを授業への取り組み姿勢ならびにテストの評価基準とする。								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。								
教科書	『基礎から学ぼう！スペイン語』 西川喬 (朝日出版社) 2014								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	辞書は不可欠です。授業に毎回持参すること。 【推奨辞書】 (1) 〈ミニ辞典〉『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』(小学館)、または『デイリーコンサイス西和・和西辞典』(三省堂) (2) 〈学習辞典〉『クラウン西和辞典』+『クラウン和西辞典』(三省堂)、または『プエルタ新スペイン語辞典』(研究社 [簡易和西辞書機能付]) (3) 〈本格辞典〉『西和中辞典』(小学館 [和西辞書機能なし。別途和西辞典を購入する必要があります])								
オフィスアワー	授業についての質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室で対応します。								
アクティブラーニングの内容	アウトプットを通じた学習を重視しています。学生同士で発音の練習や課題の採点をする場合があります、授業への積極的な参加が求められます。								
実践的な教育内容									
その他	授業計画は学生の理解度に応じて変更することがあります。								

講義コード	11C0103202	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	遠藤 杏	開講期	第2期
科目名	スペイン語4B								
履修前提条件					備考				
授業の目的	スペイン語の初級文法構造を習得する。スペイン語を使って人の紹介やレシピの紹介、時間の言い方について学ぶことで、スペイン語を身近に感じてもらう								
到達目標	1. 「スペイン語3B」では、人の紹介や大学の紹介、今までの経験表現などの文法を身に着け応用できる力を養う 2. スペイン語を使って人の紹介や大学の紹介、今までの経験表現などを書いたり、読んで理解できるようになる								
授業外学修内容・授業外学修時間数	1回の授業につき、1時間以上の予習と復習、計15時間以上の授業外学習を行うこと。(教科書や配布された資料を読み予習を行う、練習問題に取り組むなど)								
授業計画	<p>【第1回】 Lección 7 オリエンテーション、つなぎの動詞、形容詞の文法構造を知る、理解する</p> <p>【第2回】 Lección 7 間接目的人称代名詞、指示代名詞の構造を知る、理解する</p> <p>【第3回】 Lección 8 場所に関する動詞の文法構造を知る、理解する、所有形容詞前置形</p> <p>【第4回】 Lección 8 直接目的格人称代名詞、疑問詞を知る、理解する</p> <p>【第5回】 Lección 9 時刻、状態の語彙を知る、理解する</p> <p>【第6回】 Lección 9 数量詞、感嘆文の表現を知る、理解する</p> <p>【第7回】 Lección 7～9 中間試験</p> <p>【第8回】 スペイン語圏の文化について考える、発表する</p> <p>【第9回】 Lección 10 人や物の存在、動詞の細かい意味の違いを知る、理解する</p> <p>【第10回】 Lección 10 今まで学習した動詞のまとめ</p> <p>【第11回】 Lección 11 現在進行形の文法構造について知る、理解する</p> <p>【第12回】 Lección 11 現在完了、過去分詞の文法構造について知る、理解する</p> <p>【第13回】 Lección 10～11 期末試験</p>								
成績評価の方法	課題 (20%)、授業終わりに行う文法・語彙小テスト (20%)、中間試験 (25%)、期末試験 (25%)、授業への取り組み姿勢 (10%)								
フィードバックの内容	課題、コメントのフィードバックを次の授業内にて行う。小テストなどの解答を試験終了後に配布する。								
教科書	『歩こう！スペイン語の道1』 柿原武史 / 寺尾美登里 / マリア・チクラナ / アルバロ・エルナンデス / 禪野美帆 / 村上陽子 (朝日出版社) 2025								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	欠席をすると授業についていくのが難しくなるため、なるべく欠席をしないようにすること								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障が出ない範囲で教室内で対応する。またメールでも受け付ける。宛先は授業内で指示する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0123301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	福井 英次郎	開講期	第1期
科目名	政治学								
履修前提条件					備考				
授業の目的	人間は自然の中で単独で生存しているのではなく、集団で社会を形成して生活をしています。社会を形成する場合には、いつも政治というものがある存在することになります。この講義では、このような政治というものについて、学術的に議論することを目的としています。なお受講生も現在の社会に生きている当事者です。そのため受講生自身の問題として、一緒に考えて頂ければと思います。								
到達目標	この講義の目標は、まず受講生が政治学の基礎的な考え方を理解し、それを説明できるようになることです。それを踏まえて、現在の諸問題について関心を持ち、その問題について政治学的に議論できるようになることです。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前には、テキストの指示された箇所を読み、わからない用語を調べてください。授業後には、配布資料とテキストを再読し理解を深めてください。また新聞やテレビなどを通じて積極的に最新の情報を獲得してください。これらのために授業外に計60時間以上の学修を行ってください。								
授業計画	<p>【第1回】 イントロダクション</p> <p>【第2回】 利益団体</p> <p>【第3回】 市場と政府</p> <p>【第4回】 メディア</p> <p>【第5回】 民主主義</p> <p>【第6回】 多様性</p> <p>【第7回】 地方自治</p> <p>【第8回】 第二次世界大戦後の世界と日本</p> <p>【第9回】 現在の世界と日本</p> <p>【第10回】 安全保障</p> <p>【第11回】 貿易</p> <p>【第12回】 環境</p> <p>【第13回】 総括</p>								
成績評価の方法	授業への貢献 (30%) と期末試験 (70%) で判断します。								
フィードバックの内容	授業に対するコメントや質問は毎回のリアクションペーパーで受け付け、翌週の授業の最初にフィードバックします。								
教科書	『基礎ゼミ政治学』 福井英次郎編 (世界思想社) 2019								
指定図書									
参考書	『入門政治学365日』 中田晋自他編 (ナカニシヤ出版) 2018、『政治学の第一歩 (新版)』 砂原庸介他 (有斐閣) 2020、『政治学 (補訂版)』 久米郁男他 (有斐閣) 2011								
教員からのお知らせ	現在のトピックを積極的に取り上げ、政治学的に分析する予定です。受講生が現代の諸問題を考える機会になればと考えています。なお授業予定は受講生の関心や現実世界の動きにより若干変更することがあります。								
オフィスアワー	授業の前後の時間に、教室か講師控室で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	特にありません。								
実践的な教育内容									
その他	最初の授業で、授業の進め方・成績評価・授業参加における注意点などを詳細に説明する予定です。履修を考えている方は必ず出席してください。								

講義コード	11C0106101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	生命科学の世界／生命科学Ⅰ				深谷 緑		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	生物学の基本はこれまでの学校教育で学んできたはずですが、その知識は日常生活で役立っているのでしょうか。例えばあなたは、日々の医学ニュースを理解し、また巷にあふれる「似非科学」を看破できているでしょうか。本講義では生命とウイルス、遺伝子、進化、免疫、“がん”などに焦点を当て、生命科学を生きる智慧とすることを目指します。また時事の科学トピック等から、横溢する科学情報との付き合い方を模索してゆきます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 細胞とその内外の構造体のダイナミックな働きを理解し、楽しむ。 免疫、生殖、遺伝システム、進化とのかかわりなど、生物としてのヒトの基本を知る。 似非科学にだまされない力、また解らないと諦めず、生命科学をめぐる正しい情報を利用できる力をつける。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	予習時はポータル（オンライン授業）の資料に目を通す。復習時は授業スライド pdf や資料を参照して授業ノートをまとめ Open LMS の quiz に取り組む。疑問事項は質問する。随時紹介する関連書などを読み興味を深めることも勧める。授業外学修時間は60時間以上（各回予習60分、復習180分以上）を想定する。								
授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション、生命の誕生</p> <p>【第2回】細胞 ① “内なる生命体”</p> <p>【第3回】ゲノムと遺伝子 ① ゲノム・DNA・RNA</p> <p>【第4回】ゲノムと遺伝子 ② “遺伝子”の働き</p> <p>【第5回】細胞 ② 生体膜、物質輸送、オートファジー</p> <p>【第6回】生殖・細胞分化・万能性</p> <p>【第7回】進化と生物としてのヒト①</p> <p>【第8回】進化と生物としてのヒト②</p> <p>【第9回】免疫 ① 病原体との攻防</p> <p>【第10回】免疫 ② 免疫をめぐる病</p> <p>【第11回】がんの生物学——発生・進行・“進化”</p> <p>【第12回】がんの医学——がん治療と似非医学</p> <p>【第13回】総括</p>								
成績評価の方法	平常点と期末試験の合計で評価します。 平常点（60％）：授業参加 ※と復習用課題（quiz）への取り組みで評価 期末試験（40％）：試験期間内に実施（マークシート利用の選択肢問題が大半の見込み） 評価基準・評価方法変更の場合はポータルおよび授業でお知らせします。 ※この講義は対面授業が基本です。ポータル内の資料閲覧のみでは授業出席にはなりません。								
フィードバックの内容	Open LMS を利用して復習用の課題（quiz）を出題し、その解答傾向を踏まえた復習や解説を行う予定です。また受講者の理解度を随時確認のうえ、授業進行や内容を調節します。質問や提案などを授業中・授業後に受け、共有すべき内容であれば授業中に説明、またはポータルのオンライン授業に掲示します。								
教科書									
指定図書									
参考書	『ヒトを理解するための生物学（改訂版）』八杉貞雄（裳華房）2021、『進化とはなんだろうか』長谷川眞理子（岩波書店）1999、『カラー図解 アメリカ版 新・大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学』D. サグヴァ他著（講談社）2021、『進化には生体膜が必要だった 膜がもたらした生物進化の奇跡』佐藤 健（裳華房）2018、『「がん」はなぜできるのか そのメカニズムからゲノム医療まで』国立がん研究センター研究所（編）（講談社）2018								
教員からのお知らせ	<ul style="list-style-type: none"> 高校での生物履修歴・基礎知識の有無にかかわらず受講可能です。 用語暗記ではなく本質の理解、メカニズムの理解を目指して下さい。 シラバス内容のほか生命科学に関わる時事の話題を取り上げる予定です。 								
オフィスアワー	質問・相談は授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。それ以降の時間帯も面談可能ですが時間確認・予約願います（当日教室での予約可）。このほか Open LMS 利用の質問対応も行います。								
アクティブラーニングの内容	ポータルのオンライン授業欄にて予・復習用資料、さらに発展的資料を共有する。Open LMS 利用の自習用課題（quiz）は、誤答しても解説・資料を利用後に再解答でき、重要ポイントの確実な理解に役立つ。								
実践的な教育内容	国立（法人）研究所での研究・現場経験、また医学部・医局での研究・現場経験を元に、生命工学の身近な応用、ワクチン含む感染症対策・免疫医学、さらに“がん”の診断・治療などの内容を含めた授業を行う。								
その他	参考書については初回に説明するので、購入はそのあとでも良いかもしれません。 基本知識があった方がよい（かもしれない）授業内容があれば、その内容に関わる生物基礎的内容の速習資料（アニメ等）を参照・利用できるようにします。								

講義コード	11C0125702	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																											
科目名	ゼミナールⅠ(戎野)				戎野 淑子		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	<p>労働は、人間にとって基本的かつ重要な営みである。昨今は、新型コロナウイルス感染症の拡大や働き方改革などによって働き方にも様々な変化が生じている。テレワークが急速に進み、また働き方も一層多様になった。そこには、不安定雇用やワーキングプア、過労などの社会問題もある。</p> <p>そこで、人々の生活に身近で深く関わっている極めて重要な課題の中から、ゼミ生と相談し、興味関心あるテーマを選び、文献研究、ならびに討論を実施する。そこでは、レポート作成やプレゼンテーションの能力を身につけ、自分の意見を正確に伝え、積極的に議論を行うことができるようになってほしい。</p>																																		
到達目標	<p>学生が労働経済学、人的資源管理論に関する基礎知識を理解したうえで、自分なりの問題設定を行い、意見を持つことができる</p>																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>課題を行うこと。この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。</p>																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 役職や今後の予定を相談のうえ決める</td> <td>【第14回】 グループディスカッション</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 テーマをさめる</td> <td>【第15回】 グループディスカッション</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 グループディスカッション</td> <td>【第16回】 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 グループディスカッション</td> <td>【第17回】 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 グループワーク</td> <td>【第18回】 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 グループワーク</td> <td>【第19回】 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 グループワーク</td> <td>【第20回】 プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 グループワーク</td> <td>【第21回】 プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 グループワーク</td> <td>【第22回】 プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 中間発表</td> <td>【第23回】 プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 レポート作成</td> <td>【第24回】 プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 レポート作成</td> <td>【第25回】 プレゼンテーション (ゼミ大会、合同ゼミなど)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 まとめ</td> <td>【第26回】 まとめ</td> </tr> </table>									【第1回】 役職や今後の予定を相談のうえ決める	【第14回】 グループディスカッション	【第2回】 テーマをさめる	【第15回】 グループディスカッション	【第3回】 グループディスカッション	【第16回】 グループワーク	【第4回】 グループディスカッション	【第17回】 グループワーク	【第5回】 グループワーク	【第18回】 グループワーク	【第6回】 グループワーク	【第19回】 グループワーク	【第7回】 グループワーク	【第20回】 プレゼンテーション	【第8回】 グループワーク	【第21回】 プレゼンテーション	【第9回】 グループワーク	【第22回】 プレゼンテーション	【第10回】 中間発表	【第23回】 プレゼンテーション	【第11回】 レポート作成	【第24回】 プレゼンテーション	【第12回】 レポート作成	【第25回】 プレゼンテーション (ゼミ大会、合同ゼミなど)	【第13回】 まとめ	【第26回】 まとめ
【第1回】 役職や今後の予定を相談のうえ決める	【第14回】 グループディスカッション																																		
【第2回】 テーマをさめる	【第15回】 グループディスカッション																																		
【第3回】 グループディスカッション	【第16回】 グループワーク																																		
【第4回】 グループディスカッション	【第17回】 グループワーク																																		
【第5回】 グループワーク	【第18回】 グループワーク																																		
【第6回】 グループワーク	【第19回】 グループワーク																																		
【第7回】 グループワーク	【第20回】 プレゼンテーション																																		
【第8回】 グループワーク	【第21回】 プレゼンテーション																																		
【第9回】 グループワーク	【第22回】 プレゼンテーション																																		
【第10回】 中間発表	【第23回】 プレゼンテーション																																		
【第11回】 レポート作成	【第24回】 プレゼンテーション																																		
【第12回】 レポート作成	【第25回】 プレゼンテーション (ゼミ大会、合同ゼミなど)																																		
【第13回】 まとめ	【第26回】 まとめ																																		
成績評価の方法	<p>学期末のレポート (40%)、プレゼンテーション (40%) と、授業での発表、討論 (20%) により評価する。</p>																																		
フィードバックの内容	<p>フィードバックは次回授業には行う</p>																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	<p>水曜日お昼休み</p>																																		
アクティブラーニングの内容	<p>毎回、課題を行い、そのフィードバックを次回実施する。</p>																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11C0125703	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	苑 志佳	開講期	通年																										
科目名	ゼミナール I (苑)						苑 志佳	通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	2025年度の苑ゼミでは、「中国経済発展のサステナビリティを考える」をテーマに、その持続性と可能性についてゼミ生諸君と一緒に研究する 2024年の中国経済は困難な局面を迎えた。不動産不況を象徴とした経済低迷は、中国経済全般に様々なマイナス影響——大学新卒者の就職難、民営企業の経営不振と倒産、民間部門の債務累積、対内直接投資の減少および撤退、など——を与えている。これまで30数年間の高度経済成長に慣れた中国は、かつてなかった諸問題に直面している。これらの問題を解決することができなければ、中国経済の持続的成長は中断する恐れもある。これらの課題の背景・原因・解決の見通しなどの点は本ゼミの研究テーマになる。具体的には、「中国経済の持続的成長の条件は何か」、「世界経済における中国の今後の役割はどのように変わるか」という諸テーマについて、苑ゼミは考察していく。																																		
到達目標	本ゼミを通じ学生は、中国に関する総合知識を身につけることができる。様々な専門書を輪読することによって中国の政治・社会・歴史をより深く理解することができる。																																		
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	1. この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 3. 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 4. 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 前期イントロダクション</td> <td>【第14回】 後期イントロダクション</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 中国が重要な理由</td> <td>【第15回】 中国という謎</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 中国の人口と地理、歴史</td> <td>【第16回】 中国経済の奇跡</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 中国経済の政治とのかかわり</td> <td>【第17回】 中国の消費者と新世代</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 農業と土地と農村部の経済</td> <td>【第18回】 中国独自の企業モデル——国有企業と民間企業</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 産業と輸出とテクノロジー</td> <td>【第19回】 国家と市長経済</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 都市化とインフラ</td> <td>【第20回】 中国の金融システム</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 企業システム</td> <td>【第21回】 テクノロジーをめぐる競争</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 財政システム</td> <td>【第22回】 世界経済における中国の役割</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 金融システム</td> <td>【第23回】 世界の金融市場で</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 エネルギーと環境</td> <td>【第24回】 新たなパラダイムに向けて</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 人口構成と労働市場</td> <td>【第25回】 中国経済の新たな課題を考える</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 興隆する消費者経済</td> <td>【第26回】 通年総括</td> </tr> </table>									【第1回】 前期イントロダクション	【第14回】 後期イントロダクション	【第2回】 中国が重要な理由	【第15回】 中国という謎	【第3回】 中国の人口と地理、歴史	【第16回】 中国経済の奇跡	【第4回】 中国経済の政治とのかかわり	【第17回】 中国の消費者と新世代	【第5回】 農業と土地と農村部の経済	【第18回】 中国独自の企業モデル——国有企業と民間企業	【第6回】 産業と輸出とテクノロジー	【第19回】 国家と市長経済	【第7回】 都市化とインフラ	【第20回】 中国の金融システム	【第8回】 企業システム	【第21回】 テクノロジーをめぐる競争	【第9回】 財政システム	【第22回】 世界経済における中国の役割	【第10回】 金融システム	【第23回】 世界の金融市場で	【第11回】 エネルギーと環境	【第24回】 新たなパラダイムに向けて	【第12回】 人口構成と労働市場	【第25回】 中国経済の新たな課題を考える	【第13回】 興隆する消費者経済	【第26回】 通年総括
【第1回】 前期イントロダクション	【第14回】 後期イントロダクション																																		
【第2回】 中国が重要な理由	【第15回】 中国という謎																																		
【第3回】 中国の人口と地理、歴史	【第16回】 中国経済の奇跡																																		
【第4回】 中国経済の政治とのかかわり	【第17回】 中国の消費者と新世代																																		
【第5回】 農業と土地と農村部の経済	【第18回】 中国独自の企業モデル——国有企業と民間企業																																		
【第6回】 産業と輸出とテクノロジー	【第19回】 国家と市長経済																																		
【第7回】 都市化とインフラ	【第20回】 中国の金融システム																																		
【第8回】 企業システム	【第21回】 テクノロジーをめぐる競争																																		
【第9回】 財政システム	【第22回】 世界経済における中国の役割																																		
【第10回】 金融システム	【第23回】 世界の金融市場で																																		
【第11回】 エネルギーと環境	【第24回】 新たなパラダイムに向けて																																		
【第12回】 人口構成と労働市場	【第25回】 中国経済の新たな課題を考える																																		
【第13回】 興隆する消費者経済	【第26回】 通年総括																																		
成績評価の方法	1. 学習態度50% 2. プレゼン30% 3. ディスカッション参加20%																																		
フィードバックの内容	毎週のプレゼン課題、テーマに対する講評を翌週授業内の冒頭にて行う。																																		
教科書	『チャイナ・エコノミー』アーサー・R・クローバー（白桃書房）2023年																																		
指定図書	『新中国経済大全』ジン・クウユ（日本経済新聞出版）2024年																																		
参考書	『現代中国経済』丸川知雄（有斐閣アルマ）2021年																																		
教員からのお知らせ	ゼミでの活発な議論と価値のあるコメントが期待されているので、ゼミ生諸君は、遠慮なく目立ちください。また、数回のコンパーも企画中で、授業以外の場でも気軽に議論しましょう。																																		
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること																																		
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11C0125704	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																											
科目名	ゼミナールⅠ(王在詰)				王 在詰		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本授業は学部2年生を対象としている。本年度において、3年次のゼミナール論文の作成を念頭に置きながら、前期でミクロ経済学、後期でマクロ経済学を勉強する。また、パソコンを使って経済統計の読み方や分析方法も勉強する。この一年間で、ゼミ論文作成のために必要な問題発見・問題解決の能力を養う。具体的な学修の目標や方法などについては受講生と相談したうえで決めたい。																																		
到達目標	①マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学の基本をより一層理解することができる。 ②経済統計データの基本を理解することができる。 ③パソコンによる数量分析の基本を習得することができる。																																		
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	①『日本経済新聞』の社説や「経済教室」などの論文を読むこと。 ②授業内容の復習。 ③応用ソフトの操作方法を独学すること。 ④プレゼンテーションの技法を勉強すること。 サブゼミやゼミ合宿なども行われるため、必要な授業外学修時間が120時間以上である。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンスと統計基礎のレビュー①： 標本と母集団</td> <td>【第14回】 経済学基礎のレビュー⑧：労働市場</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 統計基礎のレビュー②：標本データの処理、確率 論基礎</td> <td>【第15回】 一次統計と2次統計、産業連関表、工業統計</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 統計基礎のレビュー③：離散型変数の確率分布</td> <td>【第16回】 商業統計とサービス統計</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 統計基礎のレビュー④：連続型変数の確率分布</td> <td>【第17回】 産業連関表の作成方法</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 統計基礎のレビュー⑤：確率的推定</td> <td>【第18回】 産業連関分析Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 統計基礎のレビュー⑥：仮説検定</td> <td>【第19回】 産業連関分析Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 経済学基礎のレビュー①： ミクロ経済学とマクロ経済学</td> <td>【第20回】 Excelによる演習</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 経済学基礎のレビュー②：消費者理論Ⅰ</td> <td>【第21回】 単回帰分析Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 経済学基礎のレビュー③：消費者理論Ⅱ</td> <td>【第22回】 単回帰分析Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 経済学基礎のレビュー④：生産者理論Ⅰ</td> <td>【第23回】 重回帰分析</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 経済学基礎のレビュー⑤：生産者理論Ⅱ</td> <td>【第24回】 Excelによる演習</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 経済学基礎のレビュー⑥：生産物市場</td> <td>【第25回】 系列相関</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 経済学基礎のレビュー⑦：資本市場</td> <td>【第26回】 不均一分散</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンスと統計基礎のレビュー①： 標本と母集団	【第14回】 経済学基礎のレビュー⑧：労働市場	【第2回】 統計基礎のレビュー②：標本データの処理、確率 論基礎	【第15回】 一次統計と2次統計、産業連関表、工業統計	【第3回】 統計基礎のレビュー③：離散型変数の確率分布	【第16回】 商業統計とサービス統計	【第4回】 統計基礎のレビュー④：連続型変数の確率分布	【第17回】 産業連関表の作成方法	【第5回】 統計基礎のレビュー⑤：確率的推定	【第18回】 産業連関分析Ⅰ	【第6回】 統計基礎のレビュー⑥：仮説検定	【第19回】 産業連関分析Ⅱ	【第7回】 経済学基礎のレビュー①： ミクロ経済学とマクロ経済学	【第20回】 Excelによる演習	【第8回】 経済学基礎のレビュー②：消費者理論Ⅰ	【第21回】 単回帰分析Ⅰ	【第9回】 経済学基礎のレビュー③：消費者理論Ⅱ	【第22回】 単回帰分析Ⅱ	【第10回】 経済学基礎のレビュー④：生産者理論Ⅰ	【第23回】 重回帰分析	【第11回】 経済学基礎のレビュー⑤：生産者理論Ⅱ	【第24回】 Excelによる演習	【第12回】 経済学基礎のレビュー⑥：生産物市場	【第25回】 系列相関	【第13回】 経済学基礎のレビュー⑦：資本市場	【第26回】 不均一分散
【第1回】 ガイダンスと統計基礎のレビュー①： 標本と母集団	【第14回】 経済学基礎のレビュー⑧：労働市場																																		
【第2回】 統計基礎のレビュー②：標本データの処理、確率 論基礎	【第15回】 一次統計と2次統計、産業連関表、工業統計																																		
【第3回】 統計基礎のレビュー③：離散型変数の確率分布	【第16回】 商業統計とサービス統計																																		
【第4回】 統計基礎のレビュー④：連続型変数の確率分布	【第17回】 産業連関表の作成方法																																		
【第5回】 統計基礎のレビュー⑤：確率的推定	【第18回】 産業連関分析Ⅰ																																		
【第6回】 統計基礎のレビュー⑥：仮説検定	【第19回】 産業連関分析Ⅱ																																		
【第7回】 経済学基礎のレビュー①： ミクロ経済学とマクロ経済学	【第20回】 Excelによる演習																																		
【第8回】 経済学基礎のレビュー②：消費者理論Ⅰ	【第21回】 単回帰分析Ⅰ																																		
【第9回】 経済学基礎のレビュー③：消費者理論Ⅱ	【第22回】 単回帰分析Ⅱ																																		
【第10回】 経済学基礎のレビュー④：生産者理論Ⅰ	【第23回】 重回帰分析																																		
【第11回】 経済学基礎のレビュー⑤：生産者理論Ⅱ	【第24回】 Excelによる演習																																		
【第12回】 経済学基礎のレビュー⑥：生産物市場	【第25回】 系列相関																																		
【第13回】 経済学基礎のレビュー⑦：資本市場	【第26回】 不均一分散																																		
成績評価の方法	授業への取り組み：30%、授業内発表：70%。																																		
フィードバックの内容	授業内の発表については教員がコメントする。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ	①ミクロ経済学基礎、マクロ経済学基礎の履修済みが望ましい。 ②統計学基礎の履修済みが望ましい。 ③2年次と3年次で「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」、「経済統計学」、「計量経済学」の履修が望ましい。 ④教科書と参考書は授業開始後、受講生と相談したうえで決めたい。 ④教科書や参考文献は、授業開始時、履修生と相談して決めたい。																																		
オフィスアワー	時間：木曜日6限目（18：00-19：30） 場所：2号棟511研究室 事前連絡：wzz@ris.ac.jp																																		
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、能動的な授業外学習など																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11C0125705	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(王ゼイ)				王ゼイ		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミでは、経済学の学習と同時に、ドキュメンテーション・プレゼンテーション能力を高めて、数理科学・プログラミング・データサイエンスなどの知識とスキルを身につけることを目指して、総合的な学習を行う。								
到達目標	<p>学生はこの講義の履修を通じて、以下の目的を達成できる。</p> <p>①大学で経済学を学んでいく上で必要な数学・統計学を習得する。</p> <p>②R言語を使い、基礎的なプログラミング技法を習得する。</p> <p>③データサイエンスを学び、基本的なデータ分析能力を習得する。</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定された教科書の予習と復習及び課題と発表の準備を行ってください。週に少なくとも4時間(計120時間以上)の自主的な学修が必要である。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】輪読及び発表1 【第3回】輪読及び発表2 【第4回】輪読及び発表3 【第5回】輪読及び発表4 【第6回】輪読及び発表5 【第7回】輪読及び発表6 【第8回】輪読及び発表7 【第9回】輪読及び発表8 【第10回】輪読及び発表9 【第11回】輪読及び発表10 【第12回】輪読及び発表11 【第13回】輪読及び発表12				【第14回】輪読及び発表13 【第15回】輪読及び発表14 【第16回】輪読及び発表15 【第17回】輪読及び発表16 【第18回】輪読及び発表17 【第19回】輪読及び発表18 【第20回】輪読及び発表19 【第21回】輪読及び発表20 【第22回】輪読及び発表21 【第23回】輪読及び発表22 【第24回】輪読及び発表23 【第25回】輪読及び発表24 【第26回】まとめ				
成績評価の方法	発表(50%)と課題(50%)で評価する。								
フィードバックの内容	この科目では、授業用のチームが立ち上げられ、履修者全員に授業用チームに参加していただくことになっている。授業用チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前にMicrosoft OutlookとTeamsのアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック、課題の配布と提出などはすべてMicrosoft Teamsを通じて行われる。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	ノートパソコンを持参してください。								
オフィスアワー	Teamsのチャット機能、Microsoft 365のメール(大学から付与されたメールアドレス)などで、予め教員と連絡を取ってください。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	ゼミナール大会での発表へ向けて、教員の指導のもとで、問題解決学習・プレゼンテーションを学生に行ってもらおう。								
その他									

講義コード	11C0125706	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	小沢 奈美恵	開講期	通年
科目名	ゼミナール I (小沢奈)								
履修前条件					備考				
授業の目的	このゼミナールは、主として映画などの映像文化からアメリカ文化や社会を学び、同時に英語力もつけることを目標とする。前半は英語の教科書やニュースを読みながら、映画の背景としてアメリカの歴史、政治、人種、宗教、移民問題など幅広い視点から学び発表や討論を行う。後半は来年のゼミ大会を視野に入れたテーマで、グループごとに一つの映画を選び、英語表現や文化的背景についてパワーポイントを用いて発表を行う。								
到達目標	1. 映画、ニュースを通じて、アメリカの歴史の概略、アメリカ現代社会の諸問題などを理解でき、批評的な考えを述べることができる。 2. 映画で使われている英語に関して、基礎的、日常的な表現が聞き取れ、理解できるようになる。 3. アメリカの問題について、簡単に英語で意見を述べられる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行う。 1. テーマに関連した本を数冊読むことが求められる。 2. 英語の教科書やニュースを読み発表したり、英語の問い、英語の要約やコメント、簡単な討論に備えて準備する。 3. 雑誌、ニュース、メディアを通じて資料を読み、要約したり、批評的に意見をまとめ発表する。								
授業計画	<p>【第1回】 授業説明と自己紹介・役割分担</p> <p>【第2回】 ①教科書を用いてアメリカ社会、歴史、文化についてペアで発表する。 ②映画シナリオを利用した英語の勉強 ③映画を通じた社会・文化のグループ学習 1</p> <p>【第3回】 第2回の①と②は毎回同様に行う。 グループ学習 2 (課題の調査報告)</p> <p>【第4回】 グループ学習 3 (課題の調査報告)</p> <p>【第5回】 グループ学習 4 (課題の調査報告)</p> <p>【第6回】 グループ学習 5 (発表内容の英文作成)</p> <p>【第7回】 グループ学習 6 (発表内容の英文作成)</p> <p>【第8回】 グループ学習 7 (発表内容の英文作成)</p> <p>【第9回】 グループ学習 8 (パワーポイントの作成)</p> <p>【第10回】 グループ学習 9 (パワーポイントの作成)</p> <p>【第11回】 グループ学習 10 (英語発表の練習)</p> <p>【第12回】 グループ学習 11 (英語発表の練習)</p> <p>【第13回】 グループ発表 視聴者と教員からのフィードバック</p> <p>【第14回】 いくつかのグループに別れて、ゼミ大会用に映画を選び、調査を開始する。</p> <p>【第15回】 ①アメリカの最新英字ニュース学習 ②映画で利用されている英語研究。 ③グループ学習 1 (課題の調査報告)</p> <p>【第16回】 第17回の①と②は毎回同様に行う。 グループ学習 2 (課題の調査報告)</p> <p>【第17回】 グループ学習 3 (課題の調査報告)</p> <p>【第18回】 グループ学習 4 (課題の調査報告)</p> <p>【第19回】 グループ学習 5 (発表内容の英文作成)</p> <p>【第20回】 グループ学習 6 (発表内容の英文作成)</p> <p>【第21回】 グループ学習 7 (パワーポイントの作成)</p> <p>【第22回】 グループ学習 8 (英語発表の練習)</p> <p>【第23回】 グループ学習 9 (英語発表の練習)</p> <p>【第24回】 グループ発表 視聴者と教員からのフィードバック</p> <p>【第25回】 レポート作成</p> <p>【第26回】 レポート作成と春休みに読む資料の準備</p>								
成績評価の方法	授業での発表・参加態度 (70%)、レポート (30%)								
フィードバックの内容	プレゼンテーションに対するピアレビュー、教員からの詳細なコメントを行う。レポートには、コメントを入れて返却する。								
教科書	『アメリカの過去・現在・未来を読む America in Motion』 Gary Dendo (成美堂) 2010年								
指定図書	『概説アメリカ文化史』 笹田文化史直人 / 堀真理子 / 外岡尚美編著 (ミネルヴァ書房) 2002年、『アメリカ黒人の歴史 - 奴隷貿易からオバマ大統領まで』 上杉 忍 (中公新書) 2013年、『そうだったのか! アメリカ』 池上彰 (集英社) 2005年、『9.11とアメリカ』 越智道雄監修 小澤奈美恵・塩谷幸子編集 (鳳書房) 2008年、『映画で読み解く現代アメリカ: オバマの時代』 越智道雄監修 小澤奈美恵・塩谷幸子編集 (明石書店) 2015年								
参考書									
教員からのお知らせ	連絡は e-mail、Line、LMS などでも頻繁に取り合います。また必要に応じてアポイントを取って、314研究室を訪ねてください。授業で取り扱う映画に、若干の変更が出ることがあります。								
オフィスアワー	水曜 3 時限のオフィスアワーに 314 研究室を訪ねてください。メールや LMS でも対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、問題解決学習、グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125707	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(小沢佳)				小沢 佳史		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、「ゼミナールⅡ」での学修に向けて土台を固める。より詳しく言えば、この授業の目的は、経済学の歴史をめぐる基本的な知識を身に付けること、そしてそれを通じて、過去の出来事を踏まえ多様な視点から現在の出来事を捉えられるようになること、そのうえで、自分たちの関心事をわかりやすく表現できるようにすることである。そのためにこの授業では、主として経済学の歴史に関する図書を輪読する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の歴史——現在の経済学が誕生するまでのプロセス——を、自分たちの言葉で説明できる。 2. 目の前にあるものを、立体的・多面的に説明できる。 3. グループのメンバーと協力して、自分たちの関心事を他人へ明確に伝えることができる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、担当者からの指示やフィードバックを参照して、毎回の復習と次回の予習を入念に行うこと。また、大学の図書館などを最大限に活用して、新聞をできる限り毎日読むこと。								
授業計画	<p>【第1回】報告や議論のやり方の確認、新聞の読み方、教科書の解説</p> <p>【第2回】報告の準備①——18世紀</p> <p>【第3回】報告と議論①——18世紀（第1グループ）</p> <p>【第4回】報告と議論②——18世紀（第2グループ）</p> <p>【第5回】18世紀のまとめ</p> <p>【第6回】報告の準備②——19世紀</p> <p>【第7回】報告と議論③——19世紀（第1グループ）</p> <p>【第8回】報告と議論④——19世紀（第2グループ）</p> <p>【第9回】19世紀のまとめ</p> <p>【第10回】報告の準備③——20世紀</p> <p>【第11回】報告と議論⑤——20世紀（第1グループ）</p> <p>【第12回】報告と議論⑥——20世紀（第2グループ）</p> <p>【第13回】20世紀のまとめ</p> <p>【第14回】調査①——新聞</p> <p>【第15回】調査②——指定図書の選定</p> <p>【第16回】調査③——指定図書の概要</p> <p>【第17回】調査④——指定図書の精読</p> <p>【第18回】中間報告の準備</p> <p>【第19回】中間報告と議論</p> <p>【第20回】調査⑤——中間報告の総括</p> <p>【第21回】調査⑥——教科書と指定図書①</p> <p>【第22回】調査⑦——教科書と指定図書②</p> <p>【第23回】調査⑧——教科書と指定図書③</p> <p>【第24回】調査⑨——教科書と指定図書④</p> <p>【第25回】最終報告の準備</p> <p>【第26回】最終報告と議論</p> <p>※この進捗や内容は目安であり、履修者と相談しながら進捗や内容を適宜調整する。</p>								
成績評価の方法	報告（50％）と、議論を含む授業への取り組み姿勢（50％）によって評価する。								
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。								
教科書	『福祉の経済思想家たち 増補改訂版』小峯敦 編（ナカニシヤ出版）2010								
指定図書	『交響する経済学——経済学はどう使うべきか』中村達也 著（筑摩書房）2022、『経済思想』猪木武徳 著（岩波書店）2017、『経済思想入門』松原隆一郎 著（筑摩書房）2016、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『経済学の名著30』松原隆一郎 著（筑摩書房）2009、『経済学のことば』根井雅弘 著（講談社）2004、『西洋政治思想資料集』杉田敦、川崎修 編著（法政大学出版局）2014、『政治学の名著30』佐々木毅 著（筑摩書房）2007								
参考書	『ソクラテスの弁明』プラトン 著；納富信留 訳（光文社）2012								
教員からのお知らせ	無断で欠席したり遅刻したりすることは、基本的に認められない。								
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125708	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール I (小野崎)				小野崎 保		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミでは人工社会シミュレーションについて学ぶ。人工社会とは、端的に言えば、人間やさまざまな組織などを構成要素とするコンピュータ上の仮想的な社会のことである。個々の構成要素はエージェントと呼ばれ、比較的単純な行動ルールに基づいて自ら状況判断をし、他のエージェントと関わりを持つ。人工社会シミュレーションが目指すものは、このように多数のエージェントが相互に作用し合った場合に生じる現象を分析することにより、さまざまな社会現象の背後にある本質的なメカニズムを理解することである。 年間を通して教科書を輪読しながらパソコンを用いた実習をおこない、人工社会シミュレーションの基礎的手法の習得を目指す。								
到達目標	(1) artisoc (教科書に付随する汎用マルチエージェントシミュレーター) を自在に操作できる。 (2) artisoc を用いて独自のモデルを作成することができる。 (3) 社会現象の背後にある本質的なメカニズムについて強い関心を持つようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で扱われる教科書の該当箇所について、artisoc を操作しながら予習・復習をおこなうこと。特に、教科書の演習問題には必ず取り組むこと。普段からシミュレーションに適する「ネタ」を意識しつつ、さまざまな文献に目を通すこと。これらと適宜課される課題とを併せて、授業外に合計120時間以上の学習をおこなうこと。								
授業計画	【第1回】 パソコンおよび artisoc の基本操作 【第2回】 教科書第1～3章およびパソコンによる演習 【第3回】 教科書第4・5章およびパソコンによる演習 【第4回】 教科書第6章およびパソコンによる演習 【第5回】 教科書第7章およびパソコンによる演習 【第6回】 教科書第8章およびパソコンによる演習 【第7回】 教科書第9章およびパソコンによる演習 【第8回】 教科書第10章およびパソコンによる演習 【第9回】 教科書第11章およびパソコンによる演習 【第10回】 教科書第12章およびパソコンによる演習 【第11回】 教科書第13章およびパソコンによる演習 【第12回】 教科書第14章およびパソコンによる演習 【第13回】 教科書第15章およびパソコンによる演習				【第14回】 教科書第16章およびパソコンによる演習 【第15回】 教科書第17章およびパソコンによる演習 【第16回】 夏期課題の発表 【第17回】 教科書第18章およびパソコンによる演習 【第18回】 教科書第19章およびパソコンによる演習 【第19回】 教科書第20章およびパソコンによる演習 【第20回】 教科書第21章およびパソコンによる演習 【第21回】 教科書第22章およびパソコンによる演習 【第22回】 教科書第23・24章およびパソコンによる演習 【第23回】 教科書第25・26章およびパソコンによる演習 【第24回】 教科書第27・28章およびパソコンによる演習 【第25回】 次年度研究テーマの検討 【第26回】 次年度研究テーマの確定				
成績評価の方法	ゼミナール活動への取り組み姿勢 (30%)、輪読担当時の報告 (40%)、課題 (30%) による。								
フィードバックの内容	教科書の輪読および課題発表における発表の内容や方法について、随時口頭によりコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	メール (onozaki@ris.ac.jp) にて随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、演習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125709	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	川口 真一	開講期	通年																										
科目名	ゼミナールⅠ(川口)				川口 真一			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	<p>少子高齢化社会が進む日本財政の姿は今後どうあるべきであろうか。本ゼミナールは、我々の日々の暮らしにかかわる税金、社会保障、公共サービス、地方財政など様々なテーマについて学ぶことを目的とする。これらの制度や役割を理解することは、例えば選挙でどの政党を選ぶべきかを判断するうえでも非常に重要なことである。</p> <p>ゼミでは、まず実際に財政がどのように機能し、我々の生活に影響しているのかを学んでいく。その後、テレビや新聞、雑誌、インターネットなどで取り上げられている財政問題を題材にして、ディスカッションを行っていく。</p>																																		
到達目標	財政問題に関するディスカッションを通して、プレゼン能力と論理的思考力を身につける。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。ミクロ経済学の基礎と本講義で使用する教科書を十分に理解すること。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 財政に関する知識および理論の修得①</td> <td>【第14回】 財政に関する文献の輪読④</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 財政に関する知識および理論の修得②</td> <td>【第15回】 財政に関する文献の輪読⑤</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 財政に関する知識および理論の修得③</td> <td>【第16回】 財政に関する文献の輪読⑥</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 財政に関する知識および理論の修得④</td> <td>【第17回】 財政に関する文献の輪読⑦</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 財政に関する知識および理論の修得⑤</td> <td>【第18回】 財政に関する文献の輪読⑧</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 財政に関する知識および理論の修得⑥</td> <td>【第19回】 財政に関する文献の輪読⑨</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 財政に関する知識および理論の修得⑦</td> <td>【第20回】 財政に関する文献の輪読⑩</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 財政に関する知識および理論の修得⑧</td> <td>【第21回】 財政問題に関するディスカッション①</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 財政に関する知識および理論の修得⑨</td> <td>【第22回】 財政問題に関するディスカッション②</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 財政に関する知識および理論の修得⑩</td> <td>【第23回】 財政問題に関するディスカッション③</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 財政に関する文献の輪読①</td> <td>【第24回】 財政問題に関するディスカッション④</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 財政に関する文献の輪読②</td> <td>【第25回】 財政問題に関するディスカッション⑤</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 財政に関する文献の輪読③</td> <td>【第26回】 財政問題に関するディスカッション⑥</td> </tr> </table>									【第1回】 財政に関する知識および理論の修得①	【第14回】 財政に関する文献の輪読④	【第2回】 財政に関する知識および理論の修得②	【第15回】 財政に関する文献の輪読⑤	【第3回】 財政に関する知識および理論の修得③	【第16回】 財政に関する文献の輪読⑥	【第4回】 財政に関する知識および理論の修得④	【第17回】 財政に関する文献の輪読⑦	【第5回】 財政に関する知識および理論の修得⑤	【第18回】 財政に関する文献の輪読⑧	【第6回】 財政に関する知識および理論の修得⑥	【第19回】 財政に関する文献の輪読⑨	【第7回】 財政に関する知識および理論の修得⑦	【第20回】 財政に関する文献の輪読⑩	【第8回】 財政に関する知識および理論の修得⑧	【第21回】 財政問題に関するディスカッション①	【第9回】 財政に関する知識および理論の修得⑨	【第22回】 財政問題に関するディスカッション②	【第10回】 財政に関する知識および理論の修得⑩	【第23回】 財政問題に関するディスカッション③	【第11回】 財政に関する文献の輪読①	【第24回】 財政問題に関するディスカッション④	【第12回】 財政に関する文献の輪読②	【第25回】 財政問題に関するディスカッション⑤	【第13回】 財政に関する文献の輪読③	【第26回】 財政問題に関するディスカッション⑥
【第1回】 財政に関する知識および理論の修得①	【第14回】 財政に関する文献の輪読④																																		
【第2回】 財政に関する知識および理論の修得②	【第15回】 財政に関する文献の輪読⑤																																		
【第3回】 財政に関する知識および理論の修得③	【第16回】 財政に関する文献の輪読⑥																																		
【第4回】 財政に関する知識および理論の修得④	【第17回】 財政に関する文献の輪読⑦																																		
【第5回】 財政に関する知識および理論の修得⑤	【第18回】 財政に関する文献の輪読⑧																																		
【第6回】 財政に関する知識および理論の修得⑥	【第19回】 財政に関する文献の輪読⑨																																		
【第7回】 財政に関する知識および理論の修得⑦	【第20回】 財政に関する文献の輪読⑩																																		
【第8回】 財政に関する知識および理論の修得⑧	【第21回】 財政問題に関するディスカッション①																																		
【第9回】 財政に関する知識および理論の修得⑨	【第22回】 財政問題に関するディスカッション②																																		
【第10回】 財政に関する知識および理論の修得⑩	【第23回】 財政問題に関するディスカッション③																																		
【第11回】 財政に関する文献の輪読①	【第24回】 財政問題に関するディスカッション④																																		
【第12回】 財政に関する文献の輪読②	【第25回】 財政問題に関するディスカッション⑤																																		
【第13回】 財政に関する文献の輪読③	【第26回】 財政問題に関するディスカッション⑥																																		
成績評価の方法	ゼミでの報告によって評価する (100%)。																																		
フィードバックの内容																																			
教科書	授業時に指示する																																		
指定図書	授業時に指示する																																		
参考書	授業時に指示する																																		
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。																																		
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11C0125710	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	河原 伸哉	開講期	通年																										
科目名	ゼミナールⅠ(河原)				河原 伸哉			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	<p>ミクロ・マクロ経済学とデータ分析について演習形式で学ぶ。初歩的・基礎的な内容から学び始め、中級レベルの内容も理解できることを目標とする。上記に加えて、日経新聞等の記事を用いて、現実の経済問題についての理解を深めながら、プレゼンテーションの技法についても学ぶ。</p>																																		
到達目標	ミクロ・マクロ経済学とデータ分析の基本的な概念を理解し、それらを他の学生に対して説明できる。他の学生の発表に対して自らの意見を述べるができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎回のゼミでは、指定された教科書であらかじめ決められた各自の分担箇所について発表し、それに関する質疑応答や問題演習を行う。このため各回の授業で取り扱う内容について、教科書や参考書等を用いた予習・復習など授業外に計120時間以上の学修を行うこと。																																		
授業計画	<p>ミクロ・マクロ経済学とデータ分析の学習と並行して、日経新聞や経済雑誌等の記事を用いて幅広く経済問題に触れて、プレゼンテーションやディスカッションの方法についても学ぶ。</p> <table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ミクロ経済学の学習 1</td> <td>【第14回】 マクロ経済学の学習 1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 ミクロ経済学の学習 2</td> <td>【第15回】 マクロ経済学の学習 2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 ミクロ経済学の学習 3</td> <td>【第16回】 マクロ経済学の学習 3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 ミクロ経済学の学習 4</td> <td>【第17回】 マクロ経済学の学習 4</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 ミクロ経済学の学習 5</td> <td>【第18回】 マクロ経済学の学習 5</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 ミクロ経済学の学習 6</td> <td>【第19回】 マクロ経済学の学習 6</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 新聞・雑誌の報告・討論 1</td> <td>【第20回】 新聞・雑誌の報告・討論 3</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 データ分析の学習 1</td> <td>【第21回】 データ分析の演習 1</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 データ分析の学習 2</td> <td>【第22回】 データ分析の演習 2</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 データ分析の学習 3</td> <td>【第23回】 データ分析の演習 3</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 データ分析の学習 4</td> <td>【第24回】 データ分析の演習 4</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 データ分析の学習 5</td> <td>【第25回】 データ分析の演習 5</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 新聞・雑誌の報告・討論 2</td> <td>【第26回】 新聞・雑誌の報告・討論 4</td> </tr> </table>									【第1回】 ミクロ経済学の学習 1	【第14回】 マクロ経済学の学習 1	【第2回】 ミクロ経済学の学習 2	【第15回】 マクロ経済学の学習 2	【第3回】 ミクロ経済学の学習 3	【第16回】 マクロ経済学の学習 3	【第4回】 ミクロ経済学の学習 4	【第17回】 マクロ経済学の学習 4	【第5回】 ミクロ経済学の学習 5	【第18回】 マクロ経済学の学習 5	【第6回】 ミクロ経済学の学習 6	【第19回】 マクロ経済学の学習 6	【第7回】 新聞・雑誌の報告・討論 1	【第20回】 新聞・雑誌の報告・討論 3	【第8回】 データ分析の学習 1	【第21回】 データ分析の演習 1	【第9回】 データ分析の学習 2	【第22回】 データ分析の演習 2	【第10回】 データ分析の学習 3	【第23回】 データ分析の演習 3	【第11回】 データ分析の学習 4	【第24回】 データ分析の演習 4	【第12回】 データ分析の学習 5	【第25回】 データ分析の演習 5	【第13回】 新聞・雑誌の報告・討論 2	【第26回】 新聞・雑誌の報告・討論 4
【第1回】 ミクロ経済学の学習 1	【第14回】 マクロ経済学の学習 1																																		
【第2回】 ミクロ経済学の学習 2	【第15回】 マクロ経済学の学習 2																																		
【第3回】 ミクロ経済学の学習 3	【第16回】 マクロ経済学の学習 3																																		
【第4回】 ミクロ経済学の学習 4	【第17回】 マクロ経済学の学習 4																																		
【第5回】 ミクロ経済学の学習 5	【第18回】 マクロ経済学の学習 5																																		
【第6回】 ミクロ経済学の学習 6	【第19回】 マクロ経済学の学習 6																																		
【第7回】 新聞・雑誌の報告・討論 1	【第20回】 新聞・雑誌の報告・討論 3																																		
【第8回】 データ分析の学習 1	【第21回】 データ分析の演習 1																																		
【第9回】 データ分析の学習 2	【第22回】 データ分析の演習 2																																		
【第10回】 データ分析の学習 3	【第23回】 データ分析の演習 3																																		
【第11回】 データ分析の学習 4	【第24回】 データ分析の演習 4																																		
【第12回】 データ分析の学習 5	【第25回】 データ分析の演習 5																																		
【第13回】 新聞・雑誌の報告・討論 2	【第26回】 新聞・雑誌の報告・討論 4																																		
成績評価の方法	到達目標で挙げた各項目に基づき、平常点（授業への参加姿勢）に50%、課題（発表、レポート等）に50%を配分して評価する。																																		
フィードバックの内容	発表やレポートに対するコメントなどを授業時に行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ	使用するテキストについては、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。																																		
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。																																		
アクティブラーニングの内容	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11C0125711	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(北原)				北原 克宣		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールでは、第一に、農業問題・食料問題・土地問題・環境問題などについて世界経済および日本経済との関連で理解する、第二に、研究の方法を学ぶ、第三に、ゼミナール活動を通じて、社会人として求められる様々な能力(コミュニケーション能力、企画力、協調性など)を身に付けることを目的とする。								
到達目標	①農作業など学外での活動を通じてコミュニケーション能力および問題発見能力を養う、②文献を読み論点を整理し説明できるようにする、③データを収集し整理・分析する能力を身につける、④以上を通じて様々な議論ができるようになることを目標とする。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	①毎日新聞を読むこと(毎日30分) ②ゼミ内で紹介する書籍を読むこと(毎日30分) ③課外活動や合宿等の時間外活動にも積極的に参加すること(80時間) 合計120時間以上の授業外学習を行うこと。								
授業計画	【第1回】ゼミナールの進め方について 【第2回】興味を持っていることに関する発表① 【第3回】興味を持っていることに関する発表② 【第4回】グループ決め・研究課題の決定 【第5回】課題研究・取りまとめ 【第6回】プレゼンテーション・討論① 【第7回】プレゼンテーション・討論② 【第8回】グループ決め・研究課題の決定 【第9回】課題研究・取りまとめ 【第10回】プレゼンテーション・討論① 【第11回】プレゼンテーション・討論② 【第12回】研究の進め方について 【第13回】グループ決め				【第14回】グループごとに研究課題の検討 【第15回】課題研究-資料収集・整理- 【第16回】中間発表① 【第17回】中間発表② 【第18回】論文作成 【第19回】論文作成 【第20回】中間発表① 【第21回】中間発表② 【第22回】論文作成 【第23回】発表用資料作成 【第24回】ゼミ内発表会 【第25回】ゼミ内発表会 【第26回】ゼミナールⅡに向けて				
成績評価の方法	①ゼミ活動(課外活動を含む)への取り組み姿勢(50%)、②発表の回数・内容(30%)、③発言の回数・内容(20%)								
フィードバックの内容	発表内容について、講義内にてコメントをする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	テキストは、講義中に指示します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、随時受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125712	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール I (クボ)					マイケル クボ		通年	
履修前条件					備考				
授業の目的	Students of this zemi will study and discuss current media topics in English. Students of this zemi will also plan and produce media projects for publication or broadcast on social media. Ambitious students may choose to present at the Economics Department Zemi Taikai.								
到達目標	This is the Digital Age. With our smartphones, everyone has the answers to almost all of their questions instantly. Students of this class will be given opportunity and know-how to contribute to the immense bank of information called the Internet. Zemi members will contribute media by producing and publishing it online. How exactly do they contribute? Zemi students of this zemi will create their own social media and share it with the world on YouTube. The challenge for students of this zemi is for them to be creative so that they can make meaningful and interesting media projects. Zemi students can also expect to make close friendships in this zemi.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students must spend more than 120 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	<p>【第1回】 Getting to know each other, setting goals, and determining roles. Some current event reports.</p> <p>【第2回】 Focus on domestic media topics (teacher selected), discussions, and readings.</p> <p>【第3回】 Focus on domestic media topics (teacher selected), discussions, and readings.</p> <p>【第4回】 Focus on domestic media topics (student selected), discussions, and readings.</p> <p>【第5回】 Fieldwork (street interviews around Tokyo).</p> <p>【第6回】 Fieldwork (street interviews around Tokyo).</p> <p>【第7回】 Editing videos.</p> <p>【第8回】 Editing videos.</p> <p>【第9回】 Final uploading and presentation of video.</p> <p>【第10回】 Focus on international media topics (teacher selected), discussions, and readings.</p> <p>【第11回】 Focus on international media topics (student selected), discussions, and readings.</p> <p>【第12回】 Mid-term reflections/reports</p> <p>【第13回】 Mid-term reflections/reports</p> <p>【第14回】 Getting reacquainted, setting new goals, and determining new roles.</p> <p>【第15回】 Teacher model presentation on media related topic, discussion.</p> <p>【第16回】 Student presentation on media related topic, discussion.</p> <p>【第17回】 Student presentation on media related topic, discussion.</p> <p>【第18回】 Student presentation on media related topic, discussion.</p> <p>【第19回】 Fieldwork II (street interviews around Tokyo).</p> <p>【第20回】 Fieldwork II (street interviews around Tokyo).</p> <p>【第21回】 Editing videos</p> <p>【第22回】 Editing videos</p> <p>【第23回】 Final uploading and presentation of video.</p> <p>【第24回】 Group Discussion (or help with Open Zemi).</p> <p>【第25回】 Group Discussion (or help with Open Zemi).</p> <p>【第26回】 Make preparations for セミナール II</p>								
成績評価の方法	participation: 30%, attitude: 30%, effort: 30%, presentations: 10%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125713	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	慶田 昌之	開講期	通年																										
科目名	ゼミナールⅠ(慶田)				慶田 昌之			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	このゼミでは、経済学の基礎を身につけることを目標とします。具体的には岩田規久男著『ゼミナール ミクロ経済学入門』を輪読します。各ゼミ生は、担当箇所を受け持ち、報告することになりますが、その際には、自分で学んだことを他のゼミ生が理解できるよう、説明することが求められます。結果として、ゼミ生全員が本書を通読したのと同等の理解を得ることが、本年度の目標です。 このゼミは、止むを得ない事由以外は、欠席を認めません。また、与えられた分担を責任を持ってこなすことが求められます。																																		
到達目標	経済学の基礎的な知識を身につけて、他の応用分野への視野を広げることができる。																																		
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	サブゼミを行います。 (授業外学修時間120時間)																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(1)</td> <td>【第14回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(2)</td> <td>【第15回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(2)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(1)</td> <td>【第16回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(1)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(2)</td> <td>【第17回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(2)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(1)</td> <td>【第18回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(1)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(2)</td> <td>【第19回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(2)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(3)</td> <td>【第20回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(3)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(1)</td> <td>【第21回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(1)</td> </tr> <tr> <td>【第9回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(2)</td> <td>【第22回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(2)</td> </tr> <tr> <td>【第10回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(3)</td> <td>【第23回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(3)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(1)</td> <td>【第24回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(1)</td> </tr> <tr> <td>【第12回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(2)</td> <td>【第25回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(2)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(3)</td> <td>【第26回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(3)</td> </tr> </table>									【第1回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(1)	【第14回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(1)	【第2回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(2)	【第15回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(2)	【第3回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(1)	【第16回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(1)	【第4回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(2)	【第17回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(2)	【第5回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(1)	【第18回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(1)	【第6回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(2)	【第19回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(2)	【第7回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(3)	【第20回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(3)	【第8回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(1)	【第21回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(1)	【第9回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(2)	【第22回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(2)	【第10回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(3)	【第23回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(3)	【第11回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(1)	【第24回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(1)	【第12回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(2)	【第25回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(2)	【第13回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(3)	【第26回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(3)
【第1回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(1)	【第14回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(1)																																		
【第2回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第1章(2)	【第15回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第6章(2)																																		
【第3回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(1)	【第16回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(1)																																		
【第4回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第2章(2)	【第17回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第7章(2)																																		
【第5回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(1)	【第18回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(1)																																		
【第6回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(2)	【第19回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(2)																																		
【第7回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第3章(3)	【第20回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第8章(3)																																		
【第8回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(1)	【第21回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(1)																																		
【第9回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(2)	【第22回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(2)																																		
【第10回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第4章(3)	【第23回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第9章(3)																																		
【第11回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(1)	【第24回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(1)																																		
【第12回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(2)	【第25回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(2)																																		
【第13回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第5章(3)	【第26回】『ゼミナール ミクロ経済学入門』第10章(3)																																		
成績評価の方法	ゼミへの積極的な関与(50%)と報告の内容(50%)によって、総合的に判断して評価します。																																		
フィードバックの内容	ゼミでのプレゼンテーションについて、ゼミ内でフィードバックします。																																		
教科書	『ゼミナールミクロ経済学入門』 岩田規久男(日本経済新聞社)1993																																		
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。																																		
アクティブラーニングの内容	ゼミナール																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11C0125714	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	小林 隆史	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅠ(小林隆)				小林 隆史			通年	
履修前提条件	備考								
授業の目的	社会経済における現象、諸問題の中から、学生の興味関心のあるテーマをピックアップし、調査、研究を行う。文献研究、現地調査、レポート作成、プレゼンテーションについて、主体的に取り組める能力を身につける。グループ内で役割分担を行い、各人がそれぞれの役割においてリーダーを経験する。								
到達目標	社会経済の現象、諸問題に対して、理由を付して自分なりの意見を持ち、発信することができる。ゼミナール外部の人に向けて、一定水準以上の発表を行うことができる。発表内容をレジュメ、梗概といった形式で作成できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	与えられた課題に取り組むこと。また、講義前の事前準備や、必要に応じた現地調査等を実施すること。以上に関し、計120時間以上の授業外学修を実施すること。								
授業計画	【第1回】個人発表(研究テーマ発表) 【第2回】個人発表(研究テーマ発表) 【第3回】グループワーク・文献参照の基礎 【第4回】発表スライド作成・論文作成の基礎 【第5回】グループ演習 【第6回】グループ発表 【第7回】グループ演習 【第8回】グループ演習 【第9回】グループ発表 【第10回】グループ演習 【第11回】グループ発表 【第13回】前期総括				【第14回】論文作成 【第15回】グループ演習 【第16回】グループ発表 【第17回】論文作成 【第18回】グループ演習 【第19回】グループ発表 【第20回】グループ演習 【第21回】グループ発表 【第22回】グループ習 【第23回】グループ発表 【第24回】論文報告 【第25回】個人発表(活動報告) 【第26回】後期総括				
成績評価の方法	レポート(20%程度)、発表(60%程度)、グループへの貢献度(20%程度)を総合的に評価する。								
フィードバックの内容	発表時へのコメント、及び、レポート、レジュメについての添削を実施する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループでの作業が多いため、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。発表会への参加は、単位取得に必須である。やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。欠席等の際には補講への参加を必須とする。								
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。								
アクティブラーニングの内容	「ゼミナール」の実施。「調査学習」「能動的な授業外学習」「グループ・ワーク」を経て、演習時には「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「教員からのフィードバックによる振り返り」を実施する。								
実践的な教育内容									
その他	質問・相談はできるだけ授業内にて行うこと、あるいはTeamsの適切なスレッドでの投稿を推奨する。ほか、事前予約があればオフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談を受け付ける。事前予約の連絡は「学籍番号@rissho-univ.jp」からkoba@ris.ac.jp宛へのメールで、件名の冒頭に「【隆史ゼミ】質問」と記載された場合にのみ対応する。								

講義コード	11C0125716	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																											
科目名	ゼミナールⅠ(櫻井)				櫻井 一宏		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本ゼミナールでは、環境について学び、環境問題のメカニズムを理解する。システムの視点から環境や社会経済をモデル化し、環境的・経済的影響についての分析方法を学ぶ。持続可能な社会とはどのようなものか、また、その構築のための要件等について検討する。その他関連するトピックについて、メンバーによる自主的な調査・発表などを通じて議論する。必要に応じて外部での勉強会や見学会、フィールド調査を実施する。																																		
到達目標	環境問題のメカニズムを理解する。環境や経済に係わる諸問題を把握した上で各自の視点から分析し、とりまとめることができる。フィールド調査等の実施にあたり、外部機関との調整や事前準備をはじめ効率的な調査計画を立案し、実践することができる。グループワークに際し協調性やコミュニケーション能力を向上させる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	テーマに応じた文献および参考資料等を取りまとめることやプレゼンテーションのための準備、また、必要に応じてフィールド調査等を実施するなど、当該内容に関する自主的な学習や研究のための作業が必要となる。以上を踏まえ、ゼミナールの事前準備等のために計120時間以上の授業外学修を実施すること。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第14回】 ディスカッション (3)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 環境問題・環境政策に関する基本的な学習</td> <td>【第15回】 ディスカッション (4)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 環境・経済システム分析</td> <td>【第16回】 調査・研究方法の検討と学習 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 ディスカッション (1)</td> <td>【第17回】 調査・研究方法の検討と学習 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 ディスカッション (2)</td> <td>【第18回】 分析および考察 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 テーマ検討</td> <td>【第19回】 分析および考察 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 資料収集および文献読解 (1)</td> <td>【第20回】 プレゼンテーション準備 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 資料収集および文献読解 (2)</td> <td>【第21回】 プレゼンテーション準備 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 資料収集および文献読解 (3)</td> <td>【第22回】 発表会・質疑応答 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 調査・研究項目の検討 (1)</td> <td>【第23回】 発表会・質疑応答 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 調査・研究項目の検討 (2)</td> <td>【第24回】 レポート作成 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 中間報告・質疑応答 (1)</td> <td>【第25回】 レポート作成 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 中間報告・質疑応答 (2)</td> <td>【第26回】 まとめ</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第14回】 ディスカッション (3)	【第2回】 環境問題・環境政策に関する基本的な学習	【第15回】 ディスカッション (4)	【第3回】 環境・経済システム分析	【第16回】 調査・研究方法の検討と学習 (1)	【第4回】 ディスカッション (1)	【第17回】 調査・研究方法の検討と学習 (2)	【第5回】 ディスカッション (2)	【第18回】 分析および考察 (1)	【第6回】 テーマ検討	【第19回】 分析および考察 (2)	【第7回】 資料収集および文献読解 (1)	【第20回】 プレゼンテーション準備 (1)	【第8回】 資料収集および文献読解 (2)	【第21回】 プレゼンテーション準備 (2)	【第9回】 資料収集および文献読解 (3)	【第22回】 発表会・質疑応答 (1)	【第10回】 調査・研究項目の検討 (1)	【第23回】 発表会・質疑応答 (2)	【第11回】 調査・研究項目の検討 (2)	【第24回】 レポート作成 (1)	【第12回】 中間報告・質疑応答 (1)	【第25回】 レポート作成 (2)	【第13回】 中間報告・質疑応答 (2)	【第26回】 まとめ
【第1回】 ガイダンス	【第14回】 ディスカッション (3)																																		
【第2回】 環境問題・環境政策に関する基本的な学習	【第15回】 ディスカッション (4)																																		
【第3回】 環境・経済システム分析	【第16回】 調査・研究方法の検討と学習 (1)																																		
【第4回】 ディスカッション (1)	【第17回】 調査・研究方法の検討と学習 (2)																																		
【第5回】 ディスカッション (2)	【第18回】 分析および考察 (1)																																		
【第6回】 テーマ検討	【第19回】 分析および考察 (2)																																		
【第7回】 資料収集および文献読解 (1)	【第20回】 プレゼンテーション準備 (1)																																		
【第8回】 資料収集および文献読解 (2)	【第21回】 プレゼンテーション準備 (2)																																		
【第9回】 資料収集および文献読解 (3)	【第22回】 発表会・質疑応答 (1)																																		
【第10回】 調査・研究項目の検討 (1)	【第23回】 発表会・質疑応答 (2)																																		
【第11回】 調査・研究項目の検討 (2)	【第24回】 レポート作成 (1)																																		
【第12回】 中間報告・質疑応答 (1)	【第25回】 レポート作成 (2)																																		
【第13回】 中間報告・質疑応答 (2)	【第26回】 まとめ																																		
成績評価の方法	ゼミナールでの調査作業 (20%) やレポート作成 (30%) をはじめとして、プレゼンテーションおよび討論での発言 (15%)、さらには授業外学修での調査 (15%) などを主な評価項目とする。その他、学内外のゼミナール活動における自主性および協調性など、全般的な諸活動への貢献や態度 (20%) についても対象とし、これらを総合的に評価する。																																		
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題に対するアドバイス等を行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書	『アカデミック・スキルズ (第3版)- 大学生のための知的技法入門 -』 佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦 (慶應義塾大学出版会) 2020																																		
教員からのお知らせ	適宜資料を配布またはゼミナール時に参考資料等を指示する。 また、メンバーが自主的に書籍や資料を持参する。																																		
オフィスアワー	本講義に関する質問・相談は、原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。																																		
アクティブラーニングの内容	ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク等を実施する。																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11C0125717	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(真田)				真田 治子		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	社会・企業とことば・コミュニケーションの問題を広く扱う。広告に使われることば、ファッション雑誌の記事、スナック菓子の名前、若者の流行語など、身近な素材からことばの問題を考える。日本語について書かれた学術論文に触れる。レトリックの基本的な手法について学ぶ。学術論文の基本的な書式について学ぶ。								
到達目標	社会とことばの問題を広く観察・分析することにより、日本語の変化から読み取れる日本文化とコミュニケーションの問題や社会の動向を理解できる。日本語について書かれた基礎的な学術論文を読むことができる。レトリックの基本的な手法について説明できる。学術論文の基本的な書式について説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では120時間以上の授業外学修を行うこと。毎回の授業の前には、各回の授業で扱う項目について、論文を読んで要約とパワーポイントを使った発表の準備、参考資料の調査をしてくる。毎回の授業の後には、その授業で扱った論文の要約をまとめておくこと。								
授業計画	<p>【第1回】 欧文フォントと商品ロゴ (1)</p> <p>【第2回】 欧文フォントと商品ロゴ (2)</p> <p>【第3回】 欧文フォントと商品ロゴ (3) 字体と商品</p> <p>【第4回】 欧文フォントと商品ロゴ (4) 字体と商品</p> <p>【第5回】 欧文フォントと商品ロゴ (5) 字体と商品</p> <p>【第6回】 言語景観 (1) 首都圏の言語景観</p> <p>【第7回】 言語景観 (2) 関西の言語景観</p> <p>【第8回】 言語景観 (3) 観光地の言語景観 (山形)</p> <p>【第9回】 言語景観 (4) 観光地の言語景観 (北海道)</p> <p>【第10回】 言語景観 (5) 観光地の言語景観 (九州)</p> <p>【第11回】 広告の言語表現 (1) 広告表現の変遷</p> <p>【第12回】 広告の言語表現 (2) 目を引きつける広告表現</p> <p>【第13回】 広告の言語表現 (3) テレビCMのことば</p> <p>【第14回】 広告の言語表現 (4) キャッチコピーと短型詩</p> <p>【第15回】 広告の言語表現 (5) 広告の誘惑と言語表現・非言語表現</p> <p>【第16回】 広告の言語表現 (6) 消費者行動と広告</p> <p>【第17回】 広告の言語表現 (7) 広告の説得効果と誤誘導効果</p> <p>【第18回】 広告の言語表現 (8) 広告のコピーが語ってきたもの</p> <p>【第19回】 広告の言語表現 (9) ラジオCMと日本語</p> <p>【第20回】 記事・広告のレトリック (1)</p> <p>【第21回】 記事・広告のレトリック (2)</p> <p>【第22回】 記事・広告のレトリック (3)</p> <p>【第23回】 論文の書き方・テーマの選び方</p> <p>【第24回】 ゼミ論文作成のためのテーマ検討発表 (1)</p> <p>【第25回】 ゼミ論文作成のためのテーマ検討発表 (2)</p> <p>【第26回】 ゼミ論文作成のためのテーマ検討発表 (3)</p>								
成績評価の方法	先行研究の要約を中心とした授業中の発表とその準備 (80%)、授業中の質疑への参加 (20%)								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業の中で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『フォントのふしぎブランドのロゴはなぜ高そうに見えるのか?』小林章 (美術出版社) 2011年、『雑誌『日本語学』28巻6号「多言語社会・ニッポン」』(明治書院) 2009年、『雑誌『日本語学』20巻2号「広告の日本語」』(明治書院) 2001年、『日本語探究法7巻レトリック探究法』柳澤浩哉・中村敦雄・香西秀信 (朝倉書店) 2004年								
教員からのお知らせ	上記以外の参考書は授業中に適宜指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有。プレゼンテーション。能動的授業外学習。調査学習。グループワーク。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125718	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	芹田 浩司	開講期	通年																																																				
科目名	ゼミナールⅠ(芹田)				芹田 浩司		通年																																																						
履修前提条件					備考																																																								
授業の目的	本ゼミでは、現代の経済グローバル化が、個々の発展途上国の経済社会にどのような影響を及ぼしてきたのか、また、経済グローバル化時代における発展途上国の政府の役割や開発のあり方はどのようなものであるのか、といった問題について、ラテンアメリカやアジア、アフリカ地域など、地域間(国家間)の比較という視点も持ちつつ、文献の講読やゼミ生同士の討論等を通じて、深く理解することを目的とします。																																																												
到達目標	発展途上国の貧困や開発問題、発展途上国と先進国の関係(先進国による途上国援助問題等)を学ぶことを通じて、世界経済に関して知見を深められるとともに、自分自身の見方・考え方を身に付けることができる。また、プレゼンテーションの能力も身に付けることができる。																																																												
授業外学修内容・授業外学修時間数	レポートや報告用レジュメの作成等忘れずに行うこと(そしてそのために必要な文献調査等をしっかり行うこと)。また必要に応じてグループ学習を行うこと。なお、授業外学修時間については120時間以上とする。																																																												
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td><td>イントロダクション</td> <td>【第14回】</td><td>研究テーマの決定・グループ編成</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td><td>課題図書1の輪読及び内容報告(1)</td> <td>【第15回】</td><td>全体のまとめ・総括</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td><td>課題図書2の輪読及び内容報告(2)</td> <td>【第16回】</td><td>グループ報告と討論(1)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td><td>課題図書3の輪読及び内容報告(3)</td> <td>【第17回】</td><td>グループ報告と討論(2)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td><td>課題図書4の輪読及び内容報告(4)</td> <td>【第18回】</td><td>グループ報告と討論(3)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td><td>課題図書5の輪読及び内容報告(5)</td> <td>【第19回】</td><td>グループ報告と討論(4)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td><td>課題図書6の輪読及び内容報告(6)</td> <td>【第20回】</td><td>グループ報告と討論(5)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】</td><td>課題図書7の輪読及び内容報告(7)</td> <td>【第21回】</td><td>グループ報告と討論(6)</td> </tr> <tr> <td>【第9回】</td><td>課題図書8の輪読及び内容報告(8)</td> <td>【第22回】</td><td>グループによる最終プレゼンテーション(1)</td> </tr> <tr> <td>【第10回】</td><td>課題図書9の輪読及び内容報告(9)</td> <td>【第23回】</td><td>グループによる最終プレゼンテーション(2)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】</td><td>課題図書10の輪読及び内容報告(10)</td> <td>【第24回】</td><td>グループによる最終プレゼンテーション(3)</td> </tr> <tr> <td>【第12回】</td><td>課題図書11の輪読及び内容報告(11)</td> <td>【第25回】</td><td>グループによる最終プレゼンテーション(4)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】</td><td>課題図書12の輪読及び内容報告(12)</td> <td>【第26回】</td><td>全体のまとめ・総括</td> </tr> </table>									【第1回】	イントロダクション	【第14回】	研究テーマの決定・グループ編成	【第2回】	課題図書1の輪読及び内容報告(1)	【第15回】	全体のまとめ・総括	【第3回】	課題図書2の輪読及び内容報告(2)	【第16回】	グループ報告と討論(1)	【第4回】	課題図書3の輪読及び内容報告(3)	【第17回】	グループ報告と討論(2)	【第5回】	課題図書4の輪読及び内容報告(4)	【第18回】	グループ報告と討論(3)	【第6回】	課題図書5の輪読及び内容報告(5)	【第19回】	グループ報告と討論(4)	【第7回】	課題図書6の輪読及び内容報告(6)	【第20回】	グループ報告と討論(5)	【第8回】	課題図書7の輪読及び内容報告(7)	【第21回】	グループ報告と討論(6)	【第9回】	課題図書8の輪読及び内容報告(8)	【第22回】	グループによる最終プレゼンテーション(1)	【第10回】	課題図書9の輪読及び内容報告(9)	【第23回】	グループによる最終プレゼンテーション(2)	【第11回】	課題図書10の輪読及び内容報告(10)	【第24回】	グループによる最終プレゼンテーション(3)	【第12回】	課題図書11の輪読及び内容報告(11)	【第25回】	グループによる最終プレゼンテーション(4)	【第13回】	課題図書12の輪読及び内容報告(12)	【第26回】	全体のまとめ・総括
【第1回】	イントロダクション	【第14回】	研究テーマの決定・グループ編成																																																										
【第2回】	課題図書1の輪読及び内容報告(1)	【第15回】	全体のまとめ・総括																																																										
【第3回】	課題図書2の輪読及び内容報告(2)	【第16回】	グループ報告と討論(1)																																																										
【第4回】	課題図書3の輪読及び内容報告(3)	【第17回】	グループ報告と討論(2)																																																										
【第5回】	課題図書4の輪読及び内容報告(4)	【第18回】	グループ報告と討論(3)																																																										
【第6回】	課題図書5の輪読及び内容報告(5)	【第19回】	グループ報告と討論(4)																																																										
【第7回】	課題図書6の輪読及び内容報告(6)	【第20回】	グループ報告と討論(5)																																																										
【第8回】	課題図書7の輪読及び内容報告(7)	【第21回】	グループ報告と討論(6)																																																										
【第9回】	課題図書8の輪読及び内容報告(8)	【第22回】	グループによる最終プレゼンテーション(1)																																																										
【第10回】	課題図書9の輪読及び内容報告(9)	【第23回】	グループによる最終プレゼンテーション(2)																																																										
【第11回】	課題図書10の輪読及び内容報告(10)	【第24回】	グループによる最終プレゼンテーション(3)																																																										
【第12回】	課題図書11の輪読及び内容報告(11)	【第25回】	グループによる最終プレゼンテーション(4)																																																										
【第13回】	課題図書12の輪読及び内容報告(12)	【第26回】	全体のまとめ・総括																																																										
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(40%)、報告(20%)、レポート(40%)によって総合的に判断します。																																																												
フィードバックの内容	フィードバックすべき事項・内容については原則、授業時間内にフィードバックを行う。																																																												
教科書																																																													
指定図書																																																													
参考書																																																													
教員からのお知らせ	ゼミで使用する文献等についてはゼミ中に指示します。また上記の計画については変更の可能性もあります。																																																												
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、Open LMSのメッセージ機能でも受け付けます(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																																																												
アクティブラーニングの内容	-ゼミナール -調査学習 -グループワーク																																																												
実践的な教育内容																																																													
その他																																																													

講義コード	11C0125719	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	平 伊佐雄	開講期	通年																																																				
科目名	ゼミナールⅠ(平)				平 伊佐雄		通年																																																						
履修前提条件					備考																																																								
授業の目的	ゼミナールⅠは、経済史研究の特徴や方法論について学ぶことを目的とする。																																																												
到達目標	経済史の研究方法を理解し、史料の性格を判断し、研究文献の視角を判別できるようになる。																																																												
授業外学修内容・授業外学修時間数	テキストをまとめ、解説するための事前作業、与えられた課題についての調査とその報告書の作成のため、ゼミ1回当たり4.7時間以上の授業外学修を要する。(計120時間以上)																																																												
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td><td>経済史の歴史と歴史学の歴史を考察</td> <td>【第14回】</td><td>史料4</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td><td>チポツラの歴史研究と『経済史への招待』という書物についての考察</td> <td>【第15回】</td><td>史料批判1</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td><td>経済史と呼ばれる学問1 特徴の把握</td> <td>【第16回】</td><td>史料批判2</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td><td>経済史と呼ばれる学問2</td> <td>【第17回】</td><td>史料批判3</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td><td>経済史と呼ばれる学問3</td> <td>【第18回】</td><td>史料批判4</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td><td>経済史と呼ばれる学問4</td> <td>【第19回】</td><td>史料批判5</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td><td>経済史と呼ばれる学問5</td> <td>【第20回】</td><td>歴史の再現1</td> </tr> <tr> <td>【第8回】</td><td>問題設定1</td> <td>【第21回】</td><td>歴史の再現2</td> </tr> <tr> <td>【第9回】</td><td>問題設定2</td> <td>【第22回】</td><td>歴史の再現3</td> </tr> <tr> <td>【第10回】</td><td>問題設定3</td> <td>【第23回】</td><td>歴史の再現4</td> </tr> <tr> <td>【第11回】</td><td>史料1</td> <td>【第24回】</td><td>研究文献の輪読と史料解説1</td> </tr> <tr> <td>【第12回】</td><td>史料2</td> <td>【第25回】</td><td>研究文献の輪読と史料解説2</td> </tr> <tr> <td>【第13回】</td><td>史料3</td> <td>【第26回】</td><td>研究文献の輪読と史料解説3</td> </tr> </table>									【第1回】	経済史の歴史と歴史学の歴史を考察	【第14回】	史料4	【第2回】	チポツラの歴史研究と『経済史への招待』という書物についての考察	【第15回】	史料批判1	【第3回】	経済史と呼ばれる学問1 特徴の把握	【第16回】	史料批判2	【第4回】	経済史と呼ばれる学問2	【第17回】	史料批判3	【第5回】	経済史と呼ばれる学問3	【第18回】	史料批判4	【第6回】	経済史と呼ばれる学問4	【第19回】	史料批判5	【第7回】	経済史と呼ばれる学問5	【第20回】	歴史の再現1	【第8回】	問題設定1	【第21回】	歴史の再現2	【第9回】	問題設定2	【第22回】	歴史の再現3	【第10回】	問題設定3	【第23回】	歴史の再現4	【第11回】	史料1	【第24回】	研究文献の輪読と史料解説1	【第12回】	史料2	【第25回】	研究文献の輪読と史料解説2	【第13回】	史料3	【第26回】	研究文献の輪読と史料解説3
【第1回】	経済史の歴史と歴史学の歴史を考察	【第14回】	史料4																																																										
【第2回】	チポツラの歴史研究と『経済史への招待』という書物についての考察	【第15回】	史料批判1																																																										
【第3回】	経済史と呼ばれる学問1 特徴の把握	【第16回】	史料批判2																																																										
【第4回】	経済史と呼ばれる学問2	【第17回】	史料批判3																																																										
【第5回】	経済史と呼ばれる学問3	【第18回】	史料批判4																																																										
【第6回】	経済史と呼ばれる学問4	【第19回】	史料批判5																																																										
【第7回】	経済史と呼ばれる学問5	【第20回】	歴史の再現1																																																										
【第8回】	問題設定1	【第21回】	歴史の再現2																																																										
【第9回】	問題設定2	【第22回】	歴史の再現3																																																										
【第10回】	問題設定3	【第23回】	歴史の再現4																																																										
【第11回】	史料1	【第24回】	研究文献の輪読と史料解説1																																																										
【第12回】	史料2	【第25回】	研究文献の輪読と史料解説2																																																										
【第13回】	史料3	【第26回】	研究文献の輪読と史料解説3																																																										
成績評価の方法	ゼミナールで行う文献の解説(50%)、各自のリサーチレポート(50%)をもって評価する。																																																												
フィードバックの内容	指導の中で適宜フィードバックする。																																																												
教科書	『経済史への招待』カルロ・マリア・チポツラ(国文社)2001																																																												
指定図書	『全航海の記録』コロンブス(岩波書店)2011、『アンソロジー-新世界の挑戦3』オビエード(岩波書店)1994、『航海の記録』コロンブス、アメリカゴ、ガマ、バルボアマゼラン(岩波書店)1965、『メキシコ征服記1-3』ベルナルド・カステイリョ(岩波書店)1986、『ペルーおよびクスコ地方征服に関する真実の報告』ヘレス(岩波書店)1980、『ヨーロッパと大西洋』ブーチエ(岩波書店)1984、『西アフリカ航海の記録』アズララ(岩波書店)1981																																																												
参考書																																																													
教員からのお知らせ	授業計画の内容は、テキスト入手の有無、学生の理解度などに応じて、変更もあり得る。																																																												
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワー・あるいはEメールにて受け付けます。																																																												
アクティブラーニングの内容	ゼミナールでは、学生が各々研究文献のまとめや調査したことの報告を行う必要があるため、事前に「能動的に授業外学習」を行う。																																																												
実践的な教育内容																																																													
その他																																																													

講義コード	11C0125720	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	高橋 美由紀	開講期	通年																										
科目名	ゼミナールⅠ(高橋)				高橋 美由紀			通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	人口と経済の関係について歴史的視点から学び、現代の人口問題についても考えていきます。歴史的な働き方の変遷を通して、現代望ましいワークライフバランスを考えてみましょう。また、地域の経済の歴史と人々の暮らしの変容についても考察します。																																		
到達目標	自分の考えをまとめて、説得的なプレゼンテーションが出来ることおよび、レポートが書けること。																																		
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	輪読に当たっては、事前に指定の箇所を読み、分からない用語などを調べておくこと。また、自分の課題については、報告直前以外でも常にニュースその他を見て学修しておくこと(計120時間の授業外学修を要する)。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ゼミで何を学ぶか。人口と経済についての講義。</td> <td>【第14回】課題図書4の輪読4。</td> </tr> <tr> <td>【第2回】個人研究課題の報告。</td> <td>【第15回】課題図書5の輪読5。</td> </tr> <tr> <td>【第3回】課題図書1の輪読1。</td> <td>【第16回】課題図書6の輪読6。</td> </tr> <tr> <td>【第4回】課題図書2の輪読2。</td> <td>【第17回】個人研究報告7。</td> </tr> <tr> <td>【第5回】課題図書3の輪読3。</td> <td>【第18回】個人研究報告8。</td> </tr> <tr> <td>【第6回】個人研究報告1。</td> <td>【第19回】コンピュータ実習3。</td> </tr> <tr> <td>【第7回】個人研究報告2。</td> <td>【第20回】コンピュータ実習4。</td> </tr> <tr> <td>【第8回】個人研究報告3。</td> <td>【第21回】個人研究報告9。</td> </tr> <tr> <td>【第9回】コンピュータ実習1。</td> <td>【第23回】個人研究報告10。</td> </tr> <tr> <td>【第10回】コンピュータ実習2。</td> <td>【第24回】ゼミ最終プレゼン3。</td> </tr> <tr> <td>【第11回】個人研究報告4。</td> <td>【第25回】ゼミ最終プレゼン4。</td> </tr> <tr> <td>【第12回】個人研究報告5。</td> <td>【第26回】ゼミ最終プレゼン5。</td> </tr> <tr> <td>【第13回】個人研究報告6。</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ゼミで何を学ぶか。人口と経済についての講義。	【第14回】課題図書4の輪読4。	【第2回】個人研究課題の報告。	【第15回】課題図書5の輪読5。	【第3回】課題図書1の輪読1。	【第16回】課題図書6の輪読6。	【第4回】課題図書2の輪読2。	【第17回】個人研究報告7。	【第5回】課題図書3の輪読3。	【第18回】個人研究報告8。	【第6回】個人研究報告1。	【第19回】コンピュータ実習3。	【第7回】個人研究報告2。	【第20回】コンピュータ実習4。	【第8回】個人研究報告3。	【第21回】個人研究報告9。	【第9回】コンピュータ実習1。	【第23回】個人研究報告10。	【第10回】コンピュータ実習2。	【第24回】ゼミ最終プレゼン3。	【第11回】個人研究報告4。	【第25回】ゼミ最終プレゼン4。	【第12回】個人研究報告5。	【第26回】ゼミ最終プレゼン5。	【第13回】個人研究報告6。	
【第1回】ゼミで何を学ぶか。人口と経済についての講義。	【第14回】課題図書4の輪読4。																																		
【第2回】個人研究課題の報告。	【第15回】課題図書5の輪読5。																																		
【第3回】課題図書1の輪読1。	【第16回】課題図書6の輪読6。																																		
【第4回】課題図書2の輪読2。	【第17回】個人研究報告7。																																		
【第5回】課題図書3の輪読3。	【第18回】個人研究報告8。																																		
【第6回】個人研究報告1。	【第19回】コンピュータ実習3。																																		
【第7回】個人研究報告2。	【第20回】コンピュータ実習4。																																		
【第8回】個人研究報告3。	【第21回】個人研究報告9。																																		
【第9回】コンピュータ実習1。	【第23回】個人研究報告10。																																		
【第10回】コンピュータ実習2。	【第24回】ゼミ最終プレゼン3。																																		
【第11回】個人研究報告4。	【第25回】ゼミ最終プレゼン4。																																		
【第12回】個人研究報告5。	【第26回】ゼミ最終プレゼン5。																																		
【第13回】個人研究報告6。																																			
成績評価の方法	レポート(必須 50%)・報告・プレゼンテーション(40%)、ゼミ参加態度(10%)。																																		
フィードバックの内容	プレゼンテーションは、発表の際にコメントをおこなう。また、提出されたレポート等はコメントを付し、返却する。																																		
教科書	『歴史人口学で見た日本』速水 融(文春新書)2022、『東大塾 これからの日本の人口と社会』白波瀬 佐和子編(東京大学出版会)2019、『人口学への招待』河野 稔果(中央公論社)2007、『人口論』トマス ロバート マルサス(光文社古典新訳文庫)2011、『人口で語る世界史』ポール モーランド(著)、渡会 圭子(翻訳)(文藝春秋社)2019、『愛と希望の「人口学講義」』鬼頭 宏(ウエッジ)2015、『人口の世界史』マッシュモリヴィーバッチ(著)、速水 融(翻訳)、斎藤 修(翻訳)(東洋経済新報社)2014																																		
指定図書	『人類史のなかの人口と家族』木下 太志、浜野 潔(晃洋書房)2003、『歴史人口学からみた結婚・離婚・再婚』黒須 里美他(麗澤大学出版会)2012、『歴史人口学のフロンティア』速水 融、友部 謙一、鬼頭 宏(東洋経済新報社)2001、『人口と日本経済 - 長寿、イノベーション、経済成長』吉川 洋(中央公論新社)2016、『関係人口をつくる - 定住でも交流でもないローカルイノベーション』田中輝美(木楽舎)2017、『老いてゆくアジア』大泉 啓一郎(中央公論社)2007、『人口減少×デザイン』笥 祐介(英治出版)2015、『人口問題と移民 - 日本の人口・階層構造はどう変わるのか』是川 夕(著、編集)、駒井 洋(監修)(明石書店)2019、『2050年 世界人口大減少』ダリル・ブリッカー(著)、ジョン・イビットソン(著)、倉田 幸信(翻訳)、河合 雅司(解説)(文藝春秋社)2020、『人口論入門 歴史から未来へ』杉田 菜穂(法律文化社)2017																																		
参考書	[[図説] 人口で見る日本史] 鬼頭宏(PHP 研究所)2007、『歴史人口学の世界』速水融(岩波書店)2012																																		
教員からのお知らせ	講義順序は、教室状況によって変更する場合があります。参考書は必要に応じて追加し、その都度提示する。																																		
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、ゼミ授業内にて受け付ける。積極的に質問すること。 また、学部学科にて定めるオフィスアワー(月曜日2限)にても受け付ける。ただし、オフィスアワーに訪れる場合は、前もってメールなどで連絡すること。																																		
アクティブラーニングの内容	ゼミの性質上、各自の事前学修と報告がかなりの割合を占める。																																		
実践的な教育内容																																			
その他	ゼミ参加者の希望によって輪読書は若干変更する場合もある。																																		

講義コード	11C0125722	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	外木 好美	開講期	通年																										
科目名	ゼミナール I (外木)				外木 好美		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	経済学の基本的な考え方を使って、具体的な経済事象について報告・討論することで、経済学的な考え方を身につけることを目的とします。また、学外の方との交流等の課外活動も行います。以上を通じて、日本社会を見る際の視野を広げます。																																		
到達目標	①基本的な経済学の考え方を直観的に理解すること、②経済学の考え方と具体的な事例を対応させて、発表・討論ができること、③記事や論文、資料を読んで、その事象についてまとめられること、④現場で起こっていることに対して、経済学的に解決策を提示できること。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	報告・討論の準備をしっかり行ってください。常に、関連する資料やデータに関心を持ち、報告・討論に備えてください。授業外で120時間以上の学習を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス&経済学を学ぶ意義</td> <td>【第14回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 自己紹介&他己紹介 (1)</td> <td>【第15回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 自己紹介&他己紹介 (2)</td> <td>【第16回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (3)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (1)</td> <td>【第17回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (4)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (2)</td> <td>【第18回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (5)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (3)</td> <td>【第19回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (6)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (4)</td> <td>【第20回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (7)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (5)</td> <td>【第21回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (6)</td> <td>【第22回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (7)</td> <td>【第23回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (8)</td> <td>【第24回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (9)</td> <td>【第25回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (12)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (10)</td> <td>【第26回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (13)</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス&経済学を学ぶ意義	【第14回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (1)	【第2回】 自己紹介&他己紹介 (1)	【第15回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (2)	【第3回】 自己紹介&他己紹介 (2)	【第16回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (3)	【第4回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (1)	【第17回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (4)	【第5回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (2)	【第18回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (5)	【第6回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (3)	【第19回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (6)	【第7回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (4)	【第20回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (7)	【第8回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (5)	【第21回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (8)	【第9回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (6)	【第22回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (9)	【第10回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (7)	【第23回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (10)	【第11回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (8)	【第24回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (11)	【第12回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (9)	【第25回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (12)	【第13回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (10)	【第26回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (13)
【第1回】 ガイダンス&経済学を学ぶ意義	【第14回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (1)																																		
【第2回】 自己紹介&他己紹介 (1)	【第15回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (2)																																		
【第3回】 自己紹介&他己紹介 (2)	【第16回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (3)																																		
【第4回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (1)	【第17回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (4)																																		
【第5回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (2)	【第18回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (5)																																		
【第6回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (3)	【第19回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (6)																																		
【第7回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (4)	【第20回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (7)																																		
【第8回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (5)	【第21回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (8)																																		
【第9回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (6)	【第22回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (9)																																		
【第10回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (7)	【第23回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (10)																																		
【第11回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (8)	【第24回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (11)																																		
【第12回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (9)	【第25回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (12)																																		
【第13回】 経済学の考え方&ゼミナール大会の下準備 (10)	【第26回】 経済学の考え方&ゼミナール論文の作成 (13)																																		
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (20%)、ゼミナール大会の報告準備 (40%)、ゼミナール論文の執筆 (40%) で評価する。																																		
フィードバックの内容	報告資料や討論内容について、適宜、コメントや指示を入れます。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ	LINE、メール、リスト、Teams で情報共有します。																																		
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。																																		
アクティブラーニングの内容	意見共有、ゼミナール、グループ・ワーク、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11C0125723	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	中村 宗之	開講期	通年																										
科目名	ゼミナール I (中村)				中村 宗之		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	日本の経済や社会の諸問題について説明する。マルクス経済学や景気循環論に関連する問題について説明する。各自興味のあるテーマについて調査、報告し、検討する。ここ数年の課題文献のテーマは、ブラック企業、ワーキングプア、ベーシックインカム、日本の水田稲作などである。																																		
到達目標	日本の経済や社会の諸問題について調査し、考察することができる。その内容を人に十分に伝えて、議論することができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業内容に関して予習や復習を行う。報告準備等を十分に行う。授業外で計120時間以上の学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 はじめに</td> <td>【第14回】 個人またはグループの研究報告 (7)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 課題文献の検討 (1)</td> <td>【第15回】 個人またはグループの研究報告 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 課題文献の検討 (2)</td> <td>【第16回】 個人またはグループの研究報告 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 課題文献の検討 (3)</td> <td>【第17回】 個人またはグループの研究報告 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 課題文献の検討 (4)</td> <td>【第18回】 個人またはグループの研究報告 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 課題文献の検討 (5)</td> <td>【第19回】 個人またはグループの研究報告 (12)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 個人またはグループの研究報告 (1)</td> <td>【第20回】 個人またはグループの研究報告 (13)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 個人またはグループの研究報告 (2)</td> <td>【第21回】 課題文献の検討 (6)</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 個人またはグループの研究報告 (3)</td> <td>【第22回】 課題文献の検討 (7)</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 個人またはグループの研究報告 (4)</td> <td>【第23回】 課題文献の検討 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 個人またはグループの研究報告 (5)</td> <td>【第24回】 課題文献の検討 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 個人またはグループの研究報告 (6)</td> <td>【第25回】 課題文献の検討 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 前期のまとめ</td> <td>【第26回】 後期のまとめ</td> </tr> </table>									【第1回】 はじめに	【第14回】 個人またはグループの研究報告 (7)	【第2回】 課題文献の検討 (1)	【第15回】 個人またはグループの研究報告 (8)	【第3回】 課題文献の検討 (2)	【第16回】 個人またはグループの研究報告 (9)	【第4回】 課題文献の検討 (3)	【第17回】 個人またはグループの研究報告 (10)	【第5回】 課題文献の検討 (4)	【第18回】 個人またはグループの研究報告 (11)	【第6回】 課題文献の検討 (5)	【第19回】 個人またはグループの研究報告 (12)	【第7回】 個人またはグループの研究報告 (1)	【第20回】 個人またはグループの研究報告 (13)	【第8回】 個人またはグループの研究報告 (2)	【第21回】 課題文献の検討 (6)	【第9回】 個人またはグループの研究報告 (3)	【第22回】 課題文献の検討 (7)	【第10回】 個人またはグループの研究報告 (4)	【第23回】 課題文献の検討 (8)	【第11回】 個人またはグループの研究報告 (5)	【第24回】 課題文献の検討 (9)	【第12回】 個人またはグループの研究報告 (6)	【第25回】 課題文献の検討 (10)	【第13回】 前期のまとめ	【第26回】 後期のまとめ
【第1回】 はじめに	【第14回】 個人またはグループの研究報告 (7)																																		
【第2回】 課題文献の検討 (1)	【第15回】 個人またはグループの研究報告 (8)																																		
【第3回】 課題文献の検討 (2)	【第16回】 個人またはグループの研究報告 (9)																																		
【第4回】 課題文献の検討 (3)	【第17回】 個人またはグループの研究報告 (10)																																		
【第5回】 課題文献の検討 (4)	【第18回】 個人またはグループの研究報告 (11)																																		
【第6回】 課題文献の検討 (5)	【第19回】 個人またはグループの研究報告 (12)																																		
【第7回】 個人またはグループの研究報告 (1)	【第20回】 個人またはグループの研究報告 (13)																																		
【第8回】 個人またはグループの研究報告 (2)	【第21回】 課題文献の検討 (6)																																		
【第9回】 個人またはグループの研究報告 (3)	【第22回】 課題文献の検討 (7)																																		
【第10回】 個人またはグループの研究報告 (4)	【第23回】 課題文献の検討 (8)																																		
【第11回】 個人またはグループの研究報告 (5)	【第24回】 課題文献の検討 (9)																																		
【第12回】 個人またはグループの研究報告 (6)	【第25回】 課題文献の検討 (10)																																		
【第13回】 前期のまとめ	【第26回】 後期のまとめ																																		
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (50%)、報告内容 (50%) により評価する。																																		
フィードバックの内容	報告内容はその都度検討される。必要に応じて個別指導を実施する。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。																																		
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、ゼミナール、プレゼンテーション																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11C0125725	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(林)				林 康史		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	金融・証券・資産運用について学習する。テキストを輪読し、加えて、その内容に関して討論する。学問的に、論理的思考ができるよう、積極的な議論を行うとともに、実際の市場に即したテーマで、ソクラテス・メソッドを行う。								
到達目標	マーケットにおける論理的思考・発想ができ、また、センスやマナーが身につくこと。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	必要に応じて、サブゼミをゼミ生が自主的に運営することがある(120時間。サブゼミは、DVD等でゼミの予習に充てる。ゼミは、サブゼミの内容は学習済みという前提で行われるので、留意のこと)。								
授 業 計 画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 論文の読み方・書き方① 【第3回】 論文の読み方・書き方② 【第4回】 論文の読み方・書き方③ 【第5回】 論文の読み方・書き方④ 【第6回】 証券投資の基礎① 【第7回】 証券投資の基礎② 【第8回】 証券投資の基礎③ 【第9回】 証券投資の基礎④ 【第10回】 株式投資① 【第11回】 株式投資② 【第12回】 株式投資③ 【第13回】 株式投資④				【第14回】 株式投資⑤ 【第15回】 株式投資⑥ 【第16回】 株式投資⑦ 【第17回】 株式投資⑧ 【第18回】 株式投資⑨ 【第19回】 株式投資⑩ 【第20回】 株式投資⑪ 【第21回】 株式投資⑫ 【第22回】 株式投資⑬ 【第23回】 株式投資⑭ 【第24回】 株式投資⑮ 【第25回】 株式投資⑯ 【第26回】 総括				
成績評価の方法	ゼミへの積極的な関与(40%)、報告(30%)・レポートの内容(30%)等により、総合評価する。								
フィードバックの内容	ゼミに関する質問・相談は、随時、受付ける。								
教 科 書	『株式投資 第4版』J.シーゲル(日経BP社)2009年								
指 定 図 書	『改定版 金持ち父さんの投資ガイド 入門編』ロバート・キヨサキ他(筑摩書房)2014年、『改定版 金持ち父さんの投資ガイド 上級編』ロバート・キヨサキ他(筑摩書房)2014年								
参 考 書	『戦略的リスク管理入門』ジェームズ・ラム(勁草書房)2016年、『トレーダーの発想術——マーケットで勝ち残るための70の箴言』ロイ・ロングストリート(日経BP社)2014年、『バリュエーション——株の本当の価値を問う』C・ブラウン(日経BP社)2007年、『マネーと常識——投資信託で勝ち残る道』ジョン・ボーグル(日経BP社)2007年、『カクテルパーティーの経済学 マクロで読み解く成功する投資のヒント』V.キャント(ダイヤモンド社)2008年、『マネーの公理——スイスの銀行家に学ぶ儲けのルール』マックス・ギュンター(日経BP社)2005年、『天才数学者、株にハマる～数字オンチのための投資の考え方』ジョン・パウロス(ダイヤモンド社)2004年、『投資の心理学』リフソンとガイスト編(東洋経済新報社)2001年、『国際投資へのパスポート モビアスの84のルール』マーク・モビアス(日本経済新聞社)2000年、『欲望と幻想の市場～伝説の投機王リパモア』エドウィン・ルフェーブル(東洋経済新報社)1999年								
教員からのお知らせ	ゼミ合宿(実施の有無も含め、時期等は未定)等、ゼミ生と教員の全員で運営する。また、与えられた分担は責任をもって果たすこと。								
オフィスアワー	ゼミに関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	事前に、オンライン教材の視聴を行う等、対面の授業の前に、学習すべきことがあることに留意されたい。								
そ の 他	金融論等、受講・聴講するのが望ましい授業は、別途、指示する。 ゼミⅠとゼミⅡの受講生は、相互に、聴講するものとする。								

講義コード	11C0125727	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(ホーム)				ホーム 由佳		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代のグローバル社会に求められる英語力をめざして、特定のテーマについてさまざまな視点から考える力を養い、英語で自分の考えを発信する能力を高めることを目標にする。前半はプレゼンテーションの準備から実施までのプロセスを習得し、後半はプレゼンテーションスキルを磨くことを目的とする。								
到達目標	日常的なテーマの中から自分が主張したいトピックを取り上げて深く考え、関連資料の情報収集をし、英語の原稿のアウトラインを作成し、それに基づいて英文原稿をおこし、説得力のあるプレゼンテーションを完成することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教室で行う授業は、ひとりひとりが授業外活動でおこなった成果を共有しあう能動的学習の場である。ゼミ生全員で決めた年間計画に沿って各自が担当分の作業を行う。 授業外学修は120時間以上を要する。毎回、ゼミの内容の予習、復習を行うこと。								
授業計画	【第1回】英語でプレゼンテーションするために 【第2回】テーマ選定(ブレインストーミング、情報収集) 【第3回】アウトライン作成 【第4回】スピーチ原稿作成 【第5回】スピーチ原稿校正 【第6回】個人プレゼンテーション 【第7回】テーマ選定(ブレインストーミング、情報収集) 【第8回】テーマに関するディスカッション 【第9回】アウトライン作成 【第10回】スピーチ原稿作成 【第11回】スピーチ原稿校正 【第12回】リハーサル 【第13回】グループプレゼンテーション大会				【第14回】フォーマルなプレゼンテーションとは 【第15回】テーマごとの資料収集、ディスカッション(1) 【第16回】テーマごとの資料収集、ディスカッション(2) 【第17回】アウトライン作成(1) 【第18回】アウトライン作成(2) 【第19回】スピーチ原稿作成(1) 【第20回】スピーチ原稿作成(2) 【第21回】個人プレゼンテーション 【第22回】資料収集、ディスカッション、スピーチ原稿作成(1) 【第23回】資料収集、ディスカッション、スピーチ原稿作成(2) 【第24回】リハーサル 【第25回】プレゼンテーション大会 【第26回】まとめ、振り返り				
成績評価の方法	ゼミ活動の姿勢(10%)、プレゼン準備のディスカッション(10%)、スピーチ原稿などの提出物(30%)、プレゼンのパフォーマンス(50%)								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	プレゼンテーション実施日などにゼミⅠやゼミⅡ合同授業を行うことがあります。 TOEIC受験を推奨します。								
オフィスアワー	水曜昼休み								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125729	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(宮川)				宮川 幸三		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールの目標は、経済データを用いて正しい手法で実証分析を行う技能を身につけることである。経済の実証分析とは、経済データを使って経済理論を検証することであり、そのためには分析手法だけでなく経済理論についての理解も不可欠である。ゼミナールⅠでは、統計データを用いた分析の手法を学ぶとともに、経済に関連するテーマについてディベート等を行うことによって経済理論に対する理解を深める。								
到達目標	経済データを用いて適切な方法で分析を行うことができる。 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、与えられた課題と次回内容の準備を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス(1) 【第2回】ディベート(1) 【第3回】単回帰分析(講義)(1) 【第4回】ディベート(2) 【第5回】単回帰分析(講義)(2) 【第6回】ディベート(3) 【第7回】単回帰分析(グループワーク)(1) 【第8回】ディベート(4) 【第9回】単回帰分析(プレゼンテーション)(1) 【第10回】ディベート(5) 【第11回】単回帰分析(グループワーク)(2) 【第12回】ディベート(6) 【第13回】単回帰分析(プレゼンテーション)(2)				【第14回】重回帰分析基礎(講義)(1) 【第15回】重回帰分析基礎(グループワーク)(1) 【第16回】ディベート(7) 【第17回】重回帰分析基礎(プレゼンテーション)(1) 【第18回】重回帰分析基礎(プレゼンテーション)(2) 【第19回】ディベート(8) 【第20回】重回帰分析応用(講義)(1) 【第21回】重回帰分析応用(講義)(2) 【第22回】ディベート(9) 【第23回】重回帰分析応用(グループワーク)(1) 【第24回】重回帰分析応用(グループワーク)(2) 【第25回】重回帰分析応用(プレゼンテーション)(1) 【第26回】重回帰分析応用(プレゼンテーション)(2)				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(50%)、授業中に行うプレゼンテーションやディベートの内容(50%)によって評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、演習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125730	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(村田)				村田 啓子		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習では、日本経済を理解する上で重要度の高い各種統計データについて学修した上で、日本経済の現況及び課題について学びます。現実の日本経済の動向を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学修することを通じ、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考え、卒業後の将来においても役立つ能力を養うことを目指します。								
到達目標	日本経済を理解するために必要なデータ・統計及びその見方に関する専門知識を習得するとともに、日本経済について自ら考える力を修得する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	演習で与えられた課題について予習を行い、疑問点があったら友人と議論しましょう。自分が発表の時にはレジュメを作成し余裕をもちつつ発表の準備をしましょう。演習後は、演習で学び、議論した内容を理解できているか復習・確認しましょう(授業外で計120時間以上)。								
授業計画	【第1回】 概論・日本経済・データ分析の学修1・討論 【第14回】 後期概論・日本経済・データ分析の学修13・討論 【第2回】 日本経済・データ分析の学修2・討論 【第15回】 日本経済・データ分析の学修14・討論 【第3回】 日本経済・データ分析の学修3・討論 【第16回】 日本経済・データ分析の学修15・討論 【第4回】 日本経済・データ分析の学修4・討論 【第17回】 日本経済・データ分析の学修16・討論 【第5回】 日本経済・データ分析の学修5・討論 【第18回】 日本経済・データ分析の学修17・討論 【第6回】 日本経済・データ分析の学修6・討論 【第19回】 日本経済・データ分析の学修18・討論 【第7回】 日本経済・データ分析の学修7・討論 【第20回】 日本経済・データ分析の学修19・討論 【第8回】 日本経済・データ分析の学修8・討論 【第21回】 日本経済・データ分析の学修20・討論 【第9回】 日本経済・データ分析の学修9・討論 【第22回】 日本経済・データ分析の学修21・討論 【第10回】 日本経済・データ分析の学修10・討論 【第23回】 日本経済・データ分析の学修22・討論 【第11回】 日本経済・データ分析の学修11・討論 【第24回】 日本経済・データ分析の学修23・討論 【第12回】 日本経済・データ分析の学修12・討論 【第25回】 日本経済・データ分析の学修24・討論 【第13回】 今後のゼミナール活動に関する検討・討論 【第26回】 今後のゼミナール活動に関する検討・討論								
成績評価の方法	ゼミナール活動への取組み姿勢(20%)、報告時の内容とプレゼンテーション(40%)、グループ研究での貢献度(40%)。								
フィードバックの内容	報告、プレゼンテーション、討論の内容についてコメントを行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	テキストは、演習内で相談の上決定します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます(事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	報告、プレゼンテーション、討論の内容についてフィードバックを行います。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125732	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ(山口)				山口 和男		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	経済学の基礎にあたるミクロ経済学を修めることを目的とする。								
到達目標	完全競争について説明できる、市場の失敗について説明できる、ミクロ経済学を使って経済現象を説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎回報告準備を行うこと、授業外に計120時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第14回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第2回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第15回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第3回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第16回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第4回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第17回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第5回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第18回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第6回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第19回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第7回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第20回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第8回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第21回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第9回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第22回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第10回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第23回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第11回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第24回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第12回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第25回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第13回】 ミクロ経済学の教科書を輪読 【第26回】 ミクロ経済学の教科書を輪読								
成績評価の方法	報告(100%)による。								
フィードバックの内容									
教科書	『ミクロ経済学 第3版』伊藤元重(日本評論社)2018、『ゼミナール ゲーム理論入門』渡辺隆裕(日本経済新聞出版)2008								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125734	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール I (渡部)				渡部 真弘		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	(1) 経済問題や社会問題の本質を明確に捉えるために必要なマイクロ経済学的視点と分析能力を培うことを目的とする。 (2) 各自の問題意識に基づく成果を集約したレポートを提出することを目的とする。 (3) 卒業論文執筆に向けて準備を進めることを目的とする。								
到達目標	(1) 組織・制度の在り方を考える問題といった題材を、マイクロ経済的な視点で論理的に考察することが可能となる。 (2) 分かりやすい資料作成や発表の技術が身につく。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	課題に関連する文献の内容把握や発表の準備に加えて、期末試験の代替として課されるレポート作成に向けて、週に少なくとも4時間(計120時間以上)の授業時間外の学修が必要である。								
授業計画	<p>【第1回】 第1期の活動に関するオリエンテーション、 個々の学生の興味・関心の把握</p> <p>【第2回】 文献輪読、学生による発表(1-1)</p> <p>【第3回】 文献輪読、学生による発表(1-2)</p> <p>【第4回】 文献輪読、学生による発表(1-3)</p> <p>【第5回】 文献輪読、学生による発表(1-4)</p> <p>【第6回】 レポート作成の準備(1-5)</p> <p>【第7回】 文献輪読、学生による発表(2-1)</p> <p>【第8回】 文献輪読、学生による発表(2-2)</p> <p>【第9回】 文献輪読、学生による発表(2-3)</p> <p>【第10回】 文献輪読、学生による発表(2-4)</p> <p>【第11回】 レポート作成の準備(2-5)</p> <p>【第12回】 レポートの内容に基づく報告(3-1)</p> <p>【第13回】 レポートの内容に基づく報告(3-2)</p> <p>【第14回】 第2期の活動に関するオリエンテーション</p> <p>【第15回】 文献輪読、学生による発表(4-1)</p> <p>【第16回】 文献輪読、学生による発表(4-2)</p> <p>【第17回】 文献輪読、学生による発表(4-3)</p> <p>【第18回】 文献輪読、学生による発表(4-4)</p> <p>【第19回】 レポート作成の準備(4-5)</p> <p>【第20回】 文献輪読、学生による発表(5-1)</p> <p>【第21回】 文献輪読、学生による発表(5-2)</p> <p>【第22回】 文献輪読、学生による発表(5-3)</p> <p>【第23回】 文献輪読、学生による発表(5-4)</p> <p>【第24回】 レポート作成の準備(5-5)</p> <p>【第25回】 レポートの内容に基づく報告(6-1)</p> <p>【第26回】 レポートの内容に基づく報告(6-2)</p>								
成績評価の方法	評価割合は、各授業回の事前準備への取り組み姿勢60%、第1期に作成したレポート20%、第2期に作成したレポート20%とする。 グループワークにかかわる評価は各授業回の事前準備に含まれる。レポートは個々に執筆したものを提出する必要がある。								
フィードバックの内容	提出物や発表に対して講評を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	レポート作成や発表資料作成に欠かせない Microsoft Word・Excel・PowerPoint や Latex といった各種ソフトウェアの操作については適宜指導する。授業にかかわる連絡や資料配布は、Open LMS にて行う。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 事前に連絡があれば他の曜日・時間帯に対面・オンラインでも面談を実施する。								
アクティブラーニングの内容	(1) 教員からのフィードバックによる振り返り：提出物や発表に対して講評を行う。 (2) 能動的な授業外学習：図書館のデータベースの活用								
実践的な教育内容									
その他	(1) 出席しても、報告の準備をしていなかったり、教員や他の学生との議論に参加しなければ成績評価の対象とはなりません。 (2) グループワークであっても、全体像を把握しなければ自分一人で卒業論文を執筆するための訓練にならないため、成績評価の主な対象となるレポートは個々に作成する必要があります。 (3) ゼミナール大会・ゼミナール協議会にかかわる事項を事前に確認してシラバスに含めることが困難であるため強要は致しません。自己責任の範囲でかかわってください。								

講義コード	11C0125736	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(王ゼイ)				王ゼイ		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	このゼミでは、経済学の学習と同時に、ドキュメンテーション・プレゼンテーション能力を高めて、数理科学・プログラミング・データサイエンスなどの知識とスキルを身につけることを目指して、総合的な学習を行う。								
到達目標	<p>学生はこの講義の履修を通じて、以下の目的を達成できる。</p> <p>①大学で経済学を学んでいく上で必要な数学・統計学を習得する。</p> <p>②R言語を使い、基礎的なプログラミング技法を習得する。</p> <p>③データサイエンスを学び、基本的なデータ分析能力を習得する。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定された教科書の予習と復習及び課題と発表の準備を行ってください。週に少なくとも4時間(計120時間以上)の自主的な学修が必要である。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス</p> <p>【第2回】輪読及び発表1</p> <p>【第3回】輪読及び発表2</p> <p>【第4回】輪読及び発表3</p> <p>【第5回】輪読及び発表4</p> <p>【第6回】輪読及び発表5</p> <p>【第7回】輪読及び発表6</p> <p>【第8回】輪読及び発表7</p> <p>【第9回】輪読及び発表8</p> <p>【第10回】輪読及び発表9</p> <p>【第11回】輪読及び発表10</p> <p>【第12回】輪読及び発表11</p> <p>【第13回】輪読及び発表12</p>				<p>【第14回】輪読及び発表13</p> <p>【第15回】輪読及び発表14</p> <p>【第16回】輪読及び発表15</p> <p>【第17回】輪読及び発表16</p> <p>【第18回】輪読及び発表17</p> <p>【第19回】輪読及び発表18</p> <p>【第20回】輪読及び発表19</p> <p>【第21回】輪読及び発表20</p> <p>【第22回】輪読及び発表21</p> <p>【第23回】輪読及び発表22</p> <p>【第24回】輪読及び発表23</p> <p>【第25回】輪読及び発表24</p> <p>【第26回】まとめ</p>				
成績評価の方法	発表(50%)及び課題(50%)により、評価を行う。								
フィードバックの内容	この科目では、授業用のチームが立ち上げられ、履修者全員に授業用チームに参加していただくことになっている。授業用チームの参加方法は初回の授業時に説明する。事前にMicrosoft OutlookとTeamsのアプリを所持の端末にインストールしておいて、使用できるような状態にしてください。授業時間外では、授業に関するお知らせ、資料配布、フィードバック、課題の配布と提出などはすべてMicrosoft Teamsを通じて行われる。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	ノートパソコンを持参してください。								
オフィスアワー	Teamsのチャット機能、Microsoft 365のメール(大学から付与されたメールアドレス)などで、予め教員と連絡を取ってください。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール大会での発表へ向けて、教員の指導のもとで、問題解決学習・プレゼンテーションを学生に行ってもらおう。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125737	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(戎野)				戎野 淑子		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	「労働」に関する基礎知識を基盤に、興味関心あるテーマを選ぶ。そのテーマについて、文献研究、ならびに討論を実施する。そこでは、プレゼンテーションの能力を身につけ、自分の意見を正確に伝え、積極的に議論を行うことができるようになってほしい。								
到達目標	労働経済学の基礎知識を基盤に、様々なテーマについて自分の意見をまとめ、議論を行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	課題を行う 上記に示した授業外の学修は、120時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】役職や今後の予定を相談のうえ決める</p> <p>【第2回】テーマを定める</p> <p>【第3回】グループディスカッション1</p> <p>【第4回】グループディスカッション2</p> <p>【第5回】グループワーク1</p> <p>【第6回】グループワーク2</p> <p>【第7回】グループワーク3</p> <p>【第8回】グループワーク4</p> <p>【第9回】中間発表</p> <p>【第10回】レポート作成1</p> <p>【第11回】レポート作成2</p> <p>【第12回】レポート作成3</p> <p>【第13回】まとめ</p>				<p>【第14回】グループワーク5</p> <p>【第15回】グループワーク7</p> <p>【第16回】グループワーク8</p> <p>【第17回】グループディスカッション3</p> <p>【第18回】グループディスカッション4</p> <p>【第19回】グループワーク9</p> <p>【第20回】グループワーク10</p> <p>【第21回】プレゼンテーション1</p> <p>【第22回】プレゼンテーション2</p> <p>【第23回】プレゼンテーション3</p> <p>【第24回】プレゼンテーション4</p> <p>【第25回】グループワーク11</p> <p>【第26回】まとめ</p>				
成績評価の方法	学期末のレポート(40%)、プレゼンテーション(40%)と、授業での発表、討論(20%)により評価する。								
フィードバックの内容	フィードバックは次回の授業までに行う								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い、そのフィードバックを次回実施する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125738	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	苑 志佳	開講期	通年																										
科目名	ゼミナールⅡ(苑)						苑 志佳	通年																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	2025年度の苑ゼミⅡは、中国経済を中心に研究する。具体的には、教員の用意した中国経済の諸分野の解題・トピックを中心とし、ゼミ生諸君は関心のあるトピックを自由に選び、各自で関係文献を収集して報告する。ゼミ諸君には、2年ゼミを通じて身につけたテクニックを活用し、活発な討論を行ってもらおう。ゼミ運営は、従来通りにゼミ生を中心として行われるが、教員は側面からサポートする。																																		
到達目標	本ゼミを通じ学生は、中国経済全般に関する知識をマスターすることができる。推薦図書を輪読することによって中国経済発展のメカニズムおよび世界経済との関係などをより深く理解することができる。																																		
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<ol style="list-style-type: none"> この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。 毎週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。 授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。 授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。 																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 前期イントロダクション</td> <td>【第14回】 後期イントロダクション</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 トピック1</td> <td>【第15回】 トピック13</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 トピック2</td> <td>【第16回】 トピック14</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 トピック3</td> <td>【第17回】 トピック15</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 トピック4</td> <td>【第18回】 トピック16</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 トピック5</td> <td>【第19回】 トピック17</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 トピック6</td> <td>【第20回】 トピック18</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 トピック7</td> <td>【第21回】 トピック19</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 トピック8</td> <td>【第22回】 トピック20</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 トピック9</td> <td>【第23回】 トピック21</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 トピック10</td> <td>【第24回】 トピック22</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 トピック11</td> <td>【第25回】 トピック23</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 トピック12</td> <td>【第26回】 通年総括</td> </tr> </table>									【第1回】 前期イントロダクション	【第14回】 後期イントロダクション	【第2回】 トピック1	【第15回】 トピック13	【第3回】 トピック2	【第16回】 トピック14	【第4回】 トピック3	【第17回】 トピック15	【第5回】 トピック4	【第18回】 トピック16	【第6回】 トピック5	【第19回】 トピック17	【第7回】 トピック6	【第20回】 トピック18	【第8回】 トピック7	【第21回】 トピック19	【第9回】 トピック8	【第22回】 トピック20	【第10回】 トピック9	【第23回】 トピック21	【第11回】 トピック10	【第24回】 トピック22	【第12回】 トピック11	【第25回】 トピック23	【第13回】 トピック12	【第26回】 通年総括
【第1回】 前期イントロダクション	【第14回】 後期イントロダクション																																		
【第2回】 トピック1	【第15回】 トピック13																																		
【第3回】 トピック2	【第16回】 トピック14																																		
【第4回】 トピック3	【第17回】 トピック15																																		
【第5回】 トピック4	【第18回】 トピック16																																		
【第6回】 トピック5	【第19回】 トピック17																																		
【第7回】 トピック6	【第20回】 トピック18																																		
【第8回】 トピック7	【第21回】 トピック19																																		
【第9回】 トピック8	【第22回】 トピック20																																		
【第10回】 トピック9	【第23回】 トピック21																																		
【第11回】 トピック10	【第24回】 トピック22																																		
【第12回】 トピック11	【第25回】 トピック23																																		
【第13回】 トピック12	【第26回】 通年総括																																		
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 学習態度50% プレゼン30% 討論参加20% 																																		
フィードバックの内容	毎週のプレゼン課題、テーマに対する講評を翌週授業内冒頭にて行う。																																		
教科書	『高所得時代の中国経済を読み解く』丸川知雄他（東京大学出版会）2022年																																		
指定図書	『世界進出する中国型多国籍企業』苑志佳（創成社）2023年																																		
参考書	『「経済成長」の起源』マーク・コヤマ、ジャレド・ルービン（草思社）2023年																																		
教員からのお知らせ	上記のトピックは、教員が事前に準備し、最初授業時にゼミ生に配布する。ゼミ生は自由にこれらのトピックから関心のあるものを選択して報告を準備する。また、ゼミ生が各自で関心を持つ個別トピックがあれば、教員と相談するうえで選択することができる。																																		
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること																																		
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11C0125739	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(王在喆)				王在喆		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業はグローバルの視点により問題発見・問題解決のための手法を受講生に習得してもらうことを目標としている。このため、日中両国産業構造の比較研究をこのゼミⅡの研究課題とすることを予定している。具体的には、戦後日本経済の成長パターンと対比しながら、「改革・開放」以降の中国経済の成長パターンを経済成長と経済発展の視点によって数量的に析出することである。まず、産業連関分析の理論および産業連関表の読み方を勉強する。次にExcelなどを使って、産業連関分析を習得する。その上で、日中両国の産業連関関係を計量分析する。その成果をゼミナール論文にとりまとめる。上述以外の研究課題について受講生と相談して決めることも可能である。								
到達目標	①産業連関理論と産業連関表の読み方を勉強することができる。 ②産業連関モデルの計算方法を習得することができる。 ③日中両国経済の変化を構造的に数量分析することができる。 ④グループで研究成果をゼミナール論文にとりまとめることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修： ①参考文献を読むこと。 ②Excel関数の操作方法を学習すること。 サブゼミやゼミ合宿などの時間も含めて120時間以上の授業外学修時間が必要になる。								
授業計画	【第1回】ガイダンス、国民経済計算(SNA) 【第14回】産業連関モデルの計算3 【第2回】国民経済計算における産業連関表の位置づけについて 【第15回】ゼミ論指導1 【第3回】産業連関表の読み方 【第16回】ゼミ論指導2 【第4回】地域産業連関表1 【第17回】ゼミ論指導3 【第5回】地域産業連関表2 【第18回】ゼミ論指導4 【第6回】国際産業連関表 【第19回】ゼミ論指導5 【第7回】中国の産業連関表 【第20回】ゼミ論指導6 【第8回】産業連関モデル1 【第21回】ゼミナール大会発表準備1 【第9回】産業連関モデル2 【第22回】ゼミナール大会発表準備2 【第10回】産業連関モデル3 【第23回】産業連関論と企業理論 【第11回】産業連関モデル4 【第24回】産業連関論とケインズ経済学 【第12回】産業連関モデルの計算1 【第25回】産業連関論と外国貿易 【第13回】産業連関モデルの計算2 【第26回】予備日								
成績評価の方法	授業への取り組み：20%、授業内発表：50%、論文やレポートの作成など：30%。								
フィードバックの内容	学習の内容や研究の進捗について授業内外で適宜にコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書	『産業連関分析入門』新飯田宏(東洋経済新報社)1978、『中国の経済成長：地域連関と政府の役割』王在喆(慶應義塾大学出版会)2001、『産業連関分析入門:ExcelとVBAでらくらくIO分析』藤川清史(日本評論社)2005、『産業連関分析入門』宮沢健一編(日本経済新聞社)2002、『産業連関論入門：新しい現実分析の理論的背景』森嶋通夫(創文社)1956、『日中連関構造の経済分析』王在喆・宮川幸三・山田光男(勁草書房)2016、『21世紀の資本』トマ・ピケティ[著]；山形浩生，守岡桜，森本正史訳(みすず書房)2014.12								
教員からのお知らせ	①教科書は受講生と相談したうで決めたい。 ②「計量経済学」、「経済統計」、「実証経済分析」の同時履修が望ましい。								
オフィスアワー	時間：木曜日6限目(18:00-19:30) 場所：2号棟511研究室(事前連絡:wzz@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125741	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期			
科目名	ゼミナールⅡ(小沢奈)				小沢 奈美恵		通年				
履修前提条件					備考						
授業の目的	学内ゼミ大会に向けて、論文の作成と発表の準備を行う。テーマは、ゼミメンバーが選び、現代アメリカの現状を反映したトピックを扱う予定である。英語、日本語の文献やアメリカ映画やニュースなどの映像を用いる。この研究を通じて、アメリカ社会の抱える諸問題を深く掘り下げて理解し、英語で説明できるようにする。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカの現代社会の問題を、映像や文献を読むことを通じて、深く理解し批評できる。 2. アメリカのニュースを視聴したり、アメリカ関連の記事を日本語や英語で読むことでアメリカ理解を深める。 3. グループで討論しながら、論文を完成する。 4. 完成した論文を、分かりやすく人に伝えるプレゼン力をつける。 										
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では120時間以上の授業外学修を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマに関連した本、雑誌、ニュース、メディア（日本語／英語）を通じてテーマに関連した資料を読み、批評的に考える。 2. 各自分担部分のゼミ論を書いて、夏休み前後で発表の準備を行う。 3. 発表用パワーポイントや発表原稿を作成する。 										
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 テーマ別に二つのグループに分かれ、文献調査を行う。 【第2回】 文献調査（英語・日本語）と発表1 【第3回】 文献調査（英語・日本語）と発表2 【第4回】 文献調査（英語・日本語）と発表3 【第5回】 論文執筆1 【第6回】 論文執筆2 【第7回】 論文執筆3 【第8回】 論文執筆4 【第9回】 論文完成と校正 【第10回】 英語発表原稿とPPT作成1 【第11回】 英語発表原稿とPPT作成2 【第12回】 英語発表原稿とPPT作成3 【第13回】 中間発表 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 【第14回】 論文とプレゼン用PPTの改良1 【第15回】 論文とプレゼン用PPTの改良2 【第16回】 論文とプレゼン用PPTの改良3 【第17回】 発表練習1 【第18回】 発表練習2 【第19回】 発表練習3 【第20回】 発表練習4 【第21回】 ゼミ大会の反省と論文修正 【第22回】 論文修正 【第23回】 卒論テーマ準備／アメリカ関連映画・ニュース1 【第24回】 卒論テーマ準備／アメリカ関連映画・ニュース2 【第25回】 卒論テーマ準備／アメリカ関連映画・ニュース3 【第26回】 発表とレポート </td> </tr> </table>									<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 テーマ別に二つのグループに分かれ、文献調査を行う。 【第2回】 文献調査（英語・日本語）と発表1 【第3回】 文献調査（英語・日本語）と発表2 【第4回】 文献調査（英語・日本語）と発表3 【第5回】 論文執筆1 【第6回】 論文執筆2 【第7回】 論文執筆3 【第8回】 論文執筆4 【第9回】 論文完成と校正 【第10回】 英語発表原稿とPPT作成1 【第11回】 英語発表原稿とPPT作成2 【第12回】 英語発表原稿とPPT作成3 【第13回】 中間発表 	<ul style="list-style-type: none"> 【第14回】 論文とプレゼン用PPTの改良1 【第15回】 論文とプレゼン用PPTの改良2 【第16回】 論文とプレゼン用PPTの改良3 【第17回】 発表練習1 【第18回】 発表練習2 【第19回】 発表練習3 【第20回】 発表練習4 【第21回】 ゼミ大会の反省と論文修正 【第22回】 論文修正 【第23回】 卒論テーマ準備／アメリカ関連映画・ニュース1 【第24回】 卒論テーマ準備／アメリカ関連映画・ニュース2 【第25回】 卒論テーマ準備／アメリカ関連映画・ニュース3 【第26回】 発表とレポート
<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 テーマ別に二つのグループに分かれ、文献調査を行う。 【第2回】 文献調査（英語・日本語）と発表1 【第3回】 文献調査（英語・日本語）と発表2 【第4回】 文献調査（英語・日本語）と発表3 【第5回】 論文執筆1 【第6回】 論文執筆2 【第7回】 論文執筆3 【第8回】 論文執筆4 【第9回】 論文完成と校正 【第10回】 英語発表原稿とPPT作成1 【第11回】 英語発表原稿とPPT作成2 【第12回】 英語発表原稿とPPT作成3 【第13回】 中間発表 	<ul style="list-style-type: none"> 【第14回】 論文とプレゼン用PPTの改良1 【第15回】 論文とプレゼン用PPTの改良2 【第16回】 論文とプレゼン用PPTの改良3 【第17回】 発表練習1 【第18回】 発表練習2 【第19回】 発表練習3 【第20回】 発表練習4 【第21回】 ゼミ大会の反省と論文修正 【第22回】 論文修正 【第23回】 卒論テーマ準備／アメリカ関連映画・ニュース1 【第24回】 卒論テーマ準備／アメリカ関連映画・ニュース2 【第25回】 卒論テーマ準備／アメリカ関連映画・ニュース3 【第26回】 発表とレポート 										
成績評価の方法	発表・参加態度（30％）ゼミ論（50％）課題提出（20％）										
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループ発表にコメントを行い、改善を求めたり、今後調査すべき問題を指摘したり、文献を紹介します。 2. ゼミ論を一人ずつ添削して返却し、修正箇所は、良くなるまで何度も確認します。 3. クラスメイトや教師の感想をフィードバックします。 										
教科書											
指定図書											
参考書											
教員からのお知らせ	連絡はe-mailやラインなどで頻繁に取り合います。教科書や参考書は、ゼミ論のテーマが決まってから図書館のOPACやWebcatなどで検索し調査して、入手します。										
オフィスアワー	水曜3時限のオフィスアワーに314研究室で対応します。予め、メール（ozawa@ris.ac.jp）かLMSでアポイントを取ってください。メールかLMSなどでの相談にも応じます。										
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、調査学習、グループワーク、グループ・ディスカッション、教員からのフィードバックによる振り返り										
実践的な教育内容											
その他											

講義コード	11C0125742	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																											
科目名	ゼミナールⅡ(小沢佳)				小沢 佳史		通年																												
履修前条件					備考																														
授業の目的	この授業では、「ゼミナールⅠ」での学修を深化させてゆく。より詳しく言えば、この授業の目的は、経済学の歴史をめぐる発展的な知識を身に付けること、そしてそれを通じて、過去の出来事を踏まえ多様な視点から現在の出来事を捉えられるようになること、そのうえで、自分たちの関心事を探究してその成果をわかりやすく表現できるようになることである。そのためにこの授業では、主として経済学の歴史に関する古典を輪読する。																																		
到達目標	1. 経済学の歴史——現在の経済学が誕生するまでのプロセス——を、自分たちの言葉で詳しく説明できる。 2. 目の前にあるものを、立体的・多面的に説明できる。 3. グループのメンバーと協力して、自分たちの関心事を探究し、その成果を他人へ正確に伝えることができる。																																		
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、担当者からの指示やフィードバックを参照して、毎回の復習と次回の予習を入念に行うこと。また、大学の図書館などを最大限に活用して、新聞をできる限り毎日読むこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】「ゼミナールⅠ」での学修の振り返り</td> <td>【第14回】調査⑧——古典の精読⑤</td> </tr> <tr> <td>【第2回】古典の選定</td> <td>【第15回】調査⑨——古典の精読⑥</td> </tr> <tr> <td>【第3回】調査①——指定図書の該当箇所の確認</td> <td>【第16回】調査⑩——古典の精読⑦</td> </tr> <tr> <td>【第4回】調査②——古典の概要①</td> <td>【第17回】調査⑪——古典の精読⑧</td> </tr> <tr> <td>【第5回】調査③——古典の概要②</td> <td>【第18回】報告と議論⑤——第1グループ</td> </tr> <tr> <td>【第6回】報告と議論①——第1グループ</td> <td>【第19回】報告と議論⑥——第2グループ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】報告と議論②——第2グループ</td> <td>【第20回】調査⑫——古典の精読⑨</td> </tr> <tr> <td>【第8回】調査④——古典の精読①</td> <td>【第21回】調査⑬——古典の精読⑩</td> </tr> <tr> <td>【第9回】調査⑤——古典の精読②</td> <td>【第22回】調査⑭——古典の精読⑪</td> </tr> <tr> <td>【第10回】調査⑥——古典の精読③</td> <td>【第23回】調査⑮——古典の精読⑫</td> </tr> <tr> <td>【第11回】調査⑦——古典の精読④</td> <td>【第24回】報告と議論⑦——第1グループ</td> </tr> <tr> <td>【第12回】報告と議論③——第1グループ</td> <td>【第25回】報告と議論⑧——第2グループ</td> </tr> <tr> <td>【第13回】報告と議論④——第2グループ</td> <td>【第26回】全体のまとめ</td> </tr> </table> <p>※この進度や内容は目安であり、履修者と相談しながら進度や内容を適宜調整する。</p>									【第1回】「ゼミナールⅠ」での学修の振り返り	【第14回】調査⑧——古典の精読⑤	【第2回】古典の選定	【第15回】調査⑨——古典の精読⑥	【第3回】調査①——指定図書の該当箇所の確認	【第16回】調査⑩——古典の精読⑦	【第4回】調査②——古典の概要①	【第17回】調査⑪——古典の精読⑧	【第5回】調査③——古典の概要②	【第18回】報告と議論⑤——第1グループ	【第6回】報告と議論①——第1グループ	【第19回】報告と議論⑥——第2グループ	【第7回】報告と議論②——第2グループ	【第20回】調査⑫——古典の精読⑨	【第8回】調査④——古典の精読①	【第21回】調査⑬——古典の精読⑩	【第9回】調査⑤——古典の精読②	【第22回】調査⑭——古典の精読⑪	【第10回】調査⑥——古典の精読③	【第23回】調査⑮——古典の精読⑫	【第11回】調査⑦——古典の精読④	【第24回】報告と議論⑦——第1グループ	【第12回】報告と議論③——第1グループ	【第25回】報告と議論⑧——第2グループ	【第13回】報告と議論④——第2グループ	【第26回】全体のまとめ
【第1回】「ゼミナールⅠ」での学修の振り返り	【第14回】調査⑧——古典の精読⑤																																		
【第2回】古典の選定	【第15回】調査⑨——古典の精読⑥																																		
【第3回】調査①——指定図書の該当箇所の確認	【第16回】調査⑩——古典の精読⑦																																		
【第4回】調査②——古典の概要①	【第17回】調査⑪——古典の精読⑧																																		
【第5回】調査③——古典の概要②	【第18回】報告と議論⑤——第1グループ																																		
【第6回】報告と議論①——第1グループ	【第19回】報告と議論⑥——第2グループ																																		
【第7回】報告と議論②——第2グループ	【第20回】調査⑫——古典の精読⑨																																		
【第8回】調査④——古典の精読①	【第21回】調査⑬——古典の精読⑩																																		
【第9回】調査⑤——古典の精読②	【第22回】調査⑭——古典の精読⑪																																		
【第10回】調査⑥——古典の精読③	【第23回】調査⑮——古典の精読⑫																																		
【第11回】調査⑦——古典の精読④	【第24回】報告と議論⑦——第1グループ																																		
【第12回】報告と議論③——第1グループ	【第25回】報告と議論⑧——第2グループ																																		
【第13回】報告と議論④——第2グループ	【第26回】全体のまとめ																																		
成績評価の方法	報告（50％）と、議論を含む授業への取り組み姿勢（50％）によって評価する。																																		
フィードバックの内容	報告や議論について、授業内でフィードバックする。																																		
教科書																																			
指定図書	『福祉の経済思想家たち 増補改訂版』小峯敦 編（ナカニシヤ出版）2010、『交響する経済学——経済学はどう使うべきか』中村達也 著（筑摩書房）2022、『経済思想』猪木武徳 著（岩波書店）2017、『経済思想入門』松原隆一郎 著（筑摩書房）2016、『写真で見る ヴィクトリア朝ロンドンの都市と生活』アレックス・ワーナー、トニー・ウィリアムズ 著；松尾恭子 訳（原書房）2013、『経済学の名著30』松原隆一郎 著（筑摩書房）2009、『経済学のことば』根井雅弘 著（講談社）2004、『西洋政治思想資料集』杉田敦、川崎修 編著（法政大学出版局）2014、『政治学の名著30』佐々木毅 著（筑摩書房）2007																																		
参考書	『ソクラテスの弁明』プラトン 著；納富信留 訳（光文社）2012																																		
教員からのお知らせ	無断で欠席したり遅刻したりすることは、基本的に認められない。																																		
オフィスアワー	この授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付ける。また授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内でも対応する。																																		
アクティブラーニングの内容	ゼミナール。																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11C0125743	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(小野崎)				小野崎 保		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	このゼミでは、ゼミナールⅠで修得した人工社会シミュレーションの手法を用いて、グループワークにより自分たちのオリジナルなシミュレーション・モデルを作成・分析を行う。こうした作業を通じてシミュレーション的な思考を養い、いろいろな社会現象の背後にある本質的なメカニズムを理解する。 第1期には、グループ毎に文献調査やアンケート調査などを通じて研究テーマの骨格を構築する。また、同時にシミュレーション・モデルの開発に着手する。第2期にはシミュレーション・モデルを完成させモデルを用いた分析を行い、最終的には論文としてまとめゼミナール大会で発表を行う。								
到達目標	(1) 人工社会シミュレーションの意義や方法について深く理解できる。 (2) 自分の問題意識に沿ってテーマ設定をし、人工社会シミュレーションを用いてそのテーマについて研究することができる。 (3) 社会現象の背後にある本質的なメカニズムについて自ら仮説を立てて考えることができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	第1期・第2期を通して、ゼミナール大会に向けたグループ研究を授業時間以外にも定期的実施すると通じて、授業外に合計120時間以上の学習をおこなうこと。								
授業計画	【第1回】研究テーマに関するディスカッション 【第2回】研究テーマの骨格を構築(その1) 【第3回】研究テーマの骨格を構築(その2) 【第4回】研究テーマの骨格を構築(その3) 【第5回】文献調査およびアンケート調査(その1) 【第6回】文献調査およびアンケート調査(その2) 【第7回】文献調査およびアンケート調査(その3) 【第8回】文献調査およびアンケート調査(その4) 【第9回】モデルの設計(その1) 【第10回】モデルの設計(その2) 【第11回】モデルの構築(その1) 【第12回】モデルの構築(その2) 【第13回】モデルの構築(その3)				【第14回】モデルの構築(その4) 【第15回】モデルの構築(その5) 【第16回】モデルの完成(その1) 【第17回】モデルの完成(その2) 【第18回】シミュレーションおよび論文執筆(その1) 【第19回】シミュレーションおよび論文執筆(その2) 【第20回】シミュレーションおよび論文執筆(その3) 【第21回】シミュレーションおよび論文執筆(その4) 【第22回】プレゼンテーション練習 【第23回】モデルの修正および追加文献調査 【第24回】追加シミュレーションおよび追加実地調査 【第25回】論文修正(1) 【第26回】論文修正(2)				
成績評価の方法	ゼミナール活動への取り組み姿勢(30%)、グループ研究での貢献度(70%)による。								
フィードバックの内容	グループ研究の方法、内容、発表などについて、随時口頭によりコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループ研究に用いる文献は研究テーマに応じて適宜紹介する。								
オフィスアワー	メール(onozaki@ris.ac.jp)にて随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、演習、問題解決学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125744	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(川口)				川口 真一		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールは、わが国の税制の仕組みや役割、機能を学ぶことを目的とする。税は国民の日々の暮らしに直接影響をもたらすため、我々がそれをよく理解し今後の税制のあり方を考えていく必要がある。 このゼミでは、少子高齢化、格差社会が問題となる中で、税制はどうあるべきかをメディアや論文などで取り上げられている題材をもとにディスカッションを行う。 さらに、ゼミ生各自が研究テーマを設定し、それについて研究報告を行う。								
到達目標	税制問題に関するディスカッションを通して、プレゼン能力と論理的思考力を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。 ミクロ経済学の基礎と講義で使用する教科書を十分に理解すること。								
授業計画	【第1回】租税に関する知識および理論の修得① 【第2回】租税に関する知識および理論の修得② 【第3回】租税に関する知識および理論の修得③ 【第4回】租税に関する知識および理論の修得④ 【第5回】租税に関する知識および理論の修得⑤ 【第6回】租税に関する知識および理論の修得⑥ 【第7回】租税に関する知識および理論の修得⑦ 【第8回】租税に関する知識および理論の修得⑧ 【第9回】租税に関する知識および理論の修得⑨ 【第10回】租税に関する知識および理論の修得⑩ 【第11回】租税に関する文献の輪読① 【第12回】租税に関する文献の輪読② 【第13回】租税に関する文献の輪読③				【第14回】租税に関する文献の輪読④ 【第15回】租税に関する文献の輪読⑤ 【第16回】租税に関する文献の輪読⑥ 【第17回】租税に関する文献の輪読⑦ 【第18回】租税に関する文献の輪読⑧ 【第19回】租税に関する文献の輪読⑨ 【第20回】租税に関する文献の輪読⑩ 【第21回】ゼミ生による研究報告① 【第22回】ゼミ生による研究報告② 【第23回】ゼミ生による研究報告③ 【第24回】ゼミ生による研究報告④ 【第25回】ゼミ生による研究報告⑤ 【第26回】ゼミ生による研究報告⑥				
成績評価の方法	ゼミでの報告によって評価する(100%)。								
フィードバックの内容									
教科書	授業時に指示する								
指定図書	授業時に指示する								
参考書	授業時に指示する								
教員からのお知らせ	ミクロ経済学と財政学を履修していることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125745	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(河原)					河原 伸哉		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	国際・観光経済学とデータ分析について演習形式で学ぶ。基礎的な内容から学び始め、中級レベルの内容も理解できることを目標とする。上記に加えて、新聞や経済雑誌等の記事を用いて、現実の経済問題についての理解を深めながら、プレゼンテーションの技法についても学ぶ。								
到達目標	国際・観光経済学とデータ分析の基本的な概念を理解し、それらを他の学生に対して説明できる。他の学生の発表に対して自らの意見を述べるができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎回のゼミでは、指定された教科書であらかじめ決められた各自の分担箇所について発表し、それに関する質疑応答や問題演習を行う。このため各回の授業で取り扱う内容について、教科書や参考書等を用いた予習・復習など授業外に計120時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	教科書等の報告・討論に加えて、個別・グループ単位で特定のテーマについて調査・報告を行い、ゼミナール大会の参加に向けての準備を行う。 【第1回】 観光経済学の学習 1 【第2回】 観光経済学の学習 2 【第3回】 観光経済学の学習 3 【第4回】 観光経済学の学習 4 【第5回】 観光経済学の学習 5 【第6回】 観光経済学の学習 6 【第7回】 研究報告と討論 1 【第8回】 データ分析の学習 1 【第9回】 データ分析の学習 2 【第10回】 データ分析の学習 3 【第11回】 データ分析の学習 4 【第12回】 データ分析の学習 5 【第13回】 研究報告と討論 2 【第14回】 国際経済学の学習 1 【第15回】 国際経済学の学習 2 【第16回】 国際経済学の学習 3 【第17回】 国際経済学の学習 4 【第18回】 国際経済学の学習 5 【第19回】 国際経済学の学習 6 【第20回】 研究報告と討論 3 【第21回】 データ分析の演習 1 【第22回】 データ分析の演習 2 【第23回】 データ分析の演習 3 【第24回】 データ分析の演習 4 【第25回】 データ分析の演習 5 【第26回】 研究報告と討論 4								
成績評価の方法	到達目標で挙げた各項目に基づき、平常点（授業への参加姿勢）に50%、課題（発表、レポート等）に50%を配分して評価する。								
フィードバックの内容	発表やレポートに対するコメントなどを授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	使用するテキストについては、初回授業時に協議の上、決定する。指定図書・参考書は初回授業時に提示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	グループ・ディスカッション、グループ・ワーク								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125746	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(北原)					北原 克宣		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本ゼミナールでは、第一に、農業問題・食料問題・土地問題・環境問題などについて世界経済および日本経済との関連で理解する、第二に、研究の方法を学ぶ、第三に、ゼミナール活動を通じて、社会人として求められる様々な能力（コミュニケーション能力、企画力、協調性など）を身に付けることを目的とする。								
到達目標	ゼミナールⅡでは、①農作業など学外での活動を通じて実践的能力を身につける、②文献を読み論点を整理する能力を養う、③データを収集し整理・分析する能力を養う、以上を通じて④論文をまとめることができ、⑤説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①新聞を読むこと（毎日30分） ②幅広い分野の書籍を読むこと（毎日30分） ③課外活動や合宿等の時間外活動にも積極的に参加すること（80時間） 合計120時間以上の授業外学習を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ゼミナールの進め方について 【第2回】 研究課題に関する発表1（グループごと） 【第3回】 研究課題に関する発表2（グループごと） 【第4回】 課題研究 1 【第5回】 課題研究 2 【第6回】 中間発表 1 【第7回】 中間発表 2 【第8回】 課題研究 3 【第9回】 課題研究 4 【第10回】 中間発表 3 【第11回】 中間発表 4 【第12回】 課題研究 5 【第13回】 中間発表 5 【第14回】 論文取りまとめ 1 【第15回】 論文取りまとめ 2 【第16回】 中間発表 7 【第17回】 中間発表 8 【第18回】 論文取りまとめ 3 【第19回】 論文取りまとめ 4 【第20回】 発表用資料作成 1 【第21回】 発表用資料作成 2 【第22回】 発表練習 1 【第23回】 発表練習 2 【第24回】 ゼミナール協議会大会参加 【第25回】 論文修正 【第26回】 研究成果発表会								
成績評価の方法	①ゼミ活動（課外活動を含む）への取り組み姿勢（50%）、②グループ研究への取り組み姿勢（50%）								
フィードバックの内容	発表内容について、授業内にてコメントをする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は随時受け付けます。ゼミナールの際にお知らせするアドレス宛に、連絡を下さい。								
アクティブラーニングの内容	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125747	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(クボ)					マイケル クボ		通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	Students of this zemi will research a specific media topic. Students of this zemi will also plan and produce all-English, dynamic presentations and reports for the department's Zemi Taikai.								
到達目標	Students will show their passion and creativity when making presentations at the Zemi Taikai. Students of this zemi aim to make their presentations as memorable and meaningful as possible. They will make their own presentations memorable and meaningful for themselves and the audience. Students of this zemi will continue to grow closer as a team. Students play a big part in the direction and unique character of this zemi.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students must spend more than 120 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Setting goals, and determining roles. Explore potential "Zemi Taikai" topics. 【第2回】 Form presentation groups and define research topics. 【第3回】 Finalize research topics, make research schedule and groups present plan to class. 【第4回】 Group's research topic. 【第5回】 Group's research topic. 【第6回】 All members report/present what they have researched in past 3 - 4 weeks. 【第7回】 Continuing group research. 【第8回】 Continuing group research. 【第9回】 Continuing group research. 【第10回】 All members report/present what they have researched in past 3 - 4 weeks. 【第11回】 Presentation development. 【第12回】 Presentation development. 【第13回】 Mid-term reflections. 【第14回】 Redefining goals and roles, further presentation and PowerPoint creation. 【第15回】 Further research and PowerPoint creation, script writing. 【第16回】 Further research and PowerPoint creation, script writing. 【第17回】 Further research and PowerPoint creation, script writing. 【第18回】 Practice presentations. 【第19回】 Practice presentations. 【第20回】 All members report/present what they worked on in past 4 - 5 weeks. 【第21回】 Final presentation preparations. 【第22回】 Final presentation preparations. 【第23回】 Reflections of presentations 【第24回】 Reflections of presentations 【第25回】 Group Discussions (or help with Open Zemi) 【第26回】 Group Discussions (or help with Open Zemi)								
成績評価の方法	participation: 30%, attitude: 30%, effort: 30%, presentations: 10%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125748	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	慶田 昌之	開講期	通年		
科目名	ゼミナールⅡ(慶田)										
履修前提条件					備考						
授業の目的	ゼミナールⅡは、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら自主的な研究をすすめ、最終的な報告をすることを目的とする。本演習を通じて、これまでにゼミナールⅠ・Ⅱにおいて得た知識、技術、考え方をを用いて、問題発見・課題設定・問題解決能力を養成し、社会人として求められる知識や能力を習得することが期待される。										
到達目標	本科目を通じて、以下の能力が得られることを到達目標とする。 ①問題の所在を見出し解決すべき課題を設定する。 ②文献資料・データの収集・分析を通じて問題を解決する。 ③得られた結論を論理的に整理し報告することができる。										
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	①研究テーマに関連する分野の文献を読むこと ②新聞等を通じて社会情勢をチェックすること (計120時間以上)										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化 【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認 【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定 【第4回】 指導教員指導：テーマ(論題)の最終決定 【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定 【第6回】 学生による分析1 【第7回】 学生による分析2 【第8回】 中間報告1 【第9回】 学生による分析3 【第10回】 学生による分析4 【第11回】 中間報告2 【第12回】 学生による分析5 【第13回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 【第14回】 中間報告3 【第15回】 学生による分析8 【第16回】 学生による分析9 【第17回】 中間報告4 【第18回】 学生による分析10 【第19回】 学生による分析11 【第20回】 中間報告5 【第21回】 学生による分析12 【第22回】 中間報告6 【第23回】 学生による分析13 【第24回】 最終報告の確認と最終修正指示 【第25回】 最終報告の準備 【第26回】 最終報告 </td> </tr> </table>									【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化 【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認 【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定 【第4回】 指導教員指導：テーマ(論題)の最終決定 【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定 【第6回】 学生による分析1 【第7回】 学生による分析2 【第8回】 中間報告1 【第9回】 学生による分析3 【第10回】 学生による分析4 【第11回】 中間報告2 【第12回】 学生による分析5 【第13回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導	【第14回】 中間報告3 【第15回】 学生による分析8 【第16回】 学生による分析9 【第17回】 中間報告4 【第18回】 学生による分析10 【第19回】 学生による分析11 【第20回】 中間報告5 【第21回】 学生による分析12 【第22回】 中間報告6 【第23回】 学生による分析13 【第24回】 最終報告の確認と最終修正指示 【第25回】 最終報告の準備 【第26回】 最終報告
【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化 【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認 【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定 【第4回】 指導教員指導：テーマ(論題)の最終決定 【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定 【第6回】 学生による分析1 【第7回】 学生による分析2 【第8回】 中間報告1 【第9回】 学生による分析3 【第10回】 学生による分析4 【第11回】 中間報告2 【第12回】 学生による分析5 【第13回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導	【第14回】 中間報告3 【第15回】 学生による分析8 【第16回】 学生による分析9 【第17回】 中間報告4 【第18回】 学生による分析10 【第19回】 学生による分析11 【第20回】 中間報告5 【第21回】 学生による分析12 【第22回】 中間報告6 【第23回】 学生による分析13 【第24回】 最終報告の確認と最終修正指示 【第25回】 最終報告の準備 【第26回】 最終報告										
成績評価の方法	最終報告の質と量および当該学生の履修態度によって総合評価(100%)する。										
フィードバックの内容	指導の中で適宜フィードバックする。										
教科書											
指定図書											
参考書											
教員からのお知らせ											
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。										
アクティブラーニングの内容	ゼミナール										
実践的な教育内容											
その他											

講義コード	11C0125749	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																											
科目名	ゼミナールⅡ(小林隆)				小林 隆史		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	社会経済における現象、諸問題の中から、学生の興味関心のあるテーマをピックアップし、特に都市空間解析に関する基礎知識を基に調査、研究を行う。 文献研究、現地調査、レポート作成、プレゼンテーションについて、主体的に取り組める能力を身につける。 グループワークの際には、グループ内で役割分担を行い、各人がそれぞれの役割においてリーダーを経験する。																																		
到達目標	社会経済の現象、諸問題に対して、理由を付して自分なりの意見を持ち、発信することができる。 ゼミナール外部、学外者に向けて、一定水準以上の発表を行える。 発表内容をレジюме、梗概といった形式で作成できる。																																		
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	与えられた課題に取り組むこと。また、講義前の事前準備や、必要に応じた現地調査等を実施すること。以上に関し、計120時間以上の授業外学修を実施すること。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】個人発表(研究テーマ発表)</td> <td>【第14回】論文作成</td> </tr> <tr> <td>【第2回】個人発表(研究テーマ発表)</td> <td>【第15回】グループ演習</td> </tr> <tr> <td>【第3回】グループワーク・文献参照の基礎</td> <td>【第16回】グループ発表</td> </tr> <tr> <td>【第4回】発表スライド作成・論文作成の基礎</td> <td>【第17回】論文作成</td> </tr> <tr> <td>【第5回】グループ演習</td> <td>【第18回】グループ演習</td> </tr> <tr> <td>【第6回】グループ発表</td> <td>【第19回】グループ発表</td> </tr> <tr> <td>【第7回】グループ演習</td> <td>【第20回】グループ演習</td> </tr> <tr> <td>【第8回】グループ演習</td> <td>【第21回】グループ発表</td> </tr> <tr> <td>【第9回】グループ発表</td> <td>【第22回】グループ演習</td> </tr> <tr> <td>【第10回】グループ演習</td> <td>【第23回】グループ発表</td> </tr> <tr> <td>【第11回】グループ発表</td> <td>【第24回】論文報告</td> </tr> <tr> <td>【第13回】前期総括</td> <td>【第25回】個人発表(活動報告)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>【第26回】後期総括</td> </tr> </table>									【第1回】個人発表(研究テーマ発表)	【第14回】論文作成	【第2回】個人発表(研究テーマ発表)	【第15回】グループ演習	【第3回】グループワーク・文献参照の基礎	【第16回】グループ発表	【第4回】発表スライド作成・論文作成の基礎	【第17回】論文作成	【第5回】グループ演習	【第18回】グループ演習	【第6回】グループ発表	【第19回】グループ発表	【第7回】グループ演習	【第20回】グループ演習	【第8回】グループ演習	【第21回】グループ発表	【第9回】グループ発表	【第22回】グループ演習	【第10回】グループ演習	【第23回】グループ発表	【第11回】グループ発表	【第24回】論文報告	【第13回】前期総括	【第25回】個人発表(活動報告)		【第26回】後期総括
【第1回】個人発表(研究テーマ発表)	【第14回】論文作成																																		
【第2回】個人発表(研究テーマ発表)	【第15回】グループ演習																																		
【第3回】グループワーク・文献参照の基礎	【第16回】グループ発表																																		
【第4回】発表スライド作成・論文作成の基礎	【第17回】論文作成																																		
【第5回】グループ演習	【第18回】グループ演習																																		
【第6回】グループ発表	【第19回】グループ発表																																		
【第7回】グループ演習	【第20回】グループ演習																																		
【第8回】グループ演習	【第21回】グループ発表																																		
【第9回】グループ発表	【第22回】グループ演習																																		
【第10回】グループ演習	【第23回】グループ発表																																		
【第11回】グループ発表	【第24回】論文報告																																		
【第13回】前期総括	【第25回】個人発表(活動報告)																																		
	【第26回】後期総括																																		
成績評価の方法	レポート(20%程度)、発表(60%程度)、グループへの貢献度(20%程度)を総合的に評価する。																																		
フィードバックの内容	発表時へのコメント、及び、レポート、レジюмеについての添削を実施する。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ	グループ活動では、協調性やコミュニケーション能力を必要とする。 発表会への参加は、単位取得に必須である。 やむを得ない事情以外の欠席・遅刻は認めない。欠席等の際には補講への参加を必須とする。																																		
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及び Teams のビデオ通話等にて受付ける。また、Teams の所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。																																		
アクティブラーニングの内容	「ゼミナール」の実施。「調査学習」「能動的な授業外学習」「グループワーク」を経て、演習時には「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「教員からのフィードバックによる振り返り」を実施する。																																		
実践的な教育内容																																			
その他	質問・相談はできるだけ授業内にて行うこと、あるいは Teams の適切なスレッドでの投稿を推奨する。ほか、事前予約があればオフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談を受け付ける。事前予約の連絡は「学籍番号@rissho-univ.jp」から koba@ris.ac.jp 宛へのメールで、件名の冒頭に「【隆史ゼミ】質問」と記載された場合にのみ対応する。 4年次に卒業論文に取り組む学生は、グループに所属せず個人研究に取り組むこともできる。4月の第1週までに申し出ること。																																		

講義コード	11C0125751	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																											
科目名	ゼミナールⅡ(櫻井)				櫻井 一宏		通年																												
履修前提条件					備考																														
授業の目的	本ゼミナールでは、環境や環境問題のメカニズムについての理解や分析方法の知識をもとに、興味のあるテーマを設定して学術的課題・社会的問題などの視点から調査・研究を行う。グループワークを基本とし、自主性・協調性をもって作業を進め適宜報告会を行い、メンバー間で討論する。必要に応じて研究テーマに関する外部勉強会や見学会、フィールド調査を実施する。最終的にはゼミ大会での発表を行い、論文にとりまとめる。																																		
到達目標	研究計画を作成し、計画に基づく調査研究の経過報告レポートや発表のためのとりまとめができる。プレゼンテーションや質疑応答に加え、他グループのテーマに対しても議論できる。フィールド調査等にあたり、外部機関との調整や調査計画が立案できる。グループワークに際し、協調性やコミュニケーション能力を向上させる。																																		
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	テーマに応じた文献および参考資料等を取りまとめることやプレゼンテーションのための準備、また、必要に応じてフィールド調査等を実施するなど、当該内容に関する自主的な学習や研究のための作業が必要となる。以上、ゼミナールの事前準備等のために計120時間以上の授業外学修を実施すること。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第14回】 ディスカッション (3)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 環境問題・環境政策に関する基本的な学習</td> <td>【第15回】 ディスカッション (4)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 環境・経済システム分析</td> <td>【第16回】 調査・研究方法の検討と学習 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 ディスカッション (1)</td> <td>【第17回】 調査・研究方法の検討と学習 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 ディスカッション (2)</td> <td>【第18回】 分析および考察 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 テーマ検討</td> <td>【第19回】 分析および考察 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 資料収集および文献読解 (1)</td> <td>【第20回】 プレゼンテーション準備 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 資料収集および文献読解 (2)</td> <td>【第21回】 プレゼンテーション準備 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 資料収集および文献読解 (3)</td> <td>【第22回】 発表会・質疑応答 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 調査・研究項目の検討 (1)</td> <td>【第23回】 発表会・質疑応答 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 調査・研究項目の検討 (2)</td> <td>【第24回】 レポート作成 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 中間報告・質疑応答 (1)</td> <td>【第25回】 レポート作成 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 中間報告・質疑応答 (2)</td> <td>【第26回】 まとめ</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第14回】 ディスカッション (3)	【第2回】 環境問題・環境政策に関する基本的な学習	【第15回】 ディスカッション (4)	【第3回】 環境・経済システム分析	【第16回】 調査・研究方法の検討と学習 (1)	【第4回】 ディスカッション (1)	【第17回】 調査・研究方法の検討と学習 (2)	【第5回】 ディスカッション (2)	【第18回】 分析および考察 (1)	【第6回】 テーマ検討	【第19回】 分析および考察 (2)	【第7回】 資料収集および文献読解 (1)	【第20回】 プレゼンテーション準備 (1)	【第8回】 資料収集および文献読解 (2)	【第21回】 プレゼンテーション準備 (2)	【第9回】 資料収集および文献読解 (3)	【第22回】 発表会・質疑応答 (1)	【第10回】 調査・研究項目の検討 (1)	【第23回】 発表会・質疑応答 (2)	【第11回】 調査・研究項目の検討 (2)	【第24回】 レポート作成 (1)	【第12回】 中間報告・質疑応答 (1)	【第25回】 レポート作成 (2)	【第13回】 中間報告・質疑応答 (2)	【第26回】 まとめ
【第1回】 ガイダンス	【第14回】 ディスカッション (3)																																		
【第2回】 環境問題・環境政策に関する基本的な学習	【第15回】 ディスカッション (4)																																		
【第3回】 環境・経済システム分析	【第16回】 調査・研究方法の検討と学習 (1)																																		
【第4回】 ディスカッション (1)	【第17回】 調査・研究方法の検討と学習 (2)																																		
【第5回】 ディスカッション (2)	【第18回】 分析および考察 (1)																																		
【第6回】 テーマ検討	【第19回】 分析および考察 (2)																																		
【第7回】 資料収集および文献読解 (1)	【第20回】 プレゼンテーション準備 (1)																																		
【第8回】 資料収集および文献読解 (2)	【第21回】 プレゼンテーション準備 (2)																																		
【第9回】 資料収集および文献読解 (3)	【第22回】 発表会・質疑応答 (1)																																		
【第10回】 調査・研究項目の検討 (1)	【第23回】 発表会・質疑応答 (2)																																		
【第11回】 調査・研究項目の検討 (2)	【第24回】 レポート作成 (1)																																		
【第12回】 中間報告・質疑応答 (1)	【第25回】 レポート作成 (2)																																		
【第13回】 中間報告・質疑応答 (2)	【第26回】 まとめ																																		
成績評価の方法	ゼミナールでの調査作業 (20%) やレポート作成 (30%) をはじめとして、プレゼンテーションおよび討論での発言 (15%)、さらには授業外学修での調査 (15%) などを主な評価項目とする。その他、学内外のゼミナール活動における自主性および協調性など、全般的な諸活動への貢献や態度 (20%) についても対象とし、これらを総合的に評価する。																																		
フィードバックの内容	授業内プレゼンテーションへの講評、グループワークや課題に対するアドバイス等を行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書	『アカデミック・スキルズ (第3版)-大学生のための知的技法入門-』佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦 (慶應義塾大学出版会) 2020																																		
教員からのお知らせ	適宜資料を配布またはゼミナール時に参考資料等を指示する。 また、メンバーが自主的に書籍や資料を持参する。																																		
オフィスアワー	本講義に関する質問・相談は、原則として学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。																																		
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク等を実施する。																																		
その他																																			

講義コード	11C0125752	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(真田)				真田 治子		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	社会・企業とことば・コミュニケーションの問題を広く扱う。広告に使われることば、ファッション雑誌の記事、スナック菓子の名前、若者の流行語など、身近な素材からことばの問題を考える。問題分析の手法や結果の報告の仕方を学ぶ。学术论文の基本的な書式について学び、グループで論文と発表資料を作成し、その論文内容の発表と質疑への対応を行う。								
到達目標	社会とことばの問題を広く観察・分析することにより、日本語の変化から読み取れる日本文化とコミュニケーションの問題や社会の動向を理解できるようにする。様々な言語データを分析し、その結果を共同で報告できるようにする。学术论文の基本的な書式に基づいた報告が共同で書けるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では120時間以上の授業外学修を行うこと。毎回の授業の前には、各回の授業で扱う項目について、論文執筆と発表の準備、参考資料の調査をしておくこと。毎回の授業の後には、論文の書式、文体、分析方法、文献調査方法等について指摘された箇所を修正しておくこと。								
授業計画	【第1回】 テーマ・表題・目的・仮説についての発表 (A 班) 【第2回】 テーマ・表題・目的・仮説についての発表 (B 班) 【第3回】 調査報告の報告と執筆 (A 班) 【第4回】 調査報告の報告と執筆 (B 班) 【第5回】 結果分析の報告と執筆 (A 班) 【第6回】 結果分析の報告と執筆 (B 班) 【第7回】 考察の報告と執筆 (A 班) 【第8回】 考察の報告と執筆 (B 班) 【第9回】 文献調査の報告と執筆 (A 班) 【第10回】 文献調査の報告と執筆 (B 班) 【第11回】 論文の構成・目的・動機・仮説の報告と執筆 (A 班) 【第12回】 論文の構成・目的・動機・仮説の報告と執筆 (B 班) 【第13回】 補足調査の報告 (A 班・B 班) 【第14回】 論文作成の要約の執筆 (A 班・B 班) 【第15回】 発表の構成についての報告 (A 班) 【第16回】 発表の構成についての報告 (B 班) 【第17回】 発表資料作成状況の経過報告 (A 班) 【第18回】 発表資料作成状況の経過報告 (B 班) 【第19回】 発表リハーサル (A 班) 【第20回】 発表リハーサル (B 班) 【第21回】 発表資料修正の経過報告 (A 班) 【第22回】 発表資料修正の経過報告 (B 班) 【第23回】 発表リハーサルと修正 (A 班) 【第24回】 発表リハーサルと修正 (B 班) 【第25回】 論文の加筆修正作業 (A 班) 【第26回】 論文の加筆修正作業 (B 班)								
成績評価の方法	論文執筆・発表資料作成・論文発表準備 (80%)、授業中の質疑への参加 (20%)								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業の中で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『フォントのふしぎブランドのロゴはなぜ高そうに見えるのか?』小林章 (美術出版社) 2011年、『雑誌『日本語学』28巻6号「多言語社会・ニッポン」』(明治書院) 2009年、『雑誌『日本語学』20巻2号「広告の日本語」』(明治書院) 2001年、『日本語探究法7巻レトリック探究法』柳澤浩哉・中村敦雄・香西秀信 (朝倉書店) 2004年								
教員からのお知らせ	上記以外の参考書は授業中に適宜指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有。プレゼンテーション。能動的授業外学習。調査学習。グループワーク。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125754	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期			
科目名	ゼミナールⅡ(平)				平 伊佐雄		通年				
履修前提条件	備考										
授業の目的	ゼミナール2では、過去と現代の人や物のつながりの歴史を考察し、現在の経済基盤のありようを理解することを目的とする。ナラティブ・ノンナラティブ、どちらの史料も考察し、産業の歴史などを振り返りたい。										
到達目標	史料の分析と歴史叙述、歴史研究の成果、受講生自らの調査から、現在の私たちの生活基盤を説明できるようになる。										
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回のゼミのための調査・報告書の作成に関わる作業として、通年を通して120時間以上の授業外学修を要する。										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 近世スペインの歴史の考察 【第2回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の分析 【第3回】 関係する先行研究の文献の考察 ① 【第4回】 関係する先行研究の文献の考察 ② 【第5回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の考察(報告) 【第6回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の分析 【第7回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の考察(報告) 【第8回】 近世スペインとアジアとの関係史の考察(報告) 【第9回】 ぶどう酒の発祥とその歴史 【第10回】 フランスにおけるぶどう酒の生産の歴史 【第11回】 ぶどう酒生産の日本への導入(報告) 【第12回】 日本の道と流通についての考察(報告) 【第13回】 利根運河の開削の歴史 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 【第14回】 利根運河と経済 【第15回】 自転車の歴史-ヨーロッパ編-(報告) 【第16回】 自転車の歴史-日本編-(報告) 【第17回】 日本の交通史についての考察-道路- 【第18回】 貨幣の歴史の考察 【第19回】 日本の貨幣史の考察 【第20回】 日本に導入された海外の物や技術の考察 【第21回】 明治期に興された産業の考察 【第22回】 産業技術の歴史の研究報告-ガラス- 【第23回】 産業技術の歴史の研究報告-時計- 【第24回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-西洋編- 【第25回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-日本編- 【第26回】 各学生による研究のまとめ(報告) </td> </tr> </table>									<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 近世スペインの歴史の考察 【第2回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の分析 【第3回】 関係する先行研究の文献の考察 ① 【第4回】 関係する先行研究の文献の考察 ② 【第5回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の考察(報告) 【第6回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の分析 【第7回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の考察(報告) 【第8回】 近世スペインとアジアとの関係史の考察(報告) 【第9回】 ぶどう酒の発祥とその歴史 【第10回】 フランスにおけるぶどう酒の生産の歴史 【第11回】 ぶどう酒生産の日本への導入(報告) 【第12回】 日本の道と流通についての考察(報告) 【第13回】 利根運河の開削の歴史 	<ul style="list-style-type: none"> 【第14回】 利根運河と経済 【第15回】 自転車の歴史-ヨーロッパ編-(報告) 【第16回】 自転車の歴史-日本編-(報告) 【第17回】 日本の交通史についての考察-道路- 【第18回】 貨幣の歴史の考察 【第19回】 日本の貨幣史の考察 【第20回】 日本に導入された海外の物や技術の考察 【第21回】 明治期に興された産業の考察 【第22回】 産業技術の歴史の研究報告-ガラス- 【第23回】 産業技術の歴史の研究報告-時計- 【第24回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-西洋編- 【第25回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-日本編- 【第26回】 各学生による研究のまとめ(報告)
<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 近世スペインの歴史の考察 【第2回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の分析 【第3回】 関係する先行研究の文献の考察 ① 【第4回】 関係する先行研究の文献の考察 ② 【第5回】 ドン・ロドリゴの『日本見聞録』の考察(報告) 【第6回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の分析 【第7回】 『ビスカイノ金銀島探検報告』の考察(報告) 【第8回】 近世スペインとアジアとの関係史の考察(報告) 【第9回】 ぶどう酒の発祥とその歴史 【第10回】 フランスにおけるぶどう酒の生産の歴史 【第11回】 ぶどう酒生産の日本への導入(報告) 【第12回】 日本の道と流通についての考察(報告) 【第13回】 利根運河の開削の歴史 	<ul style="list-style-type: none"> 【第14回】 利根運河と経済 【第15回】 自転車の歴史-ヨーロッパ編-(報告) 【第16回】 自転車の歴史-日本編-(報告) 【第17回】 日本の交通史についての考察-道路- 【第18回】 貨幣の歴史の考察 【第19回】 日本の貨幣史の考察 【第20回】 日本に導入された海外の物や技術の考察 【第21回】 明治期に興された産業の考察 【第22回】 産業技術の歴史の研究報告-ガラス- 【第23回】 産業技術の歴史の研究報告-時計- 【第24回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-西洋編- 【第25回】 電気と水道などのインフラ設備の歴史-日本編- 【第26回】 各学生による研究のまとめ(報告) 										
成績評価の方法	ゼミナールで行う報告、報告書をもって評価する(100%)。										
フィードバックの内容	指導の中で適宜フィードバックする。										
教科書											
指定図書	『新技術の社会誌』鈴木淳(中央公論新社)1999、『ガレオン船が運んだ友好の夢』(たばこと塩の博物館)2010、『利根運河を考える』神保國弘(崙書房出版)2001、『ドンロドリゴ日本見聞録 ビスカイノ金銀島探検報告』村上直次郎(奥川書房)1941										
参考書	『ヌエバ・エズパニャ報告書・ユカタン事物記』ソリタ、ランダ(岩波書店)1982、『メキシコ征服記1-3』ベルナル・カスティーリヨ(岩波書店)1986、『征服者と新世界』サアグン [ほか]著(岩波書店)1980										
教員からのお知らせ											
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。										
アクティブラーニングの内容	ゼミナールでは、学生が各々研究文献のまとめや調査したことの報告を行う必要があるため、事前に「能動的に授業外学習」を行う。										
実践的な教育内容											
その他											

講義コード	11C0125755	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	高橋 美由紀	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅡ(高橋)				高橋 美由紀			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	人口と経済の関係について歴史的視点から学び、現代の人口問題についても考えていく。歴史的な家族の様子や人々の働き方の変遷を通して、現代望ましいワークライフバランスを考えてみよう。また、地域の経済の歴史と人々の暮らしの変容についても考察する。ゼミナール大会に向けてグループ討論・報告を中心にこなす。								
到達目標	グループでディスカッションをおこない、選択したテーマに関し、説得的なプレゼンテーションができること。グループで課題を設定し、研究をおこない、それについて論文にまとめられること。グループ研究は、ゼミ大会で報告する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	課題図書は、自分が報告するのではなくても読んでおくこと。 毎回、グループでの課題の進捗状況を報告してもらうので、調べておくこと。 全回で計120時間以上の授業外学修を要する。 ゼミ大会には必ず参加すること。								
授業計画	<p>【第1回】グループごとの課題の設定。合宿（グループの研究報告）</p> <p>【第2回】人口と経済についての講義。【第14回】グループ報告と討論5。</p> <p>【第3回】課題図書の輪読1。【第15回】課題図書の輪読8。</p> <p>【第4回】課題図書の輪読2。【第16回】課題図書の輪読9。</p> <p>【第5回】課題図書の輪読3。【第17回】課題図書の輪読10。</p> <p>【第6回】課題図書の輪読4。【第18回】グループ報告と討論6。</p> <p>【第7回】グループ報告と討論1。【第19回】課題図書の輪読11。</p> <p>【第8回】グループ報告と討論2。【第20回】課題図書の輪読12。</p> <p>【第9回】グループ報告と討論3。【第21回】グループ報告と討論7。</p> <p>【第10回】課題図書の輪読5。【第22回】グループ報告と討論8。</p> <p>【第11回】課題図書の輪読6。【第23回】ゼミ論文確認1。</p> <p>【第12回】課題図書の輪読7。【第24回】ゼミ論文確認2。</p> <p>【第13回】グループ報告と討論4。【第25回】ゼミ論文確認3。</p> <p>【第26回】ゼミ最終プレゼン。</p> <p>その他、ゼミ大会にもグループで参加し、論文を執筆する。</p>								
成績評価の方法	レポート・プレゼンテーション（30%）、ゼミへの参加態度（10%）。ゼミ大会への参加（60%）。								
フィードバックの内容	プレゼンテーションは当日にコメントをおこなう。また、レポート等は翌週にコメントを付して返却する。								
教科書	『歴史人口学で見た日本』速水 融（文系春秋）2022、『人口学への招待』河野 稠果（中央公論社）2007、『人口と日本経済』吉川 洋（中央公論社）2016、『老いてゆくアジア』大泉 啓一郎（中央公論社）2007、『東大塾 これからの日本の人口と社会』白波瀬佐和子（東京大学出版会）2019								
指定図書	『人口減少と日本経済』津谷 典子、樋口 美雄（日本経済新聞出版社）2009、『人類史のなかの人口と家族』木下 太志、浜野 潔（晃洋書房）2003、『成長の限界・人類の選択』ドネラ・H・メドウズ他（ダイヤモンド社）2007、『人口変動と家族の実証分析』津谷典子他編著（慶應義塾大学出版会）2020、『歴史人口学からみた結婚・離婚・再婚』黒須 里美他（麗澤大学出版会）2012、『人口で語る世界史』ポール モーランド（著）、渡会 圭子（翻訳）（文藝春秋社）2019、『人口の世界史』マッシモリヴィーパッチ（著）、速水 融（翻訳）、斎藤 修（翻訳）（東洋経済新報社）2014、『人口問題と移民——日本の人口・階層構造はどう変わるのか』是川 夕（著、編集）、駒井 洋（監修）（明石書店）2019、『人口と日本経済 - 長寿、イノベーション、経済成長』吉川 洋（中央公論新社）2016、『2050年 世界人口大減少』ダリル・ブリッカー（著）、ジョン・イビットソン（著）、倉田 幸信（翻訳）、河合 雅司（解説）（文藝春秋社）2020								
参考書	『ウェルカム・人口減少社会』藤正 巖・古川 俊之（文藝春秋）2000、『少子社会日本』山田 昌弘（岩波新書）2007、『関係人口をつくる - 定住でも交流でもないローカルイノベーション』田中 輝美（木楽舎）2017、『[図説] 人口で見る日本史』鬼頭 宏（PHP 研究所）2007、『歴史人口学事始め：記録と記憶の九〇年』速水 融（筑摩書房）2020、『歴史人口学のフロンティア』速水 融、友部 謙一、鬼頭 宏（東洋経済新報社）2001、『人口論入門』杉田 菜穂（法律文化社）2017、『歴史人口学の世界』速水融（岩波書店）2012								
教員からのお知らせ	講義順序は、変更する場合がある。輪読書は、ゼミ生の希望によって変更することもある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談はに、ゼミ授業内にて受け付ける。積極的に質問すること。 また、学部学科にて定めるオフィスアワー（月曜日2限）にても受け付ける。ただし、オフィスアワーに訪れる場合は、前もってメールなどで連絡すること。								
アクティブラーニングの内容	ゼミという性質上、学生の事前学修とその報告が中心となる。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125757	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	外木 好美	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅡ(外木)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	統計学の基本的な考え方を学び、エクセルを使ったデータ分析を行います。ゼミⅠで、現実の事象に対して、経済学的にアプローチすることを学びました。ゼミⅡでは、自身でデータ分析ができるようになるための、ツールを学びます。卒業論文を書くための下準備をおこないます。								
到達目標	①統計学の基本的な考え方を直観的に理解すること、②エクセルで実際に分析できるようになること、③分析結果を解釈し、発表できるようになること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各章で、エクセルを使った課題を出します。次回までに、各グループで課題をやってきてください。授業外で120時間以上の学習を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 統計学の考え方 (1) 【第3回】 統計学の考え方 (2) 【第4回】 統計学の考え方 (3) 【第5回】 統計学の考え方 (4) 【第6回】 統計学の考え方 (5) 【第7回】 統計学の考え方 (6) 【第8回】 統計学の考え方 (7) 【第9回】 統計学の考え方 (8) 【第10回】 統計学の考え方 (9) 【第11回】 統計学の考え方 (10) 【第12回】 統計学の考え方 (11) 【第13回】 統計学の考え方 (12)				【第14回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (1) 【第15回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (2) 【第16回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (3) 【第17回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (4) 【第18回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (5) 【第19回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (6) 【第20回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (7) 【第21回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (8) 【第22回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (9) 【第23回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (10) 【第24回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (11) 【第25回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (12) 【第26回】 統計学の考え方&卒業論文の下準備 (13)				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%)、卒業論文の研究計画書 (60%) で評価する。								
フィードバックの内容	報告資料や討論内容について、適宜、コメントや指示を入れます。								
教科書	『ビジネス統計学【上】』アミール・アクセル (著), ソウンデルバンディアン・ジャヤバル (著), 鈴木 一功 (監訳), & 2 その他 (ダイヤモンド社) 2007								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	エクセルの操作でわからないことがあったら、LINE や Teams で個別に質問してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール, 実習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125758	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	中村 宗之	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅡ(中村)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	日本の経済や社会の諸問題について説明する。マルクス経済学や景気循環論に関連する問題について説明する。各自興味のあるテーマについて調査、報告し、検討する。ここ数年の課題文献のテーマは、ブラック企業、ワーキングプア、ベーシックインカム、日本の水田稲作などである。								
到達目標	日本の経済や社会の諸問題について調査し、考察することができる。その内容を人に十分に伝えて、議論することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業内容に関して予習や復習を行う。報告準備等を十分に行う。授業外で計120時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 はじめに 【第2回】 課題文献の検討 (1) 【第3回】 課題文献の検討 (2) 【第4回】 課題文献の検討 (3) 【第5回】 課題文献の検討 (4) 【第6回】 課題文献の検討 (5) 【第7回】 個人またはグループの研究報告 (1) 【第8回】 個人またはグループの研究報告 (2) 【第9回】 個人またはグループの研究報告 (3) 【第10回】 個人またはグループの研究報告 (4) 【第11回】 個人またはグループの研究報告 (5) 【第12回】 個人またはグループの研究報告 (6) 【第13回】 前期のまとめ				【第14回】 個人またはグループの研究報告 (7) 【第15回】 個人またはグループの研究報告 (8) 【第16回】 個人またはグループの研究報告 (9) 【第17回】 個人またはグループの研究報告 (10) 【第18回】 個人またはグループの研究報告 (11) 【第19回】 個人またはグループの研究報告 (12) 【第20回】 個人またはグループの研究報告 (13) 【第21回】 課題文献の検討 (6) 【第22回】 課題文献の検討 (7) 【第23回】 課題文献の検討 (8) 【第24回】 課題文献の検討 (9) 【第25回】 課題文献の検討 (10) 【第26回】 後期のまとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (50%)、報告内容 (50%) により評価する。								
フィードバックの内容	報告内容はその都度検討される。必要に応じて個別指導を実施する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、ゼミナール、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125760	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(林)				林 康史		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	金融・証券・資産運用について学習する。テキストを輪読し、加えて、その内容に関して討論する。学問的に、論理的思考ができるよう、積極的な議論を行うとともに、実際の市場に即したテーマで、ソクラテス・メソッドを行う。								
到達目標	マーケットにおける論理的思考・発想ができ、また、センスやマナーが身につくこと。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	必要に応じて、サブゼミをゼミ生が自主的に運営することがある(120時間。サブゼミは、DVD等でゼミの予習に充てる。ゼミは、サブゼミの内容は学習済みという前提で行われるので、留意のこと)。								
授 業 計 画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 論文の読み方・書き方① 【第3回】 論文の読み方・書き方② 【第4回】 論文の読み方・書き方③ 【第5回】 論文の読み方・書き方④ 【第6回】 証券投資の基礎① 【第7回】 証券投資の基礎② 【第8回】 証券投資の基礎③ 【第9回】 証券投資の基礎④ 【第10回】 株式投資① 【第11回】 株式投資② 【第12回】 株式投資③ 【第13回】 株式投資④				【第14回】 株式投資⑤ 【第15回】 株式投資⑥ 【第16回】 株式投資⑦ 【第17回】 株式投資⑧ 【第18回】 株式投資⑨ 【第19回】 株式投資⑩ 【第20回】 株式投資⑪ 【第21回】 株式投資⑫ 【第22回】 株式投資⑬ 【第23回】 株式投資⑭ 【第24回】 株式投資⑮ 【第25回】 株式投資⑯ 【第26回】 総括				
成績評価の方法	ゼミへの積極的な関与(40%)、報告(30%)・レポートの内容(30%)等により、総合評価する。								
フィードバックの内容	ゼミに関する質問・相談は、随時、受付ける。								
教 科 書	『株式投資 第4版』J.シーゲル(日経BP社)2009年								
指 定 図 書	『改定版 金持ち父さんの投資ガイド 入門編』ロバート・キヨサキ他(筑摩書房)2014年、『改定版 金持ち父さんの投資ガイド 上級編』ロバート・キヨサキ他(筑摩書房)2014年								
参 考 書	『戦略的リスク管理入門』ジェームズ・ラム(勁草書房)2016年、『トレーダーの発想術——マーケットで勝ち残るための70の箴言』ロイ・ロングストリート(日経BP社)2014年、『バリュエーション——株の本当の価値を問う』C・ブラウン(日経BP社)2007年、『マネーと常識——投資信託で勝ち残る道』ジョン・ボーグル(日経BP社)2007年、『カクテルパーティーの経済学 マクロで読み解く成功する投資のヒント』V.キャンツ(ダイヤモンド社)2008年、『マネーの公理——スイスの銀行家に学ぶ儲けのルール』マックス・ギュンター(日経BP社)2005年、『天才数学者、株にハマる～数字オンチのための投資の考え方』ジョン・パウロス(ダイヤモンド社)2004年、『投資の心理学』リフソンとガイスト編(東洋経済新報社)2001年、『国際投資へのパスポート モビアスの84のルール』マーク・モビアス(日本経済新聞社)2000年、『欲望と幻想の市場～伝説の投機王リパモア』エドウィン・ルフェーブル(東洋経済新報社)1999年								
教員からのお知らせ	ゼミ合宿(実施の有無も含め、時期等は未定)等、ゼミ生と教員の全員で運営する。また、与えられた分担は責任をもって果たすこと。								
オフィスアワー	ゼミに関する質問・相談は、メールまたは電話で受付ける。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	事前に、オンライン教材の視聴を行う等、対面の授業の前に、学習すべきことがあることに留意されたい。								
そ の 他	金融論等、受講・聴講するのが望ましい授業は、別途、指示する。 ゼミⅠとゼミⅡの受講生は、相互に、聴講するものとする。								

講義コード	11C0125761	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期			
科目名	ゼミナールⅡ(ホームマン)				ホームマン 由佳		通年				
履修前提条件					備考						
授業の目的	ゼミⅠで学んだプレゼンテーションスキルの質をさらに向上させ、説得力のあるプレゼンテーションを英語で行うことを目標とする。前半のプレゼンは、フィールドワークで訪れた森美術館の現代アート展覧会で鑑賞した作品に関する報告と洋書『Who Moved My Cheese?』(1999)の読後感をテーマとする。後半は、学内(外)主催のスピーチコンテストへの参加を予定している。成果報告プレゼンにはゼミⅢが参加する。										
到達目標	1) プレゼンテーションで取り上げるテーマを決定し情報収集するプロセスを身につける 2) オーディエンス目線で説得力のあるわかりやすいスピーチを英語で行う 3) プレゼンテーションのQ & Aセッションで英語で意見やコメントを述べることができる。										
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修は、プレゼンテーション準備とTOEIC模擬問題集の取り組みに120時間以上を要する。										
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p>【第1回】 現代アート展覧会訪問(夏のフィールドワーク) レビュー</p> <p>【第2回】 プレゼンの情報収集</p> <p>【第3回】 プレゼンテーション準備(アウトライン作成)</p> <p>【第4回】 プレゼンテーション準備(スピーチ原稿作成)</p> <p>【第5回】 プレゼンテーション準備(スピーチ原稿校正)</p> <p>【第6回】 プレゼンテーション準備(発話練習)</p> <p>【第7回】 リハーサル</p> <p>【第8回】 プレゼンテーション</p> <p>【第9回】 『Who Moved My Cheese?』</p> <p>【第10回】 リーディング進捗報告、理解度チェック</p> <p>【第11回】 リーディング進捗報告、理解度チェック</p> <p>【第12回】 リハーサル</p> <p>【第13回】 プレゼンテーション</p> </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p>【第14回】 プレゼンテーション</p> <p>【第15回】 プレゼンのフィードバック</p> <p>【第16回】 プレゼン用の自由テーマの選定</p> <p>【第17回】 プレゼンテーション準備(テーマ選定)</p> <p>【第18回】 プレゼンテーション準備(情報収集)</p> <p>【第19回】 プレゼンテーション準備(アウトライン)</p> <p>【第20回】 プレゼンテーション準備(原稿作成)</p> <p>【第21回】 プレゼンテーション準備(原稿作成)</p> <p>【第22回】 プレゼンテーション準備(原稿校正)</p> <p>【第23回】 PPT作成</p> <p>【第24回】 プレゼンテーション最終</p> <p>【第25回】 リハーサル</p> <p>【第26回】 プレゼンテーション</p> </td> </tr> </table>									<p>【第1回】 現代アート展覧会訪問(夏のフィールドワーク) レビュー</p> <p>【第2回】 プレゼンの情報収集</p> <p>【第3回】 プレゼンテーション準備(アウトライン作成)</p> <p>【第4回】 プレゼンテーション準備(スピーチ原稿作成)</p> <p>【第5回】 プレゼンテーション準備(スピーチ原稿校正)</p> <p>【第6回】 プレゼンテーション準備(発話練習)</p> <p>【第7回】 リハーサル</p> <p>【第8回】 プレゼンテーション</p> <p>【第9回】 『Who Moved My Cheese?』</p> <p>【第10回】 リーディング進捗報告、理解度チェック</p> <p>【第11回】 リーディング進捗報告、理解度チェック</p> <p>【第12回】 リハーサル</p> <p>【第13回】 プレゼンテーション</p>	<p>【第14回】 プレゼンテーション</p> <p>【第15回】 プレゼンのフィードバック</p> <p>【第16回】 プレゼン用の自由テーマの選定</p> <p>【第17回】 プレゼンテーション準備(テーマ選定)</p> <p>【第18回】 プレゼンテーション準備(情報収集)</p> <p>【第19回】 プレゼンテーション準備(アウトライン)</p> <p>【第20回】 プレゼンテーション準備(原稿作成)</p> <p>【第21回】 プレゼンテーション準備(原稿作成)</p> <p>【第22回】 プレゼンテーション準備(原稿校正)</p> <p>【第23回】 PPT作成</p> <p>【第24回】 プレゼンテーション最終</p> <p>【第25回】 リハーサル</p> <p>【第26回】 プレゼンテーション</p>
<p>【第1回】 現代アート展覧会訪問(夏のフィールドワーク) レビュー</p> <p>【第2回】 プレゼンの情報収集</p> <p>【第3回】 プレゼンテーション準備(アウトライン作成)</p> <p>【第4回】 プレゼンテーション準備(スピーチ原稿作成)</p> <p>【第5回】 プレゼンテーション準備(スピーチ原稿校正)</p> <p>【第6回】 プレゼンテーション準備(発話練習)</p> <p>【第7回】 リハーサル</p> <p>【第8回】 プレゼンテーション</p> <p>【第9回】 『Who Moved My Cheese?』</p> <p>【第10回】 リーディング進捗報告、理解度チェック</p> <p>【第11回】 リーディング進捗報告、理解度チェック</p> <p>【第12回】 リハーサル</p> <p>【第13回】 プレゼンテーション</p>	<p>【第14回】 プレゼンテーション</p> <p>【第15回】 プレゼンのフィードバック</p> <p>【第16回】 プレゼン用の自由テーマの選定</p> <p>【第17回】 プレゼンテーション準備(テーマ選定)</p> <p>【第18回】 プレゼンテーション準備(情報収集)</p> <p>【第19回】 プレゼンテーション準備(アウトライン)</p> <p>【第20回】 プレゼンテーション準備(原稿作成)</p> <p>【第21回】 プレゼンテーション準備(原稿作成)</p> <p>【第22回】 プレゼンテーション準備(原稿校正)</p> <p>【第23回】 PPT作成</p> <p>【第24回】 プレゼンテーション最終</p> <p>【第25回】 リハーサル</p> <p>【第26回】 プレゼンテーション</p>										
成績評価の方法	ゼミ活動の姿勢(10%)、プレゼン準備のディスカッション(10%)、スピーチ原稿などの提出物(30%)、プレゼンのパフォーマンス(50%)										
フィードバックの内容	ディスカッションやプレゼンテーションなどのアクティブラーニングの成果に講評を加える。										
教科書	『Who Moved My Cheese』 Spencer Johnson (Vermillion) 1999										
指定図書											
参考書	『1分で話せ』伊藤羊(SB Creative) 2018										
教員からのお知らせ	プレゼンテーション実施日などにゼミⅠやゼミⅡ合同授業を行うことがあります。TOEIC受験を推奨します。										
オフィスアワー	水曜昼休み										
アクティブラーニングの内容	ディスカッション、プレゼンテーション										
実践的な教育内容											
その他											

講義コード	11C0125762	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(宮岡)				宮岡 暁		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	ゼミナールⅠで習得した環境問題に関する知識や実証分析の技術を土台にして、グループに分かれてオリジナルな研究に取り組みます。グループ研究の過程では、①研究テーマの設定、②資料やデータの収集、③データの分析、④論文執筆、⑤発表資料の作成、といったさまざまな作業が必要となります。こうした一連の作業にグループで協力して取り組み、その成果を学内のゼミ大会で発表することを目標とします。								
到達目標	①自分で研究テーマを設定し、必要な資料やデータを収集・整理することができる ②収集したデータを、正しい手法で分析することができる ③ Word で文章作成や論文執筆を行うことができる ④ PowerPoint で人に伝わる資料作成や発表ができる ⑤グループワークを通して、リーダーシップや協調性を身につける								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	グループ研究の過程では、「授業の目的」でも述べたようなさまざまな作業が必要となります。また、グループごとの研究の進捗状況を定期的に報告してもらいます。こうした研究への取り組みや報告・発表の準備などで、計120時間以上の授業外学修が必要となります。								
授業計画	【第1回】 興味・関心のある研究テーマの発表① 【第2回】 興味・関心のある研究テーマの発表② 【第3回】 グループごとの研究テーマの設定① 【第4回】 グループごとの研究テーマの設定② 【第5回】 グループごとの研究テーマの設定③ 【第6回】 資料・データの収集と整理① 【第7回】 資料・データの収集と整理② 【第8回】 資料・データの収集と整理③ 【第9回】 資料・データの収集と整理④ 【第10回】 データの分析と解釈① 【第11回】 データの分析と解釈② 【第12回】 データの分析と解釈③ 【第13回】 データの分析と解釈④				【第14回】 論文の執筆① 【第15回】 論文の執筆② 【第16回】 論文の執筆③ 【第17回】 論文の執筆④ 【第18回】 論文の執筆⑤ 【第19回】 発表資料の作成と発表練習① 【第20回】 発表資料の作成と発表練習② 【第21回】 発表資料の作成と発表練習③ 【第22回】 発表資料の作成と発表練習④ 【第23回】 発表資料の作成と発表練習⑤ 【第24回】 論文の仕上げ① 【第25回】 論文の仕上げ② 【第26回】 論文の仕上げ③				
成績評価の方法	ゼミナールへの取り組み姿勢 (40%)、プレゼンテーション (30%)、論文の執筆 (30%) に基づいて評価を行います。								
フィードバックの内容	研究の進め方やプレゼンテーションに対する講評を授業の中で行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	研究を進める上で必要な参考文献などは、適宜紹介します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、メールや Microsoft Teams のチャット機能でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125763	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	宮川 幸三	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅡ(宮川)				宮川 幸三			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールの目標は、経済データを用いて正しい手法で実証分析を行う技能を身につけることである。ゼミナールⅡでは、これまでに学んだ経済学の理論、経済統計に関する知識、計量経済分析の手法などを用いて、自らが設定したテーマに関して実証分析を行い、その成果を発表することにより、実践的な分析力を身につけると同時にプレゼンテーション能力の向上を目指す。								
到達目標	経済データを用いて適切な方法で分析を行うことができる。 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、120時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、与えられた課題と次回内容の準備を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 研究テーマ決め 【第3回】 グループワーク (1) 【第4回】 デイバート (1) 【第5回】 研究成果の発表 (1) 【第6回】 グループワーク (2) 【第7回】 デイバート (2) 【第8回】 研究成果の発表 (2) 【第9回】 グループワーク (3) 【第10回】 デイバート (3) 【第11回】 研究成果の発表 (3) 【第12回】 グループワーク (4) 【第13回】 研究成果の発表 (4)				【第14回】 グループワーク (5) 【第15回】 研究成果の発表 (5) 【第16回】 グループワーク (6) 【第17回】 研究成果の発表 (6) 【第18回】 グループワーク (7) 【第19回】 研究成果の発表 (7) 【第20回】 グループワーク (8) 【第21回】 研究成果の発表 (8) 【第22回】 グループワーク (9) 【第23回】 研究成果の発表 (9) 【第24回】 グループワーク (10) 【第25回】 グループワーク (11) 【第26回】 研究成果の発表 (10)				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (50%)、授業中に行うプレゼンテーションやデイバートの内容 (50%) によって評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、講義案内で示したオフィスアワーにおいて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、デイバート、グループ・ワーク、プレゼンテーション、演習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125764	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	村田 啓子	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅡ(村田)				村田 啓子			通年	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本演習では、日本経済を理解する上で重要度の高い各種統計データについて学修した上で、日本経済の現況及び課題について学びます。現実の日本経済の動向を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学修することを通じ、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考え、卒業後の将来においても役立つ能力を養うことを目指します。								
到達目標	日本経済を理解するために必要なデータ・統計及びその見方に関する専門知識を習得するとともに、日本経済について自ら考える力を修得する。自ら研究課題を設定し、皆と協力しつつ文献講読・調査分析を行い、研究成果を発表する力を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	演習で与えられた課題について予習を行い、疑問点があったら皆と議論しましょう。自分が発表の時にはレジュメを作成し余裕をもちつつ発表の準備をしましょう。演習後は、演習で学び、議論した内容を理解できているか復習・確認しましょう。自ら課題を設定し、皆と協力しつつ文献講読・調査分析を行い、研究成果を発表する準備をしましょう (授業外で計120時間以上)。								
授業計画	【第1回】 概論・日本経済・データ分析の学修1・討論 【第2回】 日本経済・データ分析の学修2・討論 【第3回】 研究課題の設定・討論 (1) 【第4回】 日本経済・データ分析の学修3・討論 【第5回】 日本経済・データ分析の学修4・討論 【第6回】 研究課題の設定・討論 (2) 【第7回】 日本経済・データ分析の学修5・討論 【第8回】 日本経済・データ分析の学修6・討論 【第9回】 研究課題の設定・中間報告・討論 (1) 【第10回】 日本経済・データ分析の学修7・討論 【第11回】 日本経済・データ分析の学修8・討論 【第12回】 日本経済・データ分析の学修9・討論 【第13回】 研究課題の設定・中間報告・討論 (2)				【第14回】 研究内容の報告・準備・討論 (1) 【第15回】 日本経済・データ分析の学修10・討論 【第16回】 日本経済・データ分析の学修11・討論 【第17回】 研究内容の報告・準備・討論 (2) 【第18回】 日本経済・データ分析の学修12・討論 【第19回】 研究内容の報告・討論 (1) 【第20回】 日本経済・データ分析の学修13・討論 【第21回】 研究内容の報告・討論 (2) 【第22回】 日本経済・データ分析の学修14・討論 【第23回】 日本経済・データ分析の学修15・討論 【第24回】 日本経済・データ分析の学修16・討論 【第25回】 日本経済・データ分析の学修17・討論 【第26回】 今後のゼミナール活動に関する検討・討論				
成績評価の方法	ゼミナール活動への取り組み姿勢 (20%)、報告時の内容とプレゼンテーション (40%)、グループ研究での貢献度 (40%)。								
フィードバックの内容	報告、プレゼンテーション、討論の内容についてコメントを行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	テキストは、演習内で相談の上決定します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます (事前にメールで連絡すること)。								
アクティブラーニングの内容	報告、プレゼンテーション、討論の内容についてフィードバックを行います。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125766	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(山口)				山口 和男		通年		
履修前条件					備考				
授業の目的	論文の執筆およびプレゼンテーションを行うことによって、論理的な思考能力やプレゼンテーション能力を養うことを目的とする。								
到達目標	自らテーマを見つけ、そのテーマについて論理的に考察し、その考察について分かりやすくプレゼンテーションができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外に論文の執筆およびプレゼンテーション資料の作成を行うこと。 授業外に計120時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第2回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第3回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第4回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第5回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第6回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第7回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第8回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第9回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第10回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第11回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第12回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第13回】論文の執筆およびプレゼンテーション		【第14回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第15回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第16回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第17回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第18回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第19回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第20回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第21回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第22回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第23回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第24回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第25回】論文の執筆およびプレゼンテーション 【第26回】論文の執筆およびプレゼンテーション						
成績評価の方法	執筆された論文（50%）およびプレゼンテーション（50%）による。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125768	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅡ(渡部)				渡部 真弘		通年		
履修前提条件					備考				
授業の目的	(1) 経済問題や社会問題の本質を明確に捉えるために必要なマイクロ経済学的視点と分析能力を培うことを目的とする。 (2) 各自の問題意識に基づく成果を集約したレポートを提出することを目的とする。 (3) 卒業論文執筆に向けて準備を進めることを目的とする。								
到達目標	(1) 組織・制度の在り方を考える問題といった題材を、マイクロ経済的な視点で論理的に考察することが可能となる。 (2) 分かりやすい資料作成や発表の技術が身につく。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	課題に関連する文献の内容把握や発表の準備に加えて、期末試験の代替として課されるレポート(論文)作成に向けて、週に少なくとも4時間(計120時間以上)の授業時間外の学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 第1期の活動に関するオリエンテーション、 個々の学生の興味・関心の把握 【第2回】 文献輪読、学生による発表(1-1) 【第3回】 文献輪読、学生による発表(1-2) 【第4回】 文献輪読、学生による発表(1-3) 【第5回】 文献輪読、学生による発表(1-4) 【第6回】 レポート作成の準備(1-5) 【第7回】 文献輪読、学生による発表(2-1) 【第8回】 文献輪読、学生による発表(2-2) 【第9回】 文献輪読、学生による発表(2-3) 【第10回】 文献輪読、学生による発表(2-4) 【第11回】 レポート作成の準備(2-5) 【第12回】 レポートの内容に基づく報告(3-1) 【第13回】 レポートの内容に基づく報告(3-2)				【第14回】 第2期の活動に関するオリエンテーション 【第15回】 文献輪読、学生による発表(4-1) 【第16回】 文献輪読、学生による発表(4-2) 【第17回】 文献輪読、学生による発表(4-3) 【第18回】 文献輪読、学生による発表(4-4) 【第19回】 レポート作成の準備(4-5) 【第20回】 文献輪読、学生による発表(5-1) 【第21回】 文献輪読、学生による発表(5-2) 【第22回】 文献輪読、学生による発表(5-3) 【第23回】 文献輪読、学生による発表(5-4) 【第24回】 レポート作成の準備(5-5) 【第25回】 レポートの内容に基づく報告(6-1) 【第26回】 レポートの内容に基づく報告(6-2)				
成績評価の方法	評価割合は、各授業回の事前準備への取り組み姿勢60%、第1期に作成したレポート20%、第2期に作成したレポート20%とする。 グループワークにかかわる評価は各授業回の事前準備に含まれる。レポートは個々に執筆したものを提出する必要がある。								
フィードバックの内容	提出物や発表に対して講評を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	レポート作成や発表資料作成に欠かせない Microsoft Word・Excel・PowerPoint や Latex といった各種ソフトウェアの操作については適宜指導する。授業にかかわる連絡や資料配布は、Open LMS にて行う。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 事前に連絡があれば他の曜日・時間帯に対面・オンラインでも面談を実施する。								
アクティブラーニングの内容	(1) 教員からのフィードバックによる振り返り：提出物や発表に対して講評を行う。 (2) 能動的な授業外学習：図書館のデータベースの活用								
実践的な教育内容									
その他	(1) 出席しても、報告の準備をしていなかったり、教員や他の学生との議論に参加しなければ成績評価の対象とはなりません。 (2) グループワークであっても、全体像を把握しなければ自分一人で卒業論文を執筆するための訓練にならないため、成績評価の主な対象となるレポートは個々に作成する必要があります。 (3) ゼミナール大会・ゼミナール協議会にかかわる事項を事前に確認してシラバスに含めることが困難であるため強要は致しません。自己責任の範囲でかかわってください。								

講義コード	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期		
科目名	ゼミナールⅢ				各担当教員	集中		
履修前提条件					備考			
授業の目的	ゼミナールⅢは、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら自主的な研究をすすめ、最終的な報告をすることを目的とする。本演習を通じて、これまでにゼミナールⅠ・Ⅱにおいて得た知識、技術、考え方をを用いて、問題発見・課題設定・問題解決能力を養成し、社会人として求められる知識や能力を習得することが期待される。							
到達目標	本科目を通じて、以下の能力が得られることを到達目標とする。 ①問題の所在を見出し解決すべき課題を設定する。 ②文献資料・データの収集・分析を通じて問題を解決する。 ③得られた結論を論理的に整理し報告することができる。							
授業外学修内容・授業外学修時間数	①研究テーマに関連する分野の文献を読むこと ②新聞等を通じて社会情勢をチェックすること (計120時間以上)							
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化 【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認 【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定 【第4回】 指導教員指導：テーマ（論題）の最終決定 【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定 【第6回】 学生による分析1 【第7回】 学生による分析2 【第8回】 中間報告1 【第9回】 学生による分析3 【第10回】 学生による分析4 【第11回】 中間報告2 【第12回】 学生による分析5 【第13回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 【第14回】 中間報告3 【第15回】 学生による分析6 【第16回】 学生による分析7 【第17回】 中間報告4 【第18回】 学生による分析8 【第19回】 学生による分析9 【第20回】 中間報告5 【第21回】 学生による分析10 【第22回】 中間報告6 【第23回】 学生による分析11 【第24回】 最終報告の確認と最終修正指示 【第25回】 最終報告の準備 【第26回】 最終報告 </td> </tr> </table>						【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化 【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認 【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定 【第4回】 指導教員指導：テーマ（論題）の最終決定 【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定 【第6回】 学生による分析1 【第7回】 学生による分析2 【第8回】 中間報告1 【第9回】 学生による分析3 【第10回】 学生による分析4 【第11回】 中間報告2 【第12回】 学生による分析5 【第13回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導	【第14回】 中間報告3 【第15回】 学生による分析6 【第16回】 学生による分析7 【第17回】 中間報告4 【第18回】 学生による分析8 【第19回】 学生による分析9 【第20回】 中間報告5 【第21回】 学生による分析10 【第22回】 中間報告6 【第23回】 学生による分析11 【第24回】 最終報告の確認と最終修正指示 【第25回】 最終報告の準備 【第26回】 最終報告
【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化 【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認 【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定 【第4回】 指導教員指導：テーマ（論題）の最終決定 【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定 【第6回】 学生による分析1 【第7回】 学生による分析2 【第8回】 中間報告1 【第9回】 学生による分析3 【第10回】 学生による分析4 【第11回】 中間報告2 【第12回】 学生による分析5 【第13回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導	【第14回】 中間報告3 【第15回】 学生による分析6 【第16回】 学生による分析7 【第17回】 中間報告4 【第18回】 学生による分析8 【第19回】 学生による分析9 【第20回】 中間報告5 【第21回】 学生による分析10 【第22回】 中間報告6 【第23回】 学生による分析11 【第24回】 最終報告の確認と最終修正指示 【第25回】 最終報告の準備 【第26回】 最終報告							
成績評価の方法	原則としては、最終報告等（60%）および当該学生の履修態度（40%）によって評価するが、各担当教員によって若干の変更の可能性がある。							
フィードバックの内容	指導の中で適宜フィードバックする。							
教科書								
指定図書								
参考書								
教員からのお知らせ	個別授業に関しては、担当教員の指示に従うこと。							
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。							
アクティブラーニングの内容	ゼミナール							
実践的な教育内容								
その他								

講義コード	授業形態	演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期		
科目名	卒業論文				各担当教員	集中		
履修前提条件					備考			
授業の目的	経済学部が開設する卒業論文は、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら、論文を作成するものである。卒業研究の目的は、第一に問題発見・課題設定・問題解決能力を養成すること、第二に、社会人として求められる知識や能力を習得することである。							
到達目標	本科目を通じて、以下の能力が得られることを到達目標とする。 ①問題の所在を見出し解決すべき課題を設定する。 ②文献資料・データの収集・分析を通じて問題を解決する。 ③得られた結論を論理的に整理し報告することができる。							
授業外学修内容・授業外学修時間数	①研究テーマに関連する分野の文献を読むこと ②新聞等を通じて社会情勢をチェックすること (計120時間以上)							
授業計画	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化 【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認 【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定 【第4回】 指導教員指導：テーマ（論題）の最終決定 【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定 【第6回】 学生による分析 【第7回】 学生による分析 【第8回】 中間報告 【第9回】 学生による分析 【第10回】 学生による分析 【第11回】 中間報告 【第12回】 学生による分析 【第13回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> 【第14回】 中間報告 【第15回】 学生による分析 【第16回】 学生による分析 【第17回】 中間報告 【第18回】 学生による分析 【第19回】 学生による分析 【第20回】 中間報告 【第21回】 学生による分析 【第22回】 中間報告 【第23回】 学生による分析 【第24回】 最終報告の確認と最終修正指示 【第25回】 最終報告の準備 【第26回】 最終報告 </td> </tr> </table>						【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化 【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認 【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定 【第4回】 指導教員指導：テーマ（論題）の最終決定 【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定 【第6回】 学生による分析 【第7回】 学生による分析 【第8回】 中間報告 【第9回】 学生による分析 【第10回】 学生による分析 【第11回】 中間報告 【第12回】 学生による分析 【第13回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導	【第14回】 中間報告 【第15回】 学生による分析 【第16回】 学生による分析 【第17回】 中間報告 【第18回】 学生による分析 【第19回】 学生による分析 【第20回】 中間報告 【第21回】 学生による分析 【第22回】 中間報告 【第23回】 学生による分析 【第24回】 最終報告の確認と最終修正指示 【第25回】 最終報告の準備 【第26回】 最終報告
【第1回】 指導教員指導：問題意識の具体化 明確化 【第2回】 指導教員指導：調査分析方法の確認 【第3回】 指導教員指導：仮テーマの決定 【第4回】 指導教員指導：テーマ（論題）の最終決定 【第5回】 指導教員指導：報告スケジュールの決定 【第6回】 学生による分析 【第7回】 学生による分析 【第8回】 中間報告 【第9回】 学生による分析 【第10回】 学生による分析 【第11回】 中間報告 【第12回】 学生による分析 【第13回】 夏季休業中の執筆計画の報告と指導	【第14回】 中間報告 【第15回】 学生による分析 【第16回】 学生による分析 【第17回】 中間報告 【第18回】 学生による分析 【第19回】 学生による分析 【第20回】 中間報告 【第21回】 学生による分析 【第22回】 中間報告 【第23回】 学生による分析 【第24回】 最終報告の確認と最終修正指示 【第25回】 最終報告の準備 【第26回】 最終報告							
成績評価の方法	原則としては、卒業論文の質（90%）および当該学生の履修態度（10%）によって評価するが、各担当教員によって若干の変更の可能性がある。							
フィードバックの内容	指導の中で適宜フィードバックする。							
教科書								
指定図書								
参考書								
教員からのお知らせ								
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。							
アクティブラーニングの内容	卒業論文							
実践的な教育内容								
その他								

講義コード	14C0126401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	体育講義C				山中 浩敬		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	人生最大の買い物は大病である。これをできる限り予防するためには様々なアプローチが挙げられるが、本講義では学生が主に運動及び食事から少しでも健康に生きる方法を理解・実行できるようにする。								
到達目標	学生がテーマについて主体的に検討し、実生活の中で改善ができるよう理解を深める。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	グループで決めたテーマにおける調査、実践を行う。60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス (方針, 進め方等) 【第2回】 子どもの体力の現状と運動 【第3回】 運動不足と心身への影響, 運動と取入の関係が子どもに与える影響 【第4回】 姿勢不良と体の仕組みに関する基礎知識① 【第5回】 姿勢不良と体の仕組みに関する基礎知識②, グループワーク① 【第6回】 各種トレーニングに関する基礎知識①, グループワーク② 【第7回】 各種トレーニングに関する基礎知識②, グループワーク③ 【第8回】 食生活の重要性, ダイエットの誤りについて①, グループワーク④ 【第9回】 食生活の重要性, ダイエットの誤りについて②, グループワーク⑤ 【第10回】 食生活の重要性, ダイエットの誤りについて③グループワーク⑥ 【第11回】 グループワーク⑦ 【第12回】 プレゼンテーション① 【第13回】 プレゼンテーション②								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (30%), プレゼンテーション (70%)								
フィードバックの内容	フィードバックはプレゼンテーション時または次回授業時に行う。プレゼンテーションでは質疑応答も行うため、それ自体もフィードバックとなる。また、グループワーク時に質問等があれば進行上可能な範囲内で対応する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	参考書等は、知見が変化することもあり、web等も普及した中で論文検索もできることから特に指定いたしません。本講義では、できるだけ身近なテーマを学び、実生活に活用できるようにできればと考えております。								
オフィスアワー	授業前及び実施時間帯								
アクティブラーニングの内容	グループワーク, プレゼンテーション								
実践的な教育内容	トレーナーとして多くのカテゴリーで実務経験があり、その人材開発プログラムにも携わっている教員が、その経験を活かして体や運動に関する知識等を講義する。また、学生たち自身で体に関する課題を考え、論理的に解決していく方法を実践することでより理解を深め、成長を促す。								
その他									

講義コード	14C0126501	授業形態	実技	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	体育実技C				山中 浩敬		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	バレーボールを通して学生個々がお互いの強み、弱みを理解し、それぞれが力を発揮できるためのマネジメント力やコミュニケーション能力を身につける。								
到達目標	個々の適正を理解し、結果を最大化していくためにそれらをどう組み合わせるか考え取り組むことで、チームマネジメント力を養う。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	能力の異なる個々のメンバーを生かすための検討、チーム練習等に15時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス (方針, 進め方等) 【第2回】 チーム編成のためのトライアウト① 【第3回】 チーム編成のためのトライアウト② 【第4回】 ドラフト会議, チーム活動① 【第5回】 チーム活動② 【第6回】 チーム活動③ 【第7回】 チーム活動④ 【第8回】 登龍門-ランニングパス 【第9回】 登龍門-三段攻撃 【第10回】 チーム活動⑤ 【第11回】 絶対に負けられない戦い① 【第12回】 絶対に負けられない戦い② 【第13回】 絶対に負けられない戦い③								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (15%), チーム成績 (85%)								
フィードバックの内容	必要に応じて授業内にて対応								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	スポーツが得意な方や苦手な方でも力を発揮する方法はあるはず。それを受講生の皆さんが考えマネジメントできるようになりましょう。								
オフィスアワー	授業前及び実施時間帯								
アクティブラーニングの内容	グループワーク								
実践的な教育内容	トレーナーとして多くのカテゴリーで実務経験があり、バレーボールチームの全国制覇に何度も貢献してきた。また、その人材開発プログラムにも携わっている教員が、その経験を活かし、バレーボールの特性を使って学生たち自身で互いの適正を考え、チームとしての結果を最大化する方法に取り組む。								
その他									

講義コード	11C0121601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	地方財政論1				金田 美加		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義は、地方財政の基本的な知識を習得し、わが国の地方政府の活動を論理的な視点で考えることができるようになることを目的とする。そのため、地方財政の基礎理論を学んでいく。 地方財政の現状と役割、公共財の理論を中心に取り上げる。講義では毎回資料の配布を Open LMS で行う。								
到達目標	主たる目標：地方財政に関する基礎力を身につけ、地方財政制度や機能・役割を理解できること 従たる目標：より深い研究を志すものは、そのきっかけが掴めるようになること								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回に取り組んだ問題は必ず自分で解いて復習する、項目については語句説明文を作成する等の復習を行うこと。これら復習に要する時間を授業外学修時間とする。 履修者は、予習・復習として60時間以上（予習・復習として各回あたり4時間程度）を目安とした財政関連の授業外学修を行うことが望ましい。								
授業計画	【第1回】第1期ガイダンスと公共財・地方公共財について 【第2回】公共財・地方公共財 【第2回】地方財政の機能と役割①（地方分権化定理とティボー理論の概説） 【第3回】地方財政の機能と役割②（権限の委譲と権能差など） 【第4回】地方税原則と税源配分 【第5回】国と地方の財政関係①（地方財政計画、国と地方のプライマリーバランスなど） 【第6回】国と地方の財政関係②（補助金制度など） 【第7回】地方税収の現状①（租税収入の現状比較） 【第8回】地方税収の現状②（地方債、財政健全化法など） 【第9回】外部性の理論①（正の外部性と負の外部性） 【第10回】外部性の理論②（外部性の解決方法） 【第11回】公共財の理論①（公共財の最適配分） 【第12回】公共財の理論②（公共財供給メカニズム：リンダールメカニズムなど） 【第13回】公共財の理論③と第1期の総括（公共財供給メカニズム：中位投票者定理など）								
成績評価の方法	原則として大学の定める定期試験期間中に実施される定期試験100%で評価する。 詳細はガイダンス資料に記載（要確認）								
フィードバックの内容	講義で扱った問題については、授業終了後および Open LMS メッセージ機能、Teams 等を利用し質問などを受け付ける。 詳細は初回ガイダンス資料に記載（要確認）								
教科書									
指定図書									
参考書	『地方財政論入門』佐藤主光（新世社）2009、『入門地方財政論 第3版』林宏昭、橋本恭之（中央経済社）2014								
教員からのお知らせ	初回ガイダンス資料から事前に Open LMS にアップロードする。 成績評価の詳細、および、資料の配布方法等については、ガイダンス資料に記載しているので、初回ガイダンスに出席できない場合は必ず資料をダウンロードして内容を確認すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後の教室内および Open LMS のメッセージ機能、Teams 等を利用して行う。 なお、質問等は随時受付とする。受付た質問等は次回の講義日までに回答を行うものとする。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り ● Open LMS 上の機能を活用し、期間中に練習ドリルを2回ほど公開することで、自主的な追加学習を求める。								
実践的な教育内容									
その他	●履修にあたっては、ミクロ経済学と財政学に関する基礎的な知識があると望ましい（または、基礎的な知識を得ようとする意欲があると望ましい）。 ●講義内容については、履修者の理解度に応じて、講義の順番や内容を変更する場合がある。 ●本授業は、講義形式の対面授業を原則とする。 ●教科書は特に指定しない。必要に応じ、教員が用意した資料等の配布を Open LMS にて行う。受講時には Open LMS からダウンロードした資料を持参（タブレット可）して参加することが望ましい。								

講義コード	11C0121701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	金田 美加	開講期	第2期
科目名	地方財政論2								
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義は、地方財政の基本的な知識を習得し、わが国の地方政府の活動を論理的な視点で考えることができるようになることを目的とする。そのため、地方財政の基礎理論を学んでいく。租税による外部性と政府間補助金の理論を中心に取り上げる。講義では毎回資料の配布を Open LMS で行う。								
到達目標	主たる目標：地方財政に関する基礎力を身につけ、地方財政制度や機能・役割を理解できること 従たる目標：より深い研究を志すものは、そのきっかけが掴めるようになること								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回に取り組んだ問題は必ず自分で解いて復習する、項目については語句説明文を作成する等の復習を行うこと。これら復習に要する時間を授業外学修時間とする。 履修者は、予習・復習として60時間以上(予習・復習として各回あたり4時間程度)を目安とした財政関連の授業外学修を行うことが望ましい。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 第2期ガイダンスと租税の各論①(所得課税など) 【第2回】 租税の各論②(消費課税など) 【第3回】 租税の各論③(資本課税、地方税の経済分析など) 【第4回】 租税の各論④(供給の価格弾力性、固定資産税の経済分析、税の帰着など) 【第5回】 租税による外部性①(租税輸出論、重複課税と租税の外部性) 【第6回】 租税による外部性②(同時手番ゲームとナッシュ均衡) 【第7回】 租税による外部性③(租税競争論とスピルオーバー問題) 【第8回】 所得再分配機能と地方政府(所得再分配政策と福祉移住、地方債の食い逃げなど) 【第9回】 政府間財政移転の理論①(補助金の効果、税制調整と財源保障) 【第10回】 政府間財政移転の理論②(逐次手番ゲームとナッシュ均衡) 【第11回】 政府間財政移転の理論③(補助金とソフトな予算制約など) 【第12回】 政府間財政移転の理論④(財政錯覚、等価定理とフライバー効果など) 【第13回】 政府間財政格差と第2期の総括(財政余剰と個人の厚生、格差の計測など) 								
成績評価の方法	原則として大学の定める定期試験期間中に実施される定期試験100%で評価する。 詳細はガイダンス資料に記載(要確認)								
フィードバックの内容	講義で扱った問題については、授業終了後および Open LMS メッセージ機能、Teams 等を利用し質問などを受け付ける。 詳細は初回ガイダンス資料に記載(要確認)								
教科書									
指定図書									
参考書	『地方財政論入門』佐藤主光(新世社)2009、『入門地方財政論 第3版』林宏昭、橋本恭之(中央経済社)2014								
教員からのお知らせ	初回ガイダンス資料から事前に Open LMS にアップロードする。 成績評価の詳細、および、資料の配布方法等については、ガイダンス資料に記載しているので、初回ガイダンスに出席できない場合は必ず資料をダウンロードして内容を確認すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後の教室内および Open LMS のメッセージ機能、Teams 等を利用して行う。 なお、質問等は随時受付とする。受付た質問等は次回の講義日までに回答を行うものとする。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り ● Open LMS 上の機能を活用し、期間中に練習ドリルを2回ほど公開することで、自主的な追加学習を求める。								
実践的な教育内容									
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●履修にあたっては、ミクロ経済学と財政学に関する基礎的な知識があると望ましい(または、基礎的な知識を得ようとする意欲があると望ましい)。 ●講義内容については、履修者の理解度に応じて、講義の順番や内容を変更する場合がある。 ●本授業は、講義形式による対面授業を原則とする。 ●教科書は特に指定しない。必要に応じ、教員が用意した資料等の配布を Open LMS にて行う。受講時には Open LMS からダウンロードした資料を持参(タブレット可)して参加することが望ましい。 								

講義コード	11C0120701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	中級マクロ経済学Ⅰ／中級マクロ経済学				慶田 昌之		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	2年生のマクロ経済学を学んだ後に、経済成長と景気循環に関する通時的マクロ経済モデルの基本的な考え方を学び、経済学検定試験（ERE ミクロ・マクロ）のマクロ分野の問題の演習をする。								
到達目標	通時的マクロ経済モデルを用いて経済成長と景気循環に関する分析が可能となるように、モデルに習熟する。経済学検定試験（ERE ミクロ・マクロ）のマクロ分野の問題を解けるようになる。								
授業外学習内容・ 授業外学習時間数	この講義の授業外学習時間は60時間必要である。教科書を読み、理解できない点を明らかにして講義に臨むこと。								
授業計画	【第1回】 合理的期待形成仮説 【第2回】 資産価格と資本蓄積 【第3回】 新古典派成長モデル（1） 【第4回】 新古典派成長モデル（2） 【第5回】 新古典派成長モデルの実証的含意 【第6回】 世代重複モデル（1） 【第7回】 世代重複モデル（2） 【第8回】 消費の恒常所得仮説 【第9回】 調整費用とトービンのq 【第10回】 消費パターンの平準化と資産価格 【第11回】 不確実性と資産価格 【第12回】 資産市場と情報の伝達 【第13回】 資産価格決定モデルの実証研究								
成績評価の方法	講義内の小テストの成績による（100％）。								
フィードバックの内容	授業内でフィードバックする。								
教科書	『新しいマクロ経済学：クラシカルとケインジアンとの邂逅』 齊藤 誠（有斐閣）2006、『CBT ERE ミクロ・マクロ 経済学検定試験 対策問題集』 経済法令研究会（経済法令研究会）2021								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	『マクロ経済学基礎』『マクロ経済学』の単位を修得済みであることが望ましい。この講義内容を理解するためには、数学、特に微分の知識を必要とする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	意見共有								
その他	この講義は、『ERE マクロ演習』とセットで受講することを推奨する。この講義においても ERE の問題演習を行う。								

講義コード	11C0118501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	苑 志佳	開講期	第1期														
科目名	中国経済論1																						
履修前条件					備考																		
授業の目的	<p>これまでの40数年間の改革・開放時期を経た中国はかつての最貧国から高所得国になり、世界第2位の経済規模にもなった。世界経済史からみても中国経済の達成は類のない成功例である。中国経済はこれまで、どのように高度成長を実現したか。その高度成長のメカニズムはどのようなものであるか。さらに、中国経済は今後どのように変化していくか。本講義は上記の諸点を問題意識とし、歴史・制度・世界政治・経済システムなど多様な視点から中国経済の発展メカニズムを検証する。本講義では、中国経済を研究する視点・分析方法を紹介し、中国経済発展の初期条件、計画経済体制の形成・変容、経済発展の方針・手段・問題点、改革開放路線の導入および市場経済体制の確立、現段階の経済構造・特徴、などについて順次講義する。</p>																						
到達目標	<p>本講義は、中国経済に関心を持つ素人のために設計されたものである。本講義を履修することによって中国経済の発展過程を全般的に把握することができる。また、本講義の勉強を通じて、中国経済の発展メカニズムおよび経済の主要側面を理解することができる。</p>																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業前に講義ファイルを復習資料として入手し、予習する。 3. 授業のテーマに関連する資料・参考書を自ら収集し、授業後関連章節を読む。</p>																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 イントロダクション</td> <td>【第8回】 企業制度</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 中国はどのような国か</td> <td>【第9回】 労働・雇用制度</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 歴史の回顧（1）計画経済体制の形成</td> <td>【第10回】 財政制度</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 歴史的回顧（2）市場経済体制への移行</td> <td>【第11回】 農業・農政</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 現在の中国政治と経済</td> <td>【第12回】 人口・社会保障</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 経済発展における「見える手」</td> <td>【第13回】 総括：総合学習効果</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 工業・技術</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 イントロダクション	【第8回】 企業制度	【第2回】 中国はどのような国か	【第9回】 労働・雇用制度	【第3回】 歴史の回顧（1）計画経済体制の形成	【第10回】 財政制度	【第4回】 歴史的回顧（2）市場経済体制への移行	【第11回】 農業・農政	【第5回】 現在の中国政治と経済	【第12回】 人口・社会保障	【第6回】 経済発展における「見える手」	【第13回】 総括：総合学習効果	【第7回】 工業・技術	
【第1回】 イントロダクション	【第8回】 企業制度																						
【第2回】 中国はどのような国か	【第9回】 労働・雇用制度																						
【第3回】 歴史の回顧（1）計画経済体制の形成	【第10回】 財政制度																						
【第4回】 歴史的回顧（2）市場経済体制への移行	【第11回】 農業・農政																						
【第5回】 現在の中国政治と経済	【第12回】 人口・社会保障																						
【第6回】 経済発展における「見える手」	【第13回】 総括：総合学習効果																						
【第7回】 工業・技術																							
成績評価の方法	出席者の成績は、授業への取り組み姿勢（20%）と総合学習効果（80%）を合わせて決める。																						
フィードバックの内容	講義された課題に対する講評を翌週授業の冒頭にて行う。																						
教科書	『中国経済入門』南亮進・牧野文夫（日本評論社）2018年																						
指定図書	『世界進出する中国型多国籍企業』苑志佳（創成社）2023年																						
参考書	『現代中国経済』丸川知雄（有斐閣アルマ）2021年																						
教員からのお知らせ	<p>本講義に出席する学生諸君へ 下記の資料を丁寧に作成・保管することを強く薦める。 （1）授業ノート； （2）講義 PPT ファイル資料。 講義ファイルは立正 HP 画面からダウンロードすることができる。原則として、授業期間中にはプリントアウトを配布しない。 期末試験の際に資料・教科書の持ち込みは禁止するため、この授業の単位を取得したい学生には、平日授業の出席を強くお勧めする。</p>																						
オフィスアワー	<p>－月曜日3限 －品川キャンパス2号館508室 －事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること</p>																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11C0118601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	苑 志佳	開講期	第2期																												
科目名	中国経済論2																																				
履修前条件					備考																																
授業の目的	改革・開放期以降、目覚ましい経済発展を遂げた中国は、世界経済に占める比重が高まり、世界経済との結びつきも急速に強まった。一方、体制の違いによって米国と中国は対立するようになった。米中の分断は世界経済にも深刻な影響を与える。本講義は、中国経済の発展と世界経済との関連を問題意識とし、改革・開放というキーワードにおける「(対外)開放」を中心に講義する。講義では、中国が対外開放政策を採用した背景・過程・現状および問題点を総合的に考察する。具体的には、中国の対外経済パフォーマンス、経済の国際化過程における対外貿易、外国資本の対内直接投資、中国企業の対外直接投資、通貨人民元の改革と国際化、主要国・地域との経済関係(米中経済、日中経済)などを詳細に解説する。																																				
到達目標	本講義を通じて中国経済の対外的側面および世界経済との関連性を理解することができる。また、本講義を履修する学生は、中国経済と主要国経済との関係に関する知識を勉強することができる。																																				
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	1. この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 2. 毎週の授業後に講義ファイルを復習資料として入手し、復習する。 3. 授業のテーマに関連する資料・参考書を自ら収集し、授業後関連章節を読む。																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td> <td>イントロダクション</td> <td>【第8回】</td> <td>人民元の国際化</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td> <td>対外開放の展開</td> <td>【第9回】</td> <td>中国経済と海外華人</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td> <td>国際分業と中国経済</td> <td>【第10回】</td> <td>日中経済</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td> <td>対外貿易と中国経済</td> <td>【第11回】</td> <td>米中経済</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td> <td>対内直接投資の中国経済へのインパクト</td> <td>【第12回】</td> <td>中国と世界</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td> <td>中国における外資企業</td> <td>【第13回】</td> <td>総括：総合学習効果</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td> <td>対外直接投資の展開</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】	イントロダクション	【第8回】	人民元の国際化	【第2回】	対外開放の展開	【第9回】	中国経済と海外華人	【第3回】	国際分業と中国経済	【第10回】	日中経済	【第4回】	対外貿易と中国経済	【第11回】	米中経済	【第5回】	対内直接投資の中国経済へのインパクト	【第12回】	中国と世界	【第6回】	中国における外資企業	【第13回】	総括：総合学習効果	【第7回】	対外直接投資の展開		
【第1回】	イントロダクション	【第8回】	人民元の国際化																																		
【第2回】	対外開放の展開	【第9回】	中国経済と海外華人																																		
【第3回】	国際分業と中国経済	【第10回】	日中経済																																		
【第4回】	対外貿易と中国経済	【第11回】	米中経済																																		
【第5回】	対内直接投資の中国経済へのインパクト	【第12回】	中国と世界																																		
【第6回】	中国における外資企業	【第13回】	総括：総合学習効果																																		
【第7回】	対外直接投資の展開																																				
成績評価の方法	1. 成績判定方針：本授業の内容は強い前後連携関係があり、継続的な出席は不可欠であるため、出席者の成績は、出席状況と総合学習効果(テスト)を合わせて決める。 2. 総合学習効果の点数+出席状況で判定する。 3. 出席者の成績は、授業への取り組み姿勢(20%)と総合学習効果(80%)を合わせて決める。																																				
フィードバックの内容	講義された課題に対する講評を翌週授業の冒頭にて行う。																																				
教科書	『中国企業対外直接投資のフロンティア』苑 志佳(創成社)2014年																																				
指定図書	『世界進出する中国型多国籍企業』苑志佳(創成社)2023年																																				
参考書	『チャイナ・ショックの経済学』大橋英夫(勁草書房)2020年																																				
教員からのお知らせ	本講義に出席する学生諸君へ 下記の資料を丁寧に作成・保管することを強く薦める。 (1) 授業ノート； (2) 講義 PPT ファイル資料。 講義ファイルは立正 HP 画面からダウンロードすることができる。原則として、授業期間中にはプリントアウトを配布しない。 期末試験の際に資料・教科書の持ち込みは禁止するため、この授業の単位を取得したい学生には、平日授業の出席を強くお勧めする。																																				
オフィスアワー	- 月曜日3限 - 品川キャンパス2号館508室 - 事前に<0918@ris.ac.jp>に連絡すること																																				
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																																				
実践的な教育内容																																					
その他																																					

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	中国語Ⅰ				各担当教員	第1期
履修前提条件	備考					
授業の目的	この授業は、初めて中国語を学ぶ人を対象とする入門初級科目であり、発音と文法の基礎を中心に学びます。中国語入門の段階で最も重要な点は、中国語の発音とその表記法（ピンイン＝中国語のローマ字表記法）を習得することです。漢字を知っている日本人は、視覚的な漢字の意義やニュアンスに依存し、表面的な意味を理解して簡単に分かった気持ちになりがちですが、言葉は発音をしっかりと身に付けて初めて、コミュニケーションに役立てることができます。中国語の四つのリズム（四声）や日本語にはない発音を、しっかりと体で覚えること、および中国語の基礎的な文法（名詞、形容詞、動詞の各主述文）構造を学び、言葉の語順に習熟することを目的とします。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の発音の基礎を習得し、ピンインや四声について説明し、正しく発音できる。 ・中国語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を読むことができる。 ・中国語の基礎的な会話能力を習得し、中国の人と簡単な会話ができる。 ・中国語を通じ、中国についての基礎的な理解を深め、日中友好に寄与できる。 					
授業外学修内容・授業外学修時間数	発音は、授業の時だけの練習ではなかなか身につけません。授業が終わった後、毎回自分で音声聞き、声を出して反復練習し、学んだことを復習して下さい。発音の復習、テキストからの宿題を含め、この科目では15時間以上の授業外学修を行って下さい。					
授業計画	<p>【第1回】中国語ガイダンス 1.中国とはどんな国？ 2.中国語とはどんな言葉？ 第1課発音1 中国語の音節、声調（四声）</p> <p>【第2回】前回の復習 第2課発音2 単母音、複母音</p> <p>【第3回】前回の復習 第3課発音3 子音（1）</p> <p>【第4回】前回の復習 第4課発音4 子音（2）</p> <p>【第5回】ピンインの総まとめ 第5課 初対面の自己紹介（1）</p> <p>【第6回】前回の復習 第5課 初対面の自己紹介（2）</p> <p>【第7回】前回の復習 第6課 誕生日祝いに何を食べる（1）</p> <p>【第8回】前回の復習 第6課 誕生日祝いに何を食べる（2）</p> <p>【第9回】前回の復習 第7課 家族の話（1）</p> <p>【第10回】前回の復習 第7課 家族の話（2）</p> <p>【第11回】前回の復習 第8課 パンダを見に行こう（1）</p> <p>【第12回】前回の復習 第8課 パンダを見に行こう（2）</p> <p>【第13回】前期の復習 前期の総まとめ（もしくは学習確認テスト）</p>					
成績評価の方法	小テストの結果、授業における課題への取り組みなどの平常点（40%）、定期試験の結果（60%）を、原則、成績評価の対象とします。詳細について各担当教員の教員にご確認ください。					
フィードバックの内容	宿題の添削、小テストの解説によってフィードバックを行います。					
教科書	『初めての異文化おもしろ体験 初級中国語』陳淑梅／劉湯水（朝日出版社）2025年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	授業中は声を出して練習することを重視するので、積極的に発言するよう心がけて下さい。ただ授業に出席するだけでは評価しません。外国語の勉強は日々の積み重ねが大事です。授業の前後は必ず予習と復習をしましょう。授業では単語の聞き取りや会話の発音チェックなどの小テストがあります。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスで行われています。オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員にお問い合わせください。					
アクティブラーニングの内容	教員のフィードバックによる振り返り。各担当者によって異なりますが、学習する課題文型を学び、それを繰り返し練習しながら、パターン学習へ展開させ、応用的な学習へと導きます。常にフィードバックして共通理解を得つつ進めます。					
実践的な教育内容						
その他	このシラバスは専任の黄昱が代表して書いています。実際の授業の詳細については、各担当教員の指示に従ってください。					

講義コード		授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	各担当教員	開講期	第2期
科目名	中国語2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業は入門初級科目であり、発音の基礎をふまえ、文法の基礎（名詞、形容詞、動詞の各主述文、完了や経験、動作の進行、比較など）を学びます。毎回、テキストの本文を正しく発音し、基礎的な文法をしっかりと覚えていきます。文法習得をメインとする授業ではありませんが、最終的な目的は、自分自身のことを簡単な中国語で表現でき、中国人の友人と初歩的なコミュニケーションをとれるレベルに達することです。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語初級（中国語検定四級レベル）の基礎的な文法を運用し、簡単な文章を読み、書くことができる。 ・中国語の基礎的な学修を通じて、外国語の辞書や文法書を自ら活用し、語学学修に役立てることができる。 ・簡単な中国語で自分自身のことを表現でき、中国人と初歩的なコミュニケーションをとることができる。 ・中国語を通し、中国についての理解を深め、日中友好に寄与できる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	発音は、毎日くりかえし練習しなければすぐに忘れてしまいます。授業が終わった後、毎回自分で教科書の録音を聞き、声を出して練習し、学んだことを復習して下さい。発音の復習、テキストからの宿題を含め、この科目では15時間以上の授業外学修を行って下さい。								
授業計画	<p>【第1回】前期の復習 後期授業の説明 第9課 ショッピング（1）</p> <p>【第2回】前回の復習 第9課 ショッピング（2）</p> <p>【第3回】前回の復習 第10課 一緒に昼ご飯を食べましょう（1）</p> <p>【第4回】前回の復習 第10課 一緒に昼ご飯を食べましょう（2）</p> <p>【第5回】前回の復習 第11課 中国料理屋で（1）</p> <p>【第6回】前回の復習 第11課 中国料理屋で（2）</p> <p>【第7回】前回の復習 第12課 中秋節（1）</p> <p>【第8回】前回の復習 第12課 中秋節（2）</p> <p>【第9回】前回の復習 第13課 道を尋ねる（1）</p> <p>【第10回】前回の復習 第13課 道を尋ねる（2）</p> <p>【第11回】前回の復習 第14課 カラオケで（1）</p> <p>【第12回】前回の復習 第14課 カラオケで（2）</p> <p>【第13回】後期授業の総まとめ、期末テスト</p>								
成績評価の方法	小テストの結果、授業における課題への取り組みなどの平常点（40%）、定期試験の結果（60%）を、原則、成績評価の対象とします。詳細について各担当教員の教員にご確認ください。								
フィードバックの内容	宿題の添削、小テストの解説によってフィードバックを行います。								
教科書	『初めての異文化おもしろ体験 初級中国語』陳淑梅 / 劉渴水（朝日出版社）2025年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業中は声を出して練習することを重視するので、積極的に発言するよう心がけて下さい。ただ授業に出席するだけでは評価しません。外国語の勉強は日々の積み重ねが大事です。授業の前後は必ず予習と復習をしましょう。授業では単語の聞き取りや会話の発音チェックなどの小テストがあります。								
オフィスアワー	この授業は複数クラスで行われています。オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員にお問い合わせください。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。各担当者によって異なりますが、学習する課題文型を学び、それを繰り返し練習しながら、パターン学習へ展開させ、応用的な学習へと導きます。常にフィードバックして共通理解を得つつ進めます。								
実践的な教育内容									
その他	このシラバスは専任の黄昱が代表して書いています。実際の授業の詳細については、各担当教員の指示に従ってください。								

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	中国語3			各担当教員		第1期
履修前提条件	備考					
授業の目的	この授業は、初めて中国語を学ぶ人を対象とする入門初級科目であり、発音と文法の基礎を中心に学びます。中国語入門の段階で最も重要な点は、中国語の発音とその表記法（ピンイン=中国語のローマ字表記法）を習得することです。漢字を知っている日本人は、視覚的な漢字の意義やニュアンスに依存し、表面的な意味を理解して簡単に分かった気持ちになりがちですが、言葉は発音をしっかりと身に付けて初めて、コミュニケーションに役立てることができます。中国語の四つのリズム（四声）や日本語にはない発音を、しっかりと体で覚えること、および中国語の基礎的な文法（名詞、形容詞、動詞の各主述文）構造を学び、言葉の語順に習熟することを目的とします。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の発音の基礎を習得し、ピンインや四声について説明し、正しく発音できる。 ・中国語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を読むことができる。 ・中国語の基礎的な会話能力を習得し、中国の人と簡単な会話ができる。 ・中国語を通し、中国についての基礎的な理解を深め、日中友好に寄与できる。 					
授業外学修内容・授業外学修時間数	発音は、授業の時だけの練習ではなかなか身につけません。授業が終わった後、毎回自分で音声聞き、声を出して反復練習し、学んだことを復習して下さい。発音の復習、テキストからの宿題を含め、この科目では15時間以上の授業外学修を行って下さい。					
授業計画	<p>【第1回】中国語ガイダンス 1. 中国とはどんな国？ 2. 中国語とはどんな言葉？ 発音 1. 声調 2. 軽声 3. 単母音</p> <p>【第2回】前回の復習 発音 4. 子音 5. 複母音</p> <p>【第3回】前回の復習 発音 6. 鼻母音 7. 声調の組み合わせ 8. 声調変化 9. “儿”化</p> <p>【第4回】前回の復習 ピンインの総まとめ</p> <p>【第5回】前回の復習 第1課 楊麗さんですか（1）</p> <p>【第6回】前回の復習 第1課 楊麗さんですか（2）</p> <p>【第7回】前回の復習 第2課 荷物は多いですか（1）</p> <p>【第8回】前回の復習 第2課 荷物は多いですか（2）</p> <p>【第9回】前回の復習 第3課 明日はどこへ行きますか（1）</p> <p>【第10回】前回の復習 第3課 明日はどこへ行きますか（2）</p> <p>【第11回】前回の復習 第4課 ケーキを食べたいですか（1）</p> <p>【第12回】前回の復習 第4課 ケーキを食べたいですか（2）</p> <p>【第13回】前期の総まとめ（もしくは学習確認テスト）</p>					
成績評価の方法	小テストの結果、授業における課題への取り組みなどの平常点（40%）、定期試験の結果（60%）を、原則、成績評価の対象とします。詳細について各担当教員の教員にご確認ください。					
フィードバックの内容	宿題の添削、小テストの解説によってフィードバックを行います。					
教科書	『1冊めの中国語 会話クラス』劉穎、喜多山幸子、松田かの子（白水社）2008年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	授業中は声を出して練習することを重視するので、積極的に発言するよう心がけて下さい。ただ授業に出席するだけでは評価しません。外国語の勉強は日々の積み重ねが大事です。授業の前後は必ず予習と復習をしましょう。授業では単語の聞き取りや会話の発音チェックなどの小テストがあります。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスで行われています。オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員にお問い合わせください。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。各担当者によって異なりますが、学習する課題文型を学び、それを繰り返し練習しながら、パターン学習へ展開させ、応用的な学習へと導きます。常にフィードバックして共通理解を得つつ進めます。					
実践的な教育内容						
その他	このシラバスは専任の黄豆が代表して書いています。実際の授業の詳細については、各担当教員の指示に従ってください。					

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	中国語4			各担当教員		第2期
履修前提条件				備考		
授業の目的	中国語4は初めて中国語を学ぶ人を対象とする入門初級科目のひとつであり、中国語を受講する人は一年次に中国語1、2と並んで、この中国語3、4を受講する必要があります。中国語1、2は文法的基礎を中心として学ぶ科目であり、中国語3、4は日常的な会話表現を中心として学ぶ科目です。この中国語4は中国語3に続いて発音の基礎から、基礎文法も学びますが、日常的な会話表現の訓練を主な目的とする科目であり、中国語1、2と併せて中国語初級（中国語検定試験4級レベル）の修得を目標としています。					
到達目標	中国語入門の段階で最も重要な点は、中国語の発音とその表記法（ピンイン＝中国語のローマ字表記法）を習得することです。漢字を知っている日本人は、視覚的な漢字の意義やニュアンスに依存し、表面的な意味を理解して簡単に分かった気持ちになりがちですが、言葉は発音をしっかりと身に付けて初めて、コミュニケーションに役立てることができるのです。中国語の独特のアクセント（声調）や日本語にはない発音を、しっかりと体で覚えること、および中国語の基礎的な文法構造を学び、言葉の語順に習熟することを目標としています。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	新しい外国語を学ぶことは、新しい発音法やイントネーション、言葉の語順感覚に習熟する必要があり、それは口と耳を使った肉体的なトレーニングなのです。従って、授業の時だけの練習ではなかなか身につけません。授業外もテキストの録音を聞いたり、声に出して反復練習したり、学んだことを復習することを心がけましょう。（授業のほかに15時間を学修にあてること）					
授業計画	<p>【第1回】 前期の復習 第5課 これはいくらですか（1）</p> <p>【第2回】 前期の復習 第5課 これはいくらですか（2）</p> <p>【第3回】 前期の復習 第6課 電子辞書を持っていますか（1）</p> <p>【第4回】 前期の復習 第6課 電子辞書を持っていますか（2）</p> <p>【第5回】 前期の復習 第7課 京劇のチケットを買いました（1）</p> <p>【第6回】 前期の復習 第7課 京劇のチケットを買いました（2）</p> <p>【第7回】 前期の復習 第8課 ファーストフード店がありますか（1）</p> <p>【第8回】 前期の復習 第8課 ファーストフード店がありますか（2）</p> <p>【第9回】 前期の復習 第9課 中国の歌が歌えますか（1）</p> <p>【第10回】 前期の復習 第9課 中国の歌が歌えますか（2）</p> <p>【第11回】 前期の復習 第10課 長城に行ったことがありますか（1）</p> <p>【第12回】 前期の復習 第10課 長城に行ったことがありますか（2）</p> <p>【第13回】 後期の総まとめ、期末テスト</p>					
成績評価の方法	小テストの結果、授業における課題への取り組みなどの平常点（40%）、定期試験の結果（60%）を、原則、成績評価の対象とします。詳細について各担当教員の教員にご確認ください。					
フィードバックの内容	宿題の添削、小テストの解説によってフィードバックを行います。					
教科書	『1冊めの中国語 会話クラス』劉穎、喜多山幸子、松田かの子（白水社）2008年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	このシラバスは経済学部で中国語を統一的に実施するために、専任の黄昱が代表して書いています。実際の授業においては、各担当教員によりシラバスとは異なる指示があるかもしれませんが、その際は担当教員の指示に従ってください。					
オフィスアワー	この授業は複数のクラスで実施しています。オフィスアワーあるいは質問対応可能時間などの詳細については各担当教員にお問い合わせください。					
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	教員からのフィードバックによる振り返り。宿題や小テストに対する教員のフィードバックを行います。					
その他						

講義コード	11C0104301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	哲学とは何か				小川 文子		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	「哲学」というと、何か小難しい理論や詭弁のようなものを連想する人がいるかもしれませんが。しかし、「哲学」とはそもそも私たちにとって身近なものではなく、大雑把に言えば、「考える営み」に他なりません。本講義では、身近な問題を哲学的なアプローチで考えてみることを試みます。そのために必要な、西洋哲学の歴史にも触れていきます。								
到達目標	①身近な事柄に対して、自発的に問題を見つけることができる ②過去の哲学者の思想を説明することができる ③問題に対し、自分なりの意見を発信することができる								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修をすること。授業中に、書籍やHP、映画など、参考となるメディアを紹介するので、そうしたものを積極的に取り入れて各自学習を深めて下さい。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス・哲学の誕生 【第2回】 ソクラテス以前の哲学者 【第3回】 何のために生きるのか：ソクラテス 【第4回】 三角形が三角形であるということ：プラトンとアリストテレス 【第5回】 そもそも「ある」ということはどういうことか：古代から量子力学の世界へ 【第6回】 世界の3割はキリスト教徒 【第7回】 哲学とキリスト教 【第8回】 「知る」ということについて：17世紀の哲学とカント 【第9回】 AIに心は宿るのか：哲学的ゾンビの問題 【第10回】 「言葉」の不思議：分析哲学の世界 【第11回】 トーテムボールが示す意味：構造主義 【第12回】 作者の「意図」なんてあるのか：ポスト構造主義 【第13回】 「私」の主体性とは：実存主義								
成績評価の方法	平常点（リアクションペーパーと課題）：40% 学期末試験：60% 平常点として、履修が確定した第2回目より OpenLMS でリアクションペーパーを回収します。 到達目標の①と③については、リアクションペーパーで確認します。②については、課題と試験で評価します。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを次週の授業内で行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書はありません。毎回の授業内容はプリントをデータで配信します。エコロジーの観点から紙媒体での配布はしません。参考文献も適宜紹介します。								
オフィスアワー	授業時間後教室にて、もしくは OpenLMS のメールを使ってご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	教員からのフィードバックによる振り返り。毎回のリアクションペーパーを次の授業時にフィードバックします。								
その他									

講義コード	11C0116102	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	統計学				小松 宏行		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	統計学における推定・仮説検定の手法を説明する。一部のデータ（標本）から全体（母集団）を統計的に推測する技術は、社会生活の「問い」を解明する上で強力なものである。例えば、新開発の薬は本当に効果があるのか、広告を出したから売上が上昇したのか、アンケート調査は何人に尋ねれば十分かなど、その活用機会は学問領域を問わない。本授業では、様々な具体例を取り上げながら、将来を通じて「使える」統計学の習得を目指す。								
到達目標	統計学の手法を用いて実際のデータを分析できる。 そのために、 (1) 各推定方法・検定方法を正しく実行できる。 (2) どの場面でどの方法を使用すべきか理論的に説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を実行すること。 予習：各回の授業で取り扱う内容について、事前に教科書を読んでくる。 復習：授業内容を再現する。小レポートを解く。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 多次元の確率分布（1）（共分散，相関係数，確率変数の独立性） 【第3回】 多次元の確率分布（2）（独立な確率変数の和の平均値と分散） 【第4回】 標本分布（1）（無作為標本，統計量，標本分布，観測値の和および平均の分布） 【第5回】 標本分布（2）（大数の法則，中心極限定理） 【第6回】 推定（1）（標準偏差が既知の場合の平均値の推定） 【第7回】 推定（2）（標準偏差が未知の場合の平均値の推定） 【第8回】 推定（3）（分散・標準偏差・比率の推定） 【第9回】 推定（4）（平均値の差・比率の推定） 【第10回】 仮説検定（1）（標準偏差が既知の場合の平均値の検定） 【第11回】 仮説検定（2）（標準偏差が未知の場合の平均値の検定） 【第12回】 仮説検定（3）（比率の検定） 【第13回】 仮説検定（4）（平均値の差・比率の差の検定）								
成績評価の方法	各回の小レポート（30%）と期末試験（70%）による。								
フィードバックの内容	授業のはじめに前回の小レポートを解説する。 質問やコメントは随時募集し、授業内で返答する。								
教科書	『統計解析入門〔第3版〕』 篠崎信雄，竹内秀一（サイエンス社）2020年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付ける。その際は事前にメールでアポイントメントを取ってほしい。簡単な質問は授業内や授業後でも随時受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	『統計学基礎』に続く内容であるため、『統計学基礎』の単位を取得済みであることが望まれる。								

講義コード		授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	統計学基礎				各担当教員		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	統計学は、大量のデータの中に存在する法則性を扱う分析手法である。急速に情報化が進化した現代社会においては、多種多様かつ大量なデータを処理し、選別する能力が以前にも増して望まれている。本講義では、統計学の役割や主要な概念、基本的な分析手法について学習する予定である。また、履修者が簡単なデータ解析の手法を習得できるよう、幅広い応用例を紹介しながら、講義だけでなく問題演習なども行ってゆく。								
到達目標	平均値、中央値、分散、標準偏差、変動係数の計算ができる。 基礎的な確率の計算ができる。 確率分布の概念を理解できる。 母集団と標本の概念を理解できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で取り扱う内容について、事前に教科書を読んでくること。 授業時に提示する練習問題を必ず実際に解いてみること。								
授業計画	【第1回】 統計学の必要性、母集団と標本 【第2回】 統計学に必要な数学の基礎、度数分布表とヒストグラム 【第3回】 平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、変動係数 【第4回】 記述統計の簡便法、標準化、偏差値 【第5回】 2次元データ、クロス集計、相関係数 【第6回】 確率とは、順列・組合せ 【第7回】 基礎的な確率の計算 【第8回】 確率変数と確率分布 【第9回】 確率分布の平均値（期待値）と標準偏差 【第10回】 二項分布 【第11回】 正規分布1 【第12回】 正規分布2 【第13回】 総復習								
成績評価の方法	期末試験（100％）により評価する。授業への取り組み姿勢や課題の提出状況などに応じて加点することがある。								
フィードバックの内容	課題の解説を授業内で行う。								
教科書	『統計解析入門【第3版】』篠崎雄雄・竹内秀一（サイエンス社）2020								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。								
実践的な教育内容									
その他	授業時にはルート（平方根）の計算機能が付いた電卓を持参すること。期末試験でも電卓が必要になる。								

講義コード	11C0104701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	小松 宏行	開講期	第1期
科目名	統計学の世界				小松 宏行		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	スマホの画面を数分眺めるだけで幾多の情報が舞い込む時代。そこで賢明に生きるためには、正しい情報を見抜き、有効に活用する力、いわば「統計リテラシー」が欠かせない。本授業では、現代社会で直面しうる、データを伴う様々な状況を取り上げ、統計学が与える解決法を実践的な視点で紹介する。各回につき1つの「問い」を設定するので、統計学の知見からどのように対処すべきか主体的に検討する力を修得してほしい。								
到達目標	統計学の基本的な概念と手法を修得する。 日常生活や実社会、ビジネスにおける統計学の具体的な活用方法を理解する。 将来にわたって「使える」データ分析及び調査の基本的な技術を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、授業内演習の完成、授業内容の復習、質問事項の整理を行うこと。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 データの可視化（グラフと統計量） 【第3回】 調査・統計の誤用とバイアス 【第4回】 相関関係と因果関係 【第5回】 確率分布 【第6回】 統計的推定 【第7回】 仮説検定 【第8回】 回帰分析 【第9回】 ベイズ統計学の基礎 【第10回】 分類モデル 【第11回】 クラスタ分析 【第12回】 データを用いた評価方法（レーティングシステム） 【第13回】 非・統計的推定（フェルミ推定）								
成績評価の方法	授業内演習の取り組み状況（40％）、定期試験（60％）で評価する。								
フィードバックの内容	授業内演習の解説を次の授業回で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『統計学が最強の学問である』西内啓（ダイヤモンド社）2013年、『すごい統計学：グラフとタイズで見えなかった世界が見えてくる』本丸諒（飛鳥新社）2022年、『統計学の極意』デイヴィッド・シュピーゲルハルター（宮本寿代 訳）（草思社）2024年、『Excelによるやさしい統計解析：分析手法の使い分けと統計モデリングの基礎』荒川俊也（オーム社）2020年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	木曜日の昼休み等。ご都合に応じて、その他の日時も受け付ける。 事前にメールや Teams からアポイントメントを取ってくださるとありがたい。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ワーク								
実践的な教育内容									
その他	（1）本授業に予備知識（前提知識）は必要としない。できるかぎり難解な数式は避け、統計学の面白さや強力さを直感的に理解できるようなアプローチを心掛ける。それゆえに、統計学の理論をより厳密かつ体系的に学びたい方は「統計学基礎」やそれに続く「統計学」と併せて受講することをおすすめする。 （2）必要に応じて、Excel や R などの統計分析ツールの使い方を説明する。 （3）授業内演習は、個人またはグループワークの形式でおこなう。								

講義コード	11C0125003	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義1〈Microeconomics with Calculus 1〉※2018年～以降入学生用				渡部 真弘		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	A primary purpose of the course is to provide students with the necessary mathematical tools that are used in studying and understanding economics. From time to time, we will also discuss economic applications of these tools and techniques.								
到達目標	Upon completing of this course each student will be able to: (1) master the basic theory of differentiation (2) use methods from calculus to find the extrema of a function of one variable (3) solve and interpret stylized problems based on microeconomic models								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間(計60時間以上)の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 Preliminaries: real number system, intervals, absolute values, logic, set operations, summation 【第2回】 Functions of one variable: basis definitions, graphs of functions 【第3回】 Functions of one variable: linear functions, solving equations, Cramer's rule 【第4回】 Functions of one variable: quadratic functions, polynomials 【第5回】 Functions of one variable: power functions, exponential functions 【第6回】 Functions of one variable: logarithmic functions 【第7回】 Differentiation: tangents, derivatives, geometric meaning of derivative, simple rules for differentiation 【第8回】 Differentiation: sums, products, and quotients rules, power rule, chain rule 【第9回】 Differentiation: derivatives of exponential and logarithmic functions 【第10回】 Single-variable optimization: stationary points, first-derivative test for local extrema 【第11回】 Single-variable optimization: extreme points, the extreme value theorem 【第12回】 Review 【第13回】 Course Summary								
成績評価の方法	評価割合は、小テスト(授業第2回～授業第12回の11回分)50%、期末試験50%とする。								
フィードバックの内容	小テストの答案を採点した後、理解が不十分であると判断される内容を授業時間内で補足する。								
教科書									
指定図書	『Microeconomic Analysis (3rd Edition)』 Hal R. Varian (W.W.Norton & Company) 1992、『A Short Course in Intermediate Microeconomics with Calculus』 Robert Serrano and Allan M. Feldman (Cambridge University Press) 2012、『Essential Mathematics for Economic Analysis (4th Edition)』 Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom (Pearson) 2012、『Mathematical Analysis: A Straightforward Approach (2nd Edition)』 K.G. Binmore (Cambridge University Press) 1982、『Mathematics for Economists』 Carl P. Simon, Lawrence Blume (WW Norton & Company) 2010								
参考書									
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 事前に連絡があれば他の曜日・時間帯に対面・オンラインでも面談を実施する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
実践的な教育内容									
その他	配布資料は英語で作成されているが、授業は日本語で行う。答案作成には英語を用いることが望ましい。								

講義コード	11C0125004	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義2〈Microeconomics with Calculus 2〉※2018年～以降入学生用				渡部 真弘		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	A primary purpose of the course is to provide students with the necessary mathematical tools that are used in studying and understanding microeconomics. From time to time, we will also discuss economic applications of these tools and techniques.								
到達目標	Upon completing of this course each student will be able to: (1) master the basic theory of differentiation and integration (2) solve and interpret stylized problems based on microeconomic models (3) evaluate issues of microeconomic policy								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目では、授業開始時に実施する小テスト及び期末試験に向けた復習に取り組むために、週に少なくとも4時間(計60時間以上)の授業外学修が必要である。								
授業計画	【第1回】 Derivatives in use: increasing functions, decreasing functions 【第2回】 Single-variable optimization: higher-order derivatives, concavity, convexity, inflection points 【第3回】 Economic applications: risk aversion, certainty equivalent 【第4回】 Single-variable optimization: extreme points for concave and convex functions 【第5回】 Economic applications: monopoly, lerner index 【第6回】 Integration: antiderivatives, indefinite integrals 【第7回】 Integration: area and definite integrals 【第8回】 Economic applications: demand curve, demand function, inverse demand function, consumer surplus 【第9回】 Economic applications: production function, cost structure, conditional factor demand 【第10回】 Economic applications: profit maximization, supply curve, producer surplus 【第11回】 Economic applications: competitive equilibrium, total surplus, deadweight loss 【第12回】 Review 【第13回】 Course Summary								
成績評価の方法	評価割合は、小テスト(授業第2回～授業第12回の11回分)50%、期末試験50%とする。								
フィードバックの内容	小テストの答案を採点した後、理解が不十分であると判断される内容を授業時間内で補足する。								
教科書									
指定図書	『Microeconomic Analysis (3rd Edition)』 Hal R. Varian (W.W.Norton & Company) 1992、『A Short Course in Intermediate Microeconomics with Calculus』 Robert Serrano and Allan M. Feldman (Cambridge University Press) 2012、『Essential Mathematics for Economic Analysis (4th Edition)』 Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom (Pearson) 2012、『Mathematical Analysis: A Straightforward Approach (2nd Edition)』 K.G. Binmore (Cambridge University Press) 1982、『Mathematics for Economists』 Carl P. Simon, Lawrence Blume (WW Norton & Company) 2010								
参考書									
教員からのお知らせ	小テストや期末試験は記述式であり、単語を選択するマークシートのような簡易なものではない。試験問題を事前に配布しない。単位数に見合った学修時間を確保するつもりがなければ履修すべきではない。								
オフィスアワー	木曜日3時限、2号館516研究室 事前に連絡があれば他の曜日・時間帯に対面・オンラインでも面談を実施する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り：小テストの全ての問題において、細分化された各採点項目に対する評価を返却することで、復習が十分ではない内容を学生に認識させる。								
実践的な教育内容									
その他	配布資料は英語で作成されているが、授業は日本語で行う。答案作成には英語を用いることが望ましい。								

講義コード	11C0125007	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義5〈経済の持続可能性〉※2018年～以降入学生用				浅子 和美		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	将来にわたっての経済の持続可能性を、財政赤字、年金問題、バブルの発生・膨張・崩壊、環境問題を踏まえた持続的経済発展、等に焦点を当てながら講義する。								
到達目標	13回の講義を通じて、経済の持続可能性がいかに重要な問題かを、順を追って理解できるようにする。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講義の予習・復習にとどまらず、日頃から、新聞やテレビの経済ニュースをフォローし、それらがそれぞれの経済問題の持続可能性にどのような影響を及ぼすかを予測する訓練を積むこと。授業外学習時間数としては、週4時間、1学期を通じて計60時間以上を目途とすること。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 経済の持続可能性とは？ 【第2回】 財政赤字の持続可能性1 【第3回】 財政赤字の持続可能性2 【第4回】 財政赤字の持続可能性3 【第5回】 年金の持続可能性1 【第6回】 年金の持続可能性2 【第7回】 バブルの発生・膨張・崩壊 【第8回】 合理的バブル 【第9回】 バブルの推計と崩壊確率 【第10回】 持続可能な経済発展1 【第11回】 持続可能な経済発展2 【第12回】 持続可能な経済発展3 【第13回】 持続可能な経済発展4 								
成績評価の方法	学期中2回を限度の小テスト（15%）、期末試験（70%）、授業への取り組み姿勢（15%）による。								
フィードバックの内容	小テストの結果等に対しては、授業中に速やかにコメントする。								
教科書									
指定図書									
参考書	『経済学入門15講』浅子和美（新世社）2021年								
教員からのお知らせ	教科書は特に指定せず、参考とする資料を配布する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	期末試験の他に、授業中に2回の小テストを行うが、授業で触れる内容に加えて、現実経済の動向にも注目しておく必要がある。十分に準備する心構えを有すること。								
実践的な教育内容									
その他									
講義コード	11C0125008	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義6〈保険論〉※経済・国際コース_2年生以上/特別講座9〈保険論〉※経済・国際コース_2年生以上				茶野 努		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	生命保険は人間生活における重要な役割を担っている。生死、病気といった避けられないリスクに対する備えとしてである。講義では生命保険の仕組み・制度について学ぶ。								
到達目標	人に生命保険についての基礎知識を説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	公開している講義資料を打ち出して、事前に学習の上講義に参加すること。 上記に示した授業外の学修は、60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス・リスクとは何か 【第2回】 リスクを計算する 【第3回】 保険の仕組み－収支相等の原則、大数の法則 【第4回】 生命保険と損害保険 【第5回】 保険の種類および販売 【第6回】 保険契約の法律的特徴 【第7回】 保険約款 【第8回】 保険料計算（1） 【第9回】 保険料計算（2） 【第10回】 責任準備金・契約者配当準備金 【第11回】 生命保険業の規制 【第12回】 ディスクロージャー 【第13回】 授業内の最終試験と講評 								
成績評価の方法	授業内の最終試験（100%）によります。								
フィードバックの内容	解説は最終回であわせて行います。								
教科書	『保険と金融から学ぶ リスクマネジメント（仮）』岡田太・茶野努・平澤敦（中央経済社）2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	http://chanoppy.wixsite.com/chano に講義資料がアップしてあります。 教科書を購入してください。								
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、授業後に対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125009	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義7(リスク・マネジメント)※経済・国際コース限定/特別講座10(リスク・マネジメント)※経済・国際コース限定				茶野 努		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融規制の根拠を明らかにしたうえで、銀行監督の枠組みである BIS 規制の変遷とその表裏をなす金融機関におけるリスク管理について概説する。								
到達目標	金融リスク管理についての基礎知識を修得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	公開している講義資料を打ち出して、事前に学習の上講義に参加すること。 上記に示した授業外の学修は、60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 金融規制の根拠 【第3回】 金融規制の新しい流れ 【第4回】 バーゼルⅡ 【第5回】 リーマンショックとバーゼルⅢ 【第6回】 為替先物 【第7回】 先物 【第8回】 オプション 【第9回】 デルタヘッジ、スワップ 【第10回】 ALM(資産負債管理) 【第11回】 バリュアット・リスク (VaR) 【第12回】 統合リスク管理 (ERM) 【第13回】 授業内の最終試験と講評								
成績評価の方法	授業内の最終試験(100%)により評価します。								
フィードバックの内容	授業内に解説等を行い、対応を図ります。								
教科書	『保険と金融から学ぶ リスクマネジメント』岡田太・茶野努・平澤敦(中央経済社)2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	http://chanoppy.wixsite.com/chano に講義資料がアップしてあります。 教科書を購入してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125011	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義9(現代商品市場論)※2018年～以降入学生用				林 康史		第1期		
履修前提条件	備考								
授業の目的	近時のコモディティの価格の動きは、マクロ経済のみならず個人にとっても無縁ではいられないものとなっている。本講義では、商品市場の仕組み、リスク・リターン概念等、資産運用の理論と実際を学習する。外国為替市場のシミュレーション・ゲーム等を行う。 なお、本講義(第5回～第10回にオンデマンドを予定。その他、ゲスト・スピーカーを招聘予定)は、日本取引所グループ/東京商品取引所の協力を得て行われる。								
到達目標	資産運用及びリスク管理の理論と実際についての知識を踏まえ、商品市場の動向(市場構造、投資手法、制度等)について論理立てて自ら考察できるようになること(具体的には、商品や商品市場を分析できる能力)を、到達目標とする。金融・証券分野の基本的な知識を身につけるとともにそれらの理解を深めることも期待できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各授業回の前後に、オンデマンド資料等の学習を求められることがある。 授業外学修時間には、指示した資料の視聴、読解、課題の考察等を行う(理解が困難なところは、繰り返し学習のこと)。13回2単位の本科目の授業外学修時間は60時間である。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス/市場とは、商品とインフレ、商品と株式 外国為替市場のシミュレーション・ゲーム(模擬取引)①</p> <p>【第2回】 金融・証券市場(総論) 模擬取引②</p> <p>【第3回】 デリバティブ取引の基礎・早わかり① 模擬取引③</p> <p>【第4回】 デリバティブ取引の基礎・早わかり② 模擬取引④</p> <p>【第5回】 デリバティブ取引①:先渡、先物 【第6回】 デリバティブ取引②:オプション、スワップ 【第7回】 デリバティブ取引③:デリバティブ総論 【第8回】 商品市場各論①:金属市場 【第9回】 商品市場各論②:エネルギー市場 【第10回】 リスクとリターン 【第11回】 小括(東京商品取引所:特に第5回～第10回の内容) 【第12回】 デリバティブの歴史(米会所) 【第13回】 総括/予測、運用スタイル、ポートフォリオ構築</p> <p>※ 第5回～第10回はオンデマンドを予定。 適宜、現場経験の豊富なゲストスピーカーによる講義も行う予定(都合により、計画が変更となることがある)。 金融論を履修していることが望ましい(効率よく学ぶこと)。 可能であれば、取引所の見学等も行いたい。 なお、これらの講義・学習は、オンデマンドの資料による場合がある。</p>								
成績評価の方法	期末試験(35%)・確認テスト(35%)・レポート(20%)・授業への取り組み姿勢(10%)で、総合的に評価する(期末試験は定期期間中に行うか、第13回に行うかは未定<授業の進捗状況による>)。								
フィードバックの内容	授業時に質問を受け、応答する。また、適宜、「Q&A」等を掲示する。								
教科書	指定しない								
指定図書	『ジム・ロジャーズが語る 商品の時代』ジム・ロジャーズ(日経ビジネス人文庫)2008年、『欲望と幻想の市場～伝説の投機王リバモア』エドウィン・ルフェーブル(東洋経済新報社)1999年、『トレーダーの発想術～マーケットで勝ち残るための70の箴言』ロイ・ロングストリート(日経BP社)2014年、『商品先物の実話と神話』ゴートン、ルーヴェンホルスト(日経BP社)2006年、『コモディティ市場と投資戦略～「金融市場化」の検証』池尾和人・大野早苗(編)(勁草書房)2014年								
参考書	『改定版 基礎から学ぶ デイトレード～マーケットを理解するための思考術』林康史(日経BP社)2013年、『入門 商品デリバティブ』宇佐美洋・小野里光博(東洋経済新報社)2015年								
教員からのお知らせ	“商品市場”を学ぶ自覚して受講すること。 6割以上の出席が求められる(6割未満の場合は、成績対象外となる場合がある)。 連絡事項はポータルサイトに掲示するので、定期的に確認してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時、また、メール等(hotmail)で受付ける。オフィスアワー時の訪問は事前に連絡のこと。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他	この授業は、東京商品取引所の協力のもと開講される。オンデマンドの回もあるが、それらの講義回の資料についてもノートを作成する等の対応が求められる。								

講義コード	11C0125014	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	慶田 昌之	開講期	第1期
科目名	特殊講義12(日経で学ぶビジネススキル・アクションラーニング1) ※2018年~以降入学生用				慶田 昌之		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	グループに分かれてテーマを決め、企業のインタビューなどの関連取材を企画・実行し、その成果を新聞という形で発表することを通して、現実の経済問題を調査し、わかりやすく表現する技術を学ぶことを目的とする。今後の就職活動やビジネスライフで求められるスキルを身につける。								
到達目標	日経電子版に触れ、経済ニュースの収集・活用を習慣づけることができる。新聞、テレビ、インターネットなどの経済ニュースを日常的に読み解き、ビジネスに役立つナレッジとして活用できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業に先立ち、新聞記事にアクセスして読んでおくこと。グループワークの事前準備を行うこと。(60時間以上)								
授業計画	【第1回】ガイダンス (日経電子版の使い方、志望業種アンケート)			【第8回】グループ演習・編集会議(3)			【第9回】ビジネス文章力を鍛える(2)		
	【第2回】経済トレンドを読む(1)			【第10回】グループ演習・編集会議(4)			【第11回】グループ演習・編集会議(5)		
	【第3回】経済トレンドを読む(2)			【第12回】特集記事のテーマ発表(1)			【第13回】特集記事のテーマ発表(2)		
	【第4回】経済トレンドを読む(3)								
	【第5回】グループ演習・編集会議(1)								
	【第6回】ビジネス文章力を鍛える(1)								
	【第7回】グループ演習・編集会議(2)								
成績評価の方法	授業での取り組み姿勢(40%)、提出物(60%)により評価する。出席が少ないなど授業意欲が認められない者には、単位を与えない。								
フィードバックの内容	各回で担当する講師から案内する。								
教科書	『日経業界地図 2025年版』日本経済新聞社編(日経 BP 日本経済新聞出版) 2024/ 8 /24								
指定図書	『Q&A 日本経済のニュースがわかる! 2025年版』日本経済新聞社編(日経 BP 日本経済新聞出版) 2024/ 9 /12、『図解でわかる時事重要テーマ100 2025-2026』日経 HR 編集部(日経 HR 編集部編著) 2024/10/ 8								
参考書	『日経キーワード2025-2026』日経 HR 編集部(日経 HR) 2024/12/ 5、『日経 TEST 公式テキスト&問題集 2025-26年版』日本経済新聞社編(日経 BP 日本経済新聞出版) 2025/ 3 /17								
教員からのお知らせ	授業の履修にあたって、大学メールに連絡することがある。大学メールを必ずチェックすること。また、グループワークを重視する講義形式のため、各グループの進捗状況によって、授業計画を若干変更する可能性がある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談の方法は、最初の授業に指示します。								
アクティブラーニングの内容	グループに分かれて特集記事のテーマを決め、企業などにアポイントメントを取って取材する。グループでメンバーの担当を決め、編集会議を開いて取材方法・取材内容を吟味し、分担して特集記事を執筆・発表する。								
実践的な教育内容									
その他	日本経済新聞社から派遣された講師が、30年以上に及ぶ記者・デスクの経験を生かし、取材・記事執筆のポイントを指導する。国内外の経済問題の解説、ビジネスメールやエントリーシートなどの文章力向上の演習を行う。								

講義コード	11C0125016	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	慶田 昌之	開講期	第2期
科目名	特殊講義14(日経で学ぶビジネススキル・アクションラーニング2) ※2018年~以降入学生用				慶田 昌之		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	グループに分かれてテーマを決め、企業のインタビューなどの関連取材を企画・実行し、その成果を新聞という形で発表することを通して、現実の経済問題を調査し、わかりやすく表現する技術を学ぶことを目的とする。今後の就職活動やビジネスライフで求められるスキルを身につける。								
到達目標	新聞、テレビ、インターネットなどの経済ニュースを日常的に読み解き、ビジネスに役立つナレッジとして活用できる。ビジネスで求められる常識・マナーを活用できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業に先立ち、新聞記事にアクセスして読んでおくこと。グループワークの事前準備を行うこと。(60時間以上)								
授業計画	【第1回】ガイダンス(フィールドワークの進め方)			【第8回】グループ演習・編集会議(6)			【第9回】グループ演習・編集会議(7)		
	【第2回】グループ演習・編集会議(1)			【第10回】特集記事発表・フィードバック(1)			【第11回】特集記事発表・フィードバック(2)		
	【第3回】グループ演習・編集会議(2)			【第12回】特集記事発表・フィードバック(3)			【第13回】ビジネス文章力を鍛える(2)		
	【第4回】グループ演習・編集会議(3)								
	【第5回】ビジネス文章力を鍛える(1)								
	【第6回】グループ演習・編集会議(4)								
	【第7回】グループ演習・編集会議(5)								
成績評価の方法	授業での取り組み姿勢(40%)、提出物(60%)により評価する。出席が少ないなど授業意欲が認められない者には、単位を与えない。								
フィードバックの内容	各回で担当する講師から案内する。								
教科書	『日経業界地図 2025年版』日本経済新聞社編(日経 BP 日本経済新聞出版) 2024/ 8 /24								
指定図書	『Q&A 日本経済のニュースがわかる! 2025年版』日本経済新聞社編(日経 BP 日本経済新聞出版) 2024/ 9 /12、『図解でわかる時事重要テーマ100 2025-2026』日経 HR 編集部(日経 HR 編集部編著) 2024/10/ 8								
参考書	『日経キーワード2025-2026』日経 HR 編集部(日経 HR) 2024/12/ 5、『日経 TEST 公式テキスト&問題集 2025-26年版』日本経済新聞社編(日経 BP 日本経済新聞出版) 2025/ 3 /17								
教員からのお知らせ	授業の履修にあたって、大学メールに連絡することがある。大学メールを必ずチェックすること。また、グループワークを重視する講義形式のため、各グループの進捗状況によって、授業計画を若干変更する可能性がある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談の方法は、最初の授業に指示します。								
アクティブラーニングの内容	グループに分かれて特集記事のテーマを決め、企業などにアポイントメントを取って取材する。グループでメンバーの担当を決め、編集会議を開いて取材方法・取材内容を吟味し、分担して特集記事を執筆・発表する。								
実践的な教育内容									
その他	日本経済新聞社から派遣された講師が、30年以上に及ぶ記者・デスクの経験を生かし、取材・記事執筆のポイントを指導する。国内外の経済問題の解説、ビジネスメールやエントリーシートなどの文章力向上の演習を行う。								

講義コード	11C0125017	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期															
科目名	特殊講義15(経済政策の実践)※2018年~以降入学生用 ※全コース_3年生以上				村田 啓子		第1期																
履修前条件					備考																		
授業の目的	本講義では、財政金融政策を中心に、経済政策及びその実践について学ぶことにより、一人一人の学生が、実体経済及び経済政策について、自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養うことを目指します。アクティブラーニングの手法を取り入れ、受講生数に応じグループワークを活用し、主体的に学んでいく場を提供することを考えています。																						
到達目標	現代日本経済の現状や経済政策、及びそれらに関する基本情報を理解し、批判的に検討・評価するために有用な基礎力を身に着ける。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	事前に資料や課題を読み、予習・復習を行い、必要に応じ発表の準備をする(予習2時間・復習2時間を目安に計60時間以上の授業外学修)。政府・日銀の公表資料など、講義で紹介された、経済政策を理解するための基礎知識を身に着け、自分でその意味を考えられるようになりましょう。日常生活において新聞等で内外の経済記事・ニュースを読み、考える習慣を身につけましょう。																						
授業計画	<p>(下記の内容は、現時点で予定しているもので、これらのうち幾つかについて重点を置いたり、新たな論点を取り上げることも考えています。)</p> <table border="0"> <tr> <td>【第1回】 概論・経済政策とは何か</td> <td>【第8回】 グループワーク発表(1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 景気判断において重視される最も重要な12の経済指標</td> <td>【第9回】 経済財政の基本方針と予算編成</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 景気判断の実際</td> <td>【第10回】 経済対策と補正予算</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 グループワーク準備</td> <td>【第11回】 政府レポートの読み方(2)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 政府レポートの読み方(1)</td> <td>【第12回】 経済・財政一体改革におけるEBPMの取組み</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 日本における最近の金融政策運営</td> <td>【第13回】 グループワーク発表(2)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 米国・欧州における最近の金融政策運営</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 概論・経済政策とは何か	【第8回】 グループワーク発表(1)	【第2回】 景気判断において重視される最も重要な12の経済指標	【第9回】 経済財政の基本方針と予算編成	【第3回】 景気判断の実際	【第10回】 経済対策と補正予算	【第4回】 グループワーク準備	【第11回】 政府レポートの読み方(2)	【第5回】 政府レポートの読み方(1)	【第12回】 経済・財政一体改革におけるEBPMの取組み	【第6回】 日本における最近の金融政策運営	【第13回】 グループワーク発表(2)	【第7回】 米国・欧州における最近の金融政策運営	
【第1回】 概論・経済政策とは何か	【第8回】 グループワーク発表(1)																						
【第2回】 景気判断において重視される最も重要な12の経済指標	【第9回】 経済財政の基本方針と予算編成																						
【第3回】 景気判断の実際	【第10回】 経済対策と補正予算																						
【第4回】 グループワーク準備	【第11回】 政府レポートの読み方(2)																						
【第5回】 政府レポートの読み方(1)	【第12回】 経済・財政一体改革におけるEBPMの取組み																						
【第6回】 日本における最近の金融政策運営	【第13回】 グループワーク発表(2)																						
【第7回】 米国・欧州における最近の金融政策運営																							
成績評価の方法	①グループワークやディスカッションへの取り組み姿勢(20%)、②発表時の内容とプレゼンテーション(50%)、③各回の講義における発言及び感想文(30%)。受講生数によりグループワークによる全員の発表等が不可能な場合は、小テスト(1-2回、最大30%)及び期末試験(最小70%)により評価する。																						
フィードバックの内容	グループワークの発表、小テストの結果などについては、講義内で速やかに講評する。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	ミクロ経済学及びマクロ経済学を既に修得していることが望ましい。 日本経済の現状及び経済政策について興味のある学生の受講を推奨します。 講義の進め方を初回で説明するので、必ず出席してください。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、LMSのメッセージ機能でも受け付けます(利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。																						
アクティブラーニングの内容	講義内容に関するディスカッションや、受講生の数に応じグループワークを行います。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11C0125020	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期															
科目名	特殊講義18(経済のダイナミクス)※2018年~以降入学生用 ※全コース_3年生以上				小野崎 保		第1期																
履修前条件					備考																		
授業の目的	株価や為替レートが時々刻々と変動することはメディアなどで連日報じられます。マクロ経済は、こうした日々の経済活動の変化を通じて景気循環を繰り返します。景気循環だけでなく、経済が時間を通じてどのように変化するかを研究するのが「エコノミック・ダイナミクス(経済動学)」です。この授業では、景気循環のメカニズムについて、データによる分析と理論的分析を通じて学びます。																						
到達目標	・経済データや経済記事を通じて経済変動の様子を理解できるようになる。 ・経済変動の要因を理解できるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で扱う項目について配付資料などを通じて理解を深めること。適宜提示する参考文献などを積極的に読むこと。新聞などの経済記事にできるだけ目を通す習慣を身につけること。これらと適宜課される課題とを併せて、授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 マクロ経済学の復習(1)</td> <td>【第8回】 ハロッド・モデル(1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 マクロ経済学の復習(2)</td> <td>【第9回】 ハロッド・モデル(2)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 経済統計で見るマクロ経済変動(1)</td> <td>【第10回】 数学の準備(3)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 経済統計で見るマクロ経済変動(2)</td> <td>【第11回】 メツラー・モデル</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 マクロ経済学の復習(3)</td> <td>【第12回】 サミュエルソン=ヒックス・モデル(1)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 数学の準備(1)</td> <td>【第13回】 サミュエルソン=ヒックス・モデル(2)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 数学の準備(2)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 マクロ経済学の復習(1)	【第8回】 ハロッド・モデル(1)	【第2回】 マクロ経済学の復習(2)	【第9回】 ハロッド・モデル(2)	【第3回】 経済統計で見るマクロ経済変動(1)	【第10回】 数学の準備(3)	【第4回】 経済統計で見るマクロ経済変動(2)	【第11回】 メツラー・モデル	【第5回】 マクロ経済学の復習(3)	【第12回】 サミュエルソン=ヒックス・モデル(1)	【第6回】 数学の準備(1)	【第13回】 サミュエルソン=ヒックス・モデル(2)	【第7回】 数学の準備(2)	
【第1回】 マクロ経済学の復習(1)	【第8回】 ハロッド・モデル(1)																						
【第2回】 マクロ経済学の復習(2)	【第9回】 ハロッド・モデル(2)																						
【第3回】 経済統計で見るマクロ経済変動(1)	【第10回】 数学の準備(3)																						
【第4回】 経済統計で見るマクロ経済変動(2)	【第11回】 メツラー・モデル																						
【第5回】 マクロ経済学の復習(3)	【第12回】 サミュエルソン=ヒックス・モデル(1)																						
【第6回】 数学の準備(1)	【第13回】 サミュエルソン=ヒックス・モデル(2)																						
【第7回】 数学の準備(2)																							
成績評価の方法	課題(40%)、授業への取り組み姿勢(20%)、定期試験(40%)で評価します。																						
フィードバックの内容	授業に関する質問・感想・コメントをリアクションペーパーとして適宜提出してもらい、重要な質問やコメントに対しては口頭あるいは文書にて回答します。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	・「マクロ経済学」の単位を取得していることが望ましい。 ・第2期に開講される『複雑系経済学』と関連する内容があるので、両方を履修することが望ましい。 ・必要に応じて少し高度な数学を使いますが、基礎から説明します。																						
オフィスアワー	メール(onozaki@ris.ac.jp)にて随時受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11C0125021	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義19(複雑系経済学)※2018年～以降入学生用 ※全コース_3年生以上				小野崎 保		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	ヒトの脳にはおよそ1000億個のニューロン（神経細胞）があるといわれていますが、それらの組み合わせによってどのように知能が生じるのか、どのように記憶が蓄積されるのかなどについてまだほとんど何も分かっていません。また、マクロ経済は、ミクロレベルでの多数の異質な経済主体による日々の経済活動の積み重ねの結果として景気循環を繰り返しつつ成長していきませんが、こうした経済変動のメカニズムは未だ解明されていません。こうしたヒトの脳や経済などのような、複雑に入り組んだ構造と体系をもつシステム（系）のことを「複雑系」といいます。この授業では、最近数十年間に発展してきた複雑系に関する科学のものの見方を解説するとともに、経済を複雑系として捉えるとどのように見えるかについて考えます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑系とは何かを理解できるようになる。 ・ 複雑系として経済を捉えることができるようになる。 ・ 現在進行中である複雑系の科学の面白さや重要性を理解できるようになる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で扱う項目について、講義資料や参考文献などを通じて復習し理解度を確認すること。これらと適宜課される課題とを併せて、授業外に合計60時間以上の学習をおこなうこと。								
授業計画	【第1回】 複雑系とは何か 【第2回】 複雑性の現象：カオス（1） 【第3回】 複雑性の現象：カオス（2） 【第4回】 複雑性の現象：カオス（3） 【第5回】 複雑性の現象：フラクタル（1） 【第6回】 複雑性の現象：フラクタル（2） 【第7回】 複雑性の現象：フラクタル（3）			【第8回】 複雑性の現象：自己組織化臨界 【第9回】 複雑性の現象：複雑ネットワーク（1） 【第10回】 複雑性の現象：複雑ネットワーク（2） 【第11回】 複雑系経済学（1） 【第12回】 複雑系経済学（2） 【第13回】 複雑系経済学（3）					
成績評価の方法	課題（40%）、授業への取り組み姿勢（20%）、定期試験（40%）で評価します。								
フィードバックの内容	授業に関する質問・感想・コメントをリアクションペーパーとして適宜提出してもらい、重要な質問やコメントに対しては口頭あるいは文書にて回答します。								
教科書	『複雑系入門 一知のフロンティアへの冒険』井庭崇・福原義久（NTT出版）1998年								
指定図書									
参考書	『ガイドツアー 複雑系の世界：サンタフェ研究所講義ノートから』メラニー・ミッチェル（紀伊國屋書店）2011年								
教員からのお知らせ	・ 第1期に開講される『経済のダイナミクス』と関連する内容があるので、両方を履修することが望ましい。 ・ 必要に応じて少し高度な数学を使いますが、基礎から説明します。								
オフィスアワー	メール（onozaki@ris.ac.jp）にて随時受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125022	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義20(経済学を俯瞰する)※2018年～以降入学生用				浅子 和美		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	『入門経済学』とは異なる視点での『経済学の入門』を講義する。								
到達目標	13回の講義を通じて、経済学をマスターすることが何をどうすることによって到達できるかを順を追って合点できるようにする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義の予習・復習にとどまらず、日頃から、新聞やテレビの経済ニュースをフォローし、それらが日本経済のミクロ・マクロの側面にどのような影響を及ぼすかを予測する訓練を積むこと。授業外学習時間数としては、週4時間、1学期を通じて計60時間以上を目途とすること。								
授業計画	【第1回】 経済学入門ースタートラインに立つ 【第2回】 まずは日本と世界の数字を押えておこう！ 【第3回】 経済学が歩んだ道のり 【第4回】 市場経済と計画経済は対峙する 【第5回】 現実を知り、あるべき世の中を探る 【第6回】 経済を分析するー理論と実証 【第7回】 ミクロとマクロ 【第8回】 ミクロ経済学を垣間見る 【第9回】 マクロ経済学を垣間見る 【第10回】 統計学・計量経済学は必修！ 【第11回】 政府の市場経済への介入が経済政策 【第12回】 経済の持続可能性を問う 【第13回】 これができると経済学に強くなる								
成績評価の方法	学期中2回を限度の小テスト（15%）、期末試験（70%）、授業への取り組み姿勢（15%）による。								
フィードバックの内容	小テストの結果等に対しては、授業中に速やかにコメントする。								
教科書	『経済学入門15講』浅子和美（新世社）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業は指定した教科書に沿って行うために、教科書を常に身近に置いて参照できるようにしておくこと。教科書以外の追加的な資料を用いる場合には、その都度配布する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	期末試験の他に、授業中に2回の小テストを行うが、授業で触れる内容に加えて、現実経済の動向にも注目しておく必要があり、十分に準備する心構えを有すること。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0125025	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	中村 宗之	開講期	第1期
科目名	特殊講義23(現役ジャーナリストに学ぶ現代の日本)/特別講座2(現役ジャーナリストに学ぶ現代の日本)					中村 宗之		第1期	
履修前提条件				備考					
授業の目的	本授業は、活躍する現役のジャーナリスト（講師陣は共同通信社のジャーナリスト）が現代の政治、経済、国際、社会等の分野における重要なトピックを講義することを通じて、受講生が（既存の教科書ではなかなか得られない）活きた「知」を習得し、政治・経済をはじめとする専門的知識を身につけ、幅広くかつ深い教養と分析力を高めることを目的とする。								
到達目標	新聞や雑誌等のニュース記事（現代の政治・経済・社会をはじめとする諸問題）について、深いレベルで理解し、自ら分析できるようになるとともに、これらの問題について自らの意見や考えを論理的に述べられるようになること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目の必要な授業外学修時間は60時間以上である。 毎回のトピックに関して、事前に新聞・雑誌等の記事や書籍等を読むことを通じて予習しておくとともに、学習した重要な点等について十分に復習すること。講師が与える課題に着実に取り組むこと。								
授業計画	<p>本授業は、6名の講師陣によるオムニバス形式により行われる。</p> <p>講師：有田司氏（共同通信社編集局長・元外信部長） 【第1回】真実とは何か～ジャーナリズムの存在意義</p> <p>講師：根本裕子氏（共同通信社外信部記者・キウ取材経験） 【第2回】ロシア・ウクライナ戦争の現場～ウクライナにとつての平和とは</p> <p>講師：井手壮平氏（共同通信社経済部次長・ロンドン特派員経験） 【第3回】経済指標を読み解く～「景気」はどう判断するのか 【第4回】経済構造の変化を追う～報道の現場で見た20年史 【第5回】あるべき経済を考える～主流と異端のはざま</p> <p>講師：杉田雄心氏（共同通信社編集局次長・前政治部長） 【第6回】1票を楽しむ～選挙に票を投じる前に政治眼力を身につけよう 【第7回】政治を楽しむ～社会に出る前に政官民のじゃんけんを知っておこう 【第8回】石破内閣を楽しむ～政治リーダーのストーリーを理解しておこう</p> <p>講師：水野雅央氏（共同通信社編集局次長・前くらし報道部長） 【第9回】「全世代型社会保障」とは～少子化を考える 【第10回】年金はいくらもらえる～不安の元を探る</p> <p>講師：山脇絵里子氏（共同通信社編集局次長・前社会部長） 【第11回】被害者を守る法と課題～ストーカー・DV・インターネット中傷 【第12回】世界118位が映す日本の男女格差～コロナ禍が招いた「女性不況」 【第13回】多様化する社会～選択的夫婦別姓と同性婚、外国人労働者</p>								
成績評価の方法	授業での取り組み姿勢（40%）、提出物（60%）により評価する。								
フィードバックの内容	課題についての講評を授業内に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	上記の各回の講義テーマについては、（社会情勢等の変化により）変わる可能性もあります。また、講師は全員、現役ジャーナリストであり本業を有していますので、講義の順番が変更になる等の可能性もあります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、Teams のメッセージ機能でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容	現役のジャーナリストがその経験と知識を活かして、政治、経済、国際、社会などの領域における知見を提供し、現代社会の理解と分析を深める授業を行う。								
その他									

講義コード	11C0125026	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特殊講義24(FP基礎講座) ※2024年~以降入学生用/特別講座7(FP基礎講座) ※2018~2023年度入学生用				平 伊佐雄		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	実社会では自らの判断と責任で行動する『自己責任』が求められます。資産形成において、金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断出来る能力を磨けば、経済的な幸福 (Financial wellbeing) の実現に加えて、金銭的なトラブルから身を守ることも役立ちます。本授業では、自らが合理的な判断や意思決定を行う「金融能力 (Financial capability)」の習得を目指します。								
到達目標	①経済と金融・証券市場の関係を理解し、経済ニュース等の内容についても把握できる。 ②自分の将来設計を立てキャッシュフロー (資金計画) 表を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えられる。 ③資産形成と金融に関する適切な判断と行動に必要な Financial capability を習得する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	①講義テーマに関連するトピックもとり上げるので、日頃から金融・経済に関する報道に関心を持ち、それらに目を通しておく。(毎週150分) ②提出課題等を真摯に取り組み、期限厳守で必ず提出する。(各12時間) ③この講義では毎回のアンケート・小テストを出席要件とするので、忘れずに回答する。(毎回30分)								
授業計画	【第1回】 ガイダンス～経済的な幸福を目指す、株式模擬投資説明 【第2回】 資産形成制度、セーフティネット 【第3回】 ライフプランニング (1) ～ライフデザインとプランニング 【第4回】 ライフプランニング (2) ～キャッシュフロー表の作成 【第5回】 金融・経済のしくみ① ～实体经济と金融市場 【第6回】 経済・金融のしくみ②～経済活動と金融の役割 【第7回】 金融商品の特性とリスクマネジメント 【第8回】 アセットクラス※の基礎知識/株式 (1) ～株式の基礎、ESG 【第9回】 アセットクラスの基礎知識/株式 (2) ～企業・市場分析 【第10回】 アセットクラスの基礎知識/債券～債券の基礎、SDG 【第11回】 アセットクラスの基礎知識/投資信託 【第12回】 アセットクラスの基礎知識/外貨建て金融商品 【第13回】 アセットクラスの基礎知識/金融派生商品								
成績評価の方法	集合しての筆記試験は実施しない。課題・小テスト等で総合的に評価する。配点は以下の通りである。キャッシュフロー表 (30%)、株マップ (株式投資シミュレーションゲーム) 参加レポート (30%)、小テスト (20%)、その他の課題のほか授業態度など (20%)。 ※ 課題等は必ず期日までに提出。								
フィードバックの内容	講義後に提示した小テストについては後日の授業の中で解説する。 課題・レポート等については提出期限後の授業内等でポイントを解説する。 質問等は授業中、もしくは授業直後、またはメールにて受付け、随時回答する。								
教科書 指定図書									
参考書	『金融経済と資産運用の基礎』日興リサーチセンター (ブイーツソリューション) 2019年8月、『株式投資』ジェレミー・シーゲル (日経 BP) 2009年7月								
教員からのお知らせ	講義形式で各テーマに沿ったニュース等も解説しながら進める。授業で得た知識や模擬投資体験等を通じて、实体经济と市場の関係を理解し、資産形成の手法を実践し、経済的な幸福を目指していただきたい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業中や終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。あるいはメール等で受け付ける。メールアドレスは以下の通り。task10880@gmail.com								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学修として、課題作成のための投資シミュレーション・ゲームに参加し、毎週、仮想投資を行う。								
実践的な教育内容	本授業は SMBC 日興証券グループの寄附講座である。 実務経験を持つ SMBC 日興証券グループの講師が授業を進める。								
その他									

講義コード	11C0225026	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特別講座4〈英語検定1〉 ※2018～2023年度入学生用 国際コース限定				小沢 奈美恵		第2期集中		
履修前提条件					備考				
授業の目的	国際コースで推奨されている英語検定で高いスコアを取得することを目的とする。この授業では、TOEIC L&R のスコア550点以上（TOEFL ITP 480点以上、TOEFL iBT 55点以上、英検2級）の獲得を目指した TOEIC 対策を行う。授業は複合的な学習形態（自学自習、TOEIC 講座への参加）で進める。ペルリッツによる講座（2コマ）を受講し、TOEIC を受験して成果を確認する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) TOEIC L&R のテスト形式に慣れる。 2) TOEIC リスニングで必要な速聴力を身につけることができる。 3) TOEIC リーディングで必要な速読力を身につけることができる。 4) TOEIC L&R で頻繁に出題される語彙力を習得する。 4) TOEIC L&R で550点を獲得する。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間として、教科書、講義ノートを用いて60時間以上取り組むこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 TOEIC L&R 問題形式に関する講義と実践（1） 【第2回】 TOEIC L&R 問題形式に関する講義と実践（2） 【第3回】 リスニング攻略法 Part 1 【第4回】 リスニング攻略法 Part 2 【第5回】 リスニング攻略法 Part 3 【第6回】 リスニング攻略法 Part 4 【第7回】 リーディング攻略法 Part 5（1） 【第8回】 リーディング攻略法 Part 5（2） 【第9回】 リーディング攻略法 Part 6（1） 【第10回】 リーディング攻略法 Part 6（2） 【第11回】 リーディング攻略法 Part 7（1） 【第12回】 リーディング攻略法 Part 7（2） 【第13回】 まとめ 								
成績評価の方法	TOEIC 対策集中講座の取り組み姿勢（70%）と取得した TOEIC スコア（30%）による評価								
フィードバックの内容	課題や小テストに対する講評を授業内で行う。								
教科書	『TOEIC®L&R テスト書き込みドリル【全パート入門編】』早川 幸治（桐原書店）2017								
指定図書	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集11』国際ビジネスコミュニケーション協会（国際ビジネスコミュニケーション協会）2024								
参考書									
教員からのお知らせ	講義概要は第1回目の授業で詳細を告知します。								
オフィスアワー	講座終了時の休み時間に講師に相談してください。								
アクティラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0225027	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特別講座5〈英語検定2〉 ※2018～2023年度入学生用 国際コース限定				小沢 奈美恵		第2期集中		
履修前提条件					備考				
授業の目的	国際コースで推奨されている英語検定で高いスコアを取得することを目的とする。この授業では、TOEIC L&R のスコア650点以上（TOEFL ITP 520点以上、TOEFL iBT 70点以上、英検準1級）の獲得を目指した TOEIC 対策を行う。授業は複合的な学習形態（自学自習、TOEIC 講座への参加）で進める。ペルリッツによる TOEIC 講座を受講し、TOEIC を受験して成果を確認する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) TOEIC L&R のテスト形式に慣れる。 2) TOEIC リスニングで必要とされる高度な速聴力を身につけることができる。 3) TOEIC リーディングで必要とされる高度な速読力を身につけることができる。 4) TOEIC L&R で頻繁に出題される語彙力を習得する。 4) TOEIC L&R で650点を獲得する。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間として、教科書、講義ノートを用いて60時間以上取り組むこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 TOEIC L&R 問題形式に関する講義と実践（1） 【第2回】 TOEIC L&R 問題形式に関する講義と実践（2） 【第3回】 リスニング攻略法 Part 1 【第4回】 リスニング攻略法 Part 2 【第5回】 リスニング攻略法 Part 3 【第6回】 リスニング攻略法 Part 4 【第7回】 リーディング攻略法 Part 5（1） 【第8回】 リーディング攻略法 Part 5（2） 【第9回】 リーディング攻略法 Part 6（1） 【第10回】 リーディング攻略法 Part 6（2） 【第11回】 リーディング攻略法 Part 7（1） 【第12回】 リーディング攻略法 Part 7（2） 【第13回】 まとめ 								
成績評価の方法	TOEIC 対策集中講座の取り組み姿勢（70%）と取得した TOEIC スコア（30%）による評価								
フィードバックの内容	課題や小テストに対する講評を授業内で行う。								
教科書	テキストは未定								
指定図書	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集11』（国際ビジネスコミュニケーション協会）2024								
参考書									
教員からのお知らせ	講義概要は第1回目の授業で詳細を告知します。								
オフィスアワー	講座終了時の休み時間に講師に相談してください。								
アクティラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0225028	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特別講座6(英語検定3) ※2018~2023年度入学生用 国際コース限定				小沢 奈美恵		第2期集中		
履修前条件					備考				
授業の目的	国際コースで推奨されている英語検定で高いスコアを取得することを目的とする。この授業では、TOEIC L&R のスコア800点以上 (TOEFL ITP 570点以上、TOEFL iBT 89点以上、英検1級) の獲得を目指した TOEIC 対策を行う。授業は複合的な学習形態 (自学自習、TOEIC 講座への参加) で進める。ベルリッツによる講座を受講し、TOEIC を受験して成果を確認する。								
到達目標	1) 英語ニュースや英字新聞を聞いて概要を理解できる。 2) 短い英語ニュースなどを聞いて、主旨を再生できる速聴力を身につけることができる。 3) 短い英字新聞などを読んで、主旨を再生できる速読力を身につけることができる。 4) TOEIC L&R で頻繁に出題される語彙力を習得する。 4) TOEIC L&R で800点を獲得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修時間として、教科書、講義ノートを用いて60時間以上取り組むこと。								
授業計画	【第1回】 TOEIC L&R 問題形式に関する講義と実践 (1) 【第2回】 TOEIC L&R 問題形式に関する講義と実践 (2) 【第3回】 リスニング攻略法 Part 1 【第4回】 リスニング攻略法 Part 2 【第5回】 リスニング攻略法 Part 3 【第6回】 リスニング攻略法 Part 4 【第7回】 リーディング攻略法 Part 5 (1) 【第8回】 リーディング攻略法 Part 5 (2) 【第9回】 リーディング攻略法 Part 6 (1) 【第10回】 リーディング攻略法 Part 6 (2) 【第11回】 リーディング攻略法 Part 7 (1) 【第12回】 リーディング攻略法 Part 7 (2) 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	TOEIC 対策集中講座の取り組み姿勢 (70%) と取得した TOEIC スコア (30%) による評価								
フィードバックの内容	課題や小テストに対する講評を授業内で行う。								
教科書	教科書は未定。								
指定図書	『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 11』(国際ビジネスコミュニケーション協会) 2024年								
参考書									
教員からのお知らせ	講義概要は第1回目の授業で詳細を告知します。								
オフィスアワー	講座終了時の休み時間に講師に相談してください。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0225033	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特別講座11(簿記検定1) ※2018~2023年度入学生用 ※金融コース限定 1年生以上				慶田 昌之		第2期集中		
履修前条件					備考				
授業の目的	金融コースで推奨されている資格について、その取得を目指す。								
到達目標	この授業を受けることにより、[1] 取得を目指す資格について理解をする、[2] その資格と関連する経済学の分野を理解する、[3] その資格を経済社会でいかすにはどうするのか説明できる、[4] その資格を取得することを目標とする。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	資格取得のための勉強を継続すること。資格を活かせる経済活動に関して、新聞記事等を調べ、目を通すこと。 この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 どのような資格の取得を目指すのか1 【第2回】 どのような資格の取得を目指すのか2 【第3回】 どのような資格の取得を目指すのか3 【第4回】 一般技能として資格を考える1 【第5回】 一般技能として資格を考える2 【第6回】 一般技能として資格を考える3 【第7回】 資格に関連する経済学の分野とは1 【第8回】 資格に関連する経済学の分野とは2 【第9回】 資格に関連する経済学の分野とは3 【第10回】 資格に関連する経済学の分野とは4 【第11回】 資格に関連する経済学の分野とは5 【第12回】 資格と就職、キャリアについて考える1 【第13回】 資格と就職、キャリアについて考える2								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%) と資格の受験結果 (60%) で評価する。								
フィードバックの内容	授業や資格取得への取り組み姿勢に対して、適宜、コメントを行う。								
教科書									
指定図書	『2024年版 資格取り方選び方全ガイド』高橋書店編集部 (高橋書店) 2022/ 7 /16、『仕事のカatalog2023-24年版』(自由国民社) 2022/ 5 /11、『経営戦略とコーポレートファイナンス』砂川 伸幸 (著)、川北 英隆 (著)、杉浦 秀徳 (著)、佐藤 淑子 (著) (日本経済新聞出版) 2013/10/26、『企業経済学』小田切 宏之 (著) (東洋経済新報社) 2010/ 3 /19								
参考書									
教員からのお知らせ	Teams にて情報共有を行います。質問等も、これらを通じて行ってください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0225034	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	特別講座12(簿記検定2) ※2018~2023年度入学生用 ※金融コース限定_1年以上				慶田 昌之	第2期集中			
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融コースで推奨されている資格について、その取得を目指す。								
到達目標	この授業を受けることにより、[1] 取得を目指す資格について理解をする、[2] その資格と関連する経済学の分野を理解する、[3] その資格を経済社会でいかすにはどうするのか説明できる、[4] その資格を取得することを目標とする。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	資格取得のための勉強を継続すること。資格を活かせる経済活動に関して、新聞記事等を調べ、目を通すこと。 この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 どのような資格の取得を目指すのか1 【第2回】 どのような資格の取得を目指すのか2 【第3回】 どのような資格の取得を目指すのか3 【第4回】 一般技能として資格を考える1 【第5回】 一般技能として資格を考える2 【第6回】 一般技能として資格を考える3 【第7回】 資格に関連する経済学の分野とは1 【第8回】 資格に関連する経済学の分野とは2 【第9回】 資格に関連する経済学の分野とは3 【第10回】 資格に関連する経済学の分野とは4 【第11回】 資格に関連する経済学の分野とは5 【第12回】 資格と就職、キャリアについて考える1 【第13回】 資格と就職、キャリアについて考える2								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）と資格の受験結果（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	授業や資格取得への取り組み姿勢に対して、適宜、コメントを行う。								
教科書									
指定図書	『2024年版 資格取り方選び方全ガイド』高橋書店編集部（高橋書店）2022/ 7 /16、『仕事のカatalog2023-24年版』（自由国民社）2022/ 5 /11、『経営戦略とコーポレートファイナンス』砂川 伸幸（著）、川北 英隆（著）、杉浦 秀徳（著）、佐藤 淑子（著）（日本経済新聞出版）2013/10/26、『企業経済学』小田切 宏之（著）（東洋経済新報社）2010/ 3 /19								
参考書									
教員からのお知らせ	Teams にて情報共有を行います。質問等も、これらを通じて行ってください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0225035	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	特別講座13(銀行論1) ※2018~2023年度入学生用 ※経済・国際コース_3年以上			担当教員		畠山 久志	第1期
履修前条件				備考			
授業の目的	銀行の登場、その機能などについて歴史的視野から取り上げる。国民生活の中で、信用機能や決済手段を仲介するのが銀行であるが、時の為政者や社会思想によって、銀行の役割は変遷している。また意外と思われるが銀行は宗教との関係が強い。さらに国際貿易の為替ニーズが中央銀行制度を整備させた。日本の銀行制度はアメリカの銀行制度を移入したもののだが、独自の地域金融としても発展しておりそれらの特徴などを解説する。						
到達目標	銀行の長い歴史における社会的意義を捉え、銀行に求められる役割の重要性を認識するとともに銀行を取り巻く環境変化と中央銀行の金融政策について理解できる。変革期における銀行の現代的意義と方向性を的確に把握することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業1コマについて、2時間の予習と2時間の復習(計4時間)を行う必要がある。授業は13回なので、全体で60時間以上の授業外学修を行うことが求められる。授業外学修で取り組むべき課題や参考文献等については、適宜授業時間内およびポータルサイトにて指示する。						
授業計画	<p>【第1回】概説：銀行とは(金融における銀行の役割・基本業務) 間接金融、直接金融</p> <p>【第2回】銀行の歴史1(金利の意義) 金利とは何か。金利を認めない金融の存在</p> <p>【第3回】銀行の歴史2(貿易と銀行) 金融と保険</p> <p>【第4回】銀行の歴史3(中央銀行の登場) オランダ、イギリス</p> <p>【第5回】マネーストック(資金循環) 日本の資金循環 日本銀行</p> <p>【第6回】日本の銀行1(メガバンクと地域金融機関) 民間銀行</p> <p>【第7回】日本の銀行2(信託銀行) 信託専門銀行、信託会社</p> <p>【第8回】日本の銀行3(協同組織金融機関と消費者金融) 信用金庫、信用組合、労働金庫等</p> <p>【第9回】銀行法の解説1(金融基幹法・分業主義) 間接金融中心主義</p> <p>【第10回】銀行法の解説2(業務) 固有業務、その他の業務</p> <p>【第12回】銀行法の解説3(組織形態) 銀行持株会社、銀行子会社</p> <p>【第13回】バーゼル規制Ⅲ 融資とリスク</p>						
成績評価の方法	基本的に期末試験(レポート等)の成績に基づいて評価する(80%)。加えて、授業への取り組み姿勢(質問、意見など)を考慮する(20%)。						
フィードバックの内容	授業内容の確認、質問・意見等について次回、ないしまとめて適宜解説する。						
教科書	『金融入門第3版』日本経済新聞社(日本経済新聞社出版)2020、『現代の金融』池尾和人(筑摩書房)2010						
指定図書	『マネーの進化史』ニール・ファーガソン(早川書房)2009、『銀行の歴史』エドウィン・グリーン(原書房)1994、『地域金融機関の信託・相続』畠山久志(日本加除出版)2019						
参考書							
教員からのお知らせ	基本的にPDFのスライドを用いて、解説をしていきます。スライドはポータルサイトに掲示します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、各授業の終わりに教室で受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	金融について関心がある事項を予めまとめ、授業でどの様に解説されるかに注意し、確認してください。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11C0225036	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	畠山 久志	開講期	第2期
科目名	特別講座14(銀行論2) ※2018~2023年度入学生用 ※経済・国際コース_3年以上				担当教員		畠山 久志	開講期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	わが国は、アメリカの金融制度を移入し続けている。そこで、まずアメリカの金融・銀行制度を説明する。次にわが国の金融制度に係る基本法である銀行法、金融商品取引法などの業法を解説する。証券化の中で、銀行と証券会社の金融商品を巡ったデマケーションがあり、直接金融と間接金融の差異を深耕する。これらの金融機関に対する公的規制と救済制度を検証し、暗号資産、中央銀行デジタル通貨など最近の動きを取上げる。								
到達目標	現代の銀行業に係る法的規制が理解できる。また、グローバル化・IT化による金融環境の変化に対応する法的規制の見直し、及び証券化の中における金融商品のデマケーションと銀行と証券会社による開示規制、行為規制等の相違を把握できる。さらに金融監督の役割、救済策、新しい金融商品について説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業1コマについて、2時間の予習と2時間の復習(計4時間)を行う必要がある。授業は13回なので、全体で60時間以上の授業外学修を行うことが求められる。授業外学修で取り組むべき課題や参考文献等については、適宜授業内およびポータルサイトで指示する。								
授業計画	<p>【第1回】 アメリカの銀行制度とわが国銀行の歴史 金融法制は、アメリカ法の移入</p> <p>【第2回】 アメリカの銀行制度1 NY 初の世界大恐慌に対するニュー・ディール</p> <p>【第3回】 アメリカの銀行制度2 中央銀行制度と民間銀行</p> <p>【第4回】 アメリカの銀行監督体制 連邦銀等通貨当局</p> <p>【第5回】 アメリカの金融イベント(エンロン事件、リーマンショック) 大規模な不祥事件</p> <p>【第6回】 マイクロファイナンス(少額融資システム) 小規模融資</p> <p>【第7回】 デリバティブ取引1(取引の歴史・古代ギリシア) 現物取引、先物取引</p> <p>【第8回】 デリバティブ取引2(大阪米穀取引所等) 本格的デリバティブ取引の登場</p> <p>【第9回】 ディスクローチャーと監査制度、銀行の会計帳簿 複式簿記</p> <p>【第10回】 中央銀行デジタル通貨(CBDC) 暗号資産(BITCOIN 他)</p> <p>【第11回】 多様な金融取引(FX取引、投資信託) 投資、投機(ギャンブル)</p> <p>【第12回】 コンプライアンスとマネーロンダリング コンプライアンスの意義とターゲット</p> <p>【第13回】 金融 ADR 金融取引の苦情仲介処理</p>								
成績評価の方法	基本的に期末試験(レポート)の成績に基づいて評価する(80%)。加えて、授業への取り組み姿勢(質問、意見など)を考慮する(20%)。								
フィードバックの内容	授業内容の確認、意見、疑問等について、次回、ないしまとめて適時解説する。								
教科書	『アメリカ銀行法』川口恭弘(弘文堂)2020、『金融商品取引法入門第8版』黒沼悦郎(日経)2021								
指定図書	『仮想通貨法の仕組みと実務』畠山久志(日本加除出版)2018、『銀行法精義』小山嘉昭(キンザイ)2018、『デジタル化社会における新しい財産的価値と信託』畠山久志(商事法務)2022、『金融商品取引法』畠山久志(地域金融研究所)2014								
参考書									
教員からのお知らせ	基本的にPDFのスライドを用いて解説をしていきます。スライドはポータルサイトに掲示します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、各授業の終わりに教室で受け付けます。								
アクティビティの内容	金融に関する情報は沢山あります。関心のあった事項をまとめ、授業で確認してください。また、確認に係る意見等を表明させ共有する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0225039	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	特別講座17(簿記検定3) ※2018~2023年度入学生用 ※金融コース限定_1年以上上				慶田 昌之		第2期集中
履修前提条件					備考		
授業の目的	金融コースで推奨されている資格について、その取得を目指す。						
到達目標	この授業を受けることにより、[1] 取得を目指す資格について理解をする、[2] その資格と関連する経済学の分野を理解する、[3] その資格を経済社会でいかすにはどうするのか説明できる、[4] その資格を取得することを目標とする。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	資格取得のための勉強を継続すること。資格を活かせる経済活動に関して、新聞記事等を調べ、目を通すこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 どのような資格の取得を目指すのか1 【第2回】 どのような資格の取得を目指すのか2 【第3回】 どのような資格の取得を目指すのか3 【第4回】 一般技能として資格を考える1 【第5回】 一般技能として資格を考える2 【第6回】 一般技能として資格を考える3 【第7回】 資格に関連する経済学の分野とは1 【第8回】 資格に関連する経済学の分野とは2 【第9回】 資格に関連する経済学の分野とは3 【第10回】 資格に関連する経済学の分野とは4 【第11回】 資格に関連する経済学の分野とは5 【第12回】 資格と就職、キャリアについて考える1 【第13回】 資格と就職、キャリアについて考える2						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(40%)と資格の受験結果(60%)で評価する。						
フィードバックの内容	授業や資格取得への取り組み姿勢に対して、適宜、コメントを行う。						
教科書							
指定図書	『2024年版 資格取り方選び方全ガイド』高橋書店編集部(高橋書店)2022/7/16、『仕事のカatalog2023-24年版』(自由国民社)2022/5/11、『経営戦略とコーポレートファイナンス』砂川伸幸(著)、川北英隆(著)、杉浦秀徳(著)、佐藤淑子(著)(日本経済新聞出版)2013/10/26、『企業経済学』小田切宏之(著)(東洋経済新報社)2010/3/19						
参考書							
教員からのお知らせ	Teamsにて情報共有を行います。質問等も、これらを通じて行ってください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11C0122401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	都市経済学Ⅰ				小林 隆史		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	現代社会において、人口の集中している都市のシステム、及び都市で生じている諸問題について学ぶ。経済学的視点を通して、「空間(土地の広がり)」を持つ都市システムの基礎を講義する。						
到達目標	空間(土地の広がり)を念頭においた、立地論の基礎について学び、単純化された空間における地価モデルを理解できる。また、長距離通勤や混雑などの都市問題について、その原因を体系的に説明できる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	事前に指定された教科書の該当箇所を通読しておくこと。また授業時に作成したノートに基づいて、理解を深めるための復習を必要とする。また調査実習では写真撮影を行う。参考となる資料やインターネット等での自主学習を推奨する。以上の予習・復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。						
授業計画	【第1回】 都市の形成 【第2回】 輸送費と交通費 【第3回】 地価と地代 【第4回】 地価調査実習 【第5回】 地代モデル(1) 【第6回】 地代モデル(2) 【第7回】 地代モデル(3) 【第8回】 企業の立地 【第9回】 地価調査分析演習 【第10回】 外部不経済(2) 【第11回】 外部不経済(2) 【第12回】 都市の拡大 【第13回】 まとめ						
成績評価の方法	期末試験(自筆資料のみ持込可)を中心に評価する(60%程度)。調査実習課題を含む、講義中に提示する課題や授業への貢献度も勘案する(40%程度)。						
フィードバックの内容	提出された課題に対して、講義期間中に講評を行う。						
教科書	『都市経済学の基礎』佐々木公明・文世一(有斐閣アルマ)2000						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	「ミクロ経済学基礎」、「ミクロ経済学基礎演習」の単位を取得していることを前提とする。また、「ミクロ経済学」、「都市・地域分析」を受講済み、または受講中であることが望ましい。						
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。						
アクティブラーニングの内容	課題に関する「教員からのフィードバックによる振り返り」のほか、「調査学習」を実施する。具体的には、地価を体感するため、生活行動範囲内において地価調査地点での写真撮影、周辺観察などを行う。						
実践的な教育内容							
その他	質問・相談はできるだけ授業内にて行うこと。あるいはTeamsの適切なスレッドでの投稿を推奨する。ほか、事前予約があればオフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談を受け付ける。事前予約の連絡は「学籍番号@rissho-univ.jp」からkoba@ris.ac.jp宛へのメールで、件名の冒頭に「【都市経済学】質問」と記載された場合にのみ対応する。						

講義コード	11C0122501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期																													
科目名	都市経済学2					小林 隆史		第2期																													
履修前提条件					備考																																
授業の目的	現代社会において、人口の集中している都市のシステム、及び都市で生じている諸問題について学ぶ。経済学的視点を通して、「空間（土地の広がり）」を持つ都市システムにおける課題解決の考え方について解説する。																																				
到達目標	都市の空間を念頭においた、都市の諸問題について学び、その対応策としての制度、政策の効果と限界について論理的に説明できる。また、課題解決の思考に基づいて、未来の住まい方について考えることができる。																																				
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	事前に指定された教科書の該当箇所を通読しておくこと。また授業時に作成したノートに基づいて、理解を深めるための復習を必要とする。また調査実習では写真撮影を行う。参考となる資料やインターネット等での自主学習を推奨する。以上の予習・復習および自主学習のために計60時間以上の授業外学修を実施すること。																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td><td>ゾーニング</td> <td>【第8回】</td><td>交通システム（1）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td><td>地価調査実習</td> <td>【第9回】</td><td>交通システム（2）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td><td>都市の規模（1）</td> <td>【第10回】</td><td>交通システム（3）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td><td>都市の規模（2）</td> <td>【第11回】</td><td>公共サービス（1）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td><td>都市の規模（3）</td> <td>【第12回】</td><td>公共サービス（2）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td><td>都市の規模（4）</td> <td>【第13回】</td><td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td><td>地価調査分析演習</td> <td></td><td></td> </tr> </table>									【第1回】	ゾーニング	【第8回】	交通システム（1）	【第2回】	地価調査実習	【第9回】	交通システム（2）	【第3回】	都市の規模（1）	【第10回】	交通システム（3）	【第4回】	都市の規模（2）	【第11回】	公共サービス（1）	【第5回】	都市の規模（3）	【第12回】	公共サービス（2）	【第6回】	都市の規模（4）	【第13回】	まとめ	【第7回】	地価調査分析演習		
【第1回】	ゾーニング	【第8回】	交通システム（1）																																		
【第2回】	地価調査実習	【第9回】	交通システム（2）																																		
【第3回】	都市の規模（1）	【第10回】	交通システム（3）																																		
【第4回】	都市の規模（2）	【第11回】	公共サービス（1）																																		
【第5回】	都市の規模（3）	【第12回】	公共サービス（2）																																		
【第6回】	都市の規模（4）	【第13回】	まとめ																																		
【第7回】	地価調査分析演習																																				
成績評価の方法	定期試験（自筆資料のみ持込可）を中心に評価する（60%程度）。調査実習課題を含む、講義中に提示する課題や授業への貢献度も勘案する（40%程度）。																																				
フィードバックの内容	課題の提出物に対して、講義期間中に講評を行う。																																				
教科書	『都市経済学の基礎』佐々木公明・文世一（有斐閣アルマ）2000																																				
指定図書																																					
参考書																																					
教員からのお知らせ	「ミクロ経済学基礎」、「ミクロ経済学基礎演習」の単位を取得していることを前提とする。また、「ミクロ経済学」、「都市・地域分析」、「都市経済学1」を受講済み、または受講中であることが望ましい。																																				
オフィスアワー	質問・相談は学部学科にて定めるオフィスアワーにて、対面及びTeamsのビデオ通話等にて受付ける。また、Teamsの所定の箇所に質問・相談の投稿があれば、オフィスアワーにて返信を行う。																																				
アクティブラーニングの内容	課題に関する「教員からのフィードバックによる振り返り」のほか、「調査学習」を実施する。具体的には、地価と用途地域を体感するため、生活行動範囲内において調査地点での写真撮影、周辺観察などを行う。																																				
実践的な教育内容																																					
その他	質問・相談はできるだけ授業内にて行うこと、あるいはTeamsの適切なスレッドでの投稿を推奨する。ほか、事前予約があればオフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談を受け付ける。事前予約の連絡は「学籍番号@rissho-univ.jp」からkoba@ris.ac.jp宛へのメールで、件名の冒頭に「【都市経済学】質問」と記載された場合にのみ対応する。																																				

講義コード	11C0272001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	高橋 美由紀	開講期	第1期
科目名	日本経済史				高橋 美由紀			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	「日本経済の今後はどうなるのか」という問いに、現在のみを見ていたのでは、良い解答は得られない。景気の悪い時代は過去にもあった。先人達は、これにどのように立ち向かっていったのか。本講義では、中世から1970年代の石油危機までの日本経済をとりあげる。その中で、経済に影響を与えた人物についても考えていく。								
到達目標	日本経済がどのような足跡をたどってきたのかを、世界との関わりの中で理解し、その良い点と悪い点を把握し、自分なりの見解が述べられること。また、経済史において重要ないくつかの用語や人物に関してきちんと説明ができること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講義前に Microsoft Teams のファイルから資料をダウンロードし、熟読し、分からない箇所は個人で調べておくこと全回で計60時間以上の授業外学修をすること。また、その他に、参考としてあげた書籍を読むこと（提出方法・時期については講義中に指示する）。								
授業計画	<p>【第1回】日本経済史を学ぶ意義——貨幣について</p> <p>【第2回】中世～近世の経済と人口</p> <p>【第3回】人物から見る日本経済1——山田方谷と藩政改革</p> <p>【第4回】人物から見る日本経済2——上杉鷹山と特産物</p> <p>【第5回】財閥——三井・住友・三菱</p> <p>【第6回】明治の政治と経済——日本の産業革命：殖産興業・輸入代替・博覧会・共進会</p> <p>【第7回】近代の人口と疾病：第一次世界大戦とスペイン・インフルエンザ</p> <p>【第8回】人物から見る日本経済3——田中正造と足尾銅山鉱毒事件</p> <p>【第9回】人物から見る日本経済4——高橋是清・井上準之助・石橋湛山</p> <p>【第10回】世界大恐慌・第二次世界大戦と日本経済</p> <p>【第11回】プレトン＝ウッズ体制 敗戦国日本の歩み 戦後復興と環境</p> <p>【第12回】石炭から石油へ——エネルギーの変化と三井三池炭坑</p> <p>【第13回】高度経済成長の時代——交通網の整備、人口移動</p> <p>映像資料も用いる。</p>								
成績評価の方法	毎回授業後に課す小試験（Forms で実施）60%＋学期末試験（40%）。ただし、学期末試験が行えない場合は、小試験を100%とする。								
フィードバックの内容	小試験（Forms で実施）の解説は次週におこなう。また、質問等に関しても受講者全員に共有して説明する。								
教科書	使用しない								
指定図書	『日本経済の歴史』中西聡他（名古屋大学出版会）2013、『日本経済史 近世－現代』杉山伸也（岩波書店）2012、『日本経済史1600-2000』浜野潔他（慶應義塾大学出版会）2009、『経済社会の歴史』中西聡他（名古屋大学出版会）2017、『歴史人口学の世界』速水 融（岩波書店）2012								
参考書									
教員からのお知らせ	講義内容は、履修者の希望等により変更する場合がある。Microsoft Teams で Team を作るのので、Team コード（mhtfa 3 u）を用いて、授業開始までにメンバー登録をすること。								
オフィスアワー	月曜2限。事前に必ず連絡すること。 メールおよびチャットにでも受け付ける。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	毎回授業前に資料を確認して自己の質問点をもって講義を受けるという反転授業を取り入れている。								
その他	講義参加者の希望等によって、講義内容は若干変更することもある。								

講義コード	11C0111601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	村田 啓子	開講期	第1期														
科目名	日本経済論1																						
履修前条件					備考																		
授業の目的	本講義では、基礎的なマクロ経済学の概念や分析手法を用いて、現実の日本経済の動向を理解するとともに、実施された政策や問題点についても解説することにより、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養うことを目指します。経済をみる上で不可欠の経済指標（統計、データ）についても適宜解説していきます。																						
到達目標	現代日本経済の現状や問題点及びそれらに関する基本データを理解し批判的に検討・分析するために有用な基礎力を身につける。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	事前にレジュメを読み、必要に応じ指定図書も活用し予習・復習を行うこと（予習1時間・復習3時間を目安に計60時間以上の授業外学修）。復習ではレジュメの章末に掲載されている練習問題を解き、講義内容の理解度を確認しましょう。日常生活において新聞等で内外の経済記事・ニュースを読み考える習慣を身につけましょう。																						
授業計画	<p>（下記の内容は現時点で予定しているもので、これらのうち幾つかに重点を置いたり、新たな論点を取り上げることも考えています。）</p> <table border="0"> <tr> <td>【第1回】 概論・国民経済計算からみた日本経済（1）</td> <td>【第8回】 変化する労働市場（3）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 国民経済計算からみた日本経済（2）</td> <td>【第9回】 家計の消費と貯蓄行動（1）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 日本の経済成長とその要因（1）</td> <td>【第10回】 家計の消費と貯蓄行動（2）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 日本の経済成長とその要因（2）</td> <td>【第11回】 設備投資と企業行動の変化（1）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 景気循環の特徴</td> <td>【第12回】 設備投資と企業行動の変化（2）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 変化する労働市場（1）</td> <td>【第13回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 変化する労働市場（2）</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 概論・国民経済計算からみた日本経済（1）	【第8回】 変化する労働市場（3）	【第2回】 国民経済計算からみた日本経済（2）	【第9回】 家計の消費と貯蓄行動（1）	【第3回】 日本の経済成長とその要因（1）	【第10回】 家計の消費と貯蓄行動（2）	【第4回】 日本の経済成長とその要因（2）	【第11回】 設備投資と企業行動の変化（1）	【第5回】 景気循環の特徴	【第12回】 設備投資と企業行動の変化（2）	【第6回】 変化する労働市場（1）	【第13回】 まとめ	【第7回】 変化する労働市場（2）	
【第1回】 概論・国民経済計算からみた日本経済（1）	【第8回】 変化する労働市場（3）																						
【第2回】 国民経済計算からみた日本経済（2）	【第9回】 家計の消費と貯蓄行動（1）																						
【第3回】 日本の経済成長とその要因（1）	【第10回】 家計の消費と貯蓄行動（2）																						
【第4回】 日本の経済成長とその要因（2）	【第11回】 設備投資と企業行動の変化（1）																						
【第5回】 景気循環の特徴	【第12回】 設備投資と企業行動の変化（2）																						
【第6回】 変化する労働市場（1）	【第13回】 まとめ																						
【第7回】 変化する労働市場（2）																							
成績評価の方法	小テスト（1 - 2回、最大30%）及び期末試験（最小70%）による。第1回講義及び講義内で事前に説明する。																						
フィードバックの内容	小テストの結果などは講義内で速やかに講評する。講義内で講義アンケート（回答任意）を実施し、必要に応じ講義内で回答する。																						
教科書																							
指定図書	『最新 日本経済入門（第6版）』小峰隆夫・村田啓子（日本評論社）2020年																						
参考書	『マクロ経済学 入門（第6版）』福田慎一・照山博司（有斐閣アルマ）2023年、『ビジュアル 日本経済の基本（第5版）』小峰隆夫編（日経文庫）2016年																						
教員からのお知らせ	ミクロ経済学及びマクロ経済学を既に修得していることが望ましい。日本経済の現状と課題、そして展望について興味のある学生の受講を推奨します。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます（事前にメールで連絡すること）。また、Open LMS のメッセージ機能でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	小テスト実施後はフィードバックを行います。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11C0111701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	村田 啓子	開講期	第2期														
科目名	日本経済論2																						
履修前条件					備考																		
授業の目的	本講義では、基礎的なマクロ経済学の概念や分析手法を用いて、現実の日本経済の動向を理解するとともに、実施された政策や問題点についても解説することにより、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養うことを目指します。経済をみる上で不可欠の経済指標（統計、データ）についても適宜解説していきます。																						
到達目標	現代日本経済の現状や問題点及びそれらに関する基本データを理解し批判的に検討・分析するために有用な基礎力を身につける。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	事前に教科書及びレジュメを読み、予習・復習を行うこと（予習1時間・復習3時間を目安に計60時間以上の授業外学修）。復習ではレジュメの章末に掲載されている練習問題を解き、講義内容の理解度を確認しましょう。日常生活において新聞等で内外の経済記事・ニュースを読み考える習慣を身につけましょう。																						
授業計画	<p>（下記の内容は現時点で予定しているもので、これらのうち幾つかに重点を置いたり、新たな論点を取り上げることも考えています。）</p> <table border="0"> <tr> <td>【第1回】 概論・物価の現状とインフレ・デフレの問題点（1）</td> <td>【第8回】 財政政策運営の特徴と変化</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（2）</td> <td>【第9回】 少子高齢化と社会保障（1）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（3）</td> <td>【第10回】 少子高齢化と社会保障（2）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 金融システム</td> <td>【第11回】 格差問題を考える（1）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 金融政策運営の特徴と変化（1）</td> <td>【第12回】 格差問題を考える（2）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 金融政策運営の特徴と変化（2）</td> <td>【第13回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 財政の仕組み</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 概論・物価の現状とインフレ・デフレの問題点（1）	【第8回】 財政政策運営の特徴と変化	【第2回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（2）	【第9回】 少子高齢化と社会保障（1）	【第3回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（3）	【第10回】 少子高齢化と社会保障（2）	【第4回】 金融システム	【第11回】 格差問題を考える（1）	【第5回】 金融政策運営の特徴と変化（1）	【第12回】 格差問題を考える（2）	【第6回】 金融政策運営の特徴と変化（2）	【第13回】 まとめ	【第7回】 財政の仕組み	
【第1回】 概論・物価の現状とインフレ・デフレの問題点（1）	【第8回】 財政政策運営の特徴と変化																						
【第2回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（2）	【第9回】 少子高齢化と社会保障（1）																						
【第3回】 物価の現状とインフレ・デフレの問題点（3）	【第10回】 少子高齢化と社会保障（2）																						
【第4回】 金融システム	【第11回】 格差問題を考える（1）																						
【第5回】 金融政策運営の特徴と変化（1）	【第12回】 格差問題を考える（2）																						
【第6回】 金融政策運営の特徴と変化（2）	【第13回】 まとめ																						
【第7回】 財政の仕組み																							
成績評価の方法	小テスト（1 - 2回、最大30%）及び期末試験（最小70%）による。第1回講義及び講義内で事前に説明する。																						
フィードバックの内容	小テストの結果などは講義内で速やかに講評する。講義内で講義アンケート（回答任意）を実施し、必要に応じ講義内で回答する。																						
教科書																							
指定図書	『最新 日本経済入門（第6版）』小峰隆夫・村田啓子（日本評論社）2020年																						
参考書	『マクロ経済学 入門（第6版）』福田慎一・照山博司（有斐閣アルマ）2023年、『ビジュアル 日本経済の基本（第5版）』小峰隆夫編（日経文庫）2016年																						
教員からのお知らせ	ミクロ経済学及びマクロ経済学を既に修得していることが望ましい。日本経済の現状と課題、そして展望について興味のある学生の受講を推奨します。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます（事前にメールで連絡すること）。また、Open LMS のメッセージ機能でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	小テスト実施後はフィードバックを行います。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11C0100901	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	日本語1				洪沢 妃生子		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	大学生として主体的に学ぶために不可欠な日本語技能とスタディ・スキルを養成することがこの科目のねらいである。なかでもこの科目では、テキストに取り上げられたテーマを中心に文法と読解力の向上を目指す。テキストの内容整理を通して、ノートの取り方について学習し、また、大学生にふさわしい中・上級文法、表現文型なども併せて学習する。								
到達目標	日本語の文法、文型、論理的な文章の構造に関する知識を持ち、それを文章作成に活用するスキルを身につけることができる。授業で得た知識・講義から得た情報を整理して、活用するスタディ・スキルを身につけることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱う項目について、毎回予習・復習を行うこと。授業中に指示された課題を期限内に提出すること。								
授業計画	<p>【第1回】 プレゼンテーションテスト I 段落内の構造と本文理解 V 課題1</p> <p>【第2回】 I 段落内の構造 II 書き言葉の特徴 III 和語・漢語・共起する語 V 課題2</p> <p>【第3回】 I 話題とメインアイデアと本文理解 II 助詞相当語 V 課題3</p> <p>【第4回】 I 話題とメインアイデア II 助詞相当語 III 重要語句・未知語処理 V 課題4</p> <p>【第5回】 I アウトラインと本文理解 II 複文 IV 課題1の振り返りと質疑応答 V 課題5</p> <p>【第6回】 I アウトライン II 複文 III 重要語句・未知語処理 IV 課題2の振り返りと質疑応答 V まとめ1</p> <p>【第7回】 I 文章構成と本文理解 II 指示表現 IV まとめ1、課題3の振り返りと質疑応答 V まとめ2</p> <p>【第8回】 I 文章構成 II 指示表現 III 漢語からの推測・重要表現・未知語処理 IV まとめ2、課題4の振り返りと質疑応答 V まとめ3</p> <p>【第9回】 I 論の展開①と本文理解 II 文の構造分析 IV まとめ3、課題5の振り返りと質疑応答 V まとめ4</p> <p>【第10回】 I 論の展開① II 文の構造分析 III 重要語句・共起する語 IV まとめ4の振り返りと質疑応答 V まとめ5 VI 読解補充1</p> <p>【第11回】 IV まとめ5の振り返りと質疑応答 I 総括に関する説明と質疑応答 VI 読解補充2</p> <p>【第12回】 前期総括1</p> <p>【第13回】 前期総括2 総括1の振り返りと質後応答</p>								
成績評価の方法	前期まとめ確認テスト40%、課題(1)30%、課題(2)20%、授業への取り組み姿勢10%で評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を、翌週または各課終盤の授業内にて行う。提出された課題を添削し、授業時間内に返却して不足箇所の強化を図る。								
教科書	『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 ③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著(株式会社アルク) 2022年、その他、適宜プリントを配布する								
指定図書									
参考書	適宜紹介する								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業開始前、または授業終了後の時間帯を利用し、次の授業に支障のない範囲で教室にて対応する。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど								
その他									

講義コード	11C0101001	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	日本語2				洪沢 妃生子		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	大学生として主体的に学ぶために不可欠な日本語技能とスタディ・スキルを養成することがこの科目のねらいである。なかでもこの科目では、テキストに取り上げられたテーマを中心に文法と読解力の向上を目指す。テキストの内容整理を通して、ノートの取り方について学習し、また、大学生にふさわしい中・上級文法、表現文型なども併せて学習する。								
到達目標	日本語の文法、文型、論理的な文章の構造に関する知識を持ち、それを文章作成に活用するスキルを身につけることができる。授業で得た知識・講義から得た情報を整理して、活用するスタディ・スキルを身につけることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱う項目について、毎回予習・復習を行うこと。授業中に指示された課題を期限内に提出すること。								
授業計画	【第1回】 I 論の方向を示す表現・事実と筆者の考えと本文理解 V課題1 【第2回】 I 論の方向を示す表現・事実と筆者の考え II 文末表現① III 重要語句・共起する語 V課題2 【第3回】 I 論の展開②と本文理解 II 文末表現② V課題3 【第4回】 I 論の展開② II 文末表現② III 未知語処理 V課題4 【第5回】 I 引用と本文理解 II 接続表現と予測 IV 課題1の振り返りと質疑応答 V課題5 【第6回】 I 引用 II 接続表現と予測 III 共起する語・重要語句 IV 課題2の振り返りと質疑応答 Vまとめ1 【第7回】 I 要約と本文理解 IV まとめ1、課題3の振り返りと質疑応答 Vまとめ2 【第8回】 I 要約 III 慣用表現・重要語句 IV まとめ2、課題4の振り返りと質疑応答 Vまとめ3 【第9回】 I 理由・根拠と本文理解 II 接続表現② IV まとめ3、課題5の振り返りと質疑応答 Vまとめ4 【第10回】 I 理由・根拠 II 接続表現② III 重要語句・未知語処理 IV まとめ4の振り返りと質疑応答 Vまとめ5 VI 読解補充1 【第11回】 IV まとめ5の振り返りと質疑応答 I 総括に関する説明と質疑応答 VI 読解補充2 【第12回】 後期総括1 【第13回】 後期総括2 総括1の振り返りと質疑応答								
成績評価の方法	後期まとめ確認テスト40%、課題(1)30%、課題(2)20%、授業への取り組み姿勢10%で評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を、翌週または各課終盤の授業内にて行う。提出された課題を添削し、授業時間内に返却して不足箇所の強化を図る。								
教科書	『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 ③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著(株式会社アルク) 2022年、その他、適宜プリントを配布する								
指定図書									
参考書	適宜紹介する								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業開始前、または授業終了後の時間帯を利用し、次の授業に支障のない範囲で教室にて対応する。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど								
その他									

講義コード	11C0101101	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	日本語3				洪沢 妃生子		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	大学生として知っておくべき「I日本語による時事情報」と、大学での学習や社会で求められるアカデミック・スキル（「IIレポートの書き方」）を養成することを目的としている。なかでも情報を収集する技能、収集した情報を整理し活用する技能、そして、それを人に伝える技能を高めることを目指す。これらの学習を通じて、周囲とのコミュニケーションに積極的に取り組めるようにすることも、この科目のねらいの一つである。								
到達目標	最新の時事情報を通じて、今現在社会で起きている出来事や日本の社会について理解を深め、自分の意見を説明しようとすることができる。また、言語運用力を高めて必要な情報を収集、整理して、説明、まとめを行い、活用するスキルを身につけることができる。日本語による幅広い話題の獲得により、周囲と積極的に交流を取ろうとすることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱う項目について、毎回予習・復習を行うこと。授業中に指示された課題を期限内に提出すること。								
授業計画	<p>【第1回】 I 時事情報の収集と理解（1） II レポートの書き方：構成と問題提起1 ・レポートの基本構成に関する理解と練習</p> <p>【第2回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（1） 2. 時事情報の収集と理解（2） II レポートの書き方：問題提起1 ・レポートの基本構成の確認 ・問題提起に関する理解と練習 ・方向づけに関する理解と練習</p> <p>【第3回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（2） 2. 時事情報の収集と理解（3） II レポートの書き方：問題提起2 ・方向づけに関する理解と練習</p> <p>【第4回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（3） 2. 時事情報の収集と理解（4） II レポートの書き方：問題提起2、データ提示1 ・課題の振り返りと質疑応答（1）・事柄データに関する理解と練習 ・論拠提示（事実文と意見文）、</p> <p>【第5回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（4） 2. 時事情報の収集と理解（5） II レポートの書き方：データ提示1 ・課題の振り返りと質疑応答（2）・事柄データに関する理解と練習 ・数量データの説明の仕方</p> <p>【第6回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（5） 2. 時事情報の収集と理解（6） II レポートの書き方：データ提示1、データ提示2 ・課題に対する振り返りと質疑応答（3）・数量データに関する理解と練習</p> <p>【第7回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（6） 2. 時事情報の収集と理解（7） II レポートの書き方：データ提示2 ・課題に対する振り返りと質疑応答（4）・引用に関する理解と練習</p> <p>【第8回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（7） 2. 時事情報の収集と理解（8） 3. プレゼンテーション準備（1）テーマの選定、資料検索 II レポートの書き方：データ提示3 ・課題に対する振り返りと質疑応答（5）・引用に関する理解と練習</p> <p>【第9回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（8） 3. プレゼンテーション準備（2）要約①②の作成 II レポートの書き方：データ提示3 ・課題に対する振り返りと質疑応答（6）</p> <p>【第10回】 I 3. プレゼンテーション準備（3）要約①②の修正、意見作成と修正、原稿の作成</p> <p>【第11回】 I 3. プレゼンテーション準備（4）原稿の作成と修正、発音修正 II レポートの書き方：前期総括①の説明と質疑応答</p> <p>【第12回】 II レポートの書き方：前期総括① I プレゼンテーション準備（5）リハーサル</p> <p>【第13回】 I 時事情報に関する前期総括②（プレゼンテーション発表） II レポートの書き方：前期総括①に関する振り返りと質疑応答</p>								
成績評価の方法	前期総括30%、課題（1）30%、課題（2）20%、発表10%、授業への取り組み姿勢10%で評価する。								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、翌週授業時間内に返却して、振り返り・質疑応答を行うことで理解を深める。								
教科書	教材は適宜プリントを配布する								
指定図書									
参考書	適宜紹介する								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業開始前、または授業終了後の時間帯を利用し、次の授業に支障のない範囲で教室にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、ピア・ラーニングによる発見学習、プレゼンテーションなど								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0101201	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	日本語4				洪沢 妃生子		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	大学生として知っておくべき「I日本語による時事情報」と、大学での学習や社会で求められるアカデミック・スキル（「IIレポートの書き方」）を養成することを目的としている。なかでも情報を収集する技能、収集した情報を整理し活用する技能、そして、それを人に伝える技能を高めることを目指す。これらの学習を通じて、周囲とのコミュニケーションに積極的に取り組めるようにすることも、この科目のねらいの一つである。								
到達目標	最新の時事情報を通じて、今現在社会で起きている出来事や日本の社会について理解を深め、自分の意見を説明しようとすることができる。また、言語運用力を高めて必要な情報を収集、整理して、説明、まとめを行い、活用するスキルを身につけることができる。日本語による幅広い話題の獲得により、周囲と積極的に交流を取ろうとすることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱う項目について、毎回予習・復習を行うこと。授業中に指示した課題を期限内に提出すること。								
授業計画	<p>【第1回】 I 2. 時事情報の収集と理解（1） II レポートの書き方：データ提示1、データ提示2に関する振り返りと質疑応答 ・データ提示3 ・要約に関する理解と練習</p> <p>【第2回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（1） 2. 時事情報の収集と理解（2） II レポートの書き方：データ提示3、図表の提示1 ・要約に関する理解と練習、図表の種類と特徴</p> <p>【第3回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（2） 2. 時事情報の収集と理解（3） II レポートの書き方：データ提示3 ・図表の提示1 ・課題に対する振り返りと質疑応答（1）・図表の説明に関する理解と練習</p> <p>【第4回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（3） 2. 時事情報の収集と理解（4） II レポートの書き方：図表の提示1 ・図表の説明に関する理解と練習 ・図表の提示に関する表現の獲得</p> <p>【第5回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（4） 2. 時事情報の収集と理解（5） II レポートの書き方：図表の提示1、図表の提示2 ・課題に対する振り返りと質疑応答（2）・適切な図について考える</p> <p>【第6回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（5） 2. 時事情報の収集と理解（6） II レポートの書き方：図表の提示2 ・図表提示に関する理解と練習 ・データ解釈に関する理解と練習</p> <p>【第7回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（6） 2. 時事情報の収集と理解（7） II レポートの書き方：図表の提示2、意見提示1 ・データ解釈に関する理解と練習</p> <p>【第8回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（7） 2. 時事情報の収集と理解（8） 3. プレゼンテーション準備（1）テーマの選定、資料の検索 II レポートの書き方：意見提示1 ・課題に対する振り返りと質疑応答（3）・考察に関する理解と練習</p> <p>【第9回】 I 1. 前回の時事情報に対する意見発表（8） 3. プレゼンテーション準備（2）要約①②の作成 II レポートの書き方：意見提示2 ・課題に関する振り返りと質疑応答（4）・考察に関する理解と練習</p> <p>【第10回】 I 3. プレゼンテーション準備（3）要約①②の修正、意見の作成、原稿の作成 II レポートの書き方：意見提示2 ・課題に対する振り返りと質疑応答（5）</p> <p>【第11回】 I 3. プレゼンテーション準備（4）原稿の作成と修正、発音修正 II レポートの書き方：後期総括①の説明と質疑応答</p> <p>【第12回】 II レポートの書き方：後期総括① I プレゼンテーション準備（5）（リハーサル）</p> <p>【第13回】 I 時事情報に関する後期総括②（プレゼンテーション発表） II レポートの書き方：後期総括①に関する振り返りと質疑応答</p>								
成績評価の方法	後期総括30%、課題（1）30%、課題（2）20%、発表10%、授業への取り組み姿勢10%で評価する。								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、翌週授業時間内に返却して、振り返り・質疑応答を行うことで理解を深める。								
教科書	教材は適宜資料を配布する								
指定図書									
参考書	適宜紹介する								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業開始前、または授業終了後の時間帯を利用し、次の授業に支障のない範囲で教室にて対応する。								
アクティベーションの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、ピア・ラーニングによる発見学習、プレゼンテーションなど。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	日本語表現法1				各担当教員	第1期
履修前条件	備考					
授業の目的	将来の企業人として日本語の「話す・聞く・読む・書く」に関する表現力を身につけることを目的とする。授業計画に示すテーマで毎回講義を行い、授業中には随時、作文実習を行う。教科書付属のトレーニングシートを使うので、教科書を必ず持参すること。留学生の場合は日本語能力試験N1レベル程度を目安とする。					
到達目標	企業におけるコミュニケーションの基礎的方法や社内外向けの文書のひな型を理解し、必要に応じて用いることができる。就職活動やインターンシップの活動に、授業で学んだ知識を役立てることができる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では15時間以上の授業外学修を行うこと。 毎回の授業の前には、各回の授業で扱う項目について教科書を読んでおくこと。 毎回の授業の後には、復習し再度作文演習をして理解を深めること。					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 社会人のコミュニケーション（1）・挨拶をする・名刺交換 【第2回】 社会人のコミュニケーション（2）・依頼する・質問する 【第3回】 社会人のコミュニケーション（3）・敬語を使う 【第4回】 社会人のコミュニケーション（4）・電話の応対をする 【第5回】 社会人のコミュニケーション（5）・スケジュールをひく 【第6回】 社会人のコミュニケーション（6）・図表を解説する 【第7回】 社会人のコミュニケーション（7）・クレームをつける 【第8回】 社会人のコミュニケーション（8）・意見を述べる 【第9回】 社会人のコミュニケーション（9）・説得する 【第10回】 言語能力の基礎（1）・2語の関係 【第11回】 言語能力の基礎（2）・語句の意味・多義語 【第12回】 言語能力の基礎（3）・同意語・反意語 【第13回】 論理的思考の基礎（1）・命題・フローチャート 					
成績評価の方法	毎週提出する授業課題（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）。					
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。					
教科書	『大学生のための社会人入門トレーニングコミュニケーション編』真田治子・野原佳代子・長谷川守寿（編著）（三省堂）2011、 『大学生のための就活トレーニングSPI・エントリーシート編』北川清（編著）（三省堂）2011					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	学年と学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	日本語表現法2				各担当教員	第2期
履修前条件	備考					
授業の目的	将来の企業人として日本語の「話す・聞く・読む・書く」に関する表現力を身につけることを目的とする。授業計画に示すテーマで毎回講義を行い、授業中には随時、作文実習を行う。教科書付属のトレーニングシートを使うので、教科書を必ず持参すること。留学生の場合は日本語能力試験N1レベル程度を目安とする。					
到達目標	企業におけるコミュニケーションの基礎的方法や社内外向けの文書のひな型を理解し、必要に応じて用いることができる。就職活動やインターンシップの活動に、授業で学んだ知識を役立てることができる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では15時間以上の授業外学修を行うこと。 毎回の授業の前には、各回の授業で扱う項目について教科書を読んでおくこと。 毎回の授業の後には、復習し再度作文演習をして理解を深めること。					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ビジネス文書を学ぶービジネス文書の書式を知る 【第2回】 報告書を作るー過不足なく伝える 【第3回】 連絡・確認書を書くー簡潔に、的確に伝える 【第4回】 議事録を作るーポイントをまとめる 【第5回】 企画書を作るー説得力のある文章を書く 【第6回】 稟議書を書くー理由を説明する 【第7回】 始末書を書くー状況説明と反省 【第8回】 ビジネス文書を書くー案内状を書く 【第9回】 回答書を書くー承諾する場合・断る場合 【第10回】 依頼状を書くー配慮しつつお願いする 【第11回】 詫言状を書くー不備の謝罪・責任範囲の明確化 【第12回】 督促状・抗議状を書くー婉曲的な申し入れ 【第13回】 ビジネスメールの書式 					
成績評価の方法	毎週提出する授業課題（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）。					
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。					
教科書	『大学生のための社会人入門トレーニングコミュニケーション編』真田治子・野原佳代子・長谷川守寿（編著）（三省堂）2011					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	学年と学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	日本語表現法基礎1				各担当教員	第1期
履修前提条件	備考					
授業の目的	大学生として必要な、日本語の「話す・聞く・読む・書く」に関する表現力を身につけることを目的とする。授業計画に示すテーマで毎回講義を行い、授業中には随時、作文実習を行う。教科書付属のトレーニングシートを使うので、教科書を必ず持参すること。留学生の場合は日本語能力試験N1レベル程度を目安とする。					
到達目標	大学生生活と勉学における、基本的な言語的知識を幅広く理解し、必要に応じて用いることができる。大学でのレポート・論文作成や就職活動、インターンシップの活動に、授業で学んだ知識を役立てることができる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では15時間以上の授業外学修を行うこと。毎回の授業の前には、各回の授業で扱う項目について教科書を読んでおくこと。毎回の授業の後には、復習し再度作文演習をして理解を深めること。					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】自己紹介 【第2回】敬語の基礎 【第3回】確実な連絡メモ 【第4回】メールの書き方 【第5回】手紙の書き方 【第6回】説明のコツ 【第7回】大学生の調べ方（1）図書館での調べ方 【第8回】大学生の調べ方（2）文献入手の仕方 【第9回】資料の読みとり 【第10回】レポートの書き方（1）具体的な手順 【第11回】レポートの書き方（2）書式 【第12回】履歴書の作成 【第13回】面接の受け方 					
成績評価の方法	毎週提出する授業課題（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）。					
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。					
教科書	『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』橋本修・安部朋世・福嶋健伸（編著）（三省堂）2008					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	日本語表現法基礎2				各担当教員	第2期
履修前提条件	備考					
授業の目的	大学生として必要な、日本語の「話す・聞く・読む・書く」に関する表現力を身につけることを目的とする。授業計画に示すテーマで毎回講義を行い、授業中には随時、作文実習を行う。教科書付属の問題を使うので、教科書を必ず持参すること。留学生の場合は日本語能力試験N1レベル程度を目安とする。					
到達目標	大学生生活と勉学における、コミュニケーションに関する基本的な表現を幅広く理解し、必要に応じて用いることができる。大学でのレポート・論文作成や就職活動、インターンシップの活動に、授業で学んだ知識を役立てることができる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では15時間以上の授業外学修を行うこと。毎回の授業の後には、復習し再度作文演習をして理解を深めること。					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】目上の人にアポイントメントを取る 【第2回】窓口で事務手続きをする 【第3回】個人・組織にメールを送る 【第4回】敬語を使ってメールを書く 【第5回】公的機関等に電話をかける 【第6回】イベントで社会人と会話する 【第7回】頼みごとの目的をしっかりと伝える 【第8回】アポや申し込みのためのコンタクト 【第9回】業者に条件を伝えて発注する 【第10回】教育実習先へのコンタクト 【第11回】OB・OG訪問のためのコミュニケーション 【第12回】手紙で協力を依頼する 【第13回】インターンシップに挑戦する 					
成績評価の方法	毎週提出する授業課題（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）。					
フィードバックの内容	重要な課題について授業中に解答例を見せて解説する。					
教科書	『大学生のための 実用日本語表現ドリル』真田治子・野原佳代子（編著）（三省堂）2019年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	11C2113101	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	News English 1				小沢 奈美恵		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	英語のニュースを聞いたり読んだりして理解し、英語でニュース内容について質問に答えたり、説明したり、意見を述べることを目的とします。そうすることで、実践的な英語運用能力の習得を目指します。また、応用として、VOA (Voice of America)、CNN、NHK World News その他の各種ウェブサイトを活用し、世界の様々な事柄に視野を広げ、自分の意見を英語で表現できるようにします。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 時事ニュース関連の用語を覚え、英文の新聞記事などを読めるようになる。 2. 英語のニュースを聞いて内容を理解し、英語の問いに答えたり、内容を説明したり、意見を述べられるようになる。 3. ニュース英語を音読して発音やイントネーションを改善できるようになる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書付属の Web 動画をスマホなどで視聴して予習を行い、授業に備える。 2. ビデオ音声のシャドーイング練習と音声提出。 3. 応用時事ニュース読解、英語による意見表明を行う。 4. 携帯のアプリを利用して日常的に英語ニュースを聞く習慣をつける。 								
授業計画	<p>【第1回】 1. Unit 1 Cool Cat Helps Kids with Vision Problems 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (1)</p> <p>【第2回】 応用ニュース (1)</p> <p>【第3回】 1. Will Artificial Intelligence Take Your Job? 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (2)</p> <p>【第4回】 応用ニュース (2)</p> <p>【第5回】 1. 3D Chalk Art on Fourth of July Celebration 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (3)</p> <p>【第6回】 応用ニュース (3)</p> <p>【第7回】 1. Unit 4 Youth Orchestra Works to Narrow Racial Gap 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (4)</p> <p>【第8回】 応用ニュース (4)</p> <p>【第9回】 1. Unit 5 Can Robots and Humans Coexist? 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (5)</p> <p>【第10回】 応用ニュース (5)</p> <p>【第11回】 1. Unit 6 Teens Help Seniors Learn How to Use Technology 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (6)</p> <p>【第12回】 応用ニュース (6)</p> <p>【第13回】 グループ発表</p>								
成績評価の方法	課題提出 (50%)、発表 (10%)、授業への取り組み姿勢 (10%)、テスト (30%)								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書には、自由に英語で意見を書いたり述べたりする箇所があるので、書いて提出したものは、コメントを入れて返します。 2. 予習は LMS を通じて提出し、達成度に関して点数表記して返却します。 3. 発表したときには、発表の仕方や内容について、クラスメイトや教師の感想をフィードバックします。 								
教科書 指定図書 参考書	『CBS News Break 7』熊井信弘 / Stephen Timson (成美堂) 2025年								
教員からのお知らせ	教科書などの進度は、必ずしも授業計画の通りに行かないこともあるかもしれません。皆さんの進み具合などで臨機応変に進度や内容を変えることがあります。質問などがあれば、e-mail などで連絡をください。								
オフィスアワー	水曜3時限のオフィスアワーに ozawa@ris.ac.jp で予めアポイントを取って、314研究室に質問に来て下さい。LMS でも応対します。								
アクティラーニングの内容 実践的な教育内容 その他	意見共有、能動的な授業外学習、グループワーク、プレゼンテーション								

講義コード	11C2113201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	News English 2				小沢 奈美恵		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	英語のニュースを聞いたり読んだりして理解し、英語でニュース内容について質問に答えたり、説明したり、意見を述べることを目的とします。そうすることで、実践的な英語運用能力の習得を目指します。また、応用として、VOA (Voice of America)、CNN、NHK World News その他の各種ウェブサイトを活用し、世界の様々な事柄に視野を広げ、自分の意見を英語で表現できるようにします。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 時事ニュース関連の用語を覚え、News English 1 より高いレベルの読解力を身につける。 2. 英語のニュースを聞いて内容を理解し、内容を説明したり、意見を述べられるようになる。 3. 自分の欲しい英語時事ニュースを検索して入手し、英語で要約したり、意見を述べられる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書付属の Web 動画をスマホなどで視聴して予習を行い、授業に備える。 2. ビデオ音声のシャドーイング練習と音声提出。 3. 応用時事ニュース読解、英語による意見表明を行う。 4. アプリを利用して日常的に英語ニュースを聞く習慣をつける。 								
授業計画	<p>【第1回】 1. Unit 7 Japanese Employees Take Part in Smile Classes 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (1)</p> <p>【第2回】 応用ニュース (1)</p> <p>【第3回】 1. Unit 8 Planting Tiny Forests in Fight to Slow Climate Change 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (2)</p> <p>【第4回】 応用ニュース (2)</p> <p>【第5回】 1. Unit 9 The Impact of ChatGPT on Education and Beyond 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (3)</p> <p>【第6回】 応用ニュース (3)</p> <p>【第7回】 1. Unit 10 Customers are Fed up with “Tipflation” 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (4)</p> <p>【第8回】 応用ニュース (4)</p> <p>【第9回】 1. Unit 11 Santa Claus in Atlanta Speaks Spanish, Sign Language, and English 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (5)</p> <p>【第10回】 応用ニュース (5)</p> <p>【第11回】 1. Unit 12 Japan’s Shrinking Population 2. シャドーイング、音声提出、意見の発表 (6)</p> <p>【第12回】 応用ニュース (6)</p> <p>【第13回】 グループ発表</p>								
成績評価の方法	課題提出 (50%)、発表 (10%)、授業への取り組み姿勢 (10%) テスト (30%)								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書には、自由に英語で意見を書いたり述べたりする箇所があるので、書いて提出したものは、コメントを入れて返します。 2. 予習は LMS を通じて提出し、達成度に関して点数表記して返却します。 3. 発表したときには、発表の仕方や内容について、クラスメイトや教師の感想をフィードバックします。 								
教科書 指定図書 参考書	『CBS News Break 7』熊井信弘 / Stephen Timson (成美堂) 2025年								
教員からのお知らせ	教科書などの進度は、必ずしも授業計画の通りに行かないこともあるかもしれません。皆さんの進み具合などで臨機応変に進度や内容を変えることがあります。								
オフィスアワー	水曜3時限のオフィスアワーに対応します。予め、メールで ozawa@ris.ac.jp 宛てにアポイントを取ってください。あるいは、メールや LMS でも対応します。								
アクティラーニングの内容 実践的な教育内容 その他	意見共有、能動的な授業外学習、グループ・ワーク、プレゼンテーション								

講義コード	11C0117201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	北原 克宣	開講期	第1期
科目名	農業経済学1				北原 克宣			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	農業経済学は、現代の農業・食料問題がどのようなかたちで表面化しているのか、その発生メカニズムはどうなっているのか、今後の解決策などについて研究する分野である。本講義では、農業経済の基礎理論、農業生産力の構造、世界の食料需給動向の実態について学ぶことを目的とする。								
到達目標	本講義の到達目標は、次のような能力を養うことである。①農業・食料問題の時事問題について説明できる、②農業・食料問題について歴史具体的に説明できる、③食料・農業政策について説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎回、授業前1週間の社会経済の動きと農業・食料問題のニュースをチェックするとともに、授業中に紹介した書籍に必ず目を通し、60時間以上の授業外学習を行うこと。								
授業計画	【第1回】 農業・食料をめぐる現状 【第2回】 農業と工業はどう違うか 【第3回】 農業と工業はどう違うか（その2） 【第4回】 経済学と土地所有 - 地代発生メカニズム（差額地代） - 【第5回】 経済学と土地所有 - 地代発生メカニズム（絶対地代） - 【第6回】 資本主義の発展と農業＝土地所有－日本－ 【第7回】 資本主義の発展と農業＝土地所有－英・仏・米				【第8回】 農法展開の論理－その1－ 【第9回】 農法展開の論理－その2－ 【第10回】 世界の食料問題－過剰と不足の併存－ 【第11回】 世界の食料問題－食料供給システムの変化－ 【第12回】 世界の食料問題－食料の質的变化－ 【第13回】 農業・食料問題の解決に向けて				
成績評価の方法	期末試験（100％）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の授業内にて行う。								
教科書									
指定図書	『再生産構造と地代理論』 姜昌周（青木書店）1993、『現代資本主義と農業再編の課題』 保志尙 ほか（御茶の水書房）1999、『現代日本資本主義における農業問題』 上原信博（御茶の水書房）1997、『アグリビジネス論』 中野一新編（有斐閣）1998、『現代の経済政策』 田代洋一ほか（有斐閣）2006、『農業問題入門』 田代洋一（大月書店）2003、『日本の農地：所有と制度の略史』 島本富夫（全国農業会議所）2003、『農業・食料問題入門』 田代洋一（大月書店）2012年、『多国籍アグリビジネスと農業・食料支配』 北原克宣・安藤光義編（明石書店）2016年								
参考書									
教員からのお知らせ	農業や農村にゆかりのない人でも、毎日の食事は欠かさないでしょう。本講義の受講を希望する人は、自分が毎日食べている食料が、どこで、どのように作られ、どのようにして食卓まで届いているのかということに興味を持つことから始めて下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談等は随時受け付けます。講義時に声をかけて頂ければ、日程を調整します。Teams のチャットでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0117301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	北原 克宣	開講期	第2期
科目名	農業経済学2				北原 克宣			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	農業経済学は、現代の農業・食料問題がどのようなかたちで表面化しているのか、その発生メカニズムはどうなっているのか、今後の解決策などについて研究する分野である。本講義では、「農業経済学1」で学ぶ基礎理論を踏まえ、農業・食料政策について学ぶことを目的とする。								
到達目標	本講義の到達目標は、次のような能力を養うことである。①農業・食料問題の時事問題について説明できる、②農業・食料問題について歴史具体的に説明できる、③食料・農業政策について説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎回、授業前1週間の社会経済の動きと農業・食料問題のニュースをチェックするとともに、授業中に紹介した書籍に必ず目を通し、60時間以上の授業外学習を行うこと。								
授業計画	【第1回】 現代の農業・食料政策の課題 【第2回】 農業問題の発生と農業政策 - 農業・食料政策はなぜ必要になったか - 【第3回】 戦前日本資本主義における農業・食糧政策 【第4回】 戦後日本資本主義における農業・食糧政策 - 食糧増産政策から基本法農政まで - 【第5回】 戦後日本資本主義における農業・食料政策 - 総合農政からグローバル化農政まで - 【第6回】 現代資本主義における農業・食料政策 - グローバル化農政・第2期 - 【第7回】 現代資本主義における農業・食料政策 - グローバル化農政・第2期（その2） -				【第8回】 現代資本主義における農業・食料政策 - グローバル化農政・第2期（その3） - 【第9回】 農業協同組合の役割と課題－その1－ 【第10回】 農業協同組合の役割と課題－その2－ 【第11回】 食品の安全性に関する政策－食品表示－ 【第12回】 食品の安全性に関する政策－トレーサビリティ－ 【第13回】 食品の安全性に関する政策－ HACCP と GAP -				
成績評価の方法	期末試験（100％）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の授業内にて行う。								
教科書									
指定図書	『再生産構造と地代理論』 姜昌周（青木書店）1993、『現代資本主義と農業再編の課題』 保志尙 ほか（御茶の水書房）1999、『現代日本資本主義における農業問題』 上原信博（御茶の水書房）1997、『アグリビジネス論』 中野一新編（有斐閣）1998、『現代の経済政策』 田代洋一ほか（有斐閣）2006、『農業問題入門』 田代洋一（大月書店）2003、『日本の農地：所有と制度の略史』 島本富夫（全国農業会議所）2003、『農業・食料問題入門』 田代洋一（大月書店）2012年、『多国籍アグリビジネスと農業・食料支配』 北原克宣・安藤光義編（明石書店）2016年								
参考書									
教員からのお知らせ	現代の農業は工業化され、大量生産を可能にした反面、環境問題や食品の安全性問題を引き起こしつつあります。このような問題に関心を持つ方の受講をお待ちしております。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談等は随時受け付けます。Teams のチャットでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0105701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	東アジアの文化と社会Ⅰ					黄 昱		第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	この授業は中国の歴史や地理、文学、思想、社会生活などさまざまな面を取り上げ、特徴的な文化事象を考察します。中国の古代から近現代までの基本知識を幅広く紹介し、中国の文化・社会の形成と継承を考えた上、古代から現代までに行われてきた中国と日本の交流について学び、中国という他者との比較を通して、東アジア文化圏における文化と社会の共通性と異質性を明らかにします。								
到達目標	中国の文化・社会の基礎知識を習得し、その概略を説明できる。 文化の形成、継承と影響について学ぶことによって、異文化と自文化についての理解を深める。 図書館で関連資料を調査し、自らの考えを論理的に述べることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この授業では60時間以上の授業外学修を行うこと。 参考資料を読み、毎回復習して下さい（2時間×15回＝30時間）。 最終レポートの準備をして下さい（30時間）。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 文化とは何か、中国とはどんな国 中国の歴史（1）中国文明の創成：先史～春秋時代 【第2回】 中国の歴史（2）「帝国」の形成：戦国・秦朝 【第3回】 中国の歴史（3）「帝国」の継承：漢代 【第4回】 中国の歴史（4）隋唐帝国①：シルクロード 【第5回】 中国の歴史（5）隋唐帝国②：遣唐使 【第6回】 中国の歴史（6）伝統中国の転成：宋元時代 【第7回】 中国の歴史（7）古代の科挙制度と現代の受験戦争 【第8回】 中国の文学（1）孔子と『詩経』、屈原と『楚辞』 【第9回】 中国の文学（2）中国文学の粹：唐詩・宋詞・元曲 【第10回】 中国の文学（3）中国の志怪小説と日本の怪談 【第11回】 中国の文学（4）笑話：中国文化の中のユーモア 【第12回】 中国の文学（5）中国四大名著①：『水滸伝』『三国志演義』 【第13回】 中国の文学（6）中国四大名著②：『西遊記』『紅樓夢』								
成績評価の方法	毎回の授業で行う授業内容理解度の確認テスト（60%）と最終レポート（40%）で評価します。最終レポートの提出は必須です。								
フィードバックの内容	授業中に確認テストの解説と講評を行います。 メールあるいはチャットで授業についての質問を受け付けます。								
教科書 指定図書									
参考書	『中国の歴史を知るための60章』並木頼寿、杉山文彦（明石書店）2011年、『中国の歴史 増補改訂版』山本英史（河出書房新社）2016年、『テーマで読み解く中国の文化』湯浅邦弘（ミネルヴァ書房）2016年、『中国現代文化14講』中国モダニズム研究会（関西学院大学出版会）2014年、『中国文学をつまみ食い』武田雅哉、加部勇一郎、田村容子（ミネルヴァ書房）2022年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	木曜日 2限								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、グループ・ディスカッション								
その他									

講義コード	11C0105801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期															
科目名	東アジアの文化と社会2				黄 昱		第2期																
履修前提条件					備考																		
授業の目的	この授業は中国の思想文化、社会生活などさまざまな面を取り上げ、特徴的な文化事象を考察します。中国の古代から近現代までの基本知識を幅広く紹介し、中国の文化・社会の形成と継承を考えます。このように異なる文化の考え方、生活習慣などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになることを目的とします。授業は基本的にパワーポイントを使用します。適宜、ビジュアル資料なども活用します。																						
到達目標	中国の文化・社会の基礎知識を習得し、その概略を説明できる。 文化の形成、継承と影響について学ぶことによって、異文化と自文化についての理解を深める。 図書館で関連資料を調査し、自らの考えを論理的に述べることができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この授業では60時間以上の授業外学修を行うこと。 参考書を読み、毎回復習して下さい（2時間×15回＝30時間）。 最終レポートの準備をして下さい（30時間）。																						
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 授業ガイダンス、中国の地理（1） 中国の世界遺産</td> <td>【第8回】 中国の思想（3） 道教と民間信仰</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 中国の食文化（1） 八大菜系</td> <td>【第9回】 中国の生活（1） 中国の年中行事</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 中国の食文化（2） 古代中国の食卓</td> <td>【第10回】 中国の生活（2） 中国の服飾史と漢服ブーム</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 中国の食文化（3） 「食色性也」：グルメドキュメンタリーのブーム</td> <td>【第11回】 中国の社会（1） 多民族国家と少数民族</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 中国の食文化（4） 日本の中華料理</td> <td>【第12回】 中国の社会（2） 激変する社会と若者たち</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 中国の思想（1） 儒教の社会観・政治観</td> <td>【第13回】 中国の社会（3） 中国における日本像：反日、親日と知日</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 中国の思想（2） 天下と江湖、中国の武侠小説と時代劇</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 授業ガイダンス、中国の地理（1） 中国の世界遺産	【第8回】 中国の思想（3） 道教と民間信仰	【第2回】 中国の食文化（1） 八大菜系	【第9回】 中国の生活（1） 中国の年中行事	【第3回】 中国の食文化（2） 古代中国の食卓	【第10回】 中国の生活（2） 中国の服飾史と漢服ブーム	【第4回】 中国の食文化（3） 「食色性也」：グルメドキュメンタリーのブーム	【第11回】 中国の社会（1） 多民族国家と少数民族	【第5回】 中国の食文化（4） 日本の中華料理	【第12回】 中国の社会（2） 激変する社会と若者たち	【第6回】 中国の思想（1） 儒教の社会観・政治観	【第13回】 中国の社会（3） 中国における日本像：反日、親日と知日	【第7回】 中国の思想（2） 天下と江湖、中国の武侠小説と時代劇	
【第1回】 授業ガイダンス、中国の地理（1） 中国の世界遺産	【第8回】 中国の思想（3） 道教と民間信仰																						
【第2回】 中国の食文化（1） 八大菜系	【第9回】 中国の生活（1） 中国の年中行事																						
【第3回】 中国の食文化（2） 古代中国の食卓	【第10回】 中国の生活（2） 中国の服飾史と漢服ブーム																						
【第4回】 中国の食文化（3） 「食色性也」：グルメドキュメンタリーのブーム	【第11回】 中国の社会（1） 多民族国家と少数民族																						
【第5回】 中国の食文化（4） 日本の中華料理	【第12回】 中国の社会（2） 激変する社会と若者たち																						
【第6回】 中国の思想（1） 儒教の社会観・政治観	【第13回】 中国の社会（3） 中国における日本像：反日、親日と知日																						
【第7回】 中国の思想（2） 天下と江湖、中国の武侠小説と時代劇																							
成績評価の方法	毎回の授業で行う授業内容理解度の確認テスト（60%）と最終レポート（40%）で評価します。最終レポートの提出は必須です。																						
フィードバックの内容	授業中に確認テストの解説と講評を行います。 メールあるいはチャットで授業についての質問を受け付けます。																						
教 科 書																							
指 定 図 書																							
参 考 書	『中国の暮らしと文化を知るための40章』 東洋文化研究会（明石書店）2005年、『テーマで読み解く中国の文化』 湯浅邦弘（ミネルヴァ書房）2016年、『中国現代文化14講』 中国モダニズム研究会（関西学院大学出版会）2014年、『よくわかる中国思想』 湯浅邦弘（ミネルヴァ書房）2022年、『中国文化 55のキーワード』 武田雅哉、加部勇一郎、田村容子（ミネルヴァ書房）2016年																						
教員からのお知らせ																							
オフィスアワー	木曜日 2限																						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習																						
実践的な教育内容																							
そ の 他																							

講義コード	11C2113301	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	ホームマン 由佳	開講期	第1期																										
科目名	Business English Skills 1																																		
履修前提条件					備考																														
授業の目的	国際社会で活躍する人を目指すにはビジネス英語を習得することが必要だ。授業では、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能学習を通してビジネスの現場で通用する英語力を身につけるとともに、マーケティングや経営戦略などの基本的な知識を英語で学ぶことを目的とする。授業では日本の代表的な企業のケーススタディを扱うテキストを使用する。																																		
到達目標	1) ビジネス英語の基本的スキルを身につける。 2) マーケティング、経営戦略、ラグジュアリービジネス、SDGs に関する基本的知識を学ぶ。 3) ビジネスでよく使う英語の言い回しを自分から発信できる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修は60時間以上。（授業は教科書を予習していることが前提で進行する。ダウンロードした音声ファイルを必ず聞いておくこと。）																																		
授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 What is Business English?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第2回】 Global Marketing Strategies</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第3回】 “Marketing Mix in Emerging Countries”（1）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第4回】 “Marketing Mix in Emerging Countries”（2）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第5回】 “Confectionery Marketing in Overseas Business”（1）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第6回】 “Confectionery Marketing in Overseas Business”（2）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第7回】 プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第8回】 “Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value”（1）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第9回】 “Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value”（2）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第10回】 “Using a New Guerrilla Marketing Strategy as a Challenger”（1）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第11回】 “Using a New Guerrilla Marketing Strategy as a Challenger”（2）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第12回】 総括</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第13回】 プレゼンテーションと理解度チェック</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 What is Business English?		【第2回】 Global Marketing Strategies		【第3回】 “Marketing Mix in Emerging Countries”（1）		【第4回】 “Marketing Mix in Emerging Countries”（2）		【第5回】 “Confectionery Marketing in Overseas Business”（1）		【第6回】 “Confectionery Marketing in Overseas Business”（2）		【第7回】 プレゼンテーション		【第8回】 “Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value”（1）		【第9回】 “Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value”（2）		【第10回】 “Using a New Guerrilla Marketing Strategy as a Challenger”（1）		【第11回】 “Using a New Guerrilla Marketing Strategy as a Challenger”（2）		【第12回】 総括		【第13回】 プレゼンテーションと理解度チェック	
【第1回】 What is Business English?																																			
【第2回】 Global Marketing Strategies																																			
【第3回】 “Marketing Mix in Emerging Countries”（1）																																			
【第4回】 “Marketing Mix in Emerging Countries”（2）																																			
【第5回】 “Confectionery Marketing in Overseas Business”（1）																																			
【第6回】 “Confectionery Marketing in Overseas Business”（2）																																			
【第7回】 プレゼンテーション																																			
【第8回】 “Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value”（1）																																			
【第9回】 “Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value”（2）																																			
【第10回】 “Using a New Guerrilla Marketing Strategy as a Challenger”（1）																																			
【第11回】 “Using a New Guerrilla Marketing Strategy as a Challenger”（2）																																			
【第12回】 総括																																			
【第13回】 プレゼンテーションと理解度チェック																																			
成績評価の方法	テスト（50%）、プレゼンテーション（30%）、課題（20%）																																		
フィードバックの内容	課題のフィードバックを授業内で公開する。																																		
教 科 書	『Global Business Case Studies』 Yasuo Nakatani (Seibido) 2023																																		
指 定 図 書																																			
参 考 書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	水曜日 昼休み																																		
アクティブラーニングの内容	基本的に反転授業型の授業形態をとる。教室では、各自予習しておいた内容や授業で学んだ知識をグループワークで確認し合ったり、プレゼンテーションで意見などを共有する。																																		
実践的な教育内容																																			
そ の 他																																			

講義コード	11C2113401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Business English Skills 2					ホームマン 由佳		第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	国際社会で活躍する人を目指すにはビジネス英語を習得することが必要だ。授業では、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能学習を通してビジネスの現場で通用する英語力を身につけるとともに、マーケティングや経営戦略などの基本的な知識を英語で学ぶことを目的とする。授業では日本の代表的な企業のケーススタディを扱うテキストを使用する。								
到達目標	1) ビジネス英語の基本的スキルを身につける。 2) マーケティング、経営戦略、ラグジュアリービジネス、SDGs に関する基本的知識を学ぶ。 3) ビジネスでよく使う英語の言い回しを自分から発信できる。 4) ビジネスシーンでの英語ディスカッションの基本スキルを学ぶ。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修は60時間以上。(授業は教科書を予習していることが前提で進行する。ダウンロードした音声ファイルを必ず聞いておくこと。)								
授業計画	【第1回】 Global Business Strategies 【第2回】 “Enhancing Internal Communication of a Global Company” (1) 【第3回】 “Enhancing Internal Communication of a Global Company” (2) 【第4回】 “Connecting People with What’s Happening” (1) 【第5回】 “Connecting People with What’s Happening” (2) 【第6回】 プレゼンテーション 【第7回】 “Countering Innovators’ Dilemma” (1) 【第8回】 “Countering Innovators’ Dilemma” (2) 【第9回】 “Most Luxurious and Practical Accommodations” (1) 【第10回】 “Most Luxurious and Practical Accommodations” (2) 【第11回】 “BOP Business Enhancing Sustainable Development Goals” 【第12回】 ディスカッションテスト 【第13回】 プレゼンテーションと理解度チェック								
成績評価の方法	テスト (50%)、プレゼンテーション (30%)、課題 (20%)								
フィードバックの内容	課題のフィードバックを授業内で公開する。								
教科書	『Global Business Case Studie』 Yasuo Nakatani (Seibido) 2023								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜昼休み								
アクティブラーニングの内容	基本的に反転授業型の授業形態をとる。教室では、各自予習しておいた内容や授業で学んだ知識をグループワークで確認し合ったり、プレゼンテーションで意見などを共有する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0270901	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	ビジネス英会話 1					マイケル クボ		第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	This class helps students open their minds to business English conversation with an emphasis on fluency and confidence. Each and every week, and step by step, the teacher will challenge the students with practical, active and real-world lessons. In this class, students will get the confidence and ability to have basic but effective business English conversation. The method of study involves active learning and active participation. A lot of role-play in class makes this class fun, memorable, and meaningful.								
到達目標	Students of this class will study current events related to business. They will learn how to share and discuss business-related matters effectively and dynamically. They will enjoy effective business-level talks in class. Students will also be encouraged and motivated by the teacher to do their best to advance their English skills, including critical thinking skills.								
授業外学修内容・授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Getting acquainted and setting goals 【第2回】 In-class skills 1 【第3回】 in-class skills 2 【第4回】 Student presentations 【第5回】 Student Role-plays 1 (graded) 【第6回】 Spoken like a native: 1 Say it straight and simple 【第7回】 Spoken like a native: 2 Say it politely 【第8回】 Spoken like a native: 3 Lightning up - The importance of humor in business 【第9回】 Review/Quiz (graded) 【第10回】 Spoken like a native: 5 Greetings and addressing 【第11回】 Spoken like a native: 5 Giving compliments and thanks 【第12回】 Review 【第13回】 Test								
成績評価の方法	effort: 25%, participation: 25%, homework: 25%, quizzes, tests and/or projects: 25%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
実践的な教育内容									
その他									

は

講義コード	11C0271001	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	マイケル クボ	開講期	第2期
科目名	ビジネス英会話2					マイケル クボ		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	This class helps students open their minds to business English conversation with an emphasis on fluency and confidence. Each and every week, and step by step, the teacher will challenge the students with practical, active and real-world lessons. In this class, students will get the confidence and ability to have basic but effective business English conversation. The method of study involves active learning and active participation. A lot of role-play in class makes this class fun, memorable, and meaningful.								
到達目標	Students of this class will study current events related to business. They will learn how to share and discuss business-related matters effectively and dynamically. They will enjoy effective business-level talks in class. Students will also be encouraged and motivated by the teacher to do their best to advance their English skills, including critical thinking skills.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Getting reacquainted and setting new goals 【第2回】 Spoken like a native: 6 Asking personal questions 【第3回】 Spoken like a native: 7 Asking for clarification 【第4回】 Spoken like a native: 8 Complaining 【第5回】 Student Role-plays 1 (graded) 【第6回】 Review/Quiz (graded) 【第7回】 Spoken like a native: 9 Making requests, Asking for a raise/vacation... 【第8回】 Spoken like a native: 10 Holding one's ground/Giving in 【第9回】 Spoken like a native: 11 Quitting 【第10回】 Student Role-plays 2 (graded) 【第11回】 Review/Quiz (graded) 【第12回】 Review 【第13回】 Test								
成績評価の方法	effort: 25%, participation: 25%, homework: 25%, quizzes, tests and/or projects: 25%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelskubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C2113901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Business communication / Business Negotiation				矢倉 真一		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	世界がグローバル化する中で、世界言語と位置付けられている英語でのコミュニケーションが、ますます重要になってきます。日常会話はもちろん、オフィス内での会話や、海外取引相手とのコミュニケーションは、直接利益に反映します。この授業では、Youtube のビジネス英会話や Office Routineなどを学びながら、いろいろ映画のシーンの中の表現を学んで、リスニングやリーディング、スピーキング、ライティングなどスキルを身に着けます。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネス用語を覚え、ビジネス英語などを読めるようになる。 2. オフィス英会話等を聞いて内容を理解し、英語の問いに英語で答えたり、内容を説明したり、意見を述べられるようになる。 3. ビジネスで使う英会話や経済ニュース、記事を音読して発音やイントネーションを改善できるようになる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教員の提示する資料や教材をもとに予習と復習を行い、合わせて60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 日常会話とビジネス英語の視聴・説明 (ABC/BBC/CNN 等) 【第2回】 オフィスでの日常英会話を学び、表現や使われる単語を学ぶ 【第3回】 会社での一日 (会話パターンを学び・作成) 【第4回】 Hotel 予約・航空券予約における会話 【第5回】 海外旅行先で使う表現や単語を学び、応用 【第6回】 料理のレシピ作成・発表 (料理やレストランのアピール) 【第7回】 天気予報に関する単語や表現を学び、天気予報を作成 【第8回】 海外での shopping における価格交渉で使う単語や表現、応用・会議での会話 【第9回】 Business Email (presentation) 【第10回】 英語の常識や非常識 (使ってはいけない英語表現や英単語) を説明 【第11回】 電話を使った英語表現や単語を学んで、応用・発表 【第12回】 映画などを視聴し、起業におけるコミュニケーションを説明、応用 【第13回】 英語のリズムを説明・学ぶ 【第14回】 英文契約書 (ESL Intermediate レベル) に関して、読解力を付けるためによく使われる単語や表現を学び応用 								
成績評価の方法	課題提出 (50%)、発表 (10%)、授業への取り組み姿勢 (10%) まとめのオンラインテスト (30%) どれか一つを全く行わない場合は、不可とします。								
フィードバックの内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 書いて提出したものは、文法や言葉の使い方をチェックして、翌週返します。 2. 予習は Teams の課題を通じて提出し、達成度に関して点数表記して返却します。 3. 発表したときには、発表の仕方や内容について、Forms のアンケート機能を使って、クラスメイトや教師の感想をフィードバックします。 								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	発表に関しては密を避けて、少人数ごともしくは一人一人行います。また、ディスカッション等は、なるべく少人数で意見をそれぞれ、離れた場所で行えるようにしていきたいと思います。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C2113501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Business Discussion 1				マイケル クボ		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	This class helps students open their minds to talking about business discussions with fluency and confidence. Each week, and step by step, the teacher will challenge the students with practical, active and real-world lessons. In this class, students will get the confidence and ability to have basic but effective English discussions. The method of study involves active learning and active participation. A lot of role-play in class makes this class fun, memorable, and meaningful.								
到達目標	Students of this class will study current events related to business. They will learn how to share and discuss business-related matters effectively and dynamically. They will enjoy effective business-level talks in class. Students will also be encouraged and motivated by the teacher to do their best to advance their English skills, including critical thinking skills.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Getting acquainted and setting goals 【第2回】 Introducing yourself 【第3回】 Student presentations 1 【第4回】 Student presentations 2 【第5回】 Talking about yourself and what you do 【第6回】 Student Role-plays 1 (graded) 【第7回】 Asking questions and confirming comprehension 【第8回】 Asking hard questions 【第9回】 Your "English Personality" 【第10回】 Student presentations 1 【第11回】 Student presentations 2 【第12回】 Student Role-plays 2 (graded) 【第13回】 Final speeches								
成績評価の方法	effort: 25%, participation: 25%, homework: 25%, quizzes, tests and/or projects: 25%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C2113601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Business Discussion 2				マイケル クボ		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	This class helps students open their minds to talking about business discussions with fluency and confidence. Each week, and step by step, the teacher will challenge the students with practical, active and real-world lessons. In this class, students will get the confidence and ability to have basic but effective English discussions. The method of study involves active learning and active participation. A lot of role-play in class makes this class fun, memorable, and meaningful.								
到達目標	Students of this class will study current events related to business. They will learn how to share and discuss business-related matters effectively and dynamically. They will enjoy effective business-level talks in class. Students will also be encouraged and motivated by the teacher to do their best to advance their English skills, including critical thinking skills.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Getting reacquainted and setting new goals 【第2回】 Negotiation skills 1 【第3回】 Negotiation skills 2 【第4回】 Student presentations 【第5回】 Student presentations 【第6回】 Student Role-plays 1 (graded) 【第7回】 Say it clear: Agreeing and Disagreeing 【第8回】 How to say no politely 【第9回】 Whistle while you work: how to be casual yet professional 【第10回】 Student presentations 1 【第11回】 Student presentations 2 【第12回】 Student Role-plays 2 (graded) 【第13回】 Final speeches								
成績評価の方法	effort: 25%, participation: 25%, homework: 25%, quizzes, tests and/or projects: 25%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C2112801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Preparation for Studying Abroad 1				マイケル クボ		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	This class helps students prepare for studying abroad. Each week, and step by step, the teacher will challenge the students with practical, active and real-world lessons. In this class, students will get the confidence and ability to study abroad. The method of study involves active learning and active participation. A lot of role-play in class makes this class fun, memorable, and meaningful.								
到達目標	In this class, students will prepare to study abroad, and the teacher will encourage and motivate them as well. Students will learn a variety of skills that will prepare them for overseas study. Students will be encouraged to speak up in class, enjoy pair and group work and learn how to give speeches and presentations in English, and with confidence.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Introduction to course; self introductions 【第2回】 The joy of studying abroad; finding purpose to study abroad 【第3回】 Setting goals, destination 【第4回】 Planning and preparations 【第5回】 Safe and smooth travels 【第6回】 When in Rome... 【第7回】 Student Role-plays 1 (graded) 【第8回】 How to speak up in class or at your homestay 【第9回】 The sharing economy and spending money wisely 【第10回】 Self reliance, self defence 【第11回】 Making friends abroad 【第12回】 Loud & Proud: Public Speaking 【第13回】 Midterm Test/Project								
成績評価の方法	participation: 25%, attitude: 25%, effort: 25%, speeches/presentations: 25%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C2112901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	Preparation for Studying Abroad 2				マイケル クボ		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	This class helps students prepare for studying abroad. Each week, and step by step, the teacher will challenge the students with practical, active and real-world lessons. In this class, students will get the confidence and ability to study abroad. The method of study involves active learning and active participation. A lot of role-play in class makes this class fun, memorable, and meaningful.								
到達目標	In this class, students will prepare to study abroad, and the teacher will encourage and motivate them as well. Students will learn a variety of skills that will prepare them for overseas study. Students will be encouraged to speak up in class, enjoy pair and group work and learn how to give speeches and presentations in English, and with confidence.								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	Students must spend more than 60 hours outside of class in preparation for this course.								
授業計画	【第1回】 Getting reacquainted and setting new goals 【第2回】 Reflecting on experiences abroad, or redefining your purpose to study abroad 【第3回】 Student presentations 【第4回】 Student presentations 【第5回】 What can go right; what can go wrong? 【第6回】 Student Role-plays 3 (graded) 【第7回】 How to inspire others 【第8回】 How to maintain communication with friends abroad 【第9回】 Planning your next study abroad experience 【第10回】 Student presentations 【第11回】 Student presentations 【第12回】 Student Role-plays 4 (graded) 【第13回】 Final speeches								
成績評価の方法	participation: 25%, attitude: 25%, effort: 25%, speeches/presentations: 25%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	The teacher is always available via LINE. Special meeting between student and teacher can be made easily. Traditional office hours are Wednesdays after 16:00, and Thursdays 10:40 to 12:30. Please contact the teacher directly via LINE or email (michaelkubo@ris.ac.jp)								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	Students will regularly be asked to share their opinions on topics and make presentations.								
その他									

講義コード	11C0123201	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	鄭 裕静	開講期	第1期
科目名	法学								
履修前提条件					備考				
授業の目的	法の社会に生きている我々は、「法」というものに対して漠然と考えている。しかし、法を知らずに生活することは混乱であることを認識しながら、「法」というものは硬いもので難しく分かりにくいというイメージがある。また、法学という領域は極めて広く様々な分野が存在している。本講義では、法学を学ぶことと共に、「法的ものの見方」という大切に基本的な考え方を身につけることを目的とする。								
到達目標	法学を学ぶ上で最も大切な「法的思考」及び法制度に対する幅広い素養を身につけることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この講義は、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱うテーマについて、事前に配布した資料を読み、テーマの背景などを理解した上で、授業を受けること。授業中に指示した問題などを考察し、レスポンスやレポートを授業中に提出すること。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション「法学基礎」法とは何か：法と法律・法の体系 【第2回】「法学基礎」法の解釈：法的三段論法とは何か。 【第3回】「法学基礎」法の基本原則（1）：立憲主義 【第4回】「法学基礎」法の基本原則（2）：法の基本原則 【第5回】「憲法入門」憲法とは何か 【第6回】「刑法入門」総論 【第7回】「刑法入門」各論：犯罪の成立要件 【第8回】法と正義（1）：法は誰のものなのか 【第9回】法と正義（2）：どのように分けるか 【第10回】法と正義（3）：罪と罰 【第11回】法と正義（4）：まとめ 【第12回】裁判員制度 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	1. 授業中の小テスト及びワークシート3回 60% 2. 最終レポート30% 3. 授業への取り組み姿勢10%								
フィードバックの内容	小テスト及びワークシートに対するフィードバックは翌週授業内にて行う。授業内容に応じて教材のレジュメ及び参考資料を配布します。必要な場合、講義内で説明します。 ★詳しい内容は、第1回オリエンテーションで説明します。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書指定はありませんが、講義進行に合わせて参考書や資料を紹介します。講義に関する詳しい内容は、第1回オリエンテーションで説明します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	「意見共有」「教員からのフィードバックによる振り返り」「能動的な授業外学習」「グループ・ディスカッション」「ディベート」「グループ・ワーク」								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0123801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	金子 善行	開講期	第1期
科目名	簿記								
履修前提条件					備考				
授業の目的	簿記は財務諸表を作成するためのツールでもありますが、企業活動や資金の流れを理解するうえでも必要不可欠の知識です。本授業では、簿記を初めて学ぶ学生を対象とし、基本的な簿記処理を学習します。特に、日商簿記検定3級を意識しながら、その内容に沿う形で授業を進めていきます。								
到達目標	1. 企業経営における基本的な簿記の理論を理解説明することができる。2. 会計数値を適切に理解・計算するために必要な知識や技術を修得し責任をもって財務諸表を作成することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学習を行うこと。予習としては、事前にアップロードされている授業資料を一読しておいて下さい。また、復習としては、授業の中で扱った計算問題の解き直し、及び可能であれば授業の中で扱うことのできなかった計算問題も解いておくようにして下さい。								
授業計画	【第1回】簿記の基礎 【第2回】簿記の一巡 【第3回】現金預金 【第4回】商品売買 【第5回】手形と電子記録債権債務 【第6回】その他の債権債務 【第7回】貸倒損失と貸倒引当金 【第8回】有形固定資産 【第9回】資本 【第10回】税金等 【第11回】伝票 【第12回】決算① 【第13回】決算②								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（10%）、期末試験（90%）。なお、評価基準・割合に関し修正がある場合には、適宜、授業の中で告知します。								
フィードバックの内容	課題等については、翌週の授業内に口頭にて解説します。								
教科書	『簿記原理トレーニング』岩崎健久監修（中央経済社）2023年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業資料はLMSに事前にアップロードしておきますので、各自、持参して下さい。また、問題集と電卓も必ず持参するようにして下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内で対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C3115601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	保険論				茶野 努		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	生命保険は人間生活における重要な役割を担っている。生死、病気といった避けられないリスクに対する備えとしてである。講義では生命保険の仕組み・制度について学ぶ。								
到達目標	人に生命保険についての基礎知識を説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	公開している講義資料を打ち出して、事前に学習の上講義に参加すること。 上記に示した授業外の学修は、60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス・リスクとは何か 【第2回】 リスクを計算する 【第3回】 保険の仕組み－収支相等の原則、大数の法則 【第4回】 生命保険と損害保険 【第5回】 保険の種類および販売 【第6回】 保険契約の法的特徴 【第7回】 保険約款 【第8回】 保険料計算（1） 【第9回】 保険料計算（2） 【第10回】 責任準備金・契約者配当準備金 【第11回】 生命保険業の規制 【第12回】 ディスクロージャー 【第13回】 授業内の最終試験と講評								
成績評価の方法	授業内の最終試験（100％）によります。								
フィードバックの内容	解説は最終回であわせて行います。								
教科書	『保険と金融から学ぶ リスクマネジメント』岡田太・茶野努・平澤敦（中央経済社）2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	http://chanoppy.wixsite.com/chano に講義資料がアップしてあります。 教科書を購入してください。								
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、授業後に対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	マクロ経済学(週2回授業)				各担当教員	第2期
履修前条件				備考		
授業の目的	<p>マクロ経済学は、個別の経済活動を集計した一国経済全体の変動を解き明かす経済学の一分野である。マクロ経済学は、ミクロ経済学と並んで経済学の二大基礎理論を構成しており、そこで学んだ考え方は他のさまざまな応用科目で頻繁に用いられる。</p> <p>この講義では、『マクロ経済学基礎』で学んだマクロ経済学の初歩をやや掘り下げながら、マクロ経済学の基礎理論を学ぶ。GDPの詳しい概念からはじめて、財市場、資産市場（金融市場）および労働市場においてマクロ経済の重要な変数であるGDPと利率がどのように決まるかを考察する。このような基礎理論を踏まえると、不況対策としての財政政策や金融政策がどのように効果を発揮するかを理解することができるようになる。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・GDPとは何かを説明できる。 ・マクロ経済における金融政策と財政政策の効果を説明できる。 ・マクロ経済学の理論を用いて新聞の経済記事を説明できる。 					
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>【授業外学習】 各回の授業で扱う項目について、教科書の該当箇所を読んでくること。授業の進行に応じて、教科書の練習問題を解きながら復習すること。授業外に計120時間以上の学修を行うこと。</p>					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 経済活動の大きさを測る 【第2回】 経済活動の大きさを測る 【第3回】 財市場①：45度線 【第4回】 財市場①：45度線 【第5回】 財市場②：IS曲線 【第6回】 財市場②：IS曲線 【第7回】 資産市場①：資産としての貨幣と債券 【第8回】 資産市場①：資産としての貨幣と債券 【第9回】 資産市場②：貨幣市場と債券市場 【第10回】 資産市場②：貨幣市場と債券市場 【第11回】 資産市場③：資産市場の均衡とLM曲線 【第12回】 資産市場③：資産市場の均衡とLM曲線 【第13回】 IS-LM分析①：均衡 【第14回】 中間試験（予定） 【第15回】 IS-LM分析②：財政政策 【第16回】 IS-LM分析②：財政政策 【第17回】 IS-LM分析③：金融政策 【第18回】 IS-LM分析③：金融政策 【第19回】 労働市場 【第20回】 AD-ASモデル①：AD曲線とAS曲線の導出 【第21回】 AD-ASモデル②：需要ショックと供給ショック 【第22回】 AD-ASモデル②：需要ショックと供給ショック 【第23回】 新古典派マクロ経済モデル①：労働市場の修正 【第24回】 新古典派マクロ経済モデル①：労働市場の修正 【第25回】 新古典派マクロ経済モデル②：総需要と総供給の均衡 【第26回】 新古典派マクロ経済モデル②：総需要と総供給の均衡 					
成績評価の方法	中間試験（50%）および期末試験（50%）の結果による。					
フィードバックの内容						
教科書	『マクロ経済学15講』河原伸哉・慶田昌之（新世社）2023年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	『マクロ経済学基礎』の単位を修得済みであることが望ましい。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。					
アクティブラーニングの内容	意見共有					
実践的な教育内容						
その他	<p>この授業は週2回の授業である。</p> <p>中間試験の日程は、授業内で告知する。</p> <p>学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。</p>					

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	マクロ経済学演習				各担当教員	第2期
履修前提条件	備考					
授業の目的	この演習では、マクロ経済学の講義内容を正しく理解し、自らの理解度を確認することを目的として、マクロ経済学の講義に合わせて練習問題を解いていく。演習であるので、出席するだけでなく、演習時間に与えられる課題に取り組むことが必要である。一般的なマクロ経済学の問題を、自らの力で解けるようになり、現実の経済を理解できるようになることを目的とする。					
到達目標	この授業を受けることにより、マクロ経済学の内容を理解し、練習問題を解く力をつけ、更に現実の経済を理解できるようになることを目標とする。また、公務員等の各種資格試験の準備としても役立つことを目指している。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間は、60時間以上必要である。毎回の演習前に教科書と講義資料の内容や問題に目を通しておくこと。					
授業計画	【第1回】オリエンテーション：マクロ経済学を学ぶ 【第2回】経済活動の大きさを測る 【第3回】財市場①：45度線 【第4回】財市場②：IS曲線 【第5回】資産市場①：資産としての貨幣と債券 【第6回】資産市場②：貨幣市場と債券市場 【第7回】資産市場③：資産市場の均衡とLM曲線			【第8回】IS-LM分析①：均衡 【第9回】IS-LM分析②：財政政策 【第10回】IS-LM分析③：金融政策 【第11回】労働市場、AD-ASモデル：AD曲線とAS曲線の導出① 【第12回】AD-ASモデル②：需要ショックと供給ショック 【第13回】新古典派マクロ経済モデル：労働市場の修正、総需要と総供給の均衡		
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70%）と、提出課題（30%）によって評価する。					
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックについては、翌週の講義内や Teams で行う。					
教科書	『マクロ経済学15講』河原伸哉、慶田昌之（新世社）2023					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	教科書とマクロ経済学の授業資料を必ず用意すること。演習用の教材・資料・連絡事項については、以下の方法を利用して掲示するので、それぞれを定期的に確認すること。 ①大学ポータルサイト「オンライン授業」 ②メール（学籍番号 @rissho-univ.jp） ③ Microsoft Teams（アプリ） なお、③については、パソコンあるいはスマートフォンを持っている人はアプリを事前にダウンロードしておくこと。アプリの利用方法の詳細については、①または②を通じて連絡する。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り					
実践的な教育内容						
その他	この演習は『マクロ経済学』と同時に履修することを前提とする。『マクロ経済学基礎』の単位を修得済みであることが望ましい。					

講義コード	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	マクロ経済学基礎				各担当教員	第2期
履修前提条件	備考					
授業の目的	この講義では経済学の面白さを知ってもらうことと、社会科学としての厳密性を理解してもらうこと目指している。経済学の考え方をわずかでも身につければ、世の中の見方を大きく変えることができるようになる。これこそが経済学を学ぶことの喜びである。一方、経済学はミクロ経済学、マクロ経済学という2つの側面から経済問題をとらえている。ミクロ経済学では、人間や企業の合理的な判断の結果どのような行動をとるようになるのかを分析している。マクロ経済学では、国全体としての家計や企業の行動を把握することによって、ミクロ経済学では見えていなかった経済システムの整合性を明らかにしている。これらを学ぶことによって、学問としての経済学の意味を分かってもらいたい。					
到達目標	①国内総生産や物価指数といったマクロ経済指標の意味を正しく理解し、計算できる。 ②長期的な経済成長やインフレーションが発生する仕組みについて説明できる。 ③金融システムと中央銀行（ex. 日本銀行）の役割について説明できる。 ④景気後退のような短期的な経済変動が発生する仕組みについて、図を使って説明できる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。経済学の学修では、講義での説明を聞いたり教科書を読んだりするだけでなく、実際に自分の頭と手を動かして問題演習に取り組むことがとても大切である。授業内容に対応した演習問題を課題として出題するので、ぜひしっかりと取り組んでほしい。					
授業計画	【第1回】第8章 国民所得の測定（1） 【第2回】第8章 国民所得の測定（2） 【第3回】第9章 生計費の測定（1） 【第4回】第9章 生計費の測定（2） 【第5回】第10章 生産と成長（1） 【第6回】第10章 生産と成長（2） 【第7回】第11章 貯蓄、投資と金融システム（1）			【第8回】第11章 貯蓄、投資と金融システム（2） 【第9回】第11章 貯蓄、投資と金融システム 付論1 【第10回】第11章 貯蓄、投資と金融システム 付論2 【第11回】第12章 総需要と総供給（1） 【第12回】第12章 総需要と総供給（2） 【第13回】まとめ		
成績評価の方法	原則として、授業期間中における数回の小テスト（20%）ならびに期末試験の成績（80%）によって評価する。					
フィードバックの内容						
教科書	『マンキュー入門経済学（第4版）』N. グレゴリー・マンキュー（センゲージラーニング株式会社）2025					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	資料や連絡事項については Microsoft Teams を利用して掲示するので、定期的に確認すること。Microsoft Teams の利用方法については、授業ガイダンス動画（資料）で説明する。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワー・あるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。					
実践的な教育内容						
その他	参考書については、必要に応じて授業中に指示する。 この授業で学ぶ内容についての問題演習を行う授業として、「マクロ経済学基礎演習」という授業が開講されているので、並行して履修することを強く推奨する。					

講義コード		授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	マクロ経済学基礎演習				各担当教員		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	この演習では、「マクロ経済学基礎」の講義内容を正しく理解し、自らの理解度を確認することを目的として、「マクロ経済学基礎」の講義の進み方に合わせて練習問題を解く時間を与え、解説を行う。演習であるので、出席するだけでなく、演習時間に与えられる課題に取り組むことが必要である。特に教科書の章末問題を、自らの力で解けるようになることが演習の重要な目的である。								
到達目標	この演習では、「マクロ経済学基礎」の講義内容を理解し、練習問題を解く力をつけることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間は、最低でも60時間以上必要である。毎回の演習前に講義内容を復習し、教科書の章末問題に目を通しておくこと。								
授業計画	【第1回】第8章 国民所得の計測1 【第2回】第8章 国民所得の計測2 【第3回】第9章 生活コストの計測1 【第4回】第9章 生活コストの計測2 【第5回】第10章 生産と成長1 【第6回】第10章 生産と成長2 【第7回】第11章 貯蓄、投資、金融システム1 【第8回】第11章 貯蓄、投資、金融システム2 【第9回】第11章 貯蓄、投資、金融システム 付論1 【第10回】第11章 貯蓄、投資、金融システム 付論2 【第11回】第12章 総需要と総供給1 【第12回】第12章 総需要と総供給2 【第13回】第12章 総需要と総供給3								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70%）と提出課題（30%）によって評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックは、翌週の講義内やポータルサイトにて行う。								
教科書	『マンキュー入門経済学 第4版』N・グレゴリー・マンキュー（センゲージ・ラーニング株式会社）2025年								
指定図書	『スティグリッツ入門経済学 第4版』ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ（東洋経済新報社）2012年								
参考書	『スティグリッツ入門経済学 第4版』ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ（東洋経済新報社）2012年、『経済学・入門 第3版』塩澤修平（有斐閣）2013年、『マクロ経済学・入門 第6版』福田慎一、照山博司（有斐閣）2023年								
教員からのお知らせ	教科書と「マクロ経済学基礎」の授業資料を必ず持ってくる。演習用の教材・資料および連絡事項を、学内のポータルサイトなどを利用して掲示する場合がありますので、各担当教員の指示に従うこと。								
オフィスアワー	この授業は複数クラスであるため、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0110801	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	中村 宗之	開講期	第1期
科目名	マルクス経済学1				中村 宗之		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	資本主義について、他の経済体制とも比較しつつ、その基本的な仕組みを説明する。K. マルクスの理論を検討する。それらとあわせて、資本主義や現在の経済社会に対する様々な角度からの評価を試みる。								
到達目標	資本主義の基本的な仕組みについて説明できる。マルクスの主要な考えを説明できる。経済社会を評価し論じることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業内容の予習や復習を行う。新聞などにより時事問題を把握する。これらにより、60時間以上の授業外学修を行う。								
授業計画	【第1回】マルクス経済学とは 【第2回】唯物史観 【第3回】資本主義の段階区分 【第4回】狩猟採集と穀物生産 【第5回】商品交換の起源 【第6回】商品と貨幣 【第7回】資本の形式 【第8回】労働価値説（1） 【第9回】労働価値説（2） 【第10回】労働過程と生産過程 【第11回】生産価格論（1） 【第12回】生産価格論（2） 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	授業内課題レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回の課題に対するフィードバックを、翌週以降の授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『資本主義経済の理論』伊藤誠（岩波書店）1989年、『経済原論講義』山口重克（東京大学出版会）1985年、『経済原論：基礎と演習』小幡道昭（東京大学出版会）2009年								
教員からのお知らせ	講義資料は Teams 等にアップロードします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0110901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	マルクス経済学2				中村 宗之		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	資本主義について、他の経済体制とも比較しつつ、その基本的な仕組みを説明する。K. マルクスの理論を検討する。それらとあわせて、資本主義や現在の経済社会に対する様々な角度からの評価を試みる。								
到達目標	資本主義の基本的な仕組みについて説明できる。マルクスの主要な考えを説明できる。経済社会を評価し論じることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業内容の予習や復習を行う。新聞などにより時事問題を把握する。これらにより、60時間以上の授業外学修を行う。								
授業計画	【第1回】貨幣と労働の経済学説（1） 【第2回】貨幣と労働の経済学説（2） 【第3回】市場価値論 【第4回】地代論 【第5回】商業信用 【第6回】銀行信用と中央銀行 【第7回】資本蓄積と景気循環 【第8回】分析的マルクス主義 【第9回】計画経済と市場社会主義 【第10回】マルクス主義の歴史 【第11回】家族類型とイデオロギー 【第12回】分権化と未来社会 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	授業内課題レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回の課題に対するフィードバックを、翌週以降の授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『資本主義経済の理論』伊藤誠（岩波書店）1989年、『経済原論講義』山口重克（東京大学出版会）1985年、『経済原論：基礎と演習』小幡道昭（東京大学出版会）2009年								
教員からのお知らせ	講義資料は Teams 等にアップロードします。マルクス経済学1を履修済みであることが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問や相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。Teams 等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード		授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	マルクス経済学基礎				各担当教員		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	マルクス経済学基礎は、資本主義経済の基本的な仕組みとその歴史的位置を理論的に明らかにすることを目的とする。そのために、カール・マルクス『資本論』で示された資本主義論をもとに資本主義を説明し、資本主義とその現状に対するさまざまな角度からの検討や評価を行う。								
到達目標	①資本主義経済とその基本的な構成要素について、マルクス経済学の理論を用いて説明できるようになる。 ②現在の経済社会の矛盾を指摘し、これからの社会のあり方を具体的に考え、説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前1週間の社会の動きについて新聞を読み、授業前には授業で習う箇所のテキストや関連図書を読むなど、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】マルクス経済学における労働の意味＜第1章第1節＞ 【第2回】マルクス経済学では社会の発展をどう捉えるか＜第1章第2節・第3節＞ 【第3回】商品の価値と使用価値＜第2章＞ 【第4回】貨幣の発生＜第3章第1節＞ 【第5回】貨幣の発展と貨幣の諸機能＜第3章第2節・第3節＞ 【第6回】剰余価値の生産（1）＜第4章第1節・第2節＞ 【第7回】剰余価値の生産（2）＜第4章第3節＞ 【第8回】労働力の価値と賃金＜第6章＞ 【第9回】資本の蓄積過程と雇用・失業問題（1）＜第7章第1節・第2節＞ 【第10回】資本の蓄積過程と雇用・失業問題（2）＜第7章第3節＞ 【第11回】資本の蓄積過程と雇用・失業問題（3）＜第7章第4節＞ 【第12回】資本主義的生産様式の諸段階と現段階＜第5章＞ 【第13回】マルクス経済学から見た日本経済の現状＜第14章第2節＞								
成績評価の方法	期末試験（90%）、授業への取り組み姿勢（10%）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の授業にて行う。								
教科書	『改訂新版 現代社会経済学』北村洋基（桜井書店）2013年								
指定図書	『経済と社会』長島誠一（桜井書店）2004年、『マルクス経済学簡易入門』深澤竜人（丸善雄松堂）2020年								
参考書									
教員からのお知らせ	授業で用いるスライド資料は、Teams のフォルダなどで共有します。詳細は、各クラスの担当の担当から最初の授業の際に指示をします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、各学部・学科にて定めるオフィスアワーまたは授業終了後に受け付けます。詳細は各担当教員から指示します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	ミクロ経済学(週2回授業)				各担当教員	第1期
履修前条件						備考
授業の目的	<p>ミクロ経済学は、消費者や企業といった経済を構成する主体がどのように行動するかという考察から出発して、そうした主体から構成される市場経済がどのように機能するか(あるいは機能しなくなるか)を解き明かす経済学の一分野である。ミクロ経済学は、マクロ経済学と並んで経済学の二大基礎理論を構成しており、そこで学んだ考え方は他のさまざまな応用科目で頻繁に用いられる。</p> <p>この講義ではミクロ経済学の基礎理論を学ぶ。『ミクロ経済学基礎』では、需要曲線と供給曲線を中心にミクロ経済学の初歩を学んだ。この講義ではそれをやや理論的に掘り下げて、需要曲線は消費者行動からどのように導き出すことができるか、供給曲線はどのように企業行動から導き出すことができるかについて基礎的な考察を行う。そして、こうした道具立てを通して眺めると市場経済やそれにまつわる経済政策問題がどのように見えるかについて考えていく。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の仕組みを説明できる。 ・市場経済にまつわる政策問題を理解できる。 ・ミクロ経済学の理論を用いて日常の経済問題を説明できる。 					
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>各回の授業で扱う項目について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業の進行に応じて、教科書の Active Learning や別途与える練習問題(これらをまとめて、以下では「演習問題」という)を解きながら復習すること。授業外に計120時間以上の学修を行うこと。</p>					
授業計画	<p>【第1回】市場の基本的な機能：需要と供給 【第2回】市場の基本的な機能：価格弾力性(その1) 【第3回】市場の基本的な機能：価格弾力性(その2) 【第4回】市場の基本的な機能：市場均衡 【第5回】第Ⅱ部演習問題の解説 【第6回】消費者の行動：効用関数と無差別曲線(その1) 【第7回】消費者の行動：効用関数と無差別曲線(その2) 【第8回】消費者の行動：予算制約線と効用最大化行動(その1) 【第9回】消費者の行動：予算制約線と効用最大化行動(その2) 【第10回】消費者の行動：所得変化とエンゲル曲線 【第11回】消費者の行動：価格変化と需要曲線(その1) 【第12回】消費者の行動：価格変化と需要曲線(その2) 【第13回】第Ⅲ部演習問題の解説 【第14回】中間試験(予定) 【第15回】生産者の行動：生産関数と等産出量曲線(その1) 【第16回】生産者の行動：生産関数と等産出量曲線(その2) 【第17回】生産者の行動：費用最小化と総費用関数 【第18回】生産者の行動：平均費用と限界費用(その1) 【第19回】生産者の行動：平均費用と限界費用(その2) 【第20回】生産者の行動：利潤最大化行動と供給曲線(その1) 【第21回】生産者の行動：利潤最大化行動と供給曲線(その2) 【第22回】第Ⅳ部演習問題の解説 【第23回】余剰による市場分析：市場均衡の評価 【第24回】余剰による市場分析：経済政策の評価(その1) 【第25回】余剰による市場分析：経済政策の評価(その2) 【第26回】第Ⅴ部演習問題の解説</p>					
成績評価の方法	中間試験(50%)および前期末試験(50%)の結果による。					
フィードバックの内容						
教科書	『ミクロ経済学15講』小野崎保・山口和男(新世社)2023年					
指定図書						
参考書						
教員からのお知らせ	『ミクロ経済学基礎』の単位を修得済みであることが望ましい。					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。					
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り。					
実践的な教育内容						
その他	<p>この授業は週2回の授業である。</p> <p>中間試験の日程は、授業内で告知する。</p> <p>学籍番号によるクラス指定有。詳細は時間割およびガイダンス資料を確認すること。</p>					

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期														
科目名	ミクロ経済学演習				各担当教員	第1期														
履修前提条件	備考																			
授業の目的	この演習では、ミクロ経済学の講義内容を正しく理解し、自らの理解度を確認することを目的として、ミクロ経済学の講義に合わせて練習問題を解いていく。演習であるので、出席するだけでなく、演習時間に与えられる課題に取り組むことが必要である。一般的なミクロ経済学の問題を、自らの力で解けるようになり、現実の経済を理解できるようになることを目的とする。																			
到達目標	この授業を受けることにより、ミクロ経済学の内容を理解し、練習問題を解く力をつけ、更に現実の経済を理解できるようになることを目標とする。また、公務員等の各種資格試験の準備としても役立つことを目指している。																			
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間は、60時間以上必要である。毎回の演習前に教科書と講義資料の内容や問題に目を通しておくこと。																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 オリエンテーション：ミクロ経済学を学ぶために</td> <td>【第8回】 消費者の行動：価格変化と需要曲線</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 市場の基本的な機能：需要と供給</td> <td>【第9回】 生産者の行動：生産関数と等産出量曲線</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 市場の基本的な機能：価格弾力性</td> <td>【第10回】 生産者の行動：費用最小化と総費用関数</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 市場の基本的な機能：市場均衡</td> <td>【第11回】 生産者の行動：平均費用と限界費用</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 消費者の行動：効用関数と無差別曲線</td> <td>【第12回】 生産者の行動：利潤最大化行動と供給曲線</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 消費者の行動：予算制約線と効用最大化行動</td> <td>【第13回】 余剰による市場分析：市場均衡の評価、経済政策の評価</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 消費者の行動：所得変化とエンゲル曲線</td> <td></td> </tr> </table>						【第1回】 オリエンテーション：ミクロ経済学を学ぶために	【第8回】 消費者の行動：価格変化と需要曲線	【第2回】 市場の基本的な機能：需要と供給	【第9回】 生産者の行動：生産関数と等産出量曲線	【第3回】 市場の基本的な機能：価格弾力性	【第10回】 生産者の行動：費用最小化と総費用関数	【第4回】 市場の基本的な機能：市場均衡	【第11回】 生産者の行動：平均費用と限界費用	【第5回】 消費者の行動：効用関数と無差別曲線	【第12回】 生産者の行動：利潤最大化行動と供給曲線	【第6回】 消費者の行動：予算制約線と効用最大化行動	【第13回】 余剰による市場分析：市場均衡の評価、経済政策の評価	【第7回】 消費者の行動：所得変化とエンゲル曲線	
【第1回】 オリエンテーション：ミクロ経済学を学ぶために	【第8回】 消費者の行動：価格変化と需要曲線																			
【第2回】 市場の基本的な機能：需要と供給	【第9回】 生産者の行動：生産関数と等産出量曲線																			
【第3回】 市場の基本的な機能：価格弾力性	【第10回】 生産者の行動：費用最小化と総費用関数																			
【第4回】 市場の基本的な機能：市場均衡	【第11回】 生産者の行動：平均費用と限界費用																			
【第5回】 消費者の行動：効用関数と無差別曲線	【第12回】 生産者の行動：利潤最大化行動と供給曲線																			
【第6回】 消費者の行動：予算制約線と効用最大化行動	【第13回】 余剰による市場分析：市場均衡の評価、経済政策の評価																			
【第7回】 消費者の行動：所得変化とエンゲル曲線																				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70%）と、提出課題（30%）によって評価する。																			
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックについては、翌週の講義内や Teams で行う。																			
教科書	『ミクロ経済学15講』小野崎保、山口和男（新世社）2023																			
指定図書																				
参考書																				
教員からのお知らせ	教科書とミクロ経済学の授業資料を必ず持ってくる。演習用の教材・資料・連絡事項については、以下の方法を利用して掲示するので、それぞれを定期的に確認すること。 ①大学ポータルサイト「オンライン授業」 ②メール（学籍番号 @rissho-univ.jp） ③ Microsoft Teams（アプリ） なお、③については、パソコンあるいはスマートフォンを持っている人はアプリを事前にダウンロードしておくこと。アプリの利用方法の詳細については、①または②を通じて連絡する。																			
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員に問い合わせること。																			
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り																			
実践的な教育内容																				
その他	この演習は『ミクロ経済学』と同時に履修することを前提とする。『ミクロ経済学基礎』の単位を修得済みであることが望ましい。																			

講義コード	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期														
科目名	ミクロ経済学基礎				各担当教員	第1期														
履修前提条件	備考																			
授業の目的	この講義では経済学の面白さを知ってもらうことと、社会科学としての厳密性を理解してもらうこと目指している。経済学の考え方をわずかでも身につければ、世の中の見方を大きく変えることができるようになる。これこそが経済学を学ぶことの喜びである。一方、経済学はミクロ経済学、マクロ経済学という2つの側面から経済問題をとらえている。ミクロ経済学では、人間や企業の合理的な判断の結果どのような行動をとるようになるのかを分析している。マクロ経済学では、国全体としての家計や企業の行動を把握することによって、ミクロ経済学では見えていなかった経済システムの整合性を明らかにしている。これらを学ぶことによって、学問としての経済学の意味を分かってもらいたい。																			
到達目標	<p>①経済学特有の用語や考え方を正しく理解し、使うことができる。</p> <p>②市場で製品やサービスの価格が決まる仕組みについて、図を使って説明できる。</p> <p>③さまざまな出来事や政策が市場に与える影響について、図を使って分析できる。</p> <p>④市場経済システムが持つ望ましい性質とその限界について説明できる。</p>																			
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。経済学の学修では、講義での説明を聞いたり教科書を読んだりするだけでなく、実際に自分の頭と手を動かして問題演習に取り組むことがとても大切である。授業内容に対応した演習問題を課題として出題するので、ぜひしっかりと取り組んでほしい。																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 第1章 経済学経済学の十大原理（1）</td> <td>【第8回】 第5章 需要、供給、および政府の政策（1）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 第1章 経済学経済学の十大原理（2）</td> <td>【第9回】 第5章 需要、供給、および政府の政策（2）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 第2章 経済学者らしく考える</td> <td>【第10回】 第6章 消費者、生産者、市場の効率性1（1）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 第3章 相互依存と貿易からの利益（1）</td> <td>【第11回】 第6章 消費者、生産者、市場の効率性2（2）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 第3章 相互依存と貿易からの利益（2）</td> <td>【第12回】 第7章 外部性（1）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 第4章 市場における需要と供給の作用（1）</td> <td>【第13回】 第7章 外部性（2）</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 第4章 市場における需要と供給の作用（2）</td> <td></td> </tr> </table>						【第1回】 第1章 経済学経済学の十大原理（1）	【第8回】 第5章 需要、供給、および政府の政策（1）	【第2回】 第1章 経済学経済学の十大原理（2）	【第9回】 第5章 需要、供給、および政府の政策（2）	【第3回】 第2章 経済学者らしく考える	【第10回】 第6章 消費者、生産者、市場の効率性1（1）	【第4回】 第3章 相互依存と貿易からの利益（1）	【第11回】 第6章 消費者、生産者、市場の効率性2（2）	【第5回】 第3章 相互依存と貿易からの利益（2）	【第12回】 第7章 外部性（1）	【第6回】 第4章 市場における需要と供給の作用（1）	【第13回】 第7章 外部性（2）	【第7回】 第4章 市場における需要と供給の作用（2）	
【第1回】 第1章 経済学経済学の十大原理（1）	【第8回】 第5章 需要、供給、および政府の政策（1）																			
【第2回】 第1章 経済学経済学の十大原理（2）	【第9回】 第5章 需要、供給、および政府の政策（2）																			
【第3回】 第2章 経済学者らしく考える	【第10回】 第6章 消費者、生産者、市場の効率性1（1）																			
【第4回】 第3章 相互依存と貿易からの利益（1）	【第11回】 第6章 消費者、生産者、市場の効率性2（2）																			
【第5回】 第3章 相互依存と貿易からの利益（2）	【第12回】 第7章 外部性（1）																			
【第6回】 第4章 市場における需要と供給の作用（1）	【第13回】 第7章 外部性（2）																			
【第7回】 第4章 市場における需要と供給の作用（2）																				
成績評価の方法	原則として、授業期間中における数回の小テスト（20%）ならびに期末試験の成績（80%）によって評価する。																			
フィードバックの内容																				
教科書	『マンキュー入門経済学（第4版）』N. グレゴリー・マンキュー（センゲージラーニング株式会社）2025																			
指定図書																				
参考書																				
教員からのお知らせ	資料や連絡事項については Microsoft Teams を利用して掲示するので、定期的に確認すること。Microsoft Teams の利用方法については、授業ガイダンス動画（資料）で説明する。																			
オフィスアワー	この授業は複数クラスなので、オフィスアワー・あるいは質問対応可能時間の詳細については、各担当教員に問い合わせること。																			
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。																			
実践的な教育内容																				
その他	参考書については、必要に応じて授業中に指示する。 この授業で学ぶ内容についての問題演習を行う授業として、「ミクロ経済学基礎演習」という授業が開講されているので、並行して履修することを強く推奨する。																			

講義コード	授業形態	講義・演習	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	ミクロ経済学基礎演習			各担当教員		第1期
履修前条件				備考		
授業の目的	この演習では、「ミクロ経済学基礎」の講義内容を正しく理解し、自らの理解度を確認することを目的として、「ミクロ経済学基礎」の講義の進み方に合わせて練習問題を解く時間を与え、解説を行う。演習であるので、出席するだけでなく、演習時間に与えられる課題に取り組む必要がある。特に教科書の章末問題を、自らの力で解けるようになることが演習の重要な目的である。					
到達目標	この演習では、「ミクロ経済学基礎」の講義内容を理解し、練習問題を解く力をつけることができる。					
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間は、最低でも60時間以上必要である。毎回の演習前に講義内容を復習し、教科書の章末問題に目を通しておくこと。					
授業計画	【第1回】第1章 経済学の10原則1 【第2回】第1章 経済学の10原則2 【第3回】第2章 経済学者らしく考えよう 【第4回】第3章 相互依存と交易の便益1 【第5回】第3章 相互依存と交易の便益2 【第6回】第4章 市場における需要と供給1 【第7回】第4章 市場における需要と供給2 【第8回】第5章 需要、供給および政府の政策1 【第9回】第5章 需要、供給および政府の政策2 【第10回】第6章 消費者、生産者、市場の効率性1 【第11回】第6章 消費者、生産者、市場の効率性2 【第12回】第7章 生産コスト1 【第13回】第7章 生産コスト2					
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70%）と提出課題（30%）によって評価する。					
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックは、翌週の講義内やポータルサイトにて行う。					
教科書	『マンキュー入門経済学 第4版』N・グレゴリー・マンキュー（センゲージ・ラーニング株式会社）2025年					
指定図書	『スティグリッツ入門経済学 第4版』ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ（東洋経済新報社）2012年					
参考書	『経済学・入門 第3版』塩澤修平（有斐閣）2013年、『ミクロ経済学・入門：ビジネスと政策を読みとく 新版』柳川隆、町野和夫、吉野一郎（有斐閣）2015年					
教員からのお知らせ	教科書と「ミクロ経済学基礎」の授業資料を必ず持ってくる。演習用の教材・資料および連絡事項を、学内のポータルサイトなどを利用して掲示する場合がありますので、各担当教員の指示に従うこと。					
オフィスアワー	この授業は複数クラスであるため、オフィスアワーあるいは質問対応可能時間の詳細については各担当教員に問い合わせること。					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り					
実践的な教育内容						
その他						

講義コード	11C0123601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	民法				戸田 知行		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本年度は、民法の中で特に身近な家族法（親族法、相続法）およびそれに関連する民法総則の一部（第一編第二章「人」）を取り上げる。人は生まれると親子関係に入り、成長・独立して婚姻関係に入り、子供が生まれるとまた親子関係に入る。そして、年をとると、場合によっては後見関係に入り、最後には死亡し相続関係が生じる。本講座は、これらの関係を規律する法の基礎を習得することを目的とする。								
到達目標	親子関係の決め方、親の子に対する権利・義務が分かる。どのような場合に離婚できるのか、また離婚の手続き・効果が分かる。認知症の高齢者を法的にどのように保護するのが分かる。遺言の残し方、書き方が分かる。遺言がない場合の相続の仕組みが分かる。公務員試験や法律関係資格の受験のための民法の知識が身につく。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。出席者は、テキストを事前に読み、「わからない所」をはっきりさせて、講義に臨むこと。復習として、重要な論点について、講義のノート、配布したレジュメ、テキストなどから自分なりの整理ノートを作成すること。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス、民法とは？ 権利能力1（権利能力の始期） 【第2回】 権利能力2（権利能力の終期）、親族とは？ 氏名 【第3回】 相続1（相続とは？ 相続人、相続分、代襲相続、相続失格、相続の承認・放棄） 【第4回】 行為能力1（意思能力と行為能力、未成年者）、親権・未成年後見 【第5回】 親子（実子、養子） 【第6回】 行為能力2（成年被後見人・被保佐人・被補助人）、成年後見・保佐・補助、扶養 【第7回】 行為能力3（制限能力者の相手方の保護）、任意後見 【第8回】 婚姻1（成立） 【第9回】 婚姻2（効力） 【第10回】 婚姻3（解消）、内縁 【第11回】 相続2（相続の効力1） 【第12回】 相続3（相続の効力2、相続回復請求権、財産分離・相続人の不存在） 【第13回】 相続4（遺留分、遺言、死因贈与） ・各回の予定は、一応のものであり、変更の可能性がある。								
成績評価の方法	期末テストで評価する（100%）。								
フィードバックの内容	期末テストの解説に該当するものは、毎回配布するレジュメの中に、すでに記載してある。疑問がある人に対しては、出講日に訪ねてもらえれば、個別に対応する。								
教科書	『民法7 親族・相続 [第7版]』高橋朋子・床谷文雄・棚村政行（有斐閣）2023								
指定図書	『民法判例百選Ⅲ 親族・相続 [第3版]』大村敦志・沖野眞己編（有斐閣）2023、『民法判例百選Ⅰ 総則・物権 [第9版]』潮見佳男・道垣内弘人編（有斐閣）2023								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他	教科書は、4月までに新版が出た場合は、そちらを使用する。								

講義コード	11C3115701	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	リスク・マネジメント				茶野 努		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	金融規制の根拠を明らかにしたうえで、銀行監督の枠組みである BIS 規制の変遷とその表裏をなす金融機関におけるリスク管理について概説する。								
到達目標	金融リスク管理についての基礎知識を修得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	公開している講義資料を打ち出して、事前に学習の上講義に参加すること。 上記に示した授業外の学修は、60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 金融規制の根拠 【第3回】 金融規制の新しい流れ 【第4回】 バーゼルⅡ 【第5回】 リーマンショックとバーゼルⅢ 【第6回】 為替先物 【第7回】 先物 【第8回】 オプション 【第9回】 デルタヘッジ、スワップ 【第10回】 ALM (資産負債管理) 【第11回】 バリュアット・リスク (VaR) 【第12回】 統合リスク管理 (ERM) 【第13回】 授業内の最終試験と講評								
成績評価の方法	授業内の最終試験 (100%) により評価します。								
フィードバックの内容	授業内に解説等を行い、対応を図ります。								
教科書	『保険と金融から学ぶ リスクマネジメント』岡田太・茶野努・平澤敦 (中央経済社) 2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	http://chanopy.wixsite.com/chano に講義資料がアップしてあります。 教科書を購入してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0104401	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	倫理学とは何か				小川 文子		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	私たち人間は、何かしらのコミュニティに属し、人倫の中で生きています。「倫理学」とは、人間が社会においていかに行うべきかという問題を追究する学問です。したがって、この授業では「善」や「正義」について考えていくこととなります。西洋哲学の流れに従って倫理学の歴史について概観しながら、現代ならではの新たな問題についても見ていきます。								
到達目標	①身近な事柄に対して、自発的に問題を見つけることができる ②様々な時代の倫理思想の特徴や難点を説明することができる ③問題に対し、自分なりの意見を発信することができる								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修をすること。授業中に、書籍やHP、映画など、参考となるメディアを紹介するので、そうしたものを積極的に取り入れて各自学習を深めて下さい。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス・授業の詳しい説明 【第2回】 「正義」って何だろう？：徳倫理について 【第3回】 功利主義とカントの義務論 【第4回】 資本主義の問題：マルクス・ガブリエルと斎藤幸平 【第5回】 環境倫理：未来の環境はどうなるのか 【第6回】 動物の権利 【第7回】 生命倫理：最先端医療はどこまで許容されるのか 【第8回】 「自殺」と「安楽死」 【第9回】 ドキュメンタリー『彼女は安楽死を選んだ』鑑賞 【第10回】 ベネターの反出生主義 【第11回】 ポリティカル・コレクトネス①社会的に公正とはどういう意味か 【第12回】 ポリティカル・コレクトネス②アニメ『サウスパーク』に見るポリコレ 【第13回】 経営倫理								
成績評価の方法	平常点 (リアクションペーパーと課題) : 40% 学期末試験 : 60% 平常点として、履修が確定した第2回目より OpenLMS でリアクションペーパーを回収します。 到達目標の①と③については、リアクションペーパーで確認します。②については、課題と試験で評価します。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーのフィードバックを次週の授業内で行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	特定の教科書は使用せず、毎回資料をデータで配信します。エコロジーの観点から、紙媒体では配布しません。参考文献も適宜ご紹介いたします。								
オフィスアワー	授業時間後教室にて、もしくは OpenLMS のメールを使ってご連絡ください。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。毎回のリアクションペーパーを次の授業時にフィードバックします。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11C0104901	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	歴史学の世界					加藤 はるか	第2期		
履修前提条件						備考			
授業の目的	「京都とパリの歴史散歩」 歴史＝暗記物と思っているかもしれませんが、高校までの歴史の授業と歴史学は異なります。この授業では、長い歴史を持つ日本とヨーロッパの2つの都市、京都とパリを例に、都市に残る様々な時代の痕跡を空想旅行でめぐりながら、歴史学の方法論、そして歴史と文化、習慣を紹介する。								
到達目標	この授業を受けることで、歴史学の方法論を理解すると共に、日本とヨーロッパの歴史と文化、そしてその違いを把握し、説明することが出来る。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で適宜提示する参考文献やスライド、ノートを使用して授業内容の予習・復習をすること、フィールドワークや課題に取り組むことなどで、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス&パリ① フランス以前のパリ 【第2回】 京都① 成り立ち～室町時代 【第3回】 パリ② 中近世のパリ 【第4回】 京都② 武士の時代 【第5回】 都市と歴史 *オンライン授業で実施（フィールドワーク&レポート作成） 【第6回】 パリ③ 激動のパリ 【第7回】 京都③ 秀吉の大改革 【第8回】 パリ④ パリ大改造 【第9回】 京都④ 町人文化、明治維新 【第10回】 パリ⑤ 万博～現代まで 【第11回】 京都⑤ 西洋文化の流入 【第12回】 負の歴史 *オンライン授業で実施（オンデマンド&レポート作成） 【第13回】 全体のまとめ								
成績評価の方法	期末試験（60%）、小レポート2回&授業への取り組み姿勢（40%）で評価する。到達目標に記載の内容について、自ら説明できることを評価基準とする。その為には、受講を通してしっかりと学習することが必要不可欠となり、単位取得のみを目的とする履修には向いていない。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業内にて行う。								
教科書	なし								
指定図書	なし								
参考書	授業中に指示する								
教員からのお知らせ	高校で日本史の人も、世界史の人も、歴史を取っていない人も受講可能です。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有／能動的な授業外学習／調査学習								
実践的な教育内容									
その他									


講義コード	11C0116501	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	労働経済学Ⅰ				戎野 淑子		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>人間は、「労働」することによって生活し、それを通じて社会を形成し発展させてきた。労働は、人間にとって基本的かつ重要な営みである。「労働経済学」においては、人々が働き、暮らしていく現実の姿を経済学的視点から焦点を当て、そこに発生する様々な事象や問題を分析し解明するものである。</p> <p>そこで、本講義では、人々の生活に身近で深く関わっている極めて重要な課題を中心に、就業に関わる様々な仕組みやその仕組みの持つ問題について、理論と関連させながら明らかにする。まず、分析枠組みの中心となっている市場の概念を軸に、「労働」という商品の特徴をとらえ、それによって労働に関する基礎的理論を理解する。そして、労働に関する現在の具体的諸問題を取り上げ、昨今深刻かつ重要な社会問題になっている「雇用」に重点をおいて講義を進めることにしたい。</p> <p>なお、状況により、講義計画を変更・調整することもある。</p>								
到達目標	労働経済学の基礎知識を修得することができ、今日の日本の労働に関する状況や諸問題について、概要を理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義ノートを用いて、復習をすること。(計60時間以上)								
授業計画	<p>【第1回】労働に関する基本的概念：労働力人口、完全失業率等の具体的内容</p> <p>【第2回】労働供給に関する基礎的理論（Ⅰ）：労働と余暇（無差別曲線、労働時間の最適化等）</p> <p>【第3回】労働供給に関する基礎的理論（Ⅱ）：家計の労働供給（ダグラス＝有沢の法則等）</p> <p>【第4回】労働需要に関する基礎的理論（Ⅰ）：企業の労働需要（長期・短期）</p> <p>【第5回】労働需要に関する基礎的理論（Ⅱ）：市場の労働需要（技術進歩と労働需要との関係等）</p> <p>【第6回】労働市場のメカニズム：「労働」という商品の特徴、市場均衡</p> <p>【第7回】採用形態の内容と特徴：新規学卒採用・中途採用の特徴と近年の動向</p> <p>【第8回】労働時間について：日本の労働時間の特徴、近年の動向（年間労働時間、裁量労働等）</p> <p>【第9回】賃金に関する基礎的理論：賃金の硬直性、賃金決定の制度要因、最低賃金等</p> <p>【第10回】賃金水準と格差：賃金水準の国際比較、年齢・職種・企業規模・産業間の賃金格差</p> <p>【第11回】失業に関する基礎的理論：失業の概念と失業の種類、フィリップス曲線</p> <p>【第12回】失業構造と日本の失業の特徴：日本の失業の特徴（失業水準、期間、構造）、失業対策</p> <p>【第13回】まとめ</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%と試験50%。毎回の授業で課題を解答して提出し、授業への取り組み姿勢を評価。最後2回の授業は、まとめの試験（課題）を行い、試験の評価。								
フィードバックの内容	課題の解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う								
教科書	『労働経済白書』厚生労働省編（日経印刷株式会社）2024年								
指定図書	『労働経済』清家篤・風神佐知子（東洋経済新報社）2021年、『労働経済学』阿部正浩（新世社）2021年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	水曜日お昼休み								
アクティブラーニングの内容	毎回、課題行って提出し、その解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う								
実践的な教育内容									
その他									


講義コード	11C0116601	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期															
科目名	労働経済学2				戎野 淑子		第2期																
履修前条件					備考																		
授業の目的	<p>人間は、「労働」することによって生活し、それを通じて社会を形成し発展させてきた。労働は、人間にとって基本的かつ重要な営みである。「労働経済学」においては、人々が働き、暮らしていく現実の姿を経済学的視点から焦点を当て、そこに発生する様々な事象や問題を分析し説明するものである。</p> <p>そこで、本講義では、人々の生活に身近で深く関わっている極めて重要な課題を中心に、就業に関わる様々な仕組みやその仕組みの持つ問題について、理論と関連させながら明らかにする。まず、分析枠組みの中心となっている市場の概念を軸に、「労働」という商品の特徴をとらえ、それによって労働に関する基礎的理論を理解する。そして、労働に関する現在の具体的な諸問題を取り上げ、昨今深刻かつ重要な社会問題になっている「雇用」に重点をおいて講義を進めることにしたい。</p> <p>なお、状況により、講義計画を変更・調整することもある。</p>																						
到達目標	労働経済学の基礎知識を修得することができ、今日の日本の労働に関する状況や諸問題について、概要を理解することができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義ノートを用いて、復習をすること。(計60時間以上)																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】労働環境の変化（Ⅰ）：少子高齢化</td> <td>【第8回】労働時間（Ⅰ）：国際比較</td> </tr> <tr> <td>【第2回】労働環境の変化（Ⅱ）：国際化</td> <td>【第9回】労働時間（Ⅱ）：現状と課題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】労働環境の変化（Ⅲ）：技術革新</td> <td>【第10回】日本の賃金</td> </tr> <tr> <td>【第4回】雇用形態の多様化（1）</td> <td>【第11回】格差と貧困</td> </tr> <tr> <td>【第5回】雇用形態の多様化（2）</td> <td>【第12回】若年層の労働問題： 新卒の就職、フリーター、ニート、フリーランス</td> </tr> <tr> <td>【第6回】多様な働き方（1）</td> <td>【第13回】まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】多様な働き方（2）</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】労働環境の変化（Ⅰ）：少子高齢化	【第8回】労働時間（Ⅰ）：国際比較	【第2回】労働環境の変化（Ⅱ）：国際化	【第9回】労働時間（Ⅱ）：現状と課題	【第3回】労働環境の変化（Ⅲ）：技術革新	【第10回】日本の賃金	【第4回】雇用形態の多様化（1）	【第11回】格差と貧困	【第5回】雇用形態の多様化（2）	【第12回】若年層の労働問題： 新卒の就職、フリーター、ニート、フリーランス	【第6回】多様な働き方（1）	【第13回】まとめ	【第7回】多様な働き方（2）	
【第1回】労働環境の変化（Ⅰ）：少子高齢化	【第8回】労働時間（Ⅰ）：国際比較																						
【第2回】労働環境の変化（Ⅱ）：国際化	【第9回】労働時間（Ⅱ）：現状と課題																						
【第3回】労働環境の変化（Ⅲ）：技術革新	【第10回】日本の賃金																						
【第4回】雇用形態の多様化（1）	【第11回】格差と貧困																						
【第5回】雇用形態の多様化（2）	【第12回】若年層の労働問題： 新卒の就職、フリーター、ニート、フリーランス																						
【第6回】多様な働き方（1）	【第13回】まとめ																						
【第7回】多様な働き方（2）																							
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%と試験50%。毎回の授業で課題を解答して提出し、授業への取り組み姿勢を評価。最後2回の授業は、まとめの試験（課題）を行い、試験の評価。																						
フィードバックの内容	課題の解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う																						
教科書	『労働経済白書』厚生労働省編（日経印刷株式会社）2024年																						
指定図書	『労働経済』清家篤・風神佐知子（東洋経済新報社）2021年、『労働経済学』阿部正浩（新世社）2021年																						
参考書																							
教員からのお知らせ																							
オフィスアワー	水曜日お昼休み																						
アクティブラーニングの内容	毎回、課題を行い提出し、その解答（リアクションペーパー）に対するフィードバックを次の授業で行う																						
実践的な教育内容																							
その他																							


講義コード	11C0125001	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	労働法				水野 圭子		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	将来、社会に出て働く場合はもちろんのこと、アルバイトや就職活動を含め働くという場にかかわる様々な法的問題について学習する。第一には、労働法の基本的な知識を習得することを目的とする。第二には、働く場合にかかわりを持つ法的な問題がどのように解決されるべきか判断し、他者に説明できるようにする。								
到達目標	1・労働法の基本的な概念を理解し、その制度や仕組みについて、簡潔な文章で説明できるようになる。2.労働法の問題を理解し、重要な問題点について法的解決や判例を挙げ説明できるようになる。								
授業外学習内容・ 授業外学習時間数	予習復習として、教科書や配布された資料を熟読すること。また、必要に応じて、判例の事実・判例要旨をまとめる等の授業外学習を行うことが必要となる。おおむね、1回の授業につき2時間の予習と2時間の復習といった、半期で60時間以上の授業外学習を行うことが求められる。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 労働法とはどのような法律か 【第2回】 労基法・労災保険法によって守られる者・労基法を守る義務を負う者 アルバイトと労働法 【第3回】 学生と労働法の関係 採用内定・採用内定・本採用拒否 判例の読み方① 【第4回】 賃金とはなにか 日本の長期雇用システムと賃金の重要性と法の保護 【第5回】 最低賃金の問題点・賃金の減額・相殺・賞与・退職金の問題 【第6回】 成果主義賃金と年俸制の利点・問題点 【第7回】 労働時間とはなにか。時間外労働/36協定と残業義務・長時間労働規制と過労死やワーク・ライフ・バランス性 【第8回】 長時間労働と過労死・過労自殺について 弁護士・被災労働者遺族の講演を聞く 【第9回】 休憩時間・休息時間・休日 休む時間の意味と可能性。 【第10回】 年次有給休暇 学生アルバイトの年次有給休暇取得・日本の長期休暇の可能性。 【第11回】 労働条件の決定 労働契約・就業規則・労働協約 【第12回】 労働契約の終了 辞職 解雇 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	ポータル等を利用して、簡単な確認テストを複数回行う（20%）、また、レポート（10%）の提出を求めることがある。その合計点と期末試験（70%）を合計して、成績評価を行う。								
フィードバックの内容	講義の要点や定義等について、オンライン上の確認テストを行う。これについては、一週間の間に回答するものとする。また、簡単なレポートの提出を求める場合もある。これらの点については、次回の講義の初めに再度復習を行う。								
教科書	『テキストブック労働法』高橋賢司・橋本陽子・本庄 淳志（中央経済社）2021年								
指定図書									
参考書	『労働法講義 第3版』高橋賢司（中央経済社）2022年								
教員からのお知らせ	教科書の改訂・改版が行われた場合には、最新のものを教科書として使用します。								
オフィスアワー	講義の後に、教員に対する質問等の時間をとります。								
アクティビティの内容	外部講師（今年度は労働事件を多く担当している弁護士と労災被災者遺族を予定）の講演を予定している。講演後、質疑応答、コメントの提出を行う予定である。								
実践的な教育内容									
その他	パワーポイントを用いて、教科書、資料を利用し、講義形式で進める。新聞記事などの資料を利用し、その単元の問題点を認識する。次に教科書をもちて定義・用語等を正確に理解し、争点を明らかにし、どのような解決が行われているのか、最高裁判決等を確認する。								

第Ⅲ部


教 員 紹 介

ふりがな	えびすの すみこ			
氏名	戎野 淑子			
職名	教授	学位	修士（経済学）	
主な担当科目	【学部】労働経済学、人的資源管理論 【大学院】労働経済特論・特殊研究			
趣味・特技	温泉			
学生に推薦する本	偉人の伝記 マックスヴェーバー 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』			
教員からのメッセージ	千里の道も一歩から 地道な日々の積み重ねが大切です。 大学時代、長いようで短いです。貴重な時間ですので、着実に 目指すものを身に付けていってください。			
略歴	慶應義塾大学経済学研究科博士課程単位取得満期退学、 嘉悦大学経営経済学部専任講師、准教授、 立正大学経済学部准教授を経て、現職			
専門分野	労使関係論、労働経済学			
現在の研究テーマ	日本の労使関係（雇用関係）、中高年齢者の雇用			
過去5年間の主要研究業績				
① 「総論」 連合総研『人材育成と企業連携—技術革新や産業構造転換への労使の対応』2024年 ② 「地域の人材育成—中小零細企業の教育訓練」 連合総研『人材育成と企業連携—技術革新や産業構造転換への労使の対応』2024年 ③ 「生産性向上と労使協議」 連合総研『労働力人口減少下における持続可能な経済社会と働き方(公正配分と多様性)に関する調査研究報告書』2023年 ④ 「将来性のある生産性向上と労使関係」 『地域経済学研究』第37号 2019年 ⑤ 「働き方改革関連法の審議と労使関係—労働時間法制について」 『日本労働研究雑誌』No. 702 労働政策研究・研修機構 2019年1月				
上記以外の研究業績（5点以内）				
① “Aging society and employment for older people in Japan :Case study of good practice” <i>Longevity and Productivity –Experiences from Aging Asia</i> Asian productivity organization Asia productivity organization August 2008 ② 『労使関係の変容と人材育成』 慶應義塾大学出版会 2006年 ③ 「高度経済成長期における労使関係—日本的労使関係」 『日本労働研究雑誌』No. 634 労働政策研究・研修機構 2013年5月 ④ “The Japanese Style of Labor Management Relations” (Chap.1) “Labor-Management Relations in Japan” (Chap.2) “Japan’s Economic Development and Labor-Management Relations –The role of the respective entities” (Chap.5) <i>Manual on labor-management relations :Japanese experience and best practices</i> Asian productivity organization December 2014 ⑤ 「労使関係の変容と生産性向上：雇用の性格の変化を中心に」 『組織科学』第50巻第2号 2016年12月				
所属学会	日本労務学会、日本労使関係研究協会、日本経済政策学会、 日本キャリアデザイン学会			

ふりがな	えん し か			
氏名	苑 志 佳			
職名	教授	学位	経済学博士	
主な担当科目	【学部】アジア経済論、中国経済論 【大学院】地域経済特論、地域経済特殊研究			
趣味・特技	スキー、読書、旅行、人間観察			
学生に推薦する本	『国富論』（A. スミス）			
教員からのメッセージ	Where there is a will, there is a way !			
略歴	1979～1984年 中国対外経済貿易大学 1988～1989年 アメリカSETON HALL大学大学院 1992～1998年 東京大学大学院経済学研究科 2006～2007年 アメリカUCバークレー校IEAS客員研究員 1998年～現在に至る。 立正大学経済学部			
専門分野	中国経済論、アジア経済論			
現在の研究テーマ	中国の対外直接投資、中国の産業競争力、中国の企業制度			
過去5年間の主要研究業績				
① 『トピックスで読み解く国際経営』（分担執筆）（板垣博・周佐喜和・銭佑錫編）文真堂、第1章「企業はなぜ多国籍化するのか——事例1-4」2023年9月				
② 『世界進出する中国型多国籍企業』（単著）創成社、2023年3月				
上記以外の研究業績（5点以内）				
① 『アフリカの日本企業：日本的経営生産システムの移転可能性』（執筆分担）（公文溥編著）第9章「北アフリカの自動車部品工場—欧州市場と連携する：モロッコとチュニジアの日系工場を中心に—」、時潮社、301～320頁、2019年3月				
② 『グローバル金融危機後の世界経済の変貌：米国—新興国経済を中心に』（河村哲二編著）第11章「世界金融危機後の中国企業のグローバル化—ブラジルへ進出する中国自動車企業を中心に」（執筆分担）、ナカニシヤ出版、290～321頁、2018年8月				
③ 『21世紀資本主義世界の転換と変容—経済・環境・文化・言語による重層的分析—』（五味久寿・元木靖・苑志佳・北原克宣編）、第5章「中国資本主義に関する論考—「複合型資本主義」の様相—」批評社、144～171頁、2017年3月				
④ 『金型産業の技術形成と発展の様相』（馬場敏幸編）第12章「中国自動車金型企業の海外進出の背景と戦略—BYDによるオギハラ金型事業買収をめぐって—」（執筆分担）、日本評論社、221～250頁、2016年3月				
⑤ 『中国企業対外直接投資のフロンティア——「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開——』創成社、2014年2月				


ふりがな	おう あり よし			
氏名	王 在 喆			
職名	教授	学位	経済学博士	
主な担当科目	【学部】ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ 経済統計学 【大学院】経済統計学特論 経済統計学特研			
趣味・特技	読書、卓球、サッカー鑑賞			
学生に推薦する本	アンソニー・ギデンズ（松尾精文・小幡正敏訳）『国民国家と暴力』而立書房、1999年。 村上泰亮『反古典の政治経済学』（上・下）中央公論社、1997年。 J.M.ロバーツ（青柳正規監修）『図説 世界の歴史』（全10巻）創元社2002年。 フランシス・フクヤマ著・会田弘継訳『政治の起源』（上、下）講談社、2013年。			
教員からのメッセージ	大学時代は自分の耀き方を見つける時期です。			
略歴	1985年 上海鉄道大学（現同済大学）電信工学部 卒業 1994年 立正大学大学院経済学研究科修士課程 修了 1998年 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程 修了 1997年 慶應義塾大学総合政策学部助教 2001年 慶應義塾大学総合政策学部客員助教授 2002年 立正大学経済学部助教授 2007より 立正大学経済学部教授			
専門分野	中国経済論、日中経済比較分析			
現在の研究テーマ	日中両国の経済的な相互依存関係に関する計量分析			
過去5年間の主要研究業績				
(共著)『2012年中国産業連関表』の特徴についての考察—『2012年日中韓国際産業連関表』の研究開発に向けて—『経済学季報』（立正大学経済学会）68巻4号、2019年。 (共著)「国際産業連関モデルに基づく日中貿易構造の実証研究」『経済学季報』（立正大学経済学会）69巻4号、2020年。 (共著)「産業構造の特性に関するネットワーク分析」『経済学季報』（立正大学経済学会）71巻1号（経済学部開設70周年記念号）、2021年。 (単著)「日本と中国の産業構造の現状について」『経済学季報』（立正大学経済学会）71巻4号、2022年。				
上記以外の研究業績（7点以内）				
(共著)「中国東部沿海地域と日本との国際産業連関構造—2007年中国地域産業連関表および日中国際産業連関表による実証分析」『中京大学経済学論叢』26号、2015年。 (共著)「中国上海地域と日本との国際産業構造—2007年規模別日本・中国・上海国際地域産業連関表による実証分析」『経済学季報』（立正大学経済学会）64巻4号、2015年。 (共著)『日中連関構造の経済分析』勁草書房、2016年。 (共著)「中国沿海地域が日本経済に及ぼした影響」『地域学研究』（日本地域学会）第45巻第4号、2016年。 (共著) ” Economic interrelationship between Japan and the Chinese coastal area : An empirical analysis using international and regional input-output model” , Chukyo University Institute of Economics Discussion Paper Series No.1504, January 2016. (共著) ” Development and Challenge of the Japan-Korea-China International Input-Output Table” , 『経済学季報』（立正大学経済学会）66巻1・2号、2016年。 (共著)（韓国産業研究院（KEIT）委託研究）「韓日中間産業別貿易の比較優位構造の変化分析」韓国産業研究院（立正大学研究支援センター所収）、2017。				
所属学会	国際地域学会、日本地域学会、環太平洋産業連関分析学会（PAPAIOS）、中国投入産出学会			

ふりがな	オウ ゼイ			
氏名	王 芮			
職名	准教授	学位	博士（経済学）	
主な担当科目	【学部】経済政策論、ミクロ経済学基礎、マクロ経済学基礎 【大学院】マクロ経済学特論			
趣味・特技	ピアノ、ギター、料理			
学生に推薦する本	<ul style="list-style-type: none"> ダロン・アセモグル&ジェイムズ・A・ロビンソン（2013）「国家はなぜ衰退するのか：権利・繁栄・貧困の起源」早川書房 鶴光太郎&前田佐恵子&村田哲子（2019）「日本のマクロ経済分析 低温経済のパズルを解く」日本経済新聞出版社 今井耕介（2018）「社会科学のためのデータ分析入門」岩波書店 			
教員からのメッセージ	経済学はおもしろいぞ～ぜひ一緒に勉強していきましょう！			
略歴	神戸大学経済学研究科博士前期課程修了 神戸大学経済学研究科博士後期課程修了 関東学園大学経済学部経済学科専任講師 立正大学経済学部専任講師 立正大学経済学部准教授			
専門分野	マクロ経済学、金融政策			
現在の研究テーマ	DSGEモデルによるマクロ経済学の理論分析と実証分析			
過去5年間の主要研究業績				
① Wang, R. (2019). Unconventional Monetary Policy in Japan: Empirical Evidence from Estimated Shadow Rate DSGE Model. <i>Journal of International Commerce, Economics and Policy</i> , 10(02), 1950007. ② Wang, R. (2019). Unconventional Monetary Policy in US: Empirical Evidence from Estimated Shadow Rate DSGE Model. <i>International Journal of Monetary Economics and Finance</i> , 12(5), 361-389. ③ Wang, R. (2021). Evaluating the Unconventional Monetary Policy of the Bank of Japan: A DSGE Approach. <i>Journal of Risk and Financial Management</i> , 14(6), 253. ④ Wang, R. (2021). Measuring the Effect of Government Response on COVID-19 Pandemic: Empirical Evidence from Japan. <i>Covid</i> , 1(1), 276-287. ⑤ Wang, R. (2022). A Generalized New Keynesian Model with Wage Stickiness. <i>Journal of International Commerce, Economics and Policy</i> , 13(02), 2250012. ⑥ Wang, R. (2023). Price Stickiness and Wage stickiness in Generalised New Keynesian Model. <i>International Journal of Computational Economics and Econometrics</i> , 13(3), 305-331. ⑦ Wang, R. (2024). Global Supply Chain Disruptions, Commodity Price Shocks and Inflation in Japan. <i>International Journal of Empirical Economics</i> , 3(2).				
上記以外の研究業績（5点以内）				
① Rui WANG. (2019). A New Keynesian Model with Estimated Shadow Rate for Japan Economy. <i>World Journal of Economics and Finance</i> , Vol.5(1), pages 106-114, Premier Publishers. ② 王ゼイ（2019）「一般化ニューケインジアンモデルにおける名目粘着性」、関東学園大学経済学紀要第45巻、pages 1-22 ③ 王ゼイ（2021）「コロナショックと労働市場」、立正大学経済学季報、第71巻1号 ④ 王ゼイ（2021）「日本における新型コロナウイルス感染症の計量分析」、立正大学経済学季報、第71巻2号 ⑤ 王ゼイ（2021）「モビリティデータから見るコロナ対策の効果～都道府県別パネルデータによる実証分析～」、立正大学経済学季報、第71巻3号				
所属学会	日本経済学会、日本金融学会			


ふりがな	お ざ わ な み え			
氏 名	小 沢 奈 美 恵			
職 名	教 授	学 位	修 士 号	
主な担当科目	【学部】 News English、アメリカの文化と社会			
趣味・特技	映画鑑賞・旅行			
学生に推薦する本	オリバー・ストーン、ピーター・カズニック著『オリバー・ストーンが語るもう一つのアメリカ史』、早川書房、2013年。			
教員からのメッセージ	大学の四年間は、知識を旺盛に吸収し、様々な経験に挑戦し、良い仲間を作る貴重な時間だと思います。海外研修や留学などにもどんどんチャレンジして、視野を広げて海外にも友達を増やして、存分に楽しんでください。			
略 歴	<p>学歴：埼玉大学教育学部心理学科卒業、東京都立大学大学院 人文科学研究科（英文）修士修了、同大学同研科博士課程単位取得満期退学。アメリカのブラウン大学、サザンメイン大学で各1年、客員研究員。</p> <p>教歴：幾つかの大学で英語担当非常勤講師を経て、立正大学の専任教員となった。</p>			
専 門 分 野	アメリカ文学（主として19世紀）とアメリカ文化			
現在の研究テーマ	アメリカン・ルネッサンス期の文学（主流作家とマイノリティ作家の対比） アメリカの映像文化のカルチュラル・スタディーズ			
過去5年間の主要研究業績				
<p>① 単著「ポーの楽園的風景庭園に潜む先住民」『ポー研究』（日本ポー学会）第16号、2024年3月。</p> <p>② 単独発表“Deciphering Native American Images in <i>The Narrative of Arthur Gordon Pym of Nantucket</i>, The Fifth International Edgar Allan Poe Conference in Boston (Poe Studies Association) April 9th, 2022.</p> <p>③ 単著『アメリカン・ルネッサンス期の先住民作家 ウィリアム・エイプス研究—甦るピークオット族の声』明石書店、2021年9月。</p> <p>④ 単著「E.A.ポーと先住民作家ウィリアム・エイプスの接点—『アーサー・ゴードン・ピムの物語』に隠された「アメリカ先住民=消えたイスラエルの十部族」説—」『ポー研究』（日本ポー学会）第12号、2020年3月。</p> <p>⑤ 単著「先住民作家ウィリアム・エイプスの『ピークオット族の5人のキリスト教徒インディアンによる回心体験記』論—インディアン鏡に映しだされるアメリカ社会」『記念論文集』（日本英語文化学会）、2021年3月。</p>				
上記以外の研究業績（5点以内）				
<p>① 共著 The Thoreau Society of Japan. <i>Thoreau in the 21 Century: Perspectives from Japan</i>. Kinseido, 2017. (“<i>The Main Woods: What Thoreau Learned about the Penobscot People</i>”担当)</p> <p>② 共著：越智道雄監修、小澤奈美恵・塩谷幸子編集『映画で読み解く現代アメリカ—オバマの時代』明石書店 2015年</p> <p>③ 共著『ソローとアメリカ精神—米文学の源流を求めて』金星堂、2012年10月1日。</p> <p>④ 共著：越智道雄監修、小澤奈美恵・塩谷幸子編集『9.11 とアメリカ：映画にみる現代社会と文化』鳳書房、2008年9月27日（第6章、13章、他担当）。</p> <p>⑤ 単著：『アメリカ・ルネッサンスと先住民：アメリカ神話の破壊と再生』、鳳書房、2005年。</p>				
所属学会	日本アメリカ文学会、日本英文学会、アメリカ学会、日本ソロー学会、日本ポー学会、Poe Studies Association、Thoreau Society、多民族学会、映画英語教育学会			

ふりがな	おざわ よしふみ			
氏名	小沢 佳史			
職名	准教授	学位	博士（経済学）	
主な担当科目	【学部】経済学史、経済史基礎、マルクス経済学基礎 【大学院】経済学史特論、経済学史特研			
趣味・特技	毎朝のコーヒー、当てのない散歩、四季折々の日本酒、エレキベースを少々			
学生に推薦する本	① 堂目卓生『アダム・スミス——『道徳感情論』と『国富論』の世界』中公新書、2008年。 ② 宇沢弘文『人間の経済』新潮新書、2017年。 ③ 吉川洋『ケインズ——時代と経済学』ちくま新書、1995年。			
教員からのメッセージ	素敵な人や本に出会い、じっくりと考える時間を大切にしてください。			
略歴	2011年 3月 東北大学大学院 経済学研究科 博士課程前期2年の課程 修了 2015年 9月 東北大学大学院 経済学研究科 博士課程後期3年の課程 修了 2015年 9月 神奈川大学 経済学部 非常勤講師（2017年 3月まで） 2017年 4月 九州産業大学 経済学部 講師（2021年 3月まで） 2021年 4月 立正大学 経済学部 専任講師（2024年 3月まで） 2024年 4月 立正大学 経済学部 准教授			
専門分野	経済学史（経済学の歴史）			
現在の研究テーマ	19世紀イギリスの古典派経済学（J. S. ミルなどの経済学・経済思想）			
過去5年間の主要研究業績				
① <i>James Mill, John Stuart Mill, and the History of Economic Thought</i> (co-authored), Routledge, pp. 75-103, 2023. ② 『愉楽の経済学——マルサスの思想的水脈を辿って』（共著）、昭和堂、pp. 133-158、2023年。 ③ “Milton’s <i>Paradise Lost</i> and Malthus’s <i>An Essay on the Principle of Population</i> : A Neglected Intertextuality” (co-authored), <i>History of Economics Review</i> , Volume 80, Issue 1, pp. 74-84, 2021. ④ <i>A Genealogy of Self-Interest in Economics</i> (co-authored), Springer, pp. 85-105, 2021. ⑤ 『平等の哲学入門』（共著）、社会評論社、pp. 101-115、2021年。				
上記以外の研究業績（5点以内）				
① 『支配の政治理論』（共著）、社会評論社、pp. 76-89、2018年。 ② 『権利の哲学入門』（共著）、社会評論社、pp. 118-131、2017年。 ③ 「J. S. ミルの国債償還論——ブリテンにおける石炭税の構想を巡って」（単著）、 <i>TERG Discussion Papers</i> , No. 326, pp. 1-38、2015年。 ④ 「J. S. ミルの保護貿易政策論——一時的な保護関税をめぐる」（単著）、『マルサス学会年報』第23号、pp. 57-86、2014年。 ⑤ 「停止状態に関するJ. S. ミルの展望——アソシエーション論の変遷と理想的な停止状態の実現過程」（単著）、『季刊 経済理論』第49巻第4号、pp. 78-87、2013年。				
所属学会	経済学史学会、経済理論学会、マルサス学会、The European Society for the History of Economic Thought			


ふりがな	おのぎき たもつ			
氏名	小野崎 保			
職名	教授	学位	経済学博士	
主な担当科目	【学部】ミクロ経済学 【大学院】ミクロ経済学特論、ミクロ経済学特殊研究			
趣味・特技	音楽鑑賞（主にクラシック），囲碁（五段）			
学生に推薦する本	<ul style="list-style-type: none"> ・マーク・コヤマ=シャレド・ルービン『「経済成長」の起源』草思社 ・ダロン・アセモグル=ジェイムズ・A・ロビンソン『国家はなぜ衰退するのか（上・下）』ハヤカワ・ノンフィクション文庫 			
教員からのメッセージ	好奇心のアンテナを常に張り巡らし，知的に食欲になって下さい。そして，琴線に触れたことについて徹底的に探求するようにして下さい。			
略歴	慶應義塾大学経済学部卒業 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学 財団法人日本エネルギー経済研究所総合研究部研究員 旭川大学経済学部教授 南カリフォルニア大学経済学部客員教授 青森公立大学経営経済学部教授			
専門分野	非線形経済動学，複雑系経済学			
現在の研究テーマ	同期現象としての景気循環分析，データ駆動型高次元非線形モデルの同定			
過去5年間の主要研究業績				
① Regional Synchronization during Economic Contraction: The Case of the U.S. and Japan, <i>Applied Economics</i> 55 (30), 3472–3486, 2023 (Published online: 05 Sep. 2022) [https://doi.org/10.1080/00036846.2022.2115450] [共著]				
上記以外の研究業績（5点以内）				
① A Model of Market Structure Dynamics with Boundedly Rational Agents. In T. Terano et al. (Eds.): <i>Agent-Based Approaches in Economics and Social Complex Systems V</i> , 255–266, Springer, 2009 [共著]				
② Dynamics of Market Structure Driven by the Degree of Consumer's Rationality, <i>Physica A</i> 389 , 1041–1054, 2010 [共著]				
③ Neural Basis of Economic Bubble Behavior, <i>Neuroscience</i> 265 , 37–47, April 2014 [共著]				
④ Intermittent Transition between Synchronization and Desynchronization in Multi-Regional Business Cycles, <i>Structural Change and Economic Dynamics</i> 44 , 68–76, 2017 [共著]				
⑤ <i>Nonlinearity, Bounded Rationality, and Heterogeneity: Some Aspects of Market Economies as Complex Systems</i> , Springer, February 2018. [https://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54971-0] [単著]				
所属学会	日本経済学会，日本地域学会，The Regional Science Association International，進化経済学会，情報処理学会「知能システム」研究会，The Society for Economic Science with Heterogeneous Interacting Agents，数理社会学会，The European Social Simulation Association			


ふりがな	かわぐち しんいち			
氏名	川口 真一			
職名	教授	学位	博士（経済学）	
主な担当科目	【学部】財政学、コーポレートファイナンス 【大学院】財政学特論、財政学特殊研究			
趣味・特技	旅行・散歩			
学生に推薦する本	ジョセフ・E・スティグリッツ『世界の99%を貧困にする経済』			
教員からのメッセージ	何事も「継続は力なり」です！ 大学の4年間を通して、様々な経済問題や社会問題を分析できる思考法を身につけてください。			
略歴	慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了、 慶應義塾大学 COE 研究員、 東京外国語大学 非常勤講師、 内閣府経済社会総合研究所 政策研究研修員、 鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科 専任講師、准教授、 立正大学経済学部 准教授を経て、現職。			
専門分野	財政学、租税論、コーポレートファイナンス、学校法人会計			
現在の研究テーマ	税制と企業行動に関する実証分析、学校法人会計を用いた実証分析			
過去5年間の主要研究業績				
① 単著「私立大学の財務行動ーパネルデータによる分析ー」『立正大学経済学会ディスカッション・ペーパー』 NO. 7、2024年1月				
② 単著「研究開発投資に関する実証分析」『証券アナリストジャーナル』VOL. 57 NO. 8、日本証券アナリスト協会、2019年8月				
上記以外の研究業績（5点以内）				
単著「内部留保に関する検証ー同族会社における留保金課税の観点からー」『経済学季報』第66巻4号、立正大学経済学会、2017年3月				
単著「ストックベースの内部留保と留保金課税」『CUC View & Vision』No. 35、千葉商科大学経済研究所、2013年3月				
単著「株式非公開企業による租税回避行動ー企業パネルデータを用いた実証分析ー」『経済学季報』第62巻3号、立正大学経済学会、2012年12月				
単著「同族会社の留保金課税に関する実証分析」『財政学研究』（日本財政学会叢書）第4巻、有斐閣、2008年9月				
単著「IT投資促進税制と企業行動ー企業による特別償却と税額控除の選択ー」『証券経済研究』第56号、日本証券経済研究所、2006年12月				
所属学会	日本財政学会、日本マネジメント学会			


ふりがな	かわはら しんや			
氏名	河原 伸哉			
職名	教授	学位	Ph.D. in Economics	
主な担当科目	【学部】国際経済学 【大学院】国際経済学特論, 国際経済学特研			
趣味・特技	トレッキング, アウトドア			
学生に推薦する本	大竹文雄『競争社会の歩き方』中公新書			
教員からのメッセージ	学生時代の貴重な時間を贅沢にそして有効に活用してください			
略歴	名古屋大学経済学部卒業 ブリティッシュ・コロンビア大学大学院経済学科博士課程修了 福島大学経済経営学類助教授, 准教授 立正大学経済学部准教授を経て現職			
専門分野	国際貿易論, 環境経済学, 応用ミクロ経済学			
現在の研究テーマ	国際貿易と環境			
過去5年間の主要研究業績				
① 『ライブラリ経済学15講BASIC編③ マクロ経済学15講』, 新世社, 2023年. ② Production Relocation and Optimal Environmental Policy under Monopolistic Competition, <i>Quarterly Journal of Risho Economics Society</i> , 72(2023) : pp37-56. ③ Tourism and Trade in Differentiated Products, <i>Quarterly Journal of Risho Economics Society</i> , 71(2021) : pp67-92.				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
① 排出量取引制度 - 排出枠の政治的影響を回避する -, 奥野信宏・八木匡・小川光 編著『公共経済学で日本を考える』第6章 pp.77-91, 中央経済社, 2017年. ② Welfare and Market-Access Effects of Piecemeal Tariff Reforms on the Environmentally Preferable Products, <i>Journal of International Trade and Economic Development</i> , 23 (2014) : pp796-814. ③ Trade, Environment, and Market Access: Policy Reforms in a Small Open Economy, <i>Environment and Development Economics</i> , 19 (2014) : pp173-181. ④ Endogenous Lobby Formation and Endogenous Environmental Protection with Unilateral Tariff Reduction, <i>Environmental and Resource Economics</i> , 57 (2014) : pp41-57. ⑤ Electoral Competition with Environmental Policy as a Second Best Transfer, <i>Resource and Energy Economics</i> , 33 (2011) : pp477-495.				
所属学会	日本経済学会, 日本応用経済学会			


ふりがな	きたはら かつ のぶ			
氏名	北原 克宣			
職名	教授	学位	博士（農学）	
主な担当科目	【学部】 マルクス経済学基礎、農業経済学1・2 【大学院】 地域農業環境特論 地域農業環境特殊研究			
趣味・特技	美術館巡り、音楽・映画鑑賞、散歩 テニスや野球をするのも好きですが、体が動かなくなってきたので、最近はおっぱら映画をよく観に行くようになりました。			
学生に推薦する本	バルザック『農民』上・下(岩波文庫)、エミール・ゾラ『大地』上・下(岩波文庫) パール・バック『大地』(一)～(四)(新潮文庫)、森永卓郎著『ザイム真理教』（フォレスト出版、2023年）、桐野夏生著『真珠とダイヤモンド（上・下）』（毎日新聞社、2023年）、額賀澤著『青春をクビになって』（文藝春秋、2023年）、小林文乃著『カティンの森のヤニナ』（河出書房新社、2023年）、吉川賢著『森林に何がおきているのか』（中央公論新社、2022年）			
教員からのメッセージ	私が立正大学に赴任してから二十年が経ってしまいました。しだいにゼミの卒業生も増え、今では卒業生たちとの交流も楽しみのひとつとなりました。大学は、一方的に何かを教わる場ではありません。学問を通じて学生と教員がお互いに学び合う場です。積極的なアプローチをお待ちしております。			
略歴	1967年 2月 長野県生まれ 1989年 3月 東京農業大学農学部農業経済学科 卒業 1995年 3月 北海道大学大学院農学研究科農業経済学専攻博士課程修了 1995年10月 秋田県立農業短期大学 講師 2001年 4月 秋田県立大学短期大学部 助教授 (2001年 9月～2002年3月 バーミンガム大学（イギリス）客員研究員) 2004年 4月 立正大学 助教授、准教授を経て2010年 4月より現職。			
専門分野	農業経済論、地域経済論、土地経済論			
現在の研究テーマ	①2000年代日本資本主義の研究 ②農協「改革」に関する政治経済的分析			
過去5年間の主要研究業績				
① 「県1農協における組織・事業再編の実態と課題－C県農協の事例－」 『農業・農協問題研究』（農業・農協問題研究所、2024年3月）				
② 「『内からの批判』への備えを」『JA教育文化Web』（家の光協会、2023年8月配）				
③ 「日本の食料安全保障を考える」『月刊JA』（JA全中、2022年9月）				
④ 「ウクライナ戦争と農業・食料」『労農のなかま』（全農協労連、2022年5月）				
上記以外の研究業績（5点以内）				
① 「特集どこまで進んだか農協改革・都市型農協－JAさがみ（神奈川県）の取り組み－」 『農業と経済』7・8月合併号（昭和堂、2018年6月）				
② 五味・元木・苑・北原編著『21世紀資本主義世界のフロンティア』（批評社、2017年）				
③ 「『制度としての農協』の終焉と転換」小林国之編著『北海道から農協改革を問う』（筑波書房、2017年1月）				
④ 北原・安藤編著『多国籍アグリビジネスと農業・食料支配』（明石書店、2016年）				
⑤ 北原ほか「中山間限界地帯における『生活型農業』の展開と農協の課題 －新潟県十日町市松之山地域における調査結果－」『農業・農協問題研究』第56号 (2015年3月)				
所属学会	政治経済学・経済史学会、経済理論学会、日本農業経済学会、 日本農業経営学会、日本協同組合学会 など			


ふりがな	マイケル フレデリック クボ			
氏名	Michael Frederik Kubo			
職名	Full-time Instructor	学位	Master of Arts (MA) TESOL	
主な担当科目	English as a Foreign Language (EFL), Global Issues, Media Empowerment, Business English, TOEFL/TOEIC			
趣味・特技	Hiking, Photography, Illustration & Design, Reading, Poetry, Cooking, Travel			
学生に推薦する本	The One World Schoolhouse: Education Reimagined by Salman Khan (2012)			
教員からのメッセージ	Students! Travel the world! English is YOUR key to the world. You can open the world!			
略歴	San Francisco State University, San Francisco, California: Bachelor of Arts, Industrial Arts Columbia University Teachers College, Tokyo Campus: Master of Arts, TESOL			
専門分野	Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL)			
現在の研究テーマ	Learner Self-Confidence/Motivation to study English			
過去5年間の主要研究業績				
<p>① Assessing Pair Taping (PT) Efficacy: A Broader Look at Self-Confidence Variables 平成19年3月 Komazawa University, Komazawa University Journal of Global Media Studies Vol. 1 P.99-P.108, Sole-authored, Note: this article also available online at: URL: http://accentsasia.org/1-3/Kubo.pdf</p> <p>② An examination of students' motivation in the Practical English program at Yokohama City University 平成22年4月 Yokohama City University, The Bulletin of Yokohama City University Humanities Vol. 61, Co-authored with M. Physick and M. Radcliffe</p> <p>3) Pair Taping Turns Twenty: A New Look at an Old Method 平成25年8月 Risho University, The Quarterly Report of Economics Vol. 61 No. 1</p> <p>4) An Exploration of the Fifth Estate landscape through film 平成27年1月 Risho University, The Quarterly Report of Economics Vol. 64 No. 2 - 3</p>				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
① Presentation titled 'Pair Tape Recording for Fluency and Form' 平成20年3月 Dubai, United Arab Emirates, 14 th International Conference and Exhibition, TESOL Arabia, sole-presenter				
所属学会	Japan Association of Language Teachers (JALT), Yokohama, Columbia University Alumni Association Japan (CUAAJ), Tokyo, Teachers College Alumni Association, New York			


ふりがな	けいだ まさゆき			
氏名	慶田 昌之			
職名	准教授	学位	修士（経済学）	
主な担当科目	【学部】 ミクロ経済学基礎、マクロ経済学基礎 ミクロ経済学			
趣味・特技	地唄三絃、箏、胡弓の演奏			
学生に推薦する本	ローレンス・レッシング著『コモンズ』 キャス・サンスティーン著『インターネットは民主主義の敵か』			
教員からのメッセージ	「この世に粘り強さに勝るものはない。」 第30代アメリカ合衆国大統領 カルビン・クーリッジ			
略歴	上智大学経済学部卒業 東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学 東京大学21世紀COEプログラム 拠点形成特任研究員 東京大学大学院経済学研究科 日本経済国際共同研究センター 学術支援専門職員 2009年～ 現職			
専門分野	マクロ経済学、金融論、国際金融			
現在の研究テーマ	自然言語処理を用いた金融政策とESGの実証分析 インフレ期待と金融政策に関する実証分析			
過去5年間の主要研究業績				
① 「植田総裁の下での金融政策の新たな船出—自然言語処理は何を教えてくれたか—」 (2024), 福田慎一編『地政学的リスクと日本経済：新たな冷戦時代における構造改革』, 東京大学出版会				
② “How Loud is a Soft Voice? Effects of positive screening of ESG performance on the Japanese oil companies,” (2024), RIETI Discussion Paper Series 24-E-002 (with Yosuke Takeda).				
③ “The Art of Central Bank Communication: A Topic Analysis on Words used by the Bank of Japan’s Governors,” (2019), RIETI Discussion Paper Series 19-E-038 (with Yosuke Takeda).				
上記以外の研究業績（5点以内）				
① “Entrepreneurship and capital investment: Another explanation for the slump in capital investment under deflation” (2018), Public Policy Review, vol. 14, issue 3, pp. 489–510 (with Shin-ichi Fukuda and Munehisa Kasuya)				
② “Central bank communication strategies: A computer-based narrative analysis of the Bank of Japan’s Governor Kuroda” (2018), in S. Eijffinger and D. Masciandaro (ed.) <i>Hawks and Doves: Deeds and Words – Economics and Politics of Monetary Policymaking</i> , pp. 137–142, CEPR Press (with Yosuke Takeda)				
③ “A Semantic Analysis of Monetary Shamanism: A case of the BOJ’s Governor Haruhiko Kuroda” (2017), RIETI Discussion Paper Series 17-E-011 (with Yosuke Takeda).				
所属学会	日本経済学会、日本金融学会			

ふりがな	こう いく			
氏名	黄 昱			
職名	講師	学位	博士(文学)	
主な担当科目	【学部】東アジアの文化と社会1・2、中国語1C・2C、中国語1D・2D			
趣味・特技	博物館めぐり、読書			
学生に推薦する本	井波律子『中国文学の愉しき世界』岩波書店、2017年 劉慈欣『三体ⅠⅡⅢ』早川書房、2024年			
教員からのメッセージ	大学で人と学問と出合う楽しさを見つけましょう。			
略歴	北京師範大学外国語文学学院卒業 筑波大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程修了 総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程修了 北京語言大学東京校、日本女子大学、青山学院大学、専修大学非常勤講師 国文学研究資料館特任助教			
専門分野	日本中世文学、日中比較文学			
現在の研究テーマ	中国の志怪小説に関する日中比較研究			
過去5年間の主要研究業績				
① 「『夷堅志』に見られる疫病鬼神と日本における受容」、『国文学研究資料館紀要・文学研究篇』48、131-166、2022年 ② 「『夷堅志』における動物説話の特徴をめぐって」、『説話』13、110-121、2019年 ③ 「西施・潘岳の密通説話をめぐって—『新撰万葉集』から朗詠古注まで」、『アジア遊学223日本人と中国故事—変奏する知の世界』、85-98、2018年 ④ 「故宮博物院蔵古抄本『蒙求』の欄外注について」、『東洋文化』復刊115号、28-44、2018年				
上記以外の研究業績(5点以内)				
① 「日本における謝靈運「述祖徳詩」の受容についての覚え書き」、『アジア遊学240六朝文化と日本—謝靈運という視座から』、140-146、2019年 ② 「『徒然草』の中文訳と漢文訳」、『総研大文化科学研究』12号、1-16、2016年 ③ 「『徒然草』における漢籍受容の方法—『白氏文集』の場合—」、『第38回国際日本文学研究集会会議録』、47-71、2015年 ④ 「漢訳される『徒然草』の一方法—近世期兼好伝との関わり—」、『説話』12号、87-96、2014年 ⑤ 「漢訳される『徒然草』—異種『蒙求』をめぐって—」、『総研大文化科学研究』10号、43-64、2014年				
所属学会	筑波大学日本語日文学会、和漢比較文学会、中世文学会、日本近世文学会、EAJS(ヨーロッパ日本研究協会)			


ふりがな	こばやし たかふみ			
氏名	小林 隆史			
職名	准教授	学位	博士（社会工学）	
主な担当科目	経済フィールドワーク，都市経済学			
趣味・特技	温泉，カラオケ			
学生に推薦する本	青木義次『青木義次の計画発想法』彰国社，2009. 加納朋子『ななつのこ』創元推理文庫，1992.			
教員からのメッセージ	「縦のつながり，横のつながり」を大事にしよう.			
略歴	筑波大学 第三学群社会工学類都市計画主専攻 卒業 筑波大学大学院 一貫制博士課程システム情報工学研究科 修了 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 研究員 筑波大学 システム情報工学研究科リスク工学専攻 助教 北海道大学 経済学研究科 助教 東京工業大学 情報理工学研究科情報環境学専攻 特任助教			
専門分野	都市地域計画，オペレーションズ・リサーチ			
現在の研究テーマ	地域資源活用施策の定量化，自然エネルギー導入と地域構造			
過去5年間の主要研究業績				
<p>① “ついで型施設投票モデル－民意と最適の施設配置齟齬に着目して－”（共著），『都市計画論文集』，No. 57-3，2022，pp. 1018-1024.</p> <p>② “トワイライト景観の定量化－西天北地域の地域振興を見据えて－”（共著），『GIS－理論と応用』，Vol. 30，No. 2，2022，pp19-29.</p> <p>③ “デジタル化が医療施設集約に及ぼす影響－民意と社会的最適との齟齬に着目して－”（共著），『応用地域学研究』，No. 25，2021，pp. 15-26.</p> <p>④ “電柱と山との重なりに着目した沿道シークエンス景観の数理的考察”（共著），『都市計画論文集』，No. 56-3，2021，pp. 1184-1190.</p> <p>⑤ “既存敷地が道路整備へ与える影響に関する解析”（共著），『GIS－理論と応用』，Vol. 28，No. 2，2020，pp41-50.</p> <p>⑥ “公用車電動化と広域連携による被災時電源確保－2015年常総市水害を踏まえて－”（共著），『都市計画論文集』，No. 55-3，2020，pp. 1100-1106.</p>				
上記以外の研究業績（5点以内）				
<p>① “地方において寺院は見守り・移動サービス拠点となりうるか”（共著），『都市計画論文集』，No. 54-3，2019，pp. 1483-1489.</p> <p>② “制度的・地理的隔絶要素に着目した地域間親密度の可視化：関門地域を事例として”（共著），『計画行政』，No. 36-4，2013，pp. 50-59.</p> <p>③ “太陽光発電普及社会にむけた都市空間における建築制限”（共著），『環境共生』，No. 19，2012，pp. 44-54.</p> <p>④ “日本における地域間消費税競争”（共著），『応用地域学研究』，No. 12，2007，pp. 55-67.</p> <p>⑤ “Analytical Model of Visibility of a Landmark”（共著），<i>Geographical Analysis</i>，No. 37，2005，pp. 336-349.</p>				
所属学会	日本オペレーションズ・リサーチ学会，日本都市計画学会，応用地域学会，日本環境共生学会，日本計画行政学会，日本建築学会			


ふりがな	こばやし みき			
氏名	小林 幹			
職名	准教授	学位	博士(情報学)	
主な担当科目	【学部】数学基礎, 経済数学			
趣味・特技	ゴルフ スノーボード サウナ			
学生に推薦する本	ジェイムズ・グリック 「カオス-新しい科学をつくる」 新潮文庫 合原一幸 編著 「社会を変える驚きの数学」 ウェッジ選書 32 地球学シリーズ			
教員からのメッセージ	様々な事に疑問を持ち、それらを解決するための努力を惜しまないで下さい。 大学はそれをするための環境が整っています。			
略歴	東北大学原子分子材料科学高等研究機構助教			
専門分野	非線形力学系の解析と制御			
現在の研究テーマ	機械学習の数理的構造の解明 非線形制御理論を用いた確率過程の制御			
過去 5 年間の主要研究業績				
<ul style="list-style-type: none"> ① Laminar chaotic saddle within a turbulent attractor, Physical Review E (2024)[共著] ② Minimal model for reservoir computing, Physica D 470 134360 (2024)[共著] ③ Mathematical analysis of the Wiener processes with time-delayed feedback, AIP advances 14, 095219 (2024)[共著] ④ Lyapunov analysis of data-driven models of high dimensional dynamics using reservoir computing: Lorenz-96 system and fluid flow, Journal of Physics; Complexity 5, 025024 (2024)[共著] ⑤ Characterizing small-scale dynamics of Navier-Stokes turbulence with transverse Lyapunov exponents: A data assimilation, Physical Review Letters 131 254001 (2023)[共著] ⑥ Dynamical system analysis of a data-driven model constructed by reservoir computing, Physical Review E 104, 044215 (2021)[共著] ⑦ 産業構造の特性に関するネットワーク分析, 立正大学経済学季報, 71 巻 1 号, p.39 (2021)[共著] 				
上記以外の研究業績 (5 点以内)				
<ul style="list-style-type: none"> ① Control of deterministic diffusion generated by chaotic dynamical systems through time delayed feedback control, Nolta journal, Vol. 9, Issue 2, pp. 196-203 (2018). ② Time-delayed feedback control of diffusion in random walkers, Phys. Rev. E, 96, 012148 (2017) [共著] ③ Network analysis of chaotic systems through unstable periodic orbits, CHAOS, 27, 081103 (2017) [共著] 				
所属学会	応用数理学会、情報通信学会			


ふりがな	こまつ ひろゆき			
氏名	小松 宏行			
職名	特任講師	学位	修士（経済学）	
主な担当科目	【学部】ミクロ経済学基礎、マクロ経済学基礎、統計学			
趣味・特技	動物観察、読書、街歩き、音楽発掘			
学生に推薦する本	ジョン・マクミラン（瀧澤弘和／木村友二 訳） 『新版 市場を創る』慶應義塾大学出版会、2021年 リチャード・ドーキンス（日高敏隆／岸由二／羽田節子／垂水雄二 訳） 『利己的な遺伝子（40周年記念版）』紀伊國屋書店、2018年 アンデシュ・ハンセン（久山葉子 訳）『スマホ脳』新潮社、2020年			
教員からのメッセージ	どんなことも「面白さ」を見つけて楽しく取り組みましょう。			
略歴	慶應義塾大学経済学部 卒業 慶應義塾大学大学院経済学研究科 修士課程 修了 慶應義塾大学大学院経済学研究科 後期博士課程 単位取得退学 公益財団法人三菱経済研究所 専任研究員 株式会社エコノミクスデザイン リサーチアシスタント／エコノミスト 神奈川大学非常勤講師			
専門分野	社会的選択理論、ゲーム理論、メカニズムデザイン			
現在の研究テーマ	レーティングルール of 理論的研究			
過去5年間の主要研究業績				
① “Characterizations of approval ranking”（是認投票によるランキングルールの公理的特徴付け）、Mathematical Social Sciences、Vol.128、pp.18-24、2024年【単著】 ② 「2023年 Econometric Society Asian School in Economic Theory (1)」(Ariel Rubinstein 教授講演の解説論文)、『三田学会雑誌』、116巻3号、2023年【共著】				
上記以外の研究業績（5点以内）				
所属学会	日本経済学会 The Econometric Society			


ふりがな	さくらい かつひろ			
氏名	櫻井 一宏			
職名	教授	学位	博士(学術)	
主な担当科目	【学部】環境計画論, 都市・地域分析, 環境科学, 経済フィールドワーク 【大学院】環境政策特論, 都市環境特論			
趣味・特技	旅行, ドライブ, サッカー観戦, 野球観戦			
学生に推薦する本	司馬遼太郎『竜馬がゆく』			
教員からのメッセージ	大学生としての貴重な時間を楽しく・有意義に・悔いなく過ごしてほしいと思います。好奇心をもっていろいろなことに興味を抱き, よく観察し, 考え, 調べた上で“科学的”分析にトライして下さい。			
略歴	筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科修了 財団法人日本地域開発センター 研究員 筑波大学生命環境科学研究科 博士特別研究員 財団法人シップ・アンド・オーシャン財団 海洋政策研究所 研究員 海洋政策研究財団 研究員, 名古屋産業大学 プロジェクト研究員 現在に至る			
専門分野	環境政策評価, 流域・沿岸域管理政策, 都市地域計画			
現在の研究テーマ	流域圏環境経済分析, 食料資源循環, 観光経済, 地域資源評価			
過去5年間の主要研究業績				
① “Japanese Forest Conservation System: The Forest Environment Tax,” <i>Sustainable Forest Management - Surpassing Climate Change and Land Degradation</i> , IntechOpen, 2024, 224p. DOI: 10.5772/intechopen.1004223				
② “離島の半島化と移住 -周防大島町を中心に-,” 日本オペレーションズ・リサーチ学会2022年春季研究発表会アブストラクト集, 2022				
③ “The Economic Impact of the Inland Water Fisheries/Aquaculture Industry: The Case of the Eel Industry in Japan,” <i>Regional Science Policy & Practice</i> , Vol.13, Issue 6, 2021, pp.1729-1749.				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
① “サッカースタジアムのMaaS化,” 『日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集』, 2019, pp.42-43.				
② “An Evaluation of Environmental Load Reduction in Mikawa Bay: The Input-Output Model Approach,” <i>Theoretical and Empirical Analysis in Environmental Economics</i> , Springer, 2019, pp.167-183.				
③ “人生100年時代を意識したJリーガー年齢の基礎分析,” 『日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集』, 2019, pp.58-59.				
④ “Evaluation of the Water-environment Policy in the Toyogawa Basin, Japan,” <i>Socioeconomic Environmental Policies and Evaluations in Regional Science</i> , Springer, 2016, pp.651-666.				
⑤ “農地政策の転換における土地改良法の問題点 -土地改良区の事業における代表性の分析,” 『土木学会論文集B1 (水工学)』, Vol.70, No.4, I 283-I 288, 2014.				
所属学会	日本地域学会, The Regional Science Association International, 日本環境共生学会, 環境情報科学センター, 日本港湾経済学会中部部会, 東アジア鰻学会, 日本オペレーションズ・リサーチ学会			


ふりがな	さなだ はるこ			
氏名	真田 治子			
職名	教授	学位		博士(日本語日本文学)
主な担当科目	【学部】日本語表現法 情報基礎 ゼミナール 【大学院】地域文化特論			
趣味・特技	ヨーロッパの建築を見ること			
学生に推薦する本	ウンベルト・エーコ『論文作法』而立書房			
教員からのメッセージ	学生時代に未来の自分への種を蒔こう。 どんなことも興味を持って積極的に探求して下さい。 たとえ小さな経験でも社会に出てから意外に役に立ちます。 自分が知らなかった世界に、面白いことや素晴らしいこととの 出会いがあるかもしれません。			
略歴	学習院大学文学部国文科卒業。日本IBM(株)システムズ・エンジニア勤務を経て、学習院大学大学院人文科学研究科(日本語日本文学専攻)博士前期課程修了、同大学院博士後期課程単位取得退学。ドイツ学術交流会(DAAD)短期奨学生としてドイツ・トリア大学計量言語学科、ポッフム大学言語学研究所に研究滞在。日本学術振興会特別研究員、都留文科大学・東京学芸大学・立正大学・法政大学等非常勤講師、埼玉学園大学准教授、同教授を経て現職に至る。			
専門分野	日本語学・計量言語学・日本語史 (現代日本語及び明治時代から現代までの言語変化の計量的分析)			
現在の研究テーマ	日本語の語彙の計量的分析、学術用語の定着過程の検証			
過去5年間の主要研究業績				
① 「『哲学字彙』の見出し語とフェノロサ講義「哲学史」」近代語学会編『近代語研究』第23集, 2022年9月 武蔵野書院				
② 「文の長さや節の長さの「自然な」均衡に関する研究— 翻訳文へのMenzerath-Altmannの法則の適用 —」『計量国語学』33巻3号(特集「新しい語彙研究」招待論文), pp. 114-129, 2021年12月				
③ 「明治期におけるドイツ科学用語の受容」『ドイツ語と向き合う』2020年8月 ひつじ書房				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
① 「Quantitative aspects of the clause: length, position and depth of the clause」2019年10月 Journal of Quantitative Linguistics, vol. 26-4, pp. 306-329				
② 「Negentropy of dependency types and parts of speech in the clause」『Quantitative analysis of dependency structures (Book series Quantitative Linguistics)』2018年10月 Berlin & New York: Walter de Gruyter				
③ 『日本語大事典』(共著) 2014年10月 朝倉書店				
④ 招待講演「明治期の学術用語が一般化するまで」日本語学会2014年度春季大会70周年記念シンポジウム「学術日本語の歴史と未来—大学教育国際化時代を迎えて」2014年5月				
⑤ 『講座ITと日本語研究・第8巻質問調査法と統計処理』(共著) 2012年6月 朝倉書店				
所属学会	計量国語学会(理事・編集長)・日本語学会(編集委員)・ 国際計量言語学会(アジア担当理事)			


ふりがな	すぎもと りょうへい			
氏名	杉本 良平			
職名	特任講師	学位	修士（経済学）	
主な担当科目	ミクロ経済学演習、マクロ経済学演習、数学基礎、統計学基礎			
趣味・特技	将棋、書道			
学生に推薦する本	日本経済新聞社編（2024）『Q&A 日本経済のニュースがわかる！2025年版』日本経済新聞出版。			
教員からのメッセージ	経済学を楽しく学びながら、常に高い目標を持って達成できるように努力しましょう。			
略歴	関東学院大学経済学部卒業 明治大学大学院政治経済学研究科博士前期課程修了 明治大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学 電力中央研究所協力研究員 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部研究専門職 東京福祉大学特任講師			
専門分野	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、景気変動論			
現在の研究テーマ	リアルタイムデータによる景気変動分析 サービス経済における景気指標の開発と景気予測			
過去5年間の主要研究業績				
①「ハミルトンフィルターとHPフィルターによるGDPギャップの推定とデータ改定に関する一考察」立正大学経済学会編『経済学季報』第74巻、第1号、pp.23-47、2024年。 ②「RSVDによる季節調整と商業動態統計調査のデータ改定に関する一考察」立正大学経済学会編『経済学季報』第73巻、第1号、pp.57-78、2023年。 ③「第3次産業活動指数の主要業種別におけるデータ改定とパンデミック不況に関する一考察」立正大学経済学会編『経済学季報』第71巻、第4号、pp.105-132、2022年。 ④「第3次産業活動指数のデータ改定に関する一考察」『東京福祉大学・大学院紀要』第9巻、第1-2合併号、pp.3-20、2019年。				
上記以外の研究業績（5点以内）				
①「電中研短期マクロ計量経済モデル2012—財政乗数の変化と震災後の節電量の推定—」電力中央研究所報告、Y12032、pp.1-36、2013年（林田元就、間瀬貴之と共著）。 ②「開放経済におけるIS-MP分析とアジア共通通貨の導入の是非について」『応用経済学研究』第5巻、勁草書房、pp.104-121、2011年。 ③「日本の地域におけるIS-MP分析による経済ショックの対称性に関する一考察」『応用経済学研究』第4巻、勁草書房、pp.14-29、2010年。 ④「日本とイギリスにおける成長と循環の要因分析」『九州経済学会年報』第47集、九州経済学会編、pp.75-79、2009年。 ⑤「家計と企業の期待を盛り込んだ景気判断に関する考察」『九州経済学会年報』第46集、九州経済学会編、pp.67-74、2008年。				
所属学会	日本経済学会、日本応用経済学会、景気循環学会、九州経済学会、経済教育学会			


ふりがな	せりた こうじ			
氏名	芹田 浩司			
職名	教授	学位	修士	
主な担当科目	【学部】 開発経済学、多国籍企業論、グローバル産業論 【大学院】 開発経済学特論、開発経済学特研			
趣味・特技	音楽鑑賞			
学生に推薦する本	アダム・スミス『国富論』 P. サムエルソン、W. ノードハウス『サムエルソン 経済学』			
教員からのメッセージ	幅広い知的関心をもって様々な経験をし、自分に合った方向性を見出して いってください。またできるだけ多くの仲間をつくってください。			
略歴	最終学歴：東京大学 大学院総合文化研究科 博士課程 単位修得満期退学。 職歴：共同通信社記者、東京大学助手、帝京大学経済学部専任講師、 釧路公立大学経済学部准教授、立正大学経済学部准教授を経て、 現職。			
専門分野	開発経済学、ラテンアメリカ経済、多国籍企業論			
現在の研究テーマ	発展途上国の経済発展に対する経済グローバル化の影響－メキシコとブラジ ル自動車産業の事例を中心に			
過去5年間の主要研究業績				
① 単著「GVCアプローチとメキシコ自動車産業」『経済志林』第89巻 第2号、2022年3月。 ② 単著「メキシコ・マキラドーラの50年－成長の軌跡と同国開発戦略への含意－(下)」『経済学季報』第69巻第4号、2020年3月。 ③ 単著「メキシコ・マキラドーラの50年－成長の軌跡と同国開発戦略への含意－(上)」『経済学季報』第68巻第4号、2019年3月。				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
① 単著「経済グローバル化とメキシコ自動車産業－国内部品産業に対する多国籍企業戦略のインパクト」『アジア経済』第41巻 第3号、2000年3月。 ② 単著「自動車・電機電子産業とメキシコのマキラドーラ－マキラ型発展戦略の限界」河村哲二編『グローバル経済下のアメリカ日系工場』(第I部「北米日系工場をめぐる経済・経営環境と企業戦略」の第5章)、東洋経済新報社、2005年4月。 ③ 単著「グローバリゼーション時代におけるメキシコ自動車産業の発展とその課題」『海外投融資』第20巻 第6号、2011年11月。 ④ 単著「ブラジルにおける自動車産業・市場の発展と多国籍自動車メーカー戦略」上山邦雄編『グローバル競争下の自動車産業－新興国市場における攻防と日本メーカーの戦略』第7章、日刊自動車新聞社、2014年3月。 ⑤ 単著「経済グローバル化時代における“保護主義”政策のあり方－ブラジルとメキシコにおける二つの開発戦略の比較分析を通じて」河村哲二・芹田浩司ほか編『グローバル資本主義と新興経済』第5章、日本経済評論社、2015年12月。				
所属学会	日本国際経済学会			


ふりがな	たいら い さ お			
氏名	平 伊佐雄			
職名	准教授	学位	経済学修士	
主な担当科目	【学部】経済史基礎・経済史・欧州経済史 【大学院】西洋経済史特論			
趣味・特技	写真撮影機のコレクション			
学生に推薦する本	永島穰二『ヨーロッパ自動車人生活』二玄社			
教員からのメッセージ	君はガルシアへ手紙を届けられるか。			
略歴	1991年3月 大東文化大学経済学部卒業 1999年3月 大東文化大学経済学研究科博士後期課程退学 1999年4月 立正大学経済学部講師 2007年4月－2008年3月 ドイツ・ギーゼン大学歴史・文化学部歴史学研究所中世史分野客員研究者 2009年4月 立正大学経済学部准教授			
専門分野	ヨーロッパ中世経済史・教会史・修道院史			
現在の研究テーマ	シトー会修道院による農業運営・商業活動について			
過去5年間の主要研究業績				
① 「日蓮宗大学林・日蓮宗大学の時代－専門学校としての日蓮宗大学林の開林から財団法人の設立まで」『立正大学史紀要』第7号 2024年3月 ② 「キャンパス移転問題」『立正大学史料編纂室の栞』第10号 2024年3月 ③ 「150年前における鉄道の開業と立正大学開校の起点」『立正大学史料編纂室の栞』第9号 2023年3月 ④ 「学生食堂の今昔」『立正大学史料編纂室の栞』第8号 2022年3月 ⑤ 「谷山ヶ丘に建つ新校舎－絵はがきからの考察－」『立正大学史紀要』第5号 2020年3月				
上記以外の研究業績（5点以内）				
① 「シトー会修道院のグランギアについての覚書き」『立正史学』第109号 2011年3月 ② P. ディンツェルバッハー、J. レスター・ホッグ、朝倉 文市 監訳『修道院文化史事典』八坂書房 2008年1月、2014年10月[普及版] シトー会の章邦訳 ③ 「アウグスチノ修道参事会律院シッフエンベルクの創設事情について」『経済学季報』第58巻第1号（立正大学経済学会）2008年8月 ④ 江崎 玲於奈、他監修『きつずジャポニカ』小学館 2006年6月 部分項目執筆 ⑤ 「シトー会修道院の都市館とグランギア－ヒンメロート修道院の事例から－」『比較都市史研究』第24巻 第2号 2005年12月				
所属学会	社会経済史学会、比較都市史研究会、西洋史研究会、産業遺産学会			


ふりがな	たかはし みゆき			
氏名	高橋 美由紀			
職名	教授	学位	博士(経済学)	
主な担当科目	【学部】経済史基礎、日本経済史、経済史1・2 【大学院】日本経済史特論、日本経済史特殊研究			
趣味・特技	テニス、旅行			
学生に推薦する本	ジャレド・ダイヤモンド (2019) 『危機と人類』日本経済新聞出版社 レイチェル・カーソン (2001) 『沈黙の春』新潮文庫 石橋湛山 (1985) 『湛山回想』岩波文庫			
教員からのメッセージ	大学時代に自分が「これに打ち込んだ」と自信を持って言えるものを見つけよう。学生時代の時間は、自由に過ごせる貴重なもの。うっかりしているとすぐに時間は経ってしまう。本もたくさん読んでほしい。 自分の夢を持ってそれを目指してほしい。努力は必ず報われる。			
略歴	東京生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業、一橋大学大学院経済学研究科修了(博士(経済学))、一橋大学経済研究所専任講師を経て、立正大学経済学部准教授。			
専門分野	日本経済史、歴史人口学			
現在の研究テーマ	歴史の中で、都市・中小都市・農村における人口と家族は経済とどのような関わりを持って動いていたのか。江戸時代の女性の働き方と出産・子育ての状況。近世における家畜(牛と馬)の飼養状況。			
過去5年間の主要研究業績				
① 「明治前期日本におけるコレラ流行の数量的分析」『経済学季報』第72巻第4号、2023年3月、pp. 57-81。 ② 「人口と飢饉—歴史人口学の成果から考える」平井健介・島西智輝・岸田真 編著『ハンドブック 日本経済史 徳川期から安定成長期まで』2021年12月、ミネルヴァ書房、pp. 6-9。 ③ 「人口減少社会に生きるということ—歴史人口学からの問い」『世界』岩波書店、947号、2021年8月、pp. 138-147。 ④ 「歴史人口研究のためのデータ」『統計』7月号、2021年7月、日本統計協会、pp. 4-9。 ⑤ 「近世日本の人口と気候」(共著)中塚 武監修、鎌谷かおる・渡辺浩一編『気候変動から近世をみなおす—数量・システム・技術』、2020年12月、臨川書店、pp. 51-96。				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
① 『在郷町の歴史人口学—近世における地域と地方都市の発展』、ミネルヴァ書房、2005年5月。 ② 「近世東北の人口政策」、小島宏・廣嶋清志編著『人口政策の比較史—せめぎあう家族と行政』日本経済評論社、2019年9月、pp.29-52。 ③ 「在郷町の結婚と再婚」黒須里美編『歴史人口学からみた結婚・離婚・再婚』、麗澤大学出版会、2012年3月。 ④ 「近世中期の人口減少と少子化対策」『日本労働研究雑誌』No. 562、労働政策研究・研修機構、2007年5月、pp.3-12。 ⑤ 「陸奥国二本松藩における縄引(割地システム)—経済変数としての持高データ再考」『麗澤経済研究』第13巻第1号、2005年3月、pp.65-74。				
所属学会	社会経済史学会、日本人口学会、日本家族社会学会			

ふりがな	とのぎ このみ			
氏名	外木 好美			
職名	准教授	学位	博士（経済学）	
主な担当科目	【学部】国際金融論1・2, 証券市場論1・2			
趣味・特技	散歩（鉄道遺産めぐり, 中小河川・用水めぐり）			
学生に推薦する本	エルハナン ヘルプマン（著）『経済成長のミステリー』 村松 昭（著）『日本の川 たまがわ』			
教員からのメッセージ	学生生活を通じて、本音・本気で話せる、一生ものの友人を作ってください			
略歴	中央大学経済学部卒業 一橋大学経済学研究科博士課程単位取得満期退学 内閣府経済社会総合研究所景気統計部事務官 神奈川大学経済学部特任助教			
専門分野	企業の設備投資行動, 無形資産, 企業価値			
現在の研究テーマ	企業価値, 無形資産, 企業の設備投資行動, 成長会計			
過去5年間の主要研究業績				
<p>① Does the productivity J-curve exist in Japan?—Empirical studies based on the multiple q theory, <i>Journal of the Japanese and International Economies</i>, vol. 61, issue C, 2021 【共著】</p> <p>② <i>Multiple q and Investment in Japan</i>, Springer, 2020 【共著】</p>				
上記以外の研究業績（5点以内）				
<p>① Do Intangibles Contribute to Productivity Growth in East Asian Countries? Evidence from Japan and Korea, <i>The World Economy: Growth or Stagnation?</i>, Cambridge University Press, 2016. 【共著】</p> <p>② 設備投資研究のフロンティア『異質性』の解明と Multiple q モデル, 『日本経済 変革期の金融と企業行動』第4章 【共著】</p> <p>③ 刈り込み処理と景気動向指数—「刈り込みDI」を用いた外れ値の把握—, 『世界同時不況と景気循環分析』第2章</p> <p>④ Intangible Investment in Japan: Measurement and Contribution to Economic Growth, <i>the Review of Income and Wealth</i>, Vol.5, Issue 3, pp.171-736. 【共著】</p> <p>⑤ 「外国人投資家の株式所有と企業価値の因果関係—分散不均一性による同時方程式の識別—」『経済研究』第58巻 47-60頁. 【共著】</p>				
所属学会	日本経済学会 日本金融学会			


ふりがな	なかむら むねゆき			
氏名	中村 宗之			
職名	准教授	学位	博士（経済学）	
主な担当科目	【学部】 マルクス経済学， 景気循環論 【大学院】 マルクス経済学特論			
趣味・特技	読書， 旅行			
学生に推薦する本	マシュー・サイド『多様性の科学』，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2021年 安本美典『データサイエンスが解く邪馬台国』，朝日新聞出版(朝日新書)，2021年			
教員からのメッセージ	楽しく学んでいきましょう。			
略歴	埼玉大学経済学部卒業 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了 上武大学ビジネス情報学部准教授などを経て、 2012年より立正大学准教授			
専門分野	経済理論（貨幣・信用論， 分配論）			
現在の研究テーマ	貨幣， 労働， 分配， 福祉に関する理論的研究			
過去5年間の主要研究業績				
①（論文）「市民的統合と政治文化 —エマニュエル・トッドの家族類型論の視角から—」，日本科学者会議『日本の科学者』59-4，2024年4月 ②（論文）「マルクスの平等論」，新村聡・田上孝一編著『平等の哲学入門』，社会評論社，第6章，2021年1月				
上記以外の研究業績（5点以内）				
①（論文）「資本主義論の諸問題」，五味久壽・元木靖・苑志佳・北原克宣編著『21世紀資本主義世界のフロンティア —経済・環境・文化・言語による重層的分析—』，批評社，第1章，2017年4月 ②（論文）「ホモ・サピエンスの交換性向 —類人猿の比較研究—」，勝村務・中村宗之編著『貨幣と金融 —歴史的転換期における理論と分析—』，社会評論社，第20章，2013年4月 ③（論文）「非正規雇用の待遇改善を求める根拠について」，小幡道昭・青才高志・清水敦編『マルクス理論研究』，御茶の水書房，第16章，2007年3月 ④（論文）「搾取論と自己所有権」，『経済理論学会年報』第38集，2001年9月 ⑤（論文）「貨幣価値の考察」，東京大学経済学研究会『経済学研究』第40号，1998年2月				
所属学会	経済理論学会， 経済学史学会， 比較経済体制学会， 社会主義理論学会， 日本ベジタリアン学会			


ふりがな	はやし やすし			
氏名	林 康 史			
職名	教授	学位	法学修士	
主な担当科目	【学部】金融論、現代商品市場論 【大学院】金融特論、金融特殊研究			
趣味・特技	旅行・観劇。特技はコストパフォーマンスのいい飲食店を嗅ぎ分けること。			
学生に推薦する本	石橋湛山『湛山回想』：在学中に読むことをお勧めします。			
教員からのメッセージ	IT、金融システムの進化にともなって、金融市場での出来事が世界中の人々に影響を与える時代となりました。これは歴史上はじめてのことと言えます。一般消費者にとっても、金融市場や金融商品に通じておくことが必要です。知識ばかりでなく、金融ケイパビリティも身につけておかねばなりません。			
略歴	大阪生まれ。大阪大学法学部卒。法学修士（東京大学）。一橋大学大学院法学研究科博士課程中退。クボタ、住友生命保険、大和証券投資信託、あおぞら銀行（職務経験は、輸出営業、原価管理、為替ディーラー、エコノミスト、ストラテジスト等）を経て、2005年から現職。華東師範大学（客員教授）、一橋大学（非常勤講師）等。その他、官庁等の委員会メンバー、評論活動等。			
専門分野	金融論、貨幣論、外国為替論、金融法			
現在の研究テーマ	①金融システム・金融法、②マーケットストラクチャー・価格形成メカニズム、③行動ファイナンス、④パーソナルファイナンス、⑤金融教育、⑥ドル化、⑦貨幣論・地域通貨、⑧マイクロファイナンス、⑨商品論、⑩石橋湛山			
過去5年間の主要研究業績				
①共著（林康史・歌代哲也）「立正大学経済学部学生課外学習プログラム『公益通貨（地域通貨）サラリの流通の実態調査』報告書」立正大学経済学会『経済学季報』（第69巻第4号）2020年3月				
②Yasushi Hayashi, Tetsuya Utashiro “An Examination of the Complementary Currencies Past and Present” The Rissso international journal of academic research in culture and society 3, 2020年3月				
③「（公益財団法人トラスト未来フォーラム委託調査）信託会社による信託業務の内容及び信託制度の活用方法に関する調査」（共同執筆）地域金融研究所 2022年11月				
④単著「コメ先物市場を考える—何を見据えて、どこに向かうべきなのか」農政調査委員会『農畜産物の価格形成と先物市場—国際穀物市場に学ぶ—「農産物市場問題研究会」の記録』『日本の農業 あすへの歩み』（263-264号）2024年2月				
⑤単著「貨幣における信用とその構造」立正大学経済学会『経済学季報』（第74巻第2号）2024年10月				
⑥単著「山田方谷の藩札刷新」山田方谷研究会『山田方谷研究会会誌〈7〉』2024年11月				
上記以外の研究業績（5点以内）				
①単著「英国の金融法制度の立法および改正におけるネゴシエイション」林康史 編『ネゴシエイション—交渉の法文化』第1章（法文化叢書6）、国際書院 2009年2月				
②編著『貨幣と通貨の法文化』国際書院 2016年9月				
③共著（歌代哲也・林康史）「アーヴィング・フィッシャーのスタンプ紙幣（補充通貨）の意義」『経済学季報』（第68巻第2・3号）2019年1月				
④単著「食品安全と事業者の自主規制・自主管理」『食品安全法制市民の安心・安全』第3編第4章、第一法規 2019年1月				
⑤共著（林康史・歌代哲也・篠本沙希・木下直俊）「マイクロファイナンスのコンセプトの奨学金制度への応用と金融教育」立正大学経済学会『経済学季報』（第69巻第1号）2019年7月				
所属学会	金融学会、金融法学会、法と経済学会、法文化学会、F P学会			


ふりがな	ほーまん ゆか			
氏名	ホーマン 由佳			
職名	教授	学位	文学修士 教育学修士	
主な担当科目	【学部】異文化コミュニケーション Business English Skills (国際コース)			
趣味・特技	読書、英語以外の外国語習得 (に挑戦したい)			
学生に推薦する本	Spencer Johnson “Who Moved My Cheese?” (Putnam) A.W.コーンハウザー『大学で勉強する方法』(玉川大学出版部)			
教員からのメッセージ	外国語を学ぶと、様々な人とのコミュニケーションが可能になるだけでなく、自分自身の視野を広げるツールを身につけることになります。幅広い分野でグローバル化が進んでいる中、世界共通語としての英語を学び、大学在学中に英語力に磨きをかけませんか？語学に王道はありません。しかし、自ら積極的に英語に触れて吸収する継続的な努力があれば、必ず成果が出て皆さんを成長させてくれるはずです。			
略歴	成蹊大学文学部卒業、成蹊大学大学院(文学修士)、テンプル大学大学院(教育学修士)、国際基督教大学大学院教育学研究科博士後期課程満期退学。外資系航空会社勤務後、通訳、企業研修講師、通訳養成講座講師、さまざまな大学での非常勤講師を経て現職。			
専門分野	英語教育、メディア英語教育			
現在の研究テーマ	ビジネス英語			
過去5年間の主要研究業績				
<p>① 『大学における英語教育とメディアリテラシー -メディアテキストによる市民的教養の可能性』 ソーシャルキャピタル、2017年7月。</p> <p>② 『21世紀資本主義世界のフロンティア - 経済・環境・文化・言語による重層的分析』 批評社、(第8章「新聞メディアの社会言語学的アプローチ - 批判的ディスコース分析(CDA)の一考察」執筆担当) 2017年4月。</p>				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
<p>① 「ワインの味わいと概念メタファー」 <i>Media, English and Communication</i>. No.2 (第50号)、日本メディア英語学会、2012年8月。</p> <p>② “Metaphor in Economic Discourse” 経済学季報第60巻第3・4号、立正大学、2011年3月。</p> <p>③ “Improving Reading Courses at Japanese Universities: from “Yakudoku” to “Reading Strategies” and “Extensive Reading” 経済学季報第60巻第2号、立正大学、2011年2月。</p> <p>④ 『英字新聞1分間リーディング Vol. 3』 日本経済新聞出版社、2010年12月。</p> <p>⑤ 『英字新聞1分間リーディング Vol. 2』 日本経済新聞出版社、2010年6月</p>				
所属学会	日本メディア英語学会			

ふりがな	みやがわ こうぞう			
氏名	宮川 幸三			
職名	教授	学位	経済学修士	
主な担当科目	【学部】計量経済学・実証経済分析・ゼミナール 【大学院】計量経済学特論			
趣味・特技	料理			
学生に推薦する本	尾崎巖(2004)『日本の産業構造』慶應義塾大学出版会			
教員からのメッセージ	高い目標を持ちましょう。			
略歴	慶應義塾大学経済学部卒業 慶應義塾大学経済学研究科修士課程修了 慶應義塾大学経済学研究科後期博士課程単位取得退学 慶應義塾大学産業研究所 専任講師 慶應義塾大学産業研究所 准教授 立正大学経済学部 准教授 立正大学経済学部 教授（現職）			
専門分野	経済統計学、産業連関分析			
現在の研究テーマ	産業分類・生産物分類に関する研究、SUT推計手法に関する研究、日本の商業活動の実証分析、デジタルエコノミーの統計的把握、観光経済の実証分析			
過去5年間の主要研究業績				
① 「令和3年「経済センサスー活動調査」と生産物分類」（単著），『経済統計研究』第51巻IV号，経済産業統計協会，2024年.				
② 「供給・使用表（SUT）における産業分類および生産物分類の適用」（単著），『産業連関』，31巻2号，環太平洋産業連関分析学会，2023年.				
③ 「卸・小売産出のベンチマーク推計ー「経済センサス - 活動調査」によるGDP測定精度の検討ー」（共著），『経済分析』第207号，内閣府経済社会総合研究所，2023年.				
④ 「商業の産業分類・生産物分類に関する一考察」（単著），『経済統計研究』第49巻IV・第50巻I合併号，経済産業統計協会，2022年.				
⑤ 「商業統計データによる流通経路別マージン率の分析ー商業部門の統計精度向上に向けた一考察ー」（単著），『研究所報』，No.52，日本統計研究所，2021.				
上記以外の研究業績（5点以内）				
① “Benchmark 2011 integrated estimates of the Japan-US price-level index for industry outputs”（共著）， <i>Measuring Economic Growth and Productivity</i> (Edited by B. M. Fraumeni) 第12章，Academic Press, 2019年.				
② 『日中連関構造の経済分析』（共著），勁草書房，2016年.				
③ 『アメリカ経済センサス研究』（共著）慶應義塾大学出版会，2008年.				
④ 『中国の地域産業構造分析』（共著）慶應義塾大学出版会，2008年.				
⑤ 『参入・退出と多角化の経済分析ー工業統計データを用いた実証理論研究ー』（共著）慶應義塾大学出版会，2003年.				
所属学会	環太平洋産業連関分析学会 日本地域学会 経済統計学会 International Input-Output Association (IIOA)			

ふりがな	むらた けいこ			
氏名	村田 啓子			
職名	教授	学位	経済学博士 (D. Phil in Economics)	
主な担当科目	【学部】日本経済論1・2 【大学院】日本経済論特論			
趣味・特技	山歩き、日本経済を観察すること			
学生に推薦する本				
教員からのメッセージ	大学での学問を通じ自分で考える力を身につけましょう。			
略歴	<p>東京大学経済学部卒業 オックスフォード大学経済学博士 (D. Phil. in Economics) 経済企画庁 (現内閣府) 調査局内国調査第一課課長補佐 OECD経済局マクロ経済政策分析課エコノミスト 日本銀行金融研究所シニアエコノミスト 内閣府政策統括官付参事官 (経済財政—海外分析担当) 内閣府経済社会総合研究所上席主任研究官 東京都立大学経営学研究科教授 東京都立大学名誉教授</p>			
専門分野	現代日本経済			
現在の研究テーマ	現代日本経済の実証的研究、政策効果分析、家計行動			
過去5年間の主要研究業績				
<p>① On the decline in propensity to consume during the Abenomics period, ESRI Research Note, 77, Economic and Social Research Institute, Cabinet Office, 2023 (共著)..</p> <p>② Dissaving by the elderly in Japan: Empirical evidence from survey data, <i>Seoul Journal of Economics</i> 32(3) 27-53, 2019.</p> <p>③ The intra-family division of bequests and bequest motives: Empirical evidence from a survey on Japanese households, <i>Journal of Population Economics</i> 32(1) 309-346, 2019 (共著).</p> <p>④ 「日本経済のマクロ分析 低温経済のパズルを解く」日本経済新聞出版社、2019年 (共著)</p> <p>⑤ Is there a retirement consumption puzzle in Japan? Evidence from a household panel dataset spanning several years, <i>Applied Economics</i> 51(16), 2018 (共著).</p>				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
<p>① How does the first job matter for an individual's career life in Japan?, <i>The Journal of The Japanese and International Economies</i> 29 154-169, 2013 (共著).</p> <p>② Changes in the Japanese employment system in the two lost decades, <i>ILR Review</i> 65(4) 810-846, 2012 (共著).</p> <p>③ Credit, housing collateral, and consumption: Evidence from Japan, the UK, and the US, <i>Review of Income and Wealth</i> 58(3) 397-423, 2012 (共著).</p> <p>④ Do small depositors exit from bad banks?: Evidence from Japanese small financial institutions, <i>Japanese Economic Review</i> 57(2) 260-278, 2006 (共著).</p> <p>⑤ Precautionary saving and income uncertainty: Evidence from Japanese micro data, <i>Monetary and Economic Studies</i> 21(3) 21-52, 2003.</p>				
所属学会	日本経済学会			

ふりがな	やまぐち かずお			
氏名	山口 和男			
職名	専任講師	学位	博士【経済学】	
主な担当科目	公共経済学, ミクロ経済学			
趣味・特技	散歩			
学生に推薦する本	G・S・ベッカー, G・N・ベッカー著 (鞍谷雅敏, 岡田滋行訳) 『ベッカー教授の経済学ではこう考える』東洋経済新報社, 1998			
教員からのメッセージ	責任ある行動をとることを願う			
略歴	東京大学大学院経済学研究科博士課程修了			
専門分野	ゲーム理論, 公共経済学, ミクロ経済学			
現在の研究テーマ	施設の立地の社会的選択			
過去5年間の主要研究業績				
① Spatial bargaining in rectilinear facility location problem, <i>Theory and Decision</i> 93, 69-104 (2022) [単著]				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
① Outcomes of bargaining and planning in single facility location problems, <i>Mathematical Social Sciences</i> 59, 38-45 (2010) [共著]				
② Location of an undesirable facility on a network: a bargaining approach, <i>Mathematical Social Sciences</i> 62, 104-108 (2011) [単著]				
③ Borda winner in facility location problems on sphere, <i>Social Choice and Welfare</i> 46, 893-898 (2016) [単著]				
所属学会	日本経済学会			

ふりがな	よしだ ゆみ			
氏名	吉田 友美			
職名	准教授	学位	博士（経済学）	
主な担当科目	環境経済評価法1・2（特殊講義8） フィールドワーク1・2 統計学基礎 C			
趣味・特技	書道、音楽鑑賞、Pythonによるプログラミング（現在習得中）、読書			
学生に推薦する本	中室ほか（著）『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』、ダイヤモンド社、2017年。 トマ・ピケティ（著）『21世紀の資本論』、みすず書房、2014年。 貴志 祐介（著）『天使の囁き』、角川ホラー文庫、2000年。 小川 一水（著）『天冥の標 シリーズ』、早川書房、2013年～			
教員からのメッセージ	自分の「比較優位」な部分を見つけよう！			
略歴	立命館大学経済学部経済学科 卒業 神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程 修了 京都大学大学院農学研究科 PD研究員 東北大学大学院環境科学研究科 助教 福井工業大学環境情報学部経営情報学科 准教授			
専門分野	環境財などの「非市場財の経済評価」			
現在の研究テーマ	星空環境・観光の経済評価—福井県大野市六呂師高原の事例 珊瑚礁保全の経済評価			
過去5年間の主要研究業績				
<ul style="list-style-type: none"> ① Effects of information provision on willingness to pay for conservation of alpine plants in Japan <i>Journal of Environmental Management</i>, 2023. (査読付, 共著) ② Valuation of coral reefs in Japan: Willingness to pay for conservation and the effect of information, <i>Ecosystem Services</i> 46, 2020. (査読付, 共著) ③ Which dynamic pricing rule is most preferred by consumers?? Application of choice experiment, <i>Journal of Economic Structures</i>, 6 (4), 2017. (査読付, 共著) ④ 地理的加重回帰モデルを用いた生活系ごみの排出量の地域差に関する研究 - 分別と有料化政策の効果 -, 中京大学国際学部紀要, 2号, 2021年. (査読無, 共著) 				
上記以外の研究業績 (5点以内)				
<ul style="list-style-type: none"> ① 琵琶湖保全政策に対する住民の選好分析, 日本環境共生学会誌, 27, 2015年. (査読付, 単著) ② Environmental Tax Burden in a Vertical Relationship with Pollution abatement R&D, <i>Journal of Management and Sustainability</i>, 4 (1), 2014. (査読付, 共著) ③ Too Cheap to Eat: The Signaling Effect of Price on Food Safety, <i>International Journal of Economic Policy Studies</i>, 4, 2009. (査読付, 共著) ④ 持続可能社会を支援するシステム分析, 環境科学会誌, 26 (6), 2013年. (査読付, 共著) ⑤ リサイクル行動の規定要因とその社会的便益, 廃棄物資源循環学会論文誌, 20 (5), 2009年 (査読付, 単著) 				
所属学会	環境経済・政策学会			

ふりがな	わたべ まさひろ			
氏名	渡部 真弘			
職名	教授	学位		Ph.D. in Economics
主な担当科目	【学部】 産業組織論・ゲーム理論・特殊講義1・2 (Microeconomics with Calculus)・学修の基礎 【大学院】 ミクロ経済学特論			
趣味・特技	音楽鑑賞（主にクラシック）			
学生に推薦する本	ショーペンハウエル『知性について 他四編』岩波文庫			
教員からのメッセージ	論理的かつ客観的に物事を捉える習慣を身につけましょう。			
略歴	慶應義塾大学経済学部卒業 Washington University in St. Louis 経済学研究科博士課程修了 明星大学経済学部 准教授 立正大学経済学部 教授			
専門分野	応用ミクロ経済学			
現在の研究テーマ	プラットフォームや非線形価格に関する基礎理論			
過去5年間の主要研究業績				
①Platform Competition in Two-Sided Markets with Single-Homing, 立正大学経済学季報, Vol.72(4), 83-105 (2023). [単著]				
上記以外の研究業績（5点以内）				
所属学会	日本経済学会 American Economic Association			

個人情報の取扱い

立正大学では、入学手続時その他大学所定の手続において収集した住所・氏名・電話番号等の個人情報は、法令等に定める一定の場合を除き、利用目的以外には利用しません。なお、利用目的の詳細につきましては本学ホームページ内の「個人情報保護の取り組み」をご覧ください。

[https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/
compliance/index.html](https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/compliance/index.html)





経済学部事務室 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 TEL(03)3492-7529